

余市町

大川遺跡

(2000・2001年度)

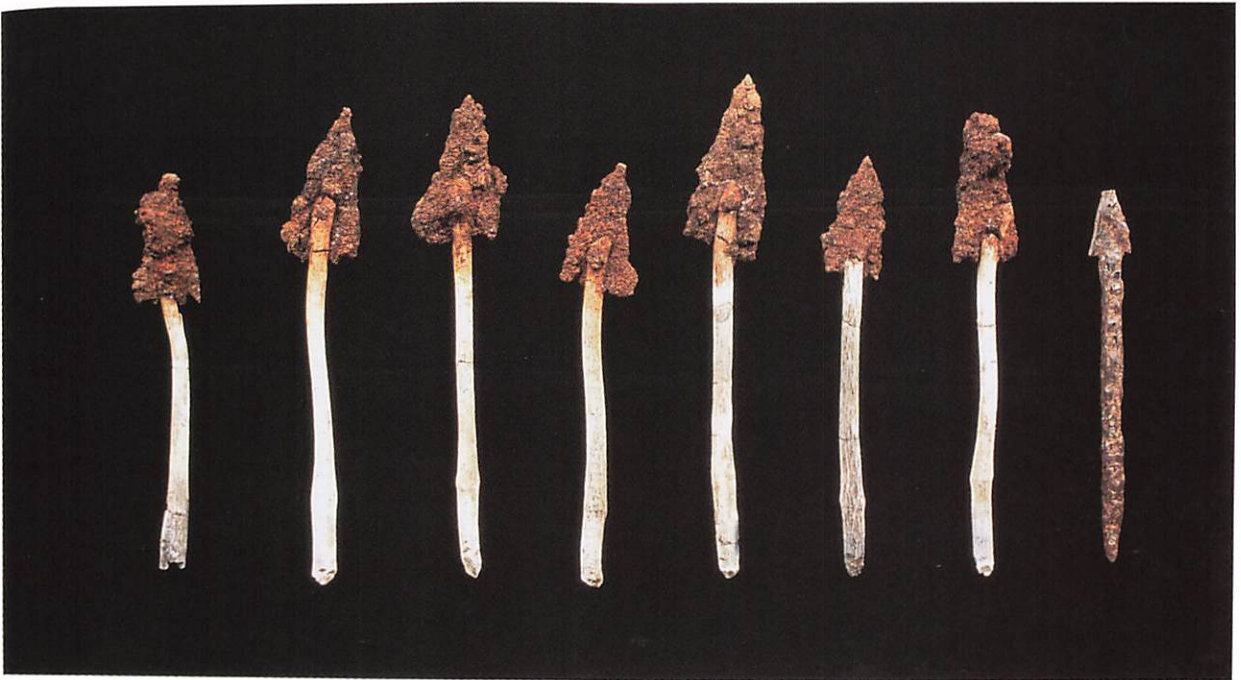
大川橋線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2002. 3

北海道余市町教育委員会

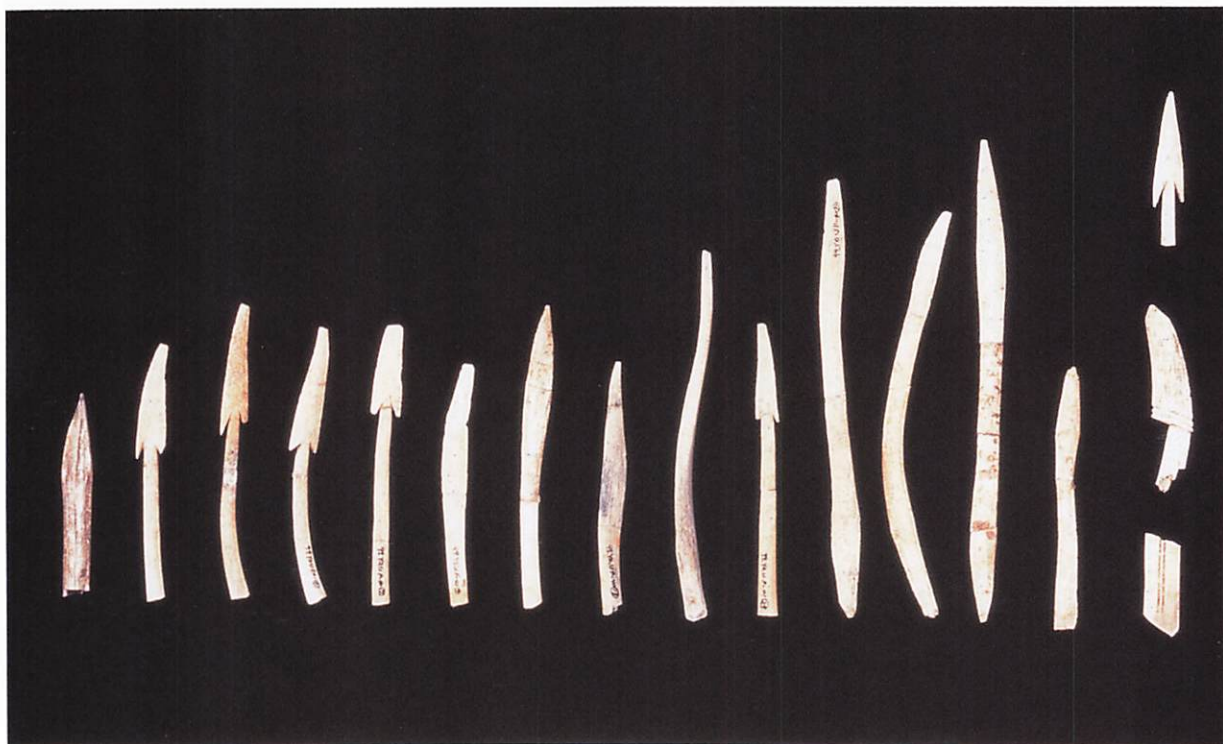


P-41 青磁碗

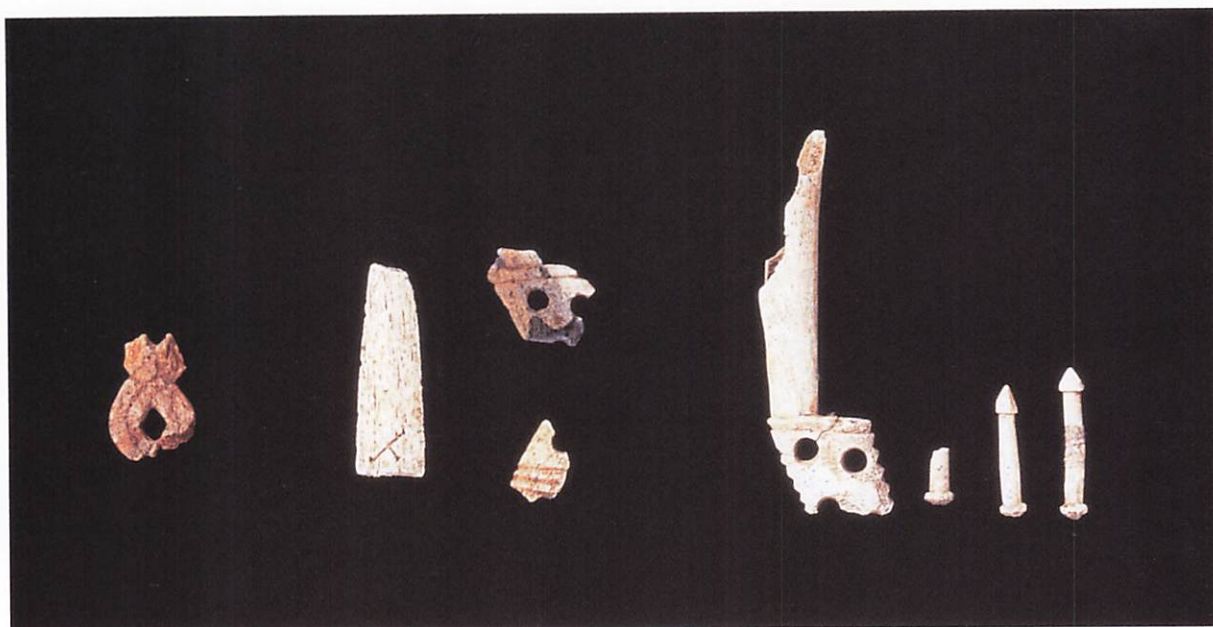


P-41 鐵鏃

口絵1 迂回路地点 (P-41)



P-41 骨角器 (骨鏃)



P-41 骨角器 (骨鏃他)

口絵2 迂回路地点 (P-41)



P-41
青磁碗出土状況



P-41
検出状況(西→東)



P-41
骨磁出土状況



P-41
検出状況（西→東）



P-41
鉄鏝出土状況



P-41
敷石検出状況

口絵4 2000年度 迂回路地点（P-41）



P-41
人骨検出状況



P-41
漆器碗 (No.136) 出土状況



P-41
炭化材検出状況



漆器碗 (No.137)



漆櫛 (No.138)



漆器碗 (No.139)



漆器 (No.140)



P-94
遺物出土状況



P-95
検出状況



P-95
遺物出土状況



P-71
検出状況



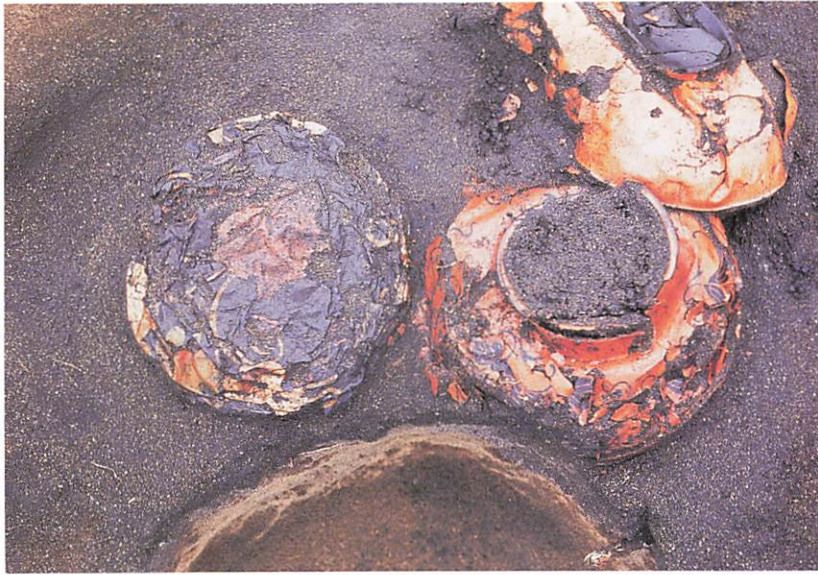
P-72
検出状況



P-89検出状況



P-91玉と漆器椀出土状況



P-71
漆器椀 (No.2・3・4)



P-73
行器 (シントコ)



P-91
漆器椀 (No.7)



P-62検出状況



P-62遺物出土状況



P-65検出状況



P-84検出状況



P-88検出状況



P-88遺物出土状況



P-104検出状況



P-104遺物出土状況



P-107
検出状況



P-112
検出状況



P-112
遺物出土状況



P-126検出状況



P-126遺物出土状況



P-129検出状況



P-129遺物出土状況



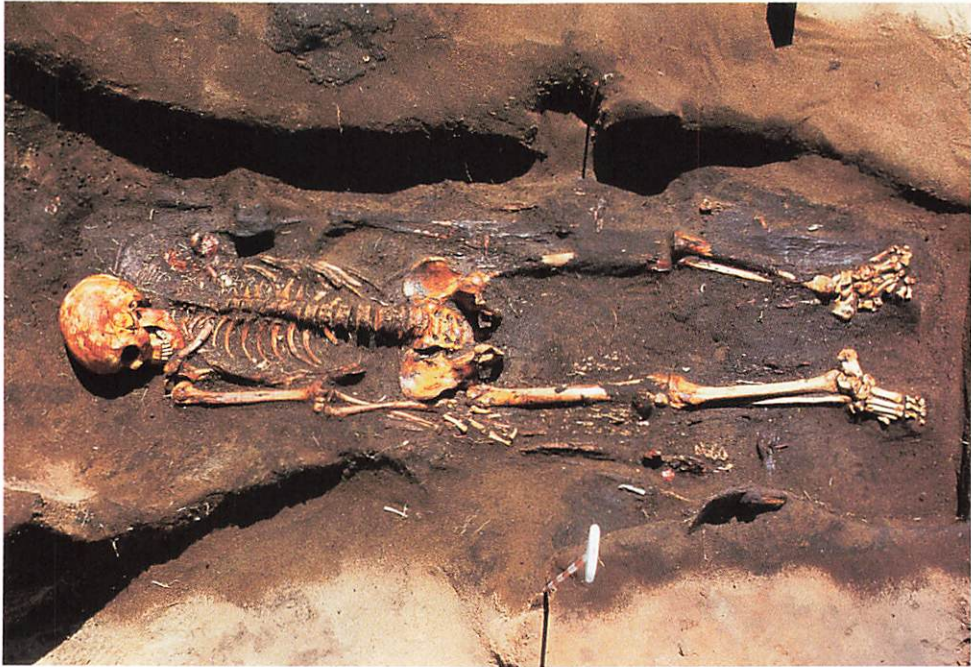
木梓土壙 1



木梓土壙2



木梓土壙3



P-27検出状況



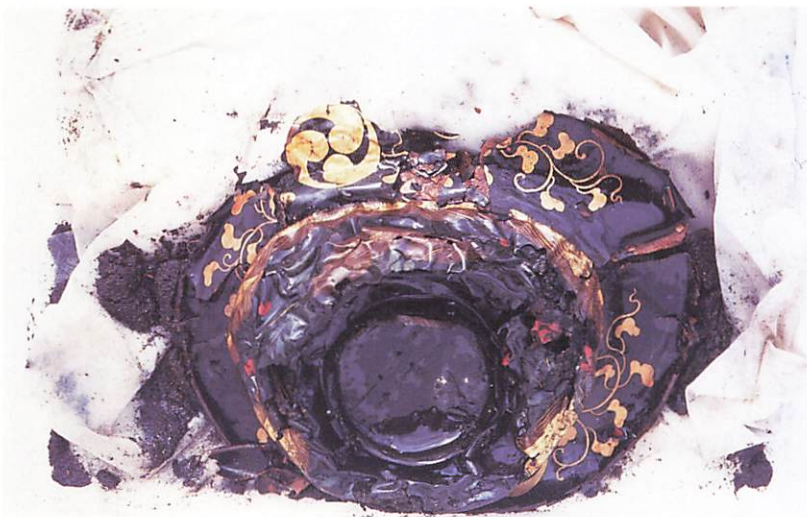
P-27刀子出土状況



P-27
漆器椀



P-29
漆器椀と膳



P-29
漆器椀の拡大



土器集中



一括土器

口絵21 2000年度 服部地点（砂質擬灰岩粗粒範囲）



調査区土層断面①



②



③



H-2検出状況 (北西→南東)



H-2検出状況 (南東→北西)



H-2土層断面 (南→北)



H-2土層断面 (東→西)



H-2焼土・炭化物範囲 (北→南)



H-2ベンガラ範囲 (南→北)



発掘調査作業風景



遺物集中範囲 土器出土状況 (南西→北東)



H-3検出状況 (西→東)



H-3コハク製垂飾出土状況 (北西→南東)



P-38検出状況 (南東→北西)



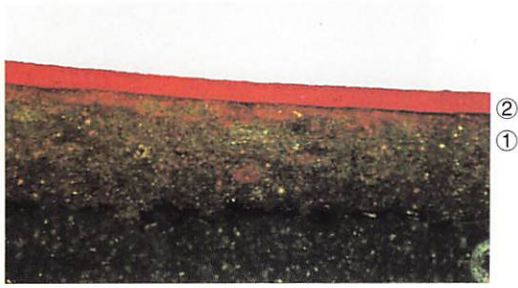
P-38検出状況 (北西→南東)



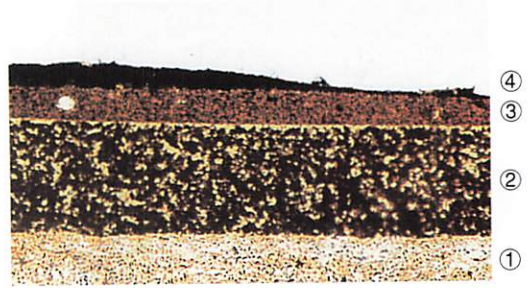
P-39検出状況 (南東→北西)



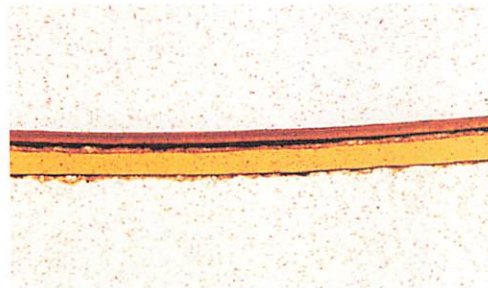
P-40検出状況 (北東→南西)



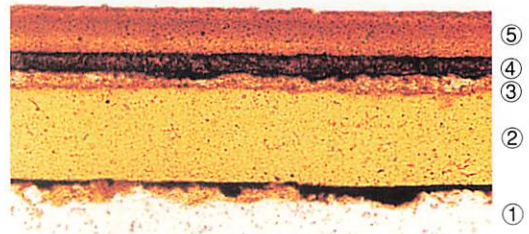
赤色系漆
①サビ下地 ②朱漆 (落射写真：×100)



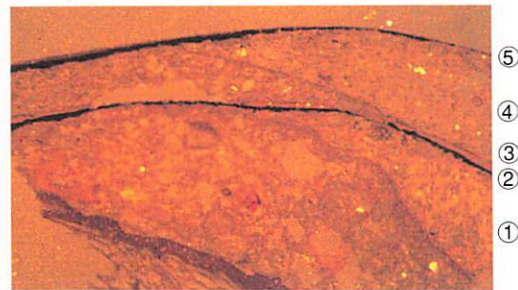
①赤褐色系漆 ②朱漆(粗) ③朱漆(細)
④黒色絵漆 (透過写真：×400)



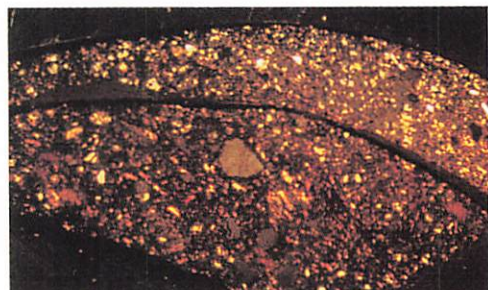
塗り直し補修の漆塗膜面①
(透過写真：×100)



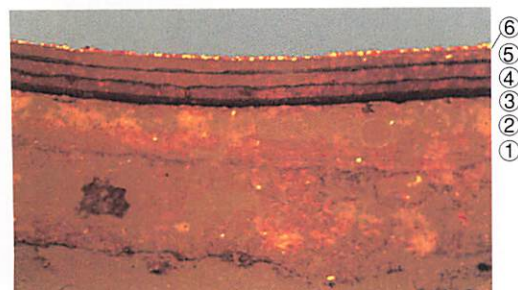
同左拡大写真
①サビ下地 ②赤褐色系漆 ③サビ下地 ④黒色漆
⑤赤褐色系漆 (透過写真：×400)



塗り直し補修の漆塗膜面②
①サビ下地 ②黒色漆 ③朱漆+金蒔絵加飾
④サビ下地 ⑤黒色漆 (落射写真：×50)



同左落射偏光写真
(落射偏光：×50)



蒔絵加飾のある漆塗膜面
①サビ下地 ②黒色漆 ③～⑤赤褐色系漆
⑥朱漆+金蒔絵加飾 (落射写真：×100)



沈金加飾のある漆塗膜面の表面拡大写真
(×100)

序

この報告書は平成12年度から平成13年度に大川橋線街路事業に伴って発掘調査が行われた大川遺跡の報告書です。

大川遺跡の主体となる遺構は縄文時代晩期から続縄文時代にかけての墓壙群であり、平成元年度から発掘調査しているものも含めると1,000基におよび北海道内でも数少ない墓壙の密集した遺跡と言えます。今回の調査では、続縄文時代の恵山文化期の墓壙が主体に調査され、多量の副葬品が出土しています。また、従来知られていなかった敷石をもつ中世の墓壙が調査されました。

中世については多くの遺物が周辺から出土していることから、文献による記述との対比とともに余市に和人がいつ頃から居住していたのか今後様々な視点から議論されることとと思われます。

既刊の『大川遺跡発掘調査報告書』と併用して、この発掘成果が多くの方々に活用され、北海道史の解明や文化財活用の一助となれば幸いと存じます。

最後に報告書の刊行にあたりまして北海道教育委員会をはじめ関係各位から寄せられましたご協力、ご支援に対し深く感謝申し上げます。ご挨拶といたします。

平成14年3月

余市町教育委員会

教育長 利 輝夫

例 言

1. 本書は平成12（2000）～平成13（2001）年度に実施された北海道小樽土木現業所による大川橋線街路事業に伴う記録保存を目的とした大川遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本書は乾 芳宏が編集をし、2000年度服部地点・迂回路地点を安西雅希、2001年度服部地点を小川康和が主として執筆し、道道地点を乾 芳宏が執筆を担当した。
3. 発掘調査及び整理体制

平成12（2000）年度

- ・発掘期間 平成12年5月17日～平成12年11月6日
- ・整理期間 平成12年11月7日～平成13年3月31日
- ・発掘調査区
 - （1）服部地点 所在地 余市町大川町1丁目79-1他
調査面積 148m²
 - （2）迂回路地点 所在地 余市町大川町1丁目12-1他
調査面積 398m²
 - （3）道道地点 所在地 道道豊丘余市停車場線下他
調査面積 657m²
- ・事業主体 北海道小樽土木現業所
- ・発掘主体 余市町教育委員会 教 育 長 利 輝夫
教 育 次 長 江戸栄男
兼 文 化 財 課 長
文化財課業務係長 盛 昭史
文化財課文化財係長 乾 芳宏
博 物 館 学 芸 員 浅野敏昭
- ・調査担当者 乾 芳宏
- ・調査補助員 安西雅希・小川康和・岡崎次郎
- ・発掘作業員 阿部栄子・内田豊子・柏谷忠勝・北川千登世・久保照代・今 和明
白銀富子・古田千穂・水田るり子・渡部昭哉
- ・整理作業 (遺物の実測・トレース)
阿部栄子・北川千登世・久保照代・渡部昭哉
(遺物の拓本)
内田豊子・水田るり子
(遺物の洗浄・注記)
内田豊子・柏谷忠勝・白銀富子・古田千穂
(遺物の復元)
今 和明・渡部昭哉
(遺物の撮影)
今 和明・渡部昭哉
(遺構第2原図の作成)
乾 芳宏・安西雅希

(遺構のトレース)

阿部栄子・内田豊子・水田るり子

(図版の作成)

内田豊子・水田るり子

(漆器の保存・整理)

古田千穂

平成13(2001)年度

・発掘期間 平成13年5月14日～平成13年6月30日

・整理期間 平成13年7月1日～平成14年3月31日

・発掘調査区 服部地点 所在地 余市町大川町1丁目77-1他

調査面積 113.5m²

・事業主体 北海道小樽土木現業所

・発掘主体 余市町教育委員会 教 育 長 利 輝夫

教 育 次 長 江戸栄男

文 化 財 課 長 盛 昭史

文化財課文化財係長 乾 芳宏

博 物 館 学 芸 員 浅野敏昭

・調査担当者 乾 芳宏

・調査員 小川康和

・発掘作業員 内田豊子・北川千登世・櫛引葉子・久保照代・斉藤麻紀・中野 秋

古田千穂・前田貞子・水田るり子・横山由紀子・米谷登志子

渡部昭哉

・整理作業 (遺物の実測・トレース)

内田豊子・北川千登世・櫛引葉子・久保照代・斉藤麻紀

前田貞子・横山由紀子・米谷登志子

(遺物の拓本)

内田豊子・水田るり子・横山由紀子・米谷登志子

(遺物の洗浄・注記)

櫛引葉子・斉藤麻紀・前田貞子・横山由紀子・米谷登志子

(遺物の復元)

中野 秋・渡部昭哉

(遺物の撮影)

渡部昭哉

(遺構第2原図の作成)

小川康和

(遺構のトレース)

内田豊子・中野 秋

(図版の作成)

内田豊子・中野 秋・水田るり子

(漆器の保存・整理)

古田千穂

4. 発掘調査及び整理作業には次の方々の指導、助言、協力を得た。

北海道教育委員会 畑 宏明・田才雅彦、北海道開拓記念館 右代啓視・小林幸雄
・添田雄二、札幌市教育委員会 加藤邦雄、石狩市教育委員会 石橋孝夫
江別市教育委員会 園部真幸、小樽市教育委員会 石川直章・青木 誠
仁木町教育委員会 嶋井康夫、伊達市教育委員会 大島直行・青野友哉
函館市教育委員会 佐藤智雄、常呂町教育委員会 武田 修
黒松内町教育委員会 高橋興世、北海道埋蔵文化財センター 種市幸生・大沼忠春
・越田賢一郎・田口 尚・佐藤 剛・村田 大
瀬戸市埋蔵文化財センター 藤沢良祐 国立歴史民俗博物館 西本豊弘
立教大学 山浦 清・荒野泰典・蔵持重裕、くらしき作陽大学 北野信彦
東京都立大学 山田昌久、天理大学 藤田明良、名古屋大学 新美倫子・高橋公明
大阪大学 桃木至朗、東京大学 追川吉生、札幌医科大学 乗安整而
東京造形芸術大学 岡田文男、吉田生物研究所 汐見 真・吉田浩一、青木延広、
小柳太一、小柳リラコ、近藤芳二、佐藤利雄、田部 淳、仲鉢 浩 (敬称略)

凡 例

1. 本文中で使用した遺構の略称は以下のとおりである。

H(House) 竪穴住居 P(Pit) 墓壙・土壙 S M(Shell Mound) 貝塚

M O(Moat) 壕状遺構 F P(Fire Place) 焼土 F C(Flake Chip) 剥片集中

2. 遺構番号は全地点を通してのものではない。1999年度大川遺跡発掘調査での服部・迂回路・道道の各地点においてそれぞれ連番としており、それを継続し各地点毎については複数年度に亘る通し番号となっている。

3. 実測図の縮尺については基本的には以下のとおりである。それ以外の縮尺のものについてはスケールで示した。

遺構 1/20 発掘区土層断面図 1/40 土器・陶磁器・土器拓本 1/3

その他の遺物(石器・骨角器・金属製品等) 1/2

4. 写真図版の縮尺は任意である。

本文目次

序	i
例言	ii
第I章 発掘調査の概要	
1. 発掘調査に至る経緯	1
2. 遺跡の立地と層序	2
3. 発掘調査の方法	2
4. 遺物整理の方法	2
5. 遺物の分類	3
第II章 服部地点	
1. 概要	7
2. 遺構と出土遺物	12
3. 遺構外出土の遺物	52
第III章 迂回路地点	
1. 概要	71
2. 遺構と出土遺物	75
3. 遺構外出土の遺物	111
第IV章 道道地点	
1. 概要	127
2. 遺構と出土遺物	129
3. 遺構外出土の遺物	210
第V章 総括	226
第VI章 付編	
1. 迂回路地点P-9出土の火葬人骨について(乗安整而・谷口圭吾)	231
2. 大川遺跡迂回路地点出土漆器資料の材質・技法(北野信彦)	232

図 版 目 次

第1図	遺跡の位置	1
第2図	1998～2001年度発掘調査区域	5～6
第3図	2000年度服部地点遺構配置図	7
第4図	2001年度服部地点遺構配置図	8
第5図	2000年度発掘区土層断面図	9
第6図	2001年度発掘区土層断面図(1)	10
第7図	2001年度発掘区土層断面図(2)	11
第8図	P-20・21平面図と出土遺物	18
第9図	P-22・23平面図と出土遺物	19
第10図	P-24平面図と出土遺物	20
第11図	P-25平面図と出土遺物	21
第12図	P-25出土遺物	22
第13図	P-27・28平面図と出土遺物	23
第14図	P-29平面図と出土遺物	24
第15図	P-26・30平面図と出土遺物	25
第16図	P-31・32・33平面図と出土遺物	26
第17図	P-34・35平面図と出土遺物	27
第18図	P-36・37平面図と出土遺物	28
第19図	P-37出土遺物(1)	29
第20図	P-37出土遺物(2)	30
第21図	P-38平面図と出土遺物	31
第22図	P-38出土遺物	32
第23図	P-39・40平面図と出土遺物	33
第24図	P-40出土遺物	34
第25図	H-2平面図	35
第26図	H-2断面図と出土遺物	36
第27図	H-2出土遺物(1)	37
第28図	H-2出土遺物(2)	38
第29図	H-2出土遺物(3)	39
第30図	H-2出土遺物(4)	40
第31図	H-3平面図と出土遺物	41
第32図	H-3出土遺物	42
第33図	SM-2平面図と出土遺物	43
第34図	FP-3・石組炉2・FC-3平面図	44
第35図	砂質凝灰岩粗粒範囲平面図と出土遺物	45

第36図	砂質凝灰岩粗粒範囲 出土遺物 (1)	46
第37図	砂質凝灰岩粗粒範囲 出土遺物 (2)	47
第38図	砂質凝灰岩粗粒範囲 出土遺物 (3)	48
第39図	砂質凝灰岩粗粒範囲 出土遺物 (4)	49
第40図	遺物集中範囲 平面図	50
第41図	遺物集中範囲 出土遺物	51
第42図	2000年度遺構外出土の土器 (1)	54
第43図	2000年度遺構外出土の土器 (2)	55
第44図	2000年度遺構外出土の土器 (3)	56
第45図	2001年度遺構外出土の土器	57
第46図	2000年度遺構外出土の石器	58
第47図	2001年度遺構外出土の石器 (1)	59
第48図	2001年度遺構外出土の石器 (2)	60
第49図	2001年度遺構外出土の石器 (3)	61
第50図	2001年度遺構外出土の骨角器・その他の遺物	62
第51図	迂回路地点遺構配置図	71
第52図	発掘区土層断面図 (1)	72
第53図	発掘区土層断面図 (2)	73
第54図	発掘区土層断面図 (3)	74
第55図	P-41 上面配石検出状況	80
第56図	P-41 遺物出土状況	81
第57図	P-41 下面敷石検出状況	82
第58図	P-41 出土遺物 (1)	83
第59図	P-41 出土遺物 (2)	84
第60図	P-41 出土遺物 (3)	85
第61図	P-41 出土遺物 (4)	86
第62図	P-41 出土遺物 (5)	87
第63図	P-41 出土遺物 (6)	88
第64図	P-41 出土遺物 (7)	89
第65図	P-41 出土遺物 (8)	90
第66図	P-41 出土遺物 (9)	91
第67図	P-41 出土遺物 (10)	92
第68図	P-69・70 平面図とP-69 出土遺物	93
第69図	P-71・72 平面図と出土遺物	94
第70図	P-74 平面図と出土遺物	95
第71図	P-73・75・76 平面図とP-76 出土遺物	96
第72図	P-77 平面図と出土遺物	97

第73図	P-78平面図と出土遺物	98
第74図	P-79・80平面図とP-79出土遺物	99
第75図	P-81平面図と出土遺物	100
第76図	P-82・83平面図と出土遺物	101
第77図	P-84・85平面図と出土遺物	102
第78図	P-86・89平面図と出土遺物	103
第79図	P-90・91平面図と出土遺物	104
第80図	P-92平面図	105
第81図	P-93・96平面図と出土遺物	106
第82図	P-94平面図と出土遺物	107
第83図	P-94出土遺物	108
第84図	P-95平面図と出土遺物	109
第85図	P-95出土遺物	110
第86図	遺構外出土の土器(1)	113
第87図	遺構外出土の土器(2)	114
第88図	遺構外出土の土器(3)	115
第89図	遺構外出土の石器	116
第90図	遺構外出土の石器と金属製品	117
第91図	遺構外出土の陶磁器	118
第92図	道道地点遺構配置図	127
第93図	発掘区土層断面図	128
第94図	P-62平面図と出土遺物(1)	141
第95図	P-62出土遺物(2)	142
第96図	P-63平面図と出土遺物(1)	143
第97図	P-63出土遺物(2)	144
第98図	P-64・78・80・82・85・FP-10平面図	145
第99図	P-64・80出土遺物	146
第100図	P-65・71・74・81・83平面図とP-83出土遺物	147
第101図	P-65・71・83断面図とP-65・71出土遺物	148
第102図	P-66・88平面図	149
第103図	P-66・88出土遺物(1)	150
第104図	P-88出土遺物(2)	151
第105図	P-67・72平面図とP-67出土遺物	152
第106図	P-70・75・93平面図	153
第107図	P-70・75出土遺物	154
第108図	P-93出土遺物	155
第109図	P-68・77・79・92平面図とP-92出土遺物	156

第110図	P-68・79出土遺物	157
第111図	P-76平面図と出土遺物	158
第112図	P-84・87平面図とP-84出土遺物	159
第113図	P-84・87出土遺物	160
第114図	P-89・96平面図とP-89出土遺物	161
第115図	P-90・91平面図	162
第116図	P-91出土遺物	163
第117図	P-94平面図と出土遺物	164
第118図	P-95・110平面図とP-110出土遺物(1)	165
第119図	P-110出土遺物(2)	166
第120図	P-110出土遺物(3)	167
第121図	P-97平面図と出土遺物	168
第122図	P-98平面図と出土遺物	169
第123図	P-99・101・107平面図とP-101出土遺物	170
第124図	P-100平面図と出土遺物	171
第125図	P-103・104平面図とP-103出土遺物	172
第126図	P-104出土遺物(1)	173
第127図	P-104出土遺物(2)	174
第128図	P-104出土遺物(3)	175
第129図	P-105平面図と出土遺物	176
第130図	P-106・H-4平面図と出土遺物	177
第131図	P-108平面図と出土遺物	178
第132図	P-109平面図と出土遺物	179
第133図	P-111平面図と出土遺物	180
第134図	P-112・116平面図とP-112出土遺物	181
第135図	P-116出土遺物	182
第136図	P-113・115平面図と出土遺物	183
第137図	P-114平面図と出土遺物(1)	184
第138図	P-114出土遺物(2)	185
第139図	P-117・122・129平面図	186
第140図	P-122・129出土遺物(1)	187
第141図	P-129出土遺物(2)	188
第142図	P-129出土遺物(3)	189
第143図	P-118・119平面図と出土遺物	190
第144図	P-120・123・127平面図とP-120・127出土遺物	191
第145図	P-121・124・125平面図とP-121・124出土遺物	192
第146図	P-126平面図と出土遺物(1)	193

第147図	P-126 出土遺物(2)	194
第148図	P-128・131 平面図とP-128 出土遺物(1)	195
第149図	P-128 出土遺物(2)	196
第150図	P-130・H-6 平面図とH-6 出土遺物	197
第151図	H-5 平面図	198
第152図	H-5 出土遺物(1)	199
第153図	H-5 出土遺物(2)	200
第154図	H-5 出土遺物(3)	201
第155図	FP-8・9・10 平面図とFP-9 出土遺物	202
第156図	FP-11・13 平面図とFP-11 出土遺物	203
第157図	FP-12 平面図と出土遺物(1)	204
第158図	FP-12 出土遺物(2)	205
第159図	FP-14 平面図	206
第160図	FP-14 出土遺物(1)	207
第161図	FP-14 出土遺物(2)	208
第162図	MO-18・集石1 平面図と集石1 出土遺物	209
第163図	遺構外出土の土器	211
第164図	遺構外出土の石器(1)	212
第165図	遺構外出土の石器(2)	213

写真目次

口絵1	迂回路地点(P-41)
口絵2	迂回路地点(P-41)
口絵3	1999年度迂回路地点(P-41)
口絵4	2000年度迂回路地点(P-41)
口絵5	2000年度迂回路地点(P-41)
口絵6	2000年度迂回路地点(P-41)
口絵7	2000年度迂回路地点(P-94・95)
口絵8	2000年度迂回路地点(P-71・72)
口絵9	2000年度迂回路地点(P-89・91)
口絵10	2000年度迂回路地点(P-71・73・91)
口絵11	2000年度道道地点(P-62)
口絵12	2000年度道道地点(P-65・84)
口絵13	2000年度道道地点(P-88)
口絵14	2000年度道道地点(P-104)
口絵15	2000年度道道地点(P-107・112)

口絵16	2000年度道道地点 (P-126)
口絵17	2000年度道道地点 (P-129)
口絵18	2000年度道道地点 (木柘土攢1~3)
口絵19	2000年度服部地点 (P-27)
口絵20	2000年度服部地点 (P-27・29)
口絵21	2000年度服部地点 (砂質凝灰岩粗粒範囲)
口絵22	2001年度服部地点 (調査区土層断面・H-2)
口絵23	2001年度服部地点 (作業風景・遺物集中範囲・H-3・P-38~40)
口絵24	漆塗り構造の分類 (塗膜断面観察) : 付編2

写真1	2000年度服部地点 (作業風景・完掘状況)	245
写真2	2000年度服部地点 (P-21・22・23)	246
写真3	服部地点出土の土器	247
写真4	服部地点出土の石器 (1)	248
写真5	服部地点出土の石器 (2)	249
写真6	迂回路地点 (作業風景・遺物出土状況・完掘状況)	250
写真7	迂回路地点出土の土器 (1)	251
写真8	迂回路地点出土の土器 (2)	252
写真9	迂回路地点出土の土器 (3)	253
写真10	迂回路地点出土の石器・金属製品	254
写真11	道道地点 (作業風景・遺構検出状況)	255
写真12	道道地点 (P-122・128・H-5)	256
写真13	道道地点出土の土器 (1)	257
写真14	道道地点出土の土器 (2)	258
写真15	道道地点出土の土器 (3)	259
写真16	道道地点出土の土器 (4)	260
写真17	道道地点出土の土器 (5)	261
写真18	道道地点出土の土器 (6)	262
写真19	道道地点出土の土器 (7)	263
写真20	道道地点出土の石器 (1)	264
写真21	道道地点出土の石器 (2)	265
写真22	道道地点出土の石器 (3)	266
写真23	道道地点出土の石器 (4)	267
写真24	迂回路地点P-9出土の人骨 : 付編1	268

第1章 発掘調査の概要

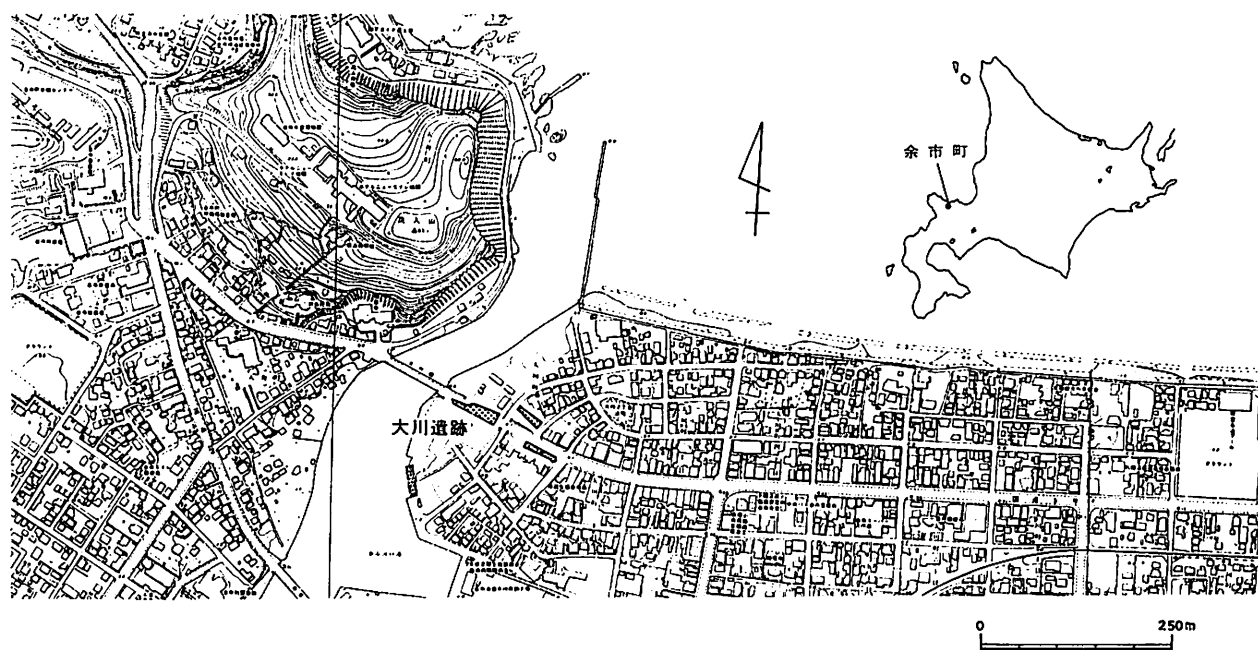
1. 発掘調査に至る経緯

余市町は北海道の南西部、積丹半島の基部に位置する。町の中央部を縦断する2級河川余市川は過去に度々氾濫を起こし、重大な被害を及ぼしてきた。そのため、治水対策が必要となり、1984（昭和59）年度より余市川改修事業が着工されることとなった。しかし、河口部右岸には大川遺跡、左岸には入舟遺跡がそれぞれ位置しており、北海道小樽土木現業所にその事業内容の詳細を聴取したところ、当該地区の除外及び変更は不可能との判断により、文化財保護法に基づく手続きを行うこととなった。

1987（昭和62）年5月25日、北海道小樽土木現業所より同事業に係る事前協議書が提出され、これを受けて余市町教育委員会は北海道教育庁に進達し協議を行った。1988（昭和63）年5月より北海道教育委員会文化課による範囲確認調査が数次に亘って実施された結果、発掘調査が必要との判断がなされ、これにより1989（平成元）年度より記録保存を目的とした発掘調査が開始され、1994（平成6）年度まで継続して調査が実施された。

また、河川改修事業とともに、交通量の増加などから道道豊丘余市停車場線の拡幅・整備と老朽化の著しい大川橋の架け替えを目的とした大川橋線街路事業が1998（平成10）年度より着工することとなった。従前の調査地区と隣接しているため、余市町教育委員会は1997（平成9）年度から北海道教育委員会文化課と協議を行い、範囲確認調査を実施した。その結果、発掘調査が必要との判断がなされ、1998（平成10）年度より記録保存を目的とした発掘調査が開始され、2001（平成13）年度まで継続して調査が実施された。

なお、遺跡の位置は第1図、各地点の位置関係は第2図に示した。



第1図 遺跡の位置

2. 遺跡の立地と層序

大川遺跡は余市川河口部右岸の、標高約5mの砂丘上に立地している。1999年度は住宅移転や道路の切替え・橋脚工事などの関係から、迂回路地点・服部地点・道道地点に区分して発掘調査を行ったが、2000・2001年度の発掘調査区域は、1999年度の各地点の拡張部分に当たるということから、各地点の名称を踏襲し調査を実施した。

層序は基本的には以下の通りである。

- I 表土 発掘調査以前には住宅・商店・道路などが存在したため攪乱が著しく、腐食土・粘土・褐色砂などが混在する。
- II 黒色土層 一部に攪乱が及んでいるが、厚さ約10cmほどの縄文時代から近世・近代にかけての遺物包含層である。
- III 茶褐色砂層 厚さ約20～30cmほどの縄文時代晩期から縄文時代にかけての遺物包含層である。
- IV 褐色砂層 厚さ70cm以上を測る。上面より縄文時代晩期の遺物が出土し、下面は砂の粒子が粗く遺物は殆ど見られない。

3. 発掘調査の方法

1999年度までの調査に使用した5mグリッド設定を踏襲し、道道豊丘余市停車場線歩道上の基点を基準として北西～南東方向にアルファベットを、北東～南西方向には算用数字を付し、その北東交点でグリッドNo.を表した。なお、Zラインから南東側については、小文字のa～zを使用した。

表土及び攪乱部分は重機によって取り除き、その後に遺物包含層であるII・III・IV層を移植ごて等を使用し掘り下げた。

遺物の取り上げについては、5mグリッドを1m四方に25分割した小グリッドを単位としたが、遺構に伴う遺物や一括遺物は、写真撮影を実施後、出土位置・標高・種別等を図面に記録し、取り上げ作業を行った。

遺構については、1m小グリッドを基準とした実測を行い、墓壙・土壙は縮尺1/10で、その他の遺構は縮尺1/20にて図面に記録し、写真撮影も併せて実施した。墓壙から検出された遺体は、頭部・胴部・脚部等の大まかな部位が判断できるものについては、それらの部位毎に取り上げを行い、札幌医科大学に鑑定・保管を依頼した。中世・近世の墓壙から出土した漆器は写真撮影・実測作業完了後、器形を損なわないように速やかに取り上げを行い、水を張った容器に収納した。また、各遺構の壙底部の土壌は篩にかけ、微細な遺物の取りこぼしのないよう留意しながら作業を進めた。

発掘現場での遺構・遺物・調査風景等の写真撮影は35mmのカラーリバーサルフィルムを使用して行った。

4. 遺物整理の方法

遺物は洗浄後、遺構に伴うものには発掘年度／遺跡名／遺構名／遺物No.を、包含層出土のものには、発掘年度／遺跡名／大グリッド／小グリッド／層位などを注記し整理した。

漆器については、木質を失い皮膜のみのものは軽い洗浄を行い付着している砂や土を除去し、糊で和紙に貼り付け、ファスナー付きビニール袋に入れて保管した。また、木質が残存し、和紙への貼り付けが不可能なものは、水を張った容器に収納し、定期的に水の交換を行っている。これら漆器の鑑定・分析については、くらしき作陽大学の北野信彦氏に依頼した。迂回路地点P-41出土の炭化材については、樹種同定及び放射性炭素による年代測定のためにサンプルを採取した。樹種同定については『1999年度大川遺跡発掘調査報告書』第VI章付偏1（三野紀雄氏 北海道開拓記念館）を参照して頂きたい。

服部地点P-27出土の刀子（マキリ）については吉田生物研究所に保存処理を依頼した。

5. 遺物の分類

2000・2001年度大川遺跡発掘調査区域より出土した遺物のうち、出土量の多い土器・石器・陶磁器について便宜的に以下のように分類した。

・土器・陶磁器

第I群：縄文時代晩期に属する土器群

- a類 前葉に属し大洞B～BC式に並行するもの
- b類 中葉に属し大洞C1～C2式に並行するもの
浜中大曲式・桃内式などを含む
- c類 後葉に属し大洞A～A'式に並行するもの

第II群：続縄文時代に属する土器群

- a類 前葉に属し琴似式～港大照寺式に相当するもの
- b類 前半に属し恵山式に相当するもの
- c類 後半に属し後北式に相当するもの

第III群：擦文時代に属する土器群

- a類 甕、深鉢などで無文または沈線を有するもの
- b類 土師器坏に相当するもの
- c類 須恵器に相当するもの

第IV群：中世に属する陶磁器類

- a類 青磁・白磁に相当するもの
- b類 珠洲焼に相当するもの
- c類 瀬戸焼に相当するもの

第V群：近世に属する陶磁器類

- a類 染付の磁器類
伊万里、瀬戸焼に相当するもの
- b類 その他の陶磁器類

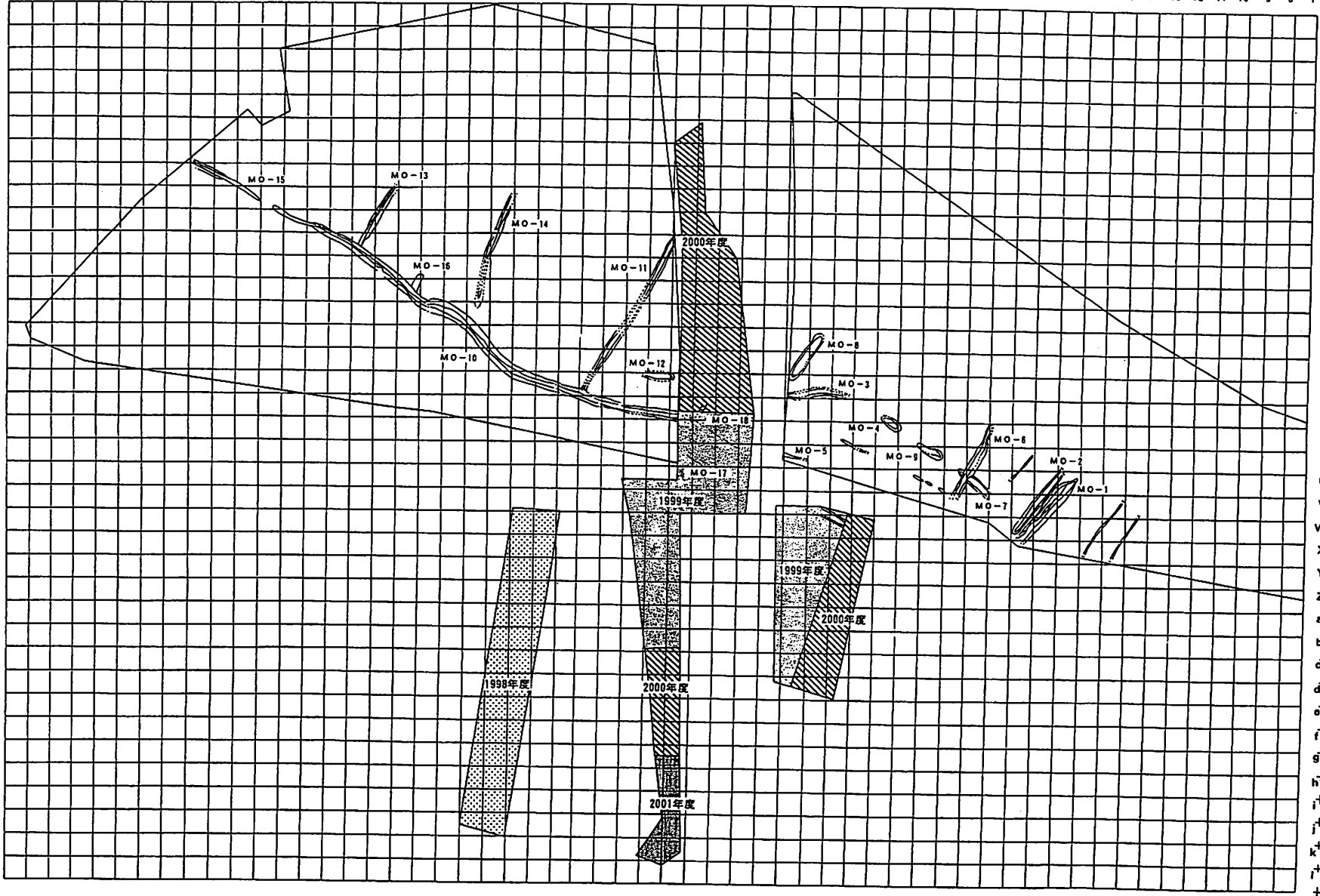
第VI群：近代に属する陶磁器類

・石器

- 石 鏃 長さは5cm未満で、有茎のものと無茎のものが見られる。
石質として黒曜石、頁岩、チャートを使用することが多い。
- 石 槍 便宜的に長さは5cm以上の尖頭器

	石質として黒曜石、頁岩、チャートを使用することが多い。
ドリル（石錐）	厚みがあり、先端が尖っているもの 石質として頁岩、チャート、メノウを使用することが多い。
スクレイパー（搔削器）	剥片の縁辺に鈍角な刃部を作出しているもの 石質として黒曜石、頁岩、チャートを使用することが多い。
石製ナイフ	定型的なもので、剥片の縁辺に鋭角な刃部を作出しているもの 石質として黒曜石、頁岩、チャートを使用することが多い。
R・F	Retouched Flake の略で、剥片の縁辺に細かな刃部を作出しているもの 石質として黒曜石、頁岩、チャートを使用することが多い。
コア（石核）	剥片を作出した母岩
フレイク（剥片）	コアから剥離した破片
石 斧	磨製と打製に分類され、両刃と片刃のものがある。 石質として泥岩、片岩、ハンレイ岩を使用することが多い。
魚形石器	続縄文時代恵山文化に伴うもので頭部、尾部などを作出しているもの 石質として砂岩や粘板岩を使用することが多い。
敲石・凹石	敲打痕や窪みのある礫 石質として砂岩や凝灰岩を使用することが多い。
擦石・砥石	擦痕や研磨痕のある礫 石質として砂岩・泥岩を使用することが多い。
垂飾具	玉類であり、平玉、丸玉、礫玉などがある。 石質として蛇紋岩、コハクを使用することが多い。

63° 62° 61° 60° 59° 58° 57° 56° 55° 54° 53° 52° 51° 50° 49° 48° 47° 46° 45° 44° 43° 42° 41° 40° 39° 38° 37° 36° 35° 34° 33° 32° 31° 30° 29° 28° 27° 26° 25° 24° 23° 22° 21° 20° 19° 18° 17° 16° 15° 14° 13° 12° 11° 10° 9° 8° 7°



第2図 1998~2001年度発掘調査区域

大川遺跡服部地点

第II章 服部地点

1. 概要

2000年度大川遺跡服部地点からは縄文時代晩期から続縄文時代に属する墓壙7基、近世に属する墓壙2基、近代に属する墓壙5基、縄文時代晩期に属する土壙1基、近代に属する土壙2基、時期不明の土壙1基、近世末から近代に属する貝塚1基、時期不明の焼土・剥片集中各1基、近・現代に属する石組炉1基、縄文時代晩期中葉に属する砂質凝灰岩粗粒の広がり1ヶ所が検出されている。

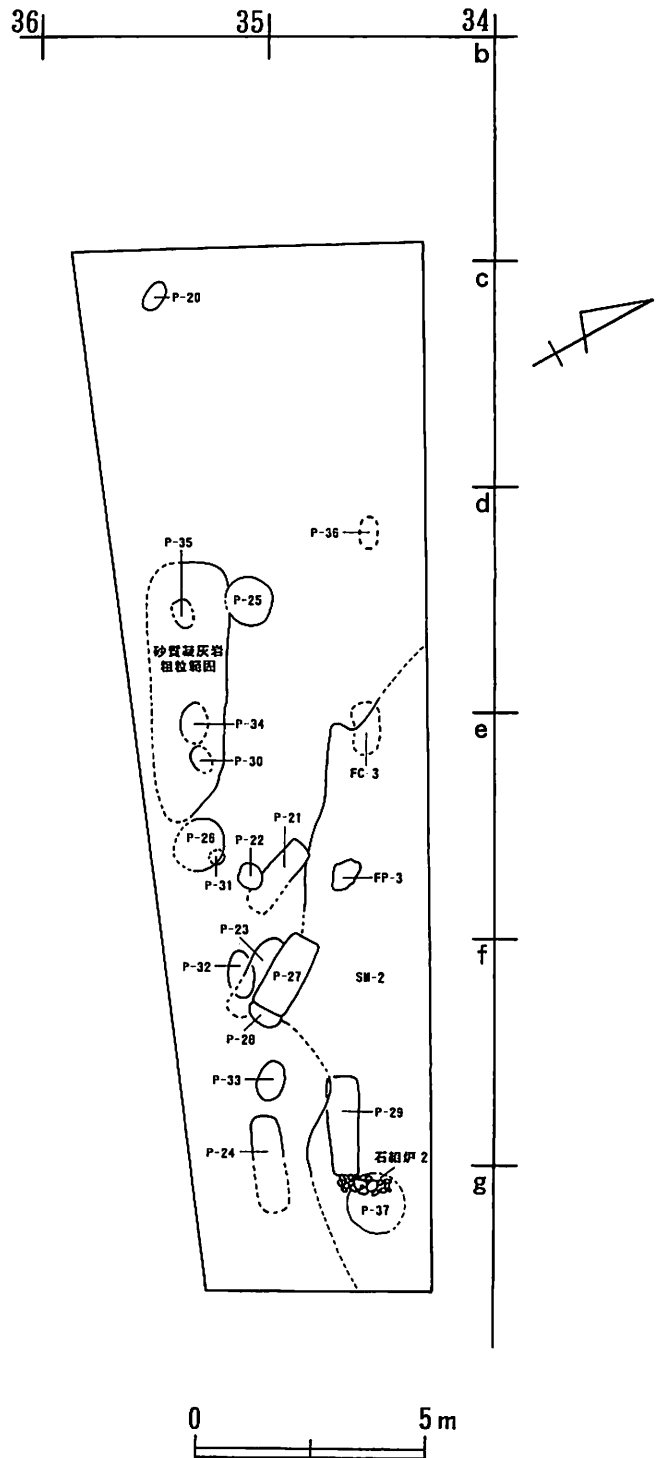
縄文時代晩期から続縄文時代に属する墓壙は遺体の遺存状況が良くないためか、頭位が明確なものは検出されなかった。長軸・短軸ともに1m前後の比較的小型のものが多い。

近世・近代に属する墓壙は攪乱によって形状が不明のものが多いが、遺体の頭位はおおよそ南東から南南東の範囲と思われる。副葬品等からアイヌ民族の墓壙の可能性もある。近代の墓壙は近世末から近代に属する貝塚(SM-2)を切って構築されていることや発掘区西側は大正期には酒屋の店舗があったことから明治期に属すると思われる。

出土遺物は土器4,814点、石器110点、剥片526点、陶磁器318点、骨角器5点、古銭12点、漆器4点、金属製品32点、その他22点、計5,843点を数える。

土器は縄文時代晩期から続縄文時代、擦文時代に属するものが確認されているが、主体となるものは縄文時代晩期中葉に属するものである。

陶磁器はいずれも近世末から近代に属する小破片が多く、主にSM-2から出土している。



第3図 2000年度服部地点 遺構配置図

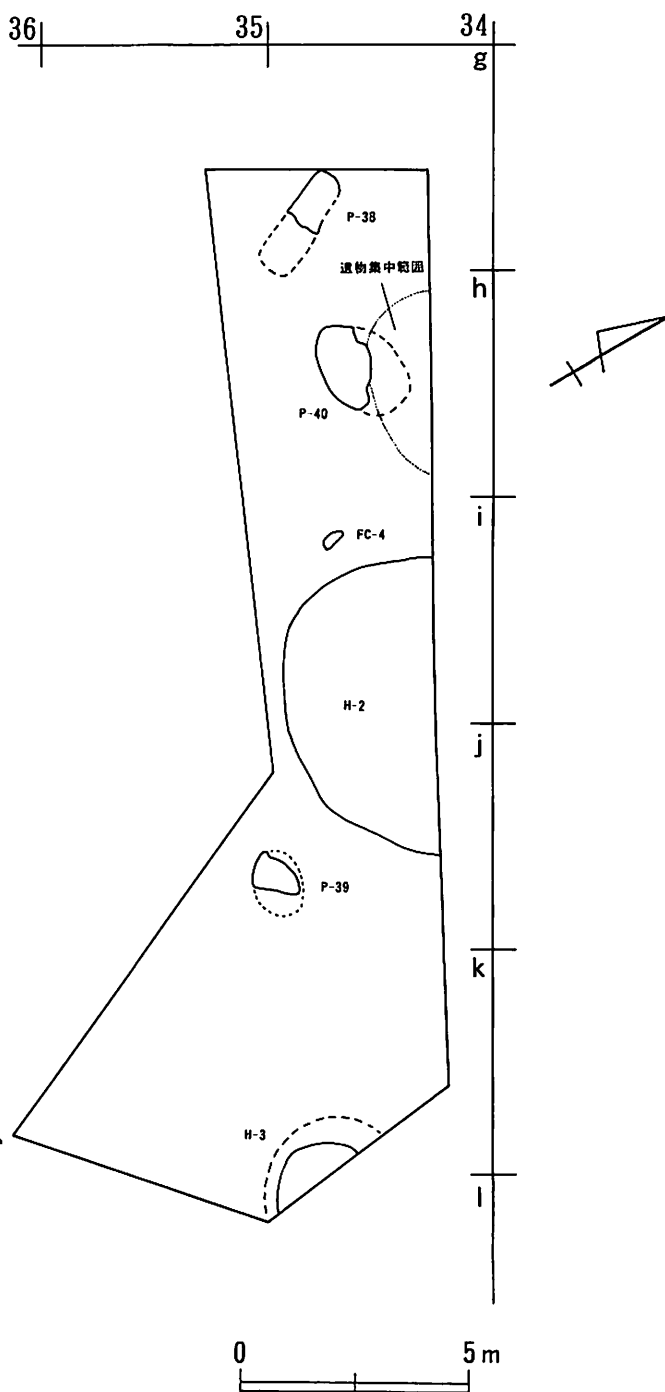
2001年度大川遺跡服部地点からは縄文時代晩期から続縄文時代に属する墓壙1基、近世～近代に属する墓壙1基、時期不明の土壙1基、縄文時代晩期から続縄文時代に属する竪穴住居跡2基、剥片集中1基が検出された。また、遺構の可能性のあるものとして遺物集中範囲1カ所が確認された。

全体に攪乱された部分が多く、一部はIV層にまで至り、各遺構も部分的に攪乱を受けている。特に道路際が顕著で、2000年度に引き続き検出されと思われたSM-2は確認されず、発掘区断面の一部に貝片混じりの層が若干見られたに留まった。

墓壙については、検出数は少ないものの大まかな検出状況は2000年度と同様の傾向が見られる。

竪穴住居跡については、1基は長軸約6.5m、深さ1.2m以上を測る大型のもので、北東側の歩道際は一部攪乱を受けている。もう1基は上面を攪乱により削平されるが、長軸約3.5m、深さ1m以上を測る。しかし、発掘区が道路に沿った細長い形状のため、2基とも1/2以上が道路下に入り込んでおり、道路工事や配管工事に伴う掘削により攪乱されているものと思われる。

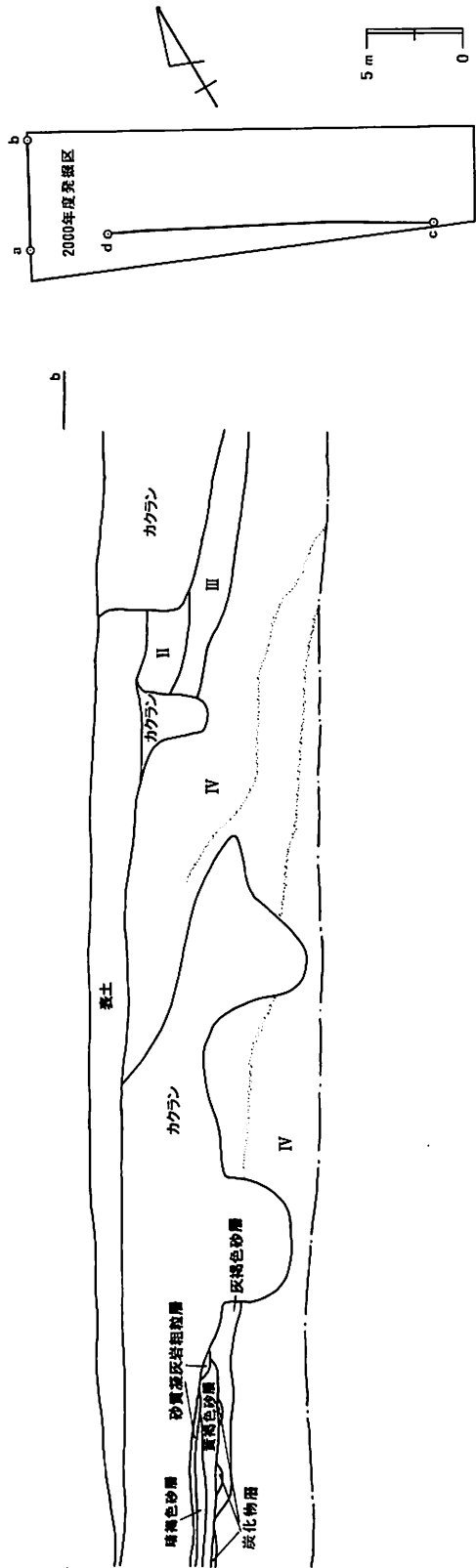
出土遺物は土器566点、石器96点、剥片560点、コハク玉2点、陶磁器106点、骨角器9点、ガラス玉6点、古銭6点、金属製品19点、その他88点、計1,458点を数える。



第4図 2001年度服部地点 遺構配置図

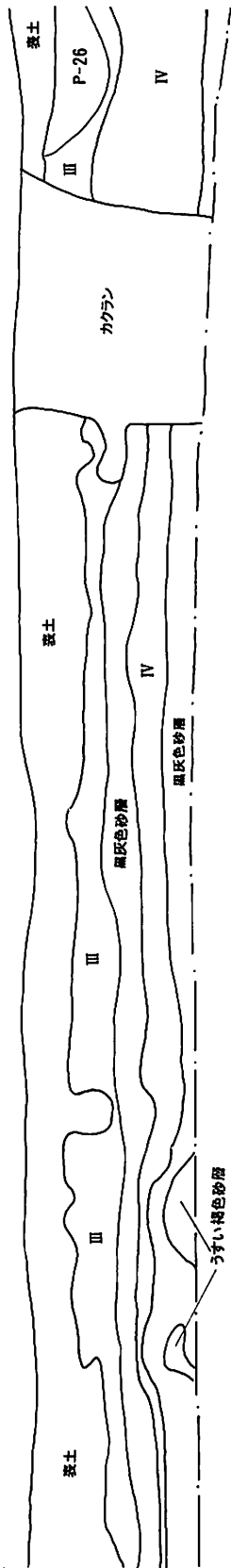
南北土層断面図

1:4.80m

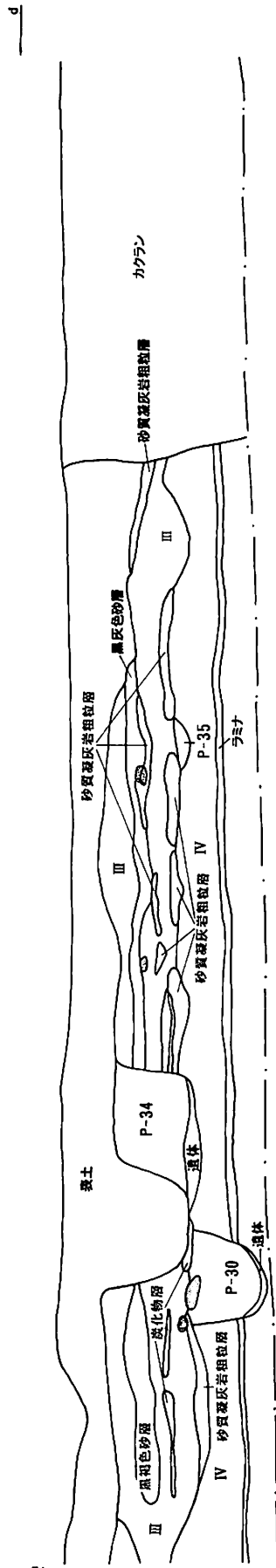


東西土層断面図

1:4.10m

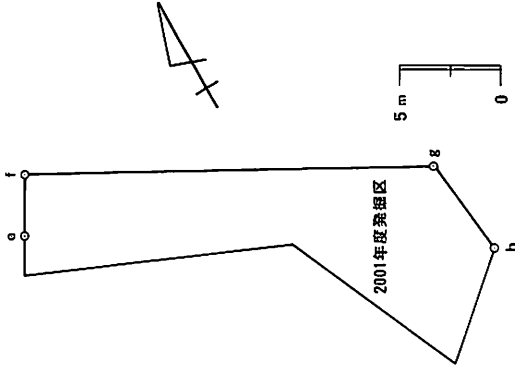
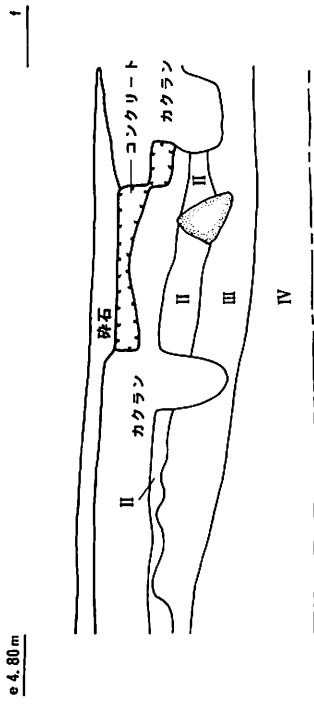


1:4.70m



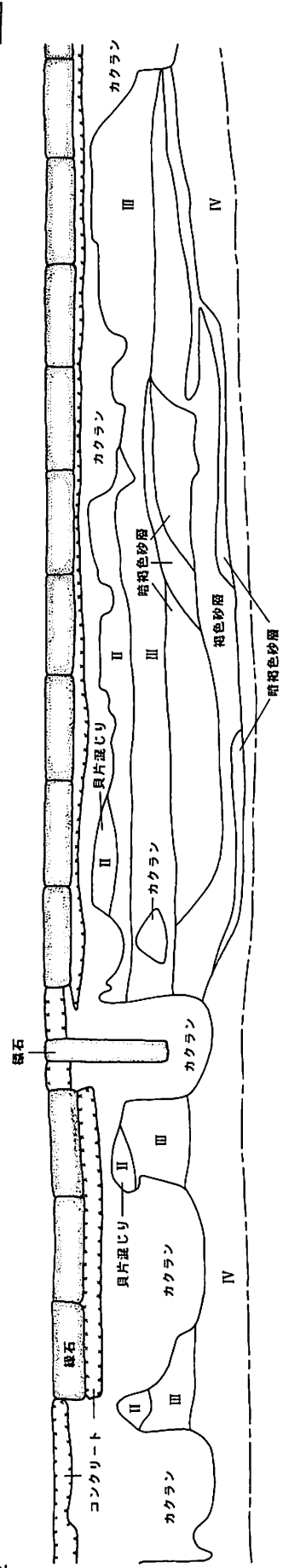
第5図 2000年度発掘区土層断面図

南北土層断面図



東西土層断面図

f 4.80m



第6図 2001年度 発掘区土層断面図 (1)

2. 遺構と出土遺物

P-20 (第8図)

c 35グリッドに位置する。長軸方向が北北西-南南東の約0.68×0.46 mの楕円形を呈する墓壙で、深さは約28cmを測る。壙底部に遺体範囲が検出され、伴出遺物は確認されなかったが、覆土より縄文時代晩期に属する土器片が出土している。墓壙の状態から縄文時代晩期から続縄文時代に属する可能性がある。

P-21 (第8図)

e 34・35グリッドに位置する。長軸方向は北北西-南南東を向き、現状で長軸約1.05×短軸約0.60 mを測る。壙底部直上での検出であるが、長方形を呈すると思われる墓壙である。南東側は攪乱を受けており、左脚部や右下腿部など一部が残存し、頭位方向は南南東と考えられる。右下腿部の直下から刀子、両脚の間より火打金と煙管(吸口)が出土している。近世末から近代に属する貝塚であるSM-2を切って構築されていることから、近代に属するものと思われる。

第8図-1は攪乱を受けた時に位置が動いたと思われ、ピット外の南西側より出土した煙管(雁首)であるが、古泉 弘氏編年の第4~5段階に相当する。

P-22 (第9図)

e 35グリッドに位置する。直径約0.53mの円形を呈し、深さ約10cmを測る土壙である。大量の獣骨とともに人骨の一部が検出されているが、ピットの形態と人骨の検出状況から墓壙とは判断しなかった。人骨については隣接するP-21の攪乱による消失部分の一部が混入している可能性も考えられる。覆土にSM-2の土が使用されていることから、近代に属するものと思われる。

第9図-1は加工痕あるいは切断痕のある獣骨であるが、SM-2より混入したものと思われる。

P-23 (第9図)

f 34・35グリッドに位置する。北西-南東方向に長軸を持ち、現状で長軸約1.13×短軸約0.50mを測る。壙底部直上での検出であるが、長方形を呈すると思われる墓壙である。北西側と南東側は攪乱を受けており、東側をP-27に切られている。ピット南西側から骨角製の中柄が出土しており、南東側に指骨などが散乱し、やや離れて左右下腿部が検出され、頭位方向は南東と思われる。右下腿部直下より太刀・漆器2点とともに長さ約25cmの人骨が検出されているが、左右下腿部は脛骨・腓骨とも確認されているうえ、その直下に他の部位が存在するのは不自然であるため、太刀の出土状況と併せて別遺構の可能性が考えられる。また、ピット内北側よりもう1体分のやや短い人骨下腿部が検出されており、更に別遺構の可能性はあるが判然としない。検出状況から近代に属する可能性がある。

P-24 (第10図)

f 34・35グリッドに位置する。北西-南東方向に長軸を持ち、現状で長軸約0.97×短軸約0.68 mを測る。墳底部直上での検出で、確認されたのは下腿部のみであるが、頭位方向は南東の長方形を呈すると思われる墓墳である。南東側は攪乱を受けており、下腿部の周辺には木柁が検出され、遺体は木棺状のものに納められていたと思われる。両脚の間に火打金と火打石と思われる小石が配され、右脚北側には刀子、木柁北側には環状鉄製品と釣針様の鉄製品が置かれている。検出状況から近世末から近代に属する可能性がある。

第10図-1は火打石と思われる小石、2は火打金であるが紐状の繊維が付着している。4の環状鉄製品の用途等については不明である。

P-25 (第11・12図)

d 34・35グリッドに位置する。直径約1.05m、深さ約20cmの円形を呈する墓墳である。墳底部やや南側に小規模な遺体範囲が検出された。覆土及び墳底部より石鏃・石槍・削搔器・石斧等が出土し、石鏃は無茎凹基のものが大半を占める。遺物等から縄文時代晩期後葉から続縄文時代前葉に属するものと思われる。

P-26 (第15図)

e 35グリッドに位置する。直径約1.2 m、深さ約40cmの円形を呈する土墳である。覆土よりI群に属する土器片が出土しているが伴出遺物は確認されず、時期不明である。

P-27 (第13図)

e 34、f 34・35グリッドに位置する。長軸は北北西-南南東で約1.81×0.72m、深さ約20cmの長方形を呈する墓墳である。東側は一部攪乱を受けているが、ほぼ全身が確認され、頭位は南南東である。P-23・28を切って構築されており、P-28墳底には直径約14cm深さ約32cmの小ピットが確認され、検出状況からP-27に伴う墓標穴と思われる。墳底部には樹皮?の範囲が確認され、遺体の一部は覆われている。頭部西側には漆器椀、胴~腰部西側には円形金属製品と骨角製中柄、右脚北東側には刀子(マキリ)・鎌・煙管・火打石と思われる小石がそれぞれ配されている。遺物等から近代に属するものと思われる。

第13図-1の刀子(マキリ)は柄にアイヌ文様が刻まれている。4の円形金属製品は鏝と思われる。5は古泉 弘氏編年の第6段階の煙管である。

P-28 (第13図)

f 34・35グリッドに位置する。北西側をP-27に切られており、ピット内南東側はP-27に伴う墓標穴と思われる小ピットにより掘り込まれている。長軸方向は北東-南西を向き推定で約0.8×0.6 mの楕円形を呈すると思われる土墳である。骨盤・大腿骨等が検出されているが、遺構の形態と人骨の検出状況から墓墳とは判断しなかった。近代に属するものと思われる。

P-29 (第14図)

f 34、g 34グリッドに位置する。長軸方向は北西-南東で約2.20×0.70 m、深さ約14cmの長方形を呈する墓壙である。遺体は残存状態があまり良くないが、ほぼ全身が確認され頭位は南東である。頭部南西側には漆器椀、右腕部に沿うように太刀、右脚部付け根に火打石と思われる小石、腰部左側には煙管(吸口)が配されている。膝上には漆器膳が置かれ、その上に漆器天目台と漆器椀が重ねられている。漆器膳の下からは煙管(雁首)が出土している。近世末から近代にかけての貝塚であるSM-2の取り上げ後にピットが確認されたことから近世に属するものと思われる。

第14図-1は古泉 弘氏編年の第4~5段階の煙管である。3は釘と思われる鉄製品、5は火打石と思われる小石である。

P-30 (第15図)

e 35グリッドに位置する。長軸方向を東西に持ち、推定で約0.6×0.4 mの楕円形を呈すると思われる墓壙である。覆土上面に礫が配され、壙底部全面に遺体が検出された。伴出遺物は確認されなかったが、縄文時代晩期中葉に属する砂質凝灰岩粗粒の範囲によってピットの一部が覆われていることから、それ以前の時期に属するものと思われる。

P-31 (第16図)

e 35グリッドに位置する。直径約0.3 m、深さ23 cmの円形を呈する土壙である。伴出遺物は確認されず時期不明の土壙である。

P-32 (第16図)

f 35グリッドに位置する。長軸方向は北西-南東で約1.10×0.63 m、深さ約10 cmの楕円形を呈する墓壙である。壙底部ほぼ全面にベンガラが確認され、その直上より石鏃・石槍とともに直径1.3~1.5 cmのコハク製平玉が7点出土している。遺物等から縄文時代晩期後葉から続縄文時代前葉に属するものと思われる。

P-33 (第16図)

f 34・35グリッドに位置する。長軸方向は西北西-東南東で約0.75×0.45 m、深さ約20 cmの楕円形を呈する墓壙である。覆土上面にベンガラが確認され、壙底部全面に遺体が検出された。覆土より石鏃が1点出土している。縄文時代晩期から続縄文時代前葉に属する可能性がある。

P-34 (第17図)

d 35、e 35グリッドに位置する。長軸方向は北西-南東で推定約1.15×0.80 mの楕円形を呈すると思われる墓壙である。深さは約48 cmを測る。南東側は攪乱により切られるが、壙底部には遺体が確認された。砂質凝灰岩粗粒範囲を切って構築されており、遺体直上から第I群c類に属する深鉢形土器が出土していることから縄文時代晩期後葉に属するものと思われる。

P-35 (第17図)

d 35グリッドに位置する。長軸方向は北西-南東で約0.76×0.45m、深さ約15cmの楕円形を呈する土壌である。壙底部には遺体の可能性がある層が見られたが判然としない。伴出遺物は確認されなかったが、縄文時代晩期中葉に属する砂質凝灰岩粗粒範囲に覆われていることから、それ以前の時期に属するものと思われる。

P-36 (第18図)

c 34、d 34グリッドに位置する。全体に攪乱を受け、プランを消失しており、確認されたのは頭部のみであるが、検出状況から頭位方向は南東と考えられる。検出状況等から近世に属する墓壙と思われる。

P-37 (第18~20図)

g 34グリッドに位置する。径約1.3m、深さ約45cmの円形を呈する墓壙である。覆土及び壙底より石鏃・石斧・削搔器等が出土している。壙底部やや南西寄りにはベンガラが厚く散布されており北西~南東に長い範囲として検出されたが、明確な遺体の痕跡は確認されなかった。検出状況から縄文時代晩期後葉から続縄文時代前葉のものと思われる。

P-38 (第21・22図)

g 34グリッドに位置する。南東側1/2以上を攪乱され、現状で長軸1.30×短軸0.83m、深さ約20cmを測る。北西-南東に長軸を持つ隅丸長方形を呈すると思われる、下腿部以下のみの検出であるが、頭位方向は南東と思われる。遺体の遺存状況は良好で、右足は大腿骨以下が、左足は膝蓋骨以下が確認された。右足部周辺には煙管(雁首・吸口)、左足部周辺には火打金1点と火打石と思われる小石2点、両足の間に刀子が配されており、プラン北側隅には吊耳鉄鍋が伏せた状態で出土した。また、左足首周辺にハイイヌガヤと思われる種子を検出、左足部下には繊維質を含みやや粘質のある黒色土範囲が確認され、遺体を包んだゴザの可能性が考えられる。南東側攪乱中よりコタマガイや獣骨とともに、指骨や手根骨などの人骨が出土しており、本墓壙との関連が考えられるが判然としない。検出状況等から近世末から近代に属するものと思われる。

P-39 (第23図)

j 34・35グリッドに位置する。南東側は攪乱により消失しており、残存する部分も北東~北西側にかけて上面を攪乱により削平される。現状では1.05×0.82m、深さ約45cmを測り、長軸方向は北西-南東で楕円形を呈すると思われる。壙底部特に北東側は砂鉄分が固化したものか固くしまる。壙底部・覆土ともに遺物は確認されず、時期不明の土壌である。

P-40 (第23・24図)

h 34グリッドに位置する。北西側と東側は攪乱されており、現状で1.90×1.15m、深さ約27cmを測る。北東側は遺物集中を伴う緩やかな落ち込みに切られている。長軸は東西方向もしくは北西-南東方向と思われ、楕円形を呈する墓壙である。壙底部の広い範囲に亘

って薄色のベンガラが確認されたが、明確な遺体は検出されなかった。遺物は全て剥片及びR・Fで、ベンガラ範囲上面とその周辺に散在しており、土器は確認されなかった。検出状況等から縄文時代晩期に属すると思われるが判然としない。

H-2 (第25～30図)

i 34・j 34グリッドに位置する。道路下に全体の北東側1/2以上が入り込んでいると思われる、円形あるいは楕円形を呈すると推定される。覆土上面は一部攪乱を受けているが、現状で長軸約6.45m×短軸3.30m、深さ約150cmを測る大型の竪穴住居跡である。覆土には一部貝片混じりの層が見られるが、竪穴埋没後の窪みに捨てられたものと思われる。床面やや南寄りに約30×25cmの焼土・炭化物範囲、南東側には約1.90×0.90mのやや歪つな形のベンガラ範囲が検出され、断面にもベンガラ混じりの層が見られた。明確な炉跡や柱穴は確認されなかった。遺物は4・5層からの出土が多く見られ、土器は縄文時代晩期中葉から続縄文時代前葉にかけてのものが確認されており、特に5層においては第I群b類～c類が主体となる傾向が見られる。石器については石鏃・石槍・石錐・削搔器等が確認され、石鏃・石槍は少数ではあるが無茎のものが多く見られる。また、第29図-70は同一母岩から作出された搔器とR・Fの接合資料で、多数の剥片やフレイク・チップ等の出土も併せ、本遺構での石器製作の可能性も考えられる。

H-3 (第31・32図)

k 34・l 34グリッドに跨がり位置する。発掘区南東側道路際より検出され、道路下に全体の東側1/2以上が入り込んでいる。水道管・住宅基礎等が道路に沿って走っており、そのため上面～覆土下位まで攪乱され、床面付近の一部のみの検出である。現状で長軸約2.40m、深さ約37cmであるが、断面図では長軸約3.50m、深さ1m以上を測る。覆土下位よりメノウ質のものを中心とするフレイク・チップの集中する範囲が検出され、コハク製垂飾2点やR・F等が出土した。遺物等より縄文時代晩期後葉から続縄文時代前葉にかけての竪穴住居跡と思われる。

SM-2 (第33図)

d 34、e 34、f 34、g 34グリッドに跨がり位置する貝塚である。イガイ・コタマガイを主体とし、シカ・イヌ等の陸獣類の他、海獣類の骨が確認されている。第VI群に属する陶磁器や骨角器・鉄製品等が出土しており、近世末から近代に属するものと思われる。

第33図-1は第V群a類、2は第VI群に属する陶磁器、3は先端部及び基部を欠損した獣骨製の中柄、4は加工痕あるいは切断痕のある獣骨、5は中空の金属製品の端部を押しつぶしたもので煙管の可能性はある。

FP-3 (第34図)

e 34グリッドに位置する。II層からの検出であるが、伴出遺物は確認されず時期不明の焼土である。

石組炉2 (第34図)

g 34グリッドに位置する。角礫を主体として構築されており直線的な配列がなされている。礫の隙間は黄褐色粘土で充填されており、南東側上面に焼土範囲が確認された。攪乱を受けており、本来の形状は不明であるが、近・現代に属するものと思われる。

F C -3 (第34図)

d 34・ e 34グリッドに位置する。Ⅱ層からの検出で、黒曜石と頁岩のフレイク・チップ計94 gが出土しているが、それ以外に伴出遺物は確認されなかった。

F C -4

i 34グリッドに位置する。Ⅲ層からの検出で、黒曜石剥片9点と頁岩剥片1点、黒曜石のフレイク・チップ14 gが出土した以外は遺物は確認されなかった。

砂質凝灰岩粗粒範囲 (第35～39図)

d 35・ e 35グリッドに跨がり位置する。Ⅲ層を調査中、発掘区南側の砂丘の傾斜面及びその周辺に確認され、一部に焼土が検出されている。範囲直上からは第Ⅰ群b類に属する土器等の遺物が出土しており、意図的に配置した可能性が考えられる。遺物等から縄文時代晩期中葉に属すると思われる。1999年度大川遺跡道道地点調査時に検出された砂質凝灰岩粗粒範囲に類似しているが、判然としない。なお、遺物は1 mメッシュの小グリッドをさらに4分割し、50cmメッシュを設定して取り上げた。

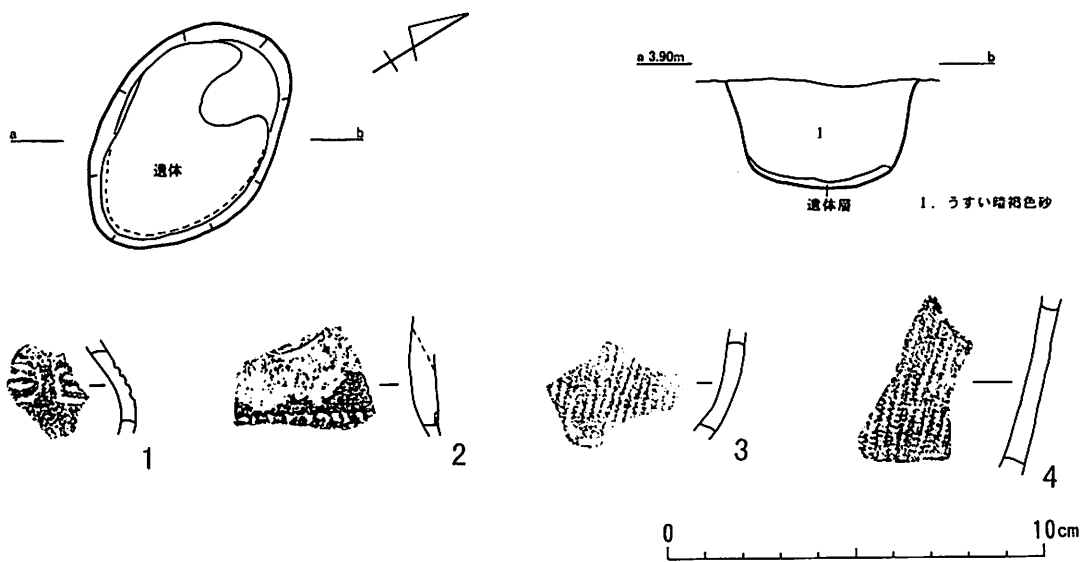
遺物集中範囲 (第40・41図)

h 34グリッド北側に第Ⅰ群b類の土器がつぶれた状態で出土し、その周辺に石錐・削搔器やR・F等の石器類が集中し、暗褐色砂を覆土とする緩やかな落ち込みが検出された。一部を攪乱されており判然としないが、P-40の北東側を切っている。断面にもⅣ層を掘り込んだような僅かな落ち込みが見られ、長軸4 m以上を測る何らかの遺構が存在した可能性がある。

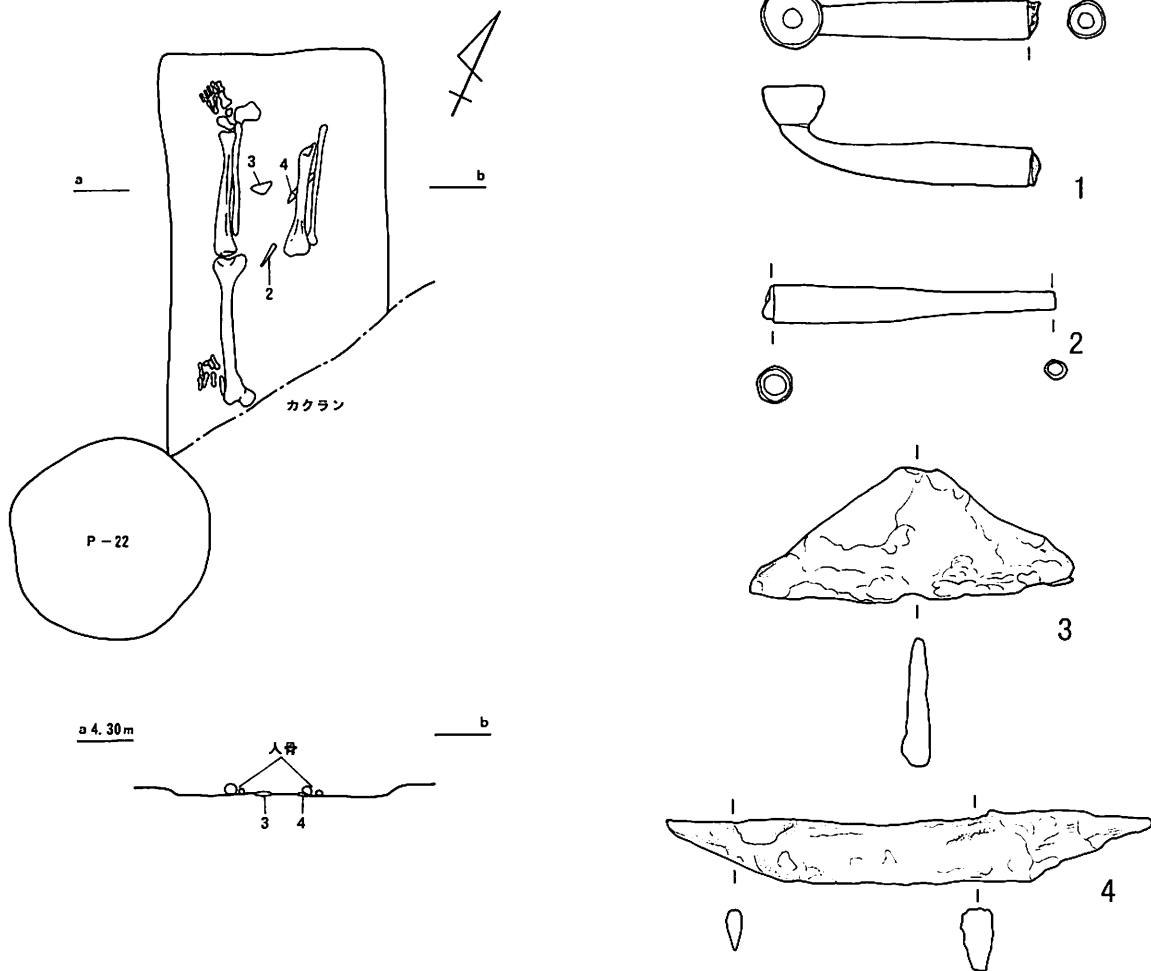
参考文献

- 古泉 弘 1983「煙管の変遷」『江戸を掘る』
2001「喫煙2 煙管」『図説 江戸考古学研究事典』

P-20

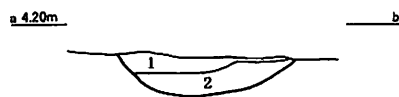


P-21

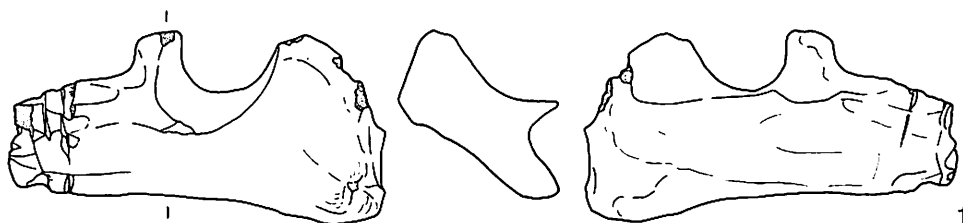


第8図 P-20・21 平面図と出土遺物

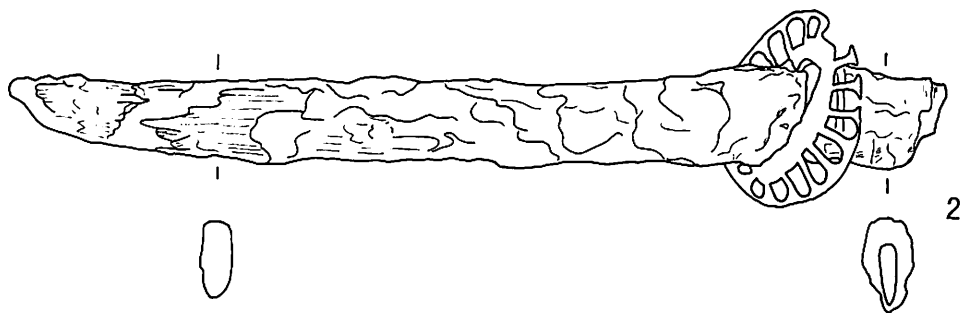
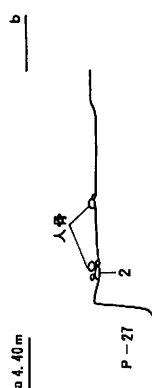
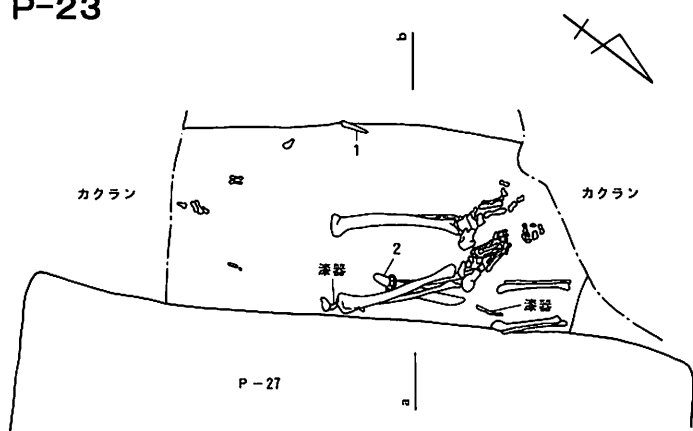
P-22



- 1. 黒色土
- 2. 獣骨層

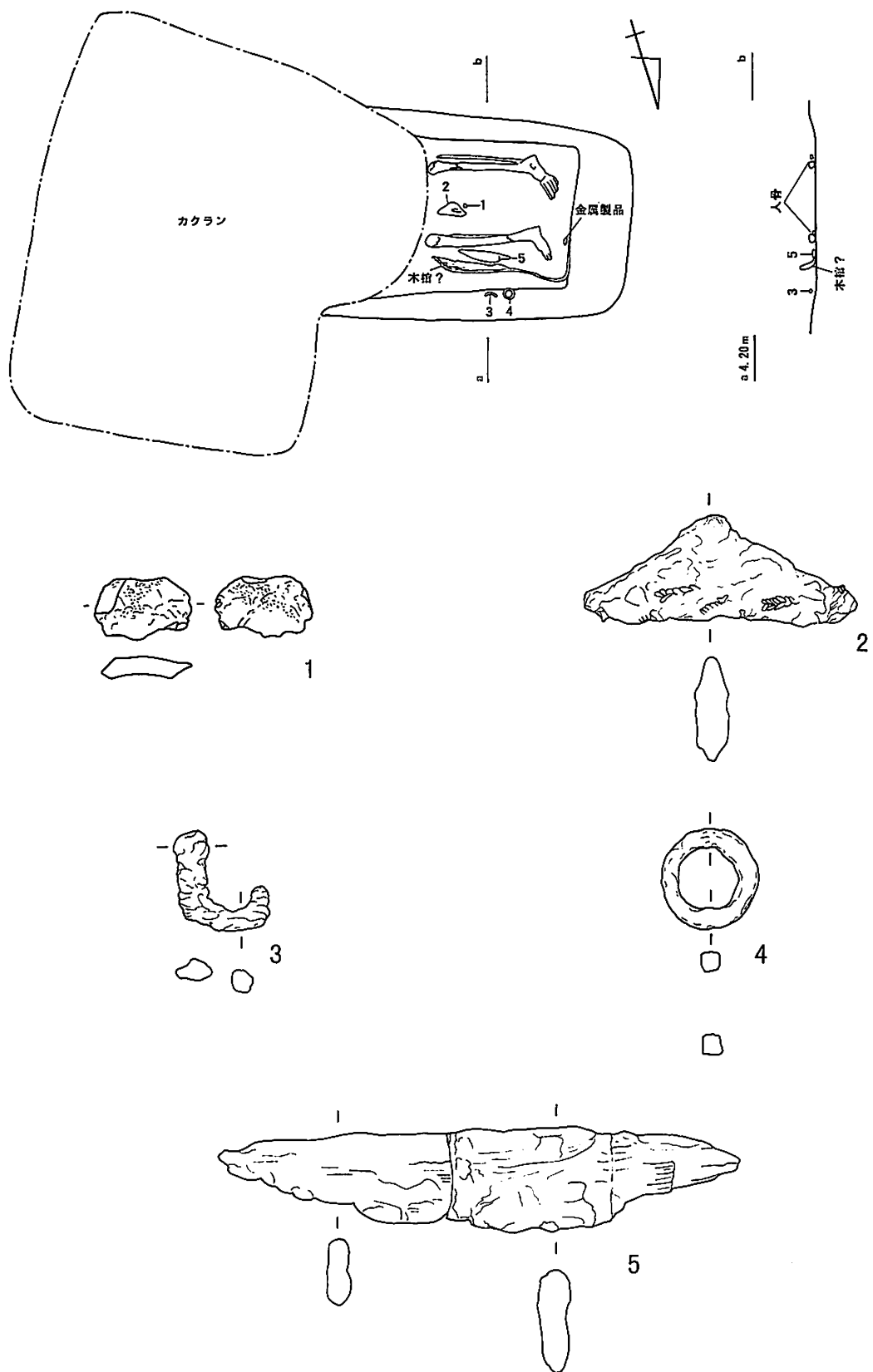


P-23



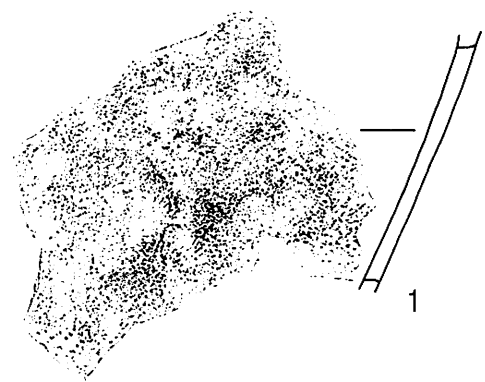
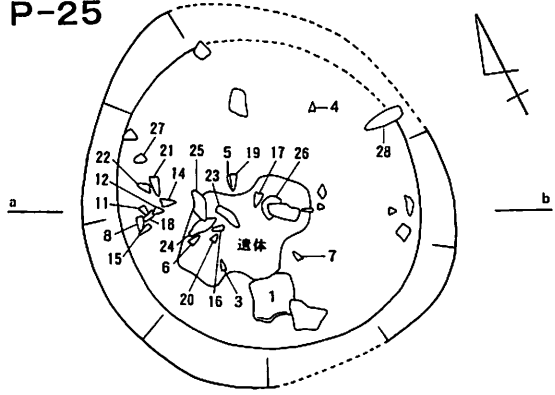
第9図 P-22・23 平面図と出土遺物

P-24

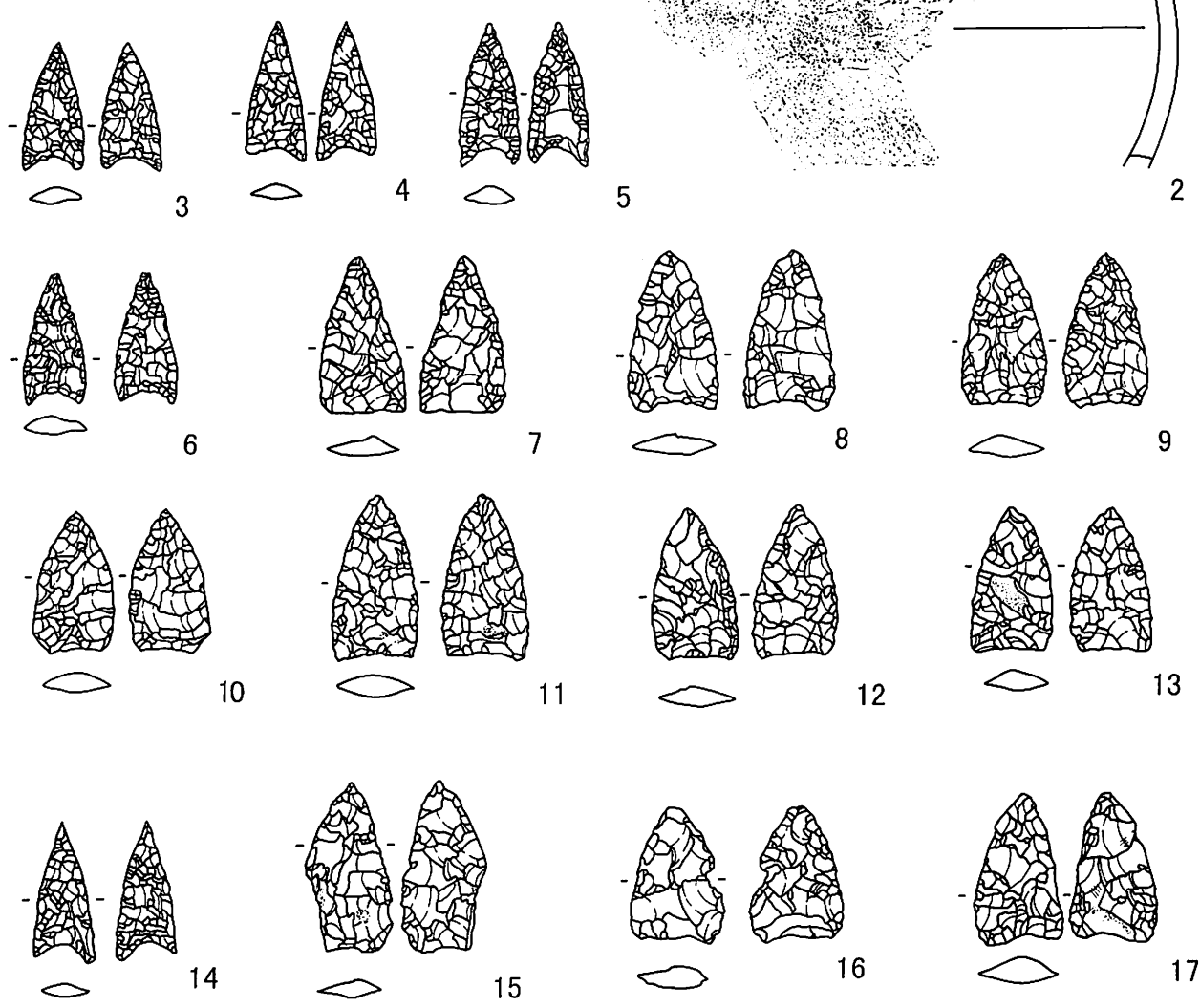
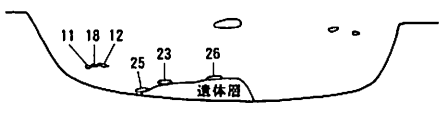


第10図 P-24 平面図と出土遺物

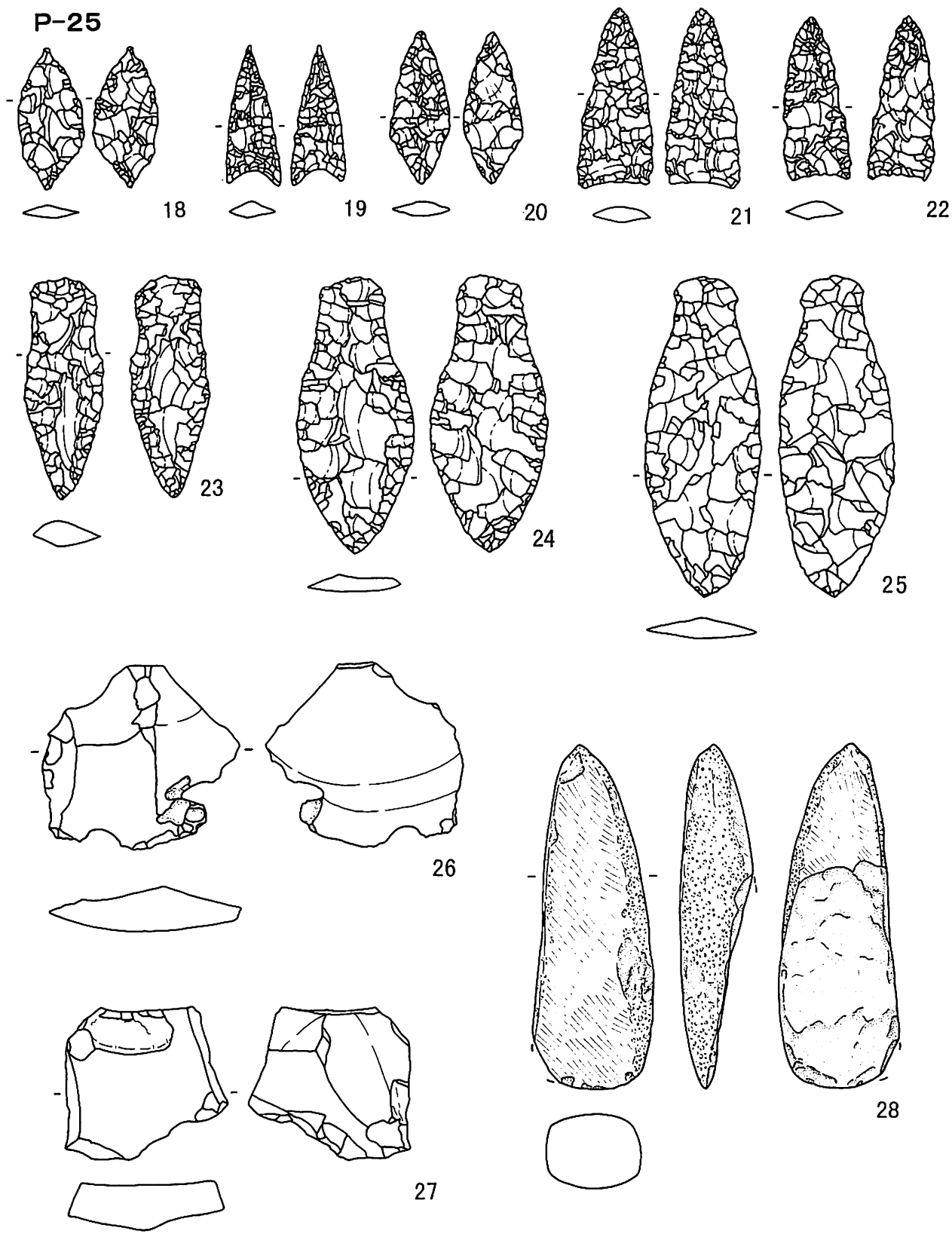
P-25



a 4.10m b

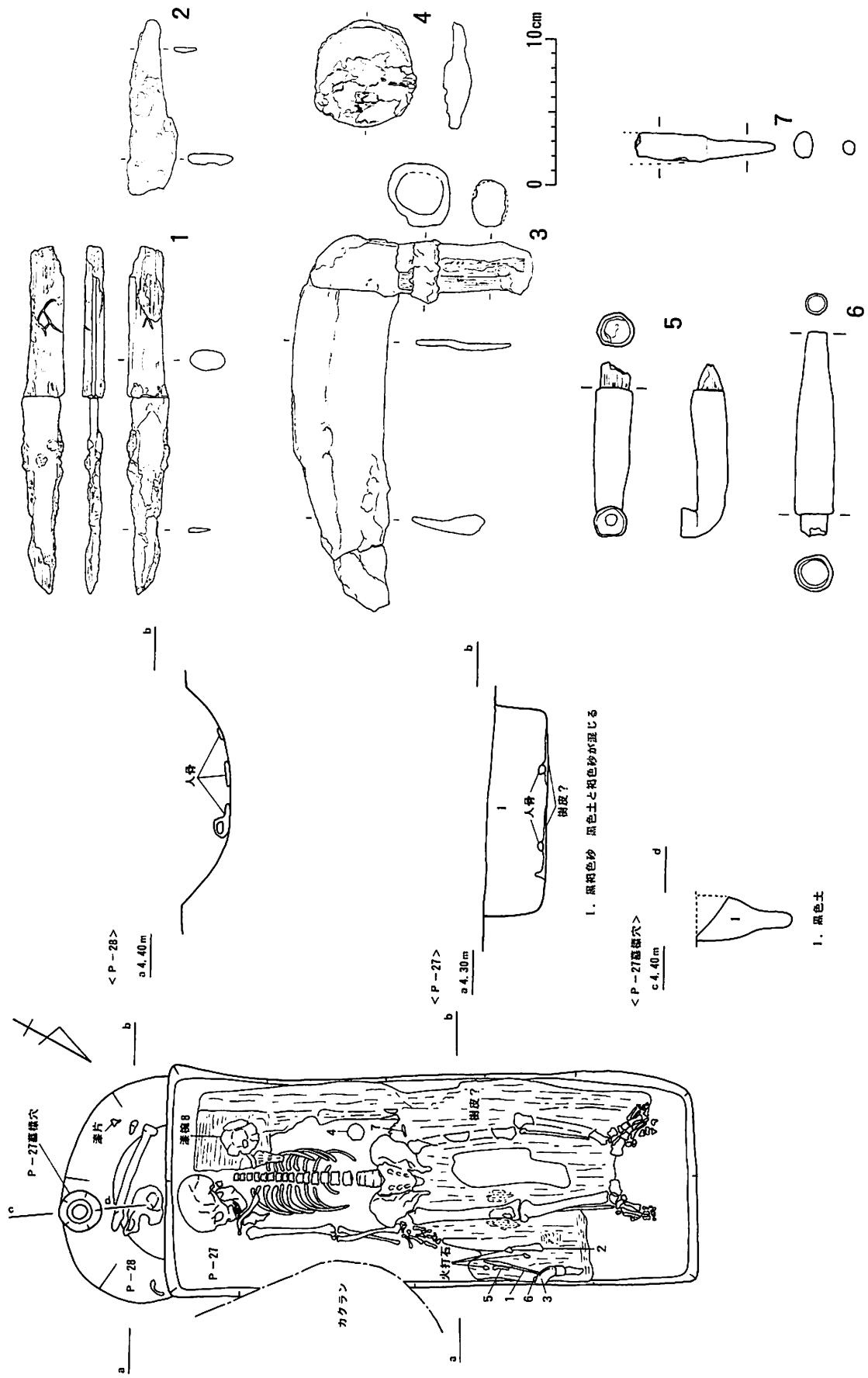


第11図 P-25 平面図と出土遺物



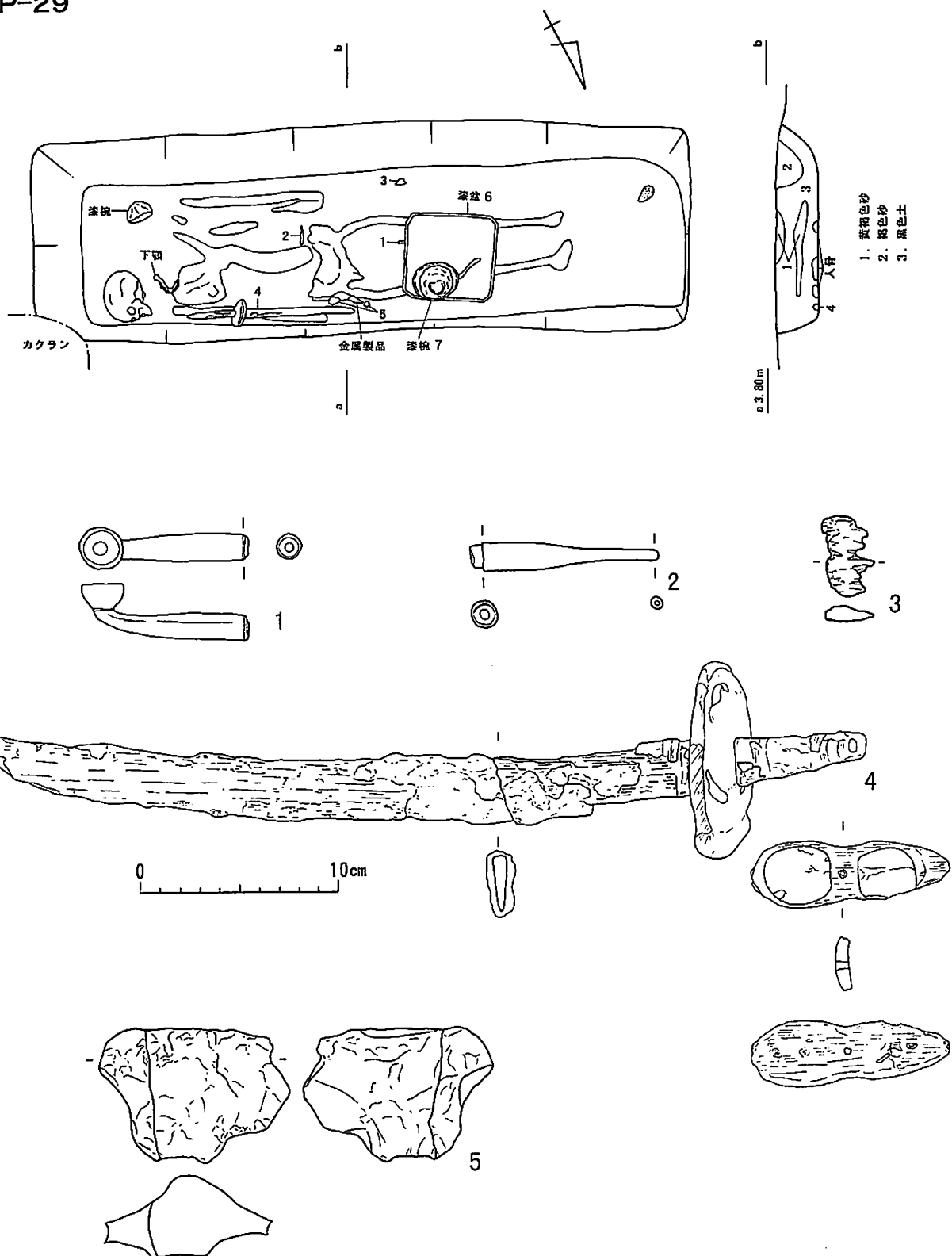
第12図 P-25 出土遺物

P-27・P-28



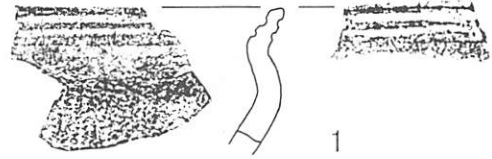
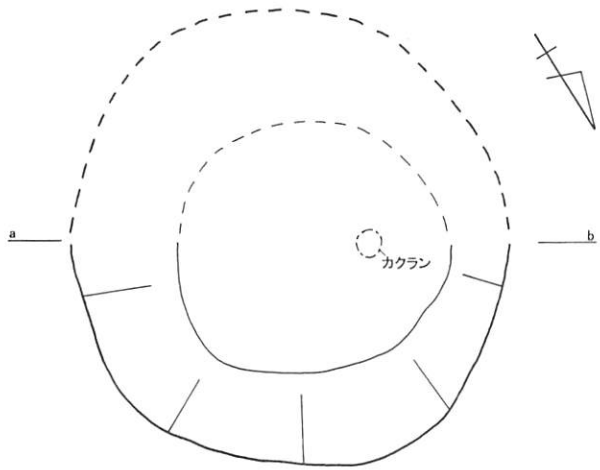
第13図 P-27・28 平面図と出土遺物

P-29

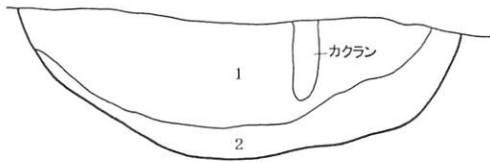


第14図 P-29 平面図と出土遺物

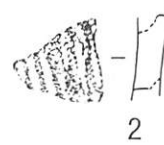
P-26



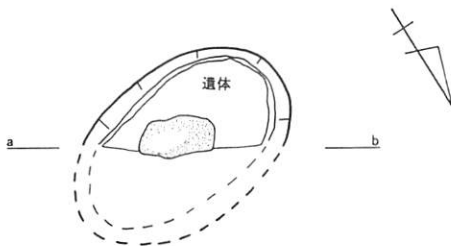
a 4.10m b



1. 黒色土
2. 暗褐色砂



P-30



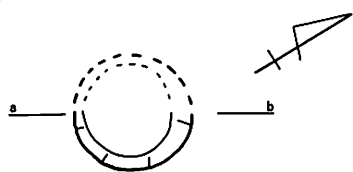
a 3.90m b



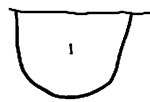
1. 灰褐色砂

第15図 P-26・30 平面図と出土遺物

P-31

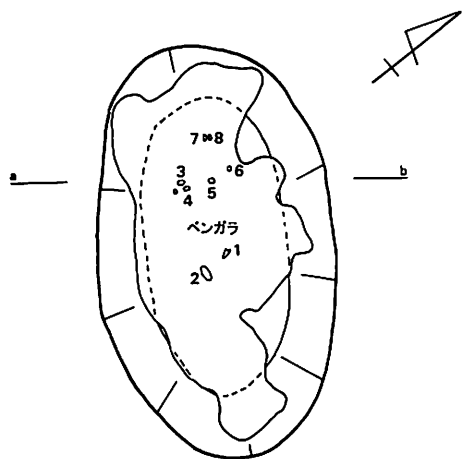


a 3.50m b

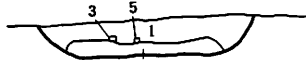


1. うすい茶褐色砂

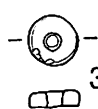
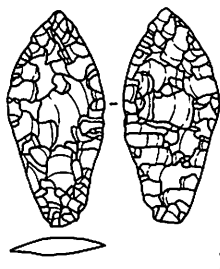
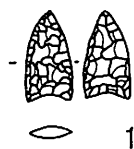
P-32



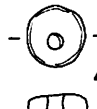
a 3.90m b



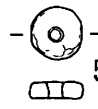
1. 灰褐色砂



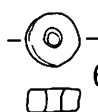
3



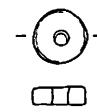
4



5



6

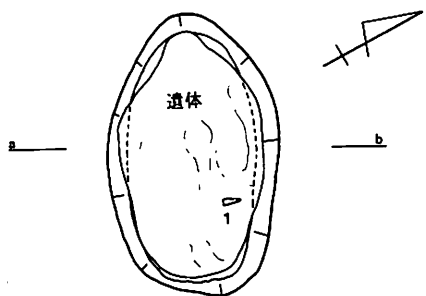


7



8

P-33

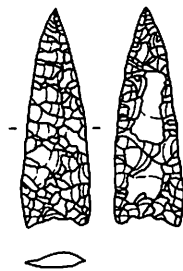


a 3.90m b



遺体層

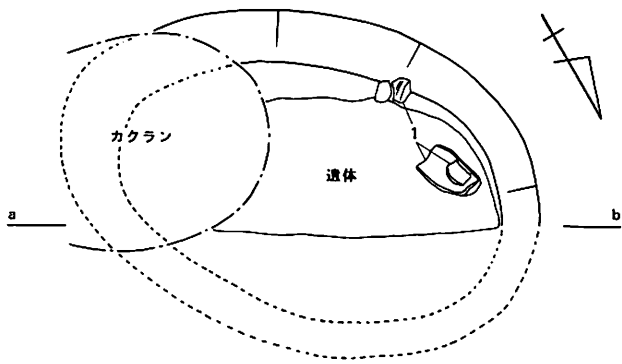
1. 灰褐色砂



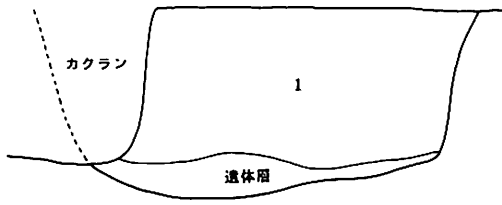
1

第16図 P-31・32・33 平面図と出土遺物

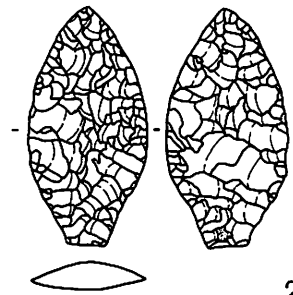
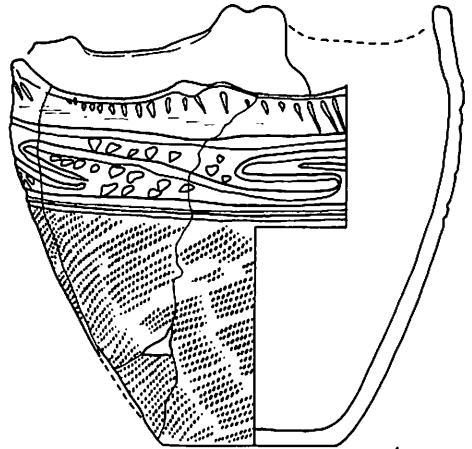
P-34



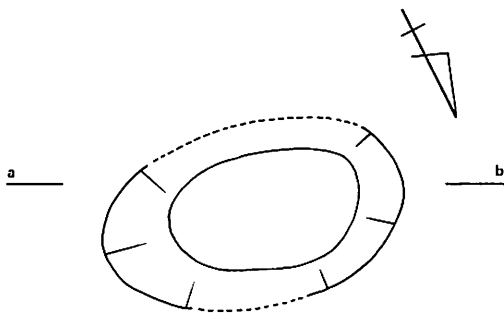
a 4.30m



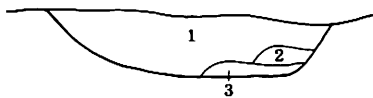
1. 褐色砂



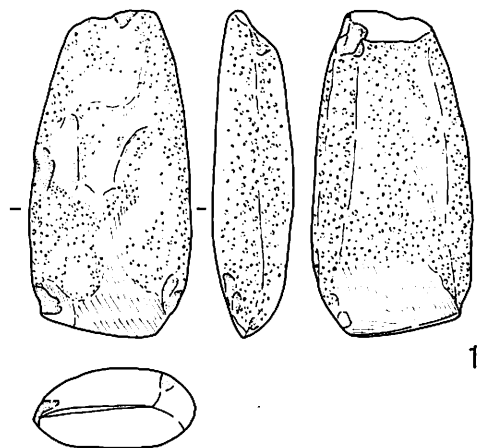
P-35



a 4.00m

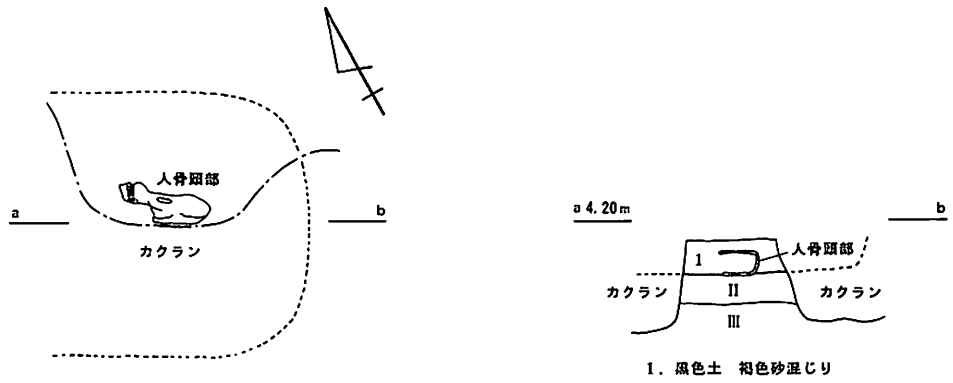


- 1. 黒褐色砂
- 2. 灰褐色砂
- 3. 褐色砂 遺体層の可能性あり

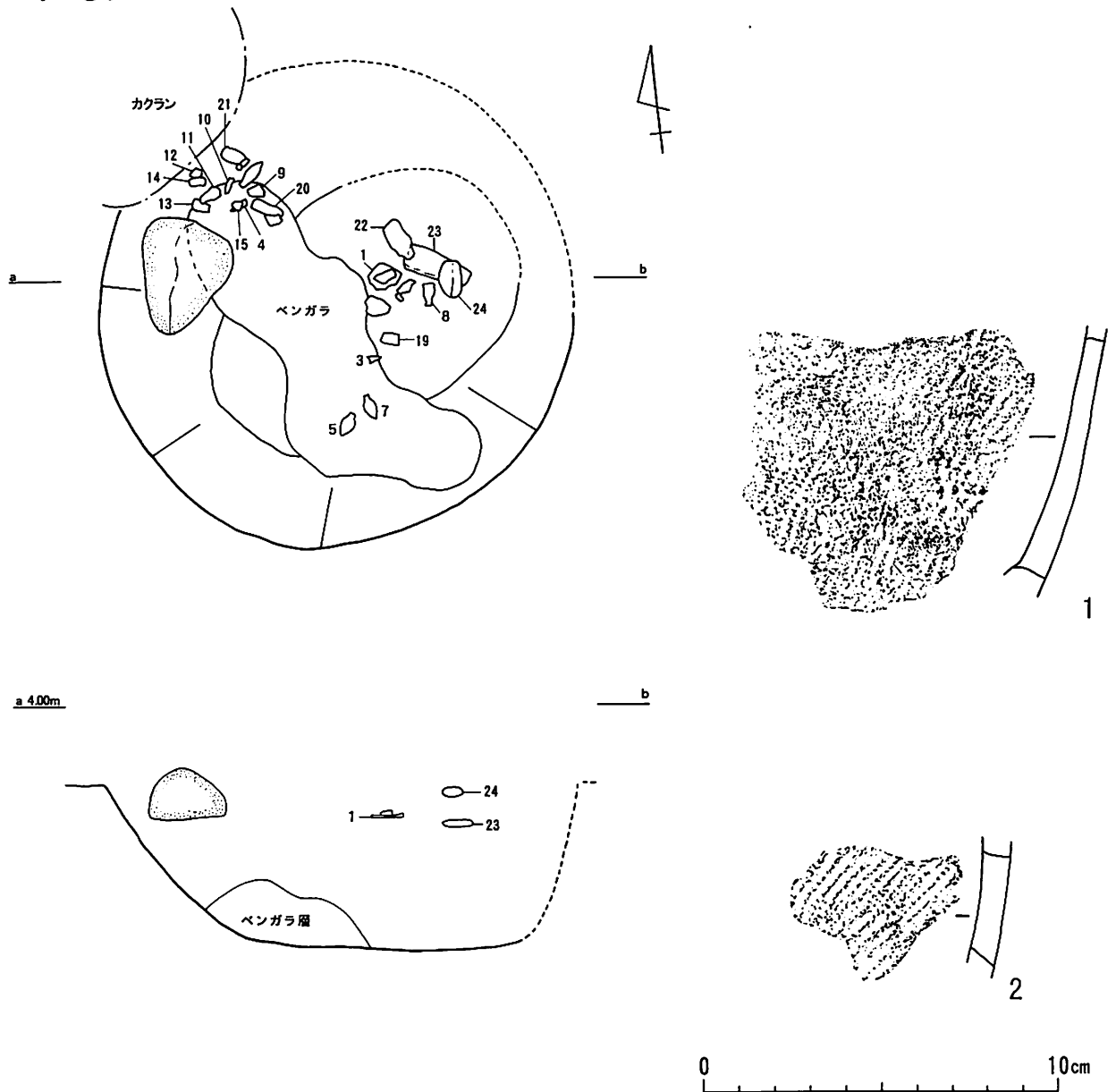


第17図 P-34・35 平面図と出土遺物

P-36

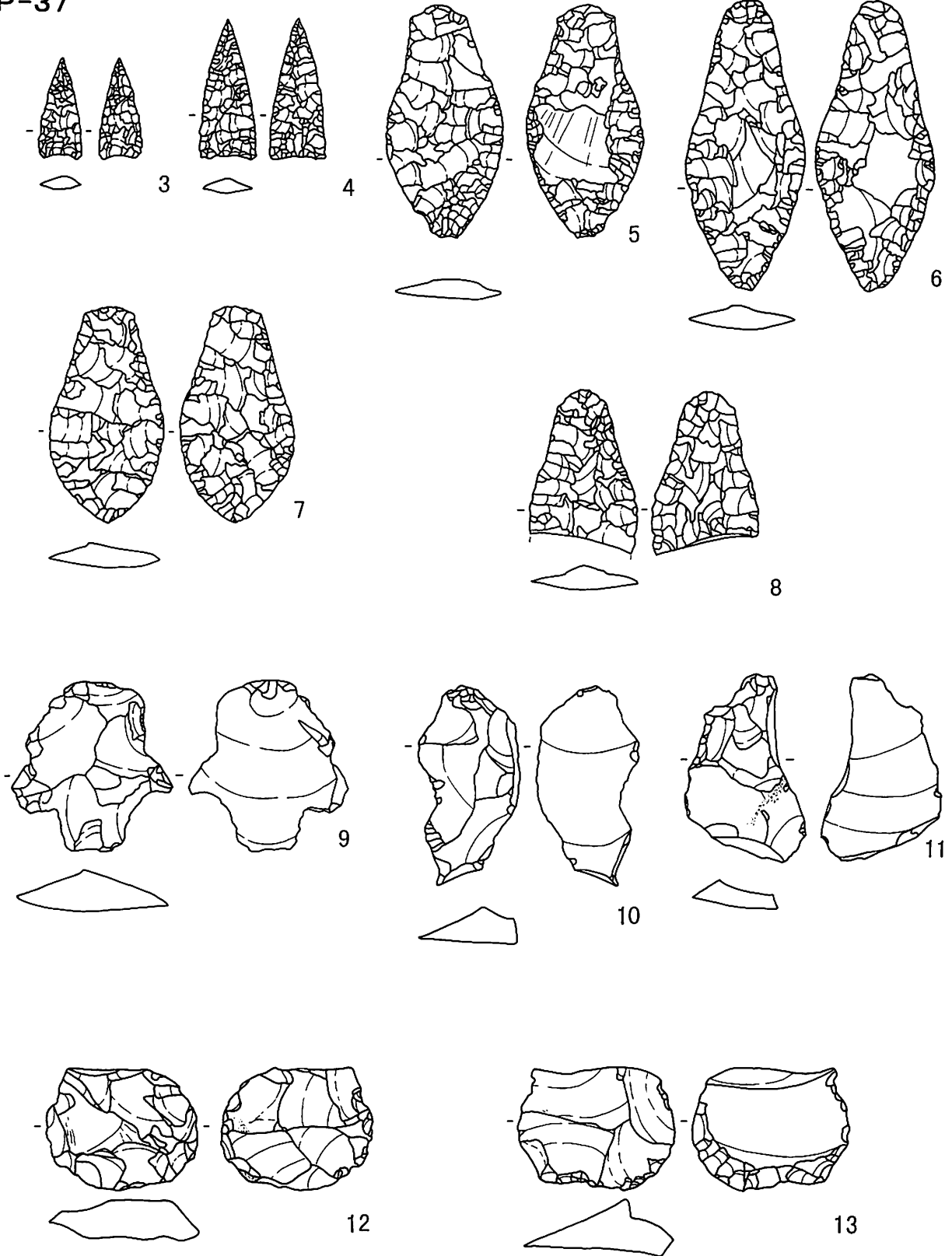


P-37

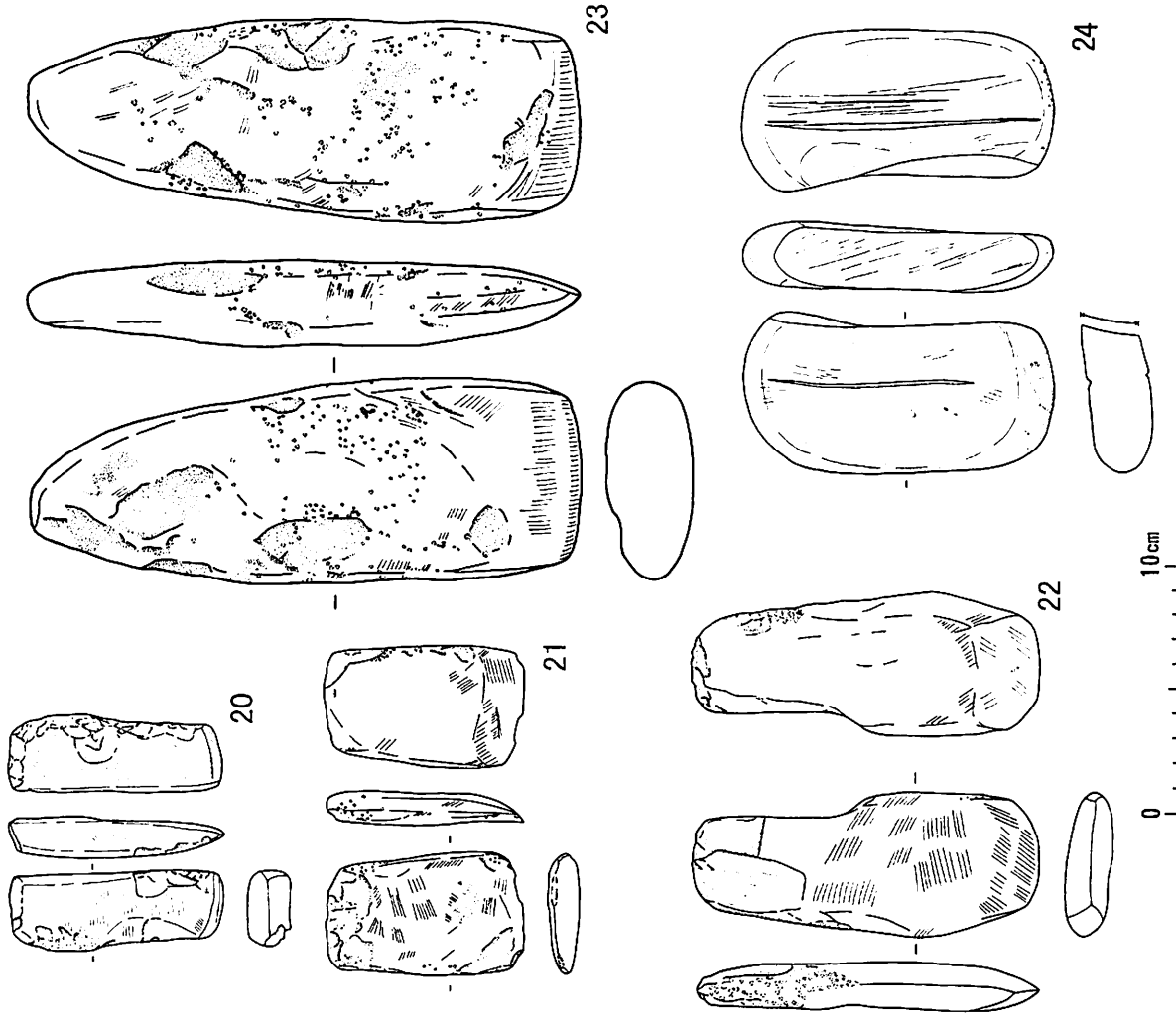
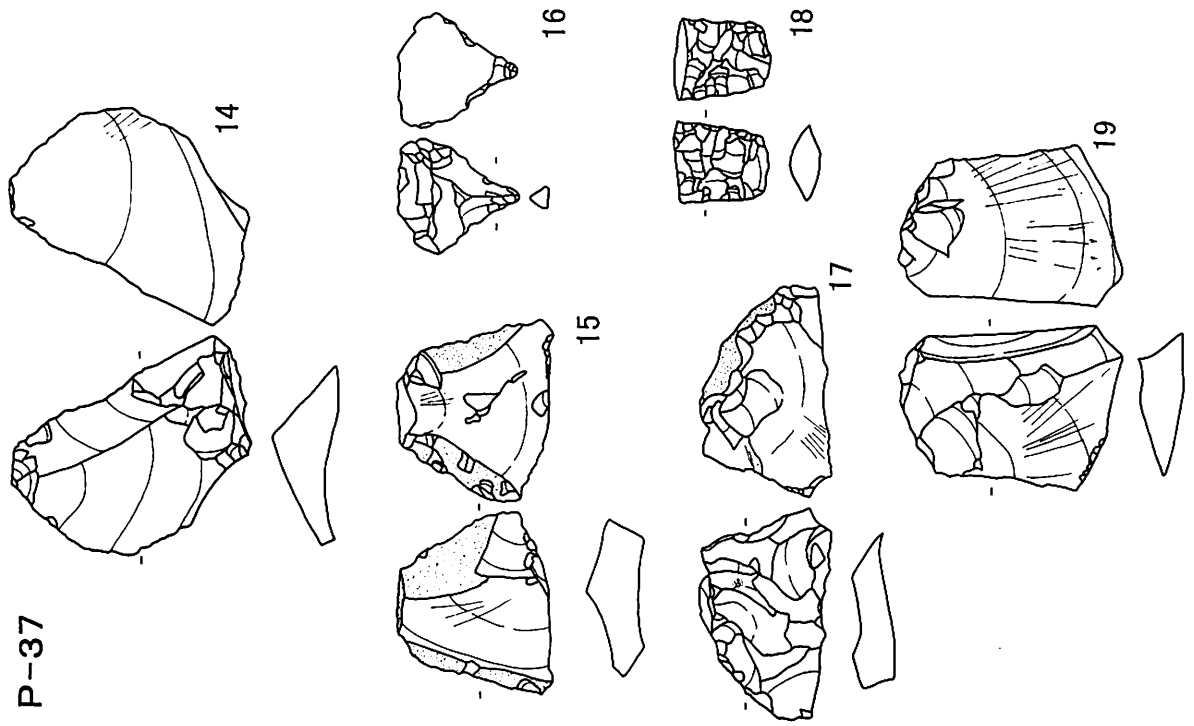


第18図 P-36・37 平面図と出土遺物

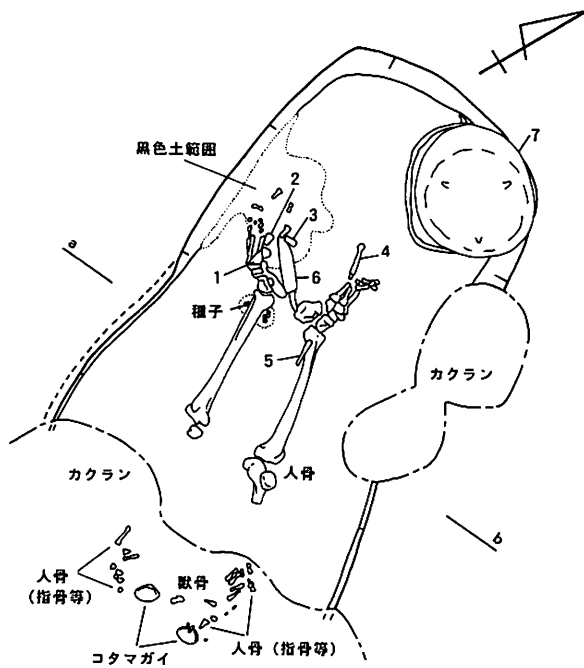
P-37



第19図 P-37 出土遺物 (1)



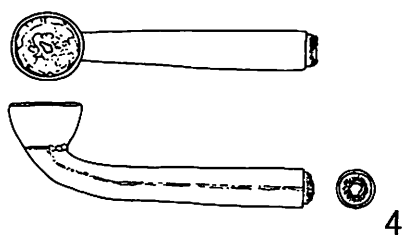
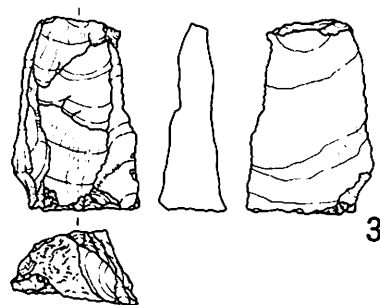
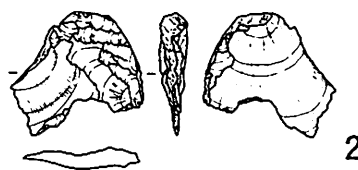
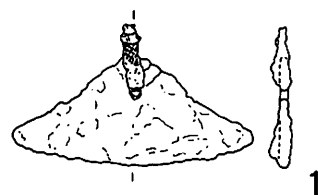
第20図 P-37 出土遺物 (2)



a 4.20m

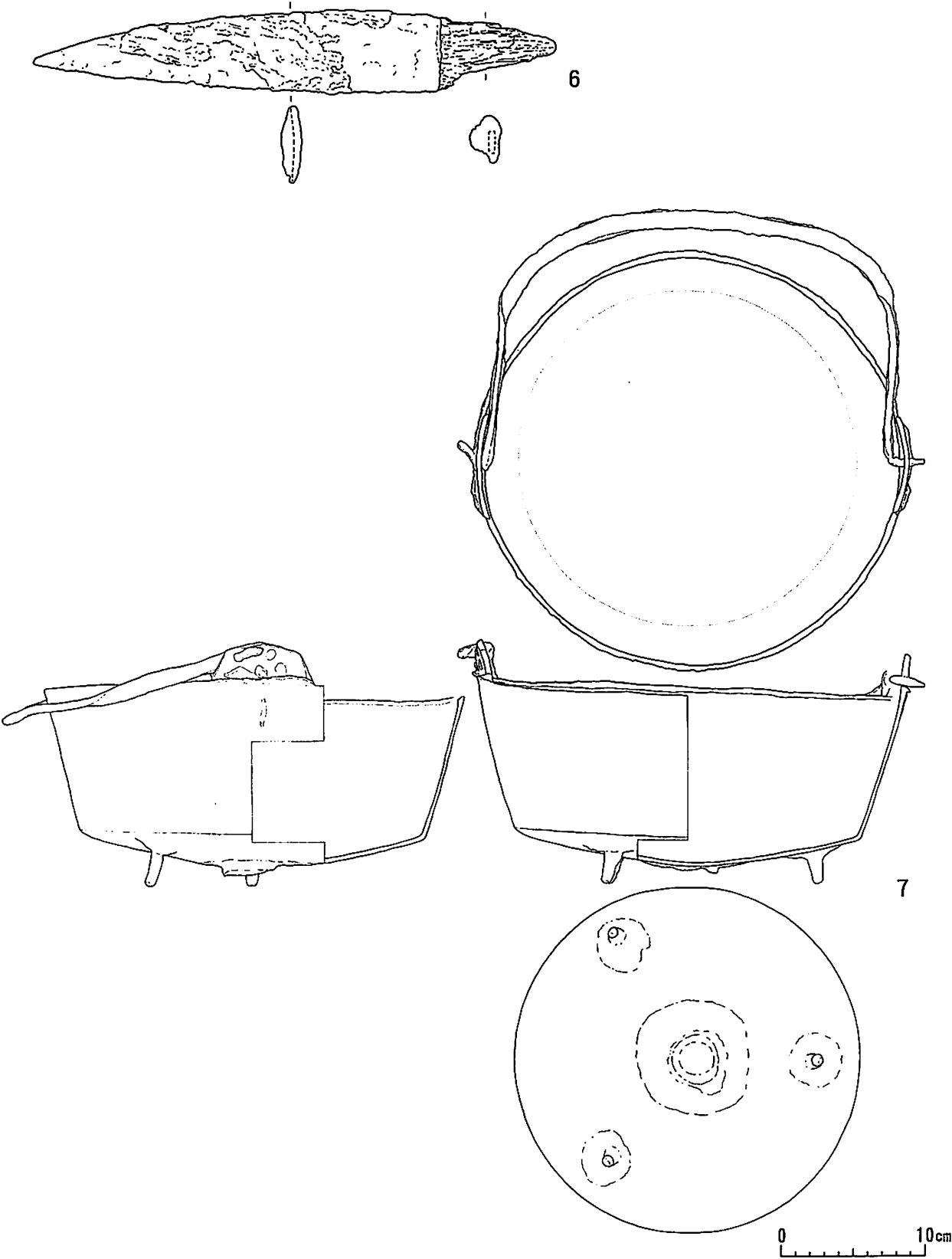


1. 黒褐色土と暗褐色砂の混じり (貝片・炭化物混じり)



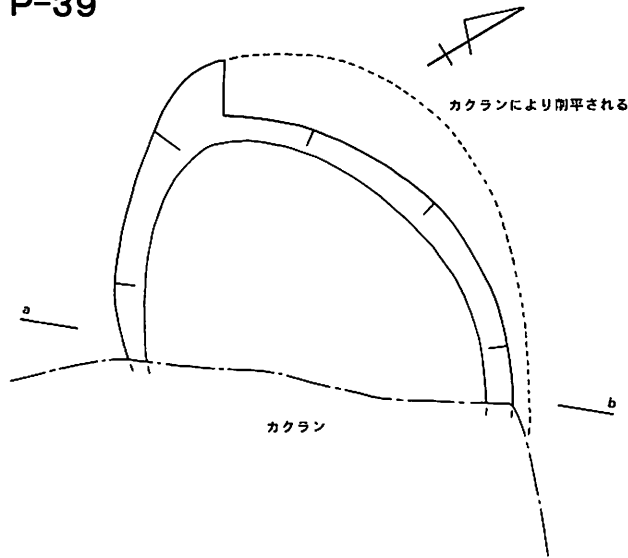
第21図 P-38 平面図と出土遺物

P-38

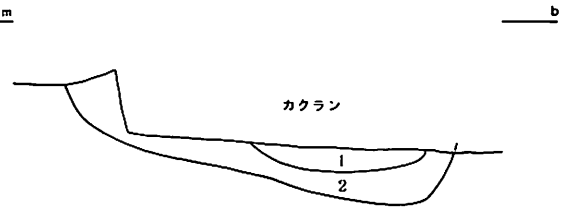


第22図 P-38 出土遺物

P-39

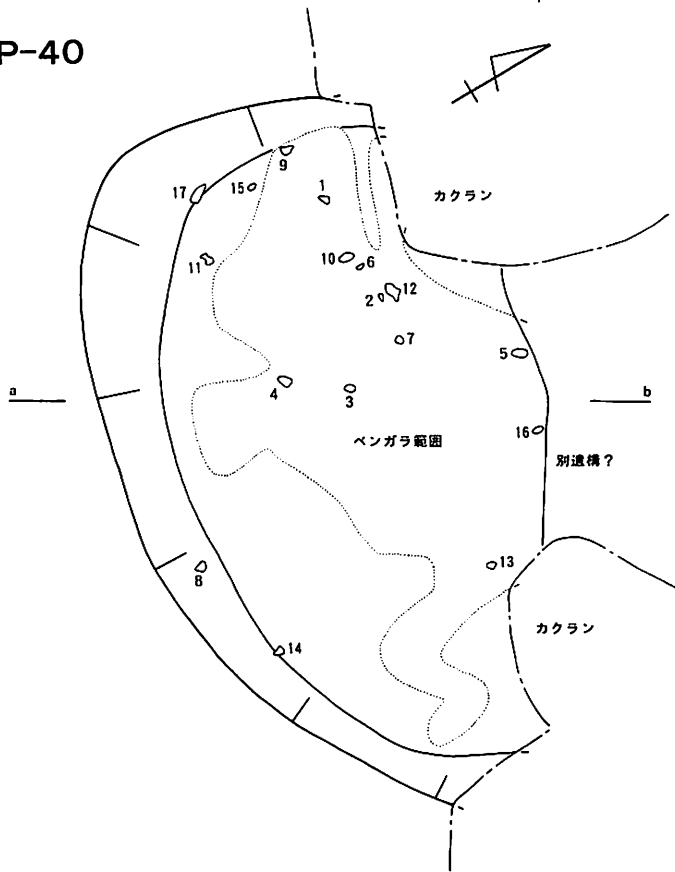


a 3.90m

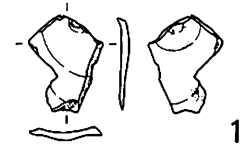


1. 暗褐色砂 2層より赤味が強く固く固くする
2. 褐色砂 IV層よりやや暗く下面は固く固くする

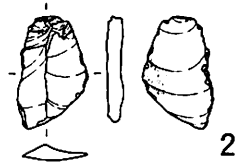
P-40



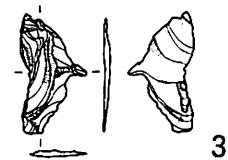
a 3.80m



1



2



3

1. 暗褐色砂 IV層よりやや暗く少量の炭化物が混じる

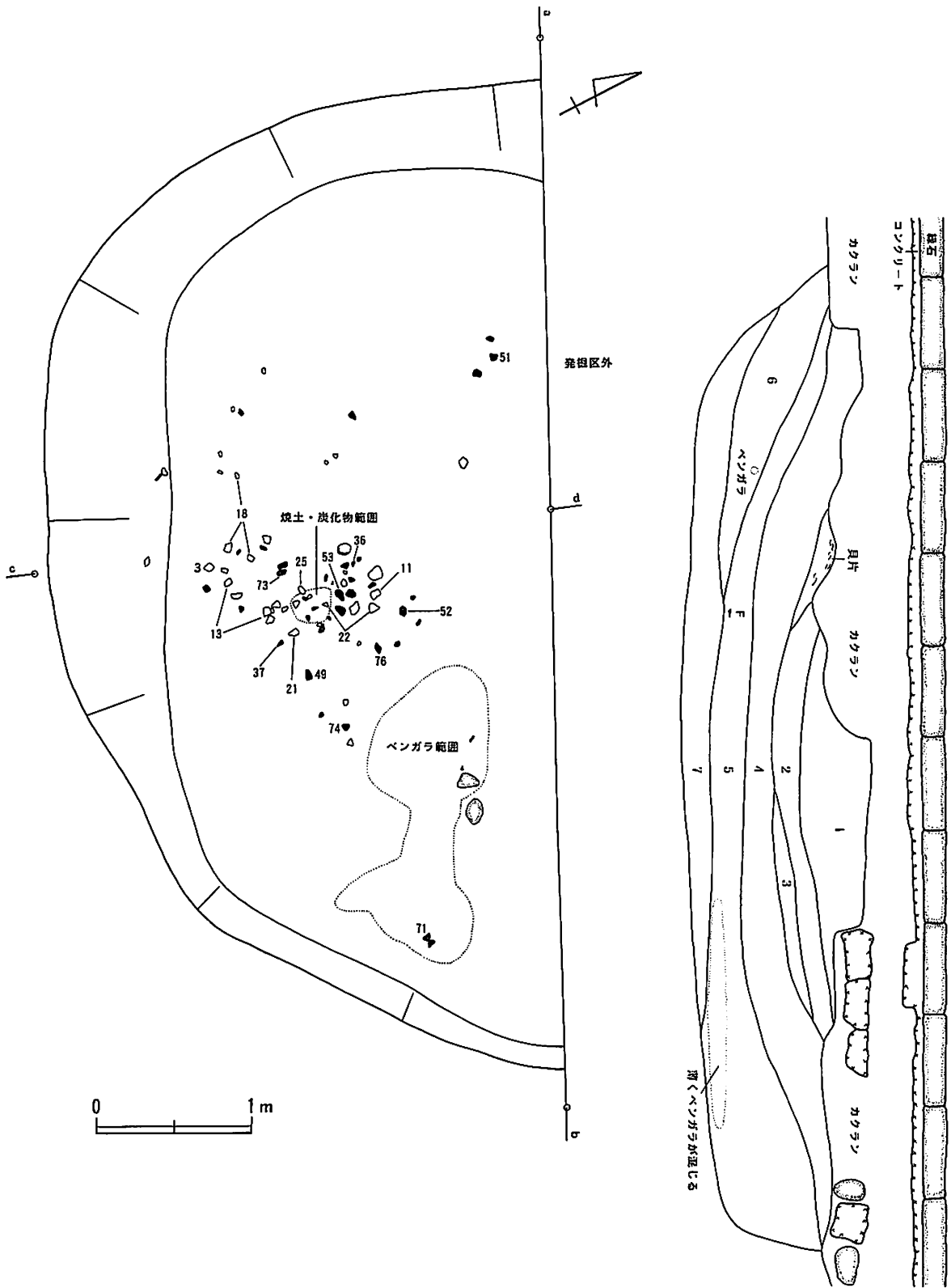
第23図 P-39・40 平面図と出土遺物

P-40



第24图 P-40 出土遺物

H-2

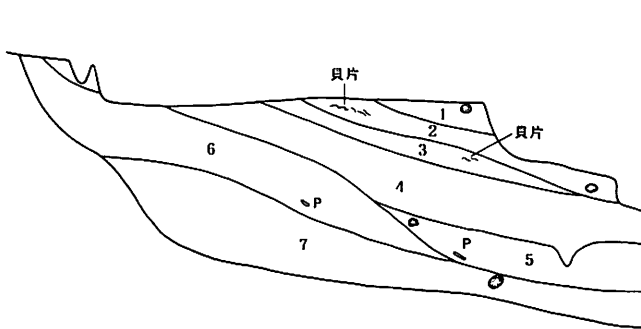


第25図 H-2 平面図

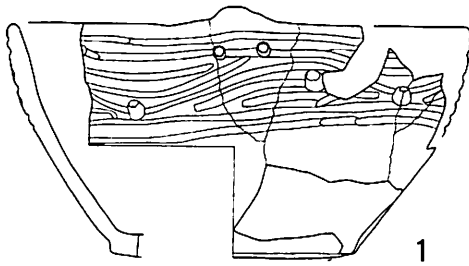
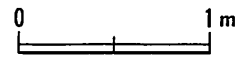
H-2

c 4.80m

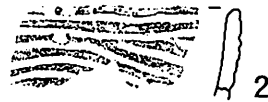
d



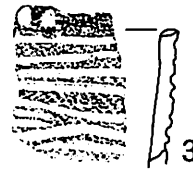
1. 黒色土 2層よりやや明るい
2. 黒色土 (貝片・炭化物混じり)
3. 黒色土と暗褐色砂の混じり (貝片・炭化物混じり)
4. 黒色土 (炭化物混じり) 一部に種子が少量混じる
5. 暗褐色砂 (炭化物混じり)
6. 暗褐色砂 (5層) とやや明るい黄褐色砂 (7層) の混じり
7. 黄褐色砂とやや青みがかる黄褐色砂 (IV層) の混じり
中心部ほど暗く固くする



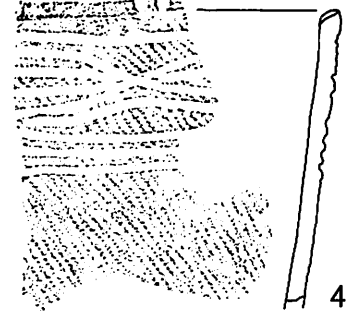
1



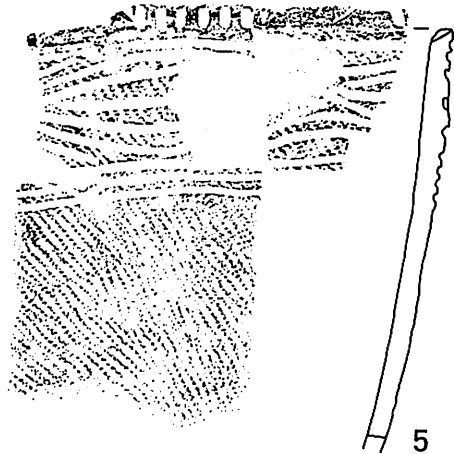
2



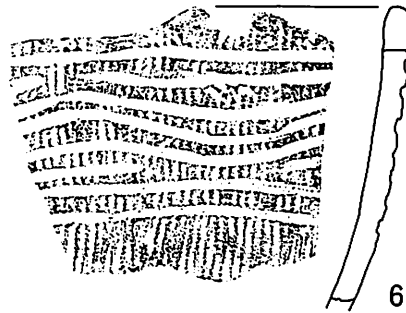
3



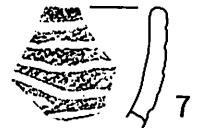
4



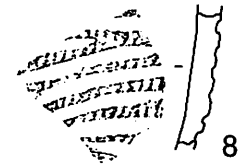
5



6



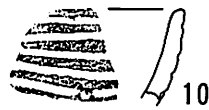
7



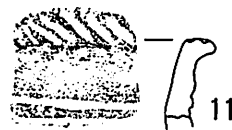
8



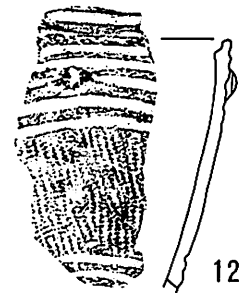
9



10



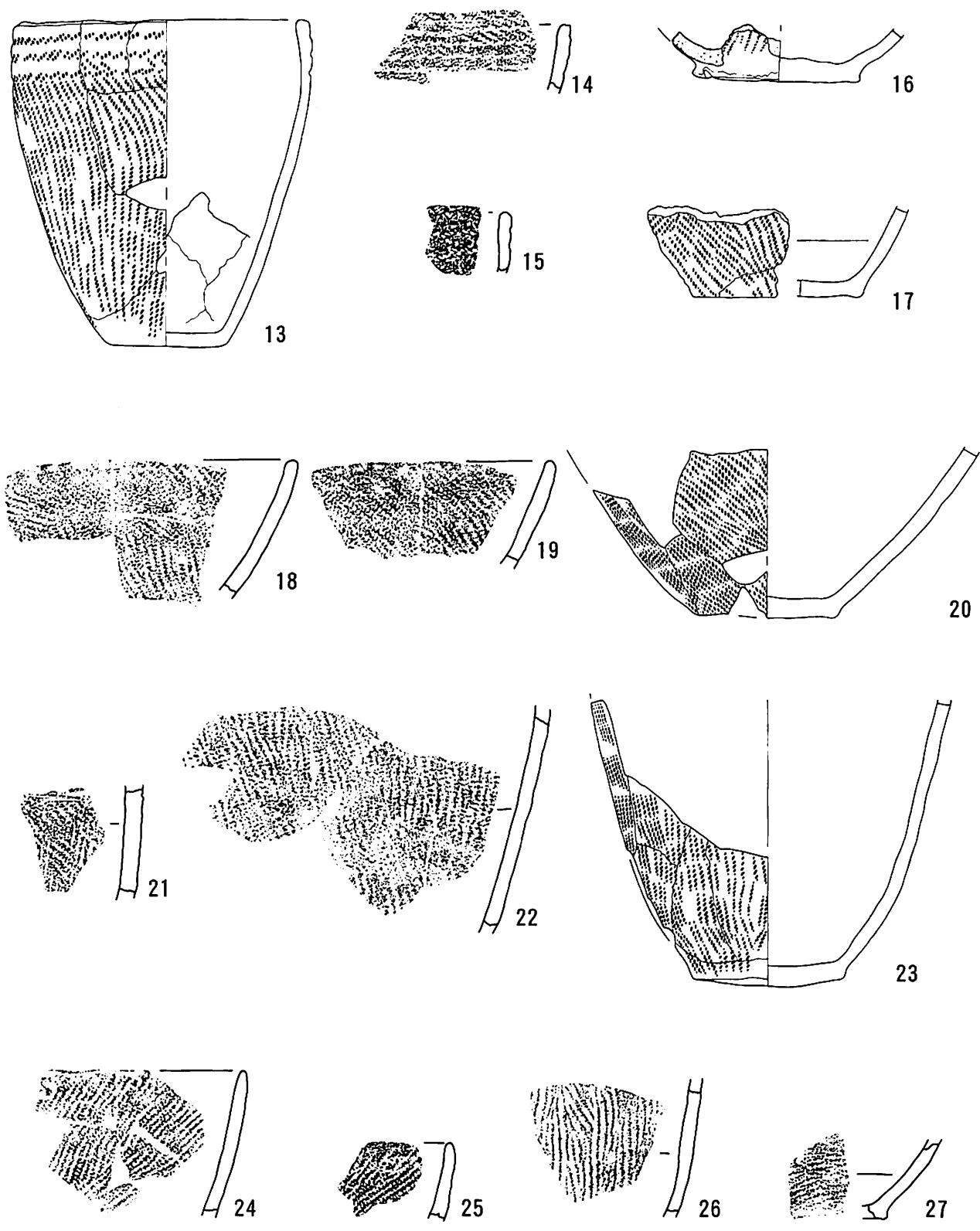
11



12

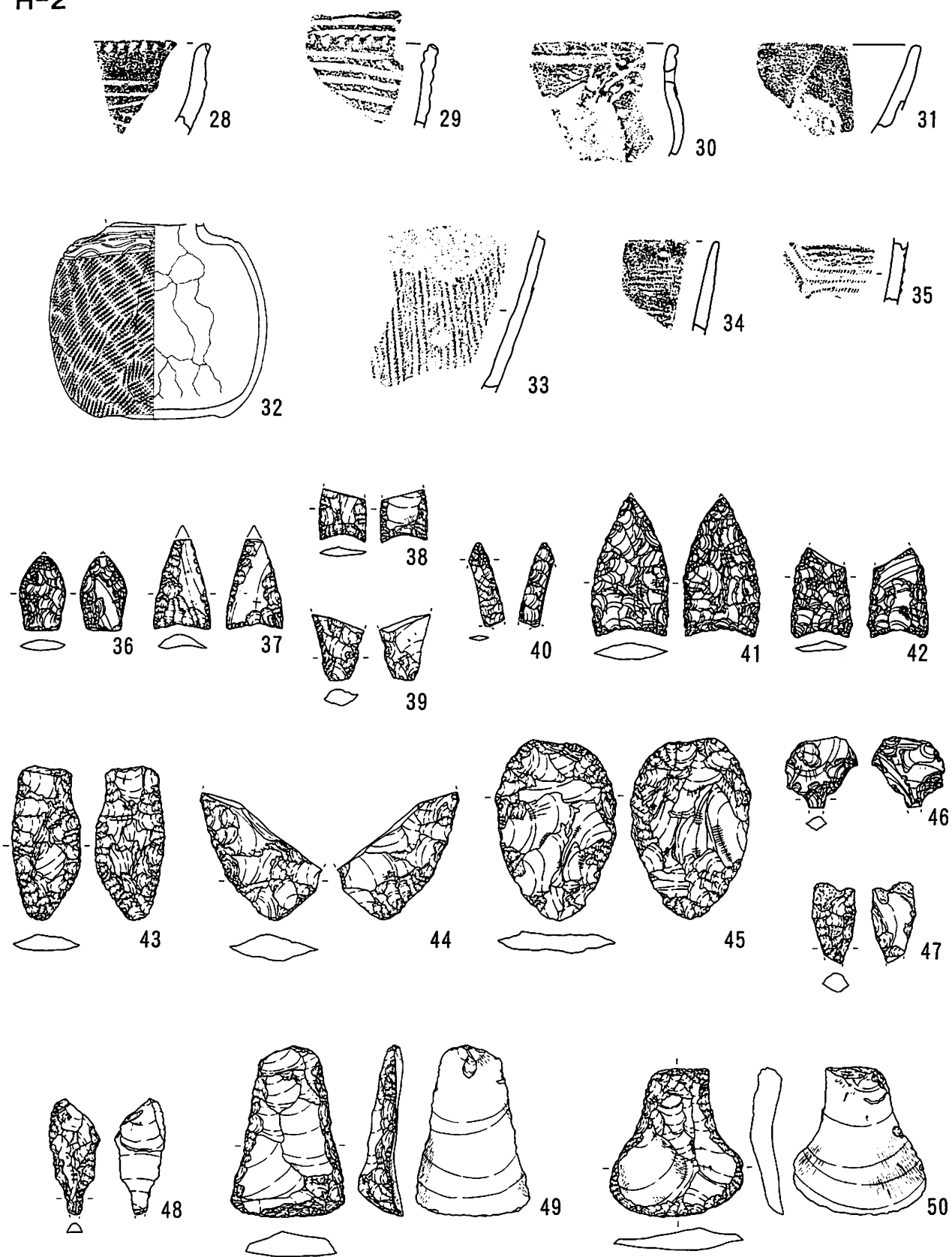
第26図 H-2 断面図と出土遺物

H-2



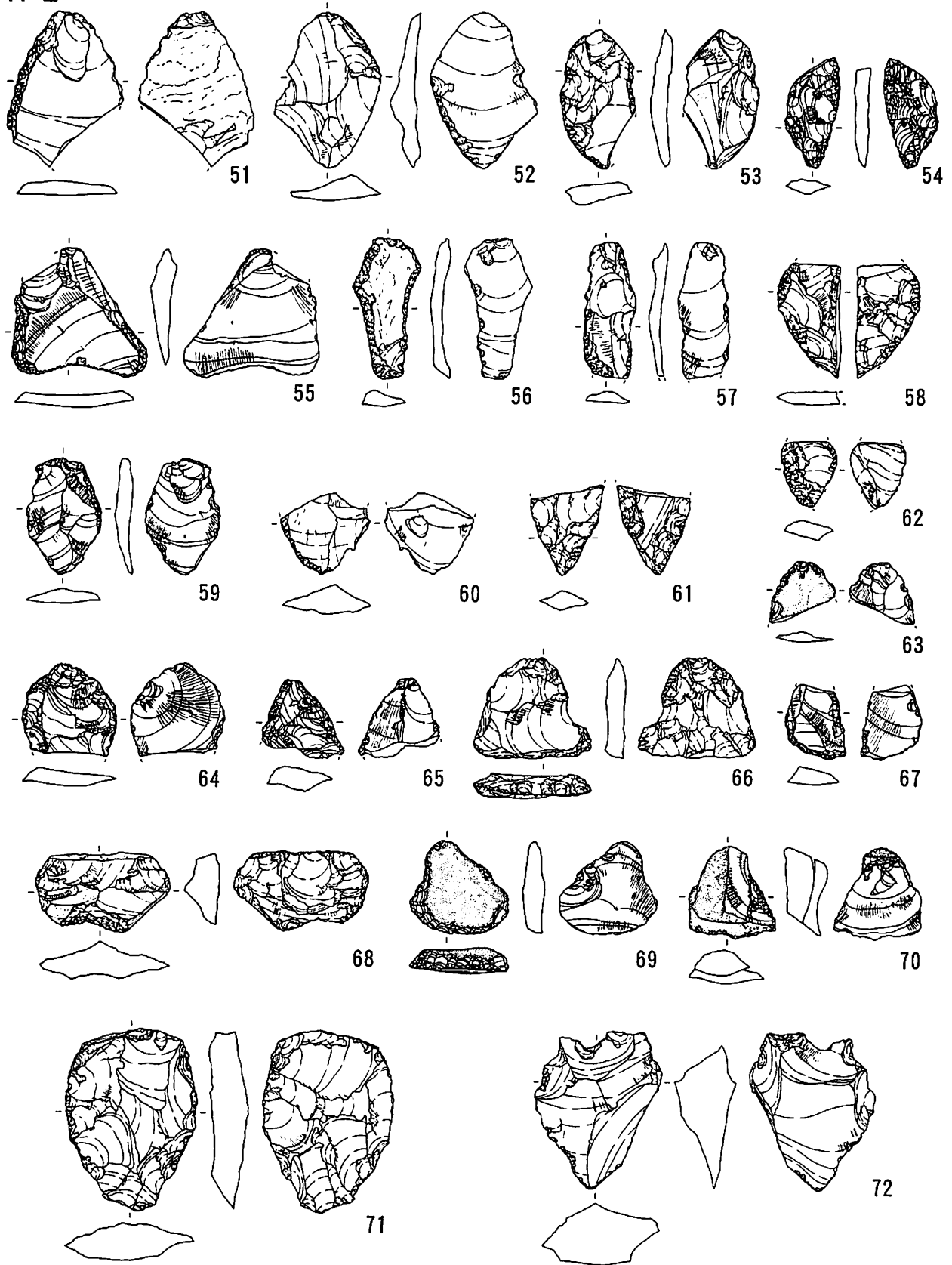
第27図 H-2 出土遺物 (1)

H-2



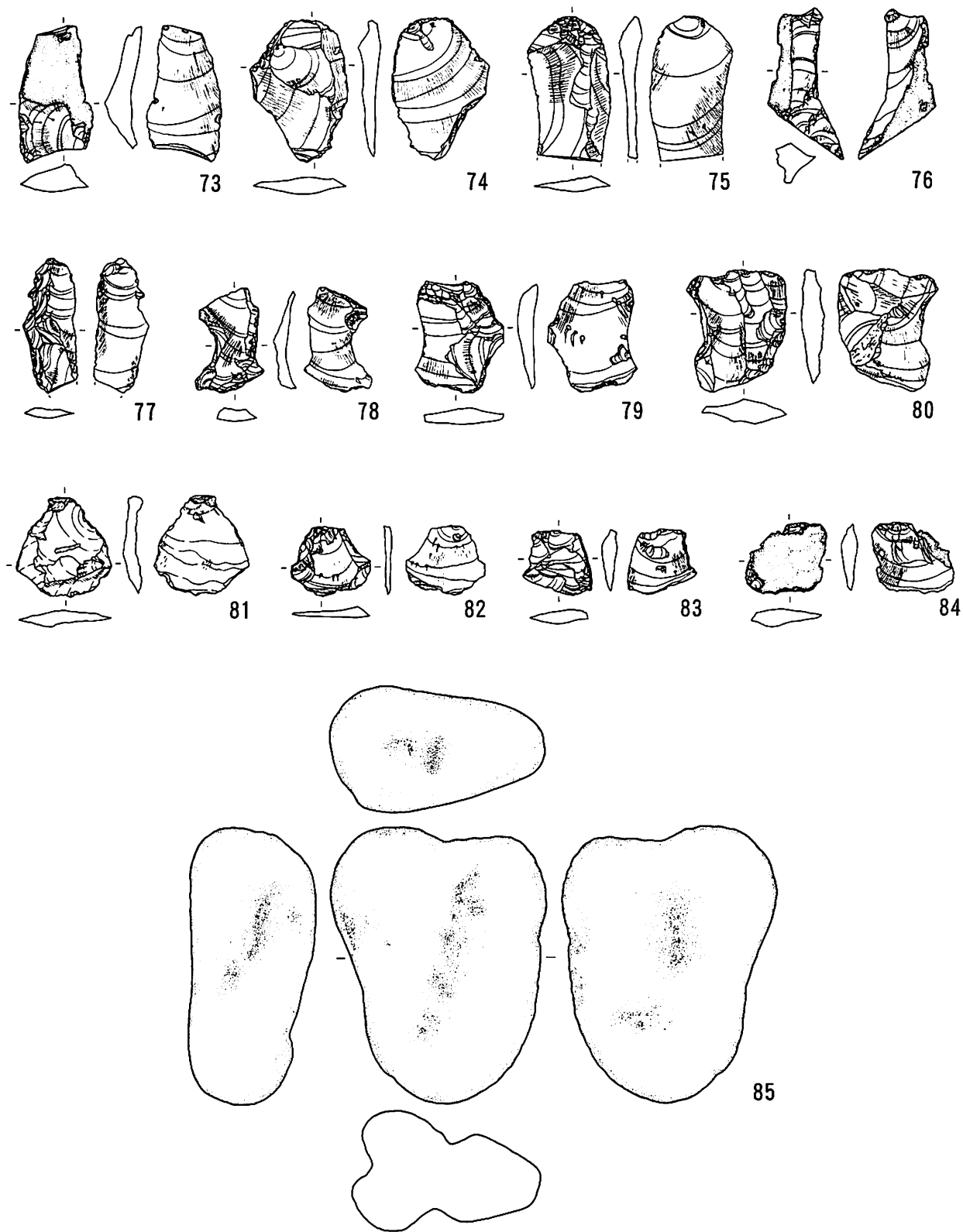
第28图 H-2 出土遺物 (2)

H-2



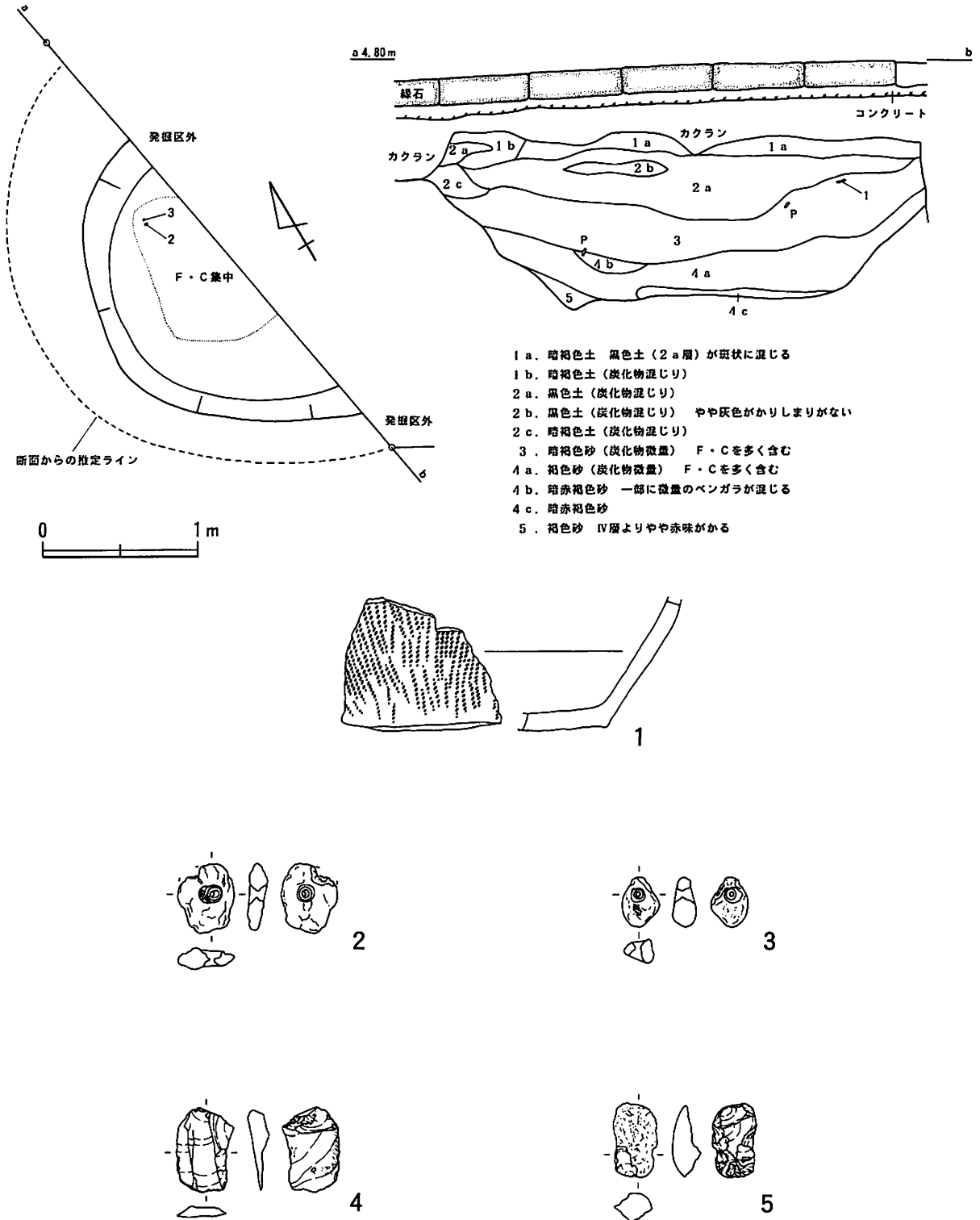
第29図 H-2 出土遺物 (3)

H-2



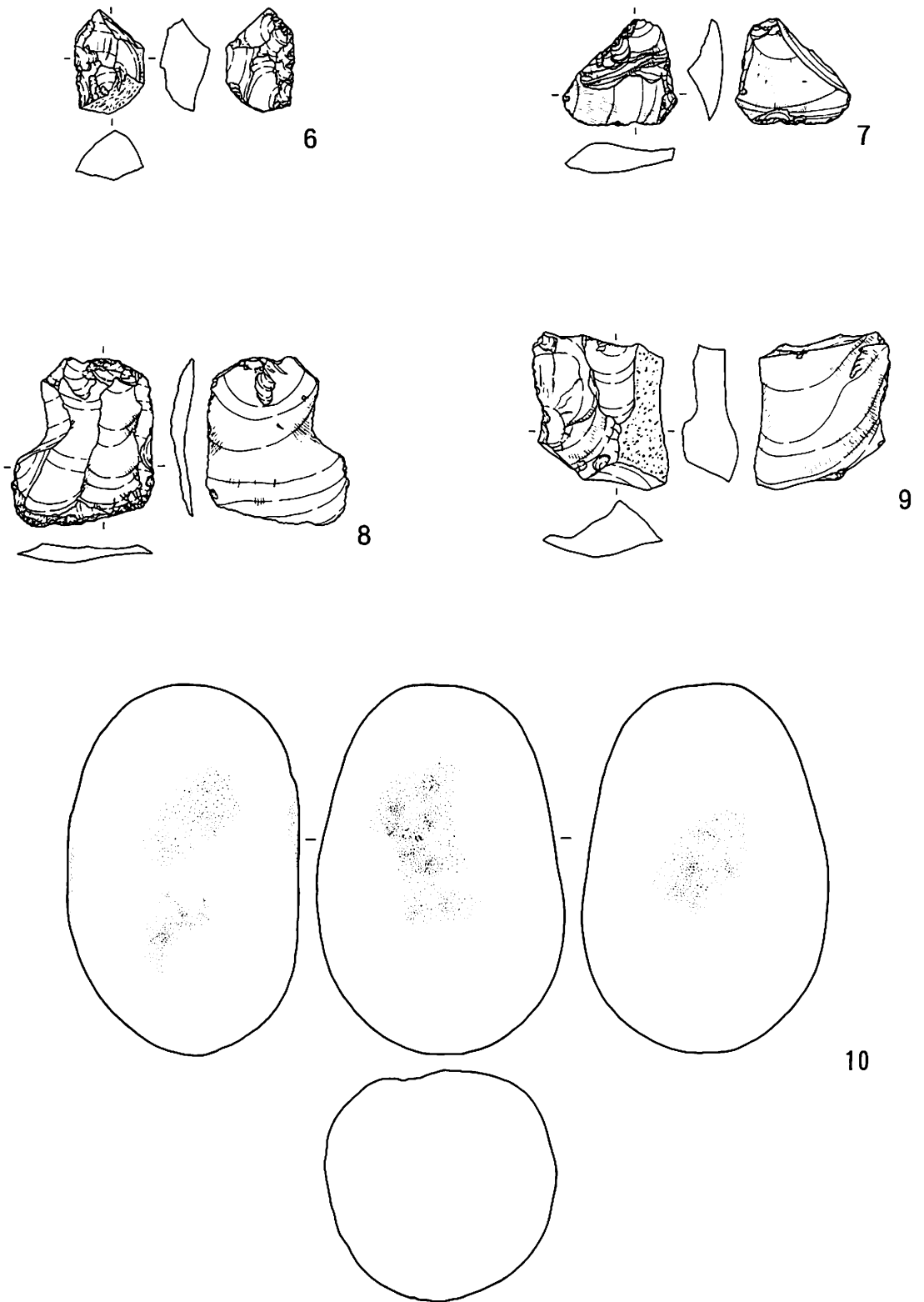
第30图 H-2 出土遺物 (4)

H-3

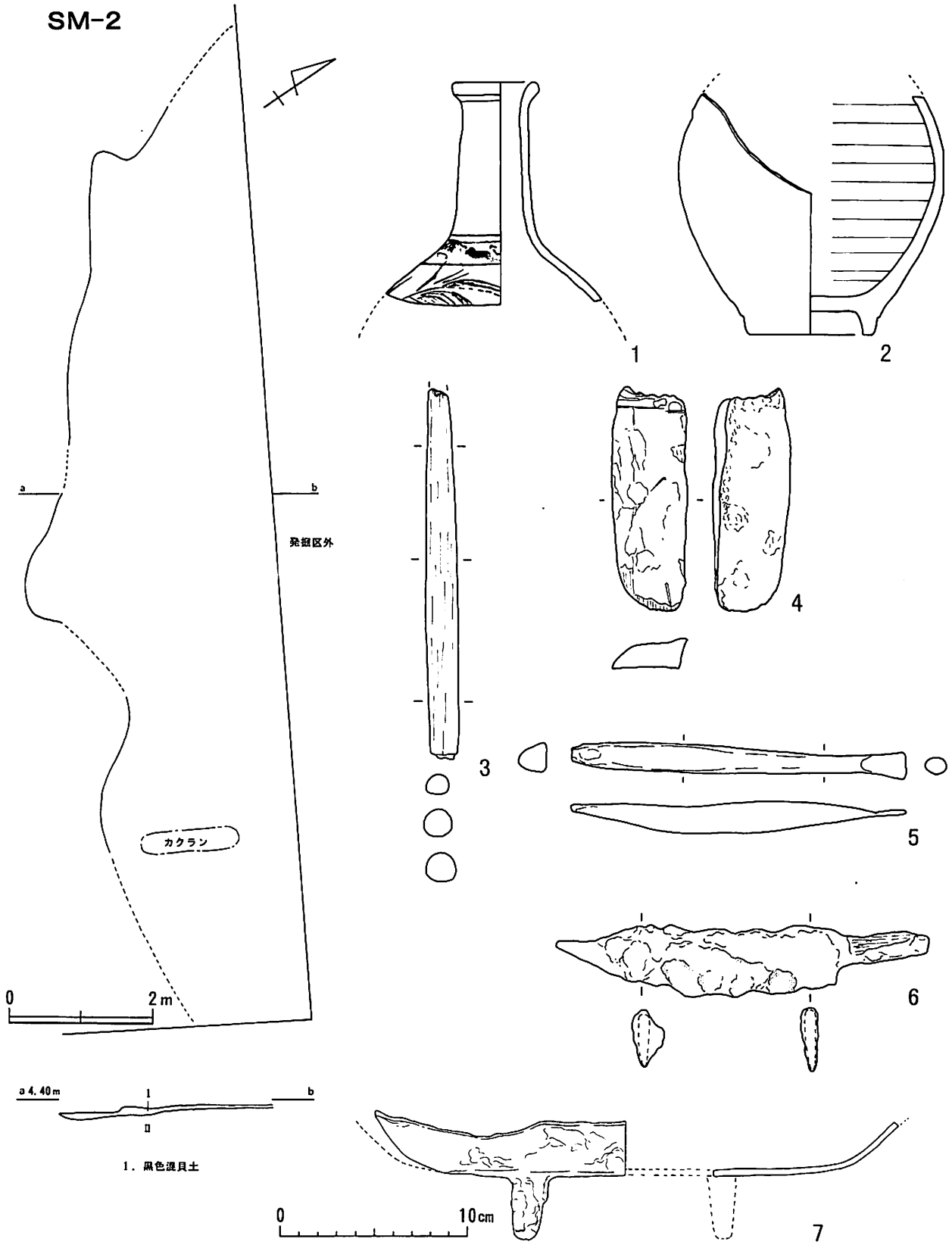


第31図 H-3 平面図と出土遺物

H-3

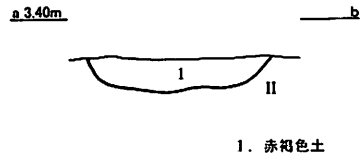
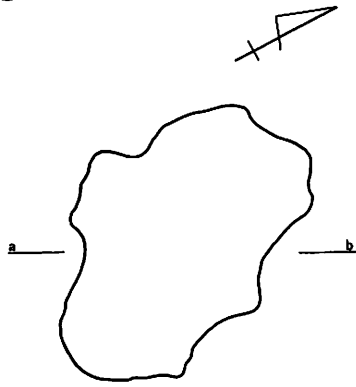


第32図 H-3 出土遺物

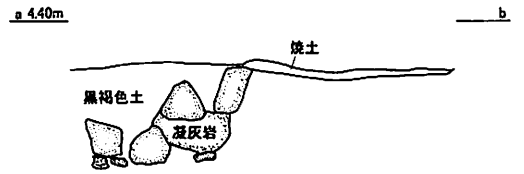
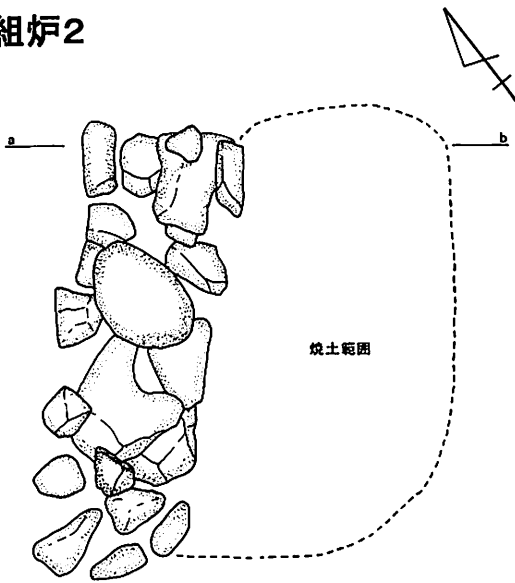


第33図 SM-2 平面図と出土遺物

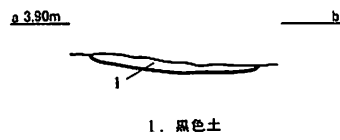
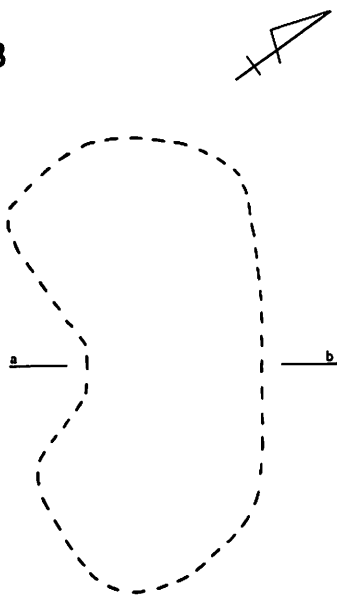
FP-3



石組炉2

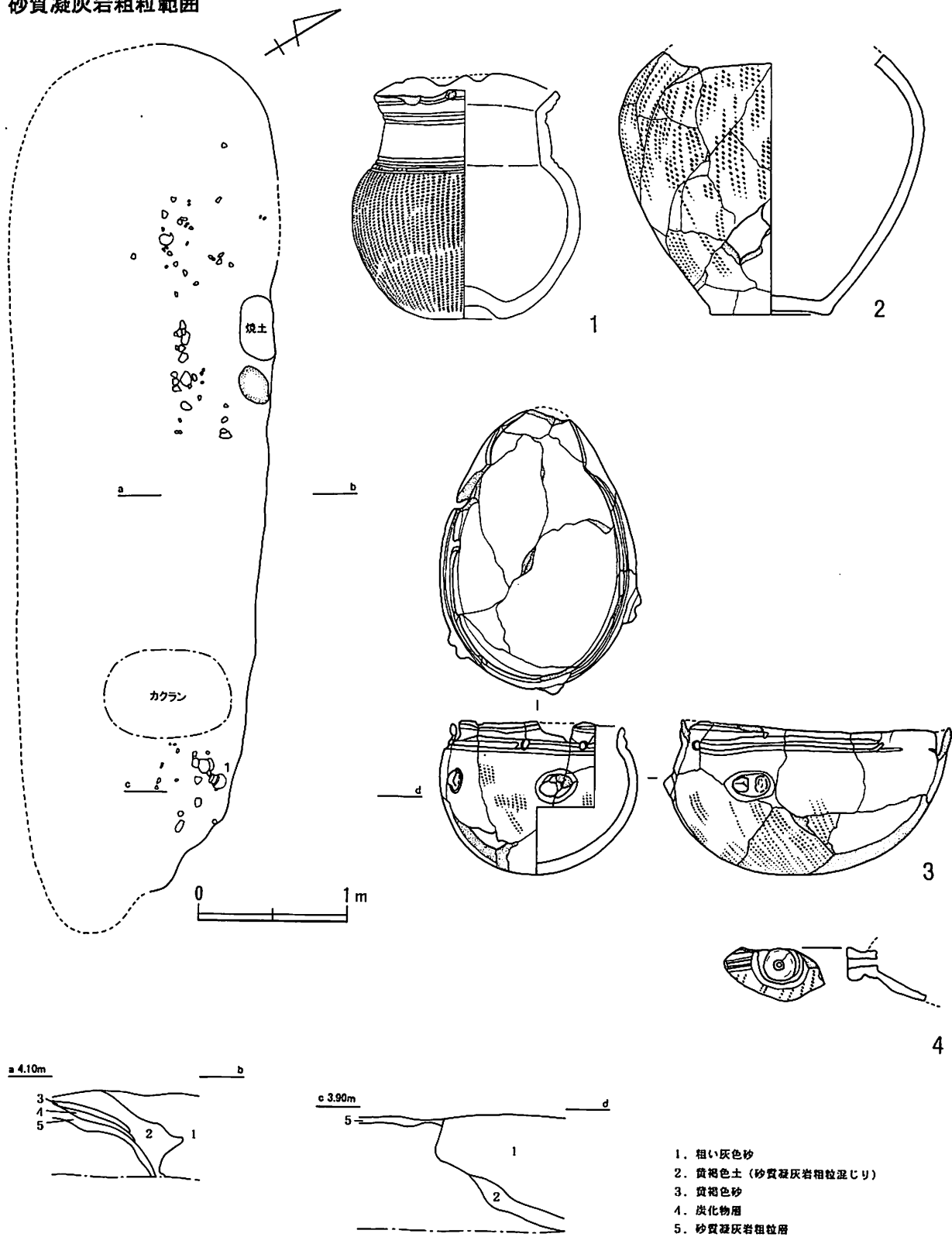


FC-3

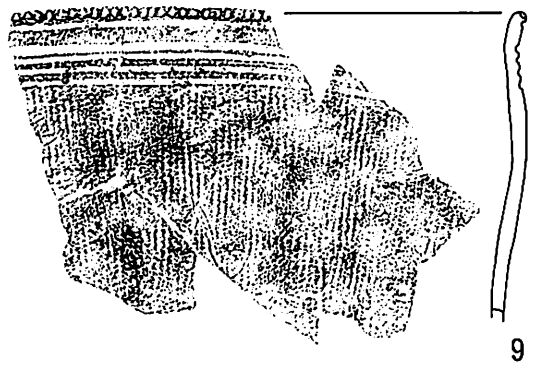
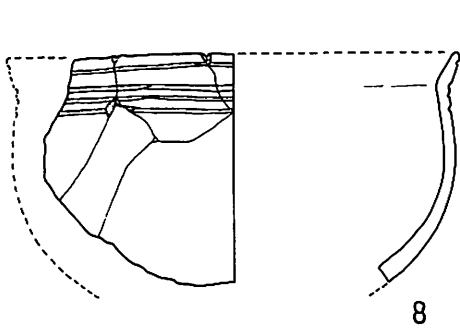
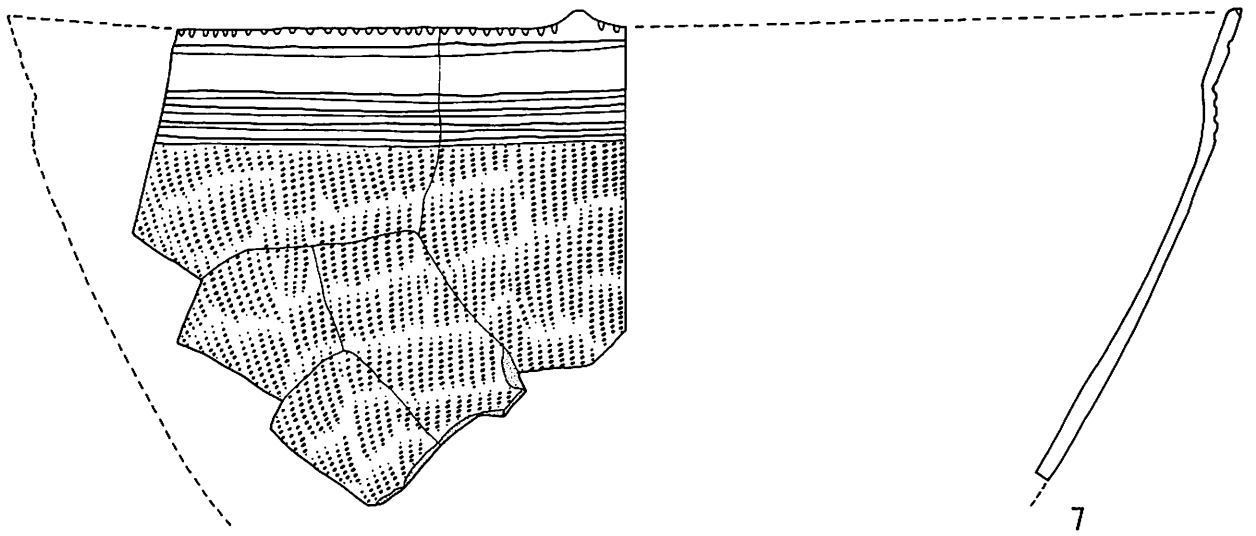
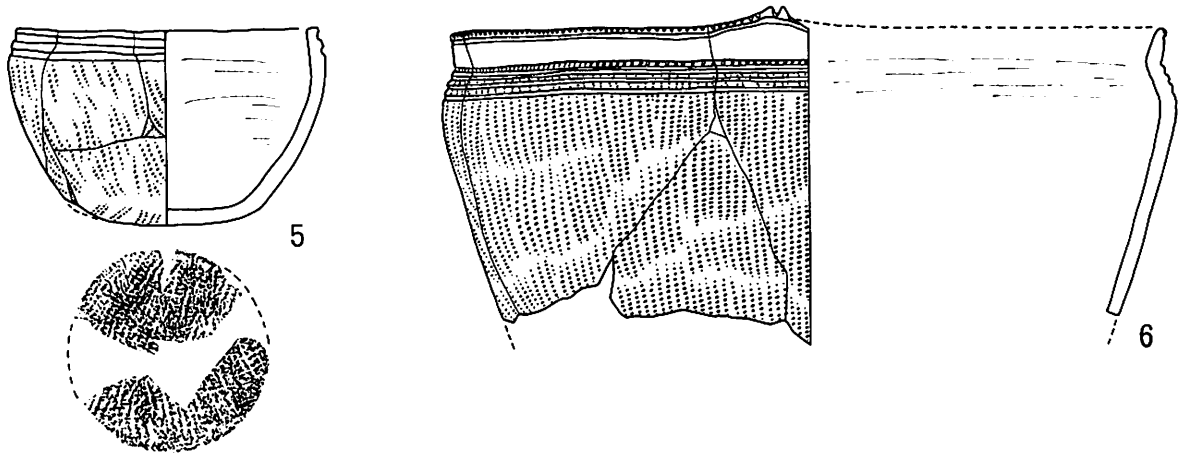


第34図 FP-3・石組炉2・FC-3平面図

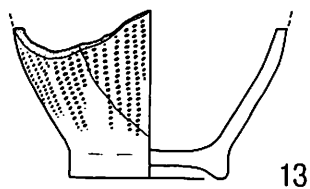
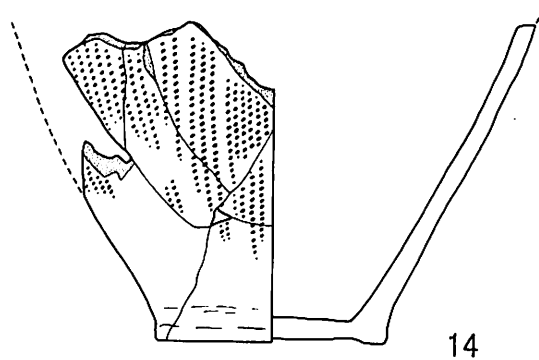
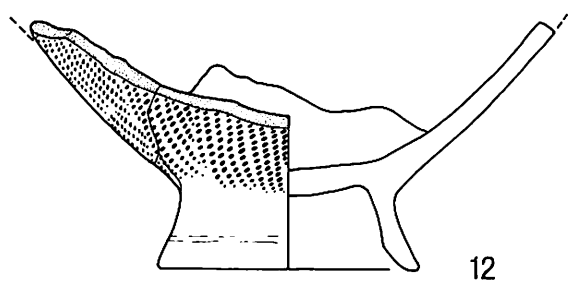
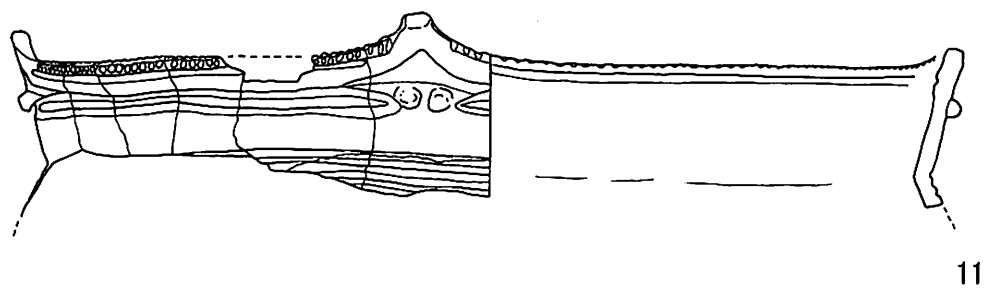
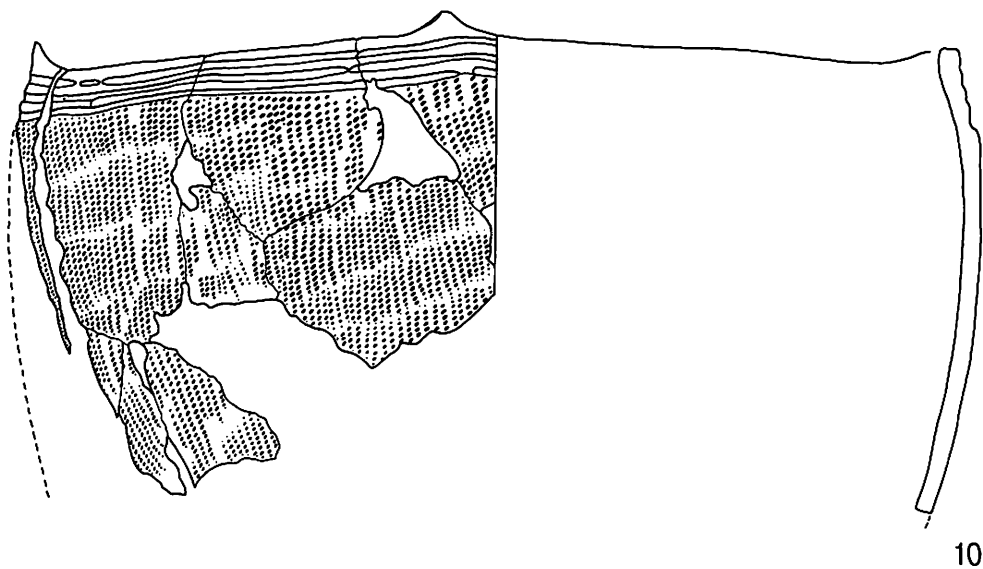
砂質凝灰岩粗粒範囲



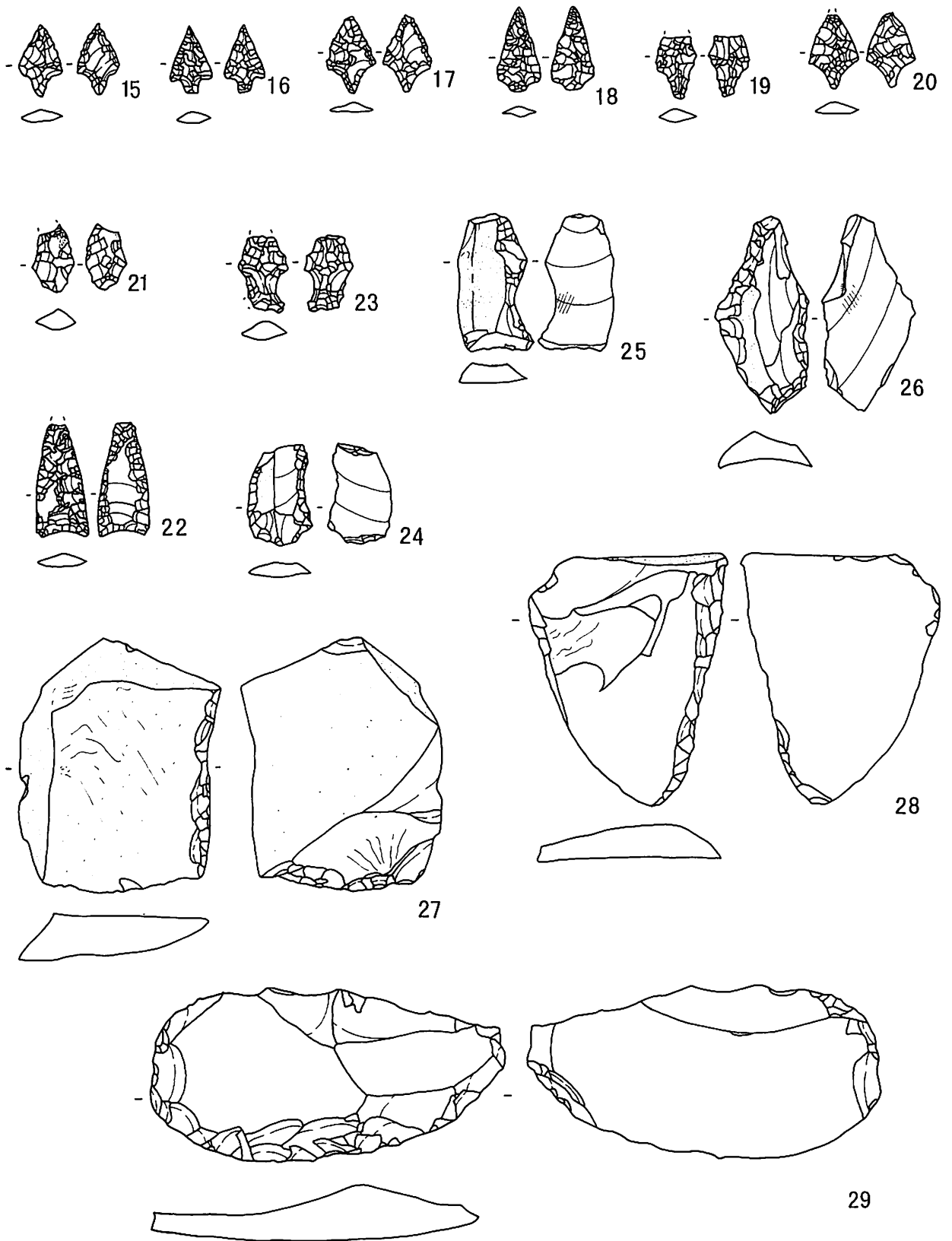
第35図 砂質凝灰岩粗粒範囲 平面図と出土遺物



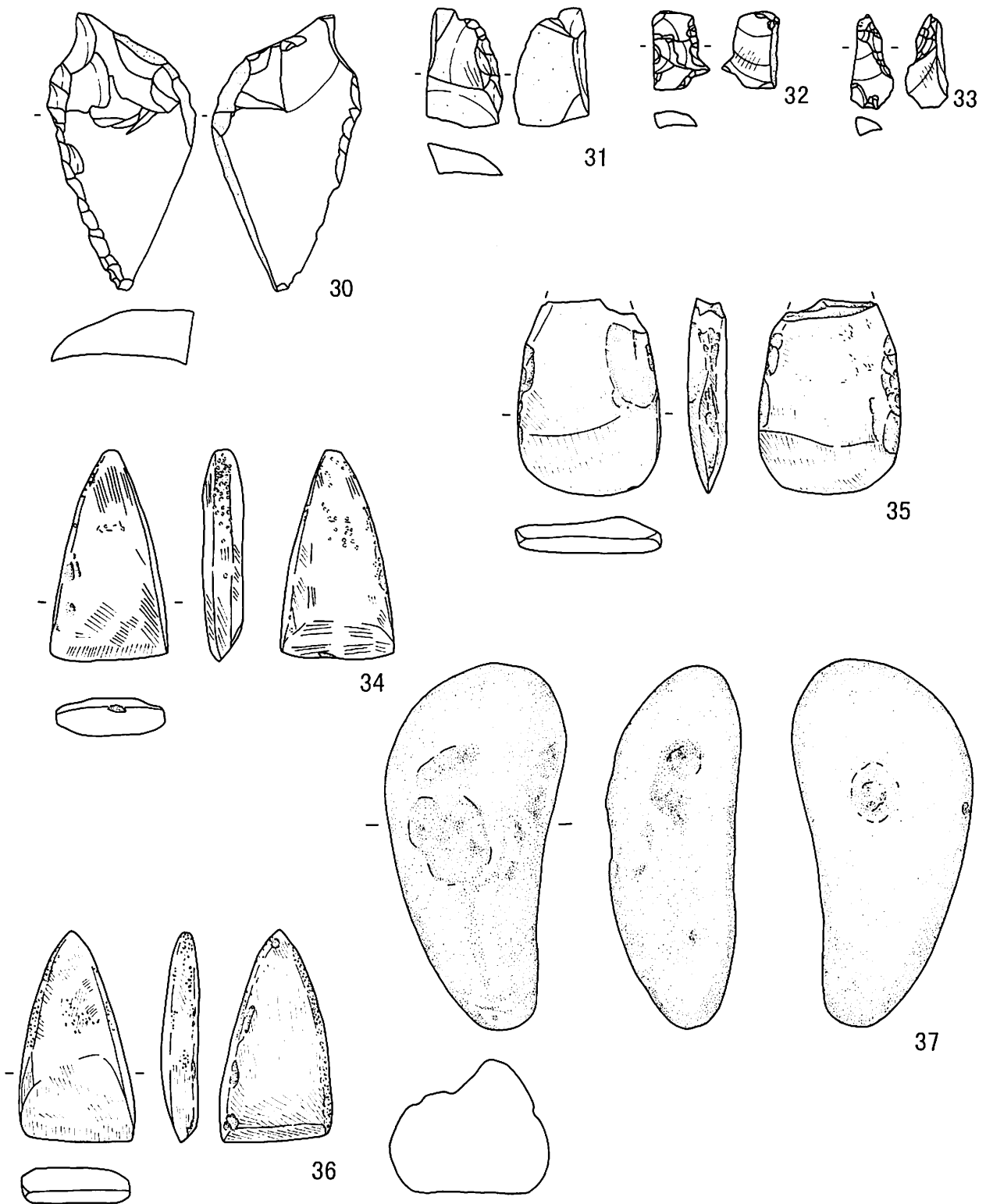
第36図 砂質凝灰岩粗粒範圍 出土遺物 (1)



第37図 砂質凝灰岩粗粒範囲 出土遺物 (2)

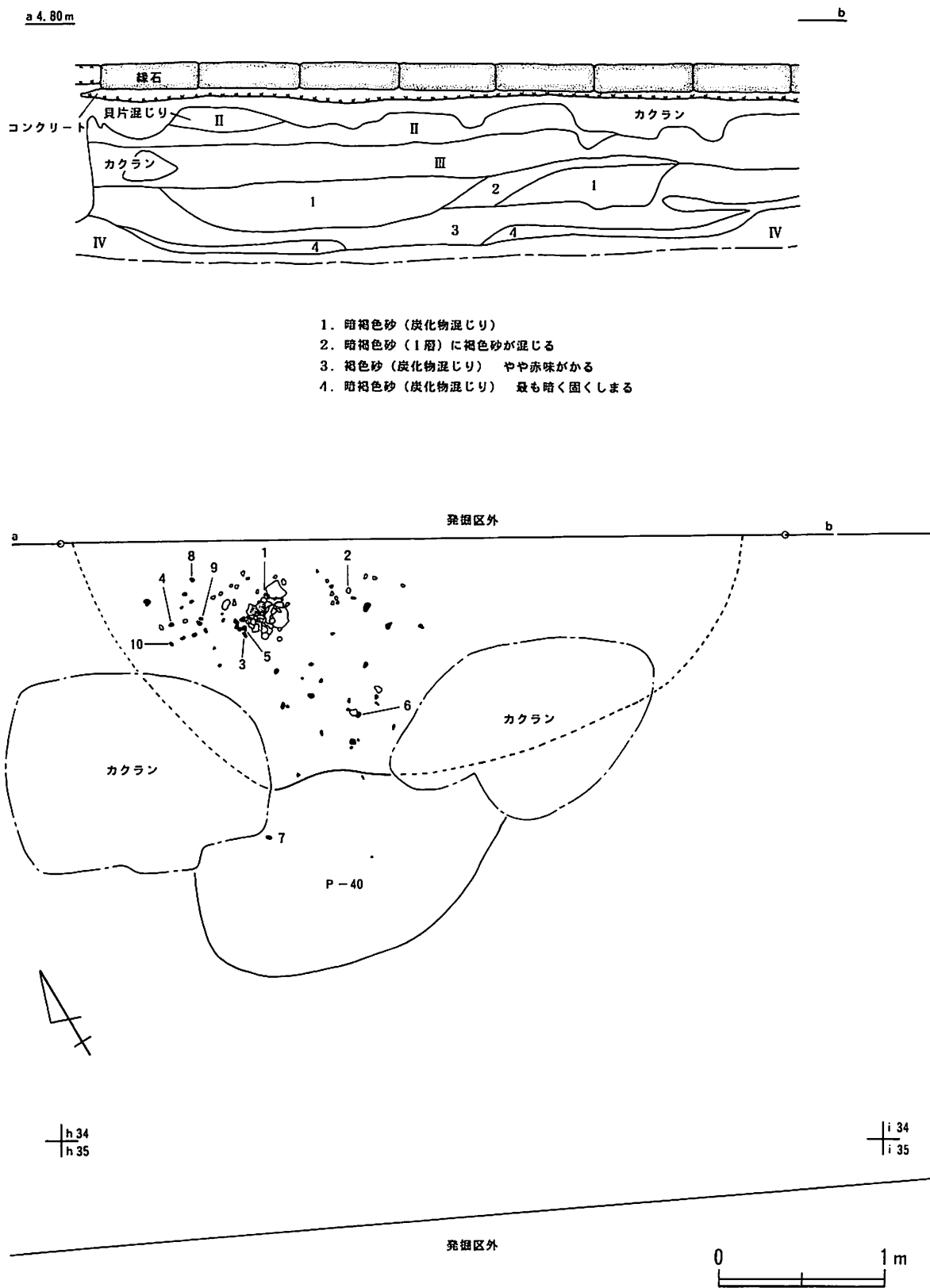


第38図 砂質凝灰岩粗粒範囲 出土遺物 (3)



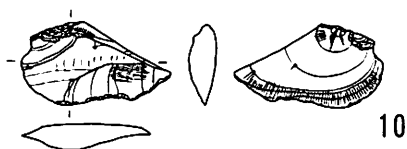
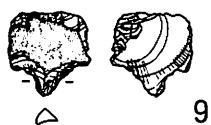
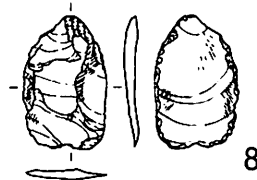
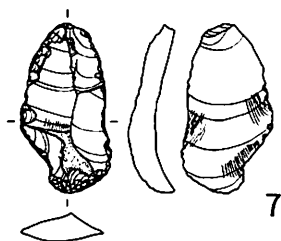
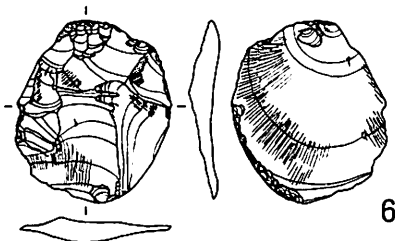
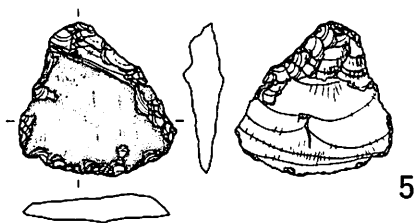
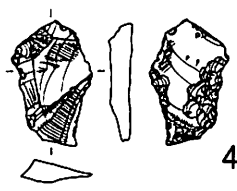
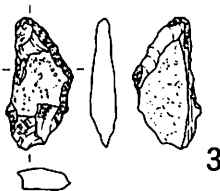
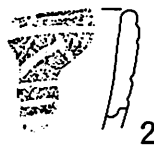
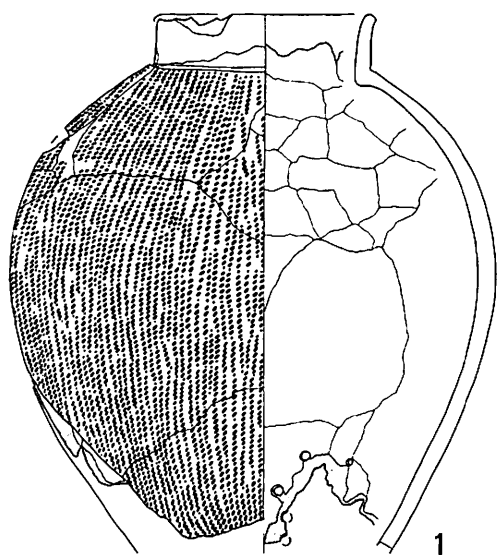
第39図 砂質凝灰岩粗粒範圍 出土遺物 (4)

遺物集中範囲



第40図 遺物集中範囲 平面図

遺物集中範圍



第41圖 遺物集中範圍 出土遺物

3. 遺構外出土の遺物

・土器

第Ⅰ群b類（第42図-2～5、第43図-1～10、第44図-1～11、第45図-1～5）

縄文時代晩期中葉に属し、口縁部の沈線や押し引き状の沈線、胴部の条痕文等が特徴的なものである。第42図-4は器面に赤色顔料が塗布されている。

第Ⅰ群c類（第42図-1、第43図-11、第44図-12・13、第45図-6～12）

縄文時代晩期後葉に属するもので、口縁部に波状沈線や胴部に工字文が施される。第42図-1は底部に二重の同心円と2本一組の放射状の沈線が、第44図-13は綾線文が施されている。

第Ⅱ群a類（第44図-14、第45図-12）

続縄文時代前葉に属し、琴似式に類するものである。

第Ⅱ群c類（第45図-14）

続縄文時代後半に属し、後北式に類するものである。

第Ⅲ群a類（第42図-6、第44図-15）

擦文時代に属するもので、口縁部の破片であり横位の沈線の上に格子状の沈線が施文される。

・石器

石鏃（第46図-1・2、第47図-1～5）

第46図-2は基部を欠損し、背面に原石面を残す。有茎凹基のタイプである。第47図-1は有茎で基部が突出、2・3は無茎で基部に抉入のあるもの、5は基部が丸みを帯びるタイプのものである。

石錐（第47図-8）

黒曜石製で、先端部を欠損する。

削搔器（第46図-3～8・10、第47図-11～18、第48図-1～4）

いずれも剥片の縁辺を加工し刃部を作出したもので、特に第46図-6・8の刃部は厚い。第47図-11はいわゆる篋状石器であり、形状は楕円形で側縁は片面を主体に調整を施した片刃のものである。

石製ナイフ（第46図-9・12、第47図-6・7・9・10）

第46図-9は石槍の可能性も考えられるもので両面調整を施している。第46図-12と第47図-6・7は両面調整を施しているが、基部を欠損している。第47図-9・10はつまみ付きのいわゆる石匙であり、10は横型で片面を主体に調整し、やや斜めに刃部を作出しているものである。

R・F（第48図-5～19）

いずれもやや薄手の剥片の縁辺の一部を加工し刃部を作出しており、片面を主体に調整を施すものが大半を占める。

石斧（第46図-11・13・14）

第46図-13は先端部が加工されており何らかのものに転用された可能性がある。11は

片刃のものである。

凹石（第49図-1・2）

第49図-2はくぼみの他に、各面に何条かの擦痕が見られ、矢柄研磨器としての利用の可能性が考えられる。

・土製品

円形土器片（第42図-7）

約1/2を欠損するが、焼成後に穿孔がなされた円形土器片である。

泥面子（第50図-20）

鬼？の顔を意匠とする泥面子である。

・骨角器

中柄（第50図-1～5）

いずれも鯨骨製と思われる、第50図-4は全体に摩滅しており、5は両端を欠損し、原形が不明であるため、中柄の可能性のある程度に留めておきたい。

不明骨角器（第50図-6～9）

第50図-6は鯨骨製で未成品と思われる。7は針入れと思われるが、外面が摩滅しており文様が不明瞭である。8は鹿角製で編針等の可能性があるが先端部を欠損しており、判然としない。9は鹿角製で楕円形を呈し、丸みを帯びる面に同心円状に線刻を施した後、放射状の線刻を施したもので用途は不明である。

・ガラス玉（第50図-10～15）

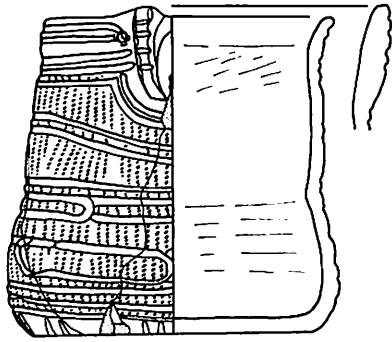
いずれも同じ地点から出土し、ほぼ同じ大きさのもので、ややくすんだ赤色をした丸玉である。元々は一連のものであったと思われる。

・煙管（第50図-16～18）

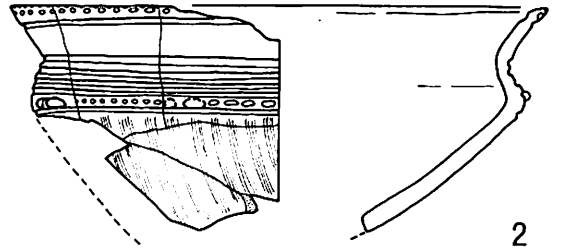
第50図-16は銅製の雁首で、古泉 弘氏編年の第6段階に相当する。17は銅製の吸口で、ラウ側の文様が特徴的である。18は陶製の吸口で、ラウ側を欠損している。

・櫛（第50図-19）

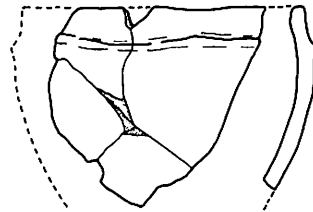
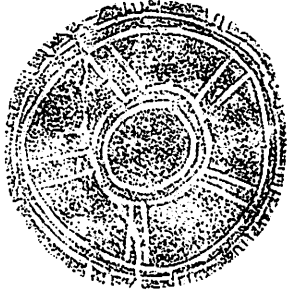
銅製のもので、歯間が細かく密で、峰の部分が狭いことから、いわゆる梳櫛と思われる。



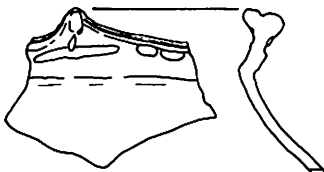
1



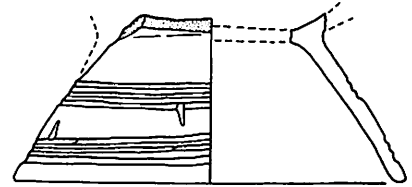
2



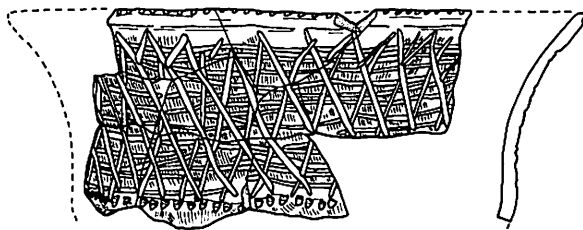
3



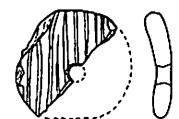
4



5

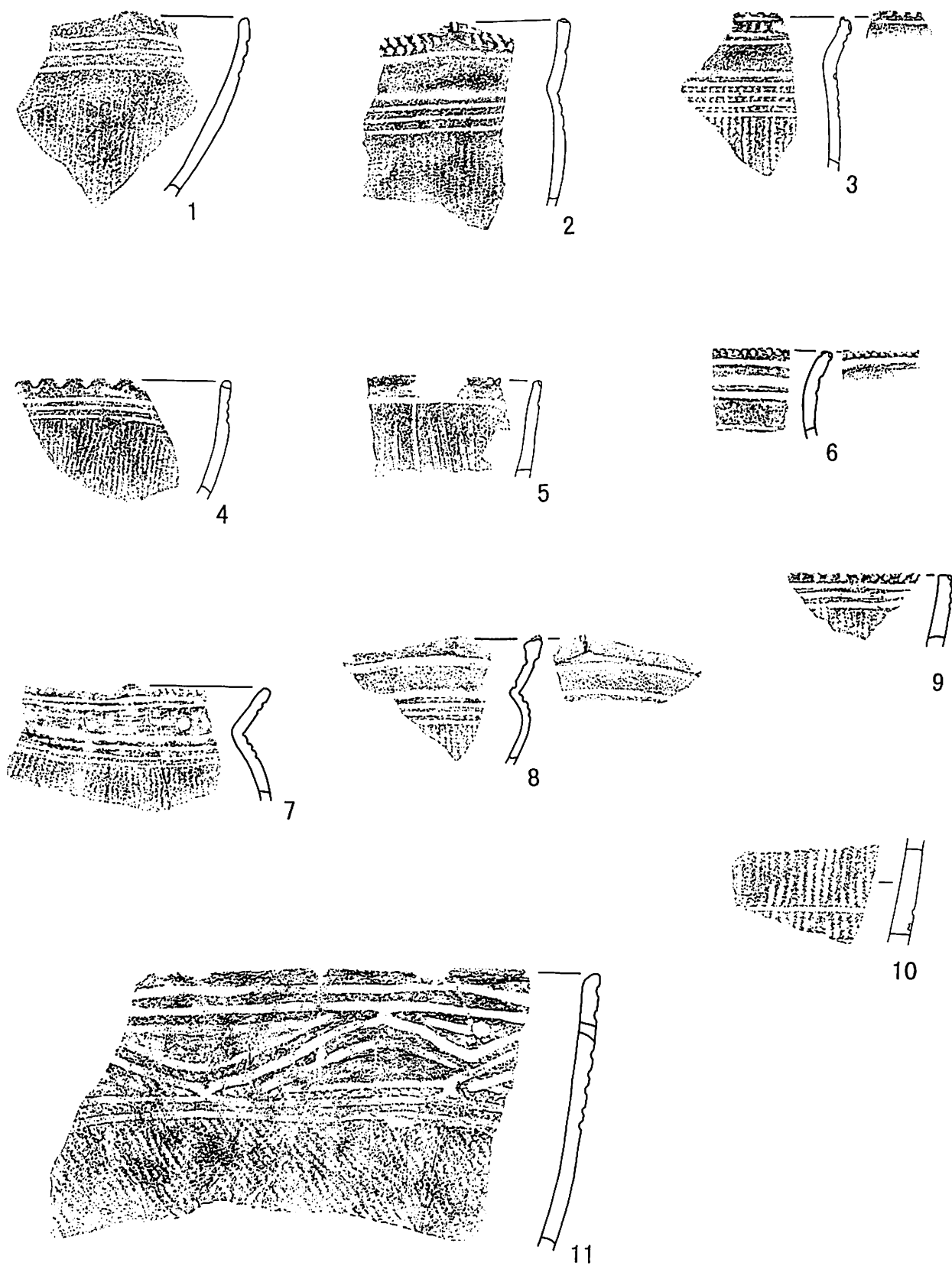


6

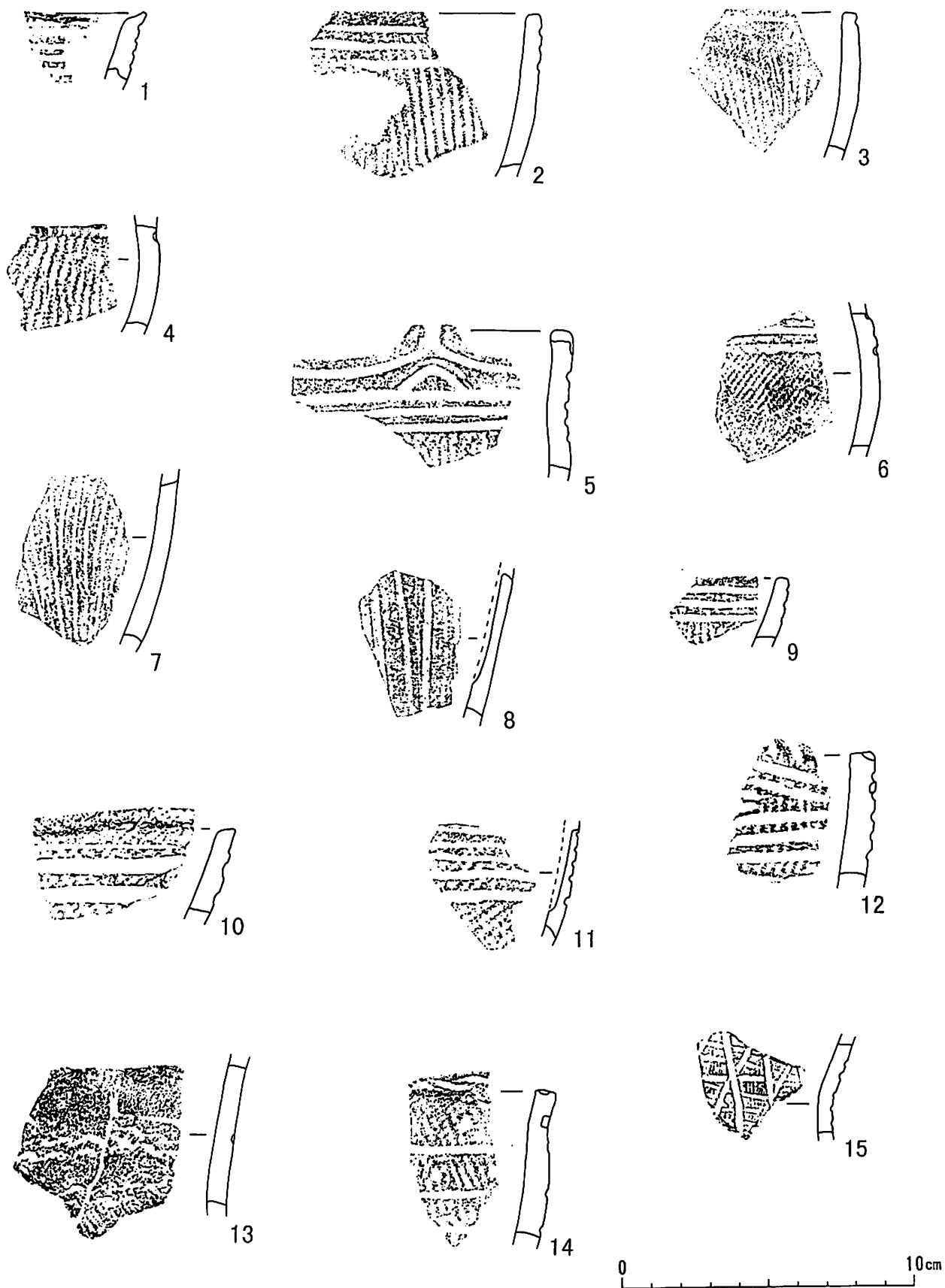


7

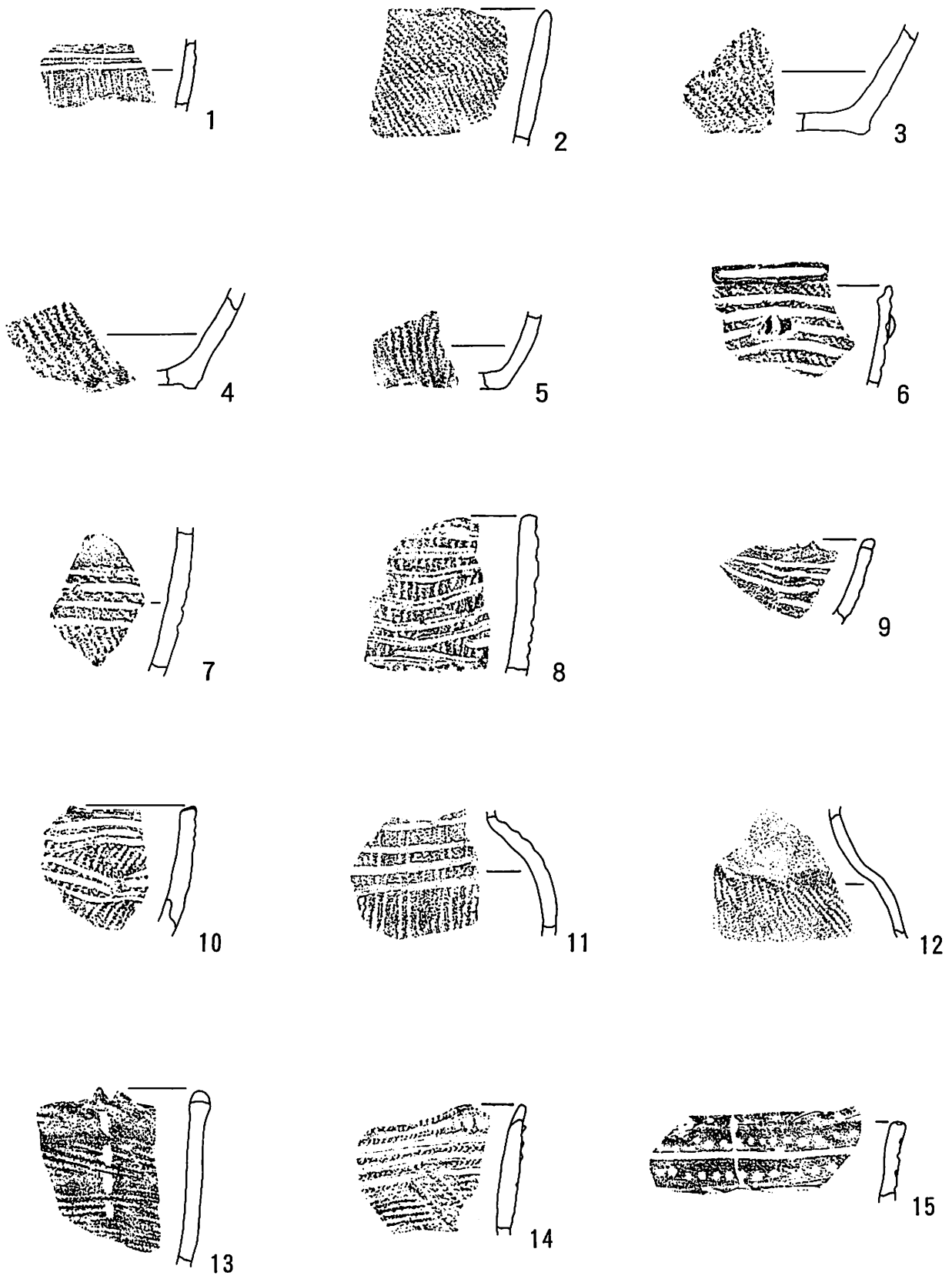
第42図 2000年度 遺構外出土の土器 (1)



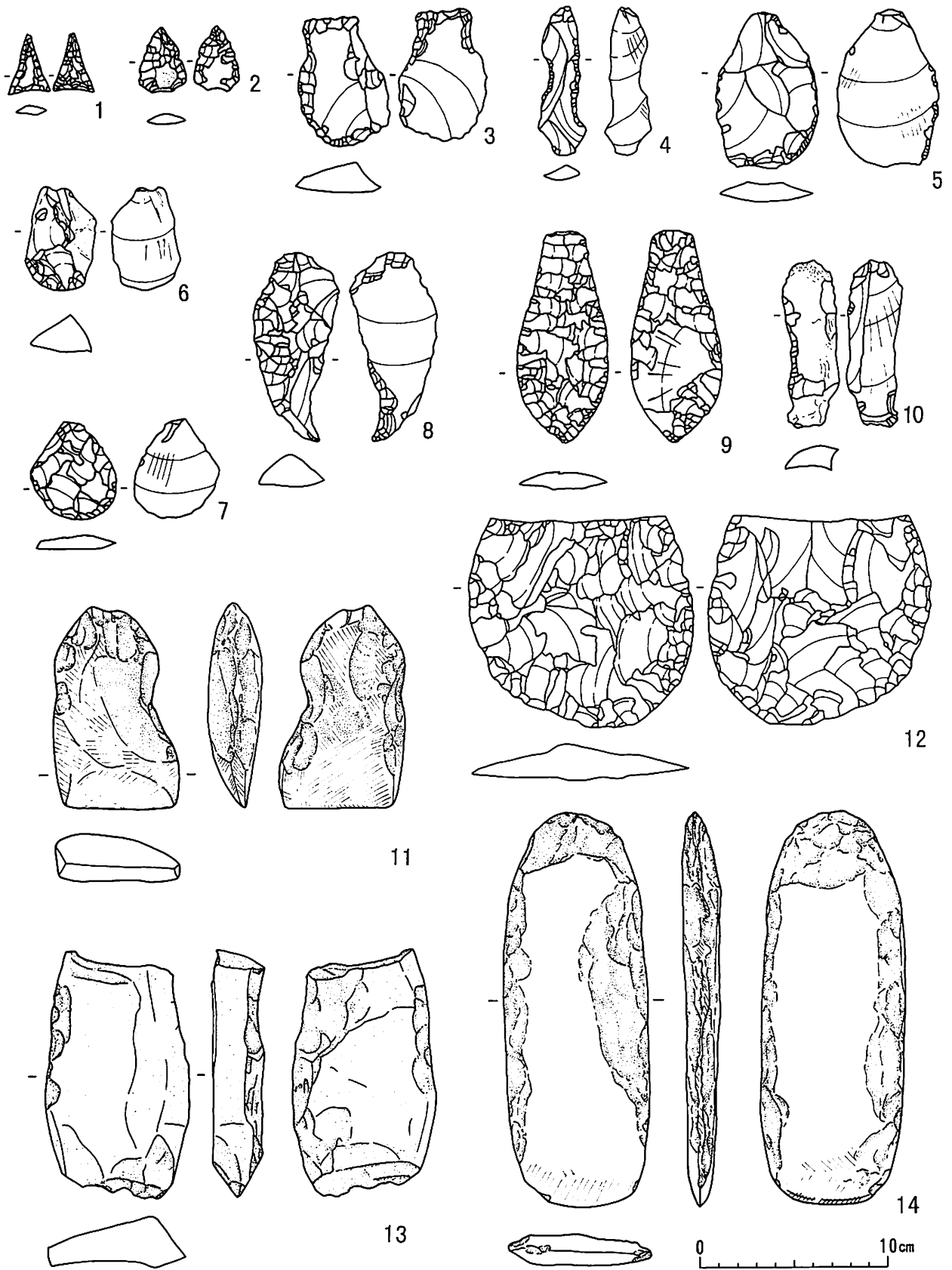
第43図 2000年度 遺構外出土の土器 (2)



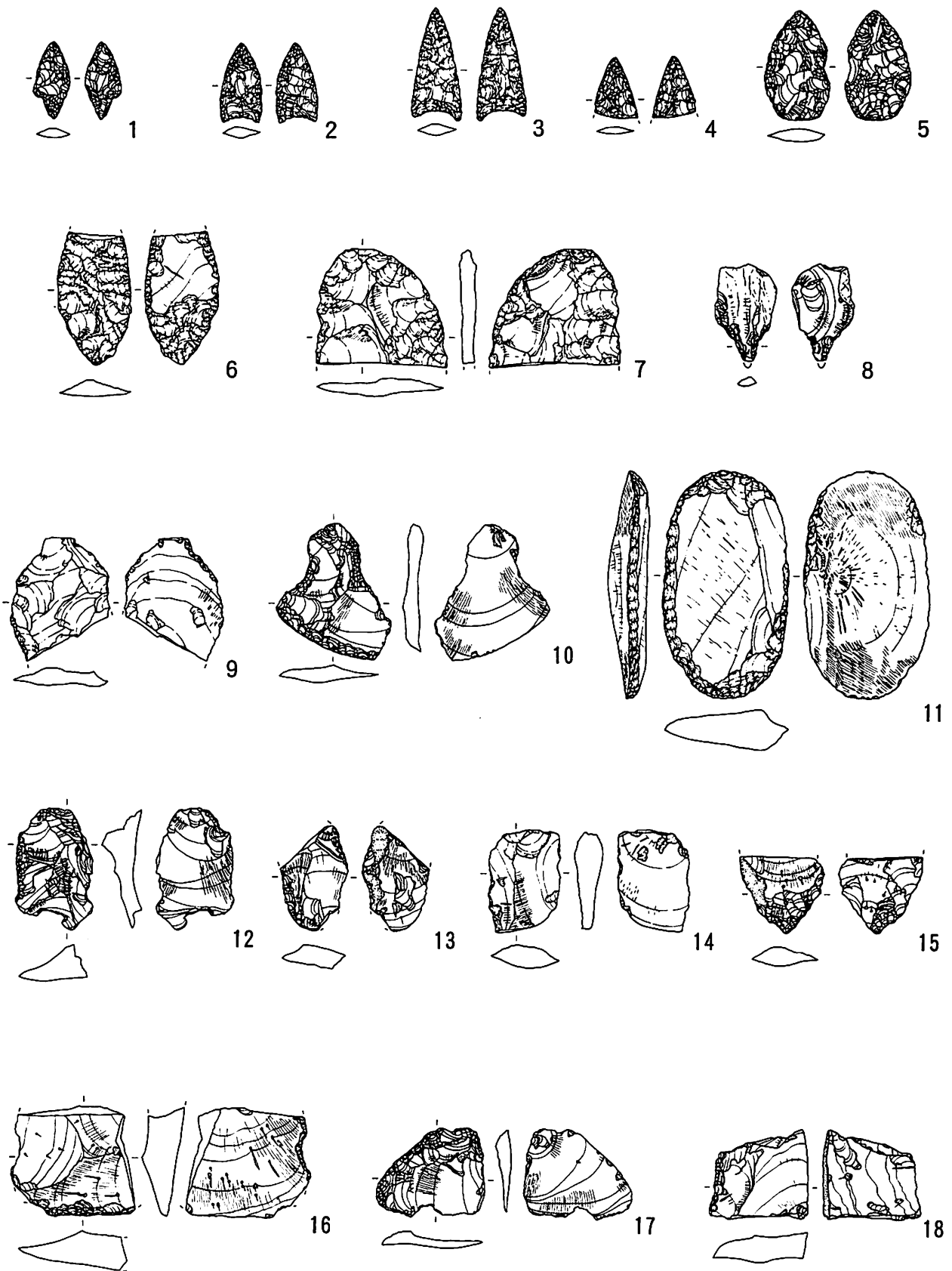
第44図 2000年度 遺構外出土の土器 (3)



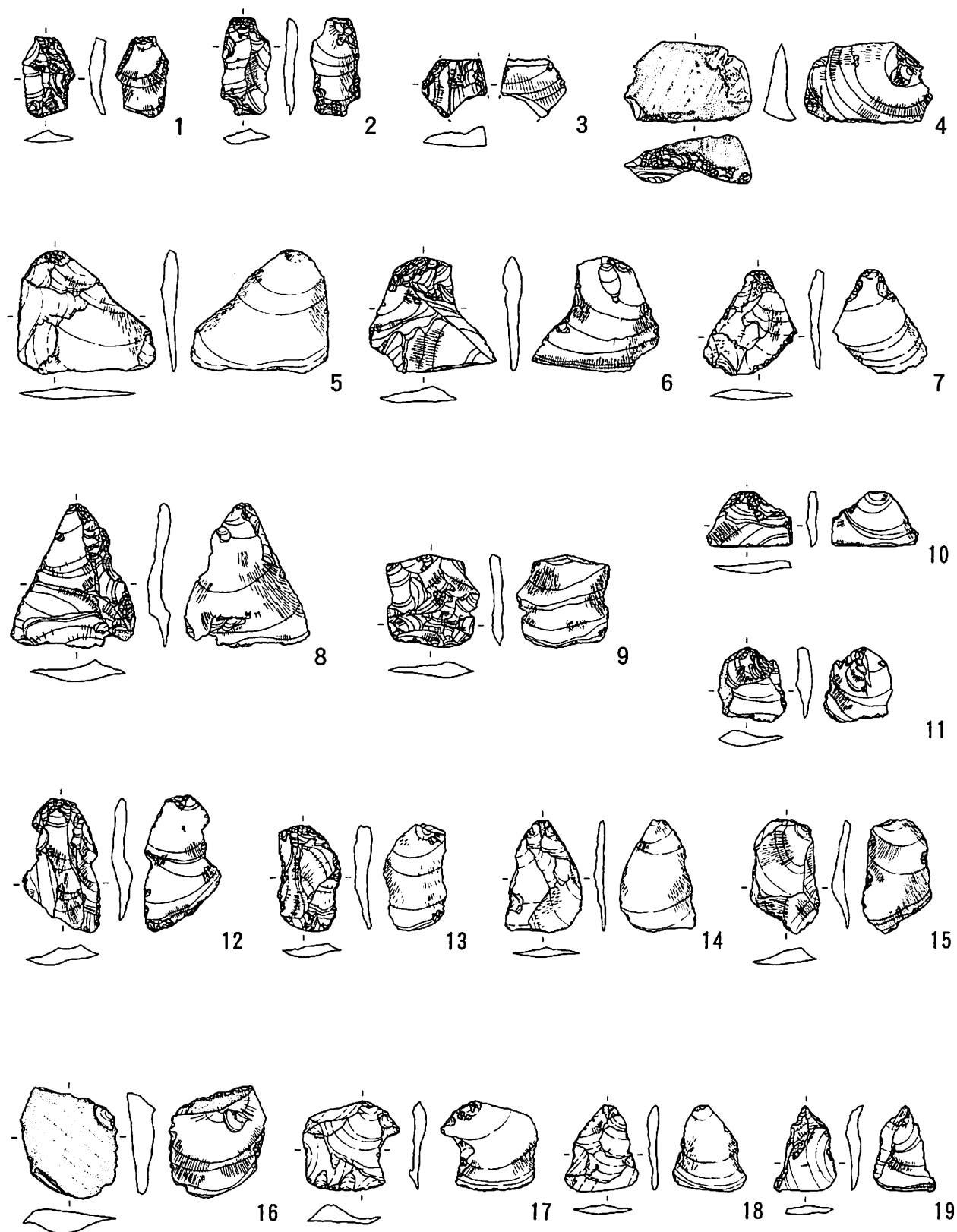
第45図 2001年度 遺構外出土の土器



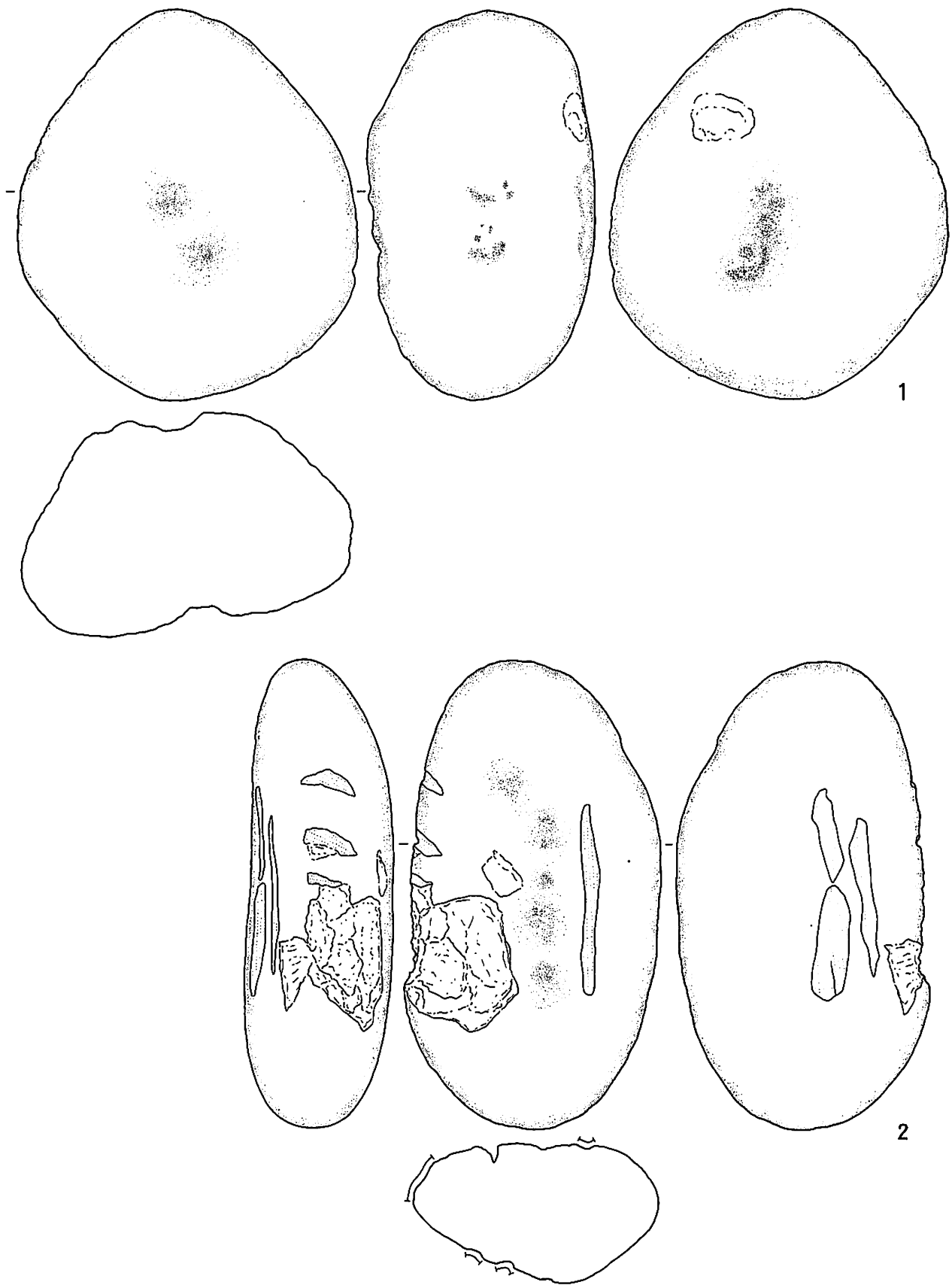
第46図 2000年度 遺構外出土の石器



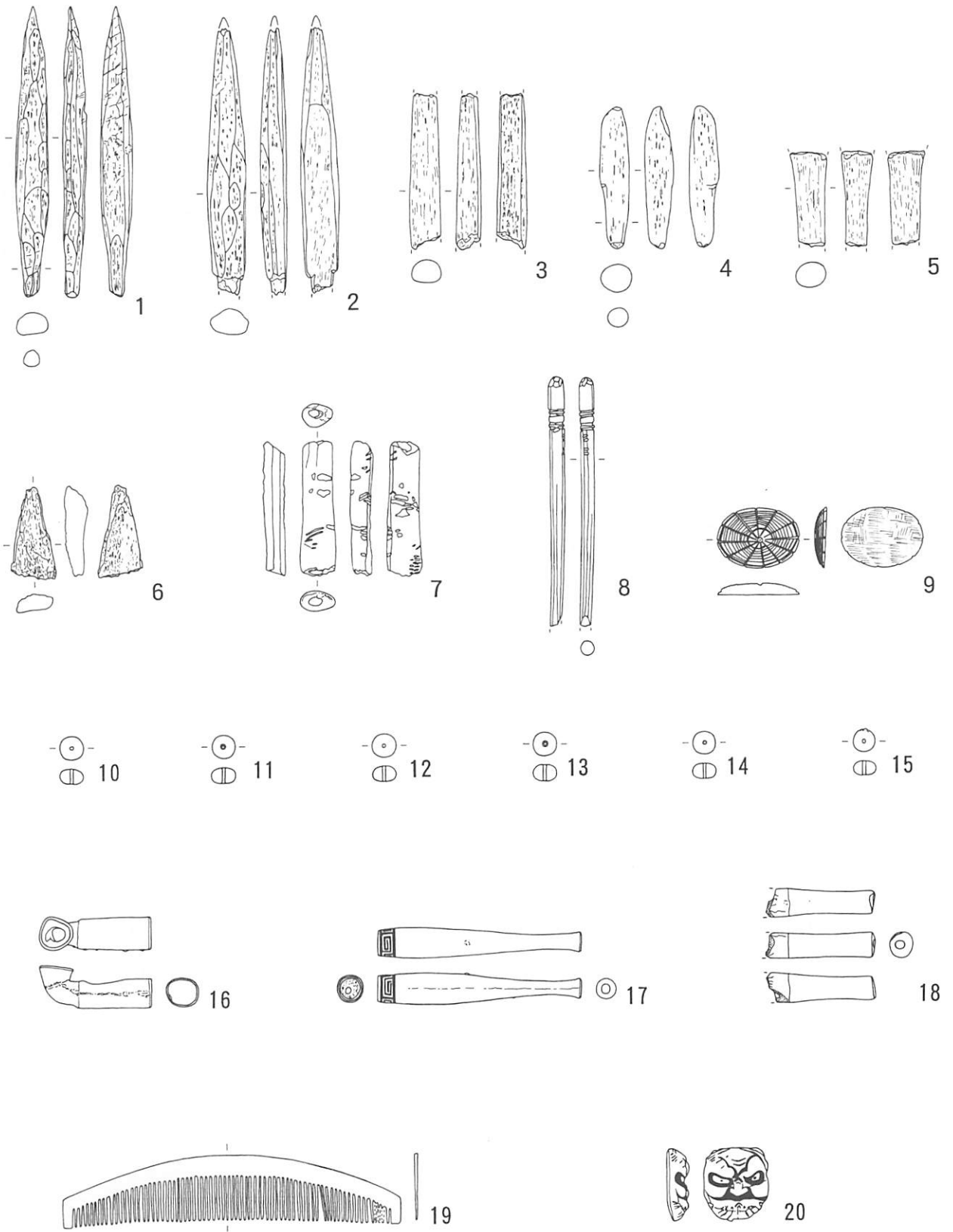
第47図 2001年度 遺構外出土の石器 (1)



第48図 2001年度 遺構外出土の石器 (2)



第49図 2001年度 遺構外出土の石器 (3)



第50図 2001年度 遺構外出土の骨角器・その他の遺物

遺物一覽表 (服部地点)

図版No-遺物No	出土遺構	層位	計測値 (cm) (g)	名称・分類	備考
8-1	P-20	覆土		土器拓本	胴部 縮尺1/2
8-2	P-20	覆土		土器拓本	胴部 縮尺1/2
8-3	P-20	覆土		土器拓本	胴部 縮尺1/2
8-4	P-20	覆土		土器拓本	胴部 縮尺1/2
8-1	P-21⑫	-	長さ 7.45 火皿高 1.0 火皿径 1.7 管径 1.0	煙管(雁首)	銅製
8-2	P-21⑨	墳底	長さ 7.85 吸口径 0.5 管径 1.0	煙管(吸口)	銅製
8-3	P-21⑩	墳底	長さ 3.5 幅 8.7 厚さ 0.7	火打金	鉄製
8-4	P-21⑪	墳底	全長 13.0 刃長 9.7 刃厚 0.8	刀子	鉄製
9-1	P-22	覆土	長さ (10.0) 幅 4.8 厚さ 4.3 重さ (58.5)	獣骨	切断痕あり
9-1	P-23⑧	墳底	長さ (9.9) 幅 1.1 厚さ 0.8 重さ (6.4)	骨角器(中柄)	
9-2	P-23⑬	墳底	全長 (25.1) 刃長 21.4 刃厚 (0.8) 鏝径 5.4	刀	鉄製 鏝は銅製
10-1	P-24⑨	墳底	長さ 3.1 幅 2.0 厚さ 0.7 重さ 4.7	火打石(鉄石類)	
10-2	P-24④	墳底	長さ 3.3 幅 8.8 厚さ 1.1	火打金	繊維付着 鉄製
10-3	P-24⑥	墳底	長さ 3.3 幅 2.9 太さ 0.7	鉄製品	釣針?
10-4	P-24⑤	墳底	外径 3.3 内径 1.9 太さ 0.6	鉄製品	環状
10-5	P-24③	墳底	全長 16.7 刃長 12.6 刃厚 1.1	刀子	鉄製
11-1	P-25⑭	覆土		土器拓本	胴部
11-2	P-25	覆土		土器拓本	胴部
11-3	P-25⑧	遺体直上	長さ 3.6 幅 1.7 厚さ 0.5 重さ 1.8	石鏃(黒曜石)	
11-4	P-25⑨	墳底	長さ 3.9 幅 1.6 厚さ 0.4 重さ 1.8	石鏃(黒曜石)	
11-5	P-25⑩-2	墳底	長さ 4.0 幅 1.7 厚さ 0.5 重さ 2.0	石鏃(黒曜石)	
11-6	P-25⑤	覆土	長さ 3.7 幅 1.7 厚さ 0.5 重さ 2.3	石鏃(黒曜石)	
11-7	P-25⑬	覆土	長さ 4.4 幅 2.3 厚さ 0.5 重さ 4.4	石鏃(黒曜石)	
11-8	P-25④	覆土	長さ 4.3 幅 2.5 厚さ 0.6 重さ 5.2	石鏃(黒曜石)	
11-9	P-25⑨-1	覆土	長さ 4.2 幅 2.4 厚さ 0.6 重さ 4.4	石鏃(黒曜石)	
11-10	P-25⑨-2	覆土	長さ 4.0 幅 2.3 厚さ 0.6 重さ 4.5	石鏃(黒曜石)	
11-11	P-25⑨-3	覆土	長さ 4.6 幅 2.4 厚さ 0.6 重さ 5.3	石鏃(黒曜石)	
11-12	P-25⑨-4	覆土	長さ 4.2 幅 2.4 厚さ 0.6 重さ 4.5	石鏃(黒曜石)	
11-13	P-25⑨-6	覆土	長さ 4.0 幅 2.3 厚さ 0.6 重さ 4.6	石鏃(黒曜石)	
11-14	P-25⑨-7	覆土	長さ 4.0 幅 1.7 厚さ 0.4 重さ 1.8	石鏃(黒曜石)	
11-15	P-25⑨-5	覆土	長さ 4.7 幅 2.4 厚さ 0.5 重さ 5.3	石鏃(黒曜石)	
11-16	P-25⑪	遺体直上	長さ 3.8 幅 2.6 厚さ 0.6 重さ 4.8	石鏃(黒曜石)	
11-17	P-25⑱	遺体直上	長さ 4.2 幅 2.5 厚さ 0.8 重さ 5.3	石鏃(黒曜石)	
12-18	P-25⑨-8	覆土	長さ 5.0 幅 2.3 厚さ 0.5 重さ 4.8	石槍(黒曜石)	
12-19	P-25⑩-1	墳底	長さ 5.0 幅 1.9 厚さ 0.6 重さ 3.5	石槍(黒曜石)	
12-20	P-25⑰	遺体直上	長さ 5.4 幅 2.1 厚さ 0.5 重さ 4.2	石槍(黒曜石)	
12-21	P-25③	覆土	長さ 6.4 幅 2.7 厚さ 0.6 重さ 8.0	石槍(黒曜石)	
12-22	P-25②	覆土	長さ 5.8 幅 2.3 厚さ 0.6 重さ 7.6	石槍(黒曜石)	
12-23	P-25⑥	遺体直上	長さ 7.8 幅 2.8 厚さ 0.9 重さ 18.0	ナイフ(頁岩)	
12-24	P-25⑮	遺体直上	長さ 9.7 幅 4.1 厚さ 0.6 重さ 28.2	ナイフ(頁岩)	
12-25	P-25⑩	遺体直上	長さ 11.2 幅 4.1 厚さ 0.7 重さ 36.8	ナイフ(チャート)	
12-26	P-25⑫	遺体直上	長さ 6.5 幅 6.9 厚さ 1.65 重さ 55.0	R・F(黒曜石)	
12-27	P-25⑯	墳底	長さ 5.4 幅 5.7 厚さ 1.6 重さ 61.5	フリク(玄武岩)	
12-28	P-25⑲	覆土	長さ 12.2 幅 4.2 厚さ 2.6 重さ 180	石斧(緑泥片岩)	
13-1	P-27⑤	墳底	全長 (23.7) 刃長 13.4 刃厚 0.6 幅 2.9	刀子	柄に71ヌ襷 縮尺1/4
13-2	P-27②	墳底	全長 (12.0) 刃長 (5.2) 刃厚 0.75	刀子	鉄製 縮尺1/4
13-3	P-27①	覆土	刃長 25.7 刃幅 6.5 刃厚 0.5 柄長 9.2	鎌	鉄製 縮尺1/4
13-4	P-27⑥	墳底	長径 7.4 短径 6.9 厚さ 1.9	鏝	鉄製 縮尺1/4
13-5	P-27④	墳底	長さ 6.0 火皿高 0.5 火皿径 1.1 管径 1.3	煙管(雁首)	銅製
13-6	P-27④	墳底	長さ 7.0 吸口径 0.7 管径 1.3	煙管(吸口)	銅製

図版No-遺物No	出土遺構	層位	計測値 (cm) (g)	名称・分類	備考
13-7	P-27⑧	壙底	長さ (4.8) 幅 1.0 厚さ 0.65 重さ (1.1)	骨角器(中柄)	
	P-28				掲載遺物なし
14-1	P-29③	壙底	長さ 5.7 火皿高 0.8 火皿径 1.45 管径 0.8	煙管(雁首)	銅製
14-2	P-29⑤	壙底	長さ 6.35 吸口径 0.4 管径 0.8	煙管(吸口)	銅製
14-3	P-29①	壙底	長さ 2.63 幅 1.6 厚さ 0.5	鉄製品	
14-4	P-29④	遺体直上	全長 (45.0) 刃長 37.2 刃厚 0.7 鋸径 9.9	太刀	残長0.1×3.4×0.6 鍔込
14-5	P-29⑥・⑩	壙底	長さ 6.3 幅 4.5 厚さ 2.8 重さ 75.0	灯石?(鉄石)	2点接合
15-1	P-26	覆土		土器拓本	口縁部
15-2	P-26	覆土		土器拓本	胴部
	P-30				掲載遺物なし
	P-31				掲載遺物なし
16-1	P-32②	ベンガラ直上	長さ 2.4 幅 1.3 厚さ 0.4 重さ 0.8	石鏃(石英片岩)	
16-2	P-32①	ベンガラ直上	長さ 5.7 幅 2.6 厚さ 0.5 重さ 5.9	石槍(黒曜石)	
16-3	P-32④	ベンガラ直上	径 1.3 孔径 0.45 厚さ 0.4 重さ 0.5	平玉(コハク)	
16-4	P-32④	ベンガラ直上	径 1.6 孔径 0.6 厚さ 0.7 重さ 1.2	平玉(コハク)	
16-5	P-32⑤	ベンガラ直上	径 1.4 孔径 0.4 厚さ 0.4 重さ 0.6	平玉(コハク)	
16-6	P-32⑥	ベンガラ直上	径 1.4 孔径 0.5 厚さ 0.6 重さ 0.6	平玉(コハク)	
16-7	P-32⑦	ベンガラ直上	径 1.45 孔径 0.45 厚さ 0.5 重さ 0.7	平玉(コハク)	
16-8	P-32⑦	ベンガラ直上	径 1.5 孔径 0.55 厚さ 0.55 重さ 0.9	平玉(コハク)	
16-1	P-33	覆土	長さ 5.8 幅 1.9 厚さ 0.4 重さ 3.6	石槍(黒曜石)	
17-1	P-34②	壙底	口径 (17.0) 胴径 17.4 底径 6.4 器高 17.0	土器	
17-2	P-34	覆土	長さ 6.0 幅 3.1 厚さ 0.7 重さ 10.6	石槍(黒曜石)	
17-1	P-35	覆土	長さ 8.3 幅 4.0 厚さ 2.1 重さ 110	石斧(緑泥片岩)	
18-1	P-37⑧	覆土		土器拓本	胴部 縮尺1/2
18-2	P-37⑧	覆土		土器拓本	胴部 縮尺1/2
19-3	P-37③	ベンガラ直上	長さ 3.5 幅 1.5 厚さ 0.4 重さ 1.9	石鏃(黒曜石)	
19-4	P-37②①	ベンガラ直上	長さ 4.8 幅 2.0 厚さ 0.5 重さ 2.9	石鏃(黒曜石)	
19-5	P-37①	ベンガラ直上	長さ (8.0) 幅 4.0 厚さ 0.7 重さ (23.2)	ナイフ(黒曜石)	先端部欠損
19-6	P-37①①	ベンガラ直上	長さ 10.0 幅 4.1 厚さ 0.8 重さ 27.6	ナイフ(頁岩)	
19-7	P-37②	ベンガラ直上	長さ 7.3 幅 3.9 厚さ 0.8 重さ 19.2	ナイフ(チャート)	
19-8	P-37⑥	覆土	長さ (5.5) 幅 3.7 厚さ 0.8 重さ (13.0)	ナイフ(黒曜石)	先端部欠損
19-9	P-37⑮	ベンガラ直上	長さ 5.8 幅 5.5 厚さ 1.4 重さ 32.0	R・F(石英片岩)	
19-10	P-37⑫	ベンガラ直上	長さ 6.8 幅 3.5 厚さ 1.4 重さ 26.6	R・F(チャート)	
19-11	P-37⑬-1	覆土	長さ 6.3 幅 4.1 厚さ 1.0 重さ 25.2	R・F(チャート)	
19-12	P-37⑫②	覆土	長さ 4.2 幅 5.1 厚さ 1.3 重さ 25.4	R・F(チャート)	
19-13	P-37⑫③	ベンガラ直上	長さ 4.2 幅 5.4 厚さ 2.0 重さ 26.8	R・F(チャート)	
20-14	P-37⑫④	ベンガラ直上	長さ 6.4 幅 5.8 厚さ 1.8 重さ 48.6	フリク(チャート)	
20-15	P-37⑫④	ベンガラ直上	長さ 4.1 幅 4.8 厚さ 1.6 重さ 30.4	フリク(黒曜石)	
20-16	P-37	覆土	長さ 3.2 幅 3.1 厚さ 0.5 重さ 5.5	石鏃(石英片岩)	
20-17	P-37⑫⑦	ベンガラ直上	長さ 3.5 幅 5.6 厚さ 1.3 重さ 23.0	フリク(石英片岩)	
20-18	P-37⑫③-2	覆土	長さ (2.5) 幅 2.2 厚さ 0.8 重さ 4.7	R・F(チャート)	
20-19	P-37⑫④	ベンガラ直上	長さ 6.0 幅 4.3 厚さ 1.2 重さ 26.8	フリク(黒曜石)	
20-20	P-37⑫⑥	ベンガラ直上	長さ 8.6 幅 3.0 厚さ 1.7 重さ 83.0	石斧(凝灰岩)	縮尺1/3
20-21	P-37⑫⑥	覆土	長さ 8.0 幅 5.0 厚さ 1.2 重さ 120	石斧(緑泥片岩)	縮尺1/3
20-22	P-37⑫⑥	覆土	長さ 14.0 幅 5.4 厚さ 2.0 重さ 270	石斧(緑泥片岩)	縮尺1/3
20-23	P-37⑫⑥	覆土	長さ 22.5 幅 8.0 厚さ 3.5 重さ 1090	石斧(緑泥片岩)	縮尺1/3
20-24	P-37⑫⑥	覆土	長さ 12.5 幅 6.5 厚さ 2.8 重さ 340	砥石(泥岩)	縮尺1/3
21-1	P-38③	遺体直上	長さ 2.8 幅 5.95 厚さ (0.6)	火打金	吊り下げ(長さ1.65cm)残存
21-2	P-38④	壙底	長さ 3.0 幅 3.3 厚さ 0.7 重さ 3.9	火打石(鉄石英)	
21-3	P-38⑤	壙底	長さ 4.75 幅 3.1 厚さ 1.85 重さ 25.6	火打石(鉄石英)	

図版No-遺物No	出土遺構	層位	計測値(cm)(g)	名称・分類	備考
21-4	P-38①	城底	長さ 7.5 火皿径 1.8 火皿高 1.1 管径 0.95	煙管(雁首)	銅製
21-5	P-38②	遺体直上	長さ 7.5 吸口径 0.5 管径 1.0	煙管(吸口)	銅製
22-6	P-38⑥	遺体直上	全長 17.95 刃長 14.1 刃厚 0.7	刀子	鉄製
22-7	P-38⑦	覆土	口径 29.2 底径 24.0 器高 16.8	吊耳鉄鍋	鍋鉋あり 縮尺1/4
	P-39				掲載遺物なし
23-1	P-40①	ベンガラ直上	長さ 2.55 幅 1.95 厚さ 0.35 重さ 0.8	フレイク(頁岩)	
23-2	P-40③	ベンガラ直上	長さ 2.95 幅 1.9 厚さ 0.45 重さ 2.2	R・F(チャート)	
23-3	P-40⑭	ベンガラ直上	長さ 3.2 幅 1.75 厚さ 0.2 重さ 0.5	フレイク(黒曜石)	
24-4	P-40②	ベンガラ直上	長さ 4.2 幅 2.4 厚さ 0.75 重さ 4.7	フレイク(頁岩)	
24-5	P-40⑥	ベンガラ直上	長さ 3.6 幅 2.15 厚さ 0.5 重さ 2.2	R・F(黒曜石)	
24-6	P-40⑯	ベンガラ直上	長さ 2.9 幅 1.9 厚さ 0.4 重さ 1.6	R・F(頁岩)	
24-7	P-40⑤	ベンガラ直上	長さ 2.4 幅 2.5 厚さ 0.4 重さ 1.8	R・F(チャート)	
24-8	P-40⑨	城底	長さ 3.35 幅 2.85 厚さ 0.6 重さ 2.9	フレイク(黒曜石)	
24-9	P-40⑪	ベンガラ直上	長さ 3.5 幅 3.3 厚さ 0.8 重さ 5.4	R・F(頁岩)	
24-10	P-40⑮	ベンガラ直上	長さ 4.9 幅 2.35 厚さ 0.75 重さ 5.8	フレイク(頁岩)	
24-11	P-40⑬	城底	長さ 3.9 幅 2.05 厚さ 1.0 重さ 4.8	フレイク(石英片岩)	
24-12	P-40④	ベンガラ直上	長さ 5.8 幅 3.8 厚さ 0.5 重さ 4.6	R・F(黒曜石)	
24-13	P-40⑧	ベンガラ直上	長さ 2.2 幅 2.3 厚さ 0.5 重さ 2.4	R・F(黒曜石)	
24-14	P-40⑩	城底	長さ 1.95 幅 2.5 厚さ 0.7 重さ 2.1	R・F(黒曜石)	
24-15	P-40⑫	城底	長さ 2.0 幅 2.1 厚さ 0.35 重さ 1.5	フレイク(頁岩)	
24-16	P-40⑦	ベンガラ直上	長さ 2.05 幅 3.1 厚さ 0.55 重さ 2.6	フレイク(頁岩)	
24-17	P-40⑬	城底	長さ 2.6 幅 4.65 厚さ 1.4 重さ 12.0	フレイク(石英片岩)	
26-1	H-2 ㉓他	3・4・5層	口径 (18.3) 底径 (10.0) 器高 (9.8)	土器	
26-2	H-2	5層		土器拓本	口縁部 1と同一個体
26-3	H-2 ㉔	5層		土器拓本	口縁部
26-4	H-2	5層		土器拓本	口縁～胴部
26-5	H-2	5層		土器拓本	口縁～胴部
26-6	H-2	5層		土器拓本	口縁～胴部
26-7	H-2	5層		土器拓本	口縁部
26-8	H-2	5層		土器拓本	胴部
26-9	H-2	5層		土器拓本	口縁部
26-10	H-2	覆土一括		土器拓本	口縁部
26-11	H-2 ㉕	5層		土器拓本	口縁部
26-12	H-2	5層		土器拓本	口縁～胴部
27-13	H-2 ㉖他	5層	口径 (14.5) 底径 6.1 器高 17.0	土器	
27-14	H-2	5層		土器拓本	口縁部
27-15	H-2	5層		土器拓本	口縁部
27-16	H-2	5層	底径 8.7 器高 (3.0)	土器	底部
27-17	H-2	5層	器高 (4.8)	土器	底部
27-18	H-2 ㉗他	5層		土器拓本	口縁部
27-19	H-2	5層		土器拓本	口縁部 18と同一個体
27-20	H-2 ㉘他	5層	底径 (7.0) 器高 (8.7)	土器	胴～底部
27-21	H-2 ㉙	5層		土器拓本	胴部
27-22	H-2 ㉚他	5層		土器拓本	胴部
27-23	H-2	5層	底径 7.6 器高 (14.8)	土器	胴～底部
27-24	H-2	5層		土器拓本	口縁部
27-25	H-2 ㉛	5層		土器拓本	口縁部
27-26	H-2	5層		土器拓本	胴部
27-27	H-2	5層		土器拓本	底部
28-28	H-2	4層		土器拓本	口縁部

図版No.遺物No	出土遺構	層位	計測値(cm)(g)	名称・分類	備考	
28-29	H-2	4層	胴径 10.55 底径 6.6 器高 (10.4)	土器拓本	口縁部	
28-30	H-2	4層		土器拓本	口縁部	
28-31	H-2	4層		土器拓本	口縁部	
28-32	H-2	覆土一括		土器	口縁~頸部欠損	
28-33	H-2	覆土一括		土器拓本	胴部	
28-34	H-2	覆土一括		土器拓本	口縁部	
28-35	H-2	3層		土器拓本	胴部	
28-36	H-2 ㉑	5層		長さ (2.6) 幅 1.65 厚さ 0.4 重さ (1.8)	石鏃(黒曜石)	先端部欠損
28-37	H-2 ㉒	5層		長さ (3.15) 幅 2.0 厚さ 0.5 重さ (2.5)	石鏃(頁岩)	先端部欠損
28-38	H-2	5層		長さ (1.9) 幅 (1.65) 厚さ (0.35) 重さ (1.1)	石鏃(チャート)	先端側欠損
28-39	H-2	5層	長さ (2.3) 幅 (1.8) 厚さ (0.6) 重さ (2.2)	石鏃(チャート)	先端側欠損	
28-40	H-2	4層	長さ (2.95) 幅 (1.35) 厚さ (0.3) 重さ (0.7)	石鏃(黒曜石)	基部欠損	
28-41	H-2	5層	長さ (4.95) 幅 2.75 厚さ 0.6 重さ (7.3)	石槍(黒曜石)	先端部欠損	
28-42	H-2	5層	長さ (3.15) 幅 2.2 厚さ 0.45 重さ (3.0)	石鏃(黒曜石)	先端部欠損	
28-43	H-2	5層	長さ 5.4 幅 2.45 厚さ 0.8 重さ 10.2	ナイフ(チャート)		
28-44	H-2	5層	長さ (4.45) 幅 (4.3) 厚さ (1.05) 重さ (13.0)	ナイフ(チャート)	一部欠損	
28-45	H-2	覆土一括	長さ 6.35 幅 4.3 厚さ 0.95 重さ 22.0	ナイフ(チャート)		
28-46	H-2	5層	長さ 2.5 幅 2.6 厚さ 0.8 重さ (4.9)	石鏃(黒曜石)	先端部欠損	
28-47	H-2	5層	長さ (2.85) 幅 1.6 厚さ 0.75 重さ (3.5)	石鏃(チャート)	先端部欠損	
28-48	H-2	5層	長さ (4.05) 幅 1.8 厚さ 0.8 重さ (4.2)	石鏃(チャート)	先端部欠損	
28-49	H-2 ㉓	7層	長さ 6.05 幅 4.0 厚さ 1.6 重さ 25.6	削器(頁岩)		
28-50	H-2	5層	長さ 5.25 幅 4.75 厚さ 1.15 重さ 20.6	ナイフ(頁岩)		
29-51	H-2 ㉔	7層	長さ (5.6) 幅 (4.1) 厚さ (0.7) 重さ (13.2)	削器(チャート)	一部欠損	
29-52	H-2 ㉕	5層	長さ 5.6 幅 3.8 厚さ 1.15 重さ 14.6	削器(チャート)		
29-53	H-2 ㉖	5層	長さ 5.0 幅 (2.7) 厚さ (0.9) 重さ (10.4)	削器(頁岩)	一部欠損	
29-54	H-2	覆土一括	長さ 3.95 幅 2.0 厚さ 0.7 重さ 3.9	削器(黒曜石)		
29-55	H-2	5層	長さ 4.6 幅 4.8 厚さ (1.0) 重さ (13.8)	削器(黒曜石)	一部欠損	
29-56	H-2	5層	長さ 5.0 幅 1.95 厚さ 0.85 重さ 6.4	削器(チャート)		
29-57	H-2	5層	長さ (4.85) 幅 1.85 厚さ (0.7) 重さ (4.8)	削器(チャート)	一部欠損	
29-58	H-2	4層	長さ (4.05) 幅 (2.3) 厚さ (0.75) 重さ (6.9)	削器(チャート)	一部欠損	
29-59	H-2	覆土一括	長さ 4.1 幅 2.7 厚さ 0.75 重さ 5.9	削器(黒曜石)		
29-60	H-2	5層	長さ (2.85) 幅 (3.2) 厚さ (1.05) 重さ (6.5)	削器(チャート)	一部欠損	
29-61	H-2	5層	長さ (3.2) 幅 (2.6) 厚さ (0.7) 重さ (4.4)	削器(チャート)	一部欠損	
29-62	H-2	5層	長さ (2.35) 幅 2.0 厚さ 0.7 重さ (3.2)	削器(石英片岩)	一部欠損	
29-63	H-2	5層	長さ (2.2) 幅 (2.35) 厚さ (0.45) 重さ (1.4)	削器(黒曜石)	一部欠損	
29-64	H-2	覆土一括	長さ (3.3) 幅 3.35 厚さ (0.7) 重さ (6.9)	削器(黒曜石)	一部欠損	
29-65	H-2	覆土一括	長さ (2.75) 幅 (2.9) 厚さ (1.0) 重さ (5.9)	削器(黒曜石)	一部欠損	
29-66	H-2	5層	長さ 3.55 幅 4.2 厚さ 0.95 重さ 11.0	搔器(頁岩)		
29-67	H-2	5層	長さ (2.6) 幅 2.2 厚さ (0.65) 重さ (3.6)	搔器(黒曜石)	一部欠損	
29-68	H-2	5層	長さ 2.85 幅 4.8 厚さ 1.35 重さ 14.2	搔器(チャート)		
29-69	H-2	覆土一括	長さ 3.3 幅 3.5 厚さ 0.95 重さ 10.0	搔器(黒曜石)		
29-70	H-2	5層	長さ 3.3 幅 3.1 厚さ 1.6 重さ 10.2	搔器(黒曜石)	R・Fとの接合資料	
29-71	H-2 ㉗	7層	長さ 6.55 幅 4.6 厚さ 1.6 重さ 44.4	石核(チャート)		
29-72	H-2	5層	長さ 5.6 幅 4.5 厚さ 2.2 重さ 34.4	石核(チャート)		
30-73	H-2 ㉘	5層	長さ 4.75 幅 2.55 厚さ 1.3 重さ 8.1	R・F(黒曜石)		
30-74	H-2 ㉙	7層	長さ 4.95 幅 3.4 厚さ 0.85 重さ 8.5	R・F(黒曜石)	一部欠損	
30-75	H-2	5層	長さ (5.05) 幅 (2.85) 厚さ (0.8) 重さ (7.2)	R・F(黒曜石)		
30-76	H-2 ㉚	7層	長さ 5.25 幅 2.65 厚さ 1.45 重さ 9.7	R・F(黒曜石)	一部欠損	
30-77	H-2	5層	長さ (4.65) 幅 (1.9) 厚さ (0.7) 重さ (3.0)	R・F(黒曜石)		
30-78	H-2	5層	長さ 3.65 幅 2.4 厚さ 0.85 重さ 3.3	R・F(黒曜石)		

図版No-遺物No	出土遺構	層位	計測値(cm)(g)	名称・分類	備考
30-79	H-2	5層	長さ 3.85 幅 3.1 厚さ 0.75 重さ 6.3	R・F(黒曜石)	
30-80	H-2	5層	長さ 4.2 幅 3.5 厚さ 0.85 重さ 10.4	R・F(黒曜石)	
30-81	H-2 ㊸	5層	長さ 3.4 幅 3.25 厚さ 0.7 重さ 5.2	R・F(チャート)	
30-82	H-2 ㊹	5層	長さ 2.4 幅 2.75 厚さ 0.45 重さ 1.7	R・F(黒曜石)	
30-83	H-2	5層	長さ 2.25 幅 2.4 厚さ 0.65 重さ 2.5	R・F(黒曜石)	
30-84	H-2	5層	長さ 2.5 幅 2.85 厚さ 0.7 重さ 3.6	R・F(黒曜石)	
30-85	H-2	5層	長さ 9.55 幅 7.5 厚さ 4.4 重さ 265	凹石(凝灰岩)	
31-1	H-3 ㊺	3層	器高 (6.7)	土器	底部
31-2	H-3	4 a 層	長さ 2.3 幅 1.85 孔径 0.65 厚さ 0.7 重さ (1.3)	垂飾(コハク)	
31-3	H-3	4 a 層	長さ 1.65 幅 1.25 孔径 0.5 厚さ 0.9 重さ 0.8	垂飾(コハク)	
31-4	H-3	F・C範囲	長さ 2.8 幅 1.9 厚さ 0.75 重さ 2.5	R・F(頁岩)	
31-5	H-3	F・C範囲	長さ 2.45 幅 1.5 厚さ 0.95 重さ 3.5	フレイク(石片)	
32-6	H-3	F・C範囲	長さ 3.2 幅 2.0 厚さ 1.5 重さ 8.8	R・F(チャート)	
32-7	H-3	F・C範囲	長さ 3.25 幅 3.5 厚さ 1.1 重さ 10.2	R・F(黒曜石)	
32-8	H-3	F・C範囲	長さ 5.1 幅 4.3 厚さ 0.7 重さ 11.4	R・F(頁岩)	
32-9	H-3	F・C範囲	長さ 4.8 幅 4.15 厚さ 1.7 重さ 26.6	R・F(チャート)	
32-10	H-3	4 a 層	長さ 11.2 幅 7.5 厚さ 7.0 重さ 800	凹石(安山岩)	
33-1	SM-2	-	口径 4.6 器高 (12.0)	陶磁器(徳利)	
33-2	SM-2	-	胴径 14.2 底径 6.6 器高 (12.9)	陶磁器(徳利)	
33-3	SM-2	-	長さ (13.0) 幅 1.2 厚さ 1.0 重さ (8.0)	骨角器(中柄)	e34-12
33-4	SM-2	-	長さ 7.9 幅 2.7 厚さ 1.1 重さ 14.6	獣骨	e34-20 切断痕あり
33-5	SM-2	-	長さ (11.9) 幅 1.0 厚さ 1.1	銅製品	e34-15 煙管?
33-6	SM-2	-	全長13.2 刃長 10.0 刃厚 0.4	刀子	e34-17 鉄製
33-7	SM-2	-	底径 (12.0) 器高 (6.9)	鉄鍋	e34-11 底部 縮尺1/3
35-1	砂質凝灰岩粗粒範囲	5層	口径 9.8 胴径 11.7 底径 3.8 器高 12.7	土器	e35-13
35-2	砂質凝灰岩粗粒範囲	1層	胴径 15.8 底径 6.4 器高 (13.7)	土器	d35-34
35-3	砂質凝灰岩粗粒範囲	-	長径 15.0 短径 10.0 器高 8.0	舟形土器	d35-26一括
35-4	砂質凝灰岩粗粒範囲	-	幅 (5.3) 高さ (2.7)	注口土器片	d35-26
36-5	砂質凝灰岩粗粒範囲	-	口径 (12.1) 底径 (8.2) 器高 8.0	土器	d35-35
36-6	砂質凝灰岩粗粒範囲	1層	口径 (29.6) 器高 (13.7)	土器	d35-24 口縁~胴部
36-7	砂質凝灰岩粗粒範囲	5層	口径 (49.6) 器高 (19.8)	土器	d35-03 口縁~胴部
36-8	砂質凝灰岩粗粒範囲	1層	口径 (18.0) 器高 (9.3)	土器	d35-34-35 口縁~胴部
36-9	砂質凝灰岩粗粒範囲	-		土器拓本	d35-35 口縁~胴部
37-10	砂質凝灰岩粗粒範囲	-	口径 (35.6) 器高 (18.6)	土器	d35-27 口縁~胴部
37-11	砂質凝灰岩粗粒範囲	-	口径 (37.3) 器高 (8.3)	土器	d35-26 口縁部
37-12	砂質凝灰岩粗粒範囲	-	高台径 10.2 器高 (9.7)	土器	e35-13 胴~高台部
37-13	砂質凝灰岩粗粒範囲	5層	底径 6.2 器高 (6.6)	土器	d35-09 胴~底部
37-14	砂質凝灰岩粗粒範囲	-	底径 9.0 器高 (12.4)	土器	d35-35-36 胴~底部
38-15	砂質凝灰岩粗粒範囲	5層	長さ 2.6 幅 1.6 厚さ 0.4 重さ 0.9	石鏃(黒曜石)	d35-09
38-16	砂質凝灰岩粗粒範囲	-	長さ 2.4 幅 1.5 厚さ 0.4 重さ 0.9	石鏃(黒曜石)	d35-30
38-17	砂質凝灰岩粗粒範囲	5層	長さ 2.7 幅 1.8 厚さ 0.3 重さ 1.0	石鏃(黒曜石)	d35-09
38-18	砂質凝灰岩粗粒範囲	-	長さ 3.0 幅 1.5 厚さ 0.4 重さ 1.0	石鏃(黒曜石)	d35-37
38-19	砂質凝灰岩粗粒範囲	3層	長さ (2.2) 幅 1.4 厚さ 0.5 重さ (1.1)	石鏃(黒曜石)	d35-38 先端部欠損
38-20	砂質凝灰岩粗粒範囲	5層	長さ (2.6) 幅 1.8 厚さ 0.5 重さ (1.3)	石鏃(黒曜石)	d35-09 先端部欠損
38-21	砂質凝灰岩粗粒範囲	3層	長さ (2.3) 幅 1.5 厚さ 0.7 重さ (2.2)	石鏃?(チャート)	d35-38 先端部欠損
38-22	砂質凝灰岩粗粒範囲	3層	長さ (3.8) 幅 1.8 厚さ 0.4 重さ (2.5)	石鏃(チャート)	d35-39 先端部欠損
38-23	砂質凝灰岩粗粒範囲	3層	長さ (2.6) 幅 1.8 厚さ 0.7 重さ (2.4)	異形石鏃(黒曜石)	d35-39 先端部欠損
38-24	砂質凝灰岩粗粒範囲	5層	長さ 3.5 幅 2.3 厚さ 0.5 重さ 4.1	削器(黒曜石)	e35-01
38-25	砂質凝灰岩粗粒範囲	-	長さ 4.8 幅 2.7 厚さ 0.7 重さ 11.2	削器(黒曜石)	d35-27
38-26	砂質凝灰岩粗粒範囲	-	長さ 6.8 幅 3.3 厚さ 1.3 重さ 20.8	削器(黒曜石)	d35-36

図版No-遺物No	出土遺構	層位	計測値 (cm) (g)	名称・分類	備考
38-27	砂質凝灰岩粗粒範囲	1 層	長さ 8.8 幅 7.0 厚さ 1.7 重さ 125	削器(玄武岩)	e35-21
38-28	砂質凝灰岩粗粒範囲	5 層	長さ 8.7 幅 6.9 厚さ 1.2 重さ 73.5	削器(玄武岩)	e35-23
38-29	砂質凝灰岩粗粒範囲	1 層	長さ 6.2 幅 12.3 厚さ 2.9 重さ 130	削器(玄武岩)	d35-26
39-30	砂質凝灰岩粗粒範囲	—	長さ 9.4 幅 5.1 厚さ 1.9 重さ 62.0	削器(玄武岩)	d35-27
39-31	砂質凝灰岩粗粒範囲	—	長さ 4.0 幅 1.6 厚さ 1.1 重さ 10.6	R・F(玄武岩)	e35-25
39-32	砂質凝灰岩粗粒範囲	—	長さ 2.7 幅 1.9 厚さ 0.6 重さ 2.7	R・F(黒曜石)	d35-40
39-33	砂質凝灰岩粗粒範囲	—	長さ 3.2 幅 1.5 厚さ 0.6 重さ 1.9	R・F(黒曜石)	d35-29
39-34	砂質凝灰岩粗粒範囲	5 層	長さ 7.2 幅 4.0 厚さ 1.3 重さ 56.3	石斧(緑泥片岩)	e35-15
39-35	砂質凝灰岩粗粒範囲	5 層	長さ (6.6) 幅 4.9 厚さ 1.2 重さ (64.0)	石斧(緑泥片岩)	d35-03 基部欠損
39-36	砂質凝灰岩粗粒範囲	5 層	長さ 7.2 幅 4.0 厚さ 1.2 重さ 51.0	石斧(緑泥片岩)	d35-13
39-37	砂質凝灰岩粗粒範囲	5 層	長さ 12.5 幅 6.2 厚さ 4.5 重さ 270	凹石(凝灰岩)	d35-04
41-1	遺物集中範囲①-⑥地	暗褐色砂層	口径 (8.5) 胴径 18.9 器高 (21.0)	土器	口縁部
41-2	遺物集中範囲⑦	暗褐色砂層		土器拓本	
41-3	遺物集中範囲⑧	暗褐色砂層	長さ 3.35 幅 1.75 厚さ 0.75 重さ 3.6	削器(石英片岩)	
41-4	遺物集中範囲⑨	暗褐色砂層	長さ 3.2 幅 2.1 厚さ 0.65 重さ 3.0	削器(黒曜石)	
41-5	遺物集中範囲⑩	暗褐色砂層	長さ 3.9 幅 4.05 厚さ 1.05 重さ 11.8	搔器(黒曜石)	
41-6	遺物集中範囲⑪	暗褐色砂層	長さ 4.65 幅 4.0 厚さ 0.85 重さ 9.5	削器(黒曜石)	
41-7	遺物集中範囲⑫	暗褐色砂層	長さ 4.3 幅 2.35 厚さ 1.2 重さ 5.9	削器(黒曜石)	
41-8	遺物集中範囲⑬	暗褐色砂層	長さ 3.4 幅 2.2 厚さ 0.35 重さ 2.1	R・F(頁岩)	
41-9	遺物集中範囲⑭	暗褐色砂層	長さ 2.15 幅 2.1 厚さ 0.7 重さ 2.6	石鏃(黒曜石)	
41-10	遺物集中範囲⑮	暗褐色砂層	長さ 2.1 幅 3.85 厚さ 0.7 重さ 3.8	R・F(黒曜石)	
図版No-遺物No	出土地点	層位	計測値 (cm) (g)	名称・分類	備考
42-1	—	カクラン	口径 10.7 底径 12.0 器高 12.3	土器	口縁部 高台部 口縁～胴部 約1/2欠損
42-2	—	カクラン	口径 (20.2) 器高 (8.3)	土器	
42-3	d34-19・20	Ⅲ	口径 (10.5) 器高 (7.4)	土器	
42-4	c35	Ⅳ	器高 (5.9)	土器	
42-5	—	カクラン	底径 (14.7) 器高 (6.2)	土器	
42-6	e34-15	Ⅱ	口径 (21.4) 器高 (8.2)	土器	
42-7	d35-03	Ⅳ	径 (4.0) 孔径 0.7 厚さ 0.7 重さ (8.7)	有孔円形土器片	
43-1	d35-08	Ⅳ		土器拓本	口縁～胴部
43-2	—	カクラン		土器拓本	口縁～胴部
43-3	—	カクラン		土器拓本	口縁～胴部
43-4	—	カクラン		土器拓本	口縁部
43-5	c35	Ⅳ		土器拓本	口縁部
43-6	d35-08	Ⅳ		土器拓本	口縁部
43-7	d35-05	Ⅳ		土器拓本	口縁部
43-8	e35-07	—		土器拓本	口縁部
43-9	e35-06	—		土器拓本	口縁部
43-10	f34-16	Ⅲ		土器拓本	胴部
43-11	c34-11	Ⅲ		土器拓本	口縁～胴部
44-1	e34-11	Ⅲ		土器拓本	口縁部 縮尺1/2
44-2	e34-18	Ⅱ		土器拓本	口縁部 縮尺1/2
44-3	f35-07	Ⅳ		土器拓本	口縁部 縮尺1/2
44-4	—	カクラン		土器拓本	胴部 縮尺1/2
44-5	—	カクラン		土器拓本	口縁部 縮尺1/2
44-6	e35-12	Ⅳ		土器拓本	胴部 縮尺1/2
44-7	c35-01	Ⅳ		土器拓本	胴部 縮尺1/2
44-8	e34-13	Ⅲ		土器拓本	胴部 縮尺1/2
44-9	c35-01	Ⅳ		土器拓本	口縁部 縮尺1/2
44-10	e34-17	Ⅲ		土器拓本	口縁部 縮尺1/2

図版No-遺物No	出土地点	層位	計測値 (cm) (g)	名称・分類	備考
44-11	g34-11	Ⅲ		土器拓本	胴部 縮尺1/2
44-12	f34-12	Ⅱ		土器拓本	口縁部 縮尺1/2
44-13	e34-19	Ⅱ		土器拓本	胴部 縮尺1/2
44-14	f34-16	Ⅲ		土器拓本	口縁部 縮尺1/2
44-15	c34-17	Ⅱ		土器拓本	胴部 縮尺1/2
45-1	h34-07・12	Ⅲ		土器拓本	胴部
45-2	k34-13	Ⅲ		土器拓本	口縁部
45-3	h34-17	Ⅱ		土器拓本	底部
45-4	h34-17	Ⅱ		土器拓本	底部
45-5	i34-14	Ⅱ		土器拓本	底部
45-6	i34-15	Ⅱ		土器拓本	口縁部
45-7	h34-07	Ⅱ		土器拓本	胴部
45-8	k34	カクラン		土器拓本	口縁部
45-9	j34	カクラン		土器拓本	口縁部
45-10	g34	カクラン		土器拓本	口縁部
45-11	g34	カクラン		土器拓本	肩～胴部
45-12	k34	カクラン		土器拓本	肩～胴部
45-13	i34-14	Ⅱ		土器拓本	口縁～胴部
45-14	g34	カクラン		土器拓本	口縁部
45-15	h34	カクラン		土器拓本	口縁部
46-1	e34-17	Ⅱ	長さ 2.2 幅 1.5 厚さ 0.3 重さ 0.5	石鏃(チャート)	
46-2	d34-20	Ⅲ	長さ 2.3 幅 1.6 厚さ 0.4 重さ 1.1	石鏃(黒曜石)	
46-3	d35-04	Ⅲ	長さ 4.7 幅 3.1 厚さ 1.1 重さ 13.0	削器(チャート)	
46-4	e35-02	Ⅳ	長さ 5.2 幅 1.7 厚さ 0.5 重さ 3.5	削器(黒曜石)	
46-5	d34-14	Ⅲ	長さ 5.5 幅 3.6 厚さ 0.7 重さ 12.6	削器(黒曜石)	
46-6	d35-03	Ⅳ	長さ 3.7 幅 2.5 厚さ 1.3 重さ 9.0	搔器(黒曜石)	
46-7	c34-11	Ⅲ	長さ 3.4 幅 3.0 厚さ 0.5 重さ 4.5	搔器(黒曜石)	
46-8	d35-08	Ⅳ	長さ 6.6 幅 3.0 厚さ 1.2 重さ 19.2	搔器(チャート)	
46-9	g34-16	Ⅲ	長さ 7.4 幅 3.2 厚さ 0.6 重さ 14.5	ナイフ(頁岩)	
46-10	e35-03	Ⅳ	長さ 5.8 幅 2.0 厚さ 0.8 重さ 9.1	R-F(黒曜石)	
46-11	d34-13	Ⅲ	長さ 7.2 幅 4.3 厚さ 1.7 重さ 80.0	石斧(緑泥片岩)	
46-12	d35-03	Ⅳ	長さ 7.3 幅 8.0 厚さ 1.4 重さ 58.0	ナイフ(黒曜石)	
46-13	e34-22	Ⅳ	長さ 8.7 幅 5.1 厚さ 1.8 重さ 106	石斧(泥岩)	
46-14	d35-06	Ⅳ	長さ 20.8 幅 7.6 厚さ 1.7 重さ 552	石斧(粘板岩)	縮尺1/3
47-1	h35	カクラン	長さ 2.75 幅 1.3 厚さ 0.35 重さ 0.9	石鏃(黒曜石)	
47-2	g34-18	Ⅱ	長さ 2.85 幅 1.5 厚さ 0.4 重さ 1.3	石鏃(黒曜石)	
47-3	j34-06	Ⅱ	長さ 4.0 幅 1.75 厚さ 0.4 重さ 2.1	石鏃(チャート)	
47-4	j34-08	Ⅲ	長さ (2.15) 幅 (1.5) 厚さ 0.3 重さ (0.8)	石鏃(黒曜石)	基部欠損
47-5	h34	カクラン	長さ 3.9 幅 2.35 厚さ 0.45 重さ 4.4	石鏃(黒曜石)	
47-6	i34-14	Ⅱ	長さ (4.7) 幅 2.6 厚さ 0.65 重さ (7.0)	ナイフ(チャート)	基部欠損
47-7	i34-12	Ⅲ	長さ (4.15) 幅 (4.55) 厚さ 0.8 重さ (14.6)	ナイフ(頁岩)	一部欠損
47-8	h34	カクラン	長さ (3.4) 幅 2.2 厚さ 0.9 重さ (4.8)	石鏃(黒曜石)	先端部欠損
47-9	h34	カクラン	長さ (4.35) 幅 (3.5) 厚さ 0.9 重さ (10.2)	ナイフ(チャート)	先端部欠損 つまみ付き
47-10	h34	カクラン	長さ 4.75 幅 4.05 厚さ 0.7 重さ 8.1	ナイフ(黒曜石)	つまみ付き
47-11	—	表採	長さ 8.0 幅 4.45 厚さ 1.5 重さ 52.5	削器(玄武岩)	
47-12	g34	カクラン	長さ 4.3 幅 2.7 厚さ 1.4 重さ 9.4	削器(黒曜石)	
47-13	h34	カクラン	長さ (3.65) 幅 (2.6) 厚さ 0.9 重さ (6.1)	削器(黒曜石)	一部欠損
47-14	h34-12	Ⅲ	長さ 3.55 幅 2.55 厚さ 1.1 重さ 9.0	削器(チャート)	
47-15	i34-14	Ⅱ	長さ (2.7) 幅 (3.0) 厚さ 0.7 重さ (4.1)	削器(黒曜石)	一部欠損
47-16	h34-16	Ⅲ	長さ (3.9) 幅 (4.35) 厚さ 1.6 重さ (21.6)	搔器(黒曜石)	一部欠損

図版No-遺物No	出土地点	層位	計測値(cm)(g)	名称・分類	備考
47-17	h34	カクラン	長さ 3.15 幅 3.8 厚さ 0.65 重さ 4.6	削器(黒曜石)	
47-18	-	カクラン	長さ 3.1 幅 3.5 厚さ 1.3 重さ 13.8	削器(黒曜石)	
48-1	h34	カクラン	長さ 2.85 幅 1.85 厚さ 0.65 重さ 2.3	削器(黒曜石)	一部欠損
48-2	h34	カクラン	長さ 3.45 幅 1.7 厚さ 0.6 重さ 2.8	削器(黒曜石)	
48-3	h34	カクラン	長さ (2.05) 幅 (2.25) 厚さ 0.75 重さ (2.8)	削器(黒曜石)	
48-4	h34	カクラン	長さ 2.85 幅 4.45 厚さ 1.7 重さ 13.2	搔器(黒曜石)	
48-5	j34-18	Ⅲ	長さ 4.3 幅 4.8 厚さ 0.6 重さ 8.5	R・F(頁岩)	
48-6	i34	カクラン	長さ 4.05 幅 4.4 厚さ 0.65 重さ 7.3	R・F(頁岩)	
48-7	i34	カクラン	長さ 3.6 幅 3.3 厚さ 0.55 重さ 4.3	R・F(チャート)	
48-8	h34	カクラン	長さ 5.0 幅 4.35 厚さ 1.1 重さ 10.0	R・F(黒曜石)	
48-9	h34	カクラン	長さ 3.2 幅 3.25 厚さ 0.55 重さ 5.2	R・F(黒曜石)	
48-10	j34	カクラン	長さ 1.95 幅 3.0 厚さ 0.5 重さ 2.0	R・F(黒曜石)	
48-11	i34	カクラン	長さ 2.6 幅 2.4 厚さ 0.6 重さ 2.9	R・F(黒曜石)	
48-12	g34-14	Ⅱ	長さ 4.65 幅 2.65 厚さ 0.7 重さ 6.0	R・F(黒曜石)	
48-13	h34-16	Ⅱ	長さ 3.7 幅 2.2 厚さ 0.7 重さ 4.2	R・F(黒曜石)	
48-14	i34-10	Ⅱ	長さ 3.9 幅 2.65 厚さ 0.45 重さ 2.9	R・F(頁岩)	
48-15	i34-15	Ⅱ	長さ 4.0 幅 2.4 厚さ 0.8 重さ 3.8	R・F(黒曜石)	
48-16	i34-15	Ⅱ	長さ 3.85 幅 3.4 厚さ 1.1 重さ 11.0	R・F(黒曜石)	
48-17	i34-19	Ⅱ	長さ 3.1 幅 3.35 厚さ 0.85 重さ 5.8	R・F(チャート)	
48-18	j34-18	Ⅲ	長さ 3.0 幅 2.55 厚さ 0.4 重さ 2.4	R・F(チャート)	
48-19	j34-18	Ⅲ	長さ 3.0 幅 2.2 厚さ 0.6 重さ 2.1	R・F(黒曜石)	
49-1	h34-15	Ⅲ	長さ 13.8 幅 11.95 厚さ 8.0 重さ 1110	凹石(凝灰岩)	擦痕あり
49-2	h34-06	Ⅲ	長さ 16.5 幅 9.0 厚さ 4.9 重さ 651	凹石(凝灰岩)	
50-1	h34	カクラン	長さ 10.5 幅 1.1 厚さ 0.8 重さ 4.9	骨角器(中柄)	鯨骨製
50-2	i34	カクラン	長さ (9.3) 幅 1.3 厚さ 0.9 重さ (5.4)	骨角器(中柄)	鯨骨製 先端・基部欠損
50-3	g34	カクラン	長さ (5.4) 幅 (1.0) 厚さ (0.9) 重さ (3.0)	骨角器(中柄)	鯨骨製 先端・基部欠損
50-4	i34	カクラン	長さ (4.9) 幅 1.05 厚さ 1.0 重さ (2.6)	骨角器(中柄?)	鯨骨製 表面摩滅
50-5	g34	カクラン	長さ (3.3) 幅 (1.3) 厚さ (1.1) 重さ (2.1)	骨角器(中柄?)	鯨骨製 先端部欠損
50-6	h34	カクラン	長さ 3.2 幅 1.6 厚さ 0.8 重さ 1.7	骨角器	鯨骨製 未製品
50-7	g34	カクラン	長さ 4.65 幅 1.2 孔径 0.3 重さ 2.7	骨角器(針入れ)	鳥類骨製 表面摩滅
50-8	i34	カクラン	長さ (8.55) 径 0.6 重さ (2.4)	骨角器(編針?)	鹿角製 先端部欠損
50-9	i34	カクラン	長さ 2.1 幅 2.85 厚さ 0.45 重さ 2.3	不明骨角製品	鹿角製 線刻あり
50-10	h34-25	Ⅱ	径 0.8 孔径 0.1 厚さ 0.55 重さ 0.3	ガラス玉	くすんだ赤色
50-11	h34-25	Ⅱ	径 0.8 孔径 0.1 厚さ 0.55 重さ 0.3	ガラス玉	くすんだ赤色
50-12	h34-25	Ⅱ	径 0.8 孔径 0.1 厚さ 0.55 重さ 0.3	ガラス玉	くすんだ赤色
50-13	h34-25	Ⅱ	径 0.8 孔径 0.1 厚さ 0.6 重さ 0.4	ガラス玉	くすんだ赤色
50-14	h34-25	Ⅱ	径 0.8 孔径 0.1 厚さ 0.55 重さ 0.3	ガラス玉	くすんだ赤色
50-15	h34-25	Ⅱ	径 0.75 孔径 0.1 厚さ 0.55 重さ 0.3	ガラス玉	くすんだ赤色
50-16	h34	カクラン	長さ 3.85 火皿径 1.1 火皿高 0.7 管径 1.0	煙管(雁首)	銅製
50-17	h34	カクラン	長さ 7.0 吸口径 0.7 管径 1.05	煙管(吸口)	銅製 線刻あり
50-18	h35-02	Ⅱ	長さ (3.8) 吸口径 0.9 管径 (1.1)	煙管(吸口)	陶製
50-19	j34	カクラン	長さ 11.6 幅 2.45 厚さ 0.15	櫛	銅製
50-20	h34	カクラン	長さ 2.5 幅 1.2 厚さ 0.8	泥面子	

口絵掲載漆器類

掲載No	出土遺構	名称・分類	備考
口絵20	P-27	漆器椀	第13図-8
口絵20	P-29	漆器膳	第14図-6
口絵20	P-29	漆器椀	第14図-7

大川遺跡迂回路地点

第III章 迂回路地点

1. 概要

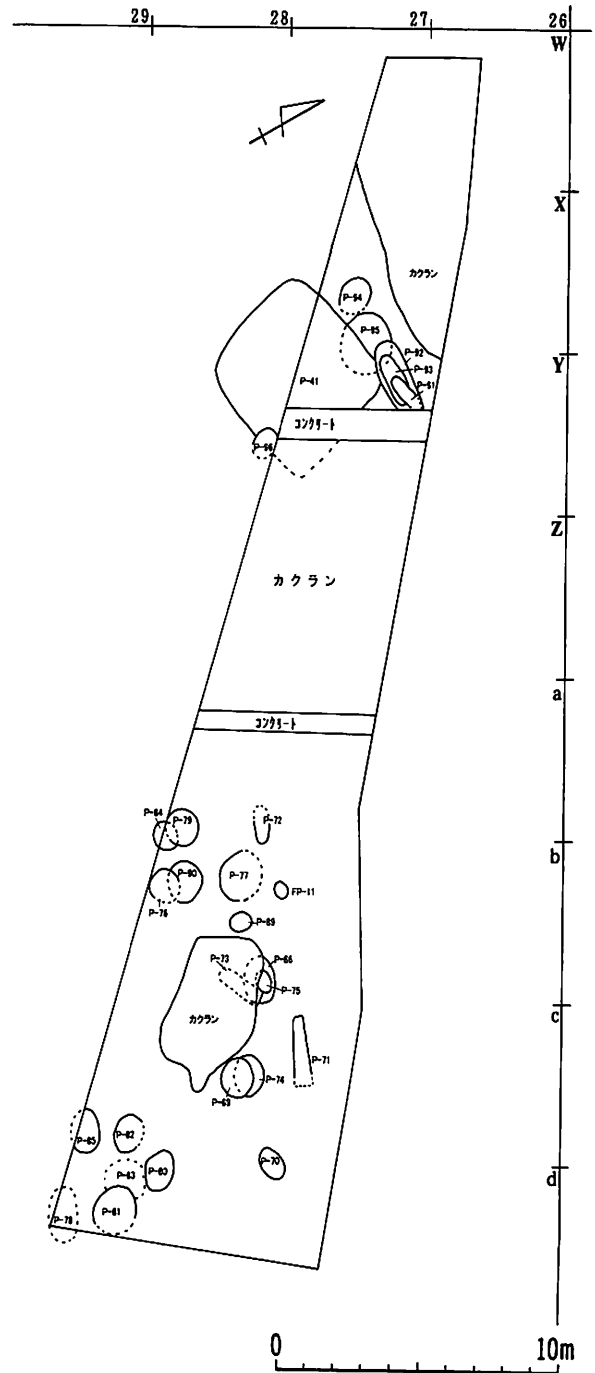
2000年度大川遺跡迂回路地点からは、1999年度に検出したP-41の北東側を確認した他、縄文時代晩期から続縄文時代にかけての墓壙5基、続縄文時代恵山期の墓壙3基、中・近世に属する墓壙1基、近世に属する墓壙4基、縄文時代晩期から続縄文時代にかけての土壙1基、続縄文時代後北期の土壙1基、近世に属する土壙1基、近代に属する土壙1基、時期不明の土壙9基が検出されている。

縄文時代晩期から続縄文時代にかけての墓壙は遺体の遺存状態が悪く、頭位が明確なものとは確認されなかった。

中世については1999年度に引き続きP-41が確認された。壙底より焼骨が検出されたが、散乱した状態であり明確な頭位は不明である。太刀・刀子・骨鏃・鉄鏃・北宋銭・漆器椀等が伴出している。

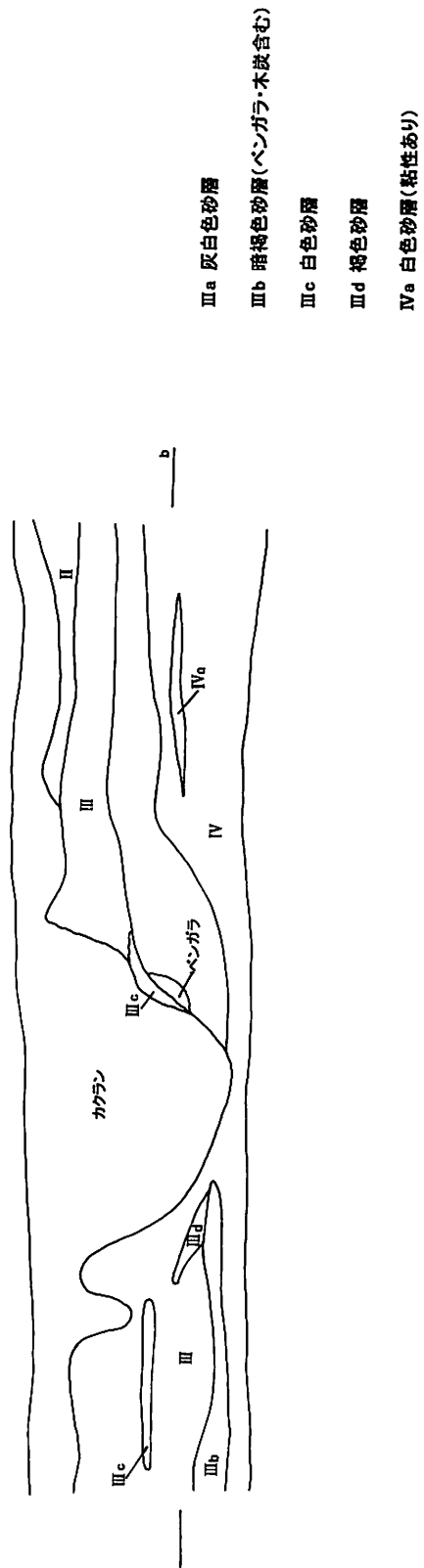
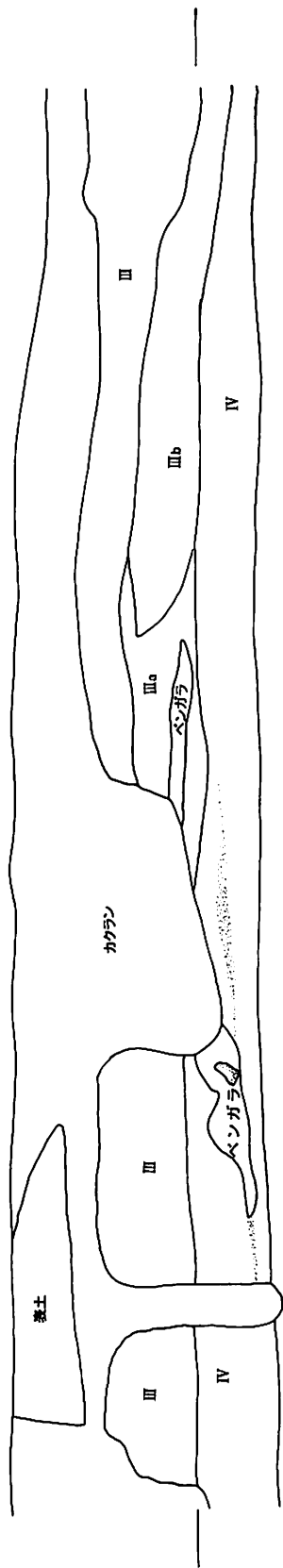
近世に属する墓壙については頭位方向が東北東から南東の幅があると思われる。P-93は時期を明確にする遺物は確認されなかったが、検出層位等から中・近世に属する可能性がある。

遺物の総数は土器 3,372 点、石器 54 点、剥片 456 点、陶磁器 2,156 点、骨角器 33 点、漆器 16 点、古銭 15 点、金属製品 45 点、その他 46 点の縄文時代晩期から近代にかけての遺物 6,193 点が出土しているが、主体となる遺物は続縄文時代に属するものである。



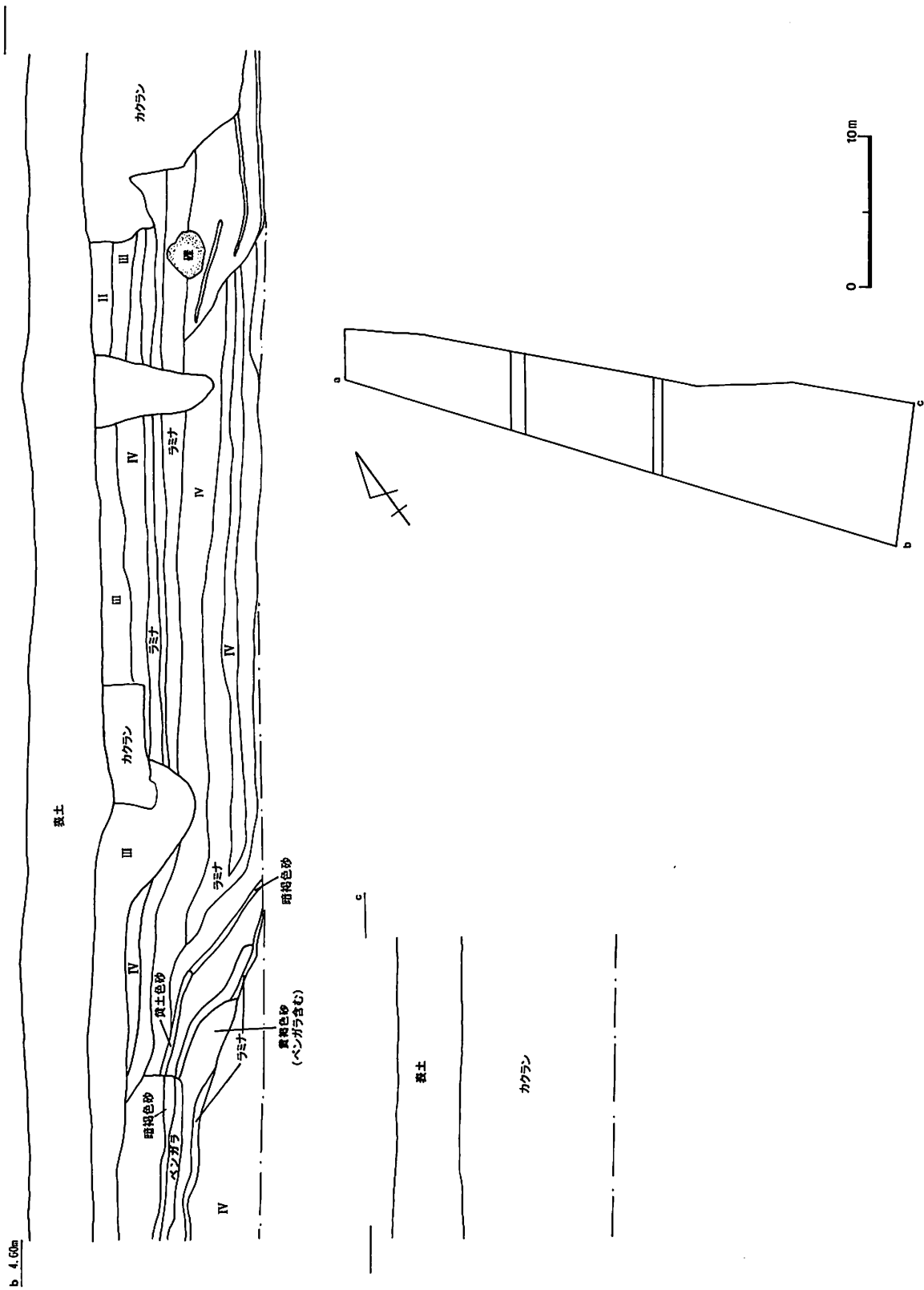
第51図 迂回路地点 遺構配置図

東西土層断面図



- IIIa 灰白色砂層
- IIIb 暗褐色砂層(ベンガラ・木炭含む)
- IIIc 白色砂層
- IIId 褐色砂層
- IVa 白色砂層(粘性あり)

第53図 発掘区土層断面図(2)



第54図 発掘区土層断面図 (3)

2. 遺構と出土遺物

P-41 (第55～67図)

X27・28、Y27・28グリッドに位置する墓壙で、1999年度の発掘調査において南西側約1/2が確認されている。

墓壙の平面形は約4.8×4.4mの隅丸方形を呈するものであり、長軸方向は北西―南東である。壙底には偏平な角礫が敷き詰められている(第57図)。角礫が配置された後に墓壙の周縁部が灰白色砂によって埋められ、長さ約0.4m、幅0.2mほどのクリの板材を方形に組み合わせた約3m四方の木枠がその上に配置される。木枠に沿って角礫が配置され(第55図)、その内側に遺体と太刀・刀子・青磁碗や漆器・骨角器等の副葬品(第58～67図)が配置されている。遺体と副葬品は配置後に焼成されていると思われ、焼成後には墓壙全体を暗褐色砂等で埋めている。墓壙はマウンド状を呈していた可能性があるが判然としない。

木枠内には頭蓋骨片が2ヶ所に見られ、その周辺から他の部位と思われる人骨片が多量に検出されていることから2体以上の合葬と考えられる(第56図)。これらの多量の骨片であるが、被熱による変形や破砕のために明確な部位は確認されなかった。頭蓋骨片の位置などから頭位は東北東と南南東の可能性はあるが判然としない。

第58図2・3は刀子であり、意図的に曲げられていると思われる。漆器碗とともに各人骨に伴って配置されているが、その置かれた方向は約90度の差がある。第59図21・22～第62図は端部を加工した骨角製の柄に三角形の鉄鏃を差し込み鋌状の金属で固定しているもので、木枠の東部より先端を北に向けまとめられた状態で出土している。

第63図44～57、第64図60～80・83、第65図、第66図109～117は骨鏃と思われ被熱により変形している。逆刺しが作出されているもの(第63図51・52、第64図60～80・83)と作出されていないもの(第63図44～48・53、第65図86～94、100～104)がある。類似する資料は千歳市末広遺跡墓壙、上ノ国町勝山館、伊達市オヤコツ遺跡方形配石墓等より出土しており、本資料は逆刺しが抉り込むように作出されている。

第36図14は元祐通寶と思われる古銭で、北東側より検出した人骨の頭部付近より出土している。第59図15～20は刀装具と思われる金属製品で、15は石突、16・17は座金、18は鋌、19・20は対の状態出土した目貫である。

第58図7は砥石で、自然礫の一面を使用しており、被熱のためか破砕している。第66図119～121は青磁碗で、119・120は鎬蓮弁文が、121は双魚文が施されている。

青磁碗などから14世紀に属する火葬墓と思われ、伊達市オヤコツ遺跡より検出された2基の方形配石墓に形態や伴出遺物が類似しており、関連性が窺える。

P-69 (第68図)

c28グリッドに位置する。長軸方向は北―南であり約1.2×1.0mの楕円形を呈する土壙である。覆土及び壙底より第VI群に属する陶磁器片や鉄製品とともにイガイ・コタマガイ・獣骨等が検出されている。近代に属する廃棄壙の性格を持つ土壙と思われる。

P-70 (第68図)

c 27・28、d 27・28 グリッドに跨がり位置する。長軸方向は北東-南西であり、約1.0×0.8mの楕円形を呈する土壙である。伴出遺物は確認されず、時期不明の土壙である。

P-71 (第69図)

c 27グリッドに位置する。約2.0×0.7mの隅丸長方形を呈する墓壙である。頭位方向は南東で、遺体の胴部左側に刀子と漆器椀が各1点、足元には漆器椀3点が配置されている。近世に属するアイヌ墓と思われる。

a28-
P-72 (第69図)

V b 28グリッドに位置する。北西-南東に長軸を持つ楕円形を呈すると思われる墓壙である。頭位は南東で、遺体は側臥屈葬の様相を呈しているが、墓壙の北西側が攪乱により失われているため判然としない。遺体胴部右側に漆器椀が配され、その下には煙管の吸口が置かれている。近世に属する墓壙である。

P-73 (第71図)

b 28グリッドに位置する墓壙である。攪乱により北東側の一部を残すのみで、平面形は隅丸長方形を呈すると思われる。遺体の一部と思われる骨とともに行器(シントコ)と思われる漆製品と金属製品が出土している。近世に属するアイヌ墓と思われる。

P-74 (第70図)

c 28グリッドに位置する。直径約1.0mの円形を呈すると思われる土壙である。P-69完掘後、Ⅲ層中より検出された。壙底より石錐や砥石や礫が出土している。また、コハク玉が1点出土したが、取り上げた後に風化により崩壊したため、図示していない。縄文時代晩期から続縄文時代に属する土壙と思われる。

P-75 (第71図)

b 28グリッドに位置する。長軸を北東-南西に持つ約1.0×0.8mの楕円形を呈すると思われる土壙である。P-86を切って構築されており、西側は攪乱により失われている。伴出遺物は確認されず、時期不明の土壙である。

P-76 (第71図)

b 28グリッドに位置する。長軸を北北東-南南西に持つ約1.2×1.0mの楕円形を呈する土壙である。P-90を切って構築されている。伴出遺物は確認されず、時期不明の土壙である。

P-77 (第72図)

b 28グリッドに位置する。直径約1.6mの円形を呈する墓壙である。北側を攪乱等により失っている。墓壙中央には礫が配され第Ⅱ群b類に属する深鉢形土器や石斧が出土して

おり、遺体の痕跡の一部も確認された。続縄文時代恵山期に属する墓壙である。

P-78 (第73図)

d 29グリッドに位置する。長軸を北西-南東に持つ約 1.4×1.2mの楕円形を呈する墓壙である。墓壙北側には礫が配されている。壙底よりベンガラが検出されているが、明確な遺体の痕跡は確認されなかった。また壙底には石鏃・削器・フレイク等が不規則に配置されている。縄文時代晩期から続縄文時代に属する墓壙と思われる。

P-79 (第74図)

a 28グリッドに位置する。長軸を北北東-南南西に持つ約 1.2×1.0mの楕円形を呈する土壙である。覆土より角礫と第Ⅱ群b類に属する土器片が出土しているが、伴出遺物は確認されず、時期不明の土壙である。

P-80 (第74図)

a 28、b 29グリッドに跨がり位置する。長軸を北北西-南南東に持つ約 1.2×1.0mの楕円形を呈する土壙である。壙底より角礫が出土したが、他に伴出遺物は確認されず、時期不明の土壙である。

P-81 (第75図)

d 29グリッドに位置する。直径約 1.4 mの円形を呈する土壙である。P-83を完掘後にⅢ層中より検出された。覆土より第Ⅱ群b類に属する土器片と敲石やR・Fが出土したが、伴出遺物は確認されず、時期不明の土壙である。

P-82 (第76図)

c 28・29グリッドに位置し、直径約 1.0 mの円形を呈する土壙である。覆土より続縄文時代に属する土器片と石鏃が出土しているが、伴出遺物は確認されず、時期不明の土壙である。

P-83 (第76図)

c 28、d 28グリッドに位置する。長軸を北西-南東に持つ約 1.6×1.4mの楕円形を呈すると思われる墓壙である。壙底より直径約 2.0cmと同約 0.8cmのコハク製平玉 2点が出土している。縄文時代晩期後葉から続縄文時代に属する墓壙と思われる。

P-84 (第77図)

c 28、d 28グリッドに位置する。長軸を北西-南東に持つ約 1.0×0.8mの楕円形を呈する土壙である。P-79を完掘後にⅢ層中より検出された。覆土より第Ⅱ群に属する土器片が出土しているが、伴出遺物は確認されず、時期不明の土壙である。

P-85 (第77図)

c 29グリッドに位置する。長軸を北西-南東に持つ約 1.3×1.1mの楕円形を呈する墓壙である。東側は攪乱を受けている。壙底より削器が出土しており、検出状況から縄文時代晩期から続縄文時代にかけての墓壙と思われる。

P-86 (第78図)

b 28グリッドに位置する。直径約 1.5 mの円形を呈すると思われる土壙である。P-73を完掘後にⅢ層中より検出された。東側をP-75により切られ、南西側は攪乱により失われている。覆土より碧玉製管玉片2点が出土しており、続縄文時代の墓壙の可能性が高い。

P-89 (第78図)

b 28グリッドに位置し、直径約 0.8 mの円形を呈する墓壙である。壙底より2点の礫と第Ⅱ群b類に属する壺形土器が出土している。続縄文時代恵山期に属する墓壙である。

P-90 (第79図)

b 28グリッドに位置する。長軸を北北東-南南西に持つ約 1.4×1.2mの楕円形を呈する土壙である。南側をP-76に切られている。覆土より第Ⅱ群に属する土器片が出土しているが、伴出遺物は確認されず、時期不明の土壙である。

P-91 (第79図)

Y27グリッドに位置する。長軸を東北東-西南西に持つ楕円形を呈すると思われる墓壙である。P-92を切って構築されており、東側は攪乱を受けている。壙底より刀子・漆器椀・青色のガラス玉とともに切断された可能性のある煙管が出土している。遺体は遺存状態が悪く明確には確認されなかった。近世に属する墓壙と思われる。

P-92 (第80図)

Y27グリッドに位置する。長軸を東-西に持つ約 2.4×1.0mの楕円形を呈する土壙である。P-41の北東隅を切って構築されており、上面をP-91に切られている。伴出遺物は確認されなかったが、検出状況から近世に属する土壙と思われる。

P-93 (第81図)

Y27グリッドに位置する。長軸を東-西に持つ約 1.6×0.8mの楕円形を呈する墓壙である。墓壙上面をP-92に切られている。頭位は東で、遺体胸部と思われる位置より刀子、胴部左側より鉄製品が出土している。中・近世に属する墓壙と思われる。

P-94 (第82・83図)

X27グリッドに位置する。直径約 1.4mの円形を呈する土壙である。覆土より第Ⅱ群c類に属する土器、壙底より削搔器、石斧、R・F等が出土している。遺物等から続縄文時代後北式期に属する土壙と思われる。

P-95 (第84・85図)

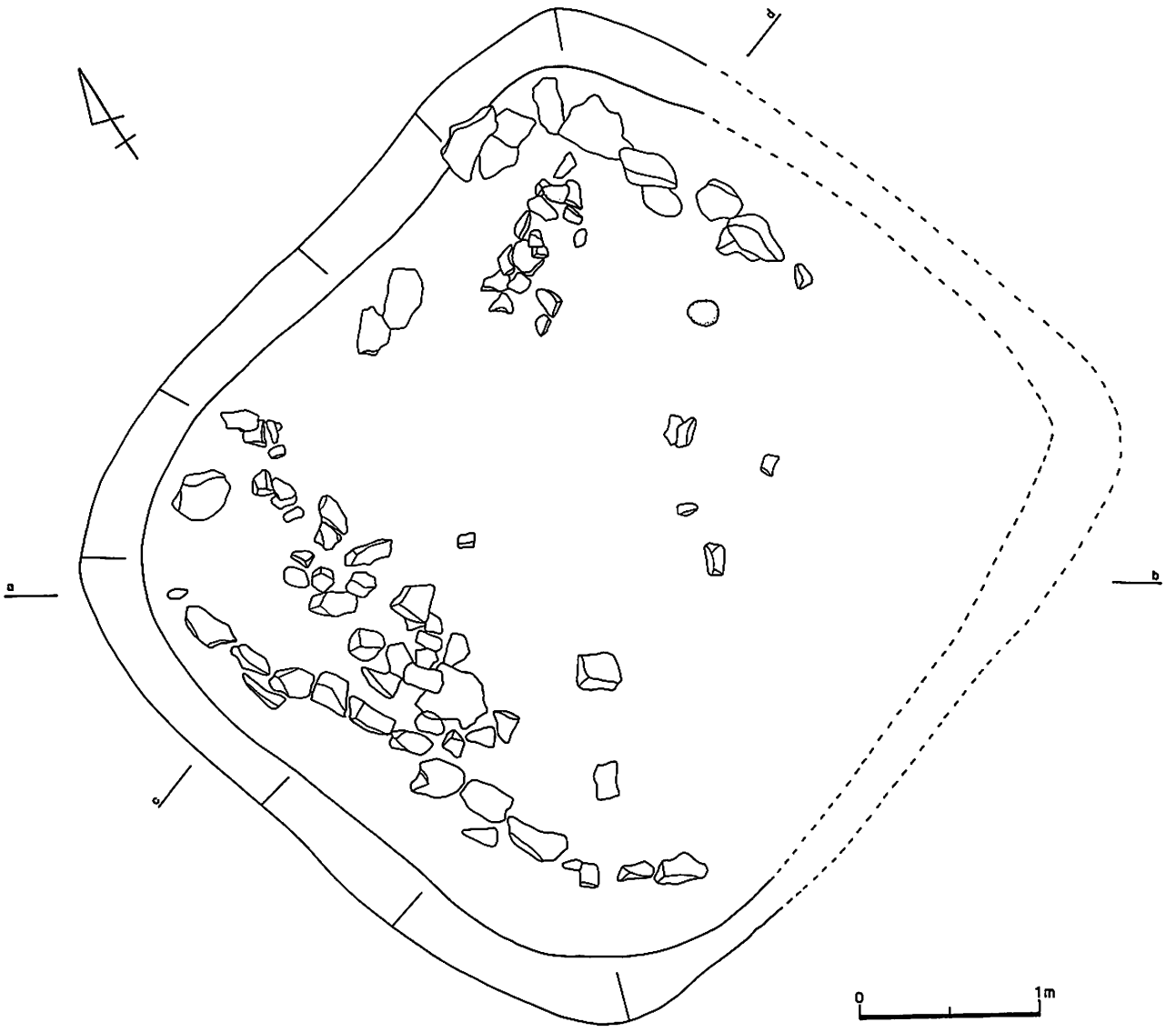
X27、Y27グリッドに位置する。直径約1.9mの円形を呈する墓壙である。2体分の遺体が埋葬されている可能性があるが判然としない。墓壙北側に礫と石鏃が配され、南東側には第Ⅱ群b類に属する深鉢形土器2点と石斧や石英フレイクが配置されている。歯片の位置から頭位は北方向の可能性があるが判然としない。続縄文時代恵山期に属する墓壙である。

P-96 (第81図)

Y28グリッドに位置する。長軸を北北西-南南東に持つ約1.0×0.6mの楕円形を呈すると思われる墓壙である。墓壙上面をP-41に切られ、南東側は攪乱により失われている。覆土より石鏃が出土しているが、伴出遺物は確認されなかった。縄文時代晩期から続縄文時代に属する可能性がある。

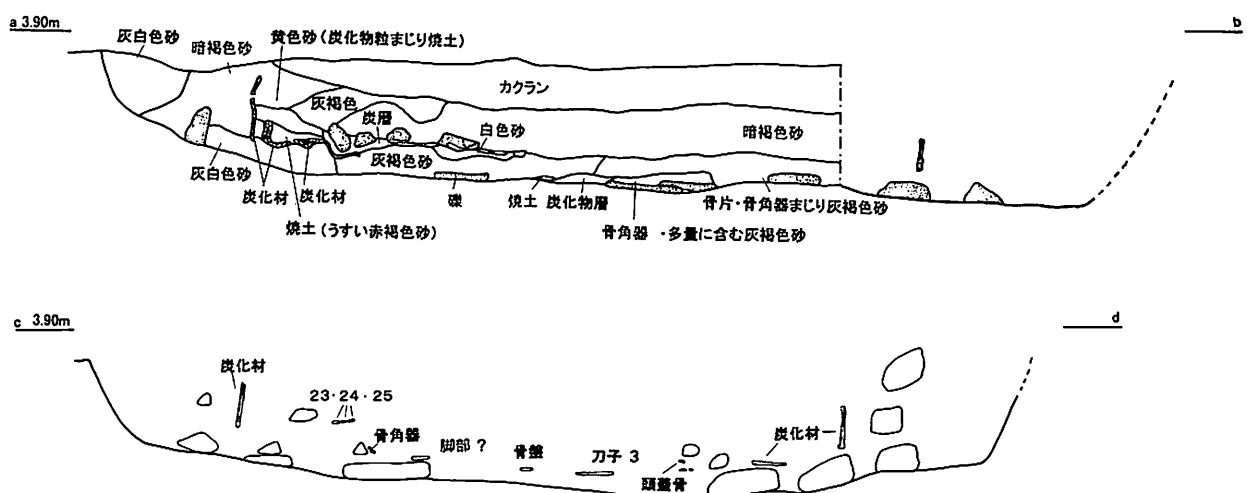
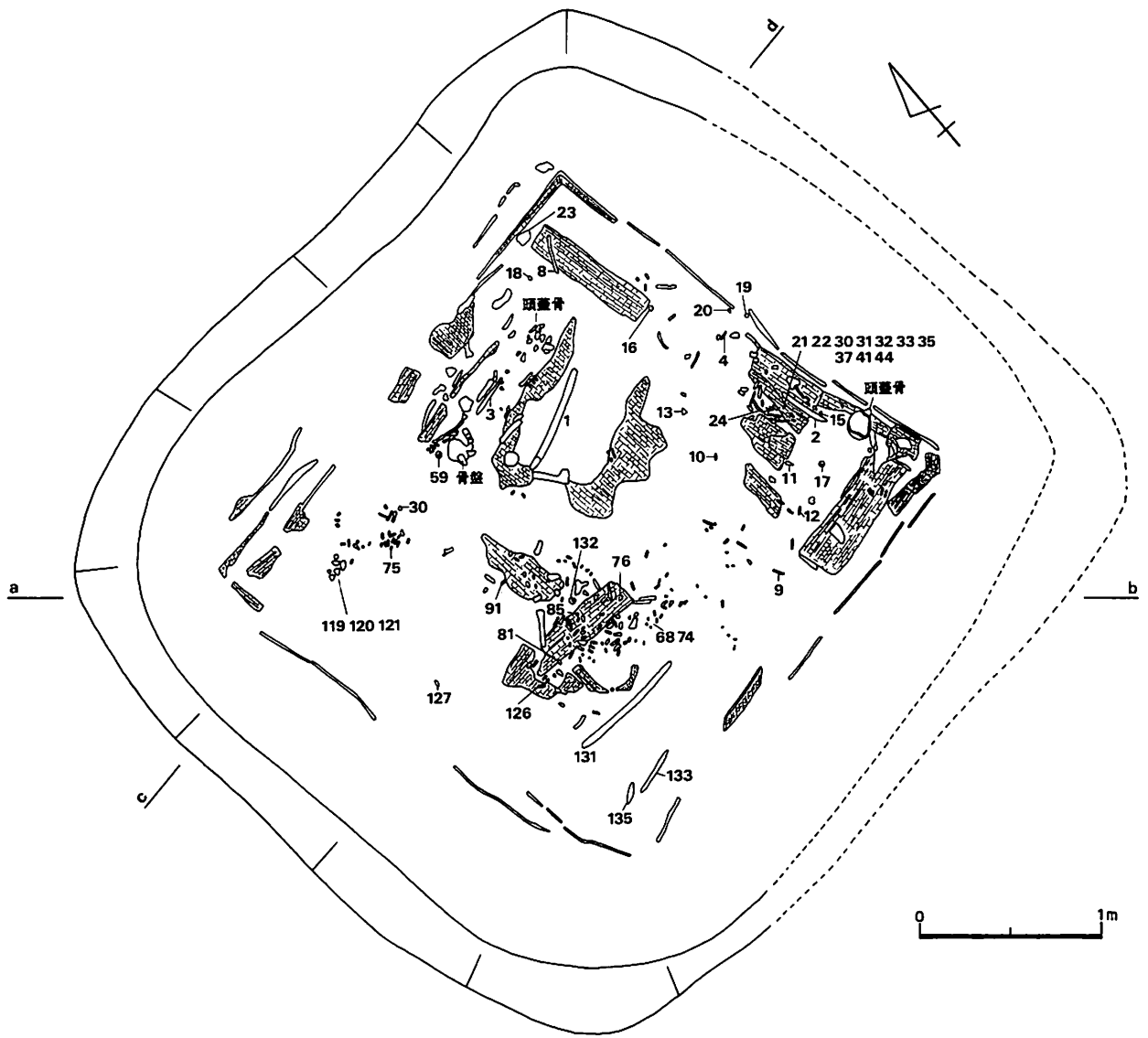
以上が出土した墓壙および土壙の説明であるが、P-87・88については発掘時に遺構番号を付したが、調査の結果、明確でないために遺構から除外したために欠番とした。

P-41



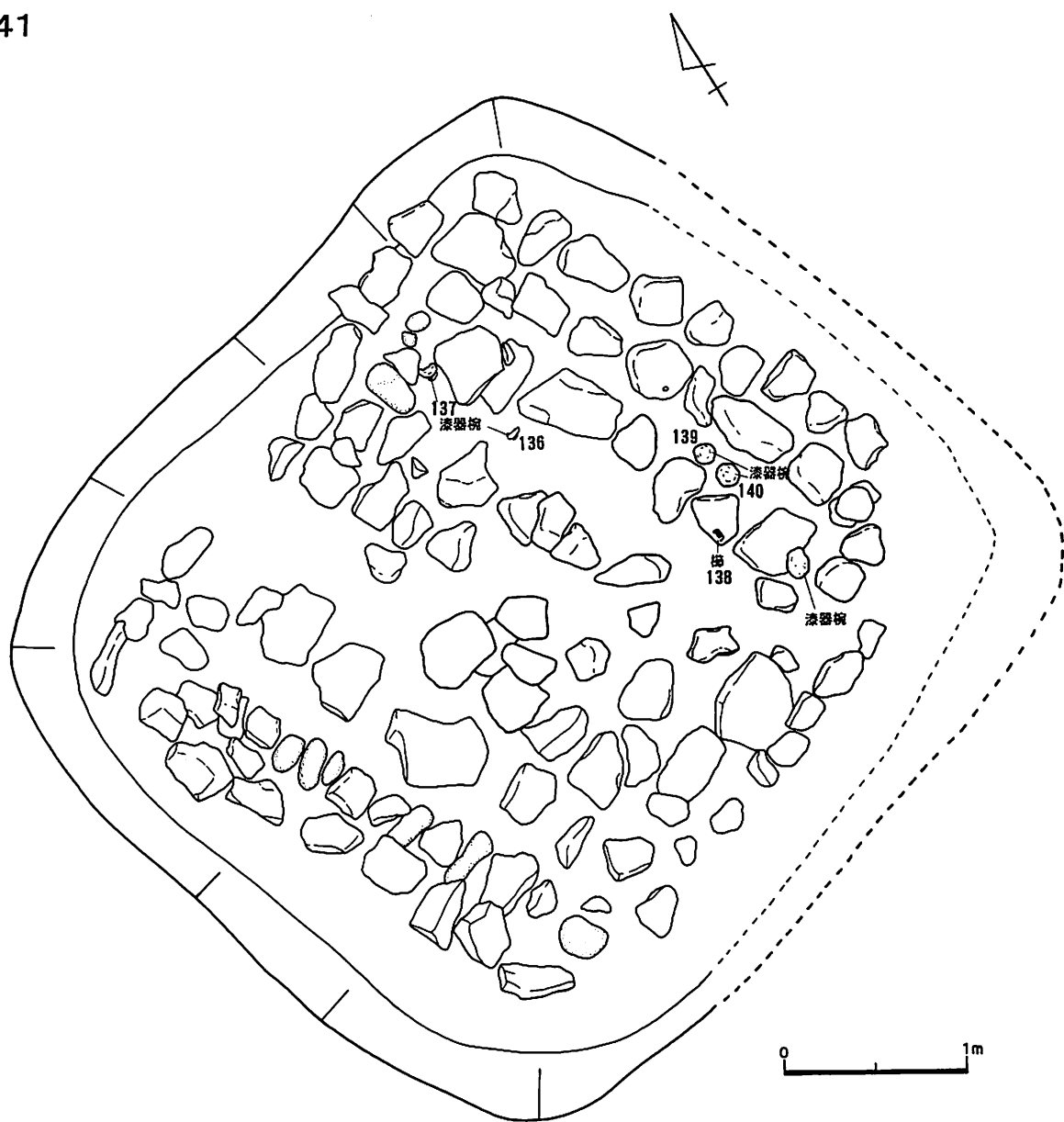
第55図 P-41 上面配石検出状況

P-41



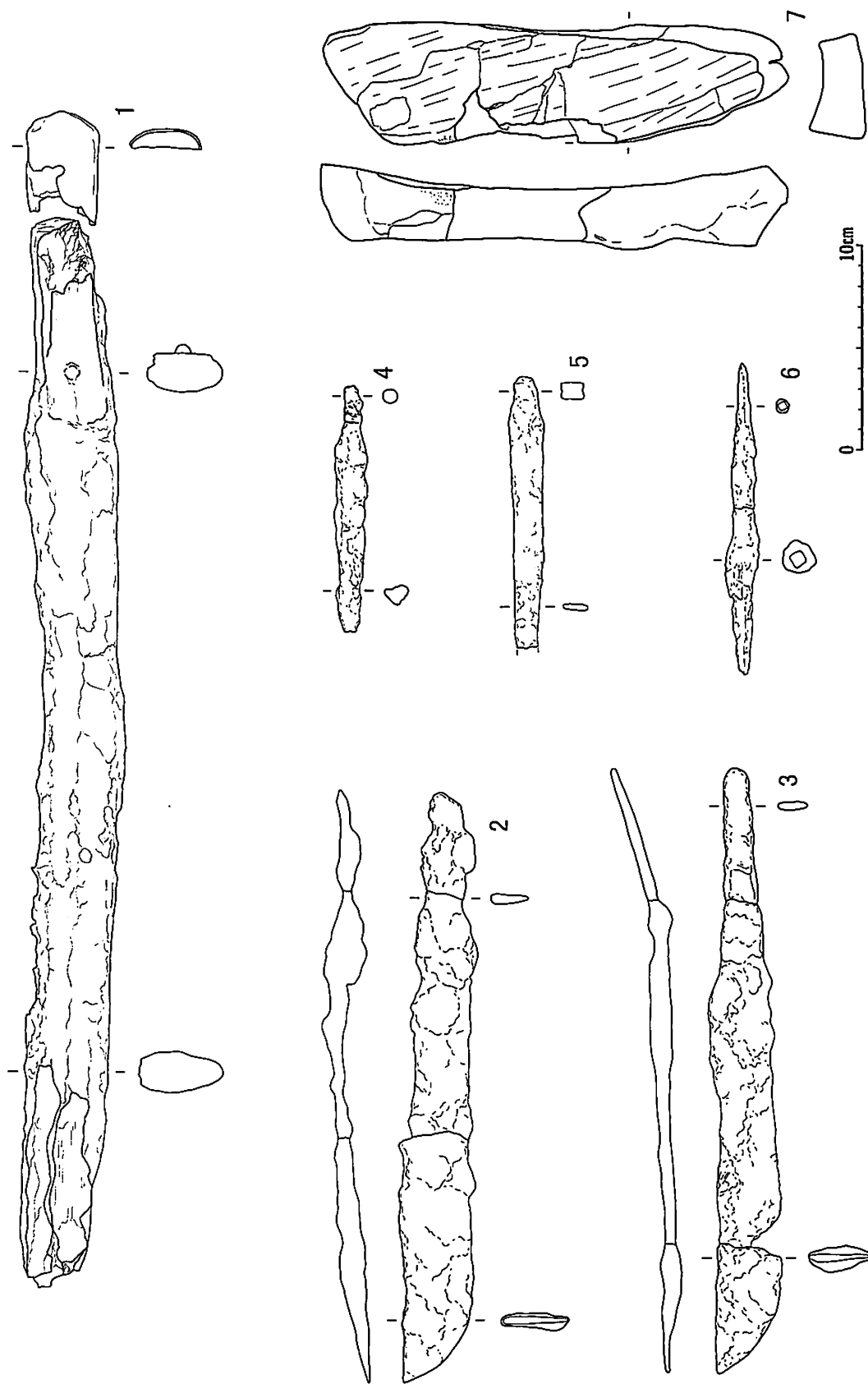
第56図 P-41 遺物出土状況

P-41



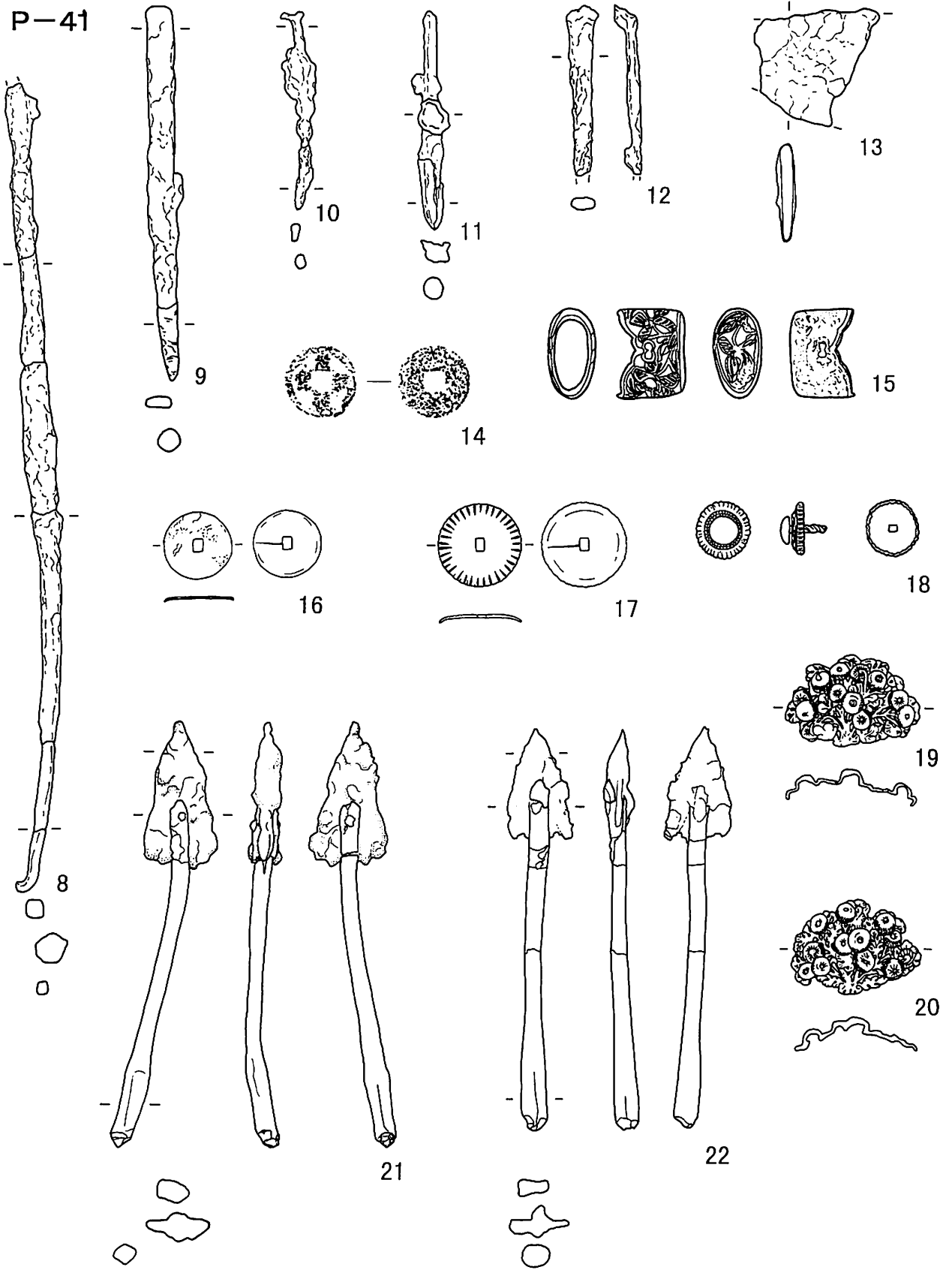
第57図 P-41 下面敷石検出状況

P-41



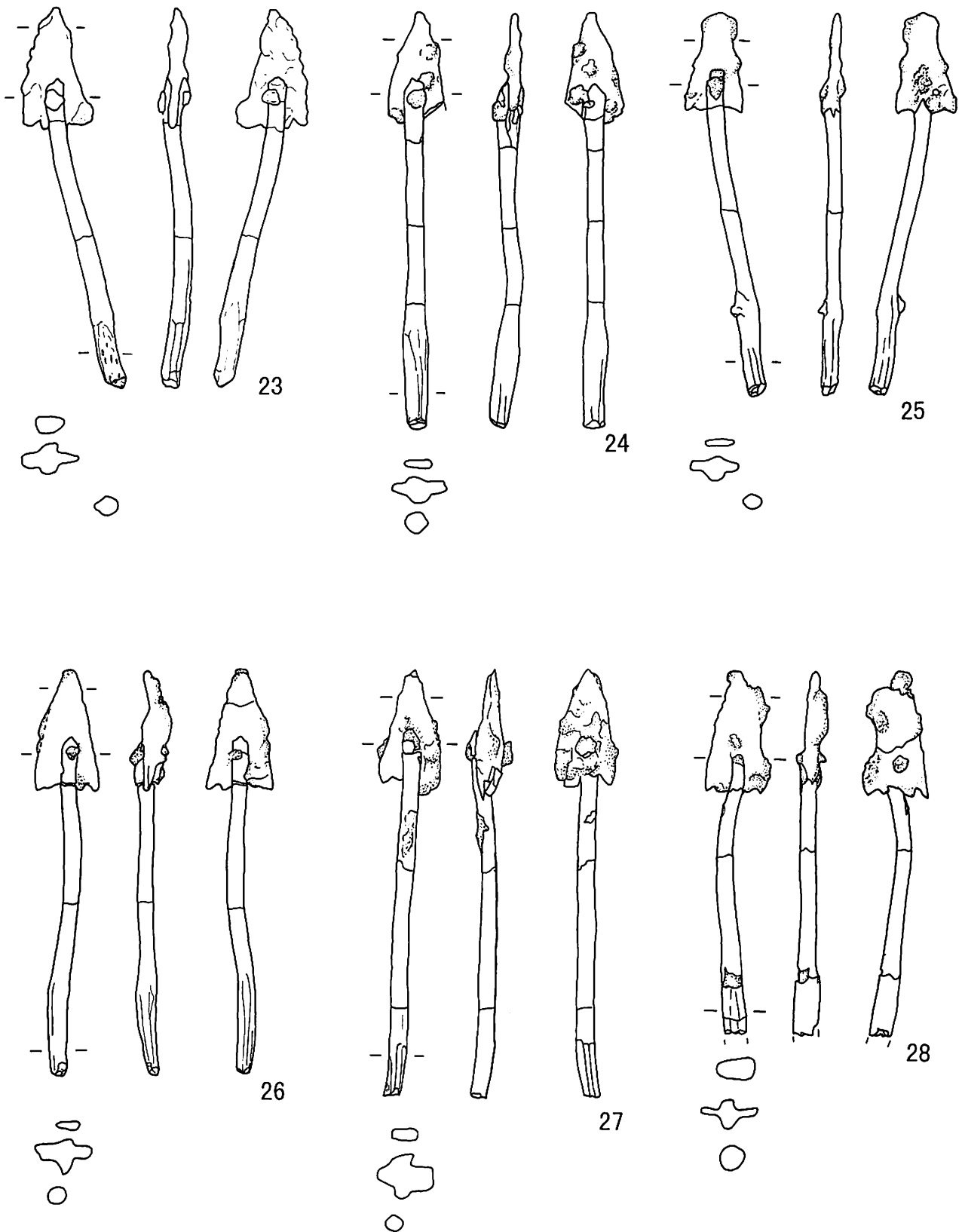
第58図 P-41 出土遺物 (1)

P-41



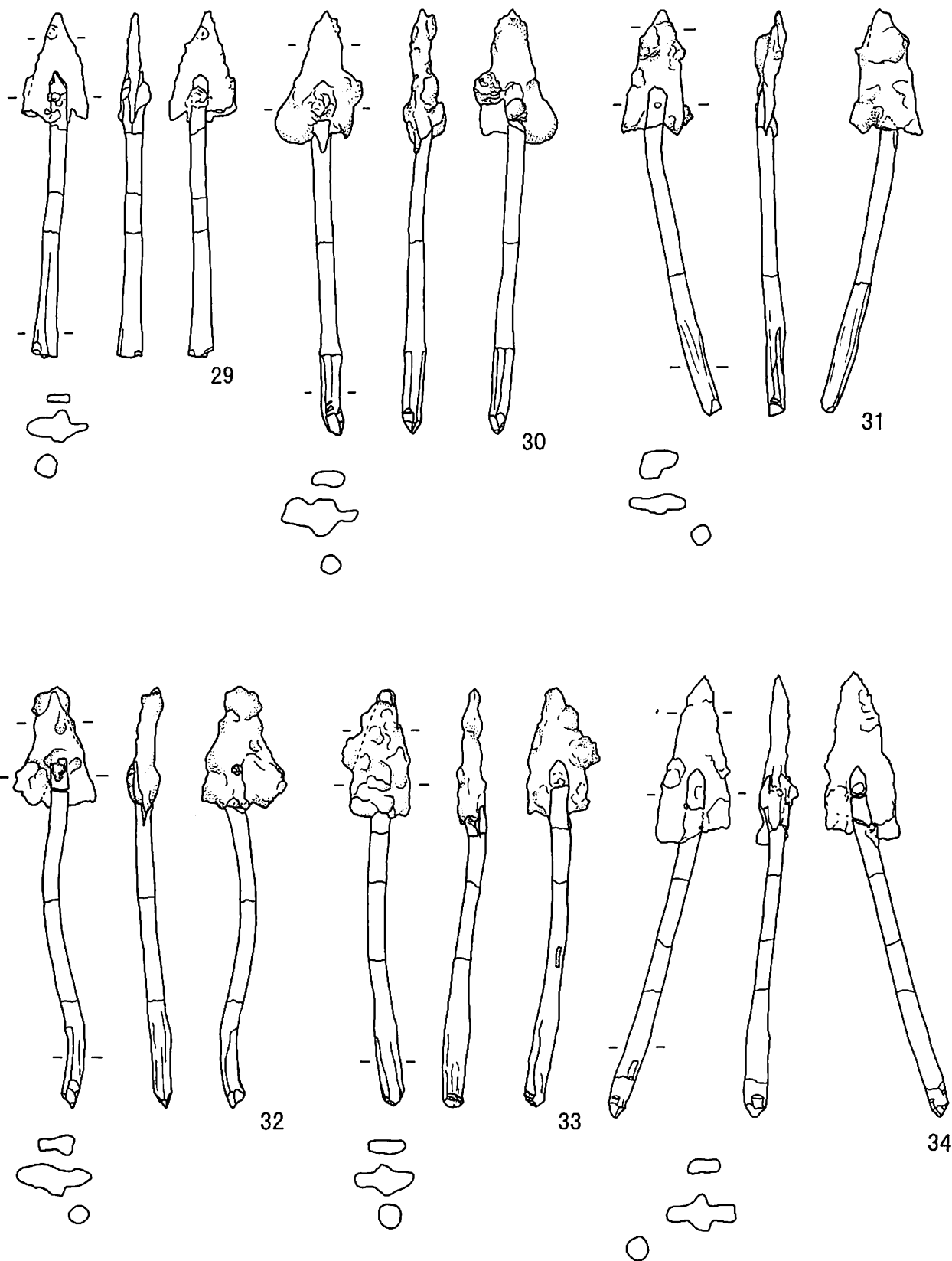
第59图 P-41 出土遺物 (2)

P-41



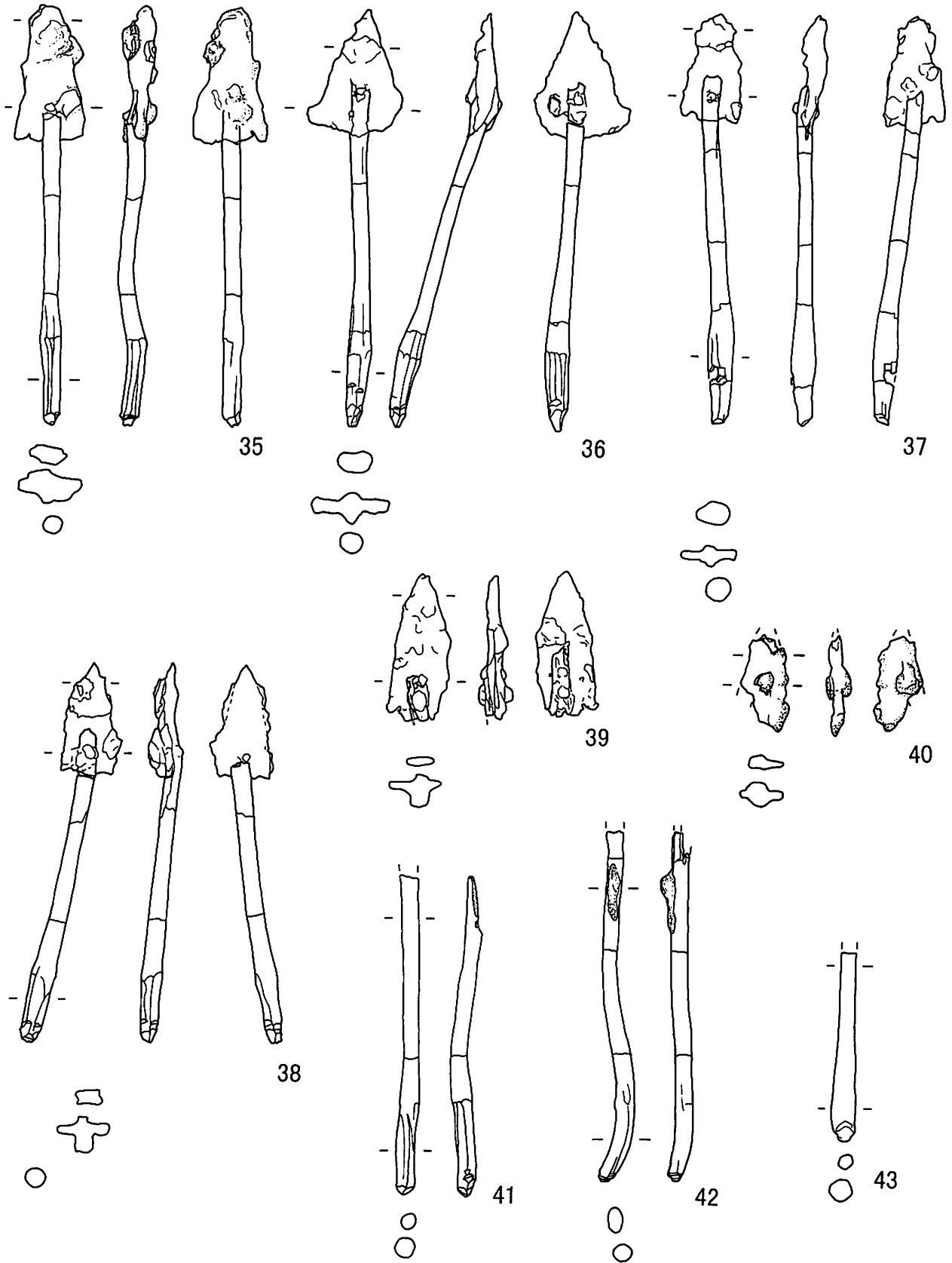
第60图 P-41 出土遺物 (3)

P-41



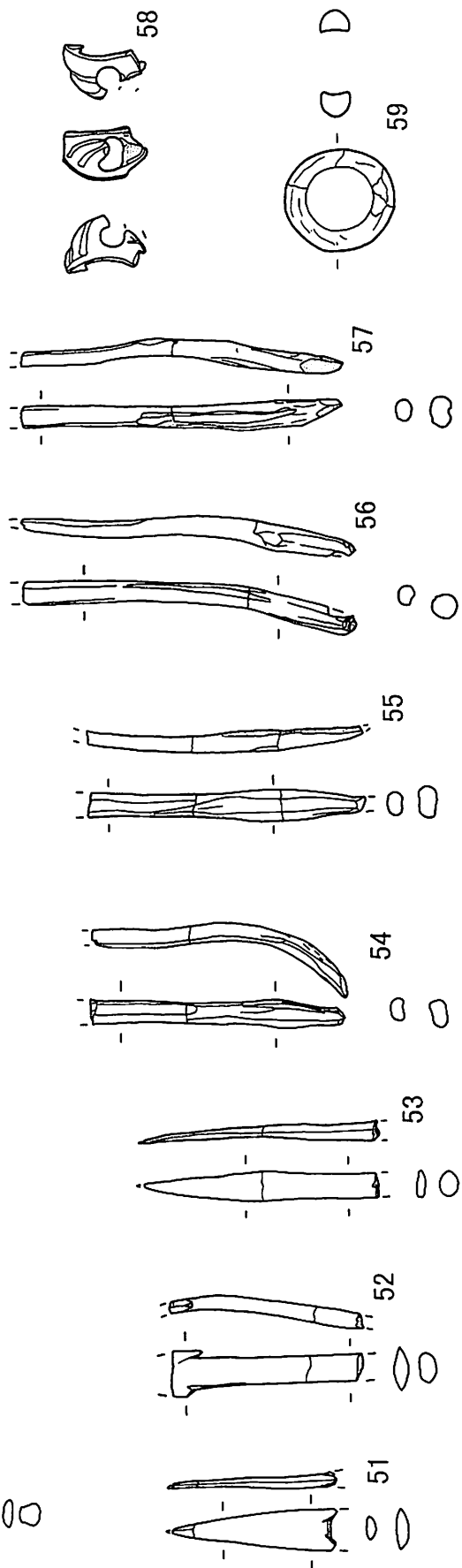
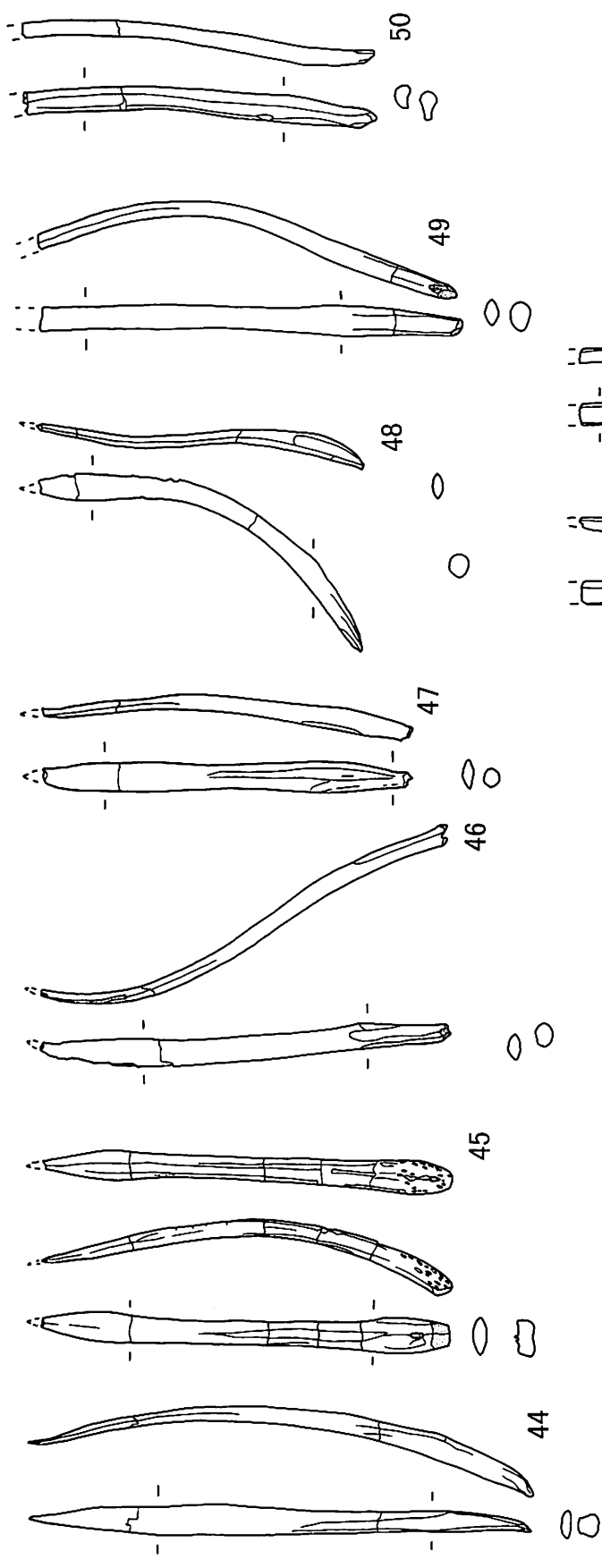
第61图 P-41 出土遺物 (4)

P-41



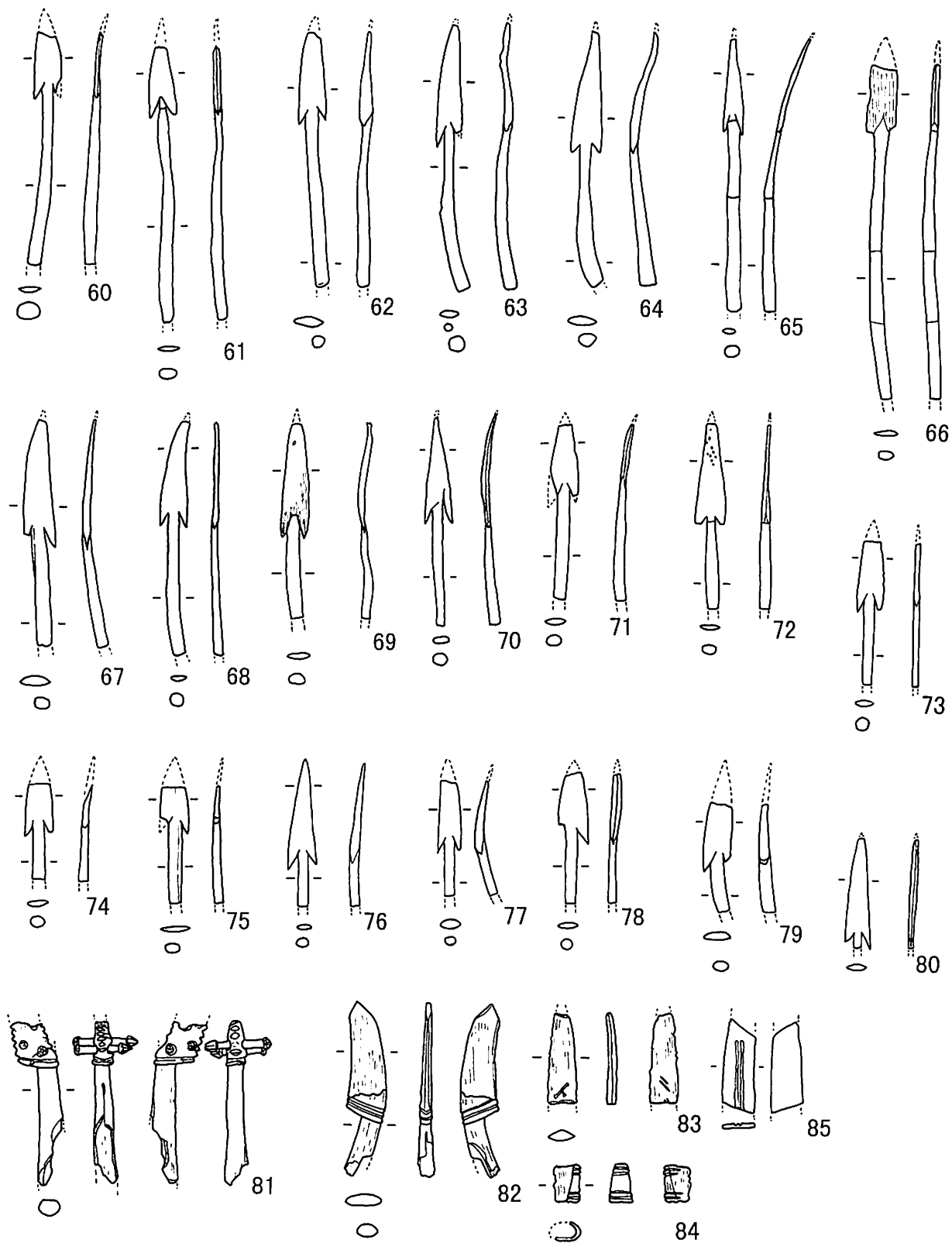
第62图 P-41 出土遗物 (5)

P-41



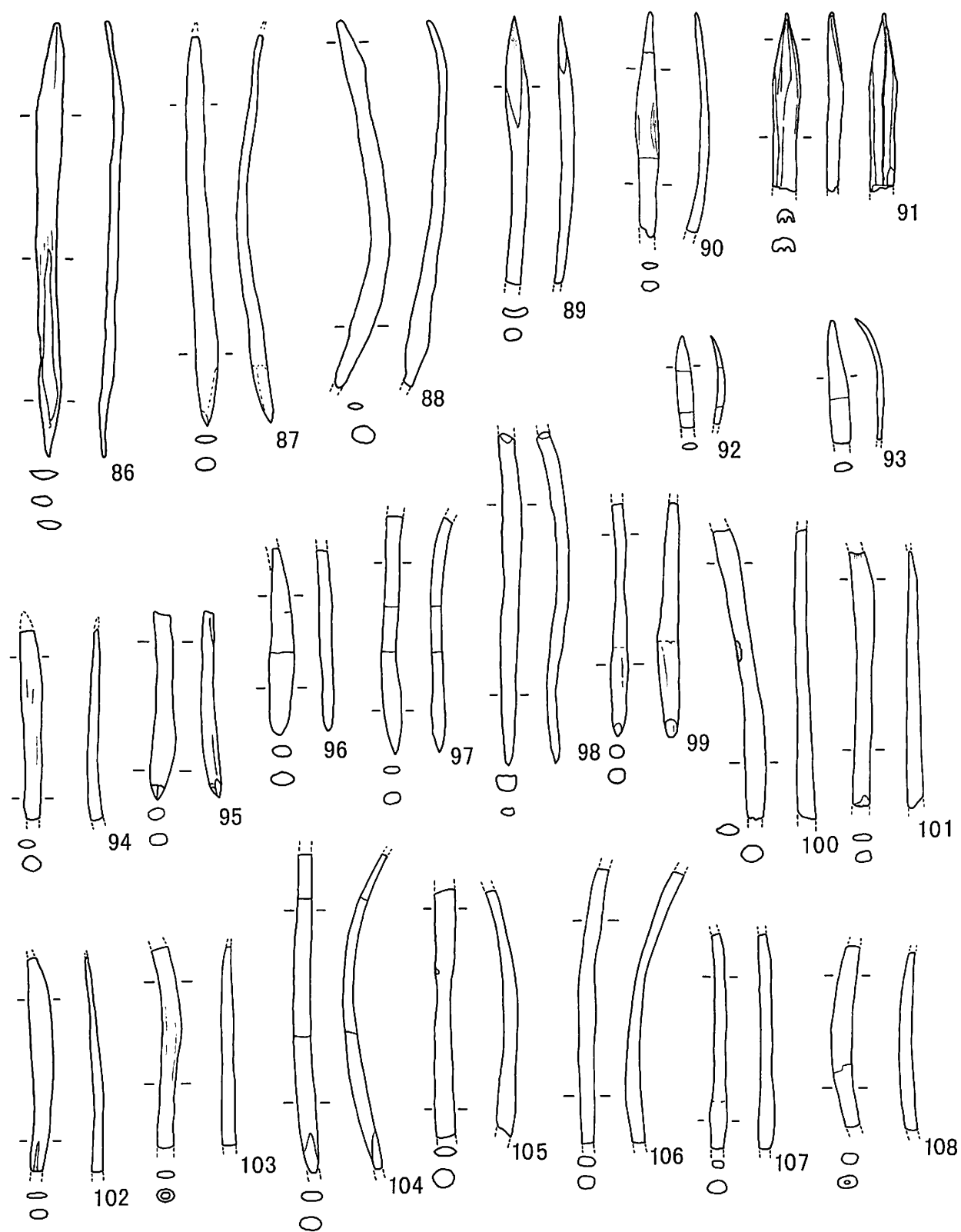
第63图 P-41 出土遺物 (6)

P-41



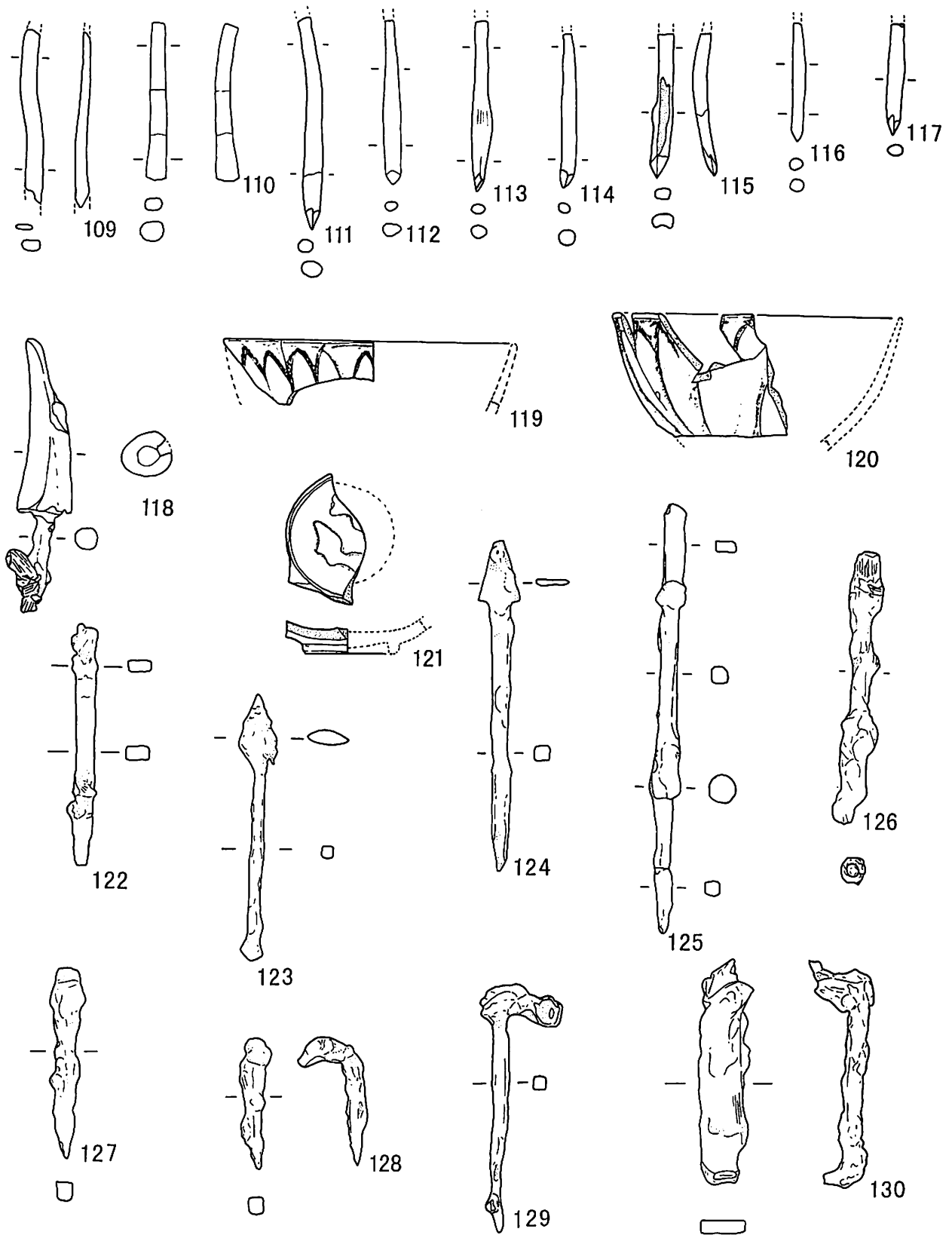
第64图 P-41 出土遺物 (7)

P-41

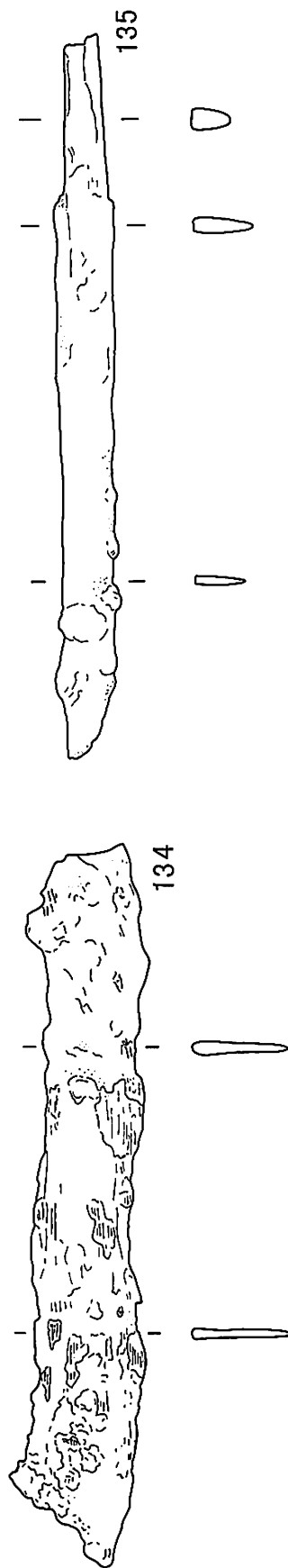
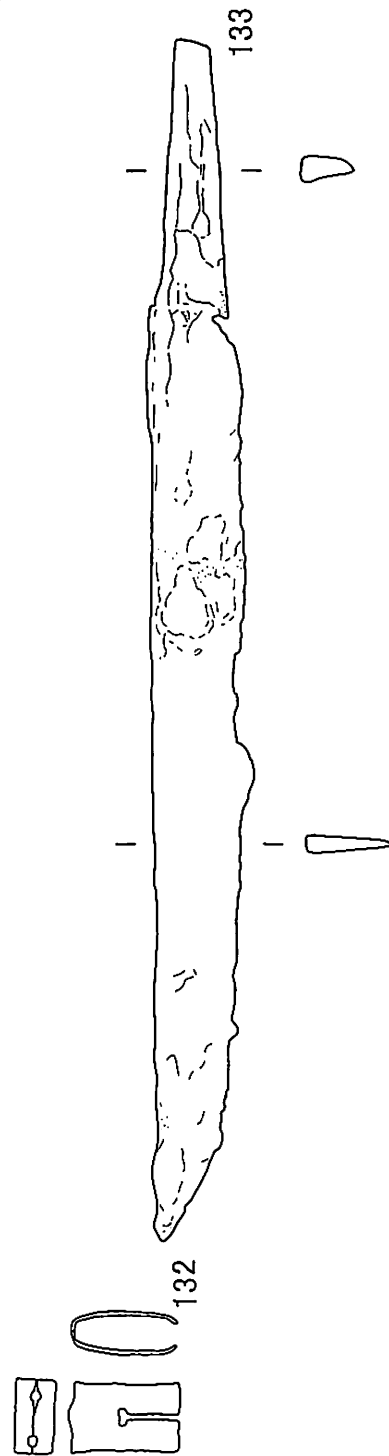
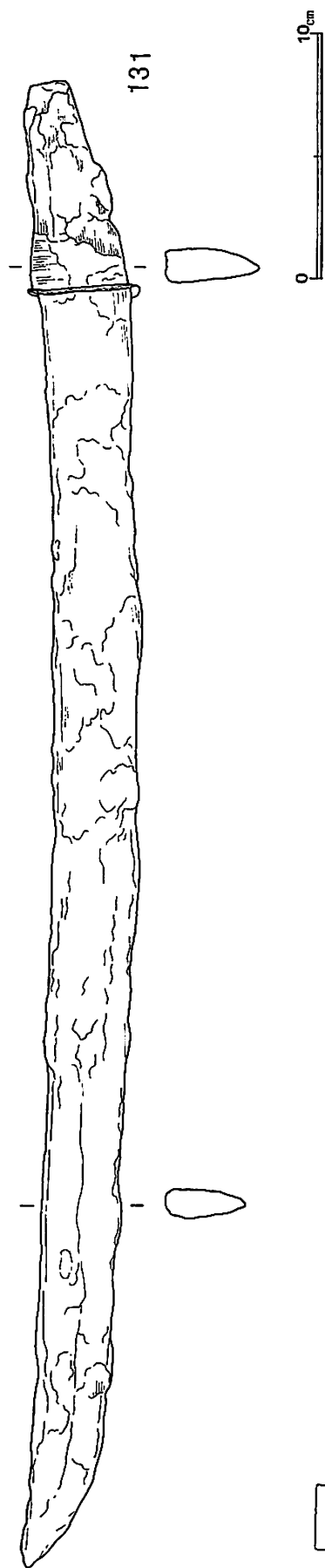


第65図 P-41 出土遺物 (8)

P-41

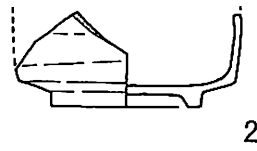
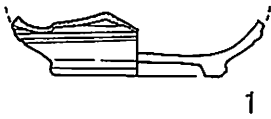
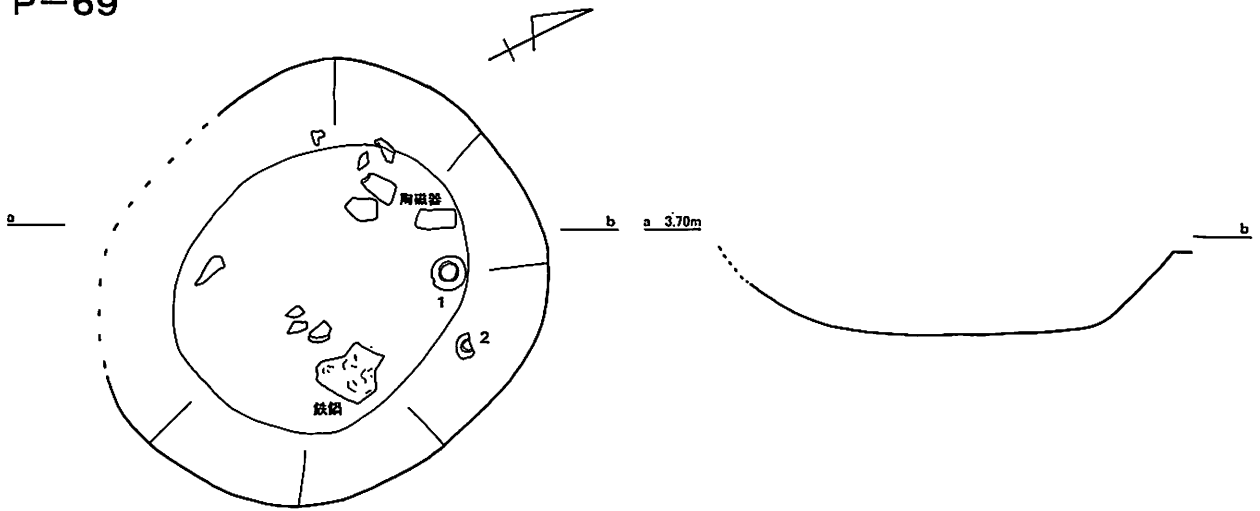


第66图 P-41 出土遺物 (9)

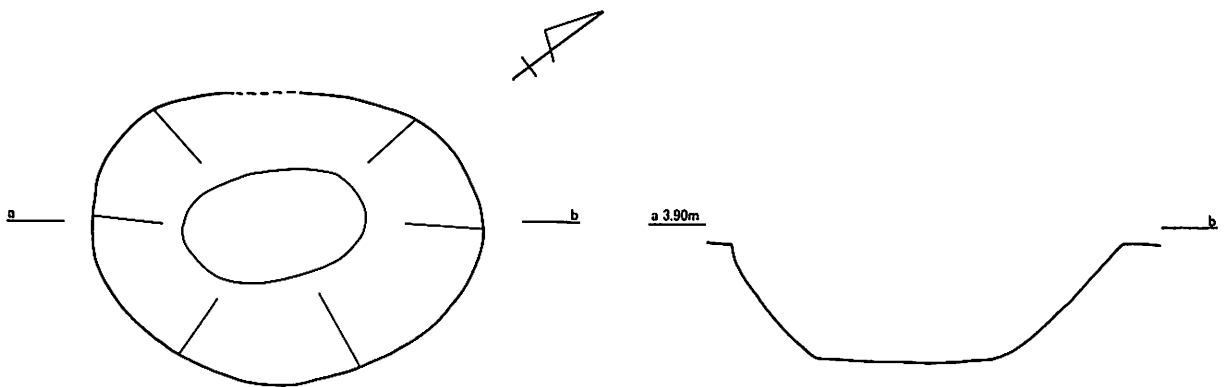


第67図 P-41 出土遺物 (10)

P-69

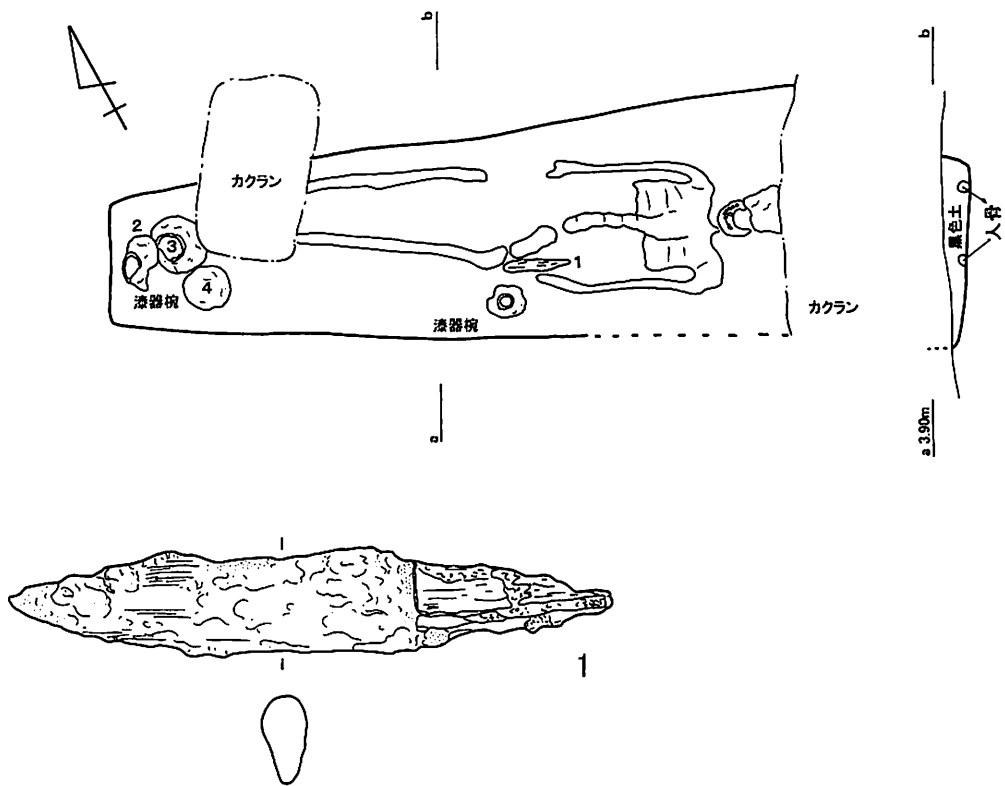


P-70

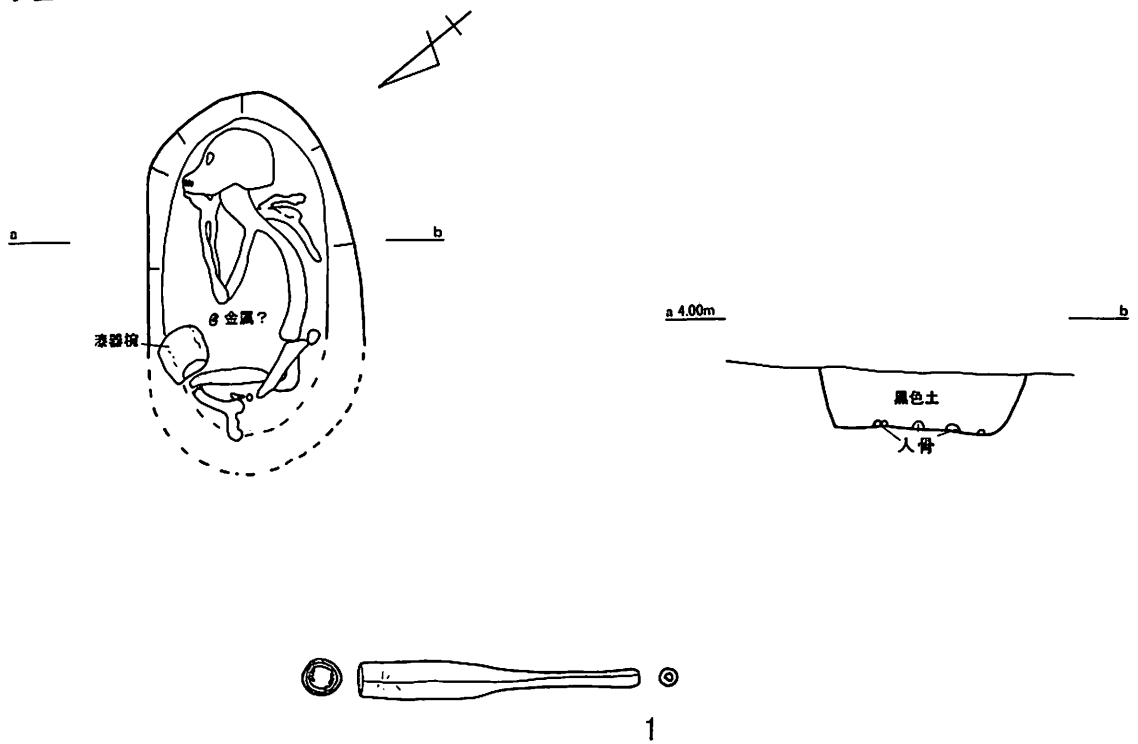


第68図 P-69・70 平面図とP-69 出土遺物

P-71

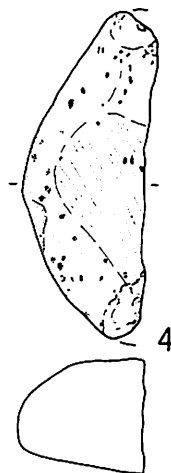
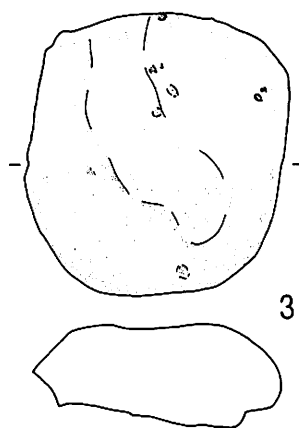
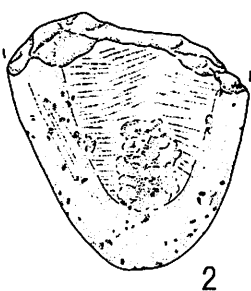
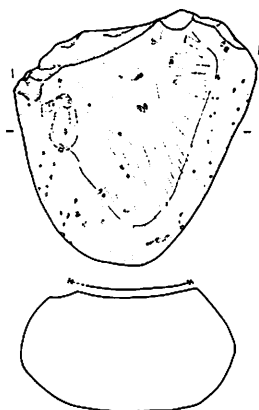
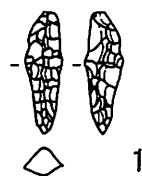
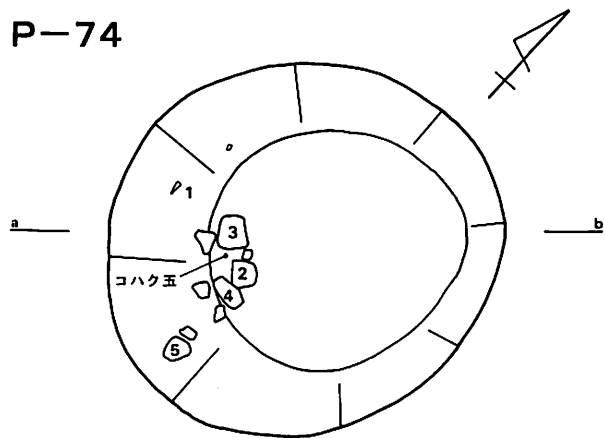


P-72

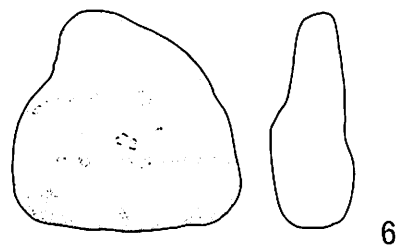
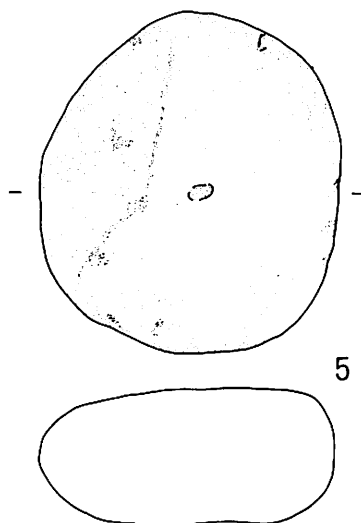


第69図 P-71・72 平面図と出土遺物

P-74

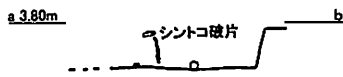
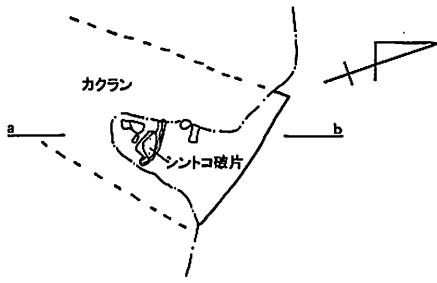


0
10cm

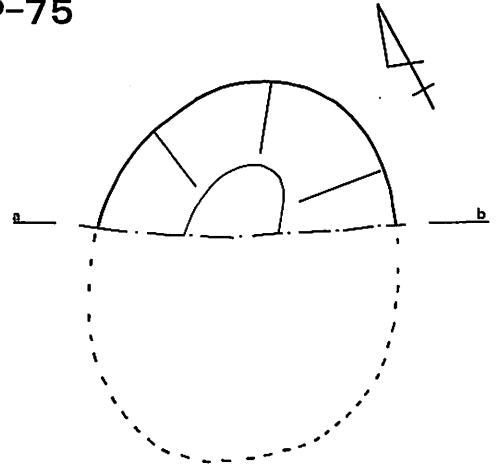


第70図 P-74 平面図と出土遺物

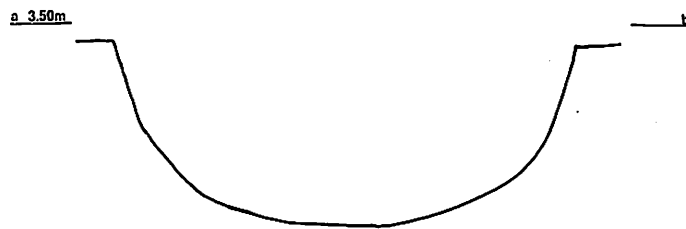
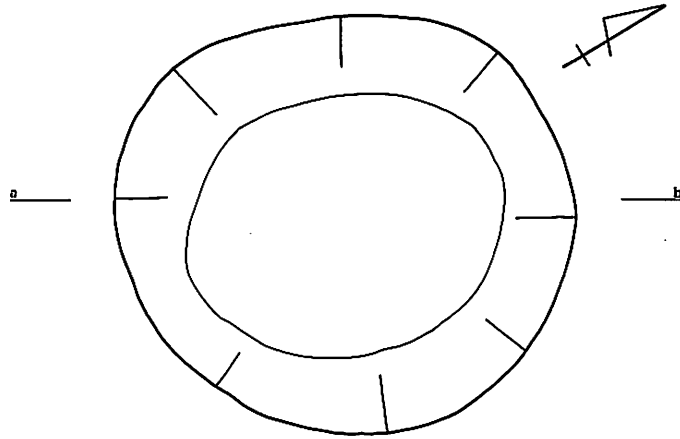
P-73



P-75

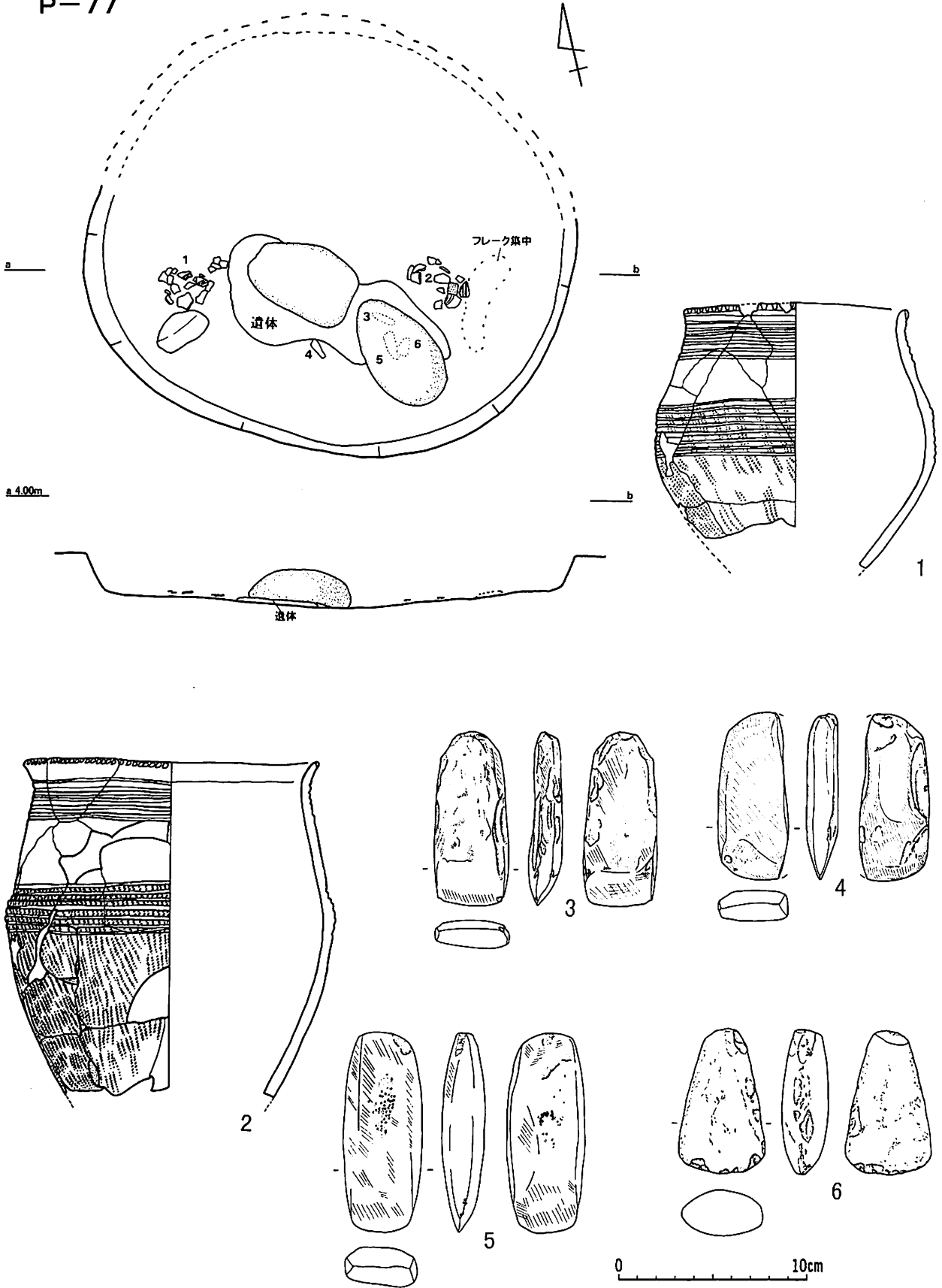


P-76



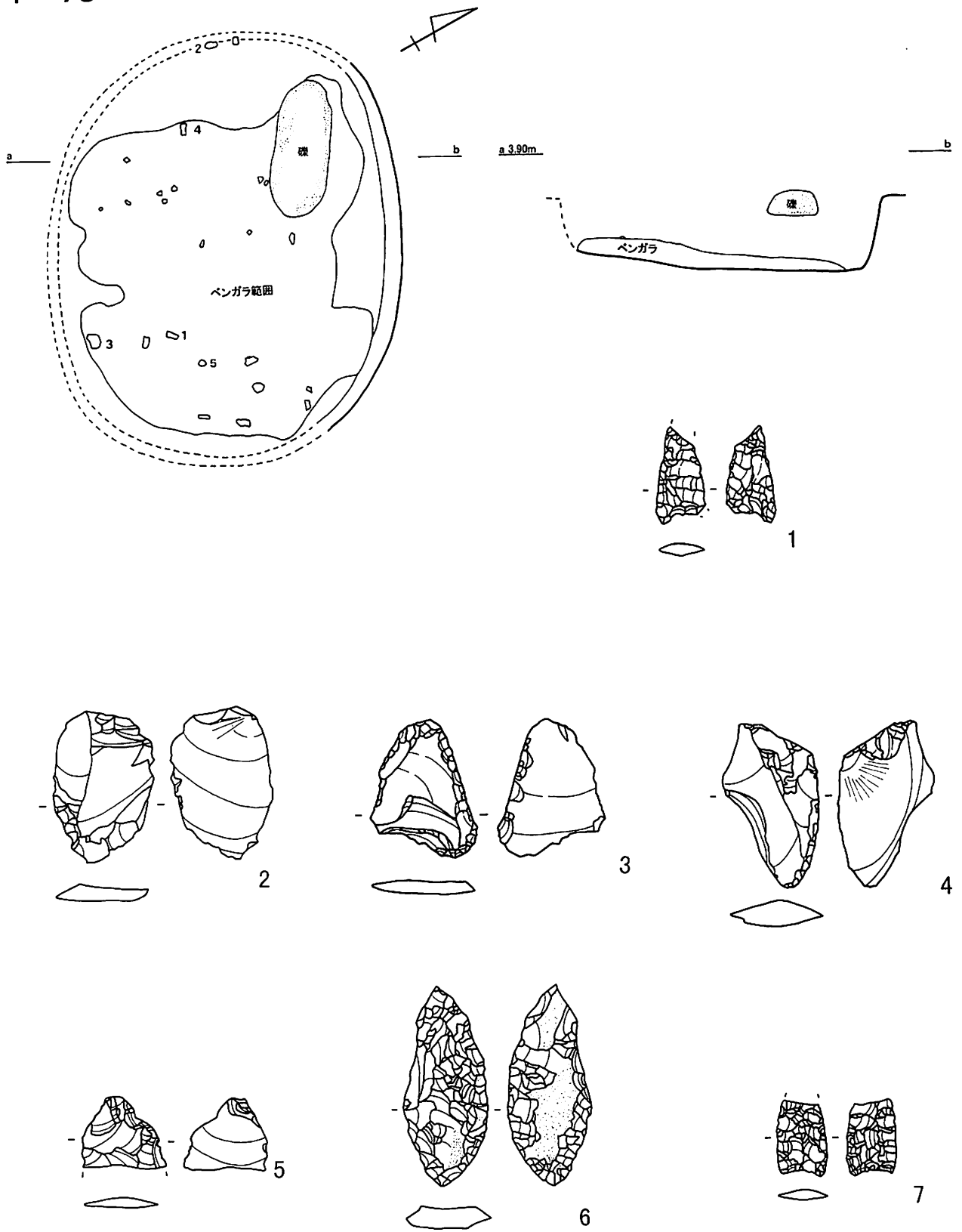
第71図 P-73・75・76 平面図と P-76 出土遺物

P-77



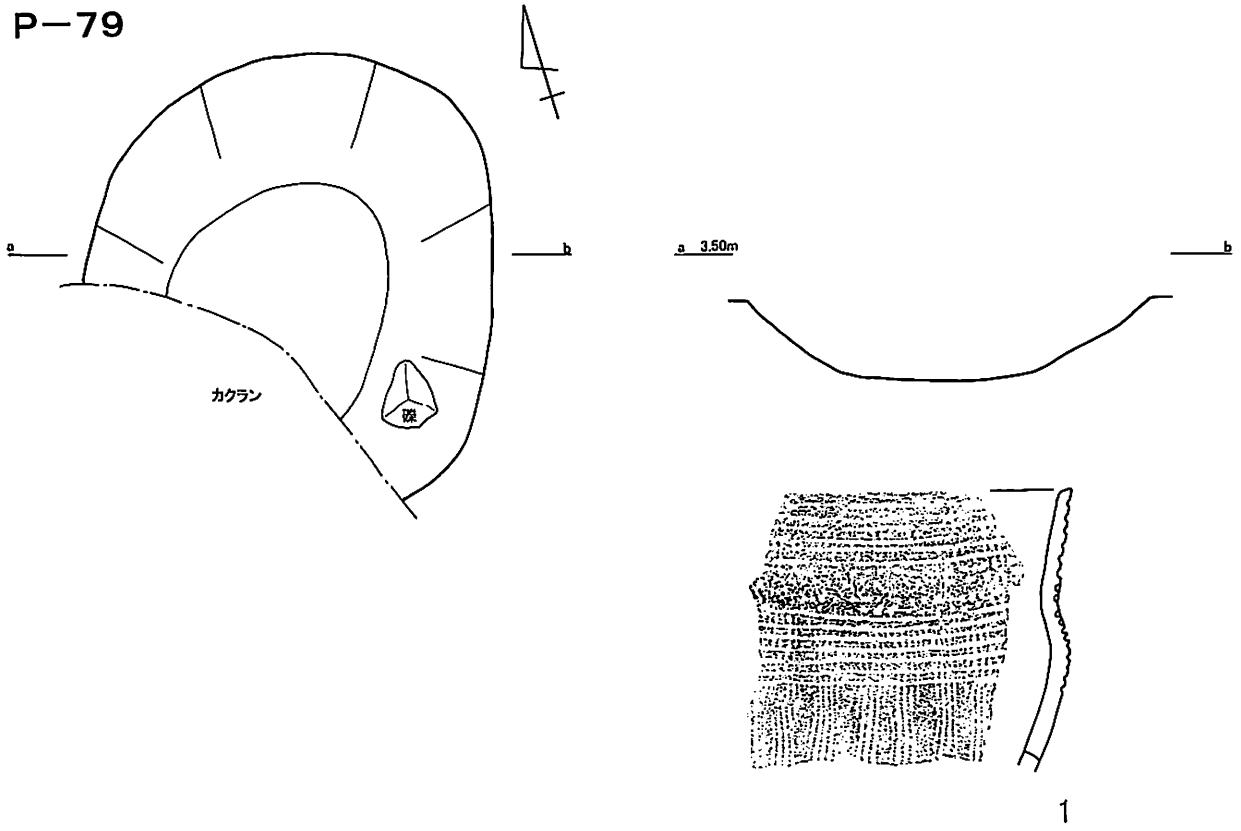
第72図 P-77 平面図と出土遺物

P-78

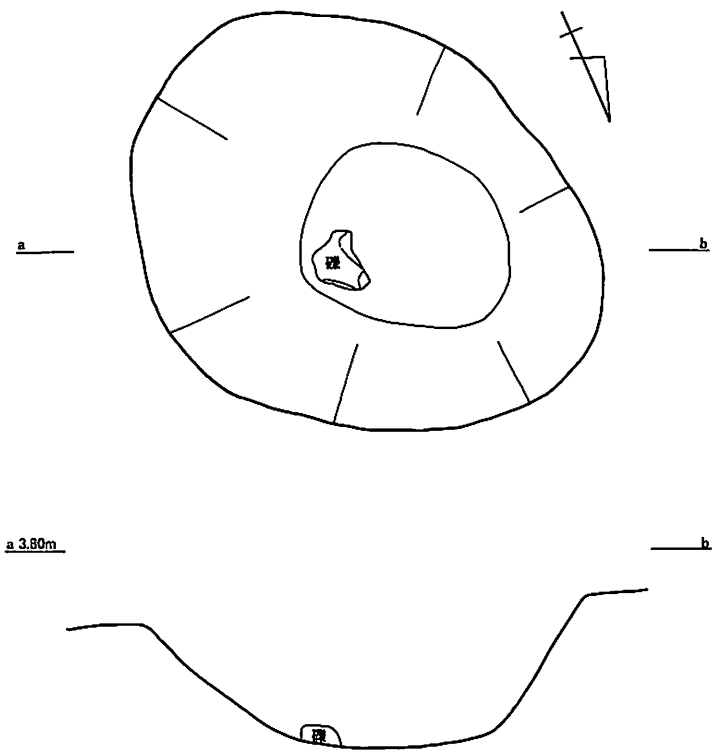


第73図 P-78 平面図と出土遺物

P-79

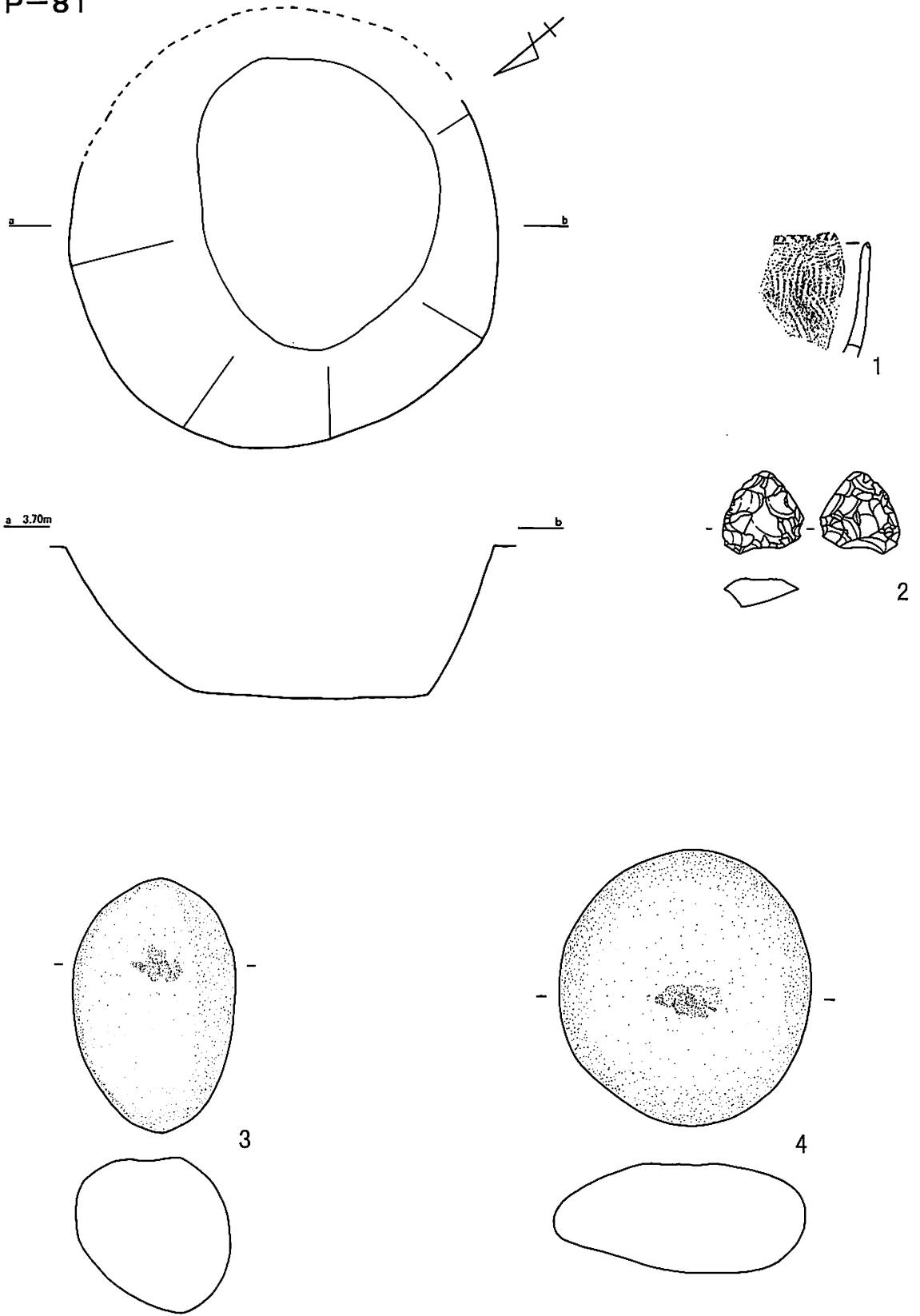


P-80



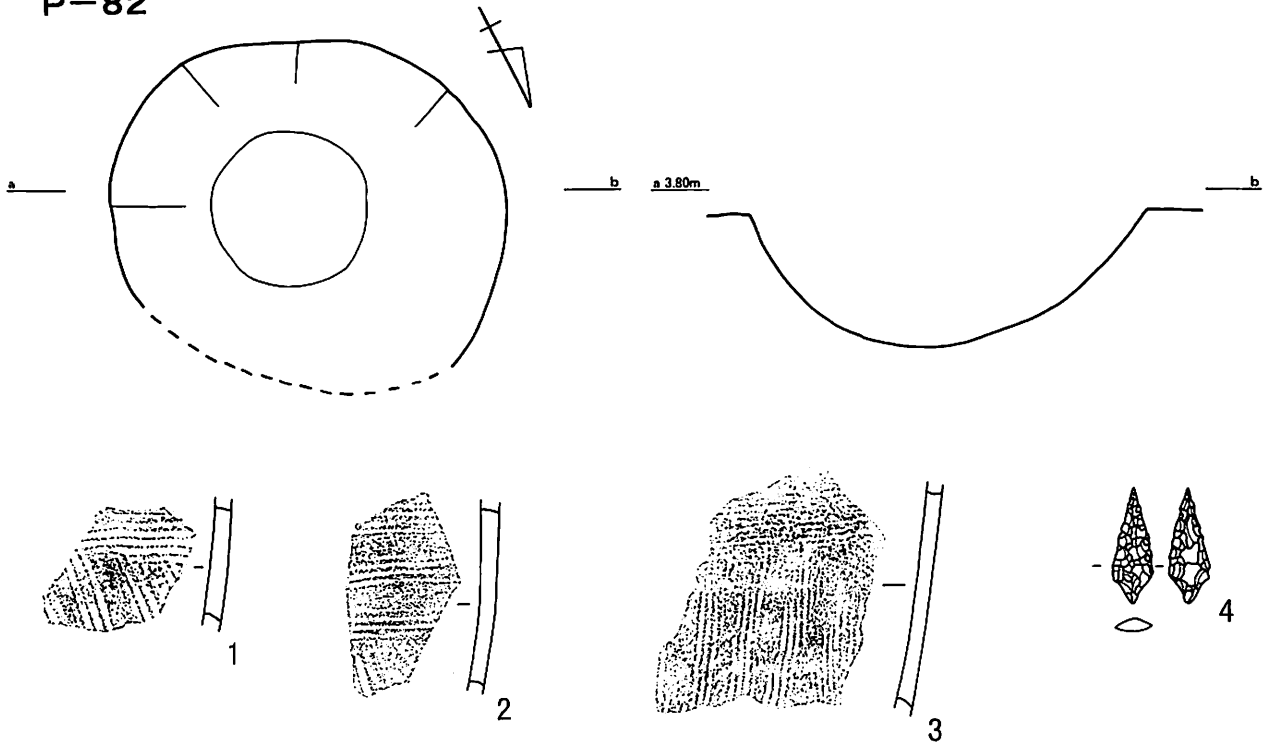
第74図 P-79・80 平面図と P-79 出土遺物

P-81

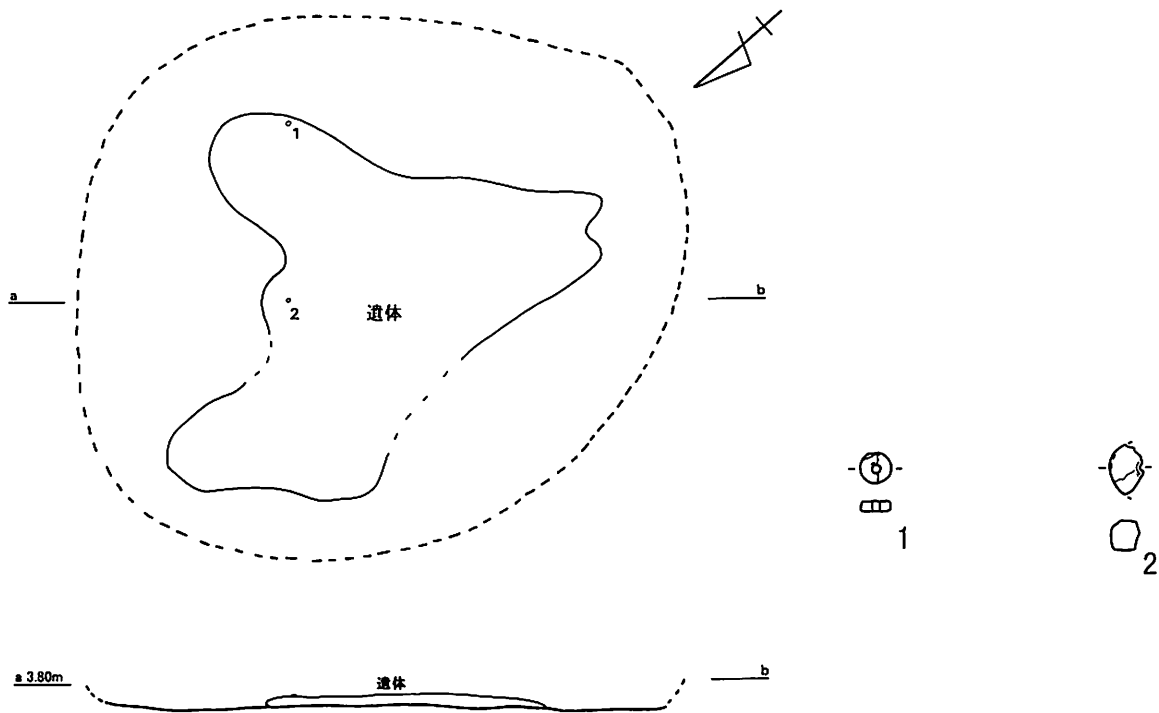


第75図 P-81 平面図と出土遺物

P-82

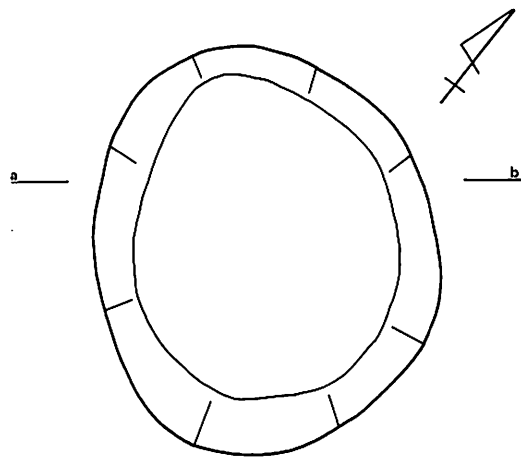


P-83

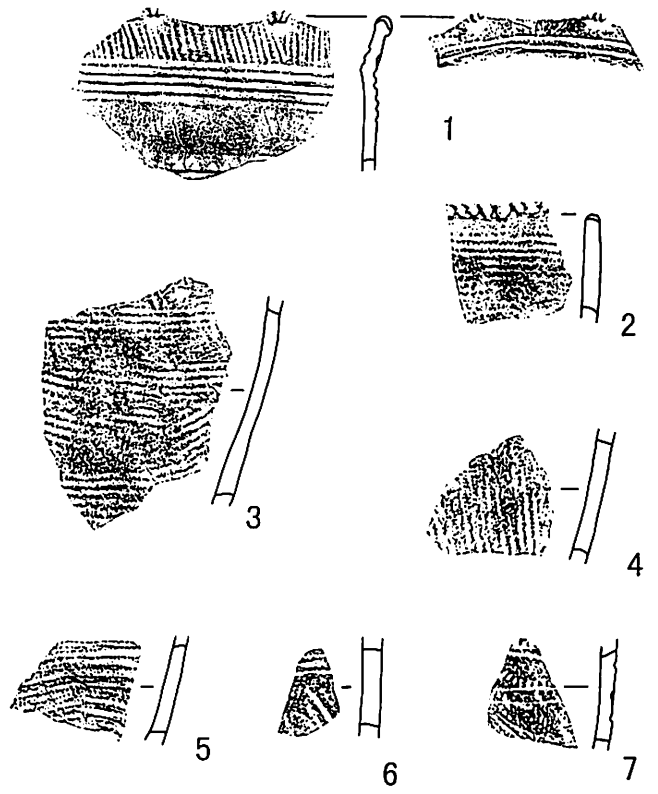


第76図 P-82・83 平面図と出土遺物

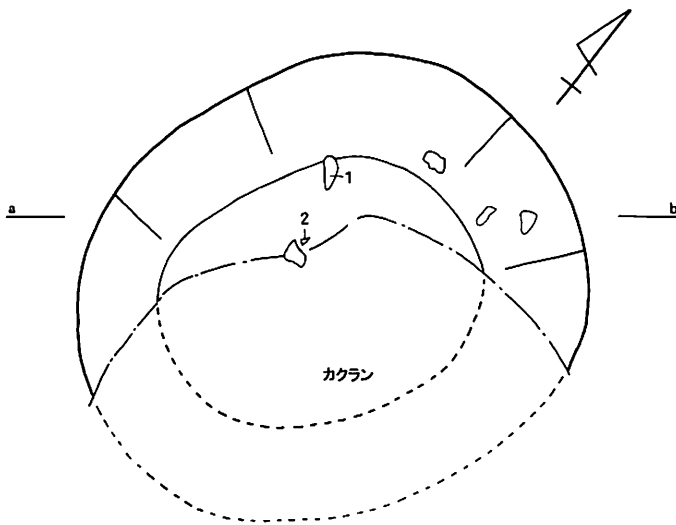
P-84



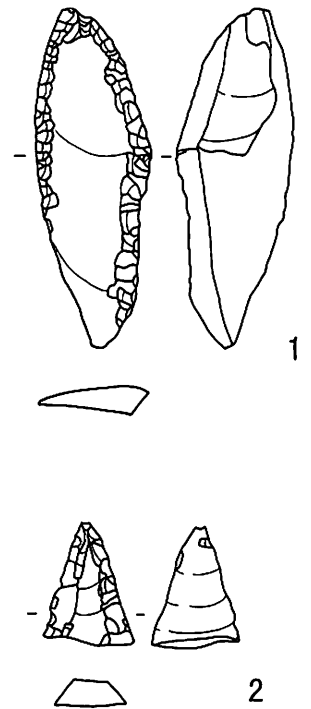
a 3.40m



P-85

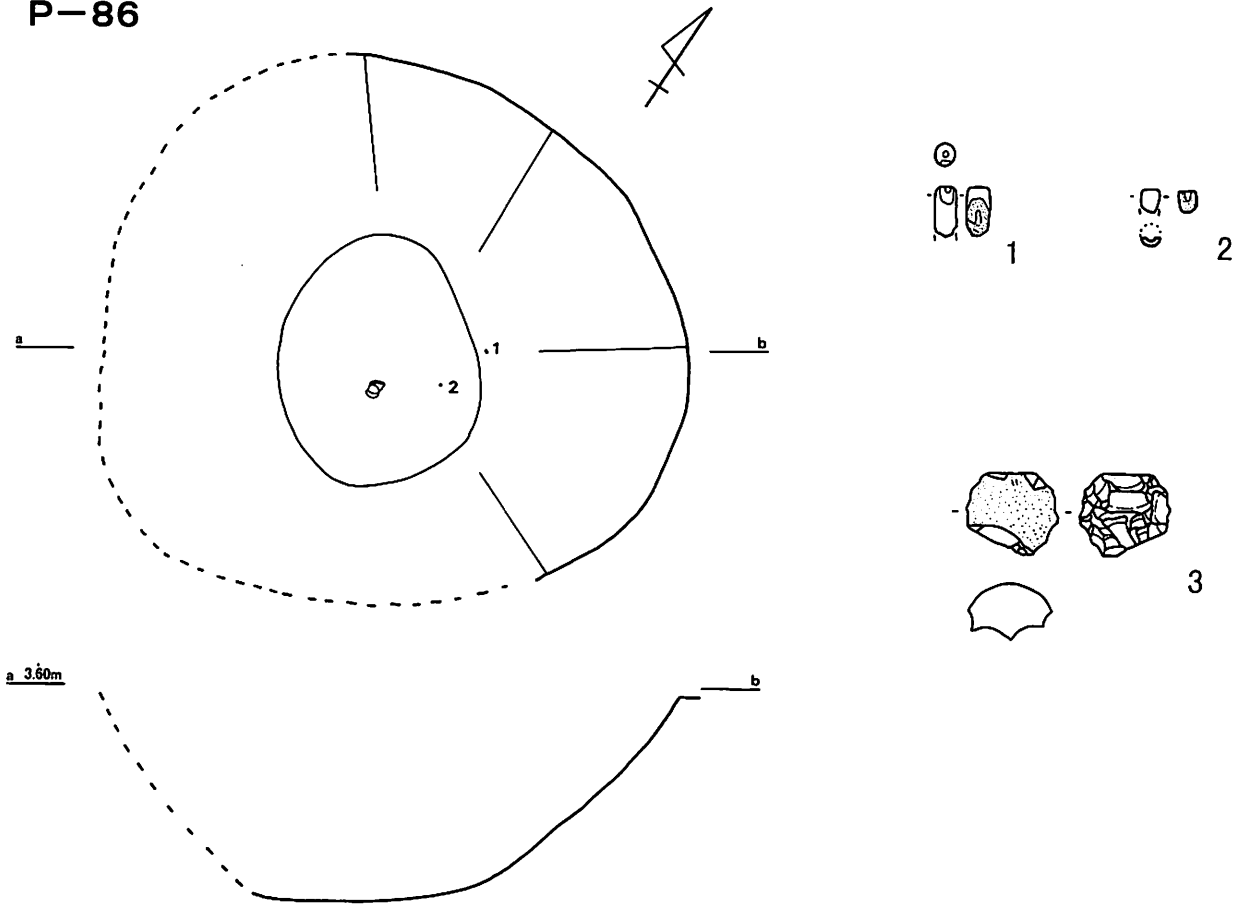


a 3.80m

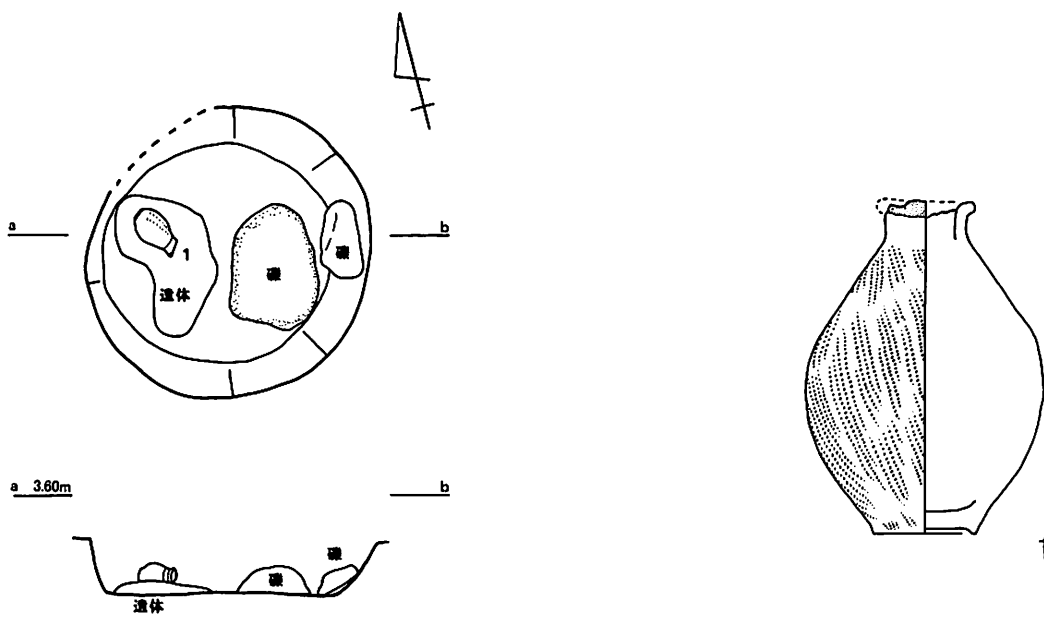


第77図 P-84・85 平面図と出土遺物

P-86

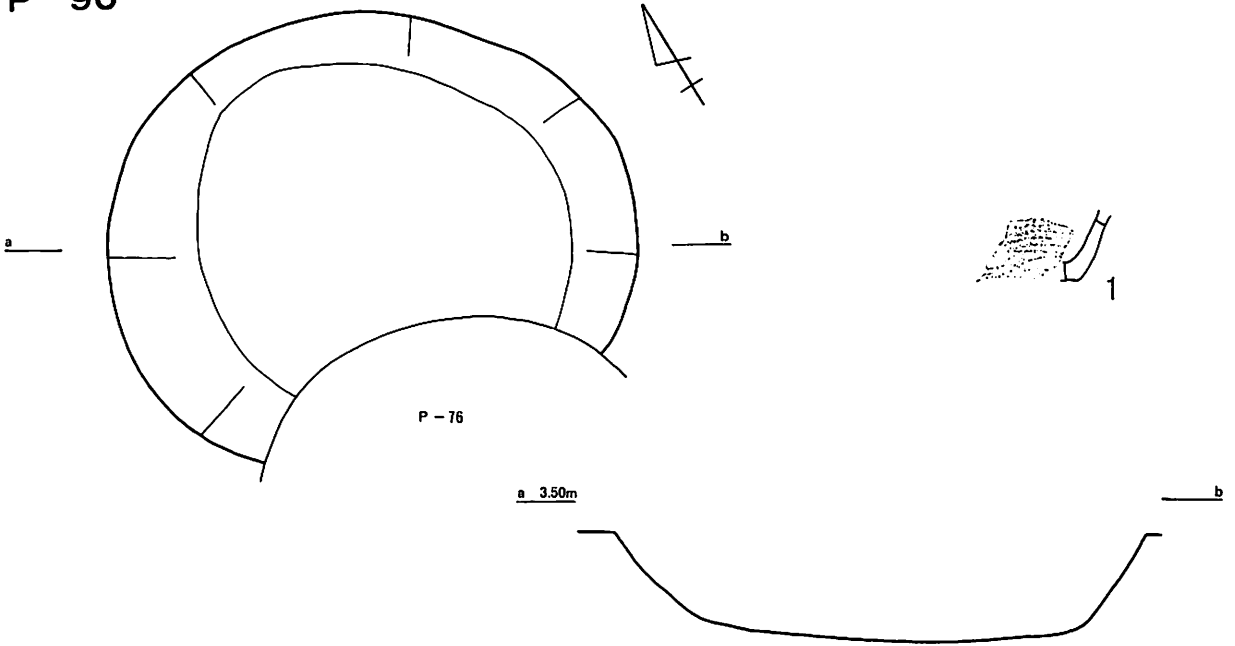


P-89

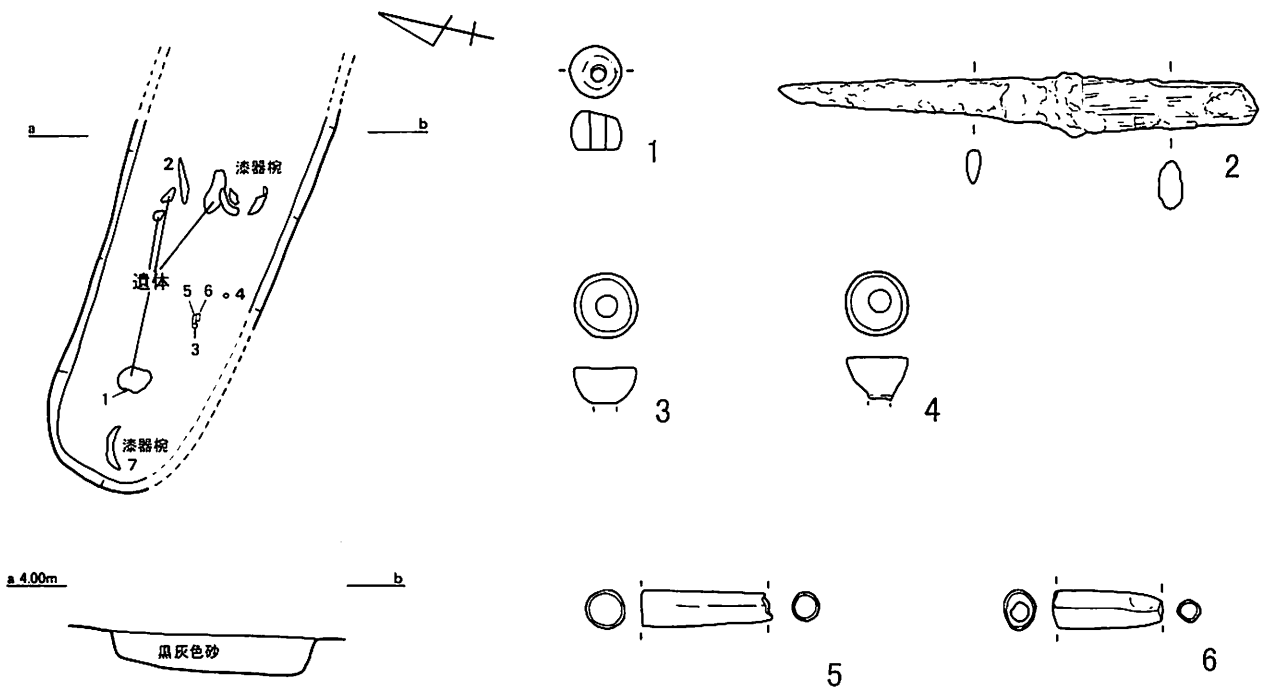


第78図 P-86・89 平面図と出土遺物

P-90

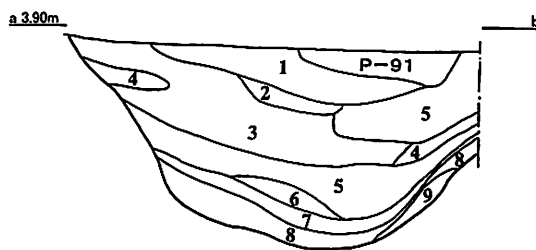
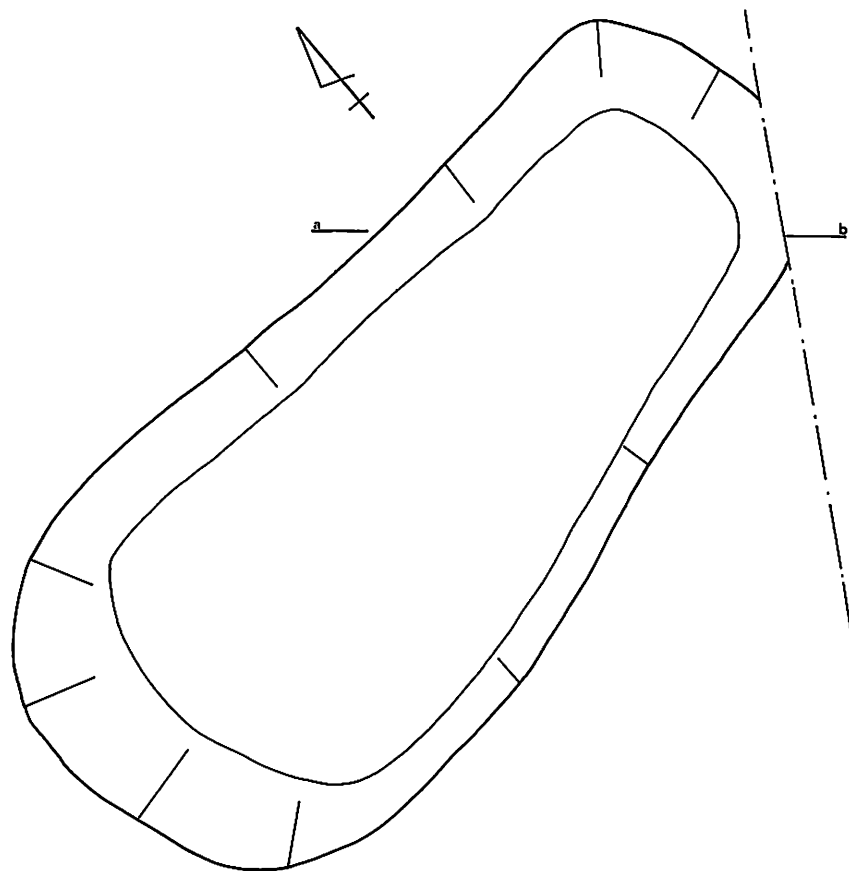


P-91



第79図 P-90・91 平面図と出土遺物

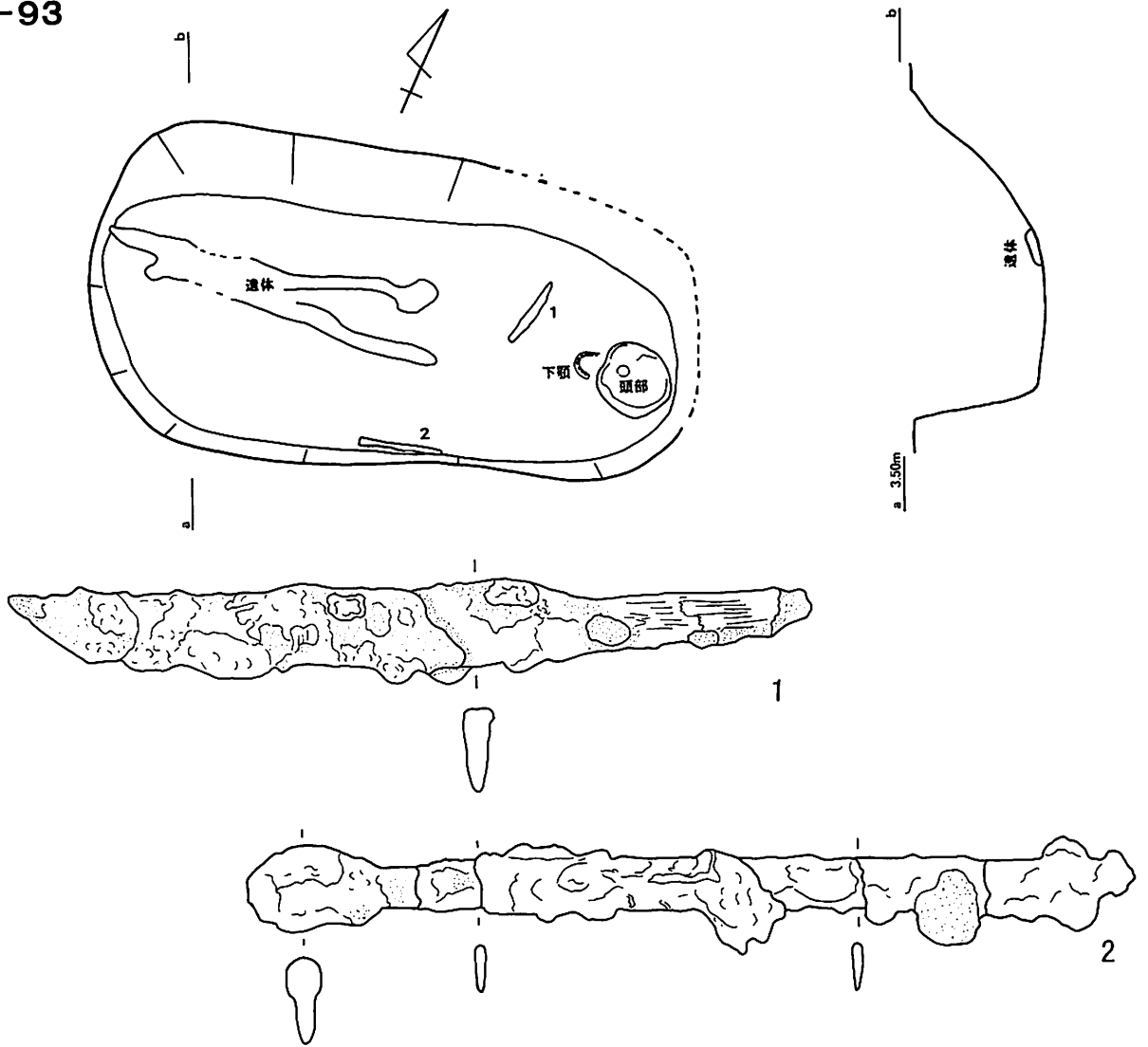
P-92



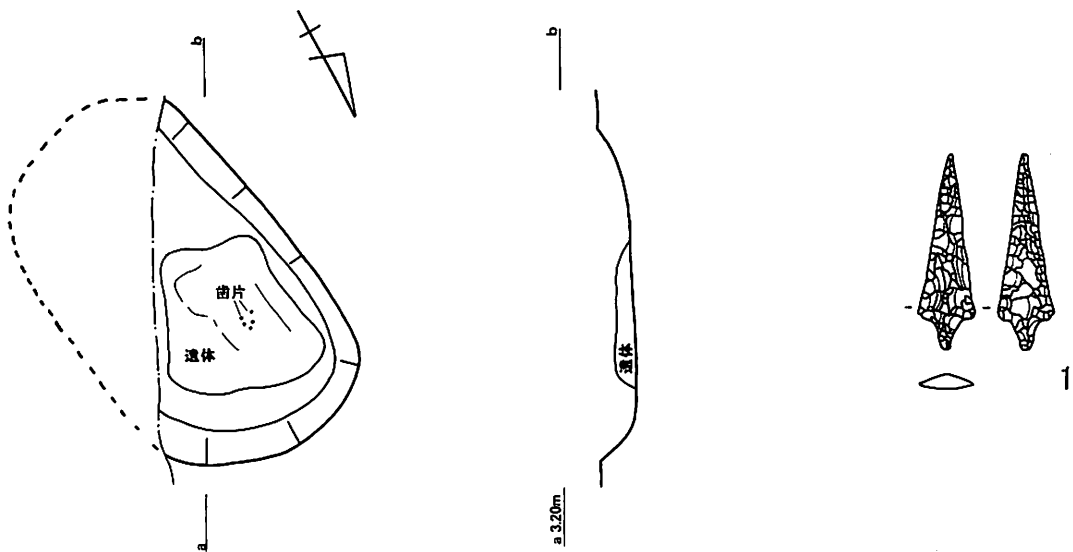
- | | |
|------------|------------|
| 1. 褐色砂 | 6. うすい黄褐色砂 |
| 2. 茶褐色砂 | 7. 黒色砂 |
| 3. 黄色砂 | 8. 黄白色砂 |
| 4. うすい黄白色砂 | 9. 褐色砂 |
| 5. うすい褐色砂 | |

第80図 P-92 平面図

P-93

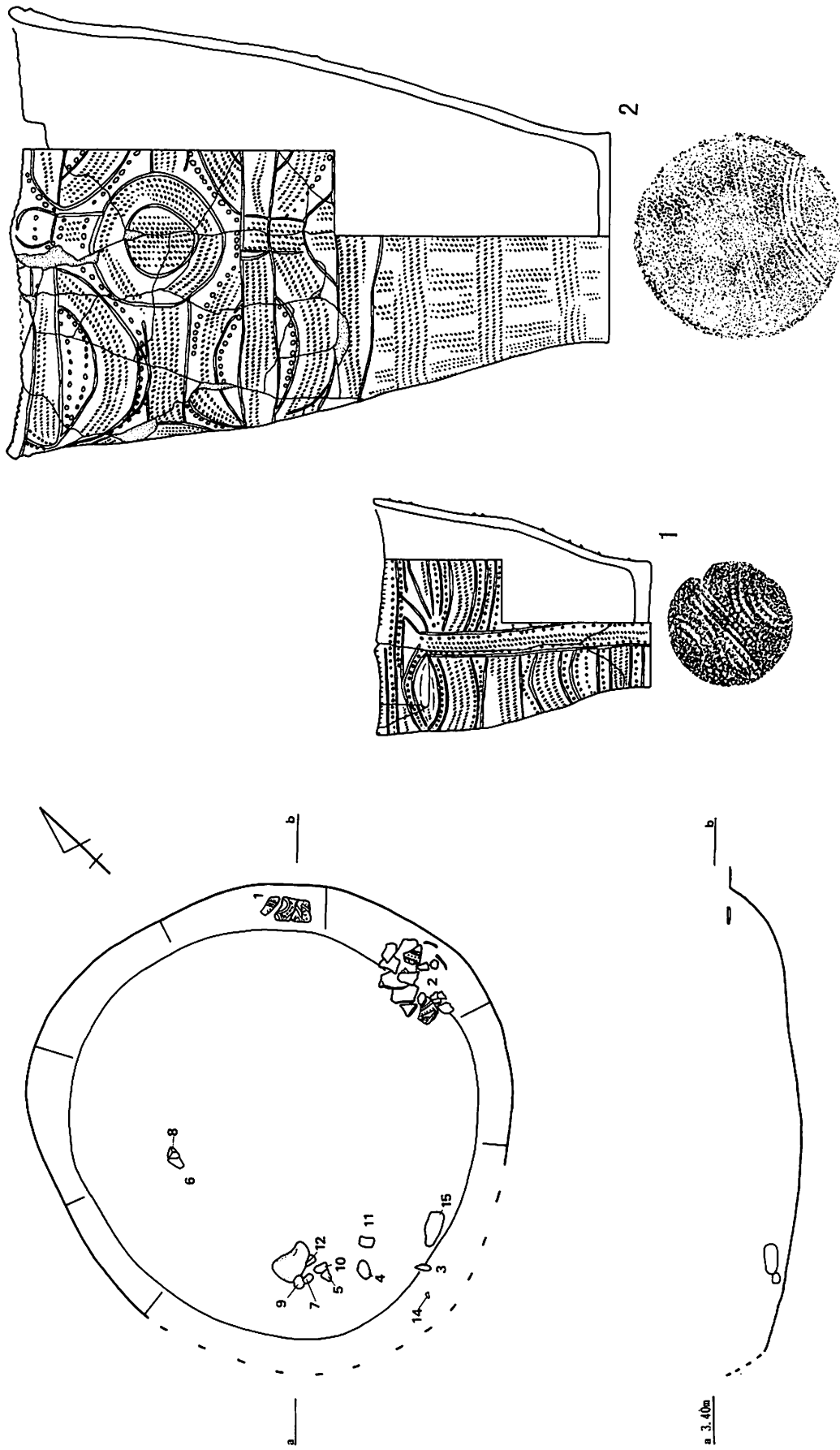


P-96



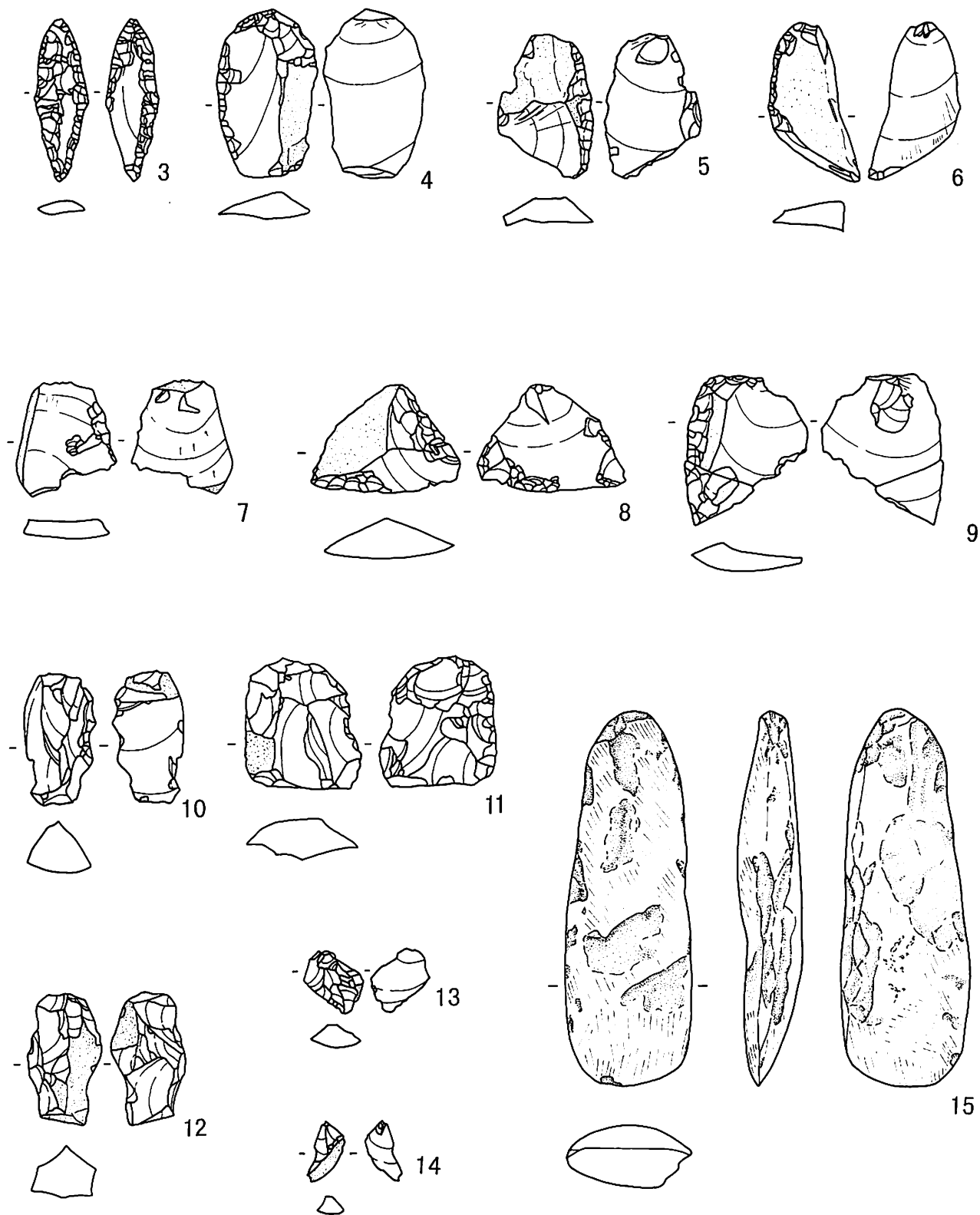
第81図 P-93・96 平面図と出土遺物

P-94



第82図 P-94 平面図と出土遺物

P-94



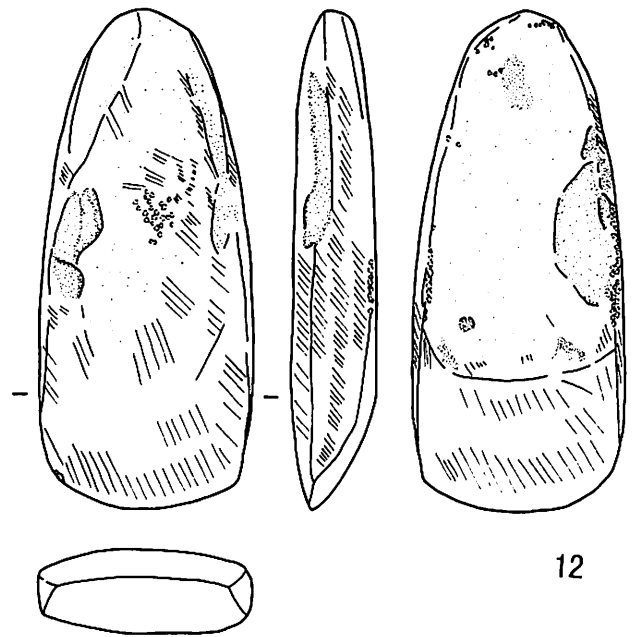
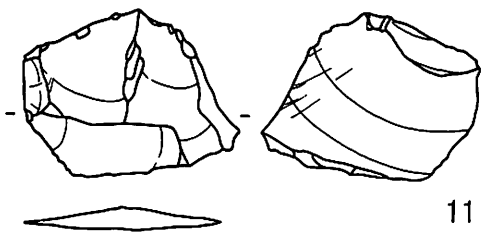
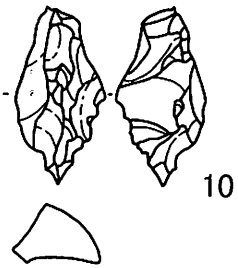
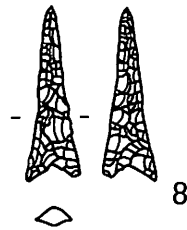
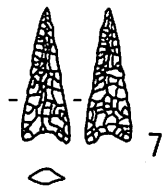
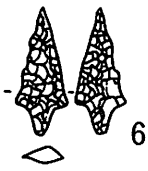
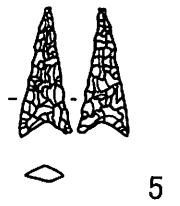
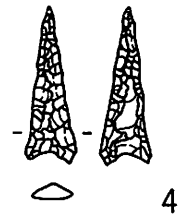
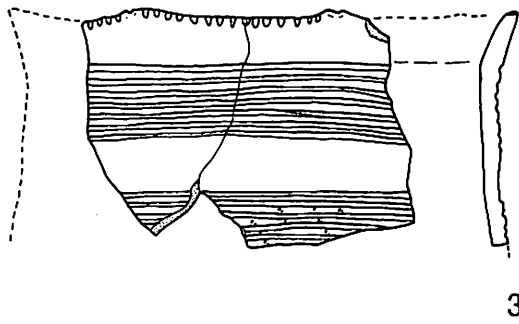
第83图 P-94 出土遺物

P-95



第84図 P-95 平面図と出土遺物

P-95



第85图 P-95 出土遺物

3. 遺構外出土の遺物

大川遺跡迂回路地点より 6,193 点の遺物が出土しているが、主体となるものは続縄文時代恵山期と後北期に属する遺物である。

・土器

第Ⅰ群 b 類 (第88図3・4・6・8・9)

縄文時代晩期中葉に属し、口縁部に沈線や押し引き状の沈線が施されるものである。

第Ⅰ群 c 類 (第88図1・2)

縄文時代晩期後葉に属し、口縁部に波状の沈線が施されるものである。

第Ⅱ群 a 類 (第88図7・10)

続縄文時代前葉に属し、琴似式に類するもので口縁部に刺突文を持つものである。

第Ⅱ群 b 類 (第86図1・3、第88図12～15・18)

続縄文時代前半に属し、恵山式に類するものである。

第Ⅱ群 c 類 (第87図1・2、第88図16・17・19～30)

続縄文時代後半に属し、後北式に類するもので、口縁部に隆起線による擬縄文が施され、胴部には微隆起線と三角形状の列点文が施されるものが見られる。

第Ⅲ群 b 類 (第88図31)

擦文時代に属する土師器の坏であり、胴部に段が形成されている。内面は黒色処理されている。

・石器

石鏃 (第89図1・2)

2は腹面に主剥離面を残すものであり、先端部は丸みを帯びている。未成品の可能性はある。

石錐 (第89図3)

棒状を呈するもので、先端部はやや丸みを帯びたようになっている。

石製ナイフ (第89図4・5)

加工によって剥片の形状を大きく変化させたもので、4は基部を欠損している。

削器 (第89図6・7、第90図1)

剥片の形態を変化させず縁辺を加工し、刃部を作出したものである。第90図1は剥片の先端部に刃部を作出したものである。

搔器 (第89図8)

剥片を加工して先端部に厚みのある刃部を作出したものである。

R・F (第90図2)

器種の特定できない剥片石器の破片である。

石斧 (第89図9～11)

9・10は片刃のものであり、11は先端部に剥離が見られ未成品の可能性はある。

敲石（第90図5）

比較的平坦な礫の面部に使用痕が見られるものである。

垂飾（第90図6）

メノウ製のもので、一方向より穿孔されている。

・ **金属製品（第90図7・8）**

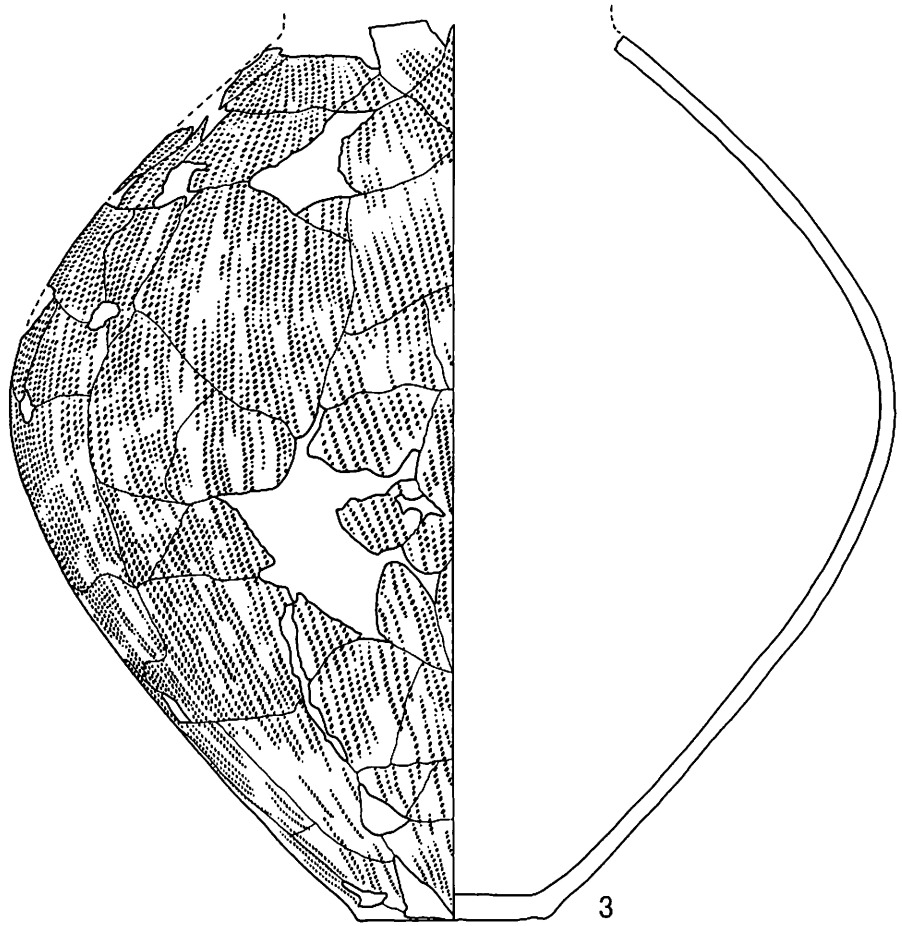
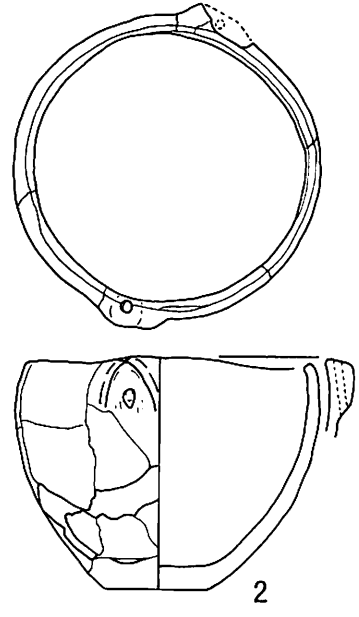
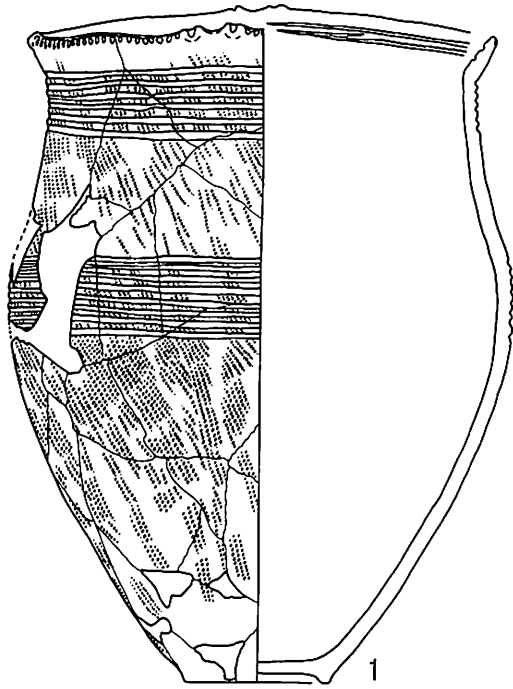
7は行器（シントコ）の脚部で、木質も一部残存している。8は環状を呈しており耳輪（ニンカリ）の可能性はある。

・ **古銭（第90図9～10）**

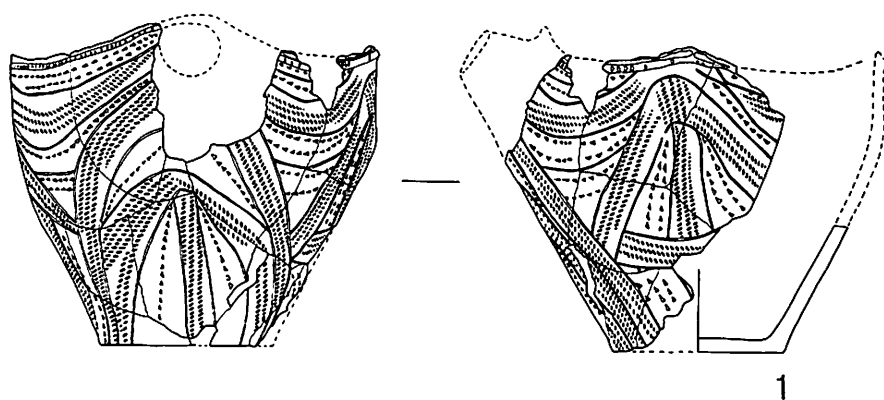
9は紹聖元寶、10は元豊通寶、11は洪武通寶、12は永樂通寶、11は背に「一錢」の文字が見られる。

・ **陶磁器（第91図1～6）**

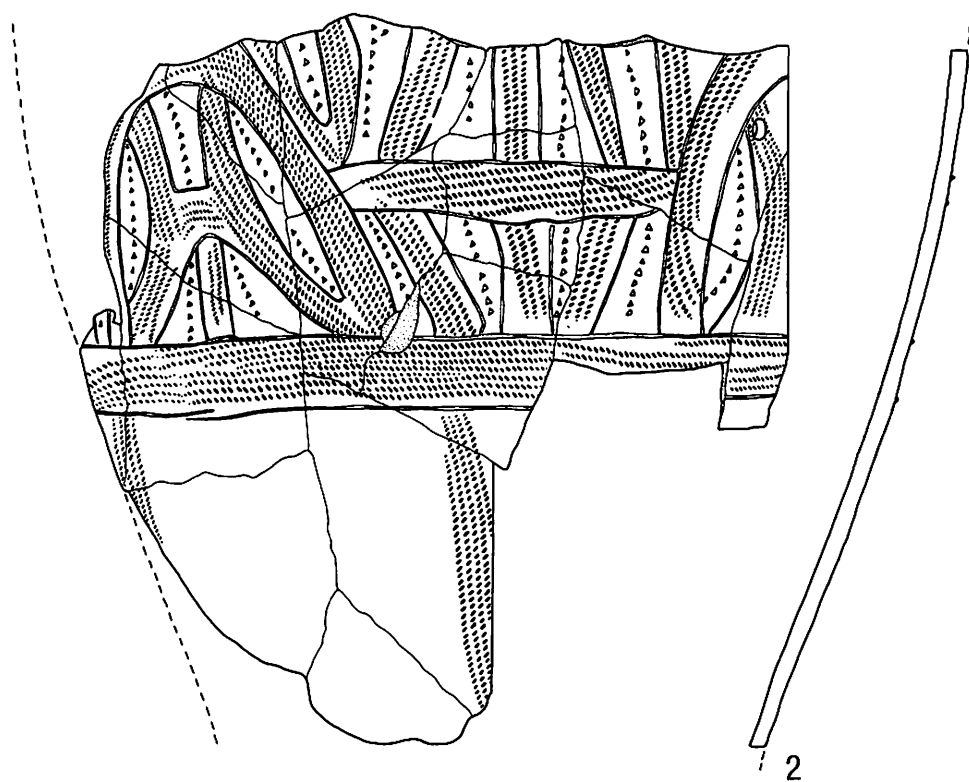
迂回路地点からは2,156点の陶磁器が出土しているが、その大半は近・現代に属するものである。1は第Ⅳ群に属する珠洲の播鉢である。2は瀬戸の徳利、3～5は焼酎徳利である。6は甕と思われ、器面に鉄釉が見られた。2～6はいずれも第Ⅵ群に属すると思われる。



第86図 遺構外出土の土器 (1)



1

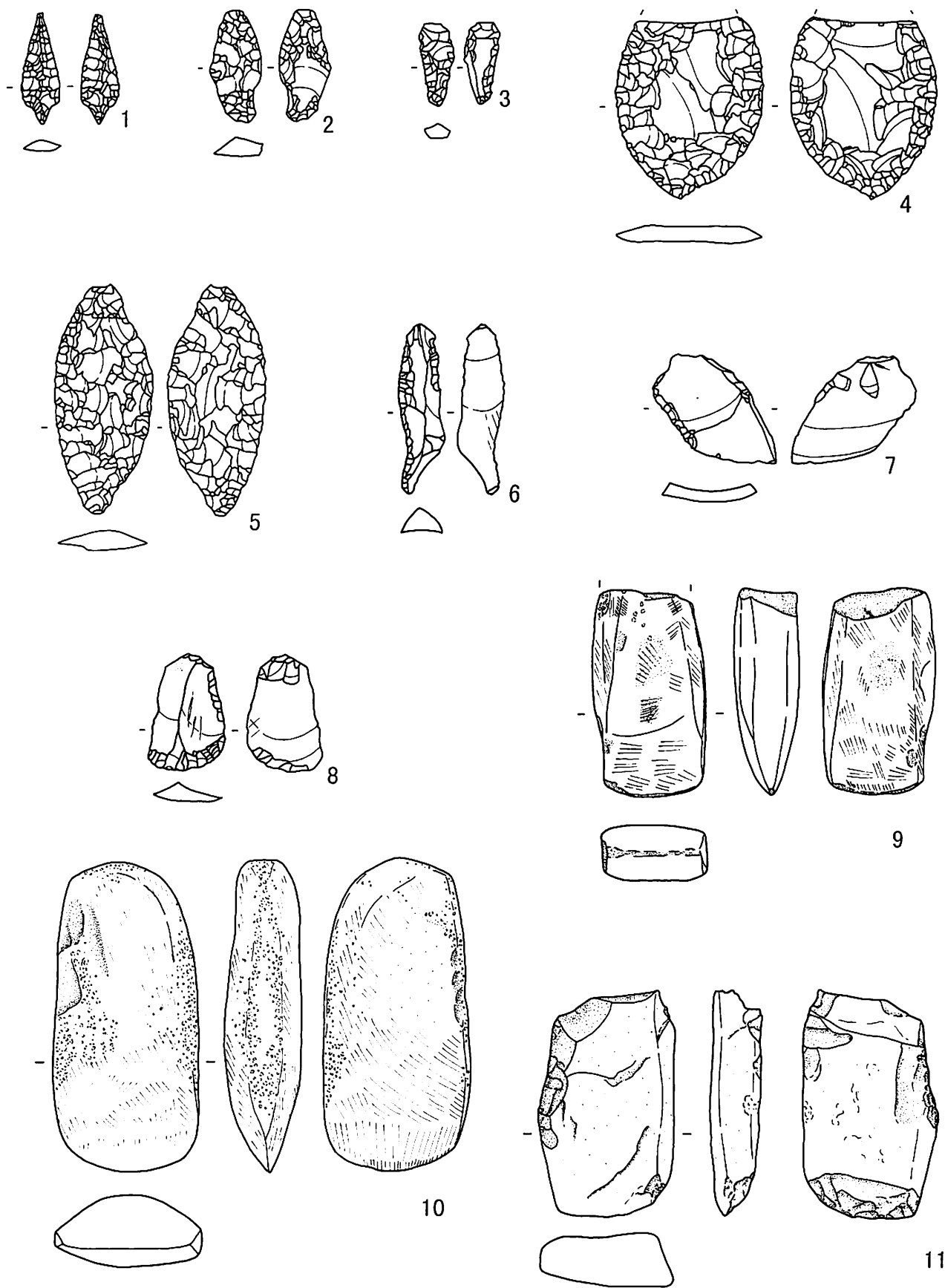


2

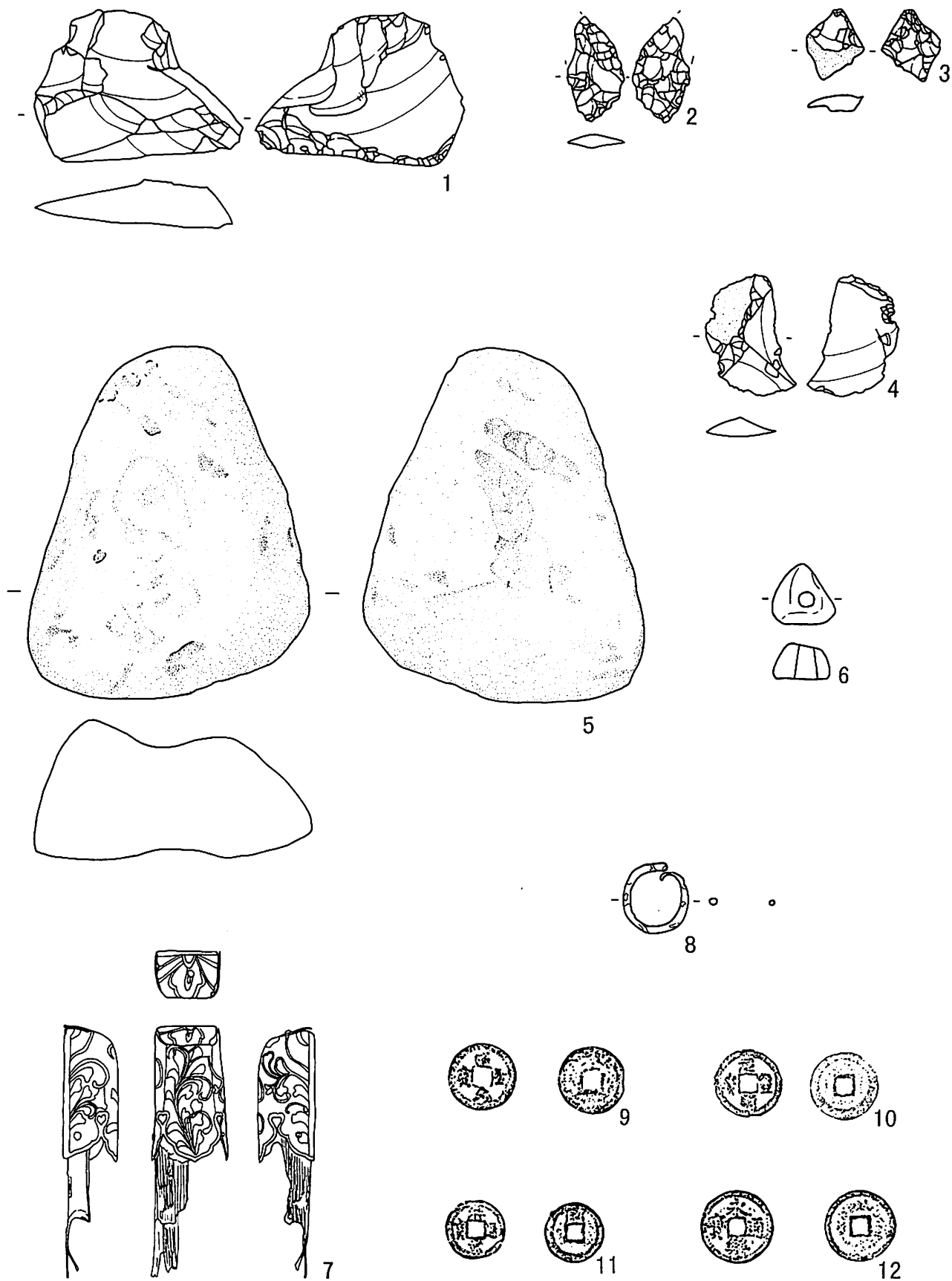
第87図 遺構外出土の土器 (2)



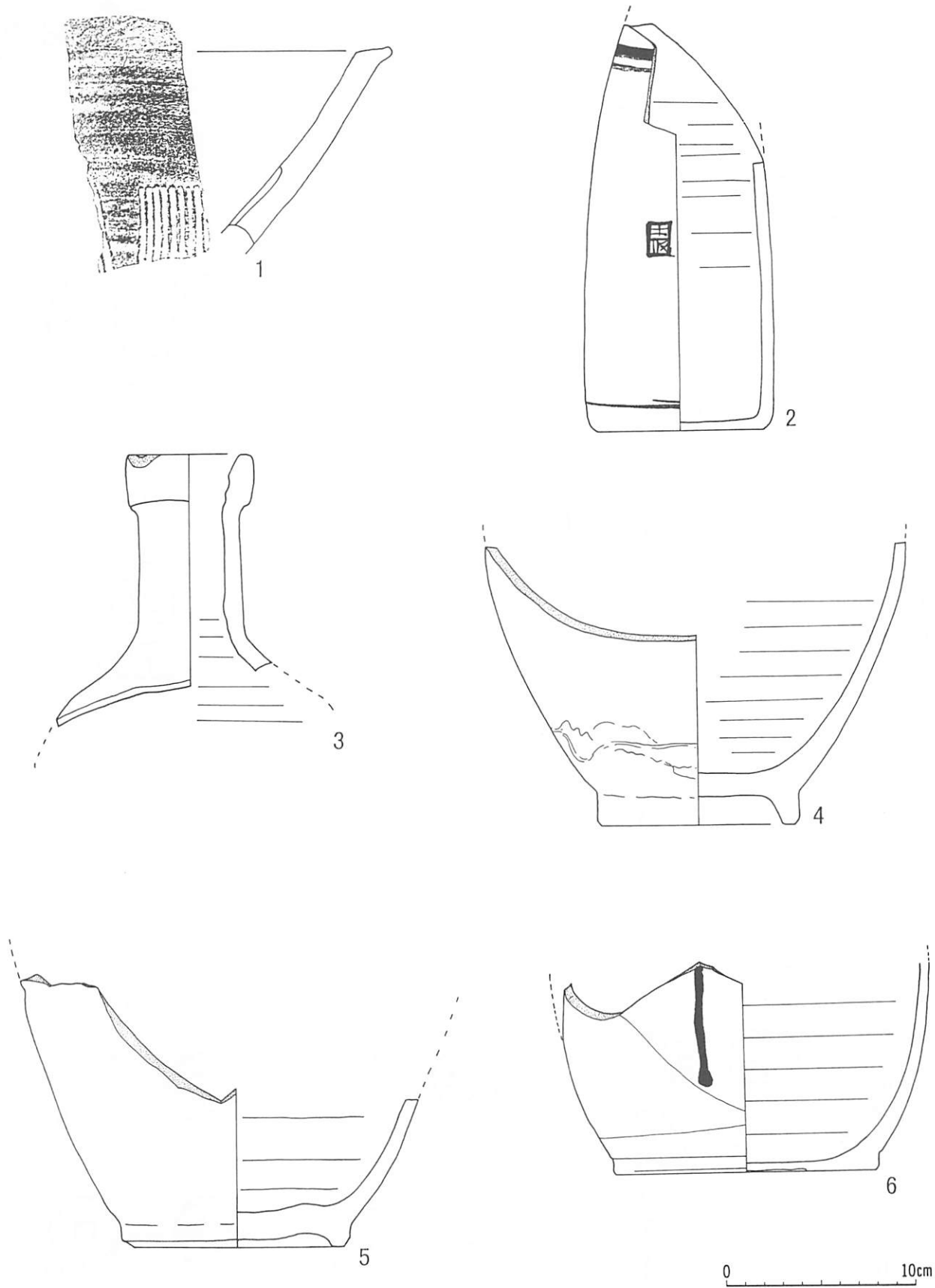
第88図 遺構外出土の土器 (3)



第89図 遺構外出土の石器



第90図 遺構外出土の石器と金属製品



第91図 遺構外出土の陶磁器

遺物一覽表 (迂回路地点)

図版No-遺物No	出土遺構	層位	計測値 (cm) (g)	名称・分類	備考
58-1	P-41-⑫	覆土	全長 (56.3) 厚さ (2.0)	太刀	縮尺1/3
58-2	P-41-⑳	覆土	全長 28.6 厚さ (0.8)	刀子	縮尺1/3
58-3	P-41-⑭	覆土	全長 29.5 厚さ (1.2)	刀子	縮尺1/3
58-4	P-41-⑥	覆土	長さ 12.0 幅 1.6 厚さ (0.9)	金属製品	縮尺1/3
58-5	P-41	覆土	長さ (13.3) 幅 1.7 厚さ 0.8	金属製品	縮尺1/3
58-6	P-41-㉔	覆土	長さ 15.2 厚さ (1.6)	金属製品	縮尺1/3
58-7	P-41-㉚	覆土	長さ 22.5 幅 6.0 厚さ 2.7 重さ 575	砥石(泥岩)	縮尺1/3
59-8	P-41-⑨	覆土	長さ (27.3) 幅 (1.1) 厚さ (1.0)	金属製品	紡錘車軸?
59-9	P-41-⑪	覆土	長さ 12.6 幅 (1.2) 厚さ (0.8)	金属製品	
59-10	P-41-㉞	覆土	長さ 6.7 幅 (1.2) 厚さ (0.56)	金属製品	
59-11	P-41-㉘	覆土	長さ 7.4 厚さ 0.7	金属製品	
59-12	P-41-㉙	覆土	長さ (5.7) 幅 1.1 厚さ 0.4	金属製品	
59-13	P-41-①	覆土	長さ (4.3) 厚さ (0.65)	刃先	
59-14	P-41	覆土	径 2.4 厚さ 0.1 孔径0.7 重さ 28	古銭	「元祐通寶」?
59-15	P-41-㉛	覆土	長さ 3.0 厚さ 1.6	刀装具	石突?
59-16	P-41-④	覆土	径 2.3 厚さ 0.08	刀装具	座金
59-17	P-41-㉟	覆土	径 2.8 厚さ 0.1	刀装具	座金
59-18	P-41-㉠	覆土	径 1.9	鋌	
59-19	P-41-⑤	覆土	長さ 3.0 幅 4.5 厚さ 0.15	刀装具	目貫
59-20	P-41-⑦	覆土	長さ 3.15 幅 4.4 厚さ 0.2	刀装具	目貫
59-21	P-41	覆土	長さ 14.4 鍔先 4.9 重さ 13.2	鉄鍔	Y-27-22
59-22	P-41-㉡	覆土	長さ 13.3 鍔先 3.7 重さ 7.9	鉄鍔	
60-23	P-41	覆土	長さ 12.9 鍔先 4.0 重さ 8.6	鉄鍔	Y-27-22
60-24	P-41	覆土	長さ 14.1 鍔先 3.7 重さ 8.5	鉄鍔	Y-27-22
60-25	P-41	覆土	長さ 12.9 鍔先 3.3 重さ 6.5	鉄鍔	Y-27-22
60-26	P-41	覆土	長さ (13.5) 鍔先 4.1 重さ (7.9)	鉄鍔	Y-27-22
60-27	P-41	覆土	長さ (14.3) 鍔先 4.1 重さ (8.3)	鉄鍔	Y-27-22
60-28	P-41	覆土	長さ 12.2 鍔先 4.1 重さ 7.0	鉄鍔	Y-27-22
61-29	P-41-㉣	覆土	長さ 11.9 鍔先 (3.7) 重さ (7.5)	鉄鍔	
61-30	P-41	覆土	長さ 14.7 鍔先 4.6 重さ 12.6	鉄鍔	Y-27-22
61-31	P-41	覆土	長さ 14.2 鍔先 4.2 重さ 9.7	鉄鍔	Y-27-22
61-32	P-41	覆土	長さ 14.6 鍔先 4.6 重さ 10.2	鉄鍔	Y-27-22
61-33	P-41	覆土	長さ 14.4 鍔先 4.4 重さ 12.8	鉄鍔	Y-27-22
61-34	P-41-㉢	覆土	長さ 15.5 鍔先 5.7 重さ 14.4	鉄鍔	
62-35	P-41-㉥	覆土	長さ 14.3 鍔先 4.7 重さ 13.6	鉄鍔	
62-36	P-41-㉦	覆土	長さ 14.1 鍔先 4.0 重さ 12.0	鉄鍔	
62-37	P-41-㉧	覆土	長さ 14.0 鍔先 3.8 重さ 8.5	鉄鍔	
62-38	P-41-㉨	覆土	長さ 13.0 鍔先 3.8 重さ 7.8	鉄鍔	
62-39	P-41-㉩	覆土	長さ (4.9) 重さ (5.7)	鉄鍔	
62-40	P-41	覆土	長さ (3.3) 重さ (1.9)	鉄鍔	Y-27-22

図版No-遺物No	出土遺構	層位	計測値 (cm) (g)	名称・分類	備考
62-41	P-41	覆土	長さ (10.9) 重さ (4.6)	骨角器	Y-27-22 鉄鍍欠損?
62-42	P-41	覆土	長さ (12.5) 重さ (5.2)	骨角器	Y-27-22 鉄鍍欠損?
62-43	P-41-㉞	覆土	長さ (6.4)	骨角器	
63-44	P-41-㉟	覆土	長さ (14.7) 重さ (6.2)	骨角器	骨鍍?
63-45	P-41	覆土	長さ (12.2) 重さ (5.5)	骨角器	骨鍍?
63-46	P-41	覆土	長さ (12.7) 重さ (5.0)	骨角器	骨鍍?
63-47	P-41	覆土	長さ (10.5) 重さ (4.5)	骨角器	骨鍍?
63-48	P-41	覆土	長さ (10.0) 重さ (3.3)	骨角器	骨鍍?
63-49	P-41	覆土	長さ (12.2) 重さ (6.0)	骨角器	
63-50	P-41	覆土	長さ (10.2)	骨角器	
63-51	P-41	覆土	長さ (4.7)	骨鍍	
63-52	P-41	覆土	長さ (5.4)	骨鍍	
63-53	P-41	覆土	長さ (6.8)	骨角器	骨鍍?
63-54	P-41	覆土	長さ (7.5)	骨角器	
63-55	P-41	覆土	長さ (8.1)	骨角器	
63-56	P-41	覆土	長さ (9.7) 重さ (4.2)	骨角器	
63-57	P-41	覆土	長さ (9.2)	骨角器	
63-58	P-41-㊱	覆土	長さ 2.4 厚さ 1.5	骨角器	
63-59	P-41-㊲	覆土	径 3.2 厚さ 0.9	環状骨製品	
64-60	P-41	覆土	長さ (8.2) 幅 0.4 重さ (2.4)	骨鍍	
64-61	P-41	覆土	長さ (9.5) 幅 0.75 重さ (3.8)	骨鍍	
64-62	P-41	覆土	長さ 8.8 幅 0.9 重さ 2.6	骨鍍	
64-63	P-41	覆土	長さ 9.3 幅 0.7 重さ 2.4	骨鍍	
64-64	P-41	覆土	長さ 8.8 幅 0.9 重さ 2.8	骨鍍	
64-65	P-41	覆土	長さ 9.4 幅 0.4 重さ 2.8	骨鍍	
64-66	P-41	覆土	長さ (11.5) 幅 0.9 重さ (3.6)	骨鍍	
64-67	P-41	覆土	長さ 7.8 幅 1.0 重さ 2.3	骨鍍	
64-68	P-41-㊳	覆土	長さ (8.0) 幅 0.55 重さ (2.6)	骨鍍	
64-69	P-41	覆土	長さ (6.7) 幅 0.8 重さ (1.9)	骨鍍	
64-70	P-41	覆土	長さ (7.1) 幅 0.4 重さ (1.6)	骨鍍	
64-71	P-41	覆土	長さ (6.0) 幅 0.65 重さ (1.6)	骨鍍	
64-72	P-41	覆土	長さ 6.4 幅 0.65 重さ 1.7	骨鍍	
64-73	P-41	覆土	長さ (5.0) 幅 0.75 重さ (1.3)	骨鍍	
64-74	P-41-㊴	覆土	長さ (3.3) 幅 0.85 重さ (1.0)	骨鍍	
64-75	P-41-㊵	覆土	長さ (4.0) 幅 0.9 重さ (1.1)	骨鍍	
64-76	P-41-㊶	覆土	長さ (5.0) 幅 0.4 重さ (1.7)	骨鍍	
64-77	P-41	覆土	長さ (4.0) 幅 0.7 重さ (0.9)	骨鍍	
64-78	P-41	覆土	長さ (4.4) 幅 0.8 重さ (1.2)	骨鍍	
64-79	P-41	覆土	長さ (3.9) 幅 0.9 重さ (1.3)	骨鍍	
64-80	P-41	覆土	長さ (4.0) 幅 0.65 重さ (1.0)	骨鍍	

図版No-遺物No	出土遺構	層位	計測値 (cm) (g)	名称・分類	備考
64-81	P-41-⑤	覆土	長さ (5.5) 幅 1.0 厚さ 0.6 重さ (1.5)	骨角器	
64-82	P-41	覆土	長さ (6.0) 幅 1.3 厚さ 0.5 重さ (2.3)	骨角器	
64-83	P-41	覆土	長さ 3.1 幅 1.0 厚さ 0.4 重さ 0.7	骨鏃	
64-84	P-41	覆土	長さ 1.3 幅 (0.9) 厚さ 0.6 重さ 0.3	骨角器	
64-85	P-41-②④	覆土	長さ 3.2 幅 0.1 厚さ 0.2 重さ 0.6	骨角器	
65-86	P-41	覆土	長さ 15.3 幅 0.9 重さ 2.2	骨角器	骨鏃?
65-87	P-41	覆土	長さ (13.7) 幅 0.8 重さ (5.1)	骨角器	骨鏃?
65-88	P-41	覆土	長さ (13.0) 幅 0.8 重さ (5.3)	骨角器	骨鏃?
65-89	P-41	覆土	長さ (9.5) 幅 0.8 重さ (3.6)	骨角器	骨鏃?
65-90	P-41	覆土	長さ (8.0) 幅 0.6 重さ (2.2)	骨角器	骨鏃?
65-91	P-41-②④	覆土	長さ (6.4) 幅 1.0 厚さ 0.5 重さ (3.1)	骨角器	骨鏃?
65-92	P-41	覆土	長さ (3.5) 幅 0.5 重さ (0.5)	骨角器	骨鏃?
65-93	P-41	覆土	長さ (4.4) 幅 0.6 重さ (0.9)	骨角器	骨鏃?
65-94	P-41	覆土	長さ (6.8) 幅 0.65 重さ (2.4)	骨角器	骨鏃?
65-95	P-41	覆土	長さ (6.5) 幅 0.7 重さ (2.4)	骨角器	
65-96	P-41	覆土	長さ (6.7) 幅 0.8 重さ (2.0)	骨角器	
65-97	P-41	覆土	長さ (8.4) 幅 0.6 重さ (3.3)	骨角器	
65-98	P-41	覆土	長さ (11.6) 幅 0.6 重さ (4.0)	骨角器	
65-99	P-41	覆土	長さ (8.2) 幅 0.6 重さ (4.1)	骨角器	
65-100	P-41	覆土	長さ (10.2) 幅 0.7 重さ (4.3)	骨角器	
65-101	P-41	覆土	長さ (9.0) 幅 0.7 重さ (3.2)	骨角器	
65-102	P-41	覆土	長さ (7.6) 幅 0.65 重さ (0.2)	骨角器	骨鏃?
65-103	P-41	覆土	長さ (7.1) 幅 0.6 重さ (2.6)	骨角器	
65-104	P-41	覆土	長さ (11.2) 幅 0.65 重さ (4.5)	骨角器	
65-105	P-41	覆土	長さ (8.7) 幅 0.7 重さ (3.5)	骨角器	
65-106	P-41	覆土	長さ (9.6) 幅 0.5 重さ (4.0)	骨角器	
65-107	P-41	覆土	長さ (7.5) 幅 0.6 重さ (2.9)	骨角器	
65-108	P-41	覆土	長さ (6.4) 幅 0.6 重さ (2.8)	骨角器	
66-109	P-41	覆土	長さ (6.2) 幅 0.6 重さ (1.6)	骨角器	
66-110	P-41	覆土	長さ (5.2) 幅 0.7 重さ (2.3)	骨角器	
66-111	P-41	覆土	長さ (7.5) 幅 0.7 重さ (3.1)	骨角器	
66-112	P-41	覆土	長さ (5.9) 幅 0.6 重さ (2.4)	骨角器	
66-113	P-41	覆土	長さ (6.0) 幅 0.5 重さ (2.4)	骨角器	
66-114	P-41	覆土	長さ (5.5) 幅 0.5 重さ (1.8)	骨角器	
66-115	P-41	覆土	長さ (5.1) 幅 0.7 重さ (2.7)	骨角器	
66-116	P-41-②④	覆土	長さ (4.2) 幅 0.5 重さ (1.7)	骨角器	
66-117	P-41	覆土	長さ (4.0) 幅 0.6 重さ (1.6)	骨角器	
66-118	P-41-②④	覆土	全長 9.6 骨部長さ 6.1 幅 1.5 厚さ 1.6	骨角器	軸部鉄製
66-119	P-41	覆土	口径 (16.0) 器高 (3.5)	陶磁器(青磁)	
66-120	P-41	覆土	口径 (15.6) 器高 (6.5)	陶磁器(青磁)	

図版No-遺物No	出土遺構	層位	計測値 (cm) (g)	名称・分類	備考
66-121	P-41	覆土	底径 (4.9) 器高 (1.7)	陶磁器(青磁)	
66-122	P-41-㉑	覆土	長さ (8.5) 幅 0.9 厚さ 0.4	鉄製品	
66-123	P-41-㉒	覆土	長さ 9.3 幅 1.8 厚さ 0.5	鉄鏃	
66-124	P-41-㉓	覆土	長さ (11.5) 幅 1.15 厚さ 0.2	鉄鏃	
66-125	P-41-①	覆土	長さ 15.1 幅 1.1 厚さ 1.0	鉄製品	
66-126	P-41-③	覆土	長さ 9.6 幅 0.8 厚さ 0.8	鉄製品	
66-127	P-41-⑩	覆土	長さ 6.6 幅 0.6 厚さ 0.6	鉄製品	
66-128	P-41	覆土	長さ 4.5 幅 0.7 厚さ 0.6	鉄製品	
66-129	P-41-㉔	覆土	長さ 8.8 幅 0.6 厚さ 0.5	鉄製品	
66-130	P-41	覆土	長さ 8.0 幅 1.6 厚さ 0.4	鉄製品	鏃?
67-131	P-41	覆土	全長 61.8 刃長 53.1 刃幅 1.2	太刀	縮尺1/3
67-132	P-41-㉕	覆土	長さ 4.1 幅 2.6 重さ 0.1	刀装具	
67-133	P-41-⑨	覆土	全長 (30.3) 刃長 (23.6) 厚さ (0.5)	刀子	
67-134	P-41-①	覆土	全長 (20.1) 厚さ (0.3)	刀子	
67-135	P-41-④	覆土	全長 (20.5) 刃長 (16.0) 厚さ 0.3	刀子	
68-1	P-69	覆土	底径 6.7 器高 (2.5)	陶磁器	
68-2	P-69	覆土	底径 (6.0) 器高 (3.8)	陶磁器	
	P-70				掲載遺物なし
69-1	P-71-⑤	壙底	全長 15.2 厚さ 0.4	刀子	
69-1	P-72-③	壙底	長さ 7.0 吸口径 0.4 管径 0.9	煙管(吸口)	
70-1	P-74-⑪	壙底	長さ 3.1 幅 1.0 厚さ 0.7 重さ 1.8	石鏃(チャート)	
70-2	P-74-④	壙底	長さ 9.8 幅 9.3 厚さ 4.6 重さ 450	砥石(安山岩)	縮尺1/3
70-3	P-74-⑬	壙底	長さ 10.7 幅 10.0 厚さ 4.0 重さ 485	砥石(安山岩)	縮尺1/3
70-4	P-74-⑤	壙底	長さ 12.4 幅 (4.7) 厚さ 4.5 重さ (290)	砥石(安山岩)	縮尺1/3
70-5	P-74-⑱	壙底	長さ 13.0 幅 11.4 厚さ 5.1 重さ 770	礫(安山岩)	縮尺1/3
70-6	P-74-②	覆土	長さ 8.7 幅 8.5 厚さ 3.2 重さ 200	礫(安山岩?)	縮尺1/3
	P-73				掲載遺物なし
	P-75				掲載遺物なし
71-1	P-76	覆土		土器拓本	底部
72-1	P-77-①	壙底	口径 (12.1) 胴径 15.0 器高 (14.1)	土器	
72-2	P-77-②	壙底	口径 (16.5) 胴径 17.0 器高 (21.0)	土器	
72-3	P-77-⑦	壙底	長さ 9.3 幅 4.0 厚さ 1.5 重さ101.5	石斧(片岩)	縮尺1/3
72-4	P-77-③	壙底	長さ 8.8 幅 (3.8) 厚さ 1.6 重さ (92.5)	石斧(泥岩)	縮尺1/3
72-5	P-77-⑧	壙底	長さ 10.6 幅 4.2 厚さ 2.2 重さ 180	石斧(泥岩)	縮尺1/3
72-6	P-77-⑥	壙底	長さ 7.8 幅 4.6 厚さ 2.5 重さ110	石斧(泥岩)	縮尺1/3
73-1	P-78-⑰	壙底	長さ (3.3) 幅 (1.7) 厚さ 0.4 重さ (1.8)	石鏃(黒曜石)	
73-2	P-78-⑥	壙底	長さ 5.2 幅 3.5 厚さ 0.6 重さ 13.0	R・F(頁岩)	
73-3	P-78-⑱	壙底	長さ 4.6 幅 3.7 厚さ 0.5 重さ 8.6	削器(黒曜石)	
73-4	P-78-③	壙底	長さ 5.8 幅 3.3 厚さ 0.9 重さ 11.4	R・F(黒曜石)	
73-5	P-78-⑭	壙底	長さ (2.4) 幅 3.0 厚さ 0.4 重さ (2.7)	R・F(黒曜石)	

図版No-遺物No	出土遺構	層位	計測値 (cm) (g)	名称・分類	備考
73-6	P-78-②	城底	長さ 6.8 幅 3.0 厚さ 0.8 重さ 14.0	ナイフ(石英)	
73-7	P-78	覆土	長さ (2.6) 幅 1.7 厚さ 0.4 重さ (1.6)	石鏃(黒曜石)	
74-1	P-79	覆土		土器拓本	口縁部
	P-80				掲載遺物なし
75-1	P-81	覆土		土器拓本	口縁部
75-2	P-81	覆土	長さ 2.7 幅 2.7 厚さ 1.5 重さ 6.5	R・F(頁岩)	
75-3	P-81-②	覆土	長さ 8.5 幅 5.5 厚さ 5.2 重さ 305	蔽石(安山岩)	
75-4	P-81	覆土	長さ 9.1 幅 8.5 厚さ 3.6 重さ 355	蔽石(安山岩)	
76-1	P-82-①	覆土		土器拓本	胴部
76-2	P-82-①	覆土		土器拓本	胴部
76-3	P-82-①	覆土		土器拓本	胴部
76-4	P-82	覆土	長さ 3.1 幅 1.1 厚さ 0.3 重さ 0.8	石鏃(黒曜石)	
76-1	P-83-②	城底	径 8.0 厚さ 0.25 重さ 0.2	平玉(コハク)	
76-2	P-83-①	城底	径 (0.8) 厚さ 0.8 重さ (0.5)	平玉(コハク)	
77-1	P-84-①	覆土		土器拓本	口縁部
77-2	P-84-③	覆土		土器拓本	口縁部
77-3	P-84	覆土		土器拓本	胴部
77-4	P-84	覆土		土器拓本	胴部
77-5	P-84	覆土		土器拓本	胴部
77-6	P-84	覆土		土器拓本	胴部
77-7	P-84	覆土		土器拓本	胴部
77-1	P-85-⑥	城底	長さ 8.5 幅 3.0 厚さ 0.7 重さ 18.6	削器(頁岩)	
77-2	P-85-⑤	城底	長さ 3.1 幅 2.4 厚さ 0.7 重さ 4.8	R・F(頁岩)	
78-1	P-86-①	城底	長さ (1.3) 径 0.5 重さ (0.4)	管玉(碧玉)	
78-2	P-86-④	城底	長さ (0.6) 径 (0.5) 重さ (0.1以下)	管玉(碧玉)	
78-3	P-86-③	城底	長さ 2.1 幅 2.3 厚さ 1.5 重さ 7.3	フレタ(黒曜石)	
78-1	P-89-①	城底	口径 (3.8) 胴径 9.1 底径 4.0 器高 12.7	土器	
79-1	P-90	覆土		土器拓本	底部
79-1	P-91-④	城底	径 1.3 厚さ 1.0 重さ 2.3	ガラス玉	
79-2	P-91-⑦	城底	全長 12.2 刃長 7.8 厚さ (0.6)	刀子	
79-3	P-91-⑤	城底	火皿径 1.6 火皿高 0.9	煙管(火皿)	
79-4	P-91-⑥	城底	火皿径 1.6 火皿高 1.05	煙管(火皿)	
79-5	P-91-⑤	城底	長さ (3.3) 吸口径 (0.7) 径 0.95	煙管(吸口)	
79-6	P-91-⑤	城底	長さ (2.8) 吸口径 (0.6) 径 1.0	煙管(吸口)	
	P-92				掲載遺物なし
81-1	P-93-①	城底	全長 21.3 厚さ 1.1	刀子	
81-2	P-93-②	城底	長さ 23.6 厚さ 1.0	鉄製品	
81-1	P-96	覆土	長さ 4.9 幅 1.5 厚さ 0.4 重さ 1.7	石鏃(頁岩)	
82-1	P-94-①	城底	口径 11.1 底径 6.0 器高 13.0	土器	一括
82-2	P-94-②	城底	口径 21.4 底径 10.0 器高 28.4	土器	一括

図版No-遺物No	出土遺構	層位	計測値 (cm) (g)	名称・分類	備考	
83-3	P-94-⑤	壙底	長さ 5.4 幅 1.8 厚さ 0.4 重さ 4.2	ナイフ(頁岩)	接合資料	
83-4	P-94-⑦	壙底	長さ 5.6 幅 3.4 厚さ 1.4 重さ 16.4	削器(頁岩)		
83-5	P-94-⑩	壙底	長さ 4.8 幅 3.3 厚さ 0.8 重さ 10.4	削器(黒曜石)		
83-6	P-94-④	壙底	長さ 5.2 幅 3.0 厚さ 1.0 重さ 13.2	削器(黒曜石)		
83-7	P-94-⑪	壙底	長さ 3.8 幅 3.4 厚さ 0.6 重さ 7.6	R・F(黒曜石)		
83-8	P-94-③	壙底	長さ 3.6 幅 3.4 厚さ 1.3 重さ 15.2	R・F(黒曜石)		
83-9	P-94-⑫⑬	壙底	長さ 5.0 幅 4.0 厚さ 1.0 重さ 11.8	R・F(黒曜石)		
83-10	P-94-⑨	壙底	長さ 4.3 幅 2.4 厚さ 1.7 重さ 16.2	R・F(黒曜石)		
83-11	P-94-⑥	壙底	長さ 4.3 幅 3.8 厚さ 1.4 重さ 24.8	R・F(黒曜石)		
83-12	P-94-⑧	壙底	長さ 4.4 幅 2.5 厚さ 1.8 重さ 18.0	R・F(黒曜石)		
83-13	P-94-⑭	壙底	長さ 2.0 幅 2.0 厚さ 0.8 重さ 2.1	フリク(黒曜石)		
83-14	P-94-⑮	壙底	長さ 2.0 幅 1.3 厚さ 0.6 重さ 0.8	フリク(黒曜石)		
83-15	P-94-①	壙底	長さ 12.2 幅 4.3 厚さ 2.1 重さ 160	石斧(片岩)		
84-1	P-95-②	壙底	口径 17.7 底径 6.0 器高 21.3	土器		
84-2	P-95-③	壙底	口径 15.4 底径 6.2 器高 17.2	土器		
85-3	P-95-①⑦	壙底	口径 (19.4) 器高 (9.1)	土器		
85-4	P-95-⑨	壙底	長さ 4.0 幅 1.3 厚さ 0.4 重さ 0.9	石鏃(黒曜石)		
85-5	P-95-⑩	壙底	長さ 3.2 幅 1.3 厚さ 0.4 重さ 0.9	石鏃(黒曜石)		
85-6	P-95-⑩-1	壙底	長さ 3.2 幅 1.3 厚さ 0.4 重さ 0.8	石鏃(黒曜石)		
85-7	P-95-⑩-2	壙底	長さ 3.4 幅 1.2 厚さ 0.4 重さ 1.0	石鏃(黒曜石)		
85-8	P-95-⑩-3	壙底	長さ 4.4 幅 1.4 厚さ 0.5 重さ 1.2	石鏃(黒曜石)		
85-9	P-95-⑩-4	壙底	長さ 2.8 幅 1.3 厚さ 0.2 重さ 0.8	石鏃(粘板岩)		
85-10	P-95-⑧	壙底	長さ 4.5 幅 2.3 厚さ 1.5 重さ 10.4	フリク(黒曜石)		
85-11	P-95-⑥	壙底	長さ 4.2 幅 5.5 厚さ 0.6 重さ 10.6	フリク(頁岩)		
85-12	P-95-⑤	壙底	長さ 12.5 幅 5.4 厚さ 2.2 重さ 240	石斧(泥岩)		
図版No-遺物No	出土地点	層位	計測値 (cm) (g)	名称・分類		備考
86-1	b-28-①	—	口径 19.0 胴径 20.2 底径 5.7 器高 27.4	土器		一括
86-2	b-27-06	II	口径 11.1 底径 4.4 器高 9.4	土器		
86-3	a-28-06-①	—	胴径 35.8 底径 8.0 器高 (36.0)	土器	一括	
87-1	c-28-03	II	口径 (13.0) 底径 (6.0) 器高 (11.7)	注口土器	一括	
87-2	b-28-②	—	胴径 (34.2) 器高 (26.0)	土器	一括	
88-1	c-28-22	IV		土器拓本	胴部	
88-2	b-28-05	IV		土器拓本	胴部	
88-3	b-28-05	IV		土器拓本	胴部	
88-4	c-29-08	IV		土器拓本	口縁部	
88-5	c-28-25	IV		土器拓本	口縁部	
88-6	c-29-08	IV		土器拓本	口縁部	
88-7	c-28-25	III		土器拓本	口縁部	
88-8	d-28-12	II		土器拓本	口縁部	
88-9	c-28-01	II		土器拓本	口縁部	

図版No-遺物No	出土地点	層位	計測値 (cm) (g)	名称・分類	備考
88-10	d-28-22	II		土器拓本	口縁部
88-11	c-28-24	III		土器拓本	口縁部
88-12	b-28-17	III		土器拓本	口縁部
88-13	c-28-25	IV		土器拓本	胴部
88-14	c-28-01	II		土器拓本	胴部
88-15	a-28-10 a-28-06-②	II		土器拓本	胴部 一括
88-16	c-29-05	III		土器拓本	口縁部
88-17	c-28-25	III		土器拓本	口縁部
88-18	c-28-25	III		土器拓本	胴部
88-19	c-28-24	III		土器拓本	口縁部
88-20	b-27-21	II		土器拓本	口縁部
88-21	c-28-02	II		土器拓本	口縁部
88-22	b-28-06	II		土器拓本	口縁部
88-23	b-28-03	II		土器拓本	口縁部
88-24	b-28-03	II		土器拓本	胴部
88-25	b-27-06	II		土器拓本	胴部
88-26	b-28-②	—		土器拓本	胴部 一括
88-27	b-28-03	III		土器拓本	胴部
88-28	b-27-21	—		土器拓本	胴部 一括
88-29	b-28-06	II		土器拓本	胴部
88-30	b-27-19-①	—		土器拓本	胴部 一括
88-31	b-28-11	II		土師器拓本	胴部 坏(内黒)
89-1	X-27-10	III	長さ 3.9 幅 1.9 厚さ 0.4 重さ 1.4	石鏃(黒曜石)	
89-2	Y-27	II	長さ 4.0 幅 1.8 厚さ 0.7 重さ 4.8	石鏃(黒曜石)	
89-3	b-28-19	IV	長さ 2.8 幅 1.3 厚さ 0.5 重さ 1.8	石鏃(頁岩)	
89-4	c-29-08	IV	長さ (6.3) 幅 5.2 厚さ 0.6 重さ (26.0)	ナイフ(頁岩)	
89-5	b-28-03	II	長さ 8.0 幅 3.5 厚さ 0.7 重さ 18.6	ナイフ(黒曜石?)	
89-6	c-28-09	II	長さ 5.9 幅 1.6 厚さ 0.9 重さ 6.8	削器(頁岩)	
89-7	Y-27-06	IV	長さ 3.7 幅 4.5 厚さ 0.6 重さ 8.2	削器(チャート)	
89-8	Y-27	II	長さ 4.0 幅 2.7 厚さ 0.7 重さ 6.2	釜器(チャート)	
89-9	b-28-12	IV	長さ (7.2) 幅 4.0 厚さ 1.9 重さ (109)	石斧(泥岩)	
89-10	c-29-08	IV	長さ 10.8 幅 5.1 厚さ 3.5 重さ 248	石斧(泥岩)	
89-11	c-28-05	II	長さ (7.9) 幅 4.8 厚さ 1.9 重さ (101)	石斧(泥岩)	
90-1	c-29-01	IV	長さ 5.3 幅 7.3 厚さ 1.6 重さ 52.5	R・F(頁岩)	
90-2	c-29-08	IV	長さ 3.7 幅 2.0 厚さ 0.5 重さ 2.4	R・F(頁岩)	
90-3	b-28-11	IV	長さ 2.5 幅 2.1 厚さ 0.6 重さ 1.9	R・F(黒曜石)	
90-4	b-27-19-①	IV	長さ 4.2 幅 3.3 厚さ 0.7 重さ 7.0	フリク(黒曜石)	
90-5	c-29-08	IV	長さ 12.2 幅 9.8 厚さ 4.9 重さ 475	蔽石(凝灰岩)	
90-6	c-28-20	IV	長さ 2.0 幅 2.2 厚さ 1.25 重さ 7.6	垂飾(ヒスイ?)	
90-7	カクラン	—	長さ (8.7) 幅 2.2 厚さ (1.6)	行器脚部	シントコ

図版No-遺物No	出土地点	層位	計測値 (cm) (g)	名称・分類	備考
90-8	b-27-21	Ⅱ	径 2.4	金属輪	
90-9	c-27-25	Ⅱ	径 2.3 厚さ 0.1 孔径 0.6 重さ 2.8	古銭	「紹聖元寶」
90-10	c-27-21	Ⅱ	径 2.4 厚さ 0.1 孔径 0.6 重さ 3.0	古銭	「元豊通寶」
90-11	—	カクラン	径 2.0 厚さ 0.2 孔径 0.5 重さ 4.4	古銭	「洪武通寶」(背一銭)
90-12	c-28-08	Ⅱ	径 2.5 厚さ 0.15 孔径 0.5 重さ 3.9	古銭	「永楽通寶」
91-1	—	カクラン		すり鉢(珠洲焼)	櫛目(8条)
91-2	—	カクラン	胴径 6.6 底径 5.8 器高 (14.1)	陶磁器(徳利)	縮尺1/2
91-3	—	カクラン	口径 4.3 器高 (9.3)	陶磁器(徳利)	縮尺1/2
91-4	—	カクラン	底径 6.8 器高 (9.7)	陶磁器(徳利)	縮尺1/2
91-5	—	カクラン	底径 7.3 器高 (9.4)	陶磁器(徳利)	縮尺1/2
91-6	d-28-22	Ⅱ	底径 (14.0) 器高 (10.8)	陶磁器(徳利)	高台釉付

口絵掲載漆器類

掲載No	出土遺構	名称・分類	備考
口絵6	P-41	漆器椀	第57図-136
口絵6	P-41	漆器椀	第57図-137
口絵6	P-41	櫛	第57図-138
口絵6	P-41	漆器椀	第57図-139
口絵6	P-41	漆器椀	第57図-140
口絵10	P-71	漆器椀	第69図-2
口絵10	P-71	漆器椀	第69図-3
口絵10	P-71	漆器椀	第69図-4
口絵10	P-73	行器	第73図
口絵10	P-91	漆器椀	第79図-7

大川遺跡道道地点

第IV章 道道地点

1, 概要

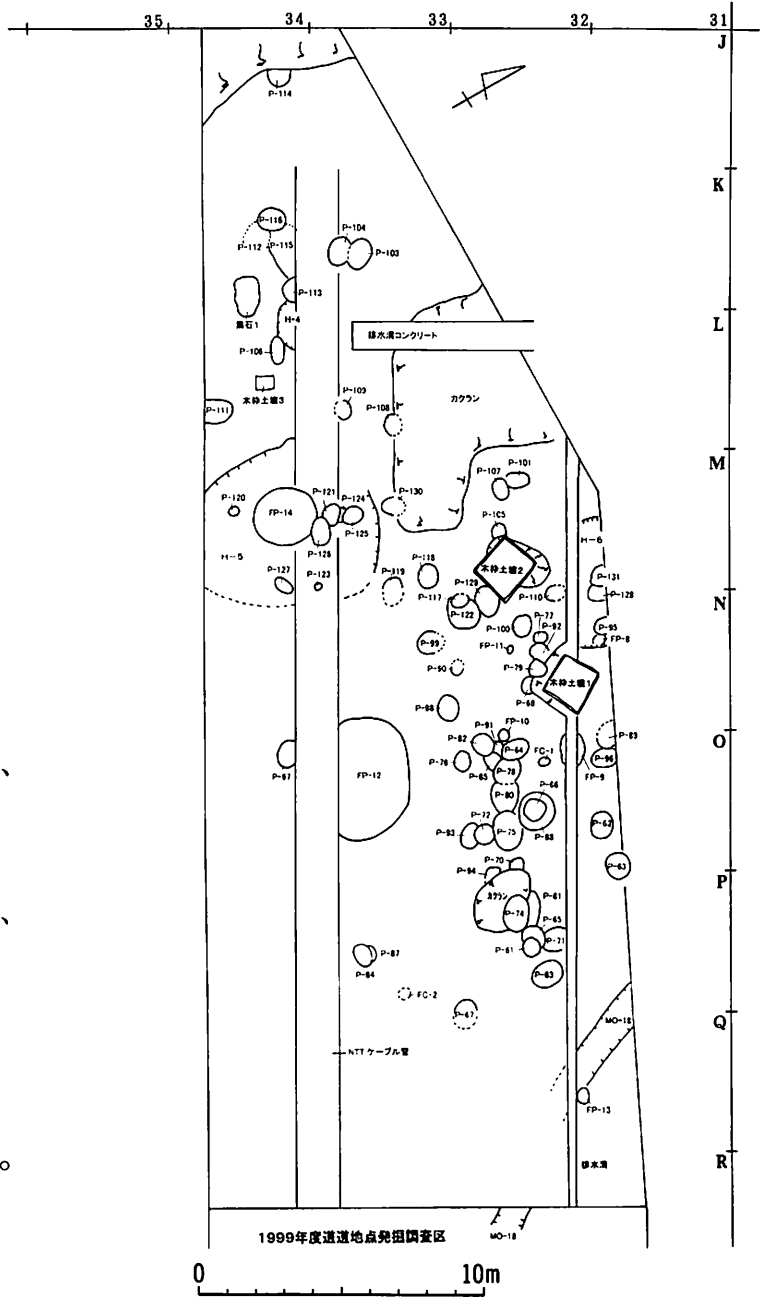
2000年度大川遺跡道道地点からは、縄文時代晩期から続縄文時代の墓壙55基、同じく土壙11基、擦文時代の住居跡2軒、縄文時代晩期の焼土2ヶ所、中・近世の壕状遺構1基、近代の木柵土壙3基などが検出されている。

1989～1994年度の発掘区域の中間地点に当たり旧現道下で1999年度の発掘調査区の西続きとなり、標高5mの大川砂丘に立地する。土層は道路によって表土から約1mが破壊され、部分的に水道などによって攪乱されている。IV層は2分され、上部に氾濫堆積物と思われる粗粒の黄褐色砂層が見られ、続縄文時代の恵山文化期に相当する。

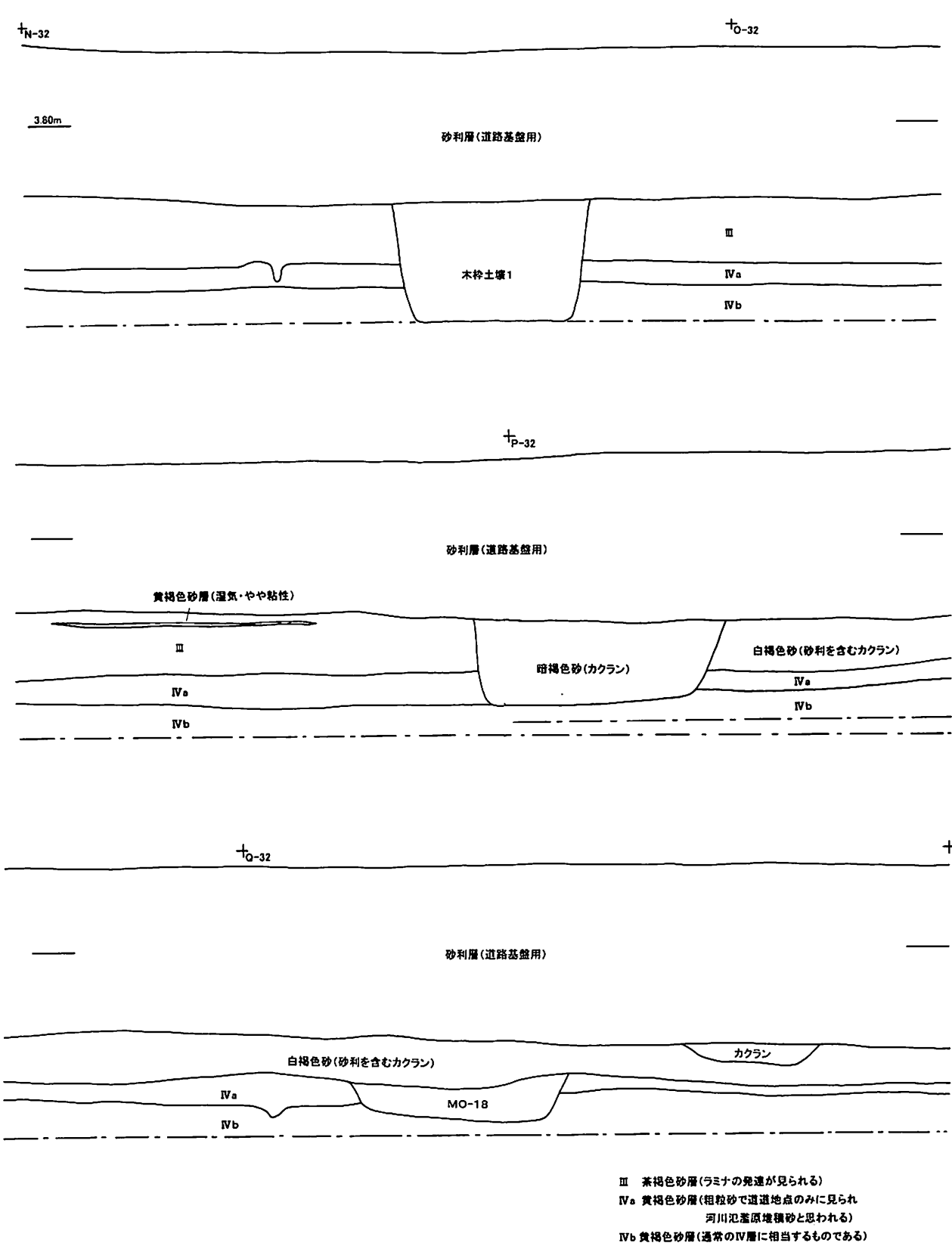
遺構は大半が恵山文化の墓壙であり、重複などの密集が激しい。形態は円形または楕円形を呈し、頭位は東の屈葬で副葬品に土器、石器（石鏃、ナイフ、石斧、玉）などが見られ、墓標として大形の自然礫を配置している。

住居跡は擦文時代のもので攪乱により床面がわずかに残されているものでH-6は炭化材が残る焼失家屋である。壕状遺構はMO-18に相当するもので断面はU字形を呈し、自然堆積によって埋没している。

出土遺物は土器22,914点、石器2,232点、剥片11,678点、金属製品18点、計36,842点を数える。



第92図 道道地点 遺構配置図



第93図 発掘区土層断面図

2. 遺構と出土遺物

(1) 墓壙および土壙（遺構番号は1999年度からの連番、ただしP-69,73,86,102は欠番）

・ P-62（第94・95図）

O31グリッドに位置する墓壙である。楕円形を呈し、径約1.23×0.95m、深さ28cmを測り、遺体は側臥屈葬の東頭位であり、足元に礫を置いている。副葬品として石鏃29点、石槍1点、石斧1点、フレイク10点、原石2点などがまとまって出土している。時期については続縄文時代恵山式期である。

・ P-63（第96・97図）

O31・P31グリッドに位置する墓壙で、円形を呈し径約1.25mを測る。壙底部のみの検出であるが、東側に完形の土器が置かれ、石鏃51点、石斧2点、ナイフ1点が出土し、歯や遺体の状況から東頭位と思われる。時期については続縄文時代後北式期である。

・ P-64（第98・99図）

O32グリッドに位置する墓壙である。円形を呈し径約1.4×1.25m、深さ20cmを測る。遺体痕跡周辺には副葬品として土器片、石鏃1点、ナイフ1点、フレイク1点が出土しており、礫を置いている。時期については続縄文時代恵山式期である。

・ P-65（第100・101図）

P32グリッドに位置する墓壙で、P-71・74・81を切って構築されている。楕円形を呈し、径約1.39×1.05m、深さ48cmを測り、壙底部にベンガラが見られる。副葬品として土器片、フレイクが出土している。時期については続縄文時代恵山式期である。

・ P-66（第102・103図）

O32グリッドに位置する墓壙である。P-80の上部に作られ、楕円形を呈し径約1.57×1.34mを測る。副葬品として完形深鉢1点、石鏃1点、フレイクが出土している。時期については続縄文時代恵山式期である。

・ P-67（第105図）

P32・Q32グリッドに位置する墓壙である。東側は攪乱されているが、楕円形を呈すると思われ、現状で径約0.85m、深さ12cmを測る。副葬品として土器が出土している。壙底にはわずかに遺体と思われる痕跡が確認された。時期については続縄文時代恵山式期である。

・ P-68（第109・110図）

N32グリッドに位置する墓壙である。木枠土壙により大きく切られている。西寄りには人骨の一部が検出され、遺物はないが、時期については縄文時代晩期から続縄文時代

恵山式期のものと思われるが判然としない。

・ P-70 (第106・107図)

O35グリッドに位置する墓墳である。東側は攪乱されているが、楕円形を呈すると思われる、現状で径約0.73m、深さ11cmを測る。東側には人骨の一部が検出された。時期については副葬品等から続縄文時代恵山式期のものと思われる。

・ P-71 (第100・101図)

P32グリッドに位置する墓墳で、北側は排水溝のため攪乱されている。形態は長楕円形を呈すると思われる、現状で径約1.34m、深さ10cmを測る。東側に炭化物範囲が検出され、時期については副葬品が見られないが、続縄文時代恵山式期のものと思われる。

・ P-72 (第105図)

O32グリッドに位置する墓墳である。楕円形を呈し径約1.1×0.97m、深さ8cmを測る。墳底部にベンガラが見られ、若干確認された歯片の位置から頭位は南東と思われる。時期については副葬品が見られないが、続縄文時代恵山式期のものと思われる。

・ P-74 (第100図)

P32グリッドに位置する土墳である。P-81と切り合っている。楕円形を呈し径約1.16×0.72m、深さ20cmを測る。伴出遺物は見られないが、続縄文時代恵山式期のものと思われる。

・ P-75 (第106・107図)

O32グリッドに位置する墓墳である。P-72・93と切り合っている。楕円形を呈し径約1.4×1.12m、深さ20cmを測る。遺体は側臥屈葬の南東頭位である。副葬品として土器片や石斧などが出土している。時期については、続縄文時代恵山式期のものと思われる。

・ P-76 (第111図)

O32グリッドに位置する墓墳である。楕円形を呈し径約1.18×0.9m、深さ22cmを測る。墳底部全面にベンガラが見られ、人骨や歯の状況から東頭位であり、副葬品として完形土器1点、スクレイパー3点、ドリル1点、コア1点が出土している。時期については続縄文時代恵山式期のものである。

・ P-77 (第109図)

N32グリッドに位置する墓墳である。ほぼ円形を呈し径約0.97×0.67m、深さ10cmを測り、墳底部に人骨の一部が見られた。副葬品は出土していないが、時期については続縄文時代恵山式期のものと思われる。

・ P-78 (第98図)

O32グリッドに位置する墓墳である。東西が他の墓墳に切られている。ほぼ円形を呈すると思われる。遺体の痕跡の一部が検出され、副葬品は出土していないが、時期については縄文時代恵山式期のものと思われる。

・ P-79 (第109・110図)

N32グリッドに位置する土墳である。北側は木柢土墳により攪乱されている。楕円形を呈し径約1.18×0.52m、深さ15cmを測る。南側から石斧3点、コア1点が出土している。時期については縄文時代晩期～縄文時代のものと思われる。

・ P-80 (第98・99図)

O32グリッドに位置する墓墳である。楕円形を呈し径約1.65×1.1m、深さ15cmを測り、遺体の痕跡が南東側に検出された。副葬品として北西側に完形の小形土器1点、西側に石鏃3点が出土している。時期については遺物などから縄文時代恵山式期のものである。

・ P-81 (第100図)

P32グリッドに位置する墓墳である。攪乱を受けているが、楕円形を呈し径約1.36×0.68m、深さ17cmを測る。遺体の一部として歯が少量検出され、北西側に礫を置いている。時期については縄文時代恵山式期のものである。

・ P-82 (第98図)

O32グリッドに位置する墓墳である。楕円形を呈し径約1.3×1.1m、深さ30cmを測り、墳底にはベンガラが見られる。歯の位置から南西頭位と思われ、北東側には礫が置かれる。副葬品が出土していないが縄文時代恵山式期のものと思われる。

・ P-83 (第100・101図)

P32グリッドに位置する墓墳である。攪乱を受けているが、楕円形を呈し径約1.35×1.13m、深さ30cmを測る。南東部分に歯が検出され、副葬品として完形土器1点が頭部付近から出土している。時期については縄文時代恵山式期のものである。

・ P-84 (第112・113図)

P33グリッドに位置する墓墳である。楕円形を呈し径約1.26×0.99m、深さ18cmを測る。遺体範囲の周辺には副葬品として完形土器1点や土器片、フレイク1点、覆土から石鏃などが出土している。時期については縄文時代恵山式期のものである。

・ P-85 (第98図)

O32グリッドに位置する墓墳であり、東西をP-78・82に切られている。楕円形を呈し、深さ17cmを測り、墳底にはベンガラが見られる。副葬品が見られないが、縄文時代

代恵山式期のものと思われる。

・ P-87 (第112・113図)

P 32グリッドに位置する土壌である。楕円形を呈し径約1.23×1.02m、深さ20cmを測る。P-84に切られており、墓壙である可能性があり、土器片が出土している。時期については続縄文時代恵山式期のものと思われる。

・ P-88 (第102～104図)

O 32グリッドに位置する墓壙である。大形でほぼ円形を呈し径約1.7×1.5m、深さ66cmを測り、上部にP-66が作られている。壙底にはベンガラが敷かれその北東側に側臥屈葬で南東頭位の遺体が検出されたが、2体合葬と推定され、副葬品として完形土器4点(その内1点は入れ子となっていた)、コハク玉9点、石槍1点、ナイフ1点、フレイク2点などが出土し、供物と思われるような貝の痕跡も見られた。土器は恵山式後半と後北B式土器が相伴している。時期については続縄文時代前半のものである。

・ P-89 (第114図)

N31・O31グリッドに位置する墓壙である。一部が発掘区外であるが楕円形を呈し径約1.07×0.71m、深さ10cmを測る。副葬品として東側に完形土器1点と礫が出土し、時期については続縄文時代恵山式期のものである。

・ P-90 (第115図)

N32グリッドに位置する土壌である。西側が一部攪乱されているが楕円形を呈し、現状で径約0.88m、深さ20cmを測る。出土遺物はないが時期については続縄文時代恵山式期のものと思われる。

・ P-91 (第115・116図)

O 32グリッドに位置する墓壙である。ほぼ円形を呈し径約1.33×1.26m、深さ22cmを測り、P-64・85によって切られている。遺体の一部や歯が検出され、その状況から南東頭位と思われる。副葬品として完形土器1点、石鏃10点、ドリル1点、フレイクなどが出土している。時期については続縄文時代恵山式期のものである。

・ P-92 (第109図)

N32グリッドに位置する墓壙である。東側が木柢土壌によって攪乱されているが楕円形を呈し径約1.48×1.1m、深さ35cmを測る。壙底にはベンガラと北東頭位と思われる遺体の一部が検出され、石鏃2点が出土している。時期については縄文時代晩期～続縄文時代恵山式期のものと思われる。

・ P-93 (第106・108図)

O 32グリッドに位置する墓壙である。ほぼ円形を呈し径約1.2m、深さ25cmを測り、

P-72によって切られている。遺体痕跡が見られ、副葬品として南東側に完形土器3点、石鏃83点、石製玉2点、スクレイパー2点などが出土している。土器は恵山式後半と後北B式土器が供伴している。時期については続縄文時代前半のものである。

・ P-94 (第117 図)

O 32・P 32グリッドに位置する墓壙である。東側は攪乱されているが楕円形を呈し、現状で径約0.82m、深さ22cmを測る。木枠のような痕跡があり、副葬品として石鏃21点が出土している。検出状況などからは縄文時代晩期と思われるが判然としない。

・ P-95 (第118 図)

N32グリッドに位置する墓壙である。排水溝のため上部は攪乱されているがほぼ円形を呈し径約0.85m、深さ20cmを測り、壙底にはベンガラが見られ、遺体の状況から南頭位と推定される。副葬品はないが時期については続縄文時代恵山式期のものであると思われる。

・ P-96 (第114 図)

O 31グリッドに位置する墓壙である。北側は発掘区外であるが、大形でほぼ円形を呈し径約1.6×1.48m、深さ25cmを測る。壙底やや南寄りにベンガラが見られ、副葬品はないが検出状況から時期については続縄文時代恵山式期のものであると思われる。

・ P-97 (第121 図)

O34グリッドに位置する土壙である。北側はNTT ケーブル管のために攪乱されているが楕円形を呈し、径約1.35m、深さ25cmを測る。墓壙である可能性が高く、土器片、石鏃1点などが出土している。時期については続縄文時代恵山式期と思われる。

・ P-98 (第122 図)

N32・33グリッドに位置する墓壙である。水道管のために上部は攪乱されている。円形を呈し径約1.5×1.39m、深さ38cmを測り、壙底にはベンガラと遺体の一部が見られる。遺体の状況から東頭位であり、副葬品として頭部付近に完形土器1点、石鏃5点などが出土している。時期については続縄文時代恵山式期のものである。

・ P-99 (第123 図)

N 33グリッドに位置する墓壙である。東側は一部攪乱されているが、楕円形を呈し径約1.5×1.3 m、深さ24cmを測る。遺体の状況から南東頭位であり、副葬品はないが時期については続縄文時代恵山式期と思われる。

・ P-100 (第124 図)

N32グリッドに位置する墓壙である。東側は攪乱されるが、楕円形を呈し径約1.6×1.3 m、深さ44cmを測り、壙底にはベンガラが見られる。遺体の状況から南頭位であり、副葬品として頭部付近に完形土器1点などが出土している。時期については続縄文時代恵

山式期のものである。

・ P-101 (第123図)

M32グリッドに位置する墓壙である。楕円形を呈し径約0.93×0.73m、深さ10cmを測り、遺体の状況から北東頭位であり、副葬品として石鏃9点が出土している。時期については統縄文時代恵山式期のものである。

・ P-103 (第125図)

K33グリッドに位置する墓壙である。南側はP-104と切り合い、大形でほぼ円形を呈し径約1.41×1.12m、深さ20cmを測る。遺体周辺には副葬品として石斧1点、石鏃7点が出土し西側に礫が配される。時期については統縄文時代恵山式期のものであると思われる。

・ P-104 (第125～128図)

K33グリッドに位置する墓壙である。北側はP-103と切り合っている。大形で楕円形を呈し径約1.51×1.38m、深さ21cmを測り、壙底にはベンガラが見られ、遺体の検出状況から東頭位の2体合葬と思われる。副葬品として完形土器1点、小形土器の底部1点、石斧5点、石鏃11点、砥石1点、フレイク76点などが出土し南東側に礫が配されている。時期については統縄文時代恵山式期のものである。

・ P-105 (第129図)

M32グリッドに位置する墓壙である。東側は木柢土壙により攪乱を受けている。楕円形を呈し径約0.82×0.76m、深さ10cmを測り、壙底にはベンガラが散布され、歯の位置から東頭位と思われる。副葬品として石鏃1点、石斧1点、礫玉1点、スクレイパー2点、擦石1点などが出土している。時期については統縄文時代恵山式期のものである。

・ P-106 (第130図)

M34グリッドに位置する墓壙である。楕円形を呈し、径約1.3×0.86m、深さ20cmを測り、壙底にはベンガラが見られる。副葬品として完形に近い土器が1点出土している。時期については縄文時代晩期後半のものである。

・ P-107 (第123図)

M32グリッドに位置する墓壙である。北側はP-101と切り合っている。楕円形を呈し径約1.1×0.68m、深さ12cmを測る。遺体の状況から東頭位と思われ、伴出遺物はないが、時期については統縄文時代恵山式期のものであると思われる。

・ P-108 (第131図)

L33グリッドに位置する墓壙である。北側は攪乱を受けているが、楕円形を呈し現状で径約1.6m、深さ30cmを測り、壙底には遺体の一部が確認され、その状況から南東頭位であり、副葬品として完形に近い無文土器が1点、石鏃4点、ナイフ1点が出土してい

る。時期については続縄文時代恵山式期のものである。

・ P-109 (第132図)

L33グリッドに位置する墓壙である。南側はNTTケーブル管により攪乱を受けている。楕円形を呈し現状で径約0.81m、深さ26cmを測り、壙底にはベンガラが見られる。遺体と思われる痕跡があり、副葬品としてスクレイパー7点、フレイク7点などが出土している。時期については続縄文時代恵山式期のものである。

・ P-110 (第118～120図)

M32・N32グリッドに位置する墓壙である。北側は排水溝により上部は攪乱を受けている。楕円形を呈し、現状で径約1.15m、深さ30cmを測る。壙底には遺体の痕跡が見られ、副葬品として石鏃3点、スクレイパー1点、フレイク7点などが出土している。時期については続縄文時代恵山式期のものである。

・ P-111 (第133図)

L34グリッドに位置する墓壙である。南側は攪乱のため消失しているが、楕円形を呈し現状で径約1.34m、深さ32cmを測り、壙底にはベンガラが見られる。遺体の状況から北頭位であり、上部に大形礫を配している。副葬品として覆土に石鏃、コハク、スクレイパー、壙底に小形土器1点、石鏃1点、スクレイパー1点などが出土している。時期については続縄文時代恵山式期のものである。

・ P-112 (第134図)

K34グリッドに位置する墓壙である。P-116と切り合っている。楕円形を呈し、径約0.89m、深さ8cmを測る。頭部と思われる遺体の一部が検出され、副葬品として小形の浅鉢と壺が一对となっているもの、小形深鉢1点、石鏃1点、フレイク1点などが出土している。時期については続縄文時代恵山式期のものである。

・ P-113 (第136図)

K34グリッドに位置する墓壙である。上面の一部はH-4により切られ、北側は攪乱を受ける。円形を呈し径約1.3m、深さ28cmを測る。遺体の検出状況から南東頭位と思われる。時期については縄文時代晩期～続縄文時代のものと思われる。

・ P-114 (第137・138図)

J34グリッドに位置する墓壙である。西側は余市川により自然破壊されている。楕円形を呈すると思われ、現状で径約1.2m、深さ12cmを測る。壙底には遺体の痕跡が見られ、東側には石斧やフレイクなどの集中が見られるが、周辺が攪乱されているために明確に副葬品とすることはできない状況である。

・ P-115 (第136図)

K 34グリッドに位置する土壙である。P-113・116と切り合い、北側は攪乱を受ける。形態は判然とせず壙底には黒褐色のしみ状のものが見られた。覆土から土器片、石器などが出土しているが伴出とは思われず、時期については判然としない。

・ P-116 (第134・135図)

K34グリッドに位置する墓壙である。上部はP-112により切られている。楕円形を呈し径約1.27×1.0 m、深さ28 cmを測る。壙底には遺体の痕跡が見られ、副葬品として土器2点、石鏃1点、石斧1点、ドリル1点、ナイフ1点、スクレイパー1点、フレイク5点などが出土している。時期については統縄文時代恵山式期のものである。

・ P-117 (第139図)

N 32グリッドに位置する土壙である。P-122の上部に作られており、楕円形を呈し径約1.48×1.21 m、深さ13 cmを測る。墓壙と思われるが判然としない。

・ P-118 (第143図)

M34グリッドに位置する墓壙である。楕円形を呈し径約1.36×1.06 m、深さ34 cmを測る。壙底には遺体の痕跡が見られ、副葬品として完形土器1点、石鏃4点、フレイクが出土し、自然礫が配されている。時期については統縄文時代恵山式期のものである。

・ P-119 (第143図)

M 33・N33グリッドに位置する土壙である。東側は攪乱されているが、楕円形を呈すと思われる、径約1.5 m、深さ12 cmを測る。攪乱部分からコハク原石が1点出土しており、本遺構は墓壙で、その副葬品であった可能性がある。時期については統縄文時代恵山式期のものと思われる。

・ P-120 (第144図)

M34グリッドに位置する墓壙である。H-5を切って作られており、ほぼ円形を呈し径約0.7×0.63 m、深さ20 cmを測る。遺体は確認されなかったが、副葬品として小形土器2点、南側に自然礫が出土している。時期については統縄文時代恵山式期のものである。

・ P-121 (第145図)

M33グリッドに位置する墓壙である。H-5を切って作られており、P-124・126に切られている。楕円形を呈し径約1.25×1.05 m、深さ51 cmを測る。壙底にベンガラが見られ、副葬品はないが時期については統縄文時代恵山式期のものと思われる。

・ P-122 (第139・140図)

N32グリッドに位置する墓壙である。上部にP-117が作られている。楕円形を呈し径約1.8×1.54 m、深さ53 cmを測る。遺体の状況から東頭位の側臥屈葬と思われる、副葬品と

して土器1点、ナイフ1点、玉1点などが出土し、時期については続縄文時代恵山式期のものである。

・ P-123 (第144図)

M33グリッドに位置する土壌である。H-5を切って作られており、楕円形を呈し径約0.67×0.54m、深さ28cmを測る。墓壙とするには小形であり、用途については不明である。時期については続縄文時代のものと思われるが判然としない。

・ P-124 (第145図)

M33グリッドに位置する土壌である。H-5・P-121・125を切っている。ほぼ円形を呈し径約0.70m、深さ51cmを測る。墓壙とするには小形であり、用途については不明である。時期については続縄文時代のものと思われるが判然としない。

・ P-125 (第145図)

M33グリッドに位置する土壌である。H-5を切り、上部にP-124が作られている。楕円形を呈し径約1.05×0.93m、深さ32cmを測り、副葬品はないが墓壙の可能性はある。時期については続縄文時代恵山式期のものと思われる。

・ P-126 (第146・147図)

M33グリッドに位置する墓壙である。H-5・P-121を切って作られている。楕円形を呈し径約1.22×1.03m、深さ47cmを測る。壙底全面にベンガラが見られ、遺体の状況から東頭位と思われ、ピット上部と足元に礫を配し、副葬品として完形土器2点、石斧2点、フレイク2点が出土している。時期については続縄文時代恵山式期のものである。

・ P-127 (第144図)

M34グリッドに位置する墓壙である。H-5を切って作られており、楕円形を呈し、径約1.23×0.86m、深さ23cmを測る。壙底にはベンガラが見られ、遺体の状況から東頭位と思われる。当初H-5床面として取り上げたコハク原石であるが、副葬品であった可能性がある。時期については続縄文時代恵山式期のものと思われる。

・ P-128 (第148・149図)

M31・N31グリッドに位置する墓壙である。北側は発掘区外となり、西側はP-131に切られている。楕円形を呈すると思われ、現状で径約1.26m、深さ30cmを測る。遺体の一部が確認され、東頭位と思われるが判然としない。副葬品として完形土器1点、石槍1点、石斧5点が出土している。時期については続縄文時代恵山式期のものである。

・ P-129 (第139~142図)

M32・N32グリッドに位置する墓壙である。P-122に切られており、楕円形を呈し、現状で径約1.4m、深さ53cmを測る。壙底にはベンガラが見られ、遺体の状況から東頭位

であり、副葬品として土器2点、石槍1点、スクレイパー1点、フレイク34点など多量に出土している。時期については縄文時代晩期のものである。

・ P-130 (第150図)

M33グリッドに位置する墓墳である。北側は攪乱を受けているが、楕円形を呈すると思われ、現状で径1.06m、深さ7cmを測る。遺体痕跡が認められ、西側に礫が置かれている。副葬品の出土はないが時期については続縄文時代恵山式期のものと思われる。

・ P-131 (第148図)

M31・N31グリッドに位置する墓墳である。北側は発掘区外となり、P-128を切って作られており、楕円形を呈すると思われ、現状で径0.92m、深さ30cmを測る。遺体痕跡が認められ、副葬品は出土していないが時期については続縄文時代恵山式期のものと思われる。

以上のように墓墳群について説明してきたが新旧関係は以下のとおりである。

旧P-71→新P-65・83
旧P-74→新P-81→新P-65
旧P-85→新P-80・82→新P-64
旧P-80→新P-64
旧P-75→新P-93→新P-72
旧P-79→新P-92→新P-72・77
旧P-87→新P-84
旧P-95→新P-110
旧P-104→新P-103
旧P-114→新P-112
旧P-129→新P-122→新P-117
旧P-128→新P-131
旧P-121・125→新P-124
旧P-121→新P-126

(2) 住居跡

・ H-4 (第130図)

K34・L34グリッドに位置する竪穴住居であり、P-106・113を切って構築されている。NTTケーブル管及び道路工事の攪乱により、壁際の一部しか検出されず、全体の形状は不明である。刀子が床面から出土しており、擦文時代のものと思われるが、判然としない。

・ H-5 (第151～154図)

L 34, M 33・34, N 34グリッドに位置する竪穴住居であり、NTTケーブル管及び道路工事の攪乱が見られる。楕円形を呈し径約7.5m、深さ38cmを測る。西側には張り出しがあり、出入口の可能性があり、南壁については立ち上がりを確認できなかった。中央には石組炉が見られ、完形に近い土器2点、石斧4点、矢柄研磨器1点、フレイクなどが見られた。覆土からは石鏃8点、ナイフ2点、スクレイパー1点、ドリル1点などが出土している。時期については出土遺物から続縄文時代初頭と思われる。

・ H-6 (第150図)

M 31・N31グリッドに位置する竪穴住居であり、排水溝や道路工事の攪乱を受け、また発掘区外にのびていることなどから、ほとんどその形態は不明である。焼失家屋と言えるもので炭化材が多く残っている。割り板、丸太状のものがみられ、ロームで固めたカマドラしきものが検出されている。時期については床面部分から土器が出土しており擦文時代と思われ、このことから一辺7.5 mほどの正方形を呈すると推定される。

(3) 焼土

・ F P-8 (第155図)

N 31グリッドに位置する。H-6の覆土中にあり、径約0.32×0.22mを測る焼土である。時期については擦文時代以降と思われる。

・ F P-9 (第155図)

O31グリッドに位置する。排水溝により中央が攪乱されている。径約2.95×1.07mを測るもので、黄褐色を呈し炭化物を多く含む。出土遺物はないがⅢ層上面であることから時期については縄文時代晩期～続縄文時代のものと思われるが判然としない。

・ F P-10 (第155図)

O 32グリッドに位置する P-64に切られており、径約0.64×0.5 mを測る。時期については墓壙群と関連するものとも考えられ、縄文時代晩期～続縄文時代のものと思われるが判然としない。

・ F P-11 (第156図)

N 32グリッドに位置する。径約1.12×0.67 mを測るもので、時期については墓壙群と関連するものとも考えられ、縄文時代晩期～続縄文時代のものと思われるが判然としない。

・ F P-12 (第157・158図)

N 33・O33グリッドに位置する。焼土、炭化物、骨類が径約3.6×2.6 mの広い範囲に見られ、大小の礫も多数見られ、その中には焼けたものもあり、土器、擦石、フレイク

などが散在している。大形であることから集団で使用した焚き火跡であろう。時期については縄文時代晩期後半のものと思われる。

・ F P - 13 (第156図)

Q 31グリッドに位置する。ほぼ円形で径約 0.62m、深さ30cmを測る土壌に焼土と円礫が6点程入っており、一部の礫は被熱している。時期については縄文時代晩期～続縄文時代のものと思われるが判然としない。

・ F P - 14 (第159～161図)

M 33・34グリッドに位置する。ほぼ円形の土壌で径約2.56×2.46m、深さ38cmを測る。焼土とともに大形土器、骨類、礫が多数見られ、一部の礫は被熱している。大形であることから集団で使用した焚き火跡であろう。上部にはH-5があることと遺物から時期については縄文時代晩期末のものと思われる。

(4) 集石遺構

・ 集石遺構 1 (第162図)

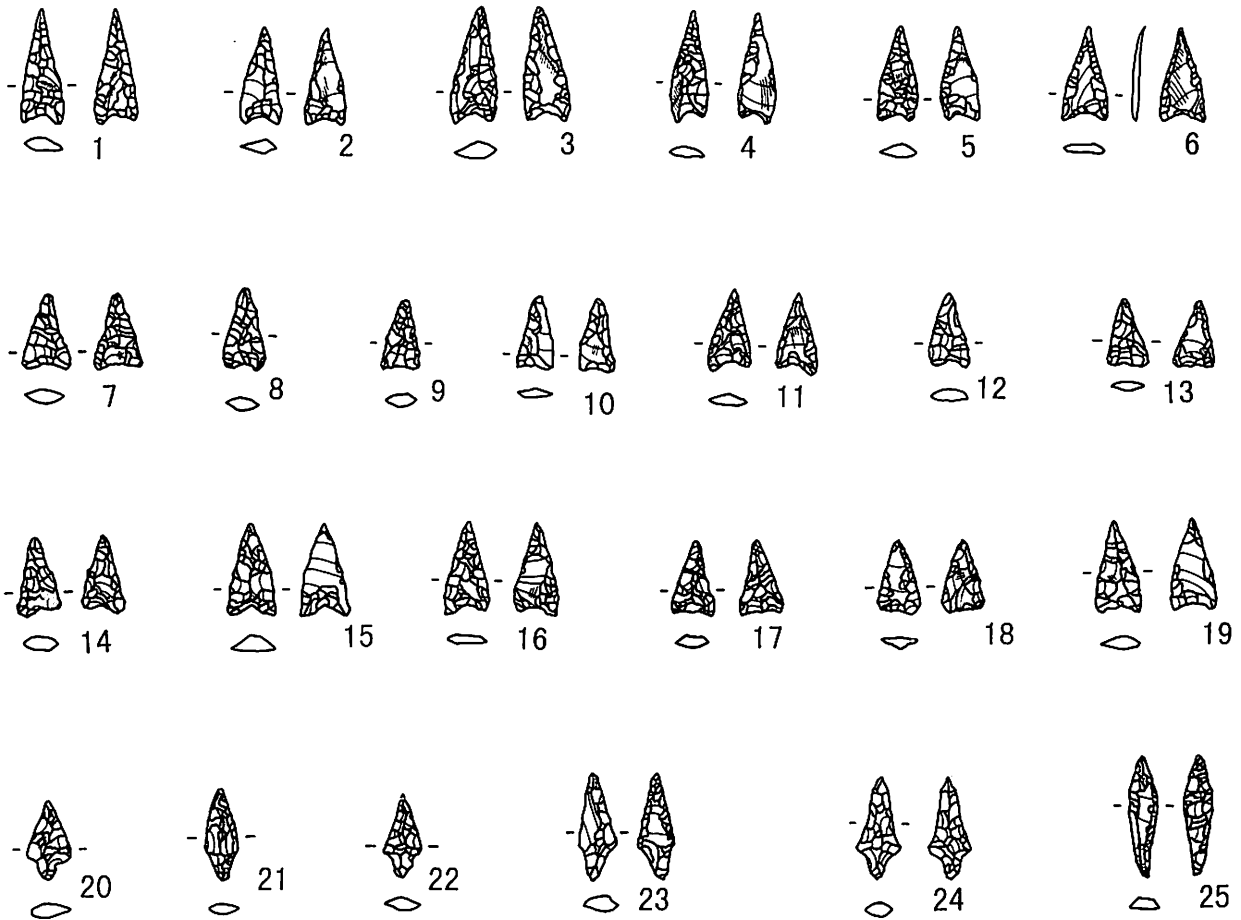
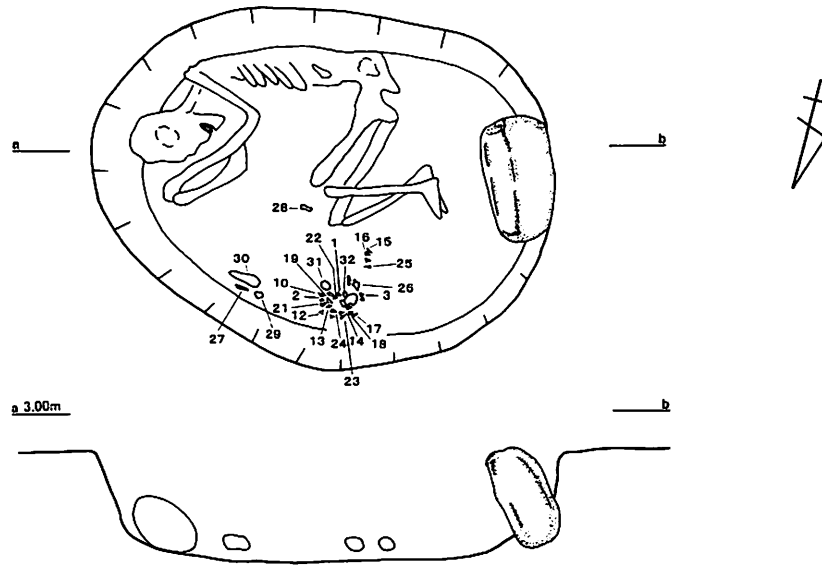
K34・L35グリッドに位置する。Ⅲ層中に見られたもので、約1.2×0.6mほどの範囲に礫が散在するもので一部の礫は被熱している。特に掘り込んだ形跡もなく、若干の炭化物粒子が見られる程度であり、恐らく焚き火などで使用するための礫と思われる。時期については縄文時代晩期末のものと思われるが判然としない。

(5) 壕状遺構

・ M O - 18 (第162図)

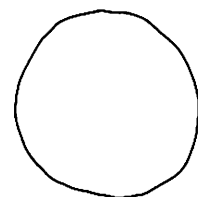
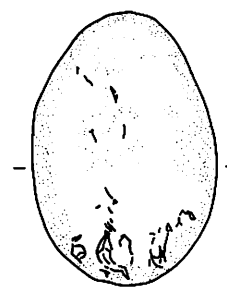
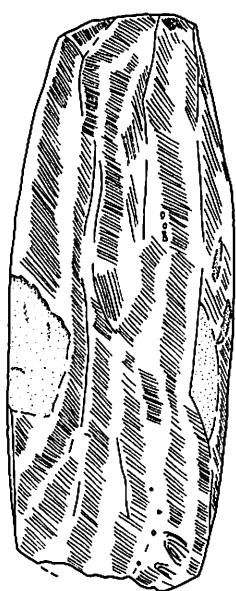
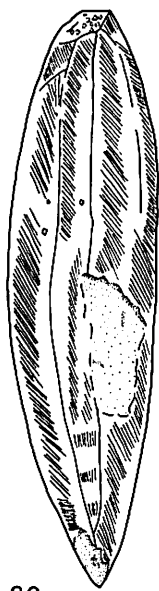
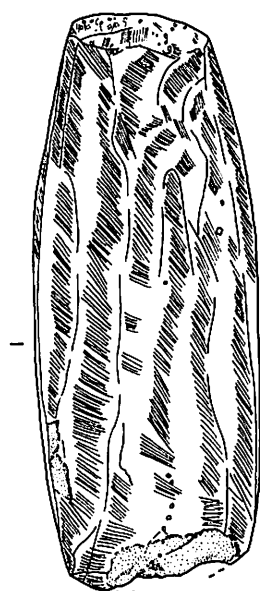
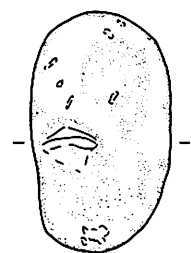
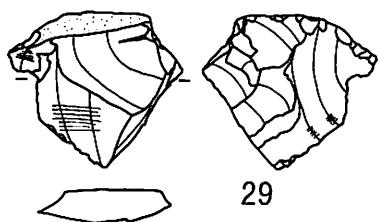
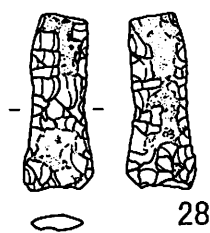
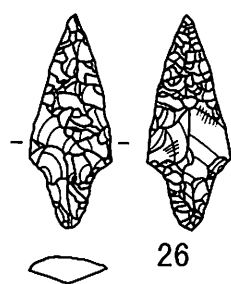
1989年以降発掘区の中で確認されているもので、M O - 18とされている1999年度に検出されたものの続きである。上部は道路によって攪乱されているため、掘り込み面は確認できない。南側は排水溝により攪乱され、幅約1.43m、深さ50cmを測る。覆土は自然堆積した黒褐色砂が主体であり、伴出する遺物は皆無である。時期については続縄文・擦文時代以降のものとして推定できるが判然としない。

P-62



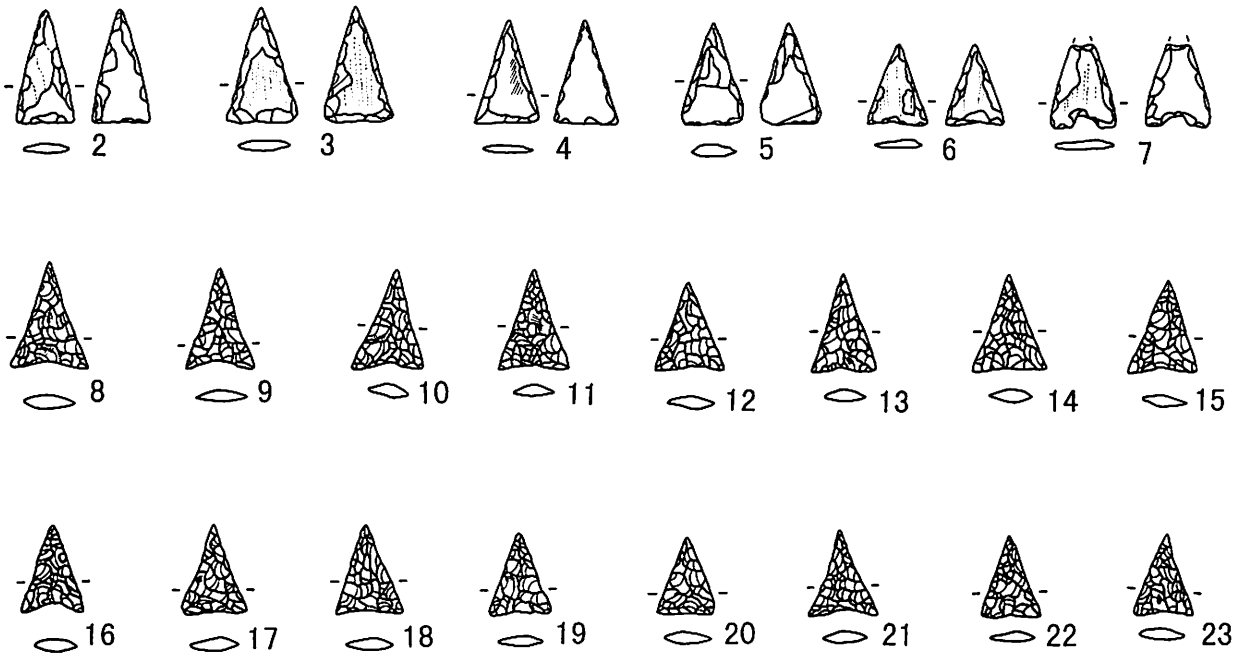
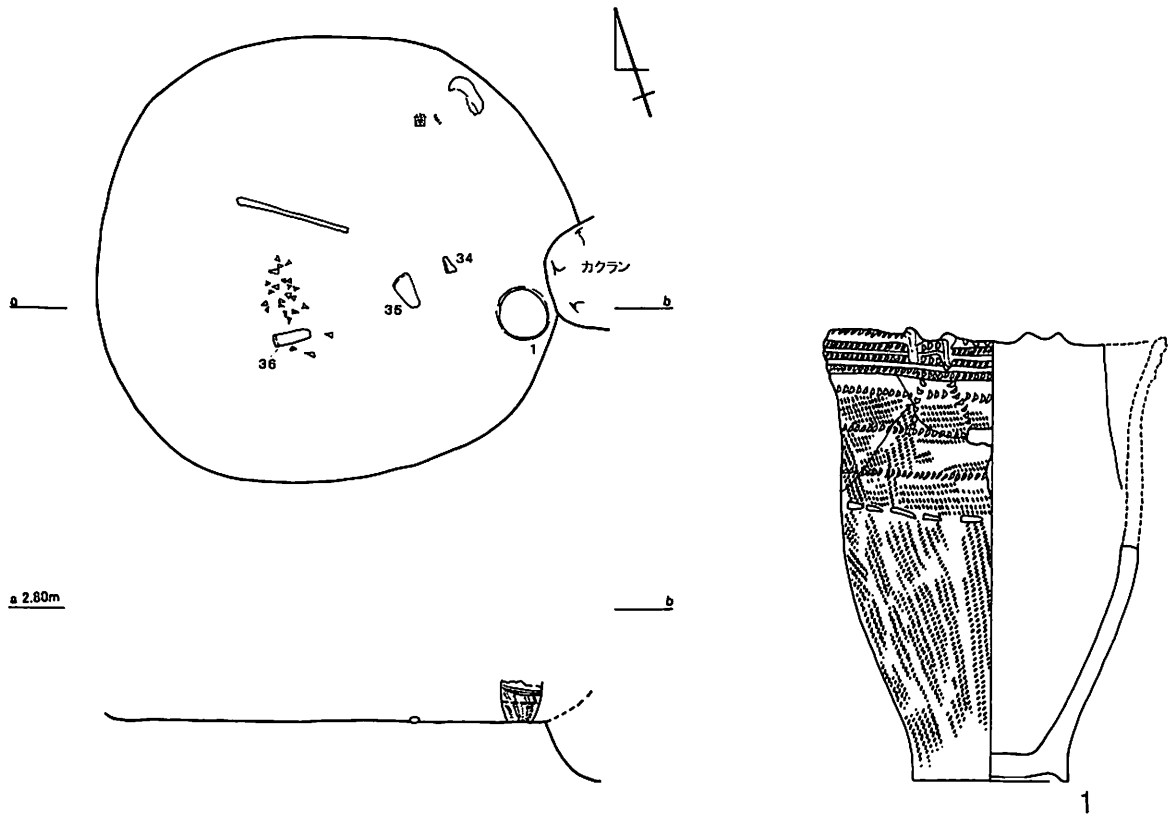
第94図 P-62 平面図と出土遺物 (1)

P-62



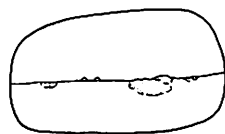
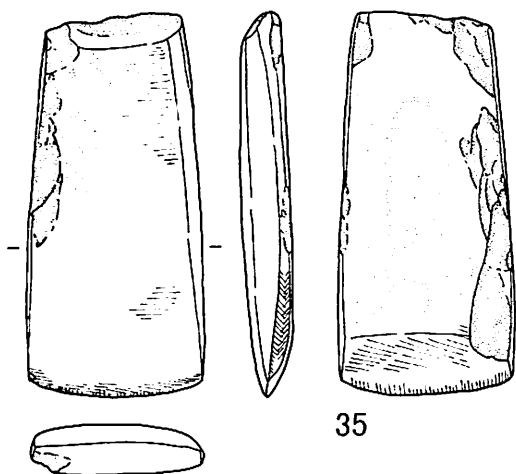
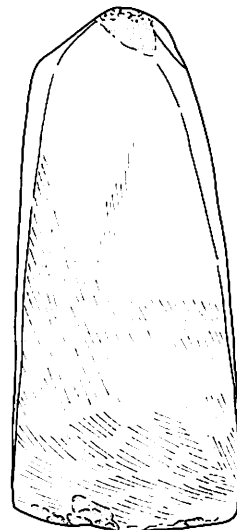
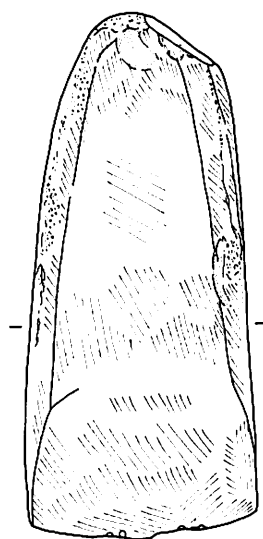
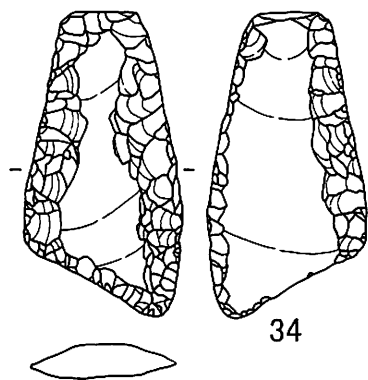
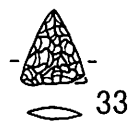
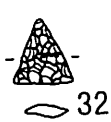
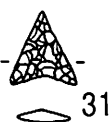
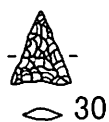
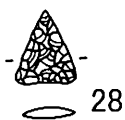
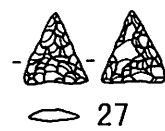
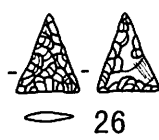
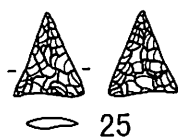
第95图 P-62 出土遺物 (2)

P-63



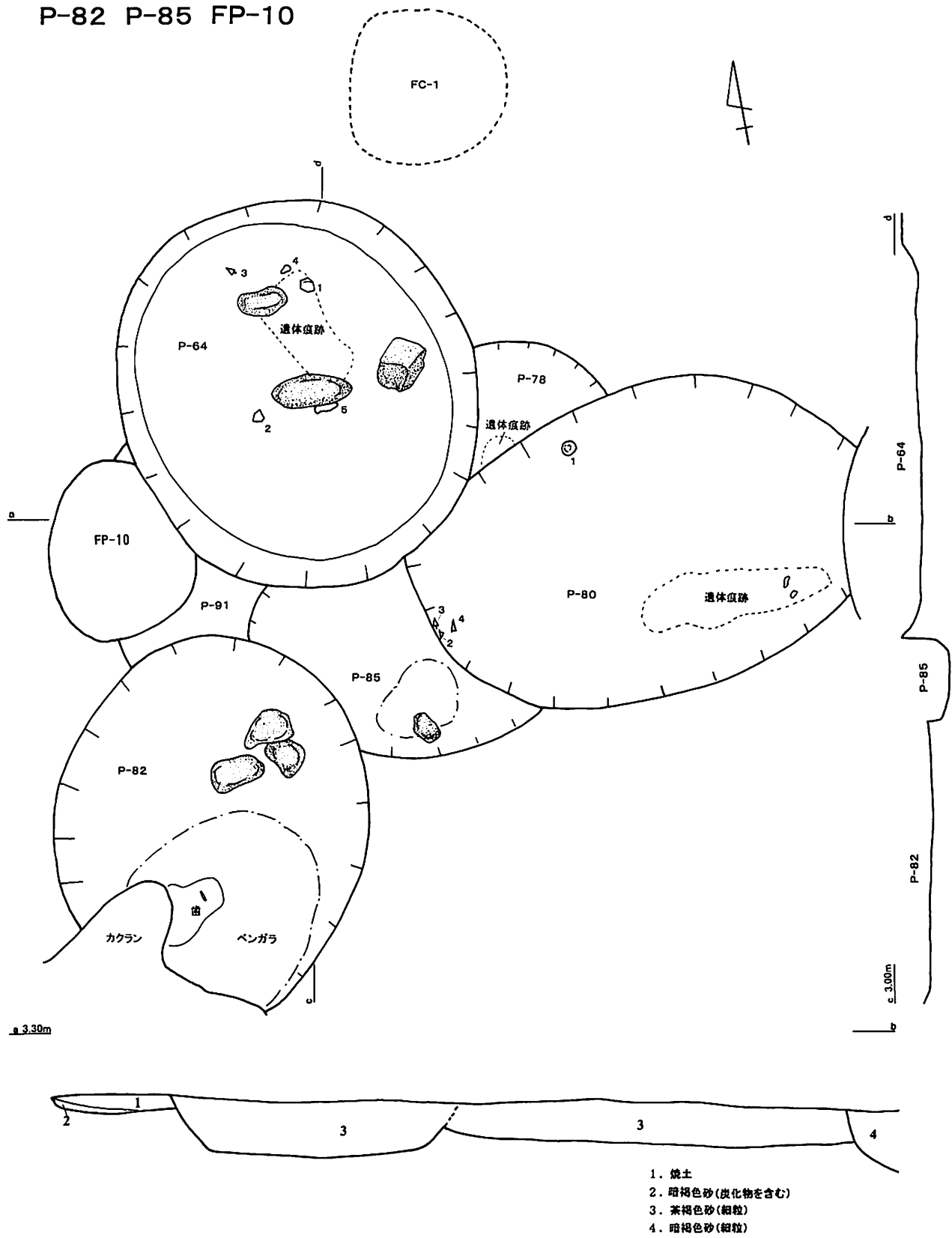
第96図 P-63 平面図と出土遺物 (1)

P-63



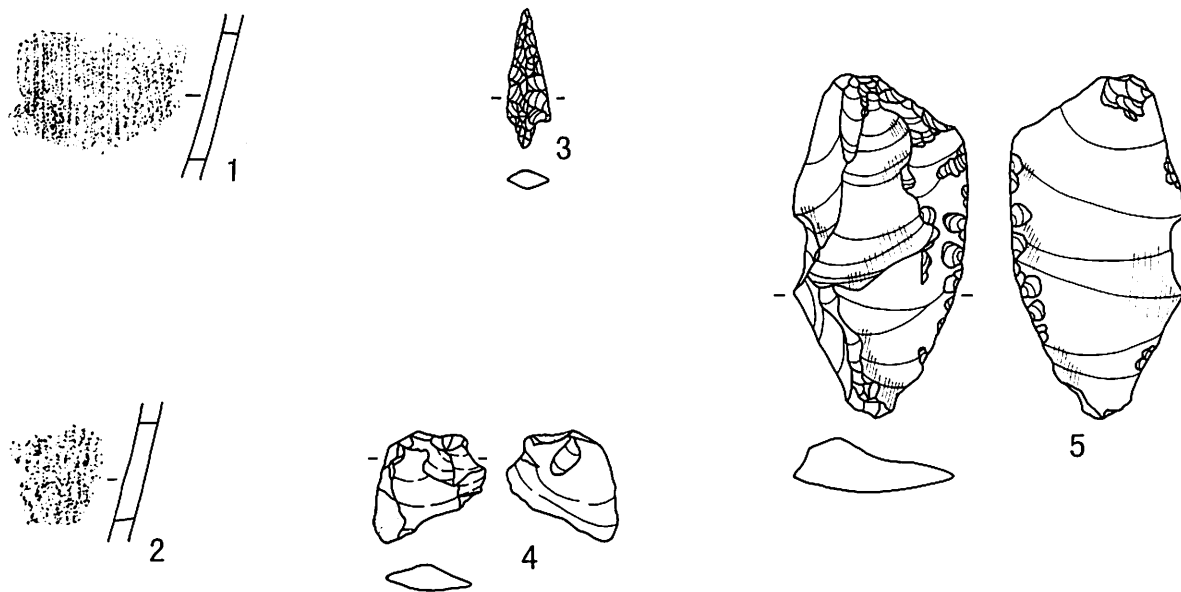
第97图 P-63 出土遺物 (2)

P-64 P-78 P-80
P-82 P-85 FP-10



第98図 P-64・78・80・82・85・FP-10 平面図

P-64

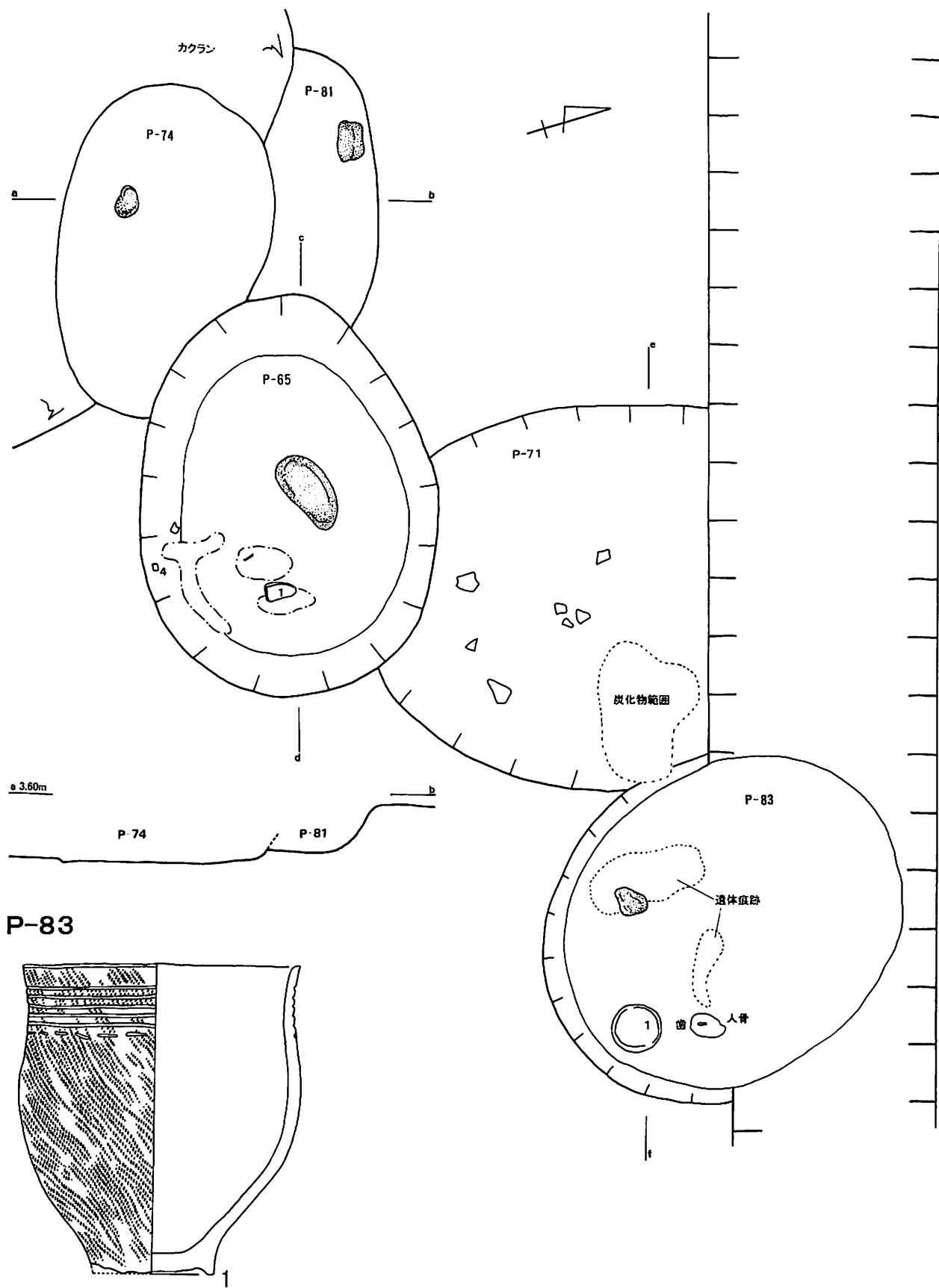


P-80

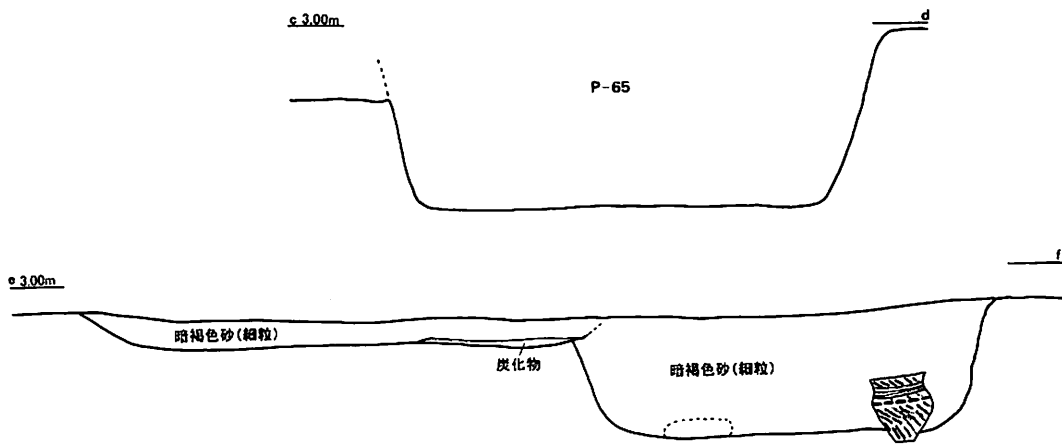


第99圖 P-64・80 出土遺物

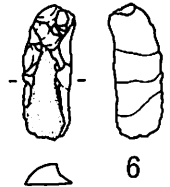
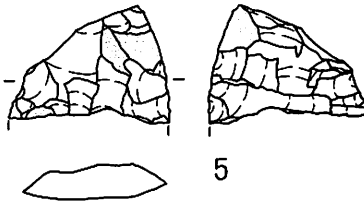
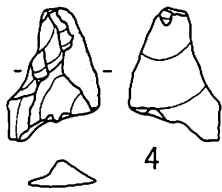
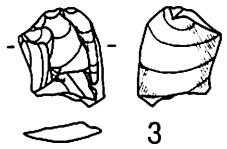
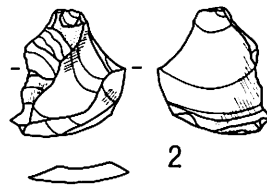
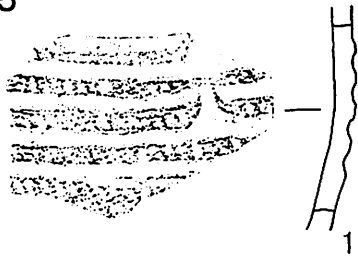
P-65 P-71 P-74 P-81 P-83



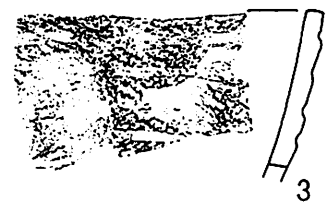
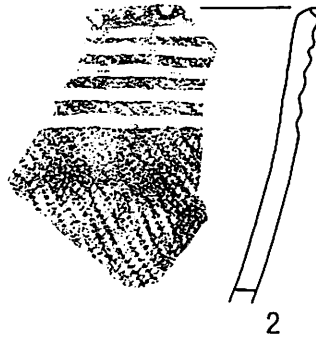
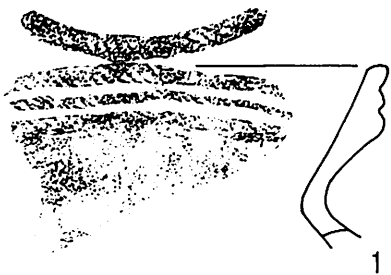
第100図 P-65・71・74・81・83平面図とP-83出土遺物



P-65

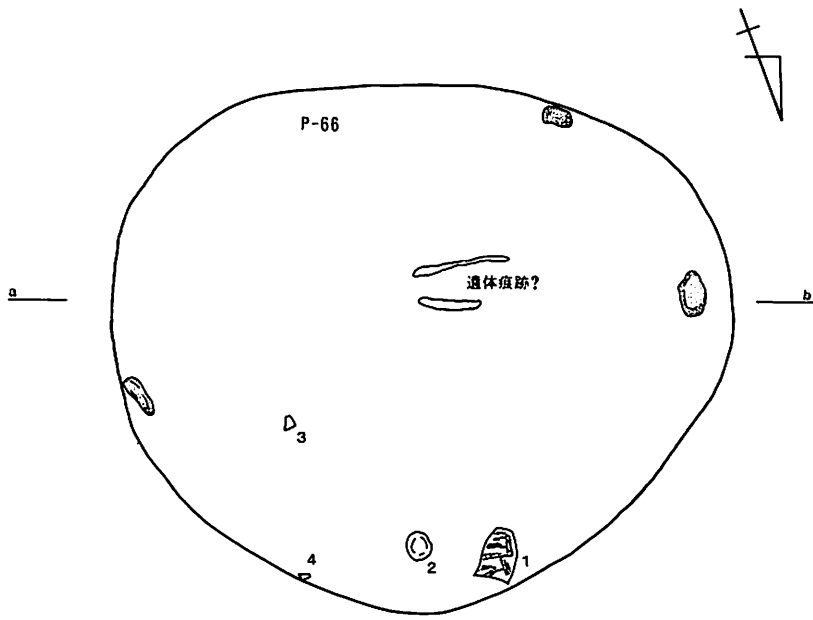


P-71

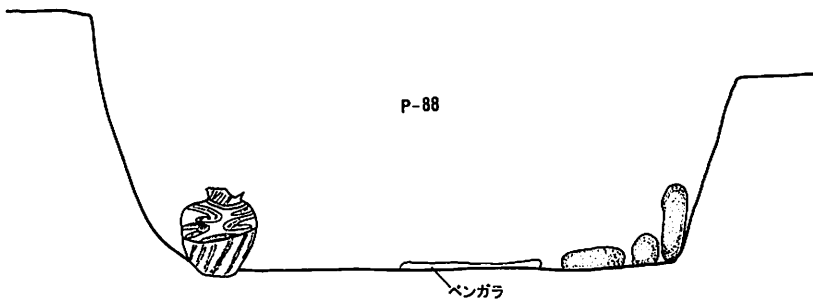
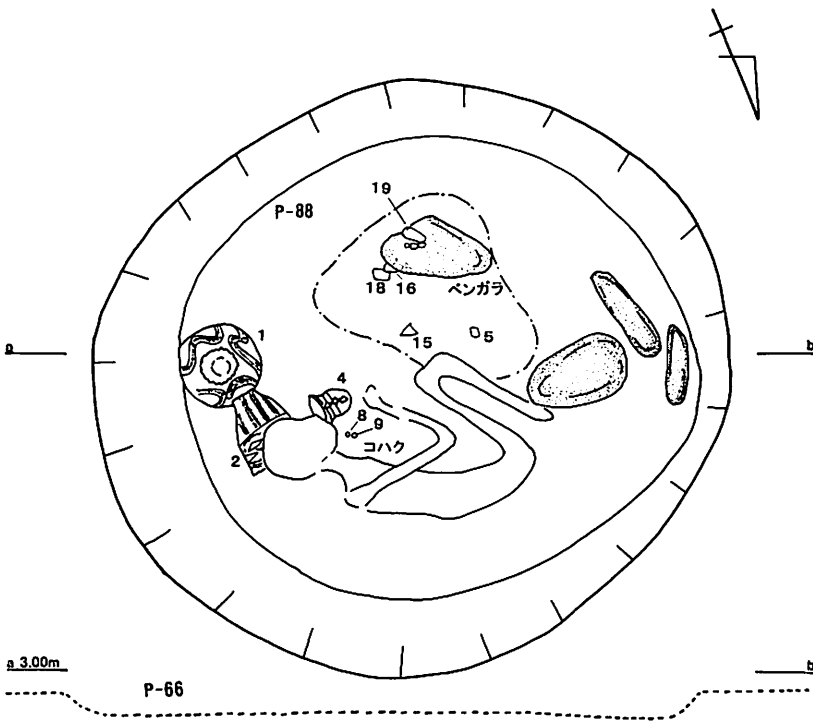


第101図 P-65・71・83断面図とP-65・71出土遺物

P-66

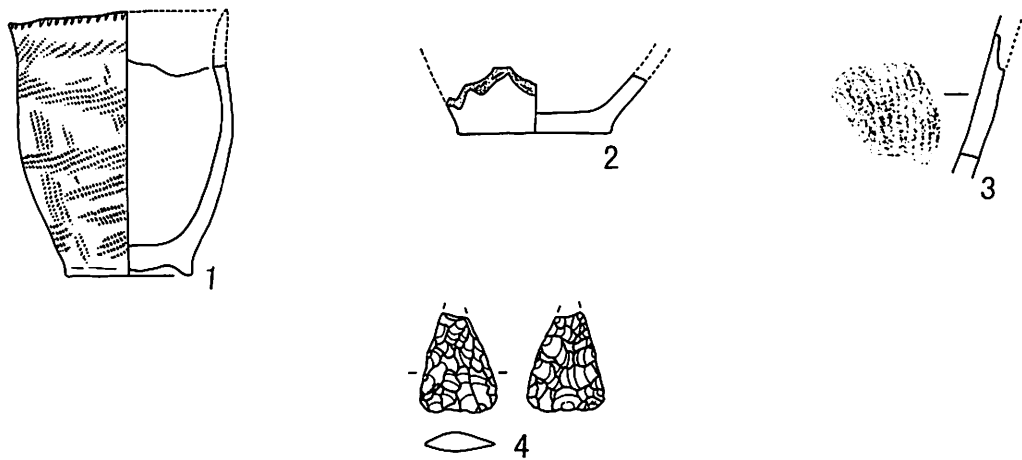


P-88

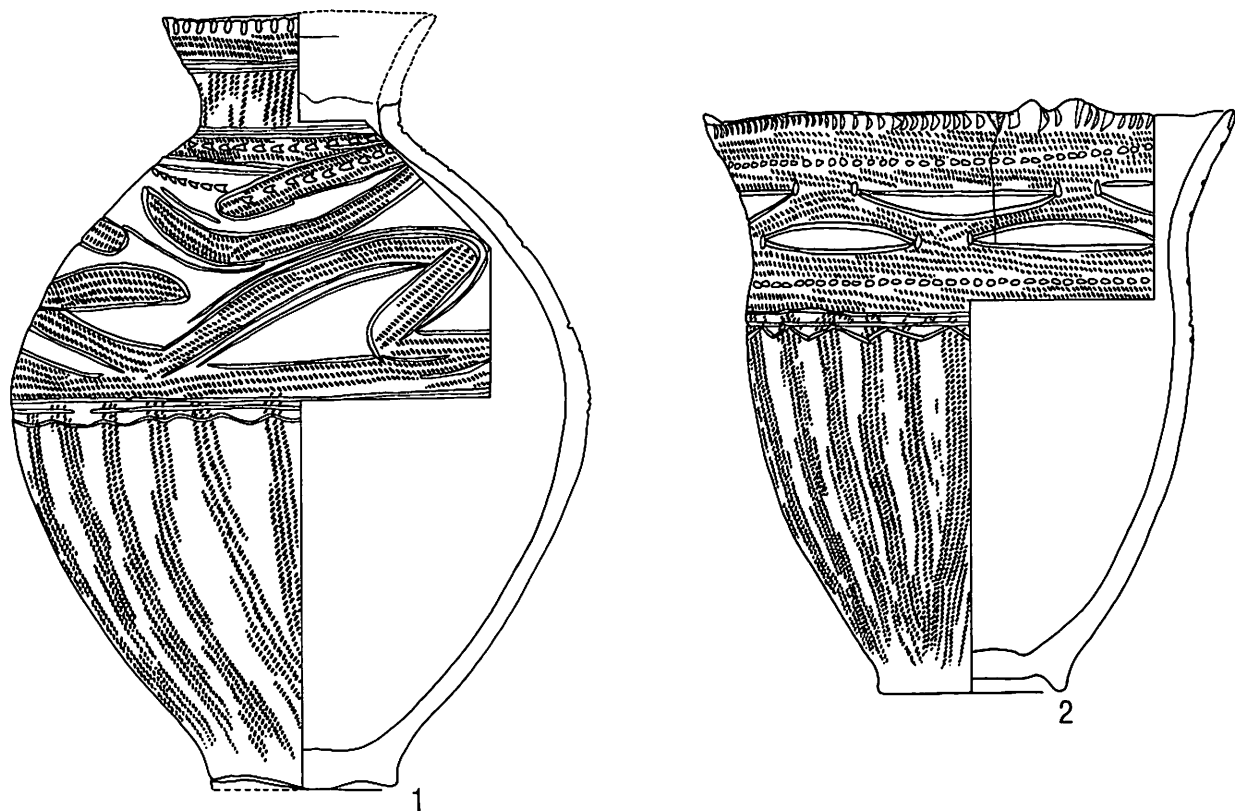


第102図 P-66・88 平面図

P-66

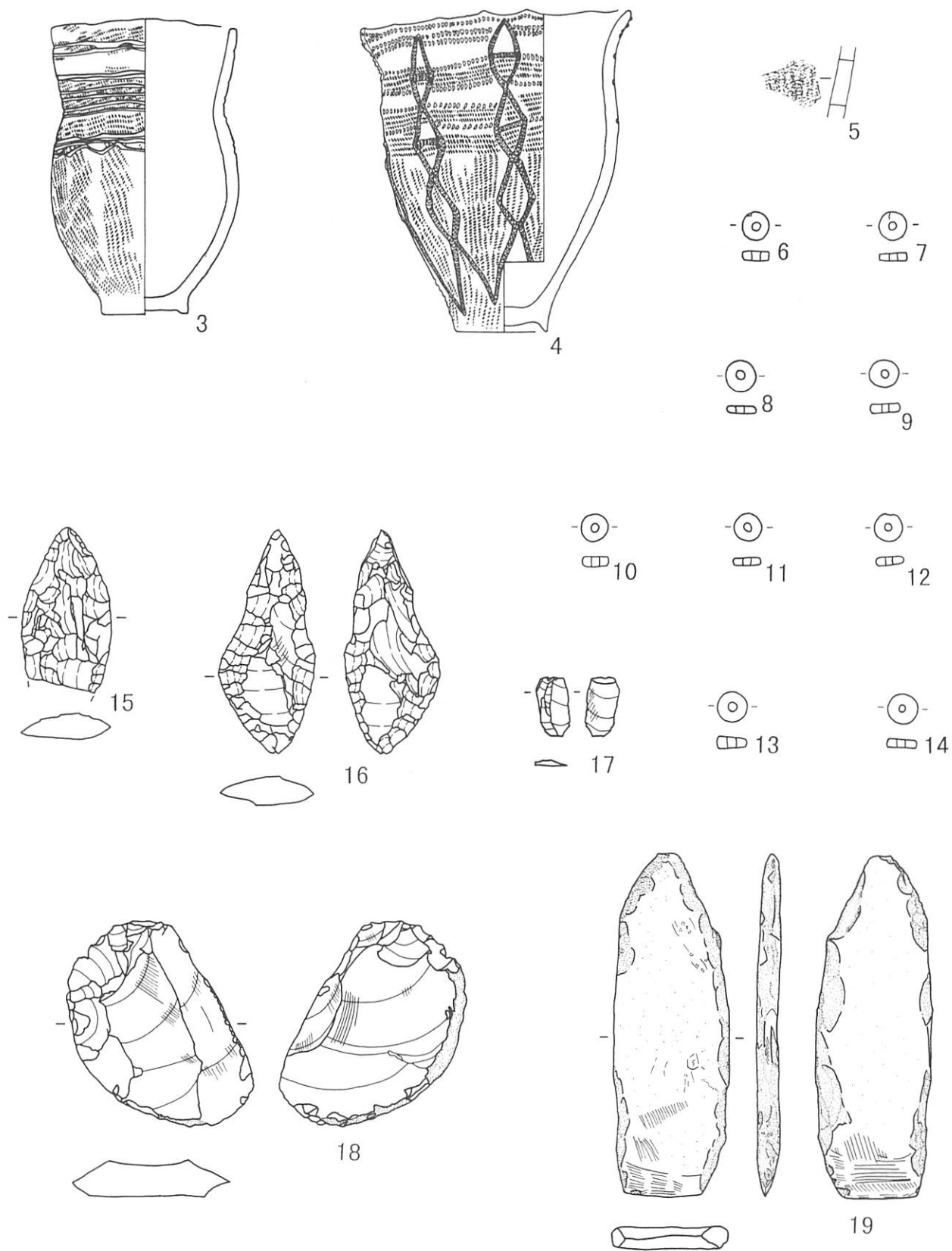


P-88



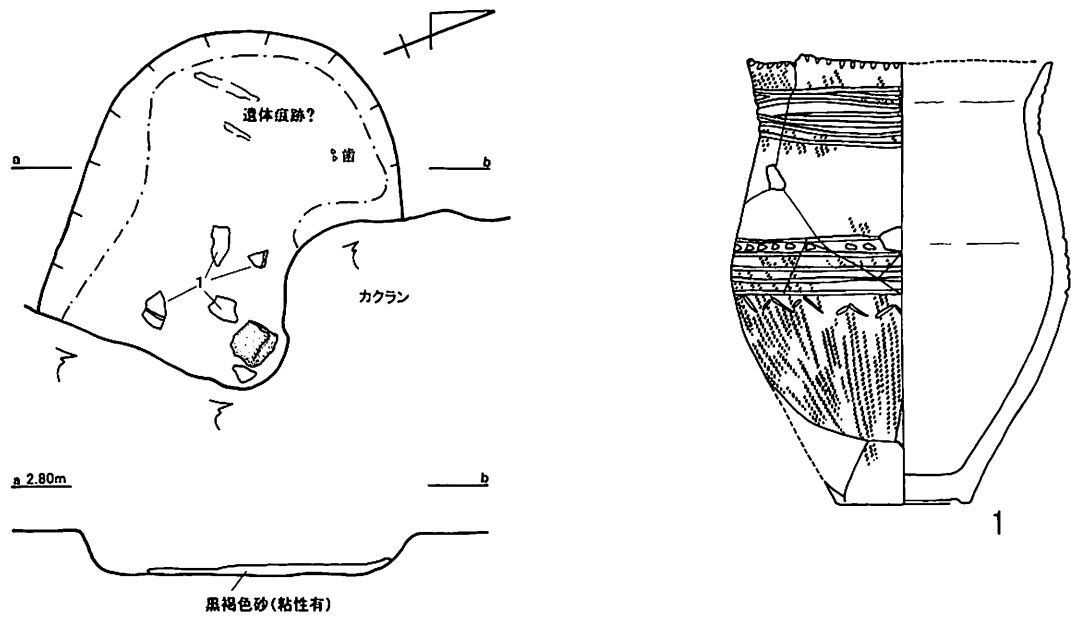
第103图 P-66·88 出土遺物 (1)

P-88

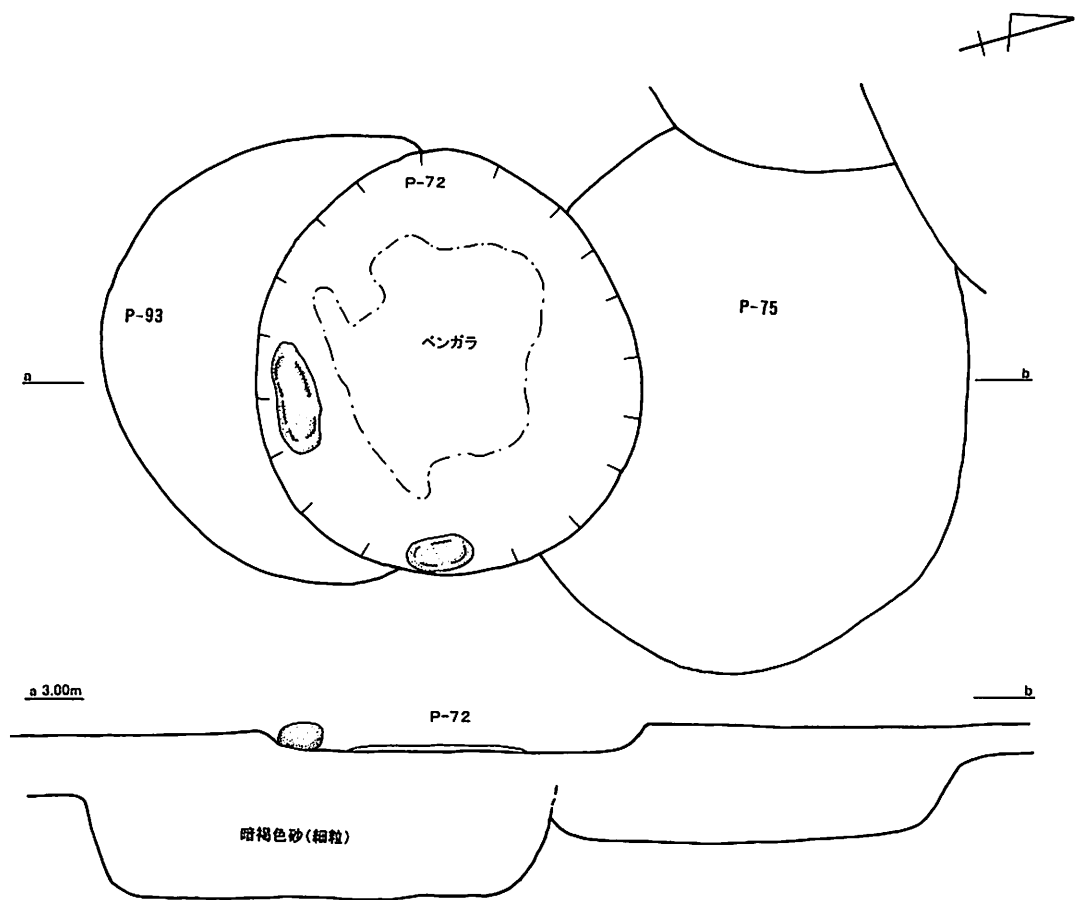


第104図 P-88 出土遺物 (2)

P-67

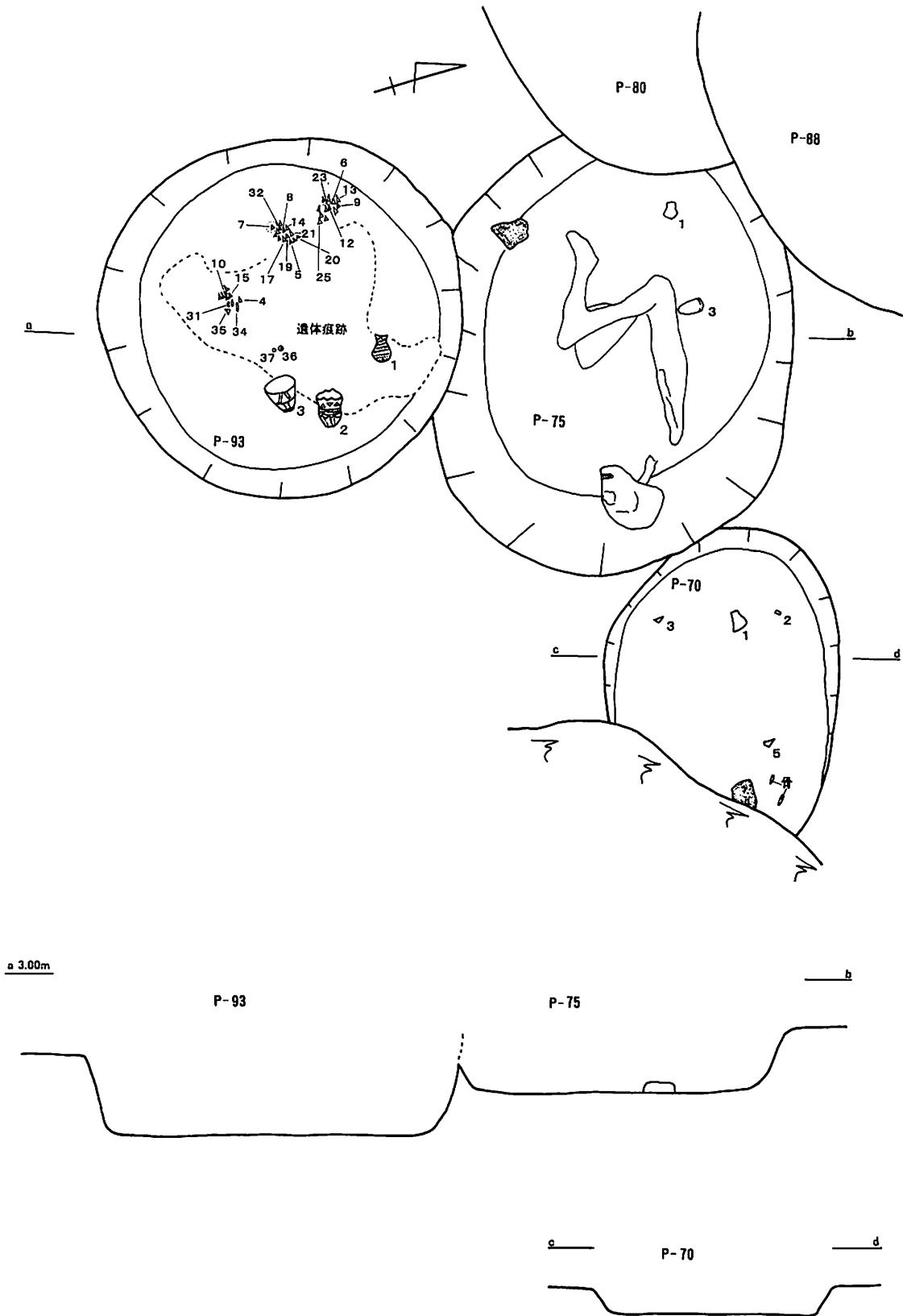


P-72



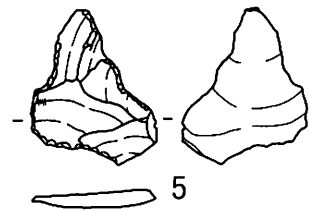
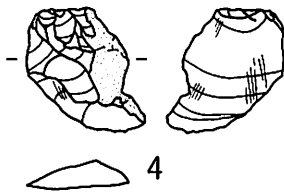
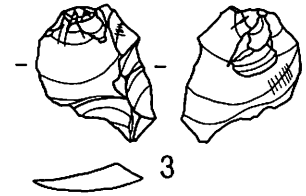
第105図 P-67・72平面図とP-67出土遺物

P-70 P-75 P-93

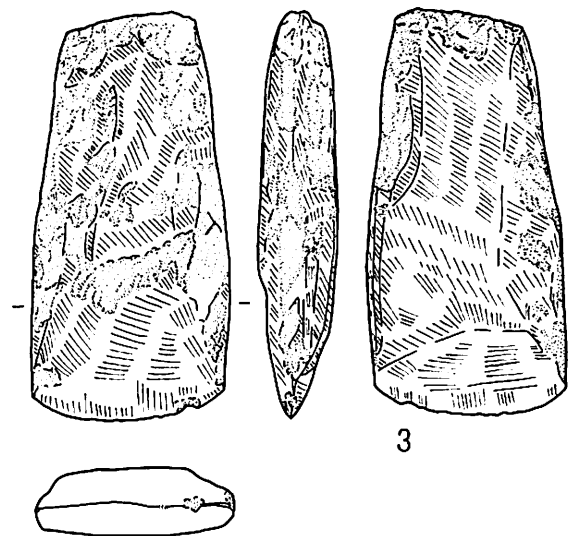
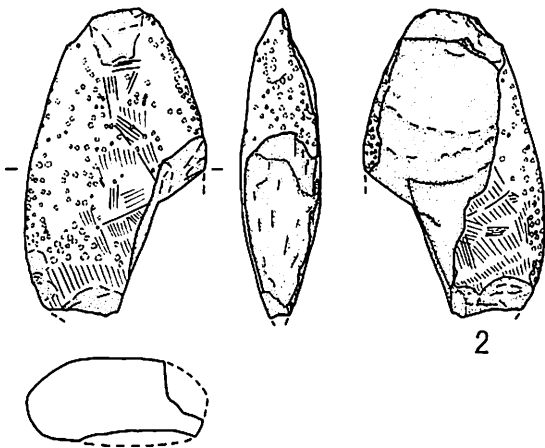


第106图 P-70·75·93 平面图

P-70

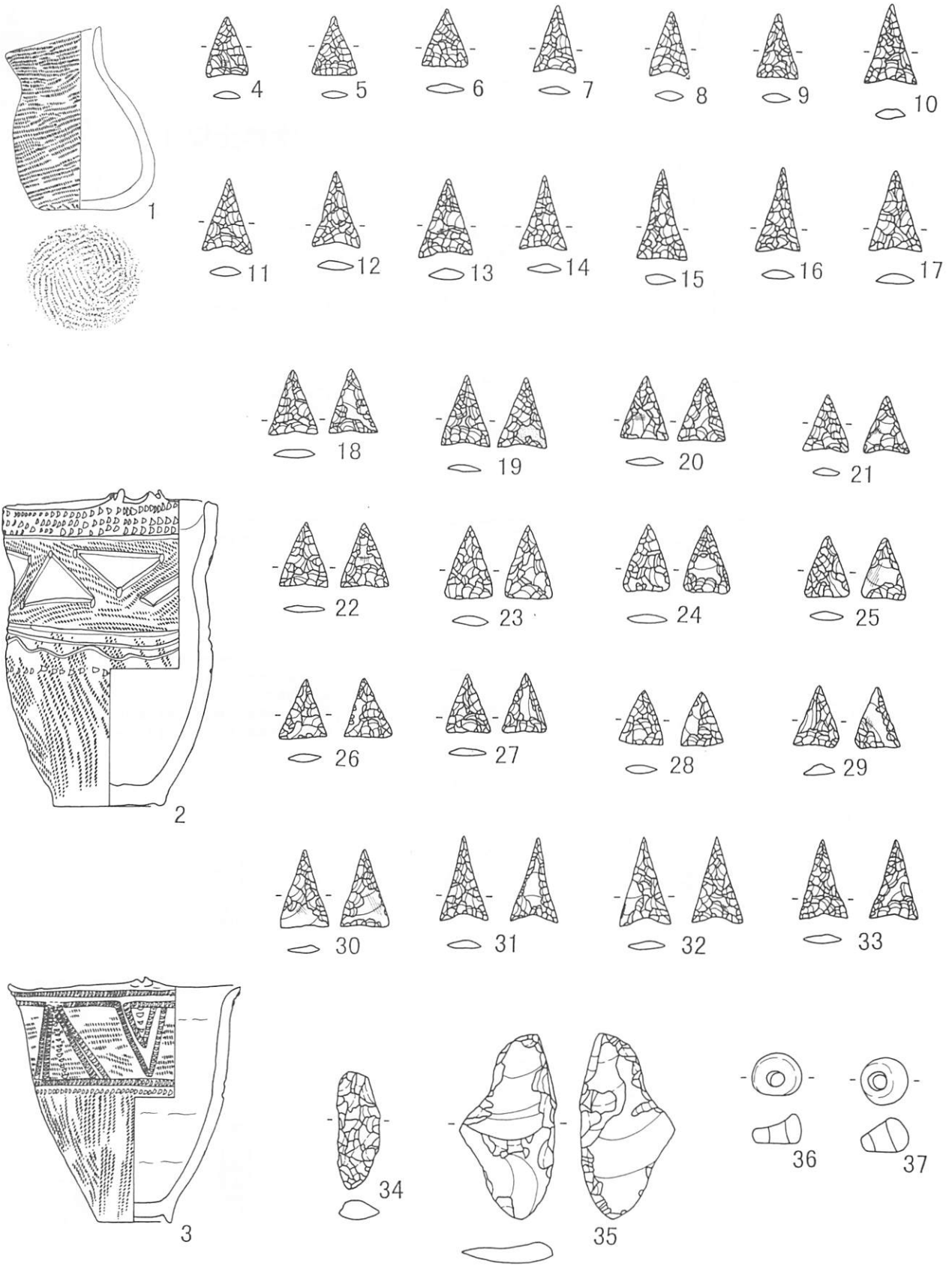


P-75



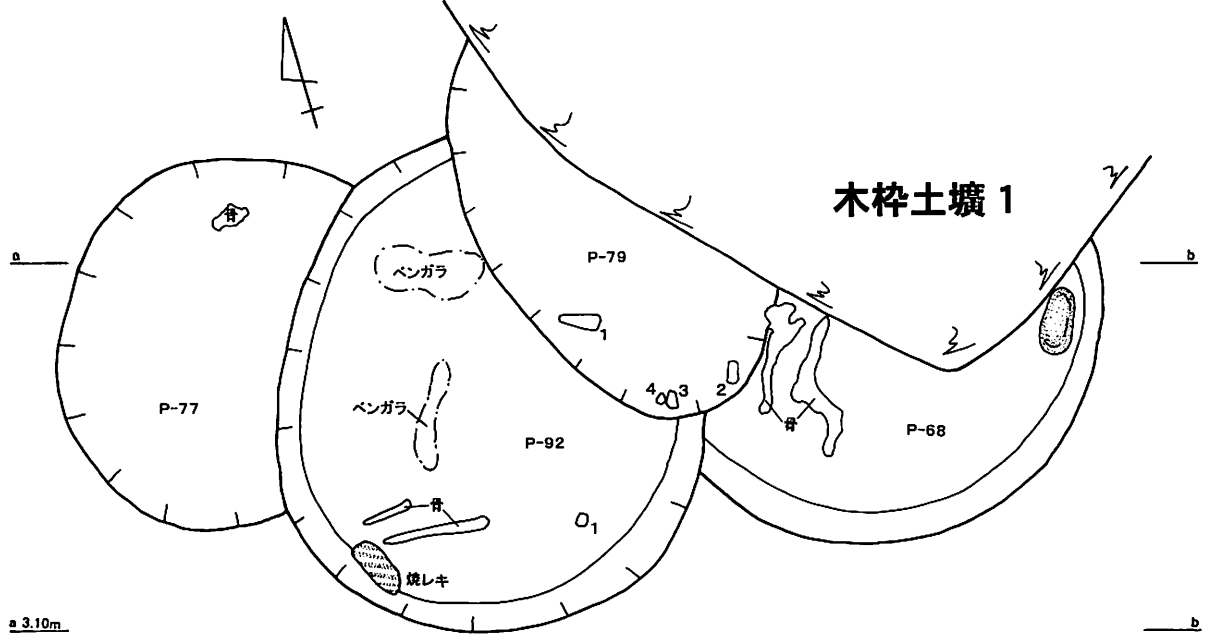
第107図 P-70・75 出土遺物

P-93

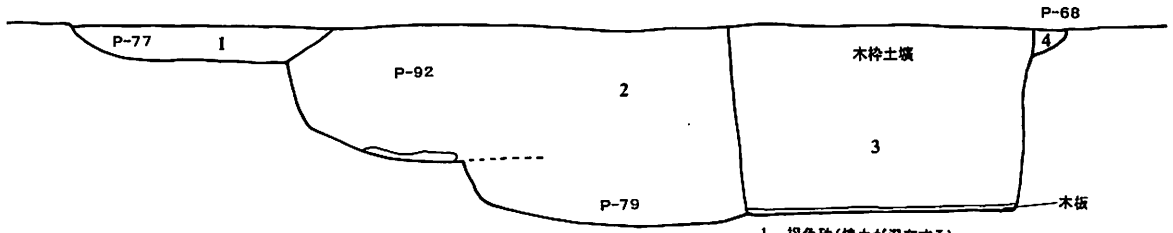


第108图 P-93 出土遺物

P-68 P-77 P-79 P-92

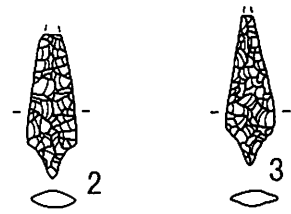
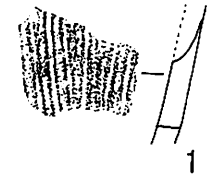
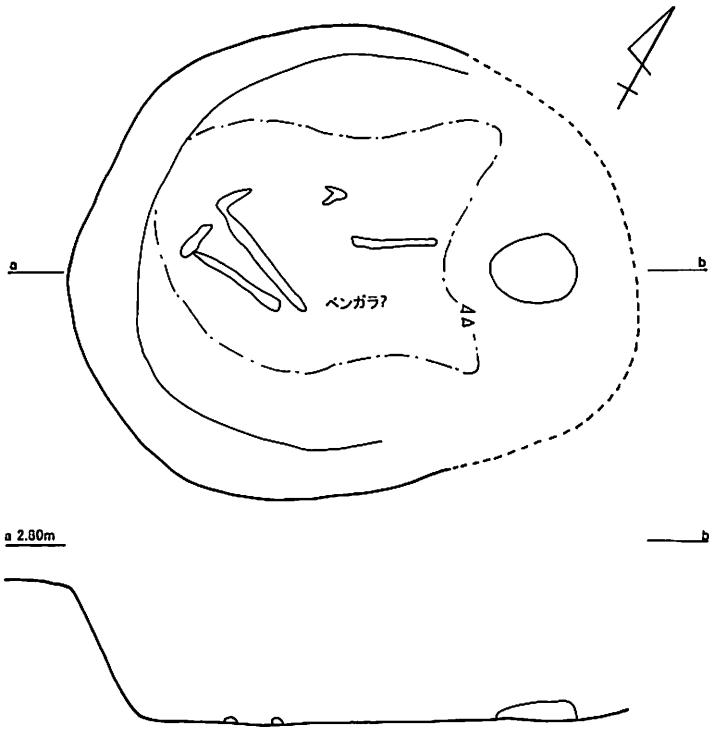


木枠土壌 1



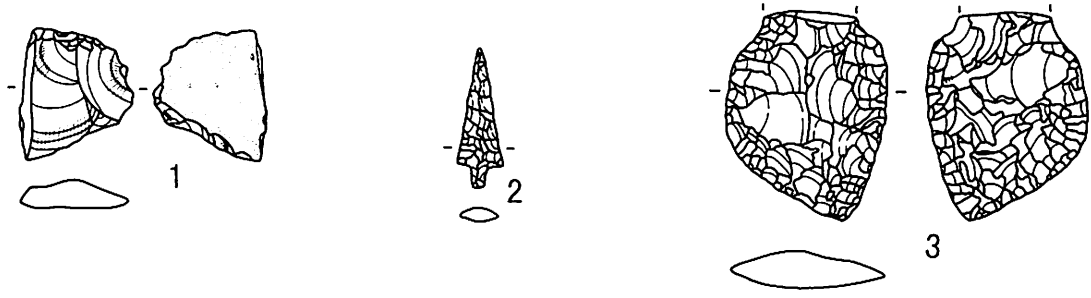
1. 褐色砂 (焼土が混在する)
2. 暗褐色砂
3. 褐色砂 (黒色土に褐色砂が混入 壤底には種子が多く見られる)
4. 褐色砂 (細粒であるが時々粗粒の部分がある)

P-92

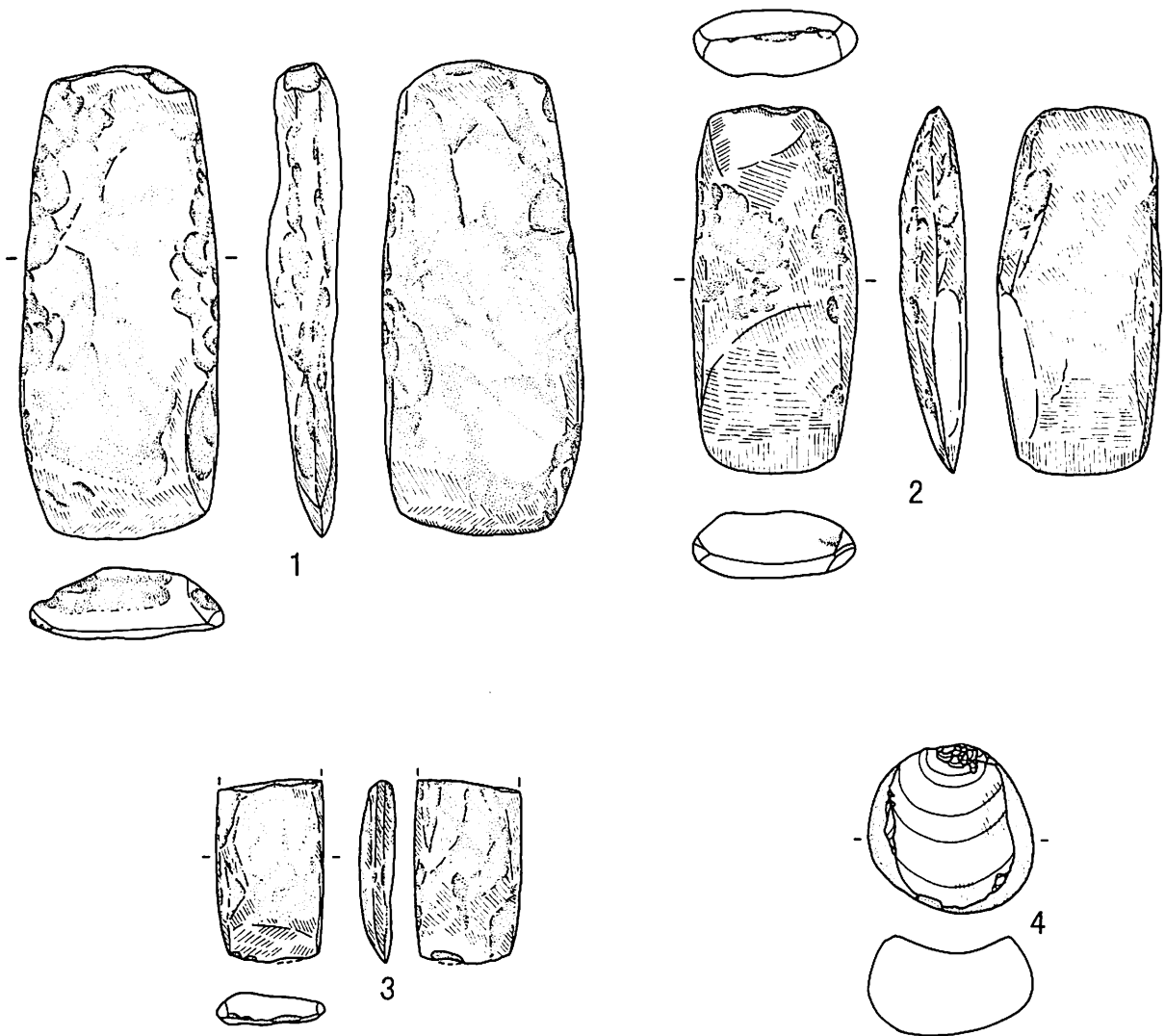


第109図 P-68・77・79・92平面図とP-92出土遺物

P-68

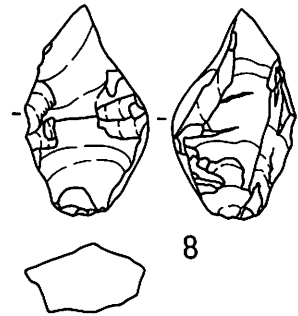
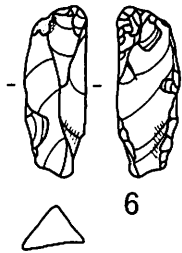
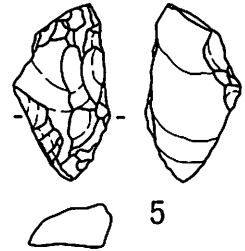
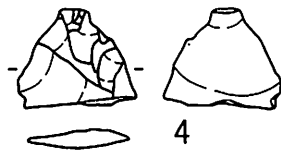
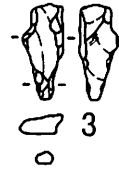
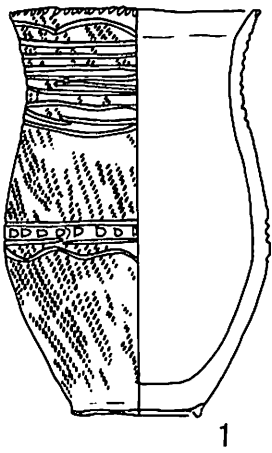
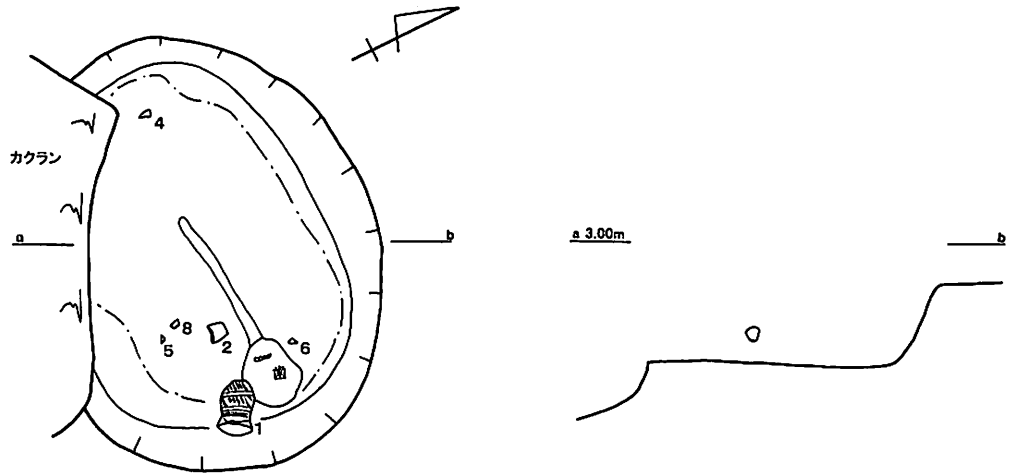


P-79



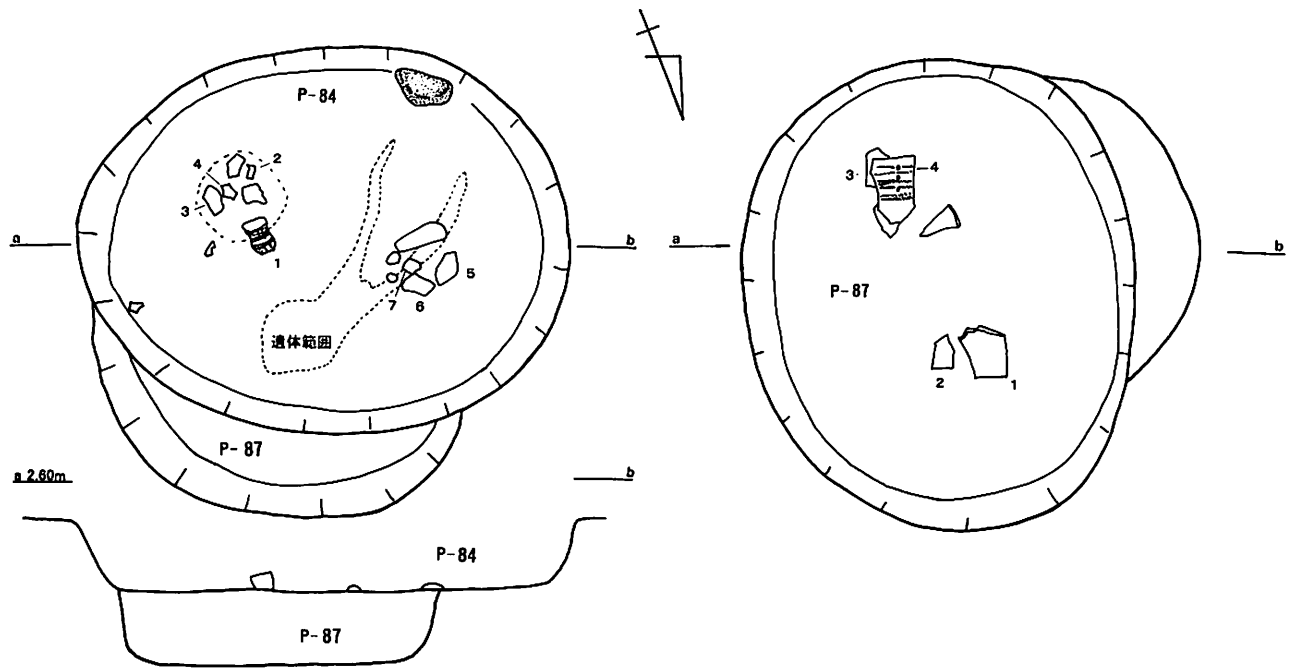
第110図 P-68・79出土遺物

P-76

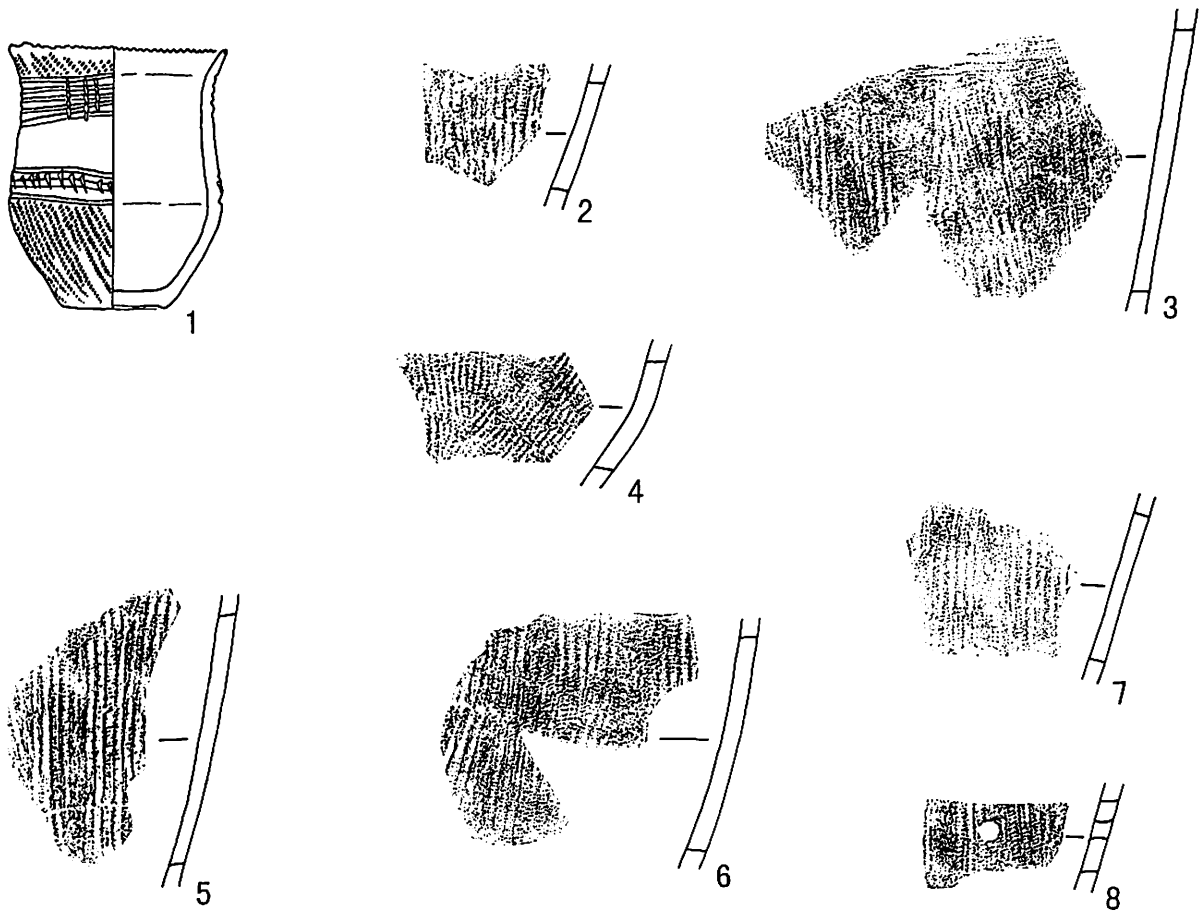


第111図 P-76 平面図と出土遺物

P-84 P-87

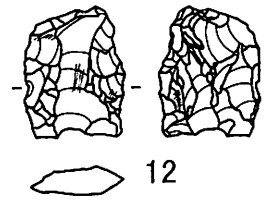
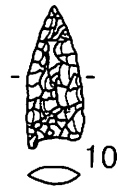
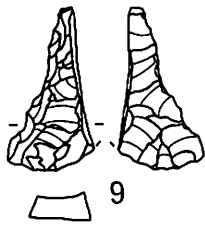


P-84

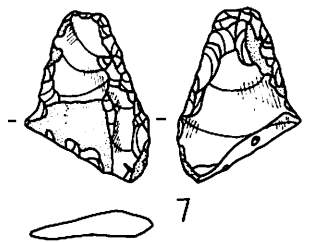
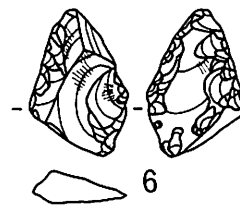
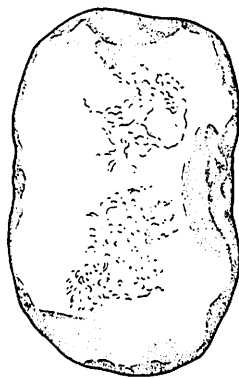
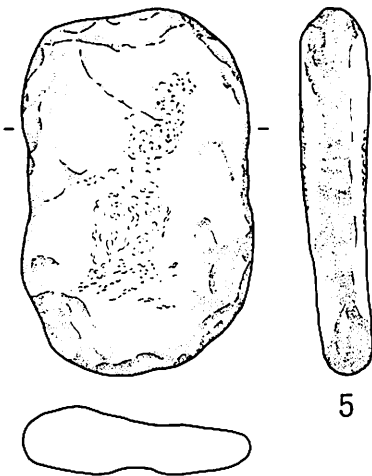
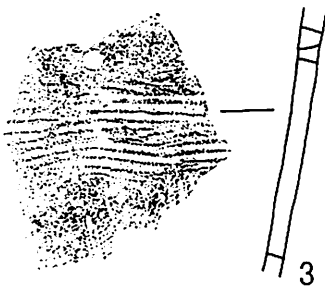
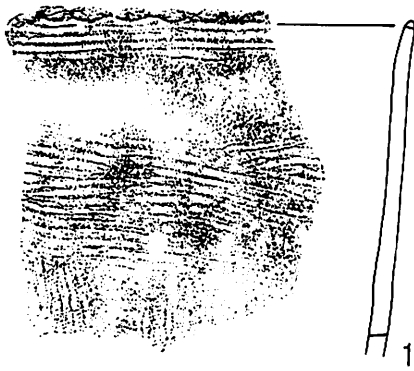


第112図 P-84・87平面図とP-84出土遺物

P-84

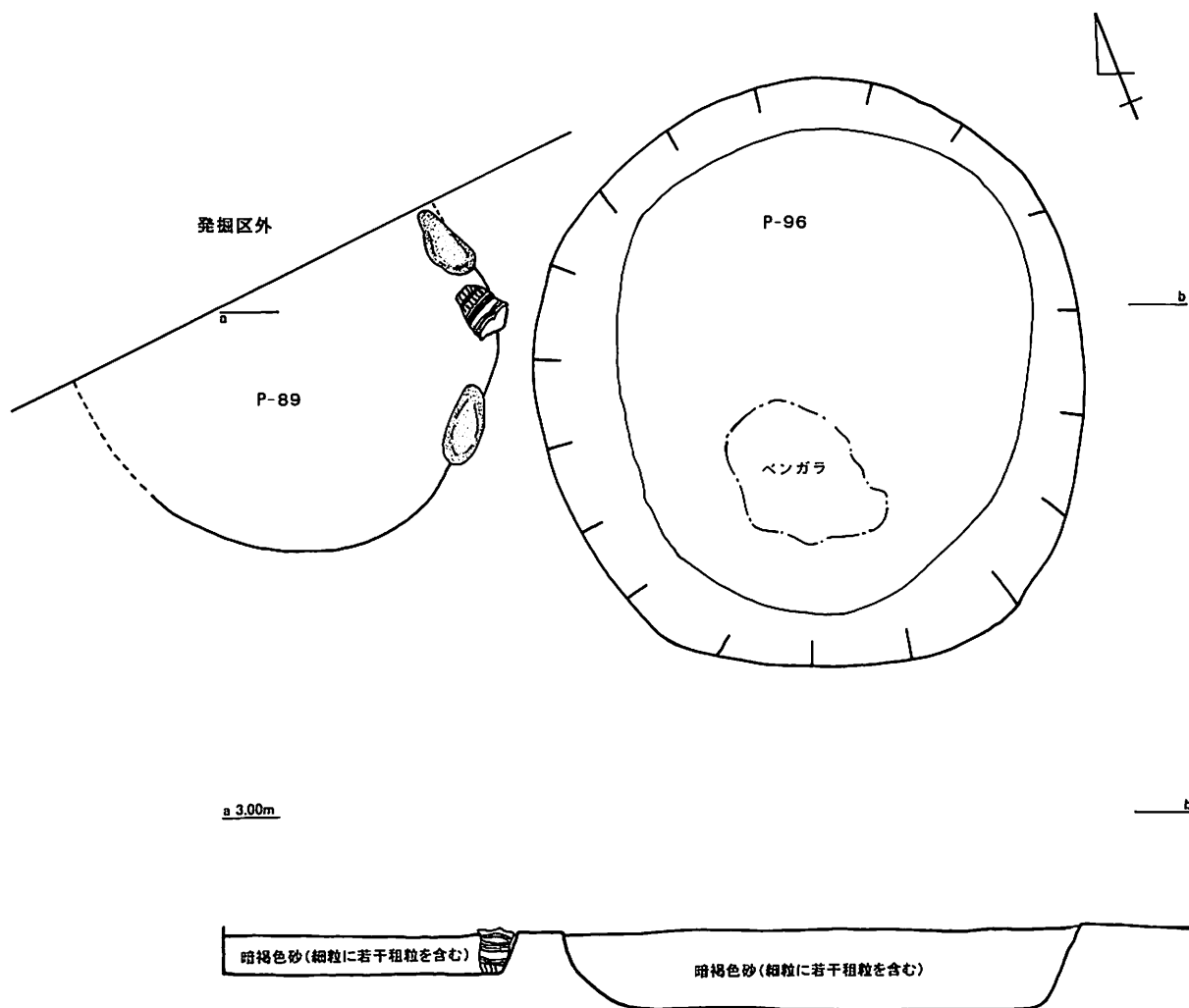


P-87

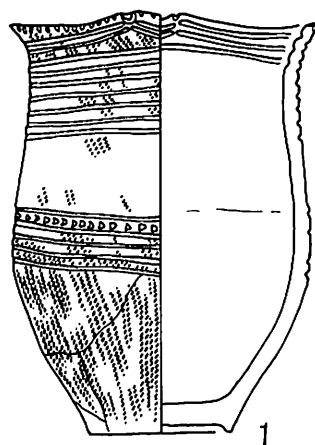


第113圖 P-84・87 出土遺物

P-89 P-96

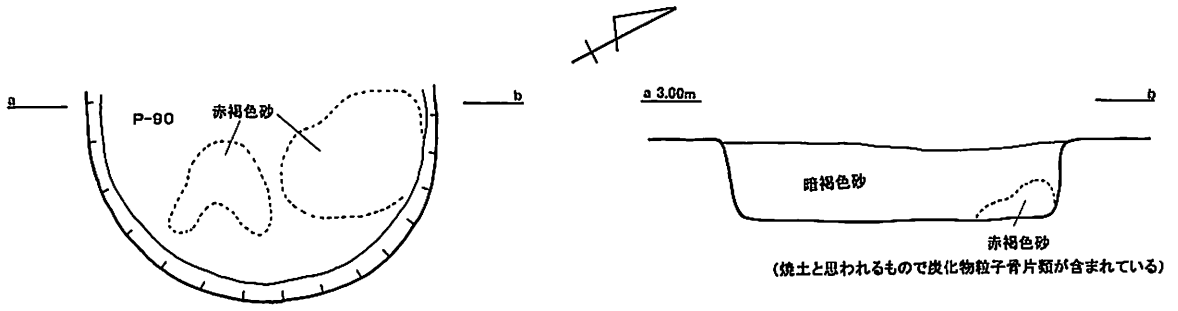


P-89

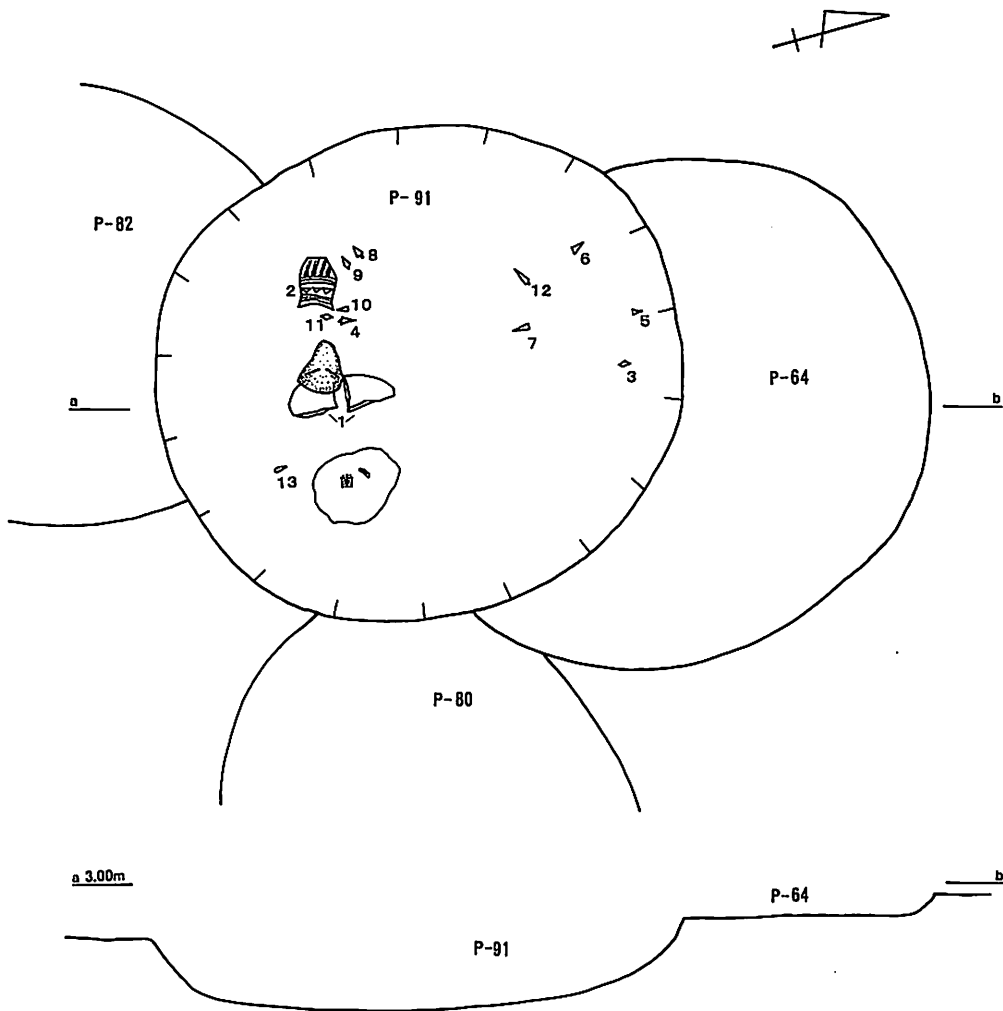


第114図 P-89・96平面図とP-89出土遺物

P-90

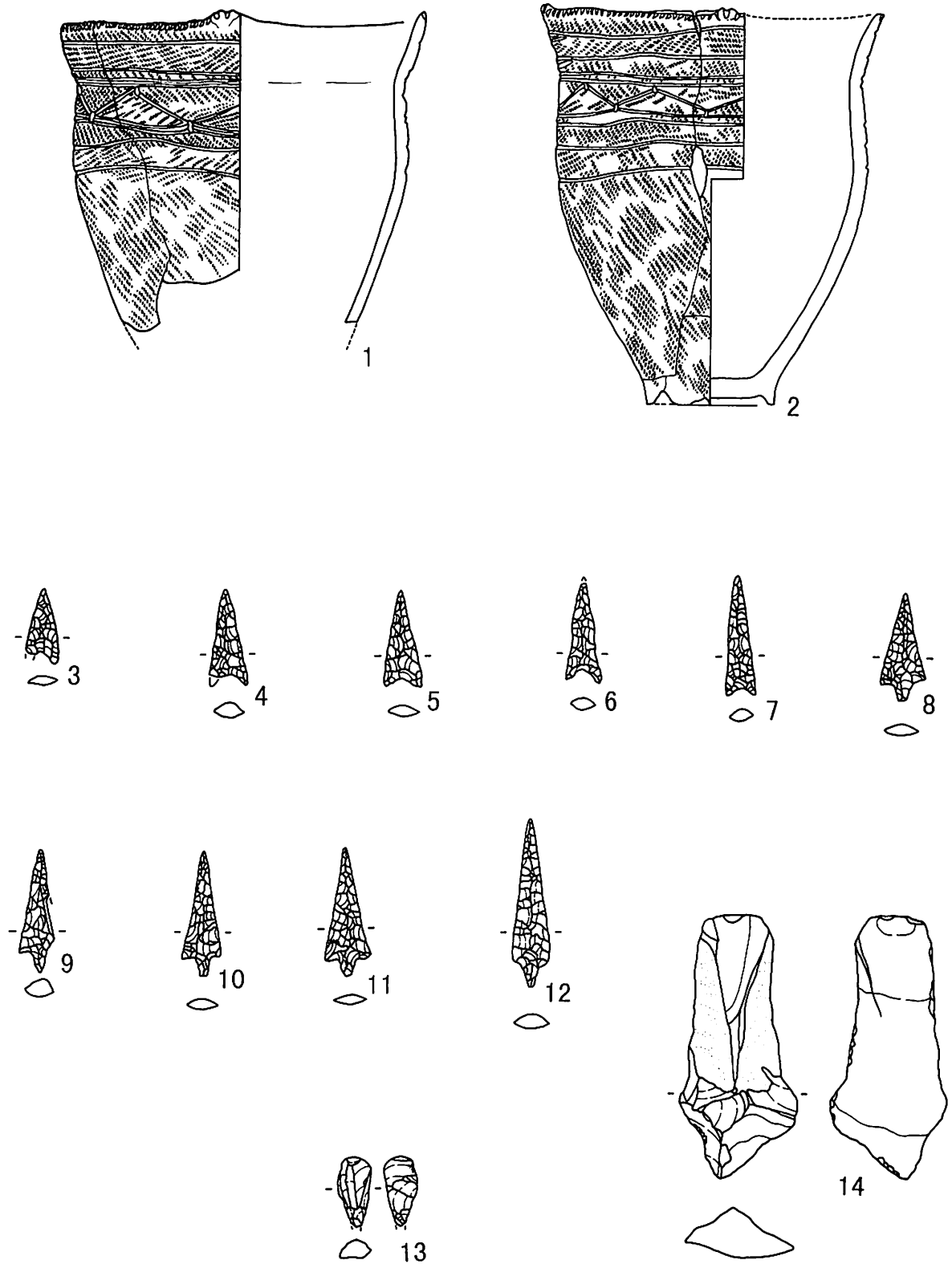


P-91



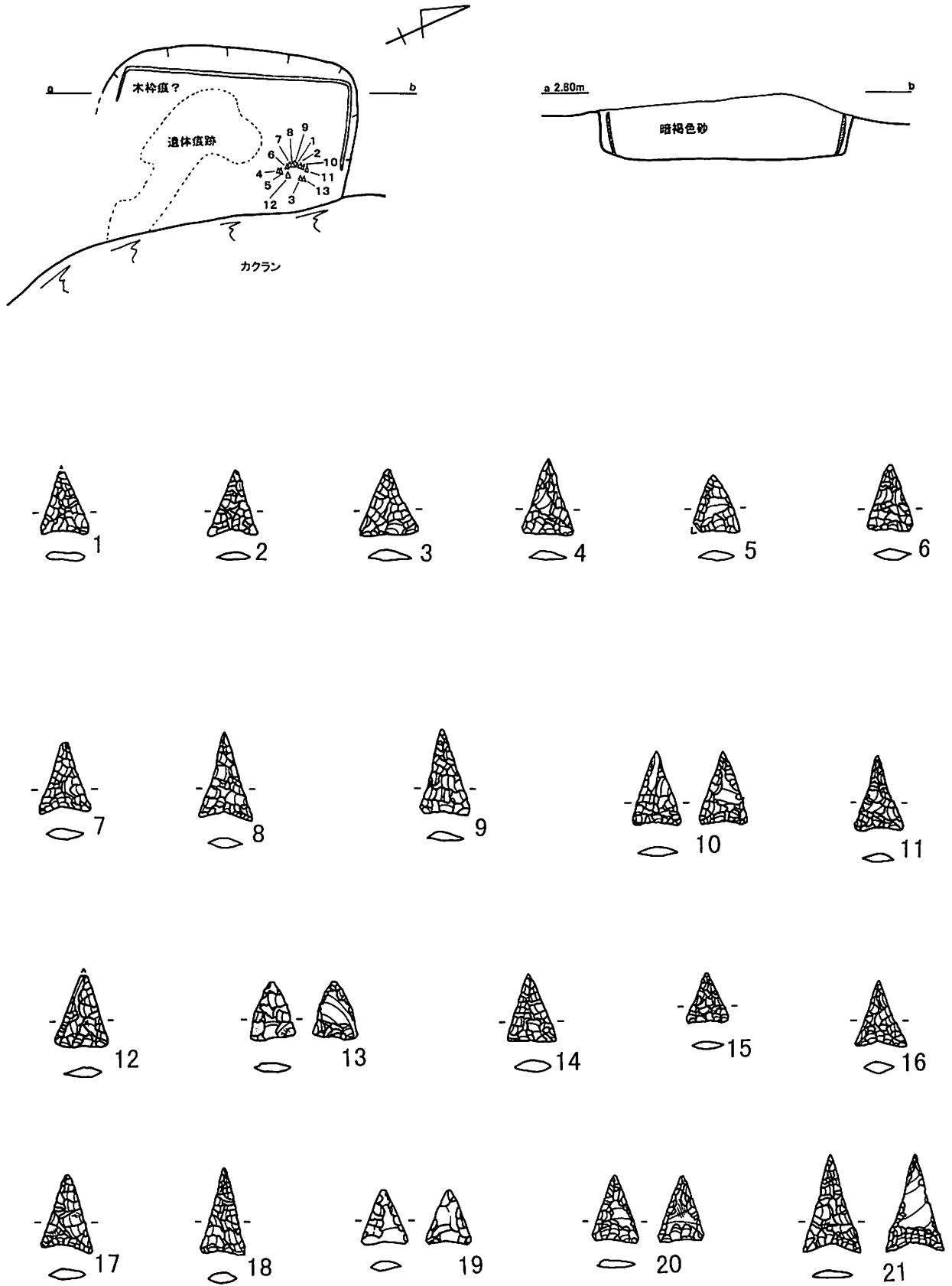
第115図 P-90・91 平面図

P-91



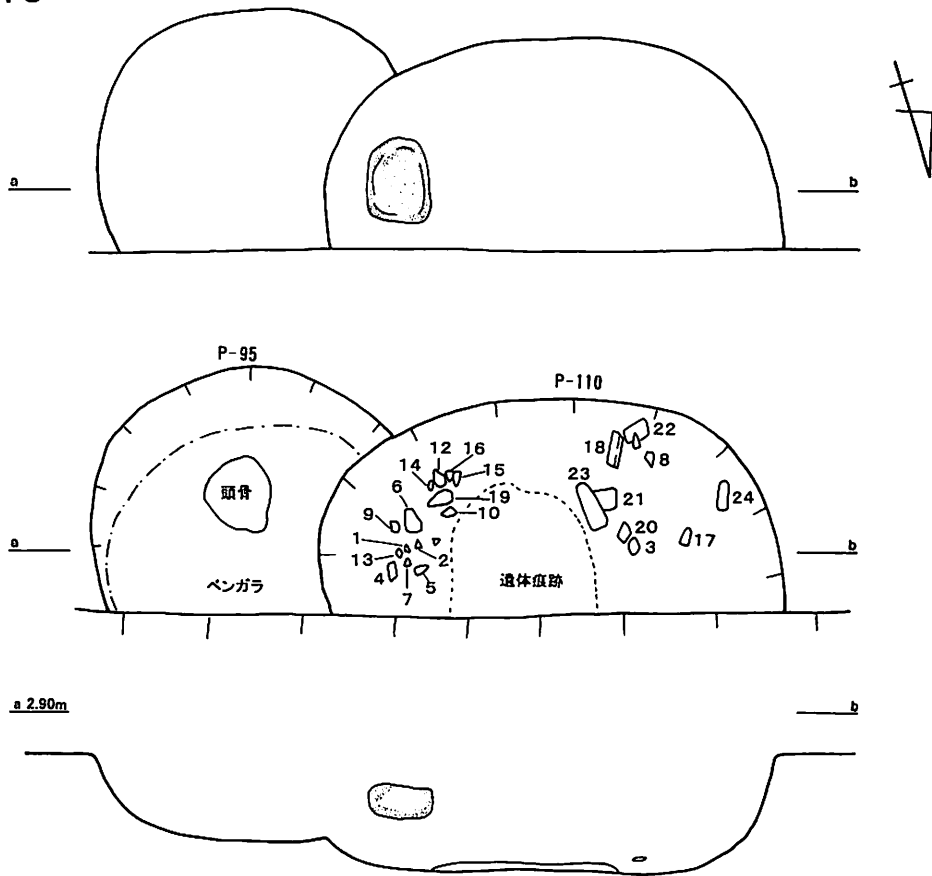
第116圖 P-91 出土遺物

P-94

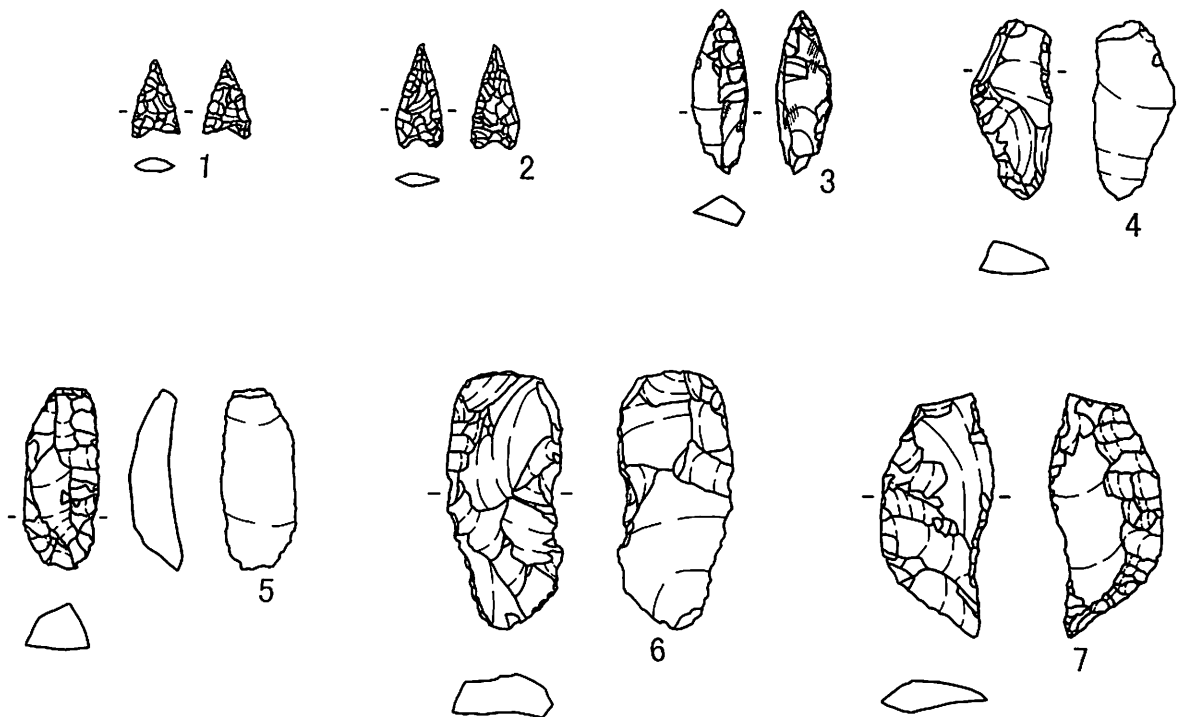


第117図 P-94 平面図と出土遺物

P-95 P-110

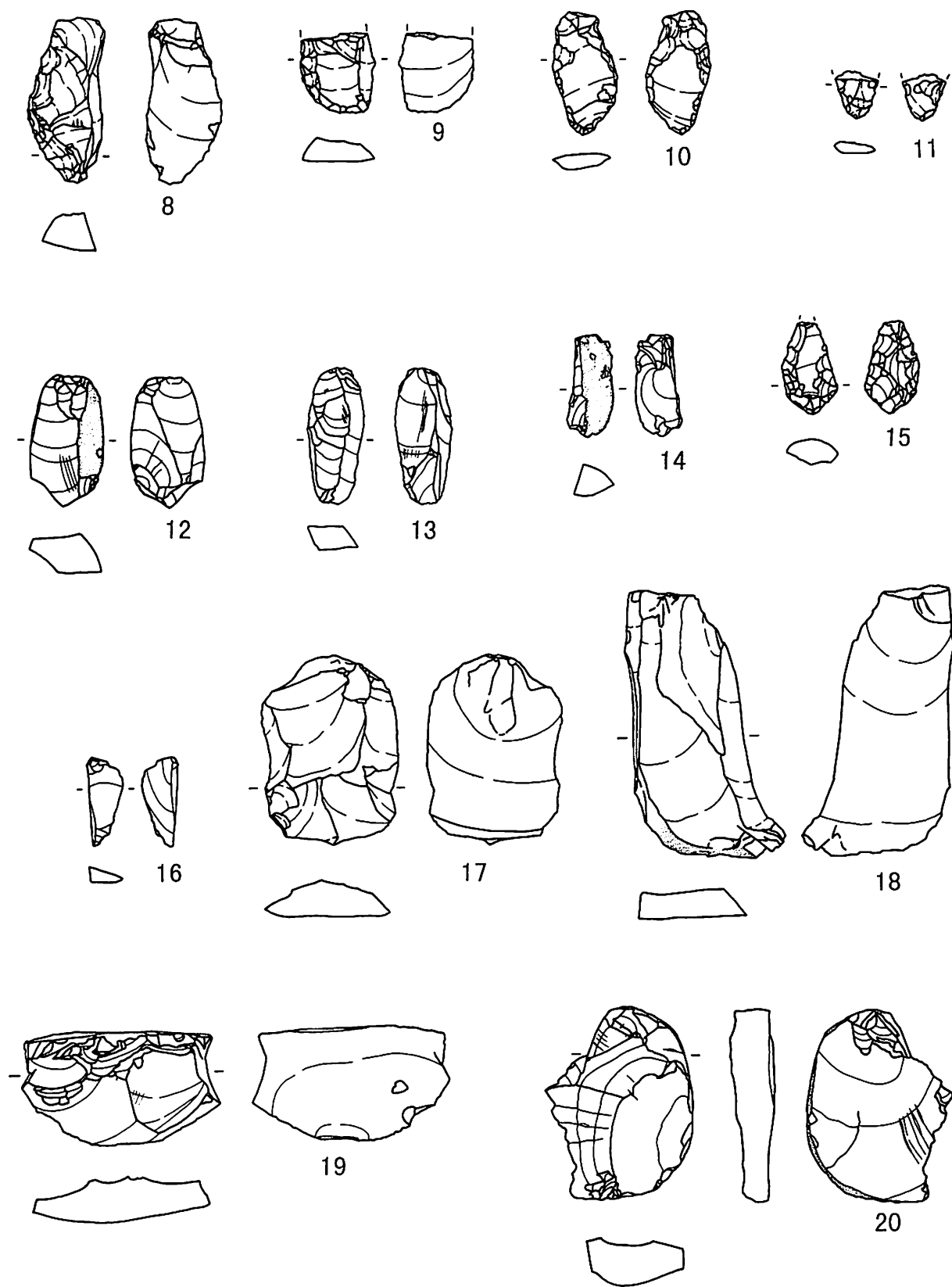


P-110



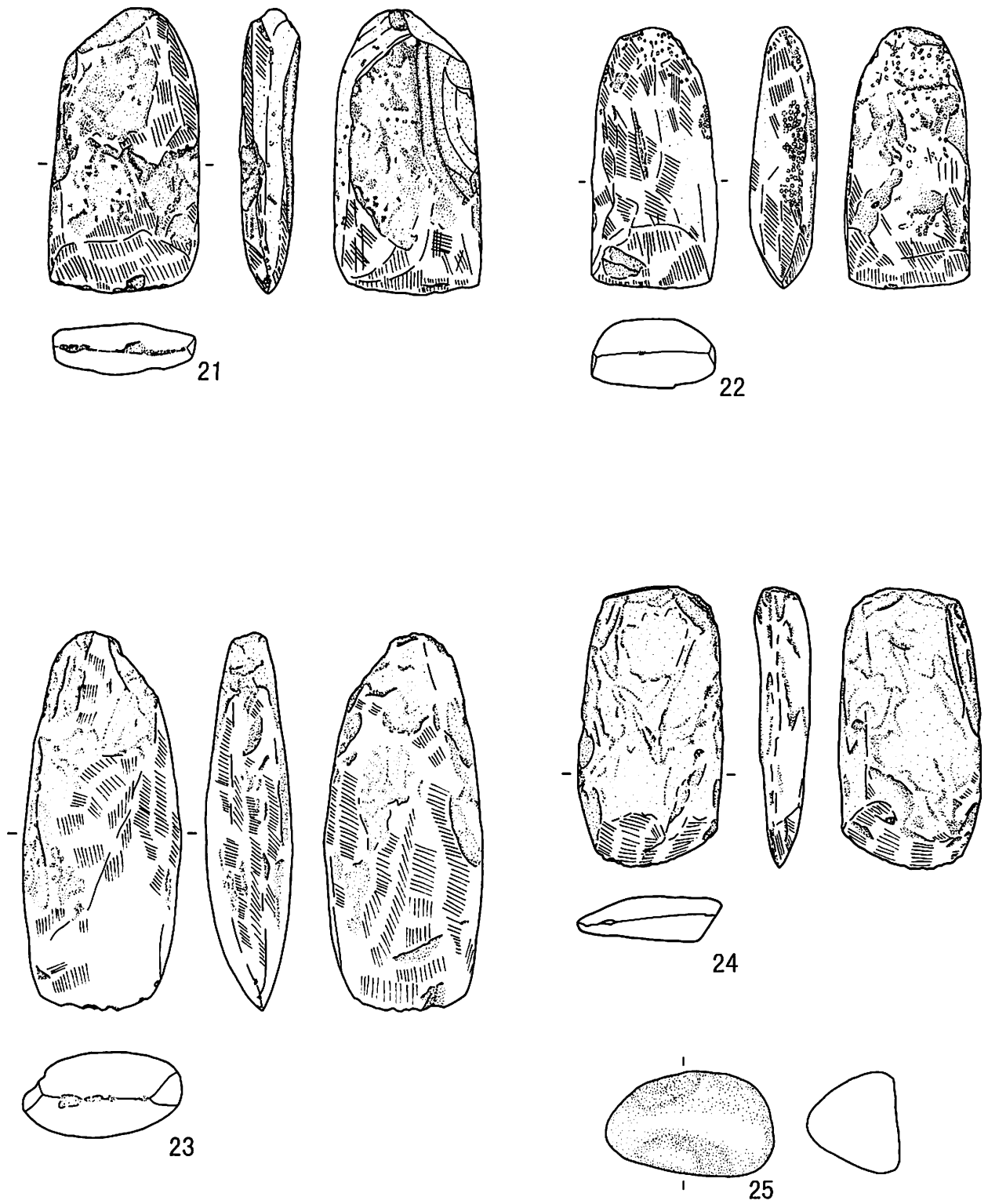
第118図 P-95・110平面図とP-110出土遺物(1)

P-110



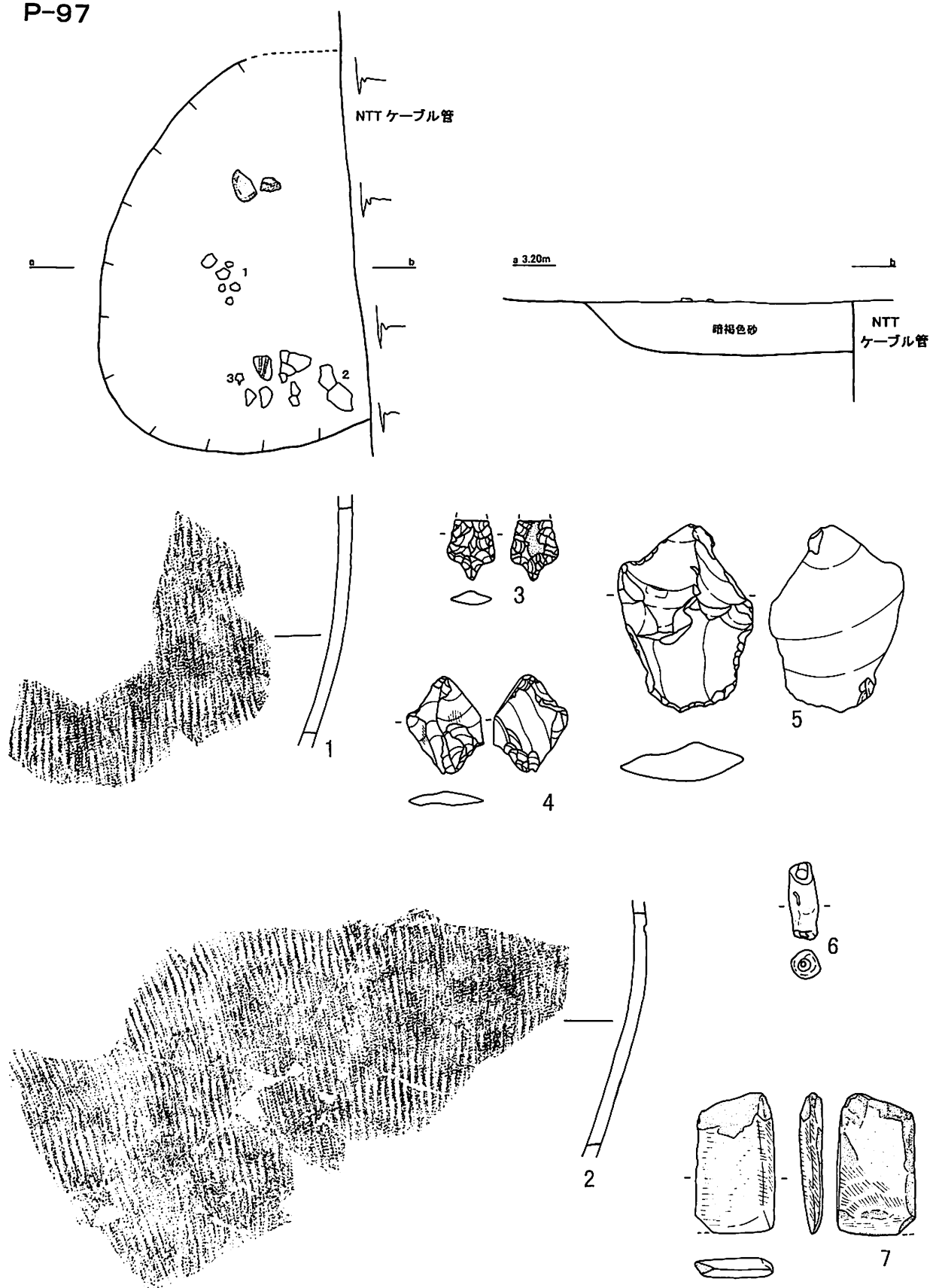
第119图 P-110 出土遺物 (2)

P-110



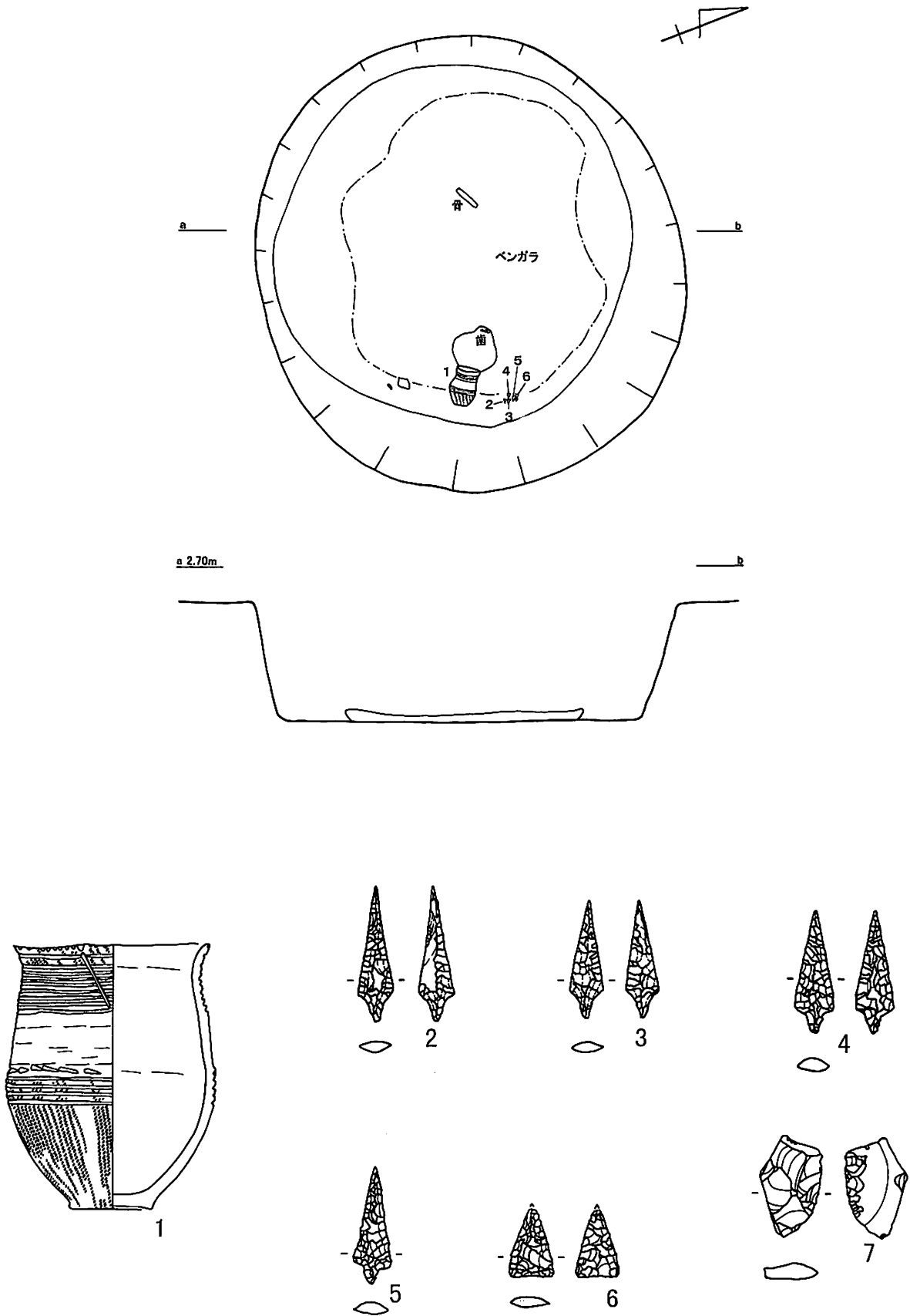
第120図 P-110 出土遺物 (3)

P-97



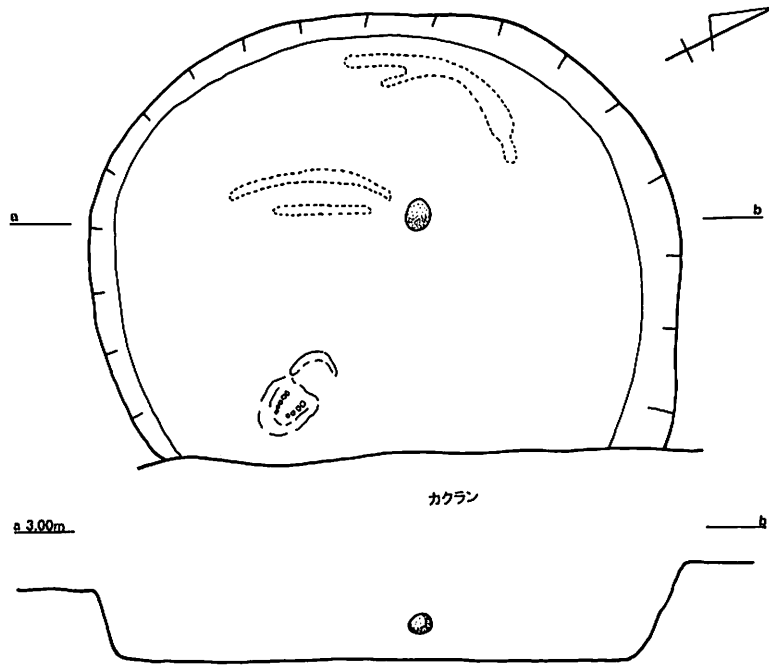
第121図 P-97 平面図と出土遺物

P-98

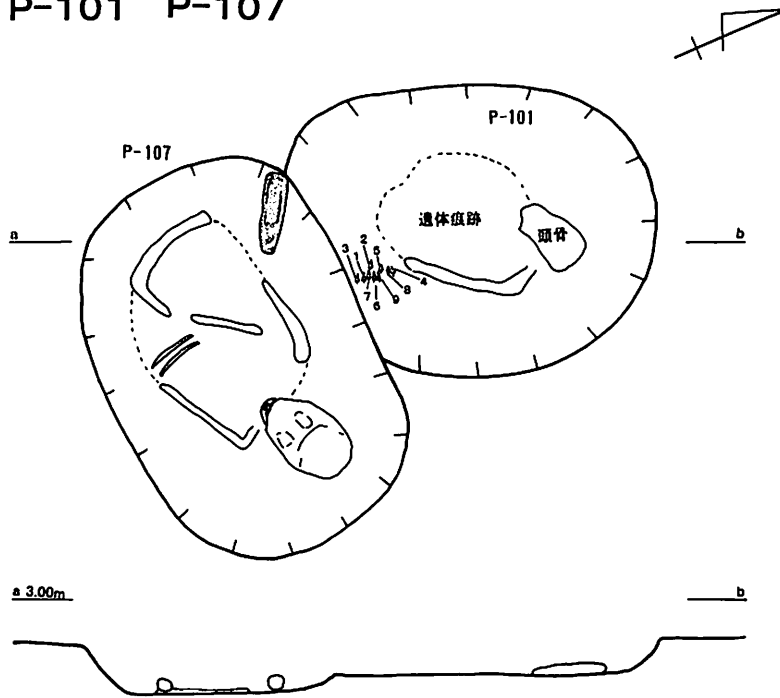


第122図 P-98 平面図と出土遺物

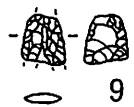
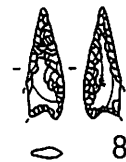
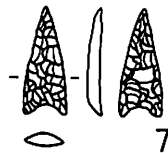
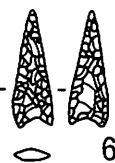
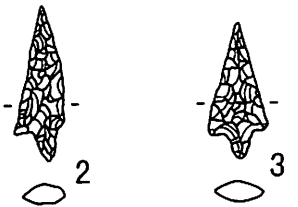
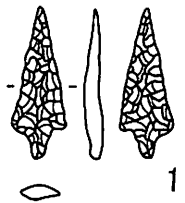
P-99



P-101 P-107

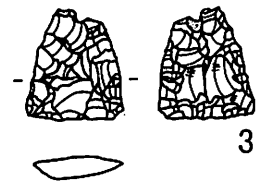
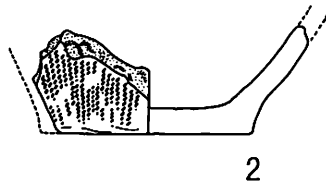
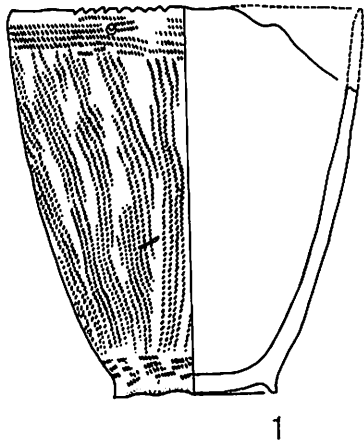
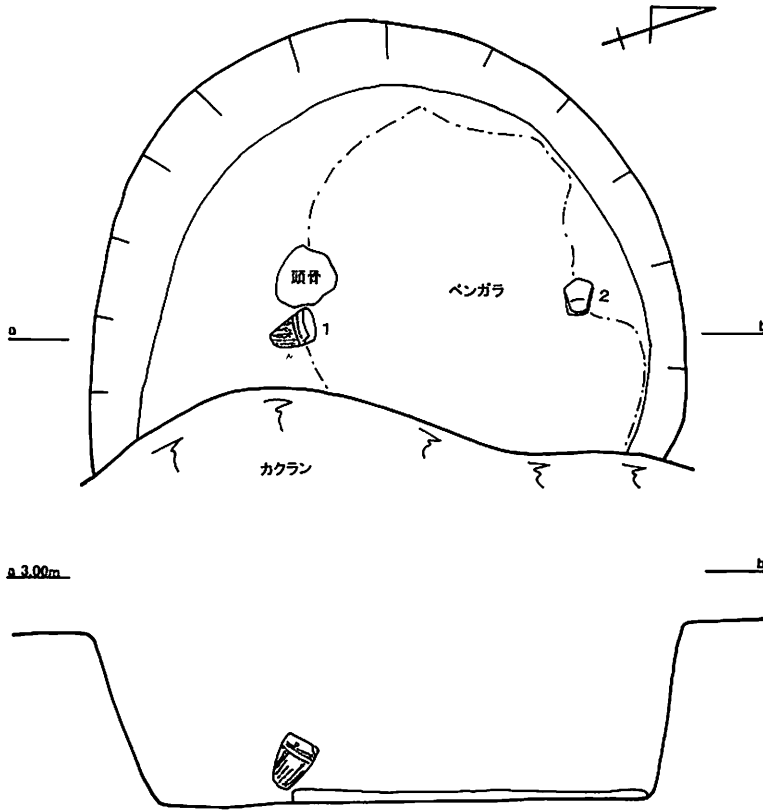


P-101



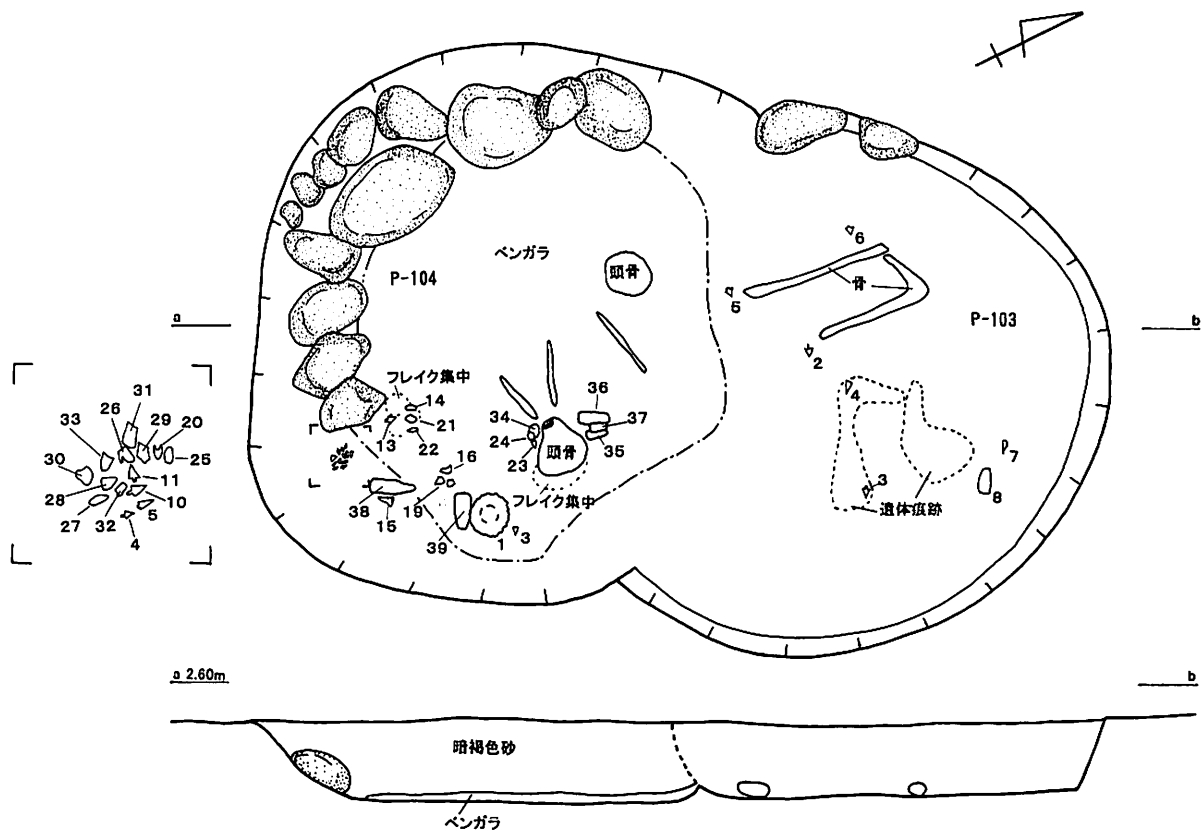
第123図 P-99・101・107平面図とP-101出土遺物

P-100

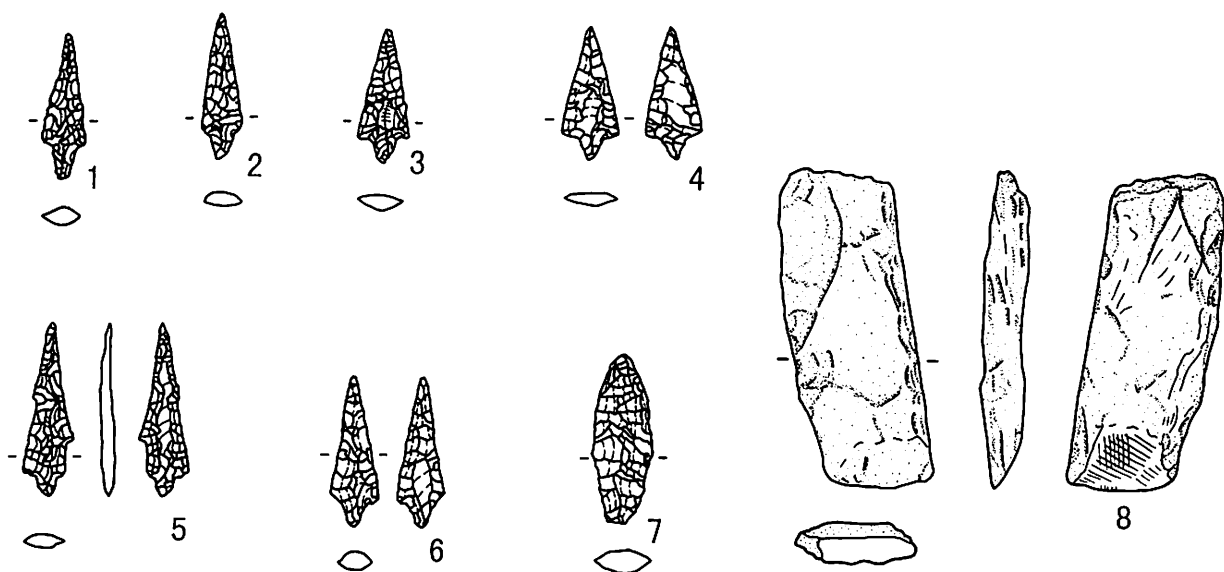


第124図 P-100 平面図と出土遺物

P-103 P-104

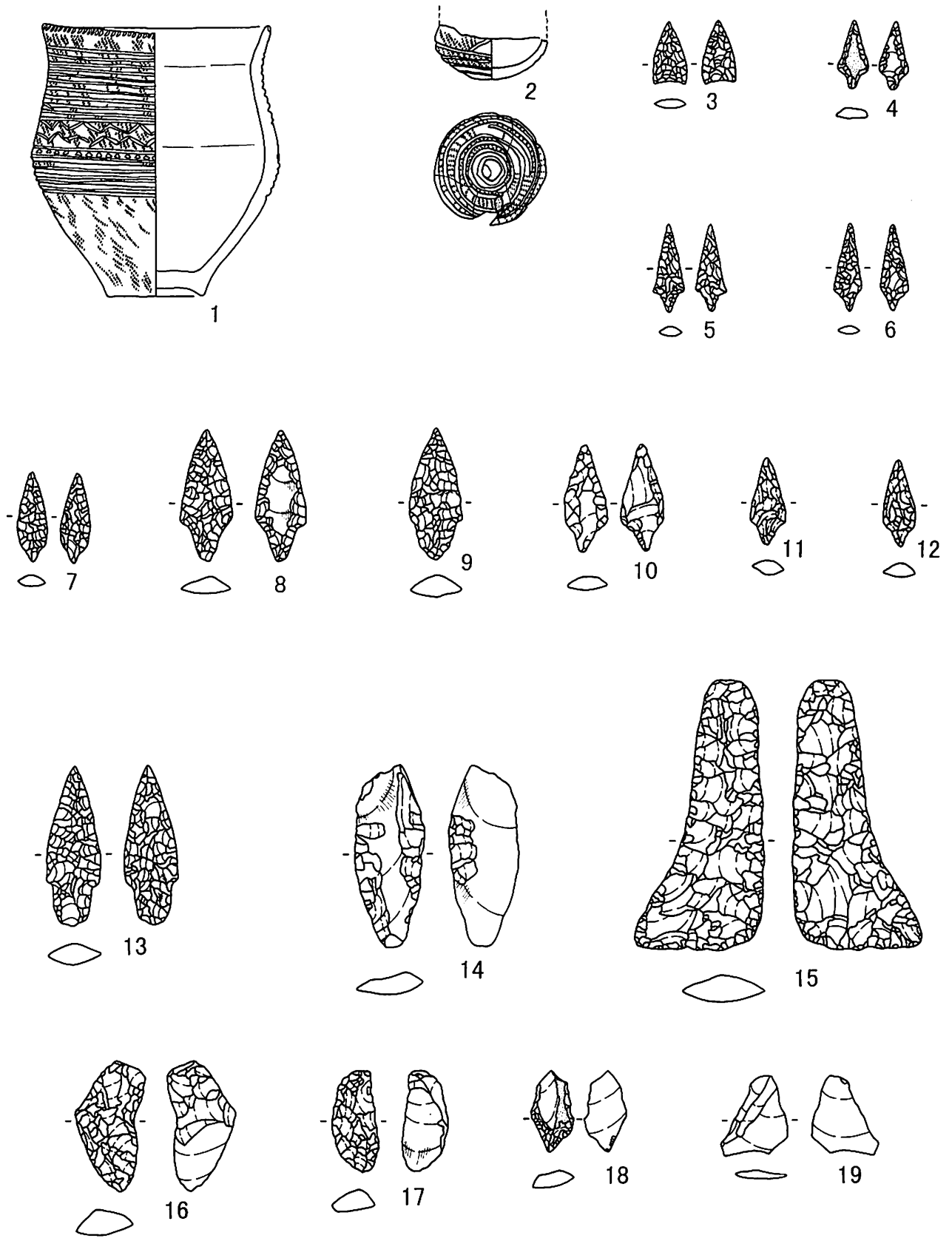


P-103

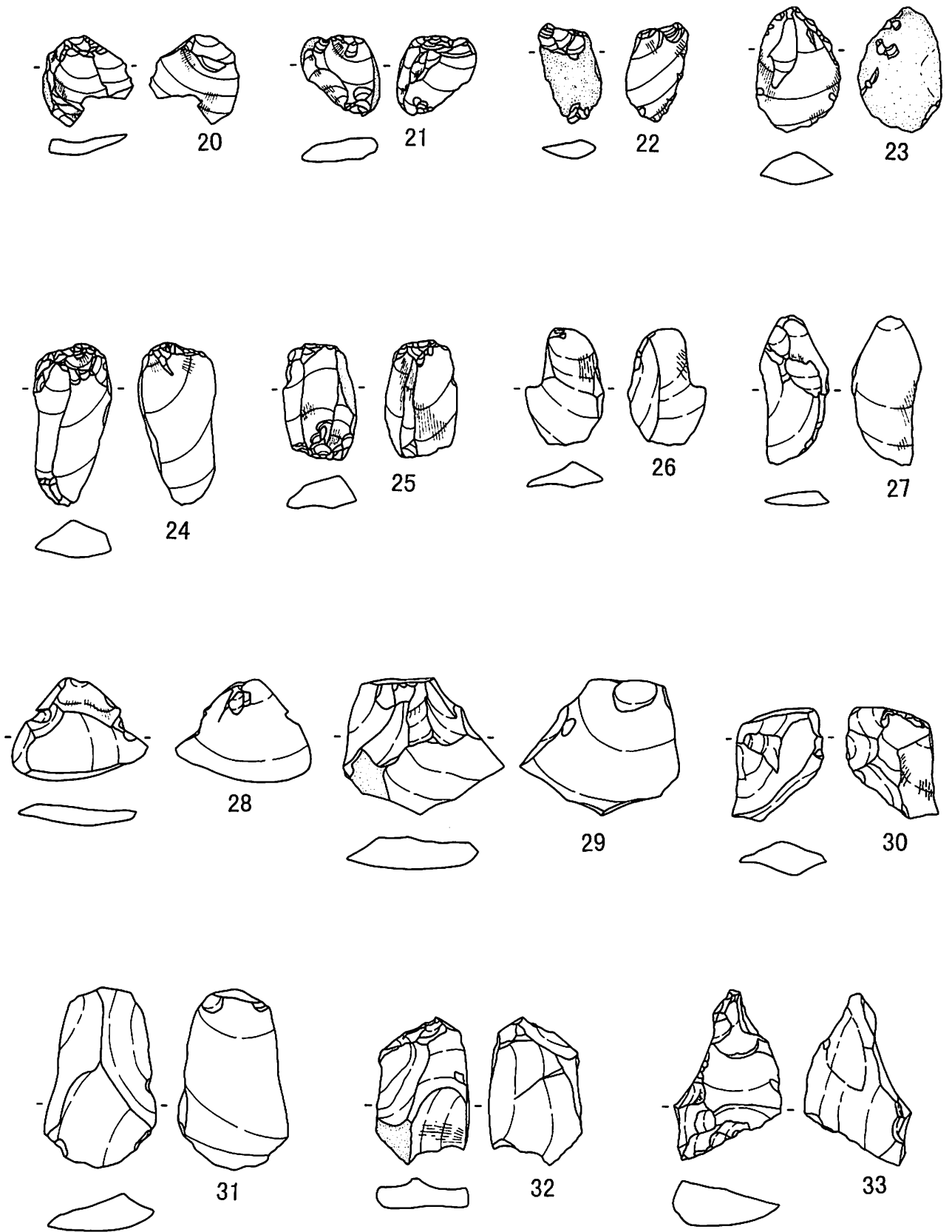


第125図 P-103・104平面図とP-103出土遺物

P-104

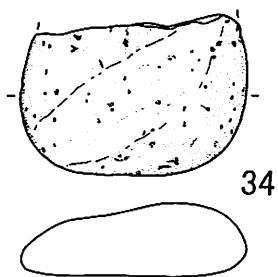


第126图 P-104 出土遺物 (1)

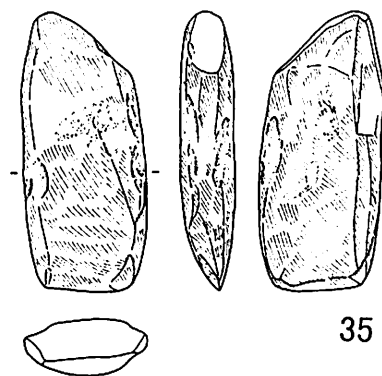


第127图 P-104 出土遺物 (2)

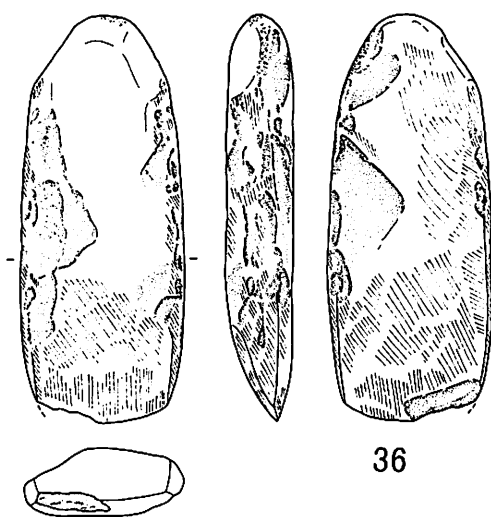
P-104



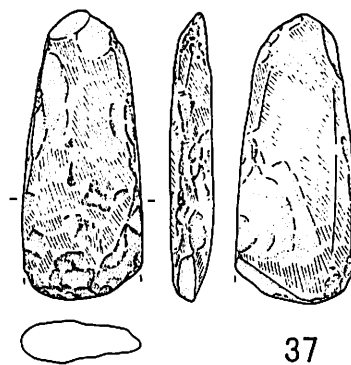
34



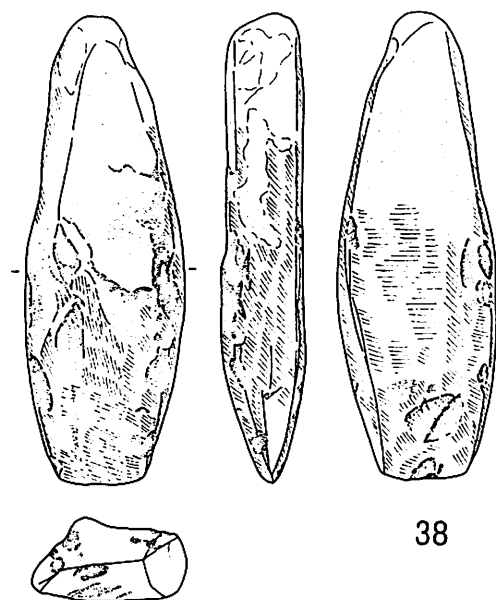
35



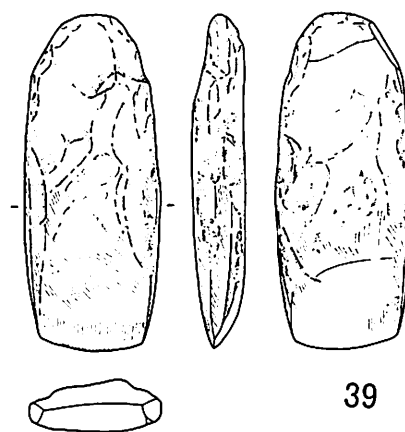
36



37



38

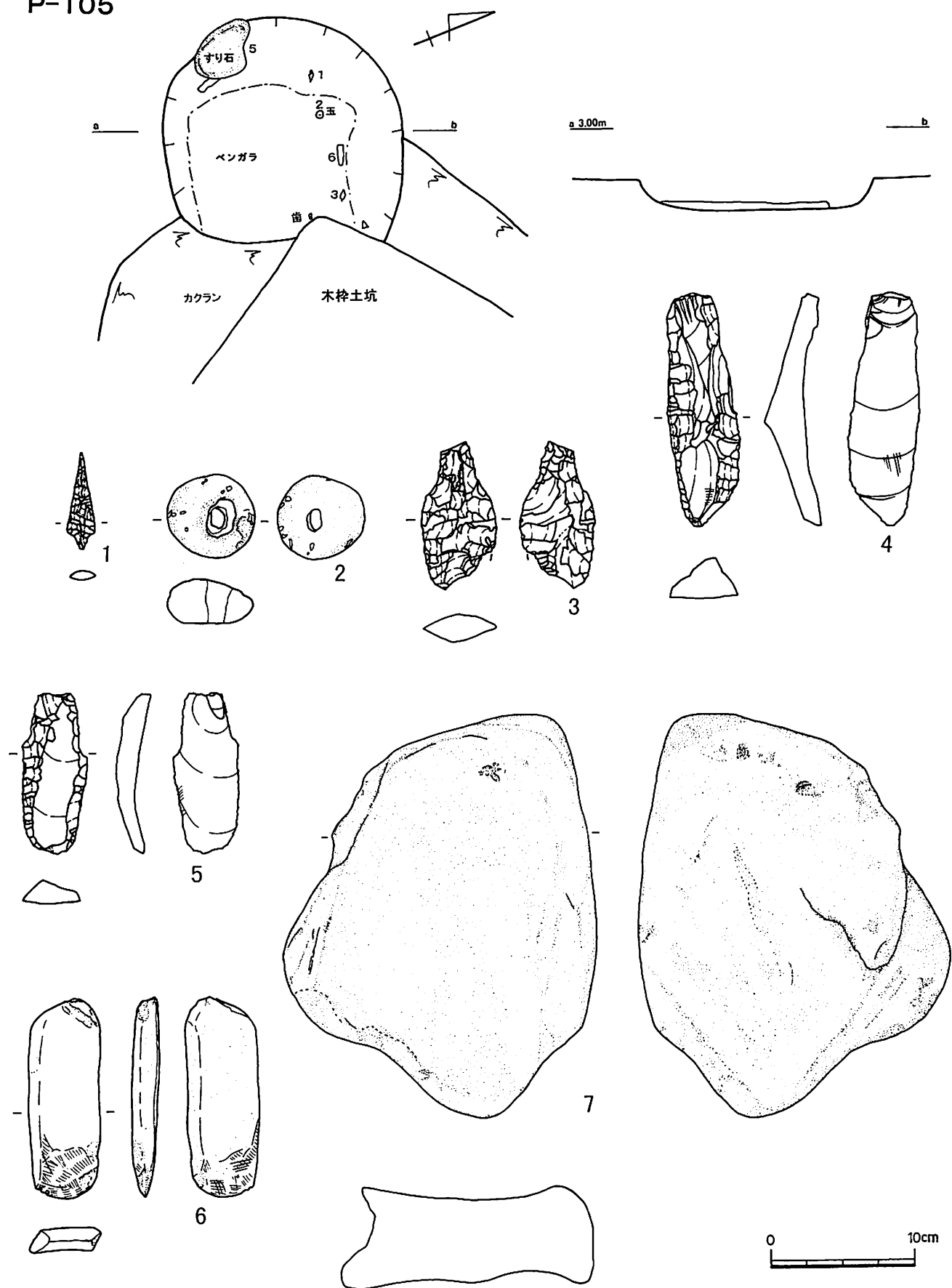


39

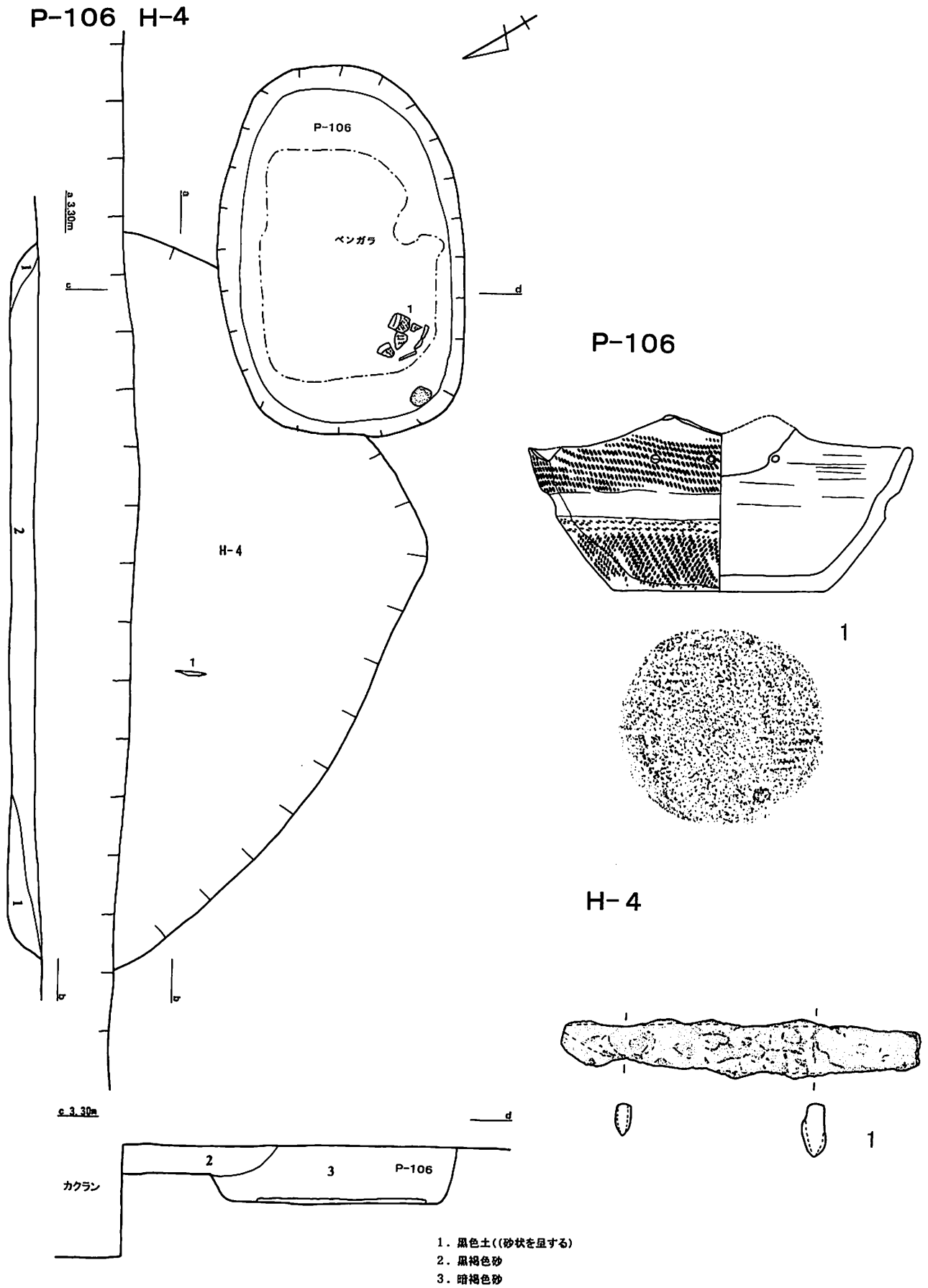
0 10cm

第128図 P-104 出土遺物 (3)

P-105

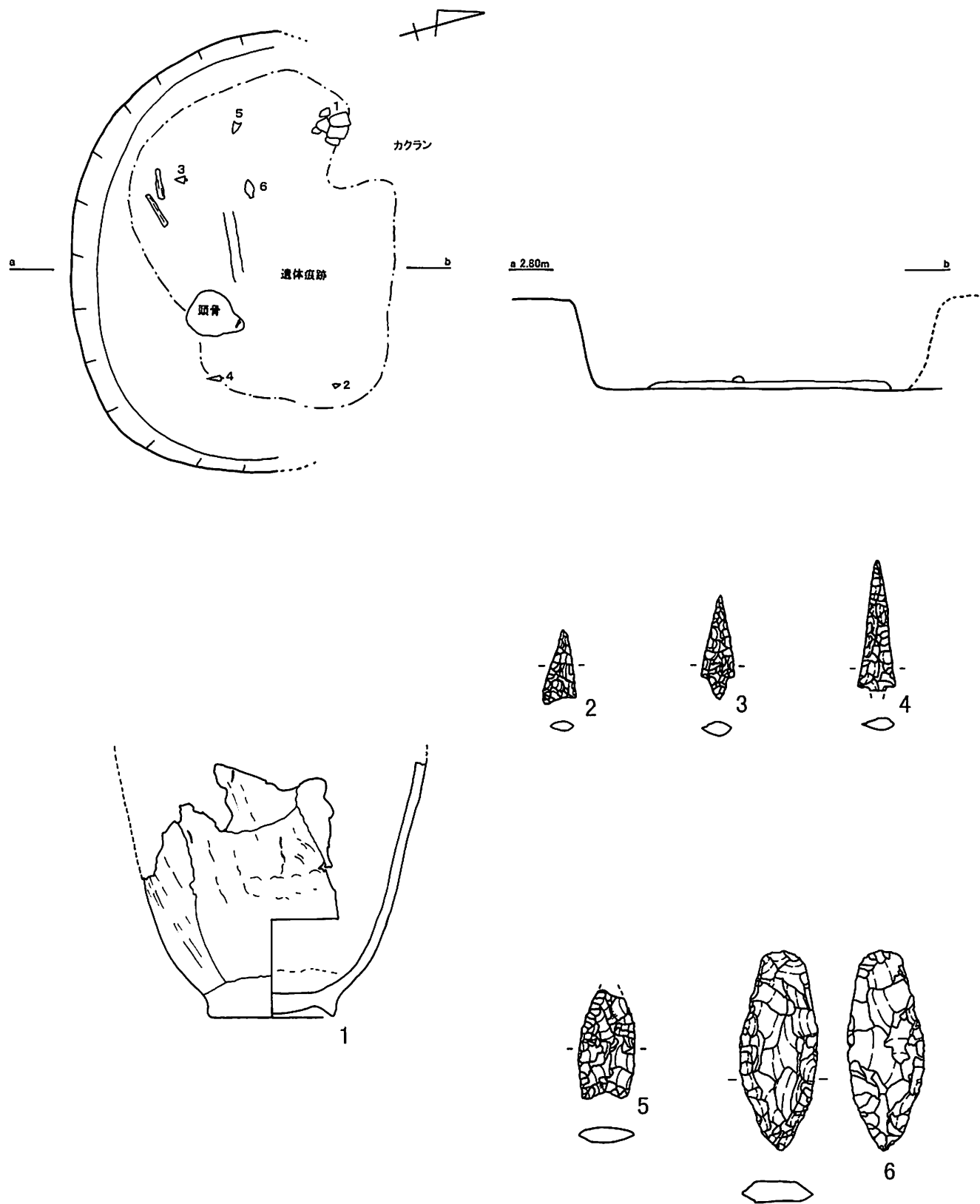


第129図 P-105 平面図と出土遺物



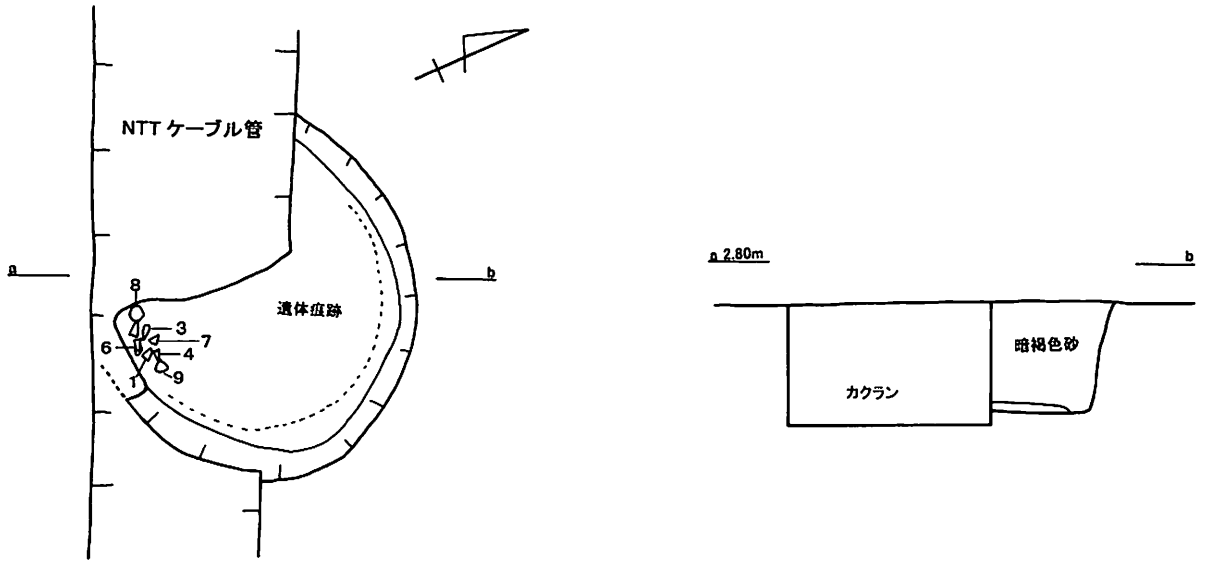
第130図 P-106・H-4 平面図と出土遺物

P-108



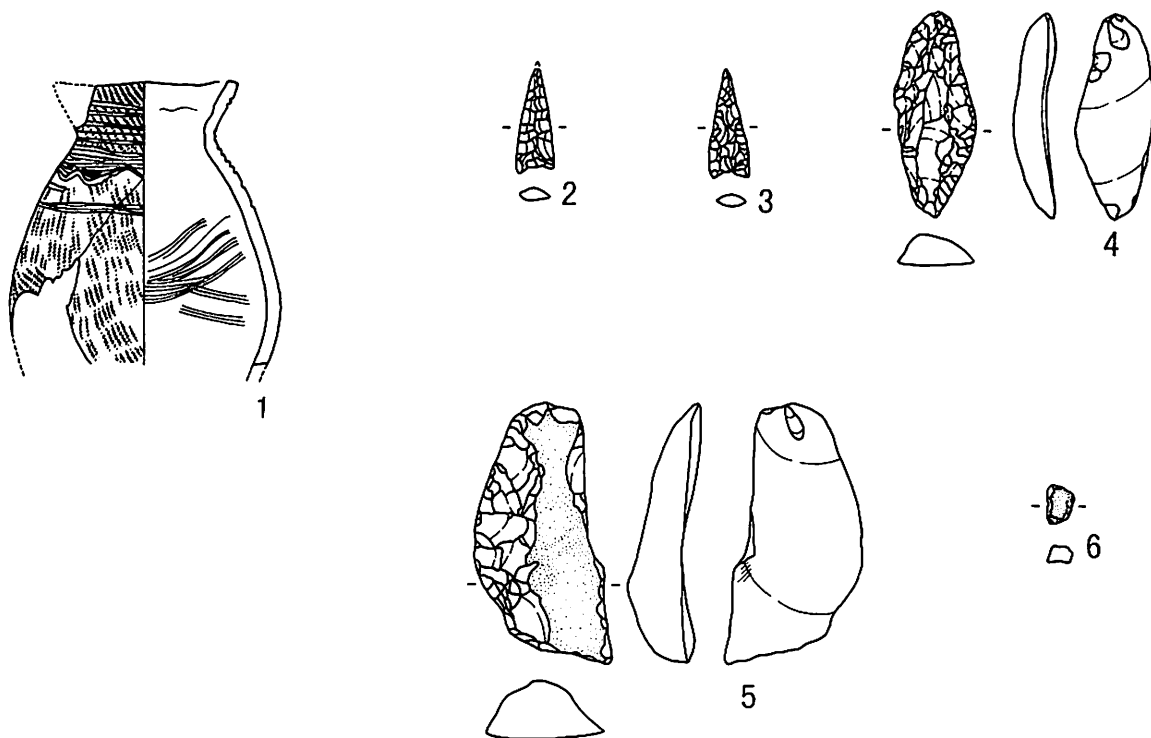
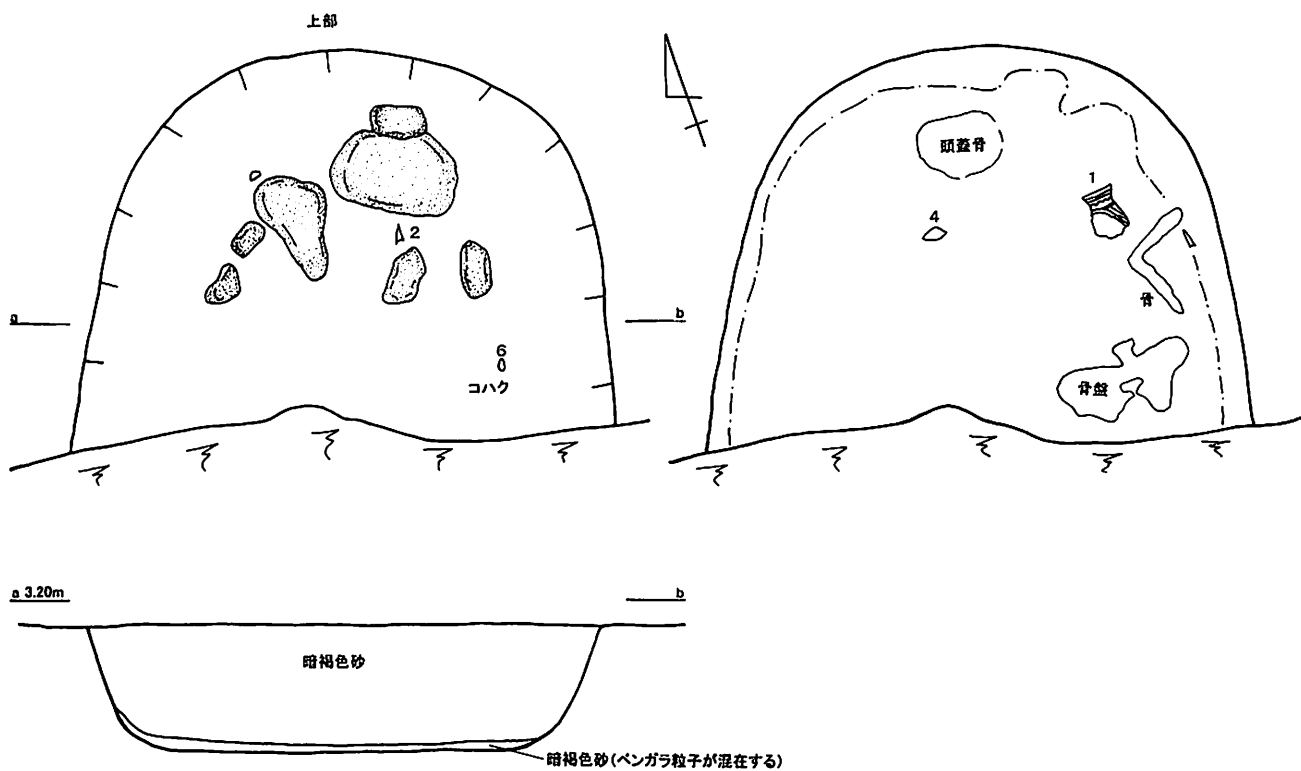
第131図 P-108 平面図と出土遺物

P-109



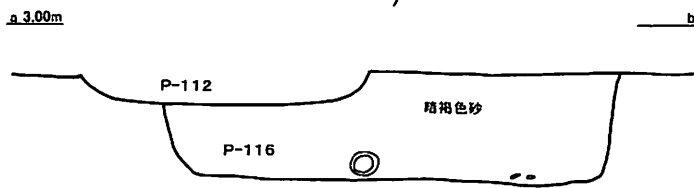
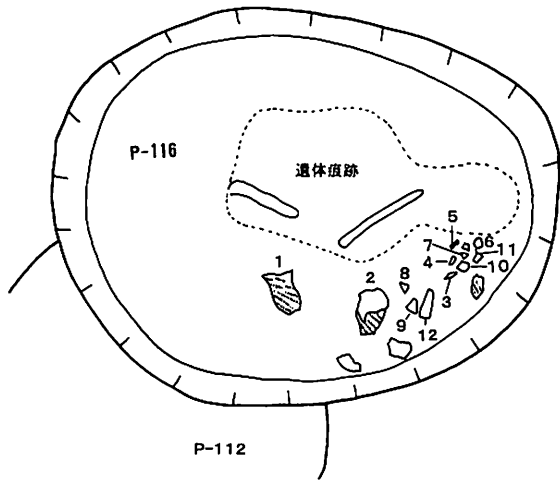
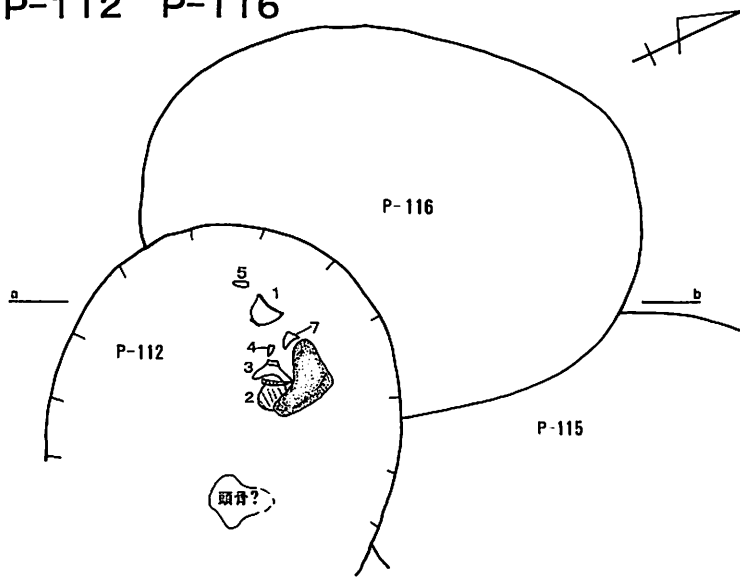
第132図 P-109 平面図と出土遺物

P-111

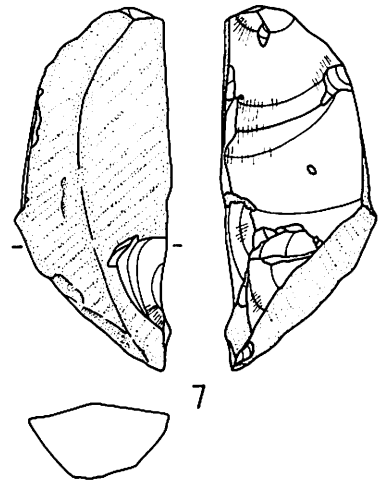
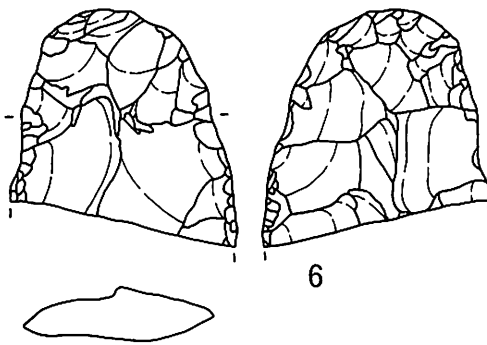
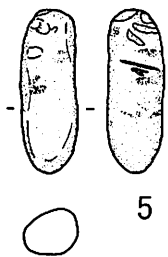
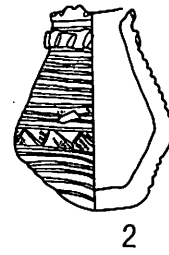
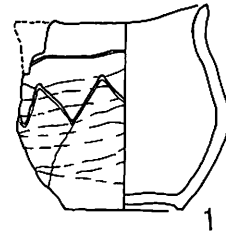


第133図 P-111 平面図と出土遺物

P-112 P-116

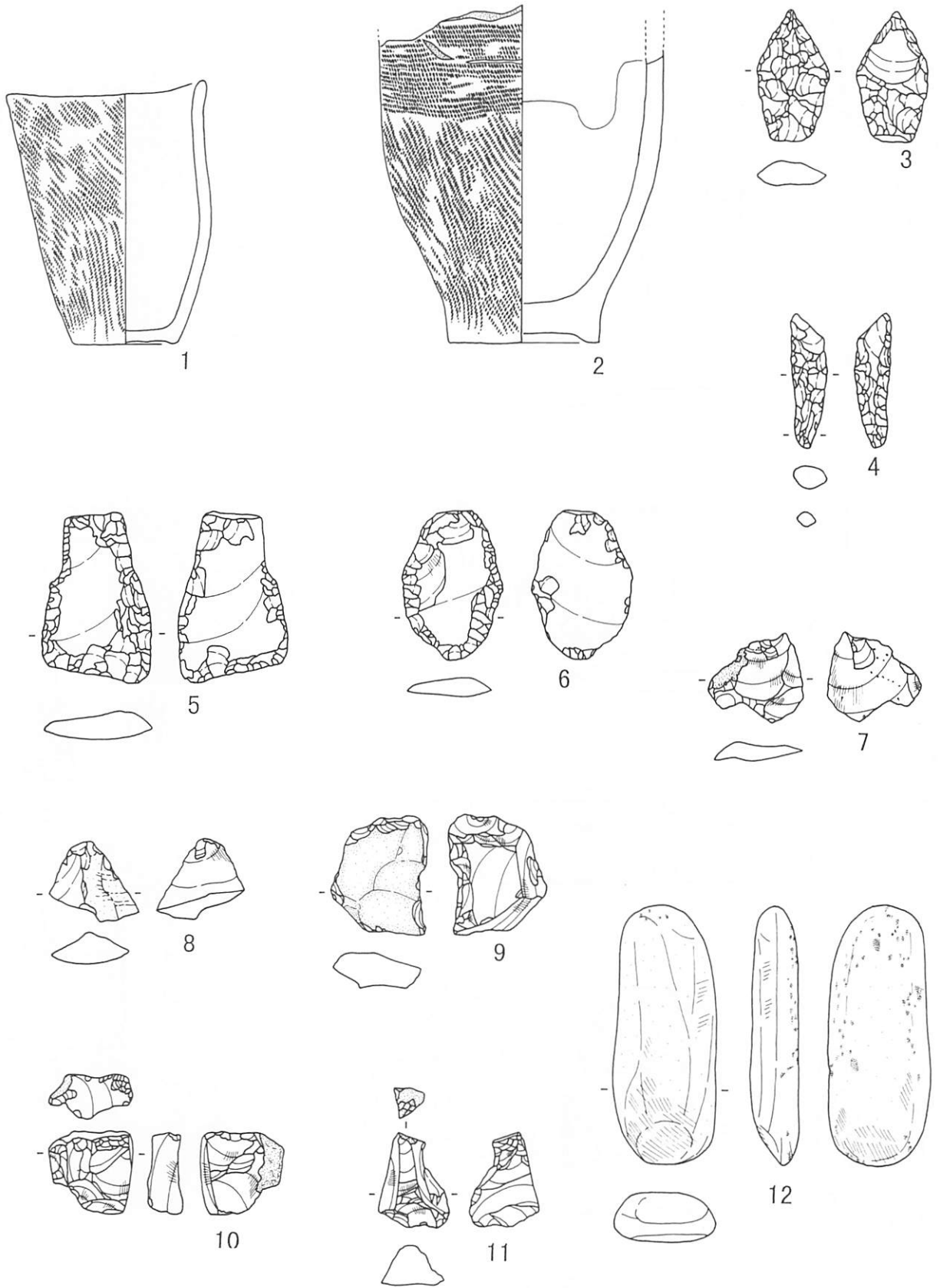


P-112



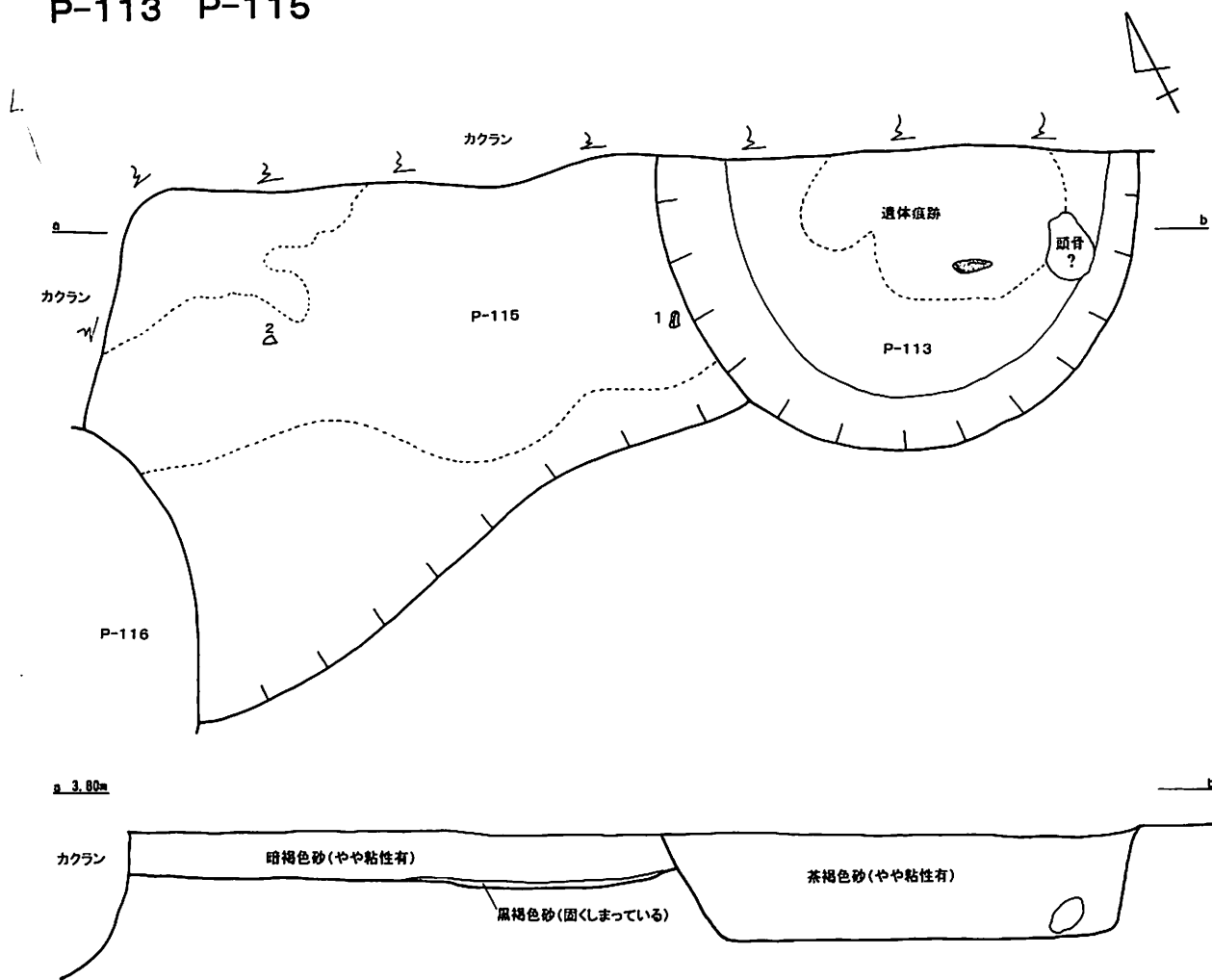
第134図 P-112・116平面図とP-112出土遺物

P-116



第135图 P-116 出土遺物

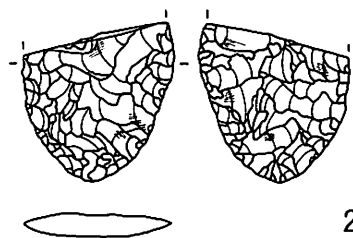
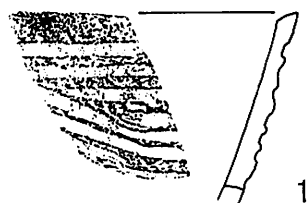
P-113 P-115



P-113

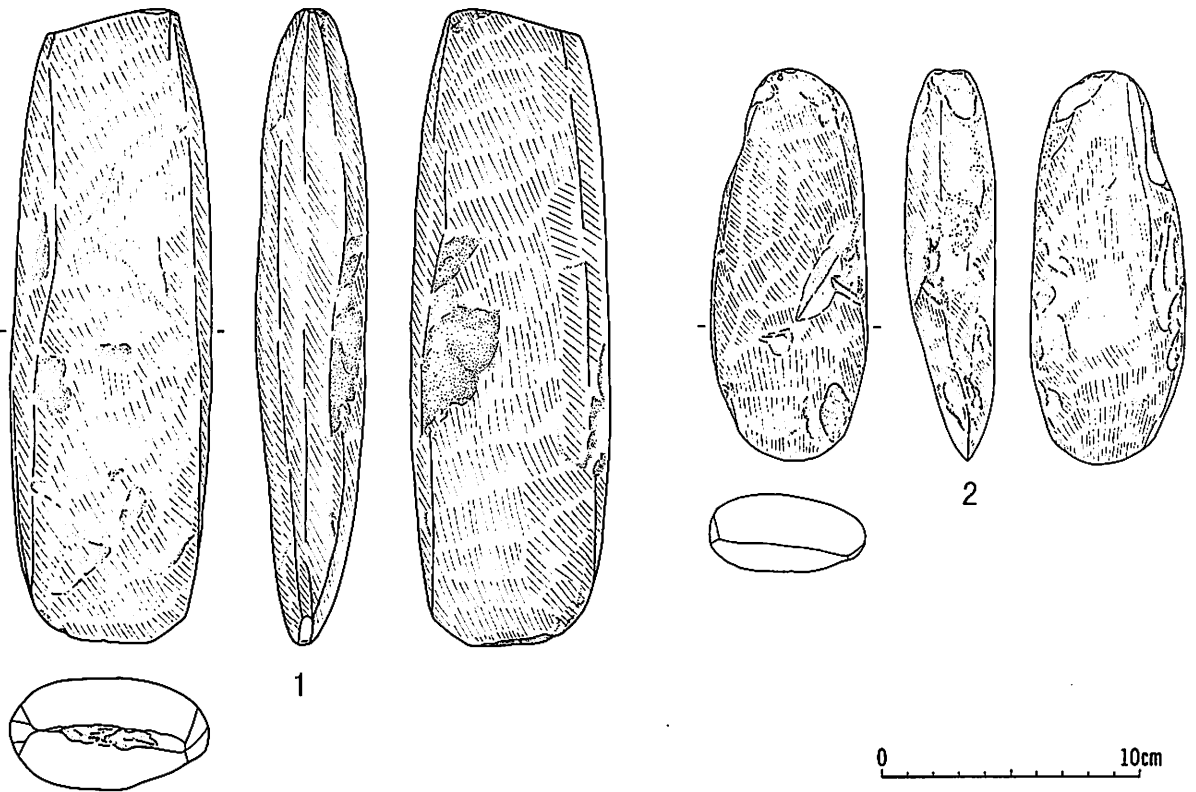
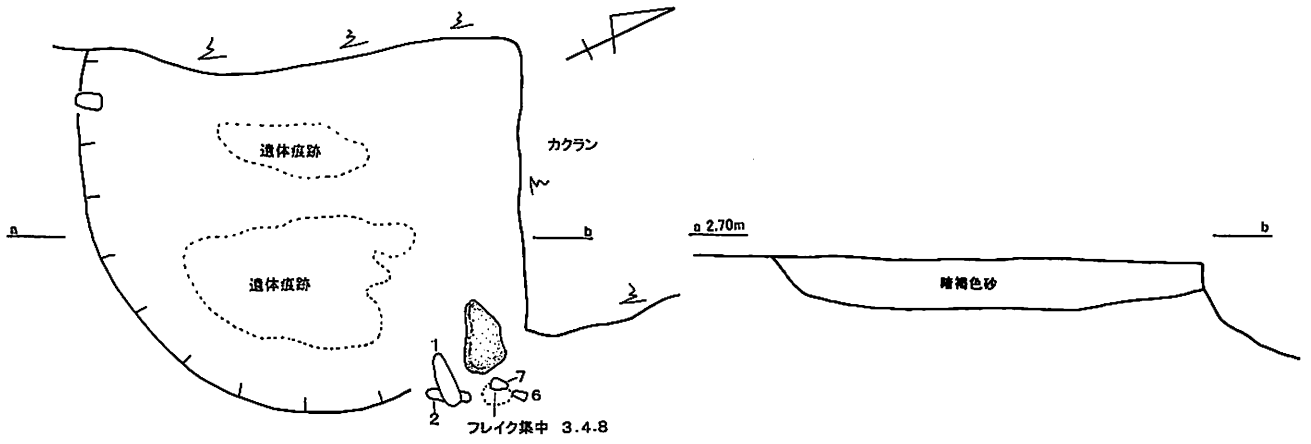


P-115



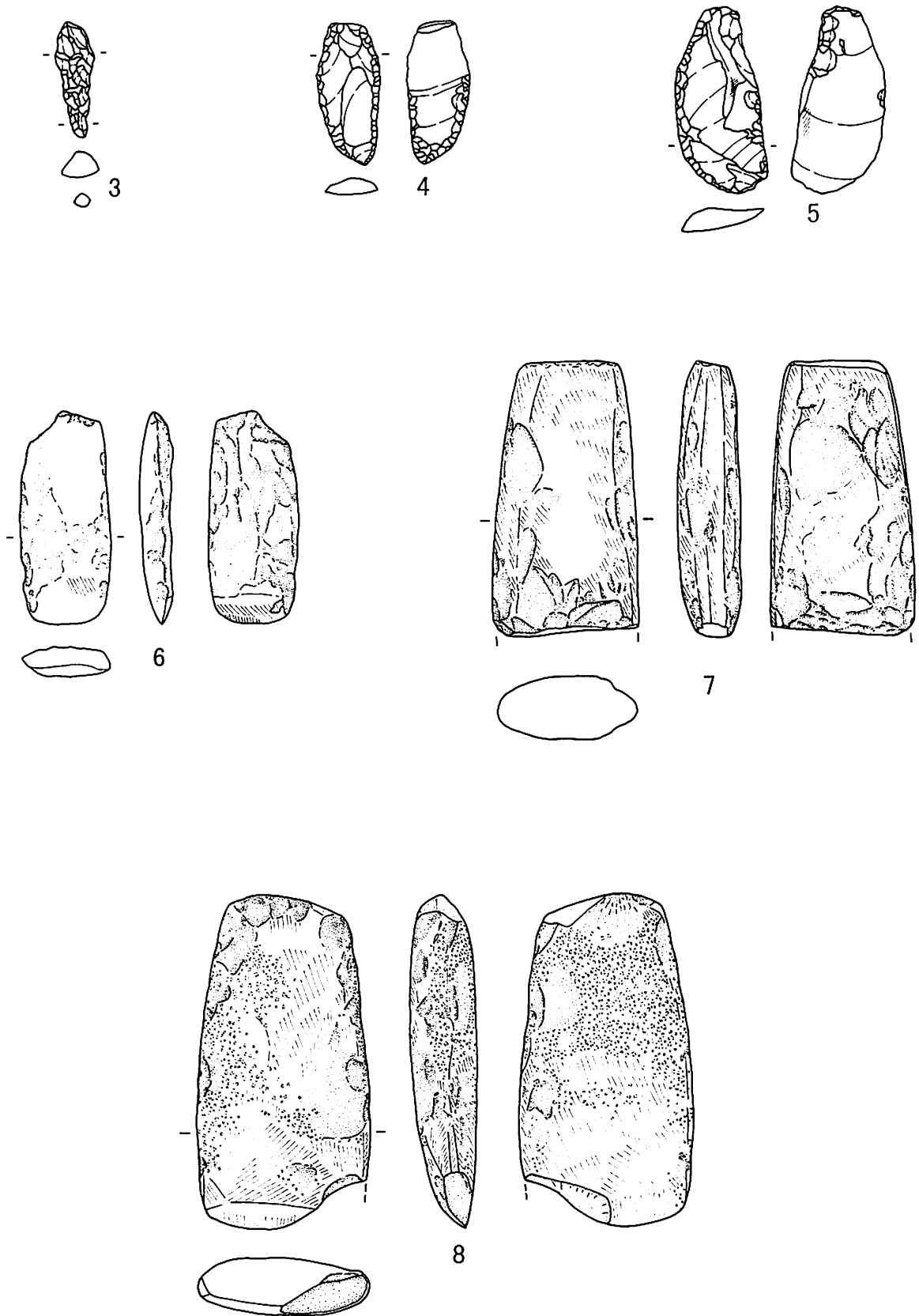
第136図 P-113・115 平面図と出土遺物

P-114



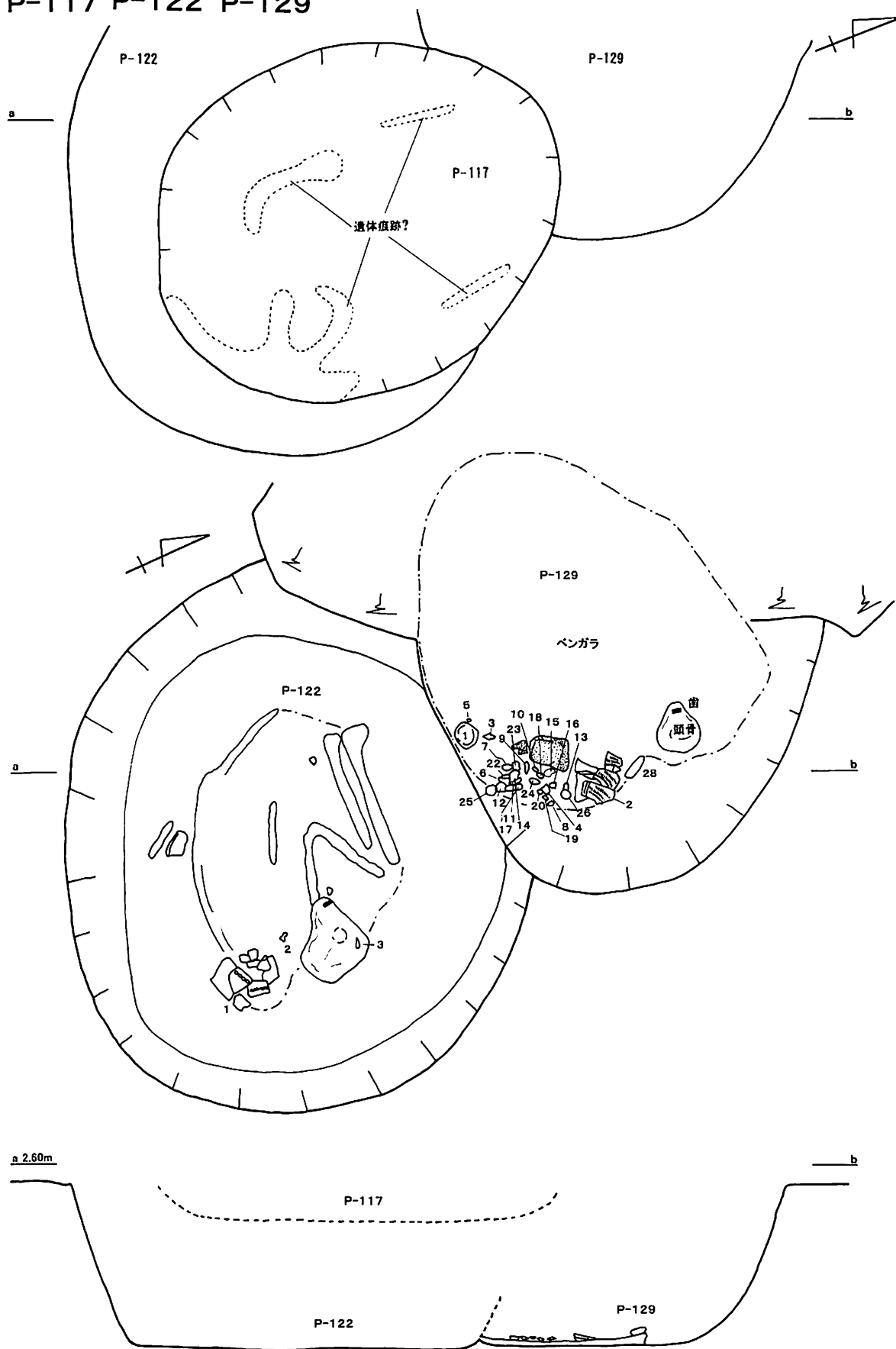
第137図 P-114 平面図と出土遺物 (1)

P-114



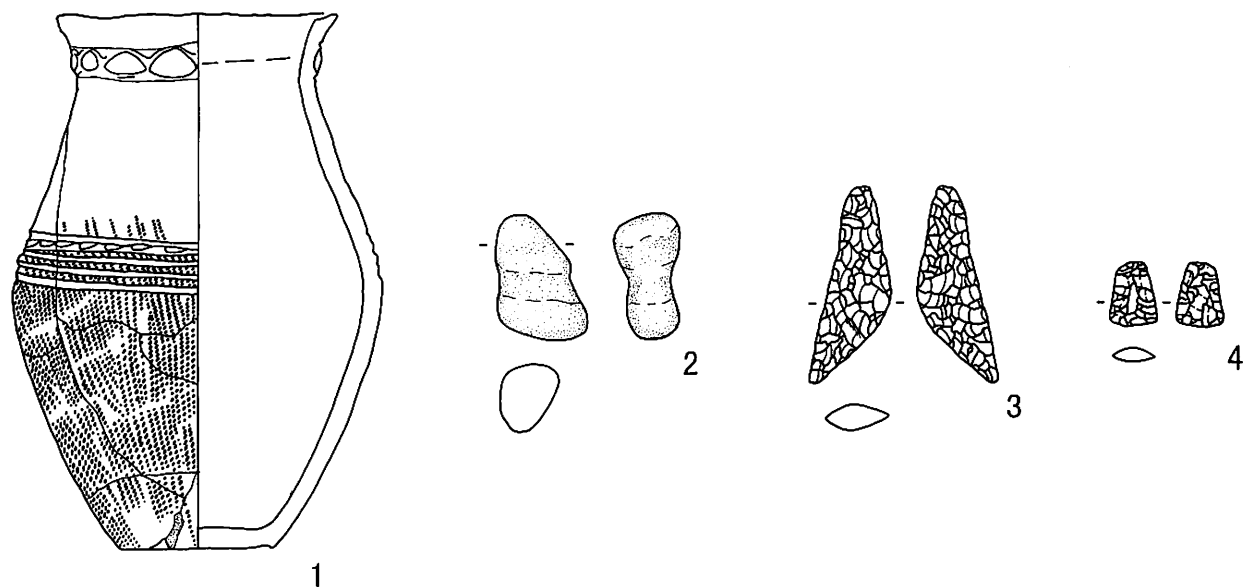
第138图 P-114 出土遺物 (2)

P-117 P-122 P-129

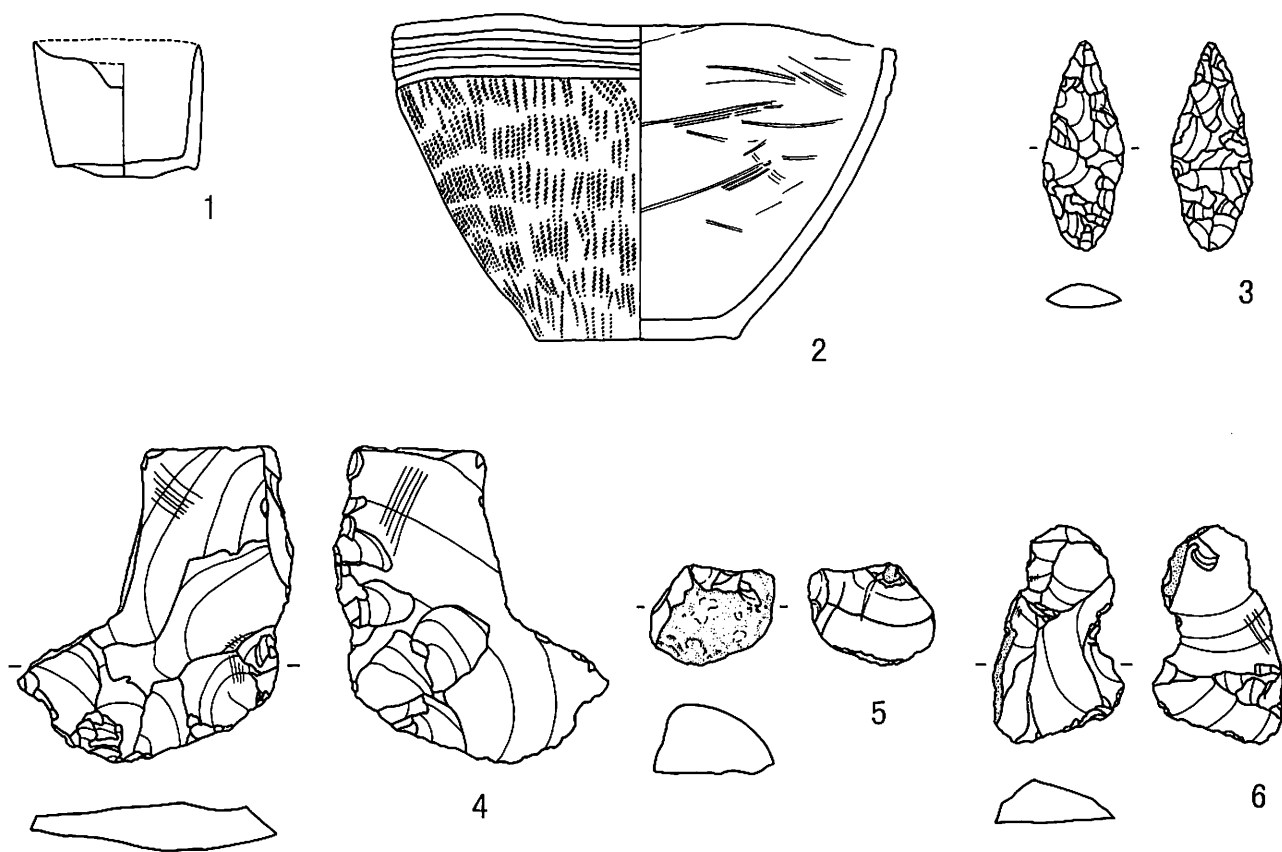


第139図 P-117・122・129 平面図

P-122

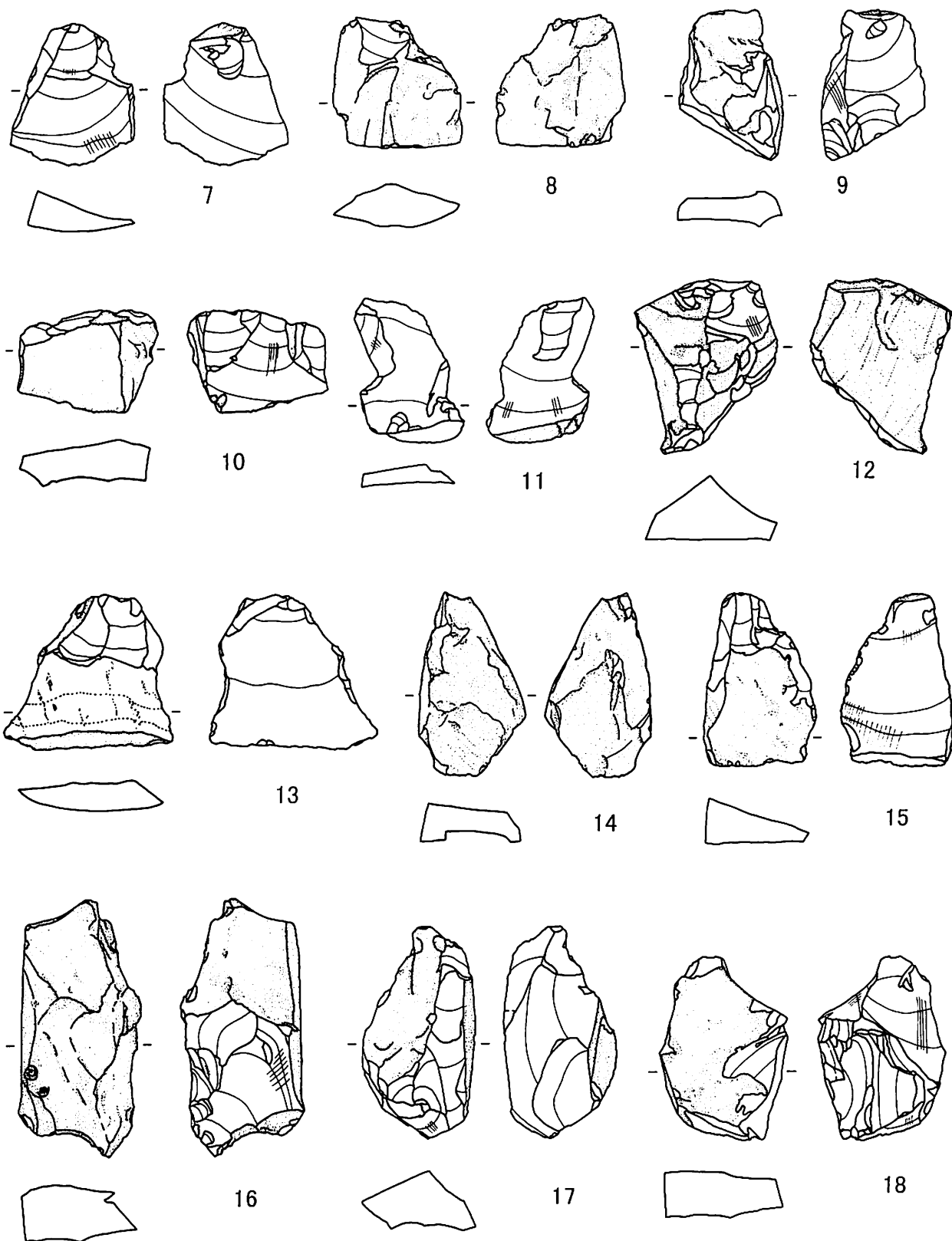


P-129



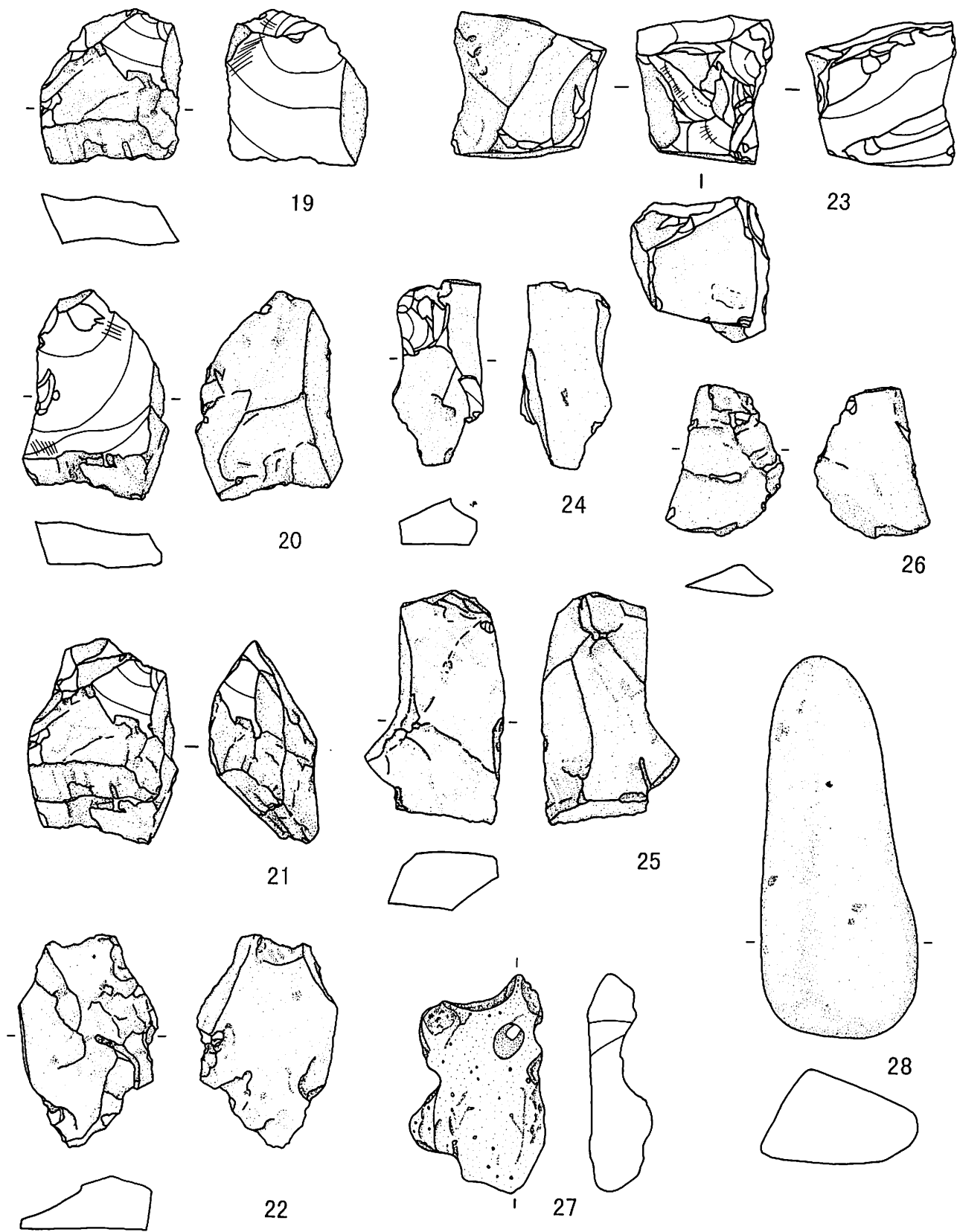
第140图 P-122·129 出土遺物 (1)

P-129



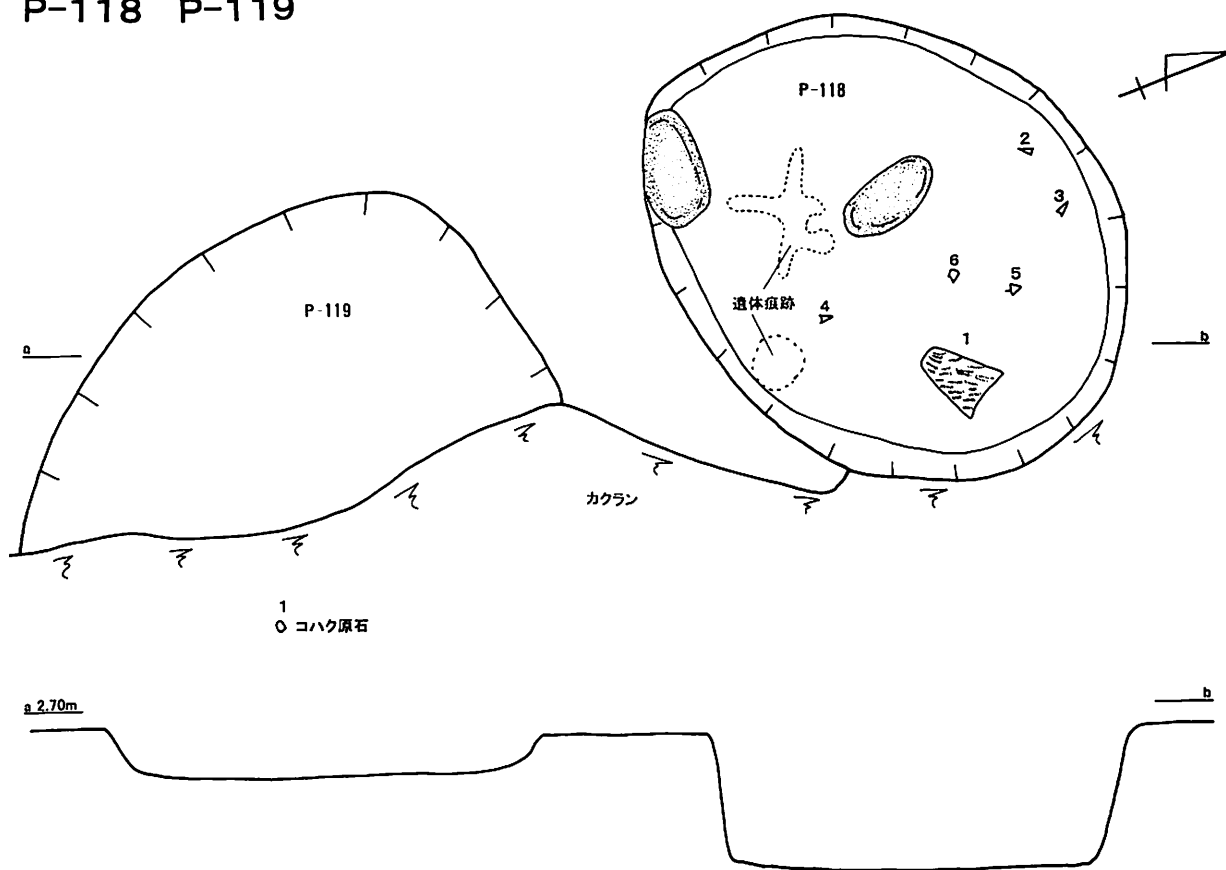
第141图 P-129出土遺物 (2)

P-129

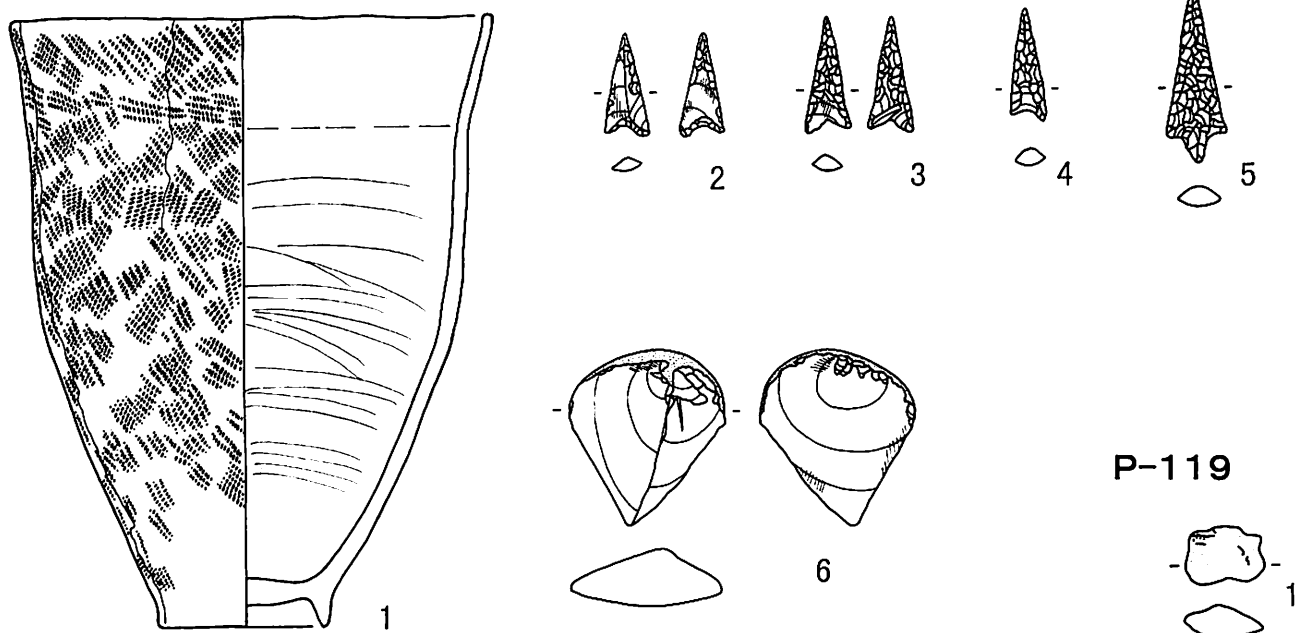


第142図 P-129 出土遺物 (3)

P-118 P-119

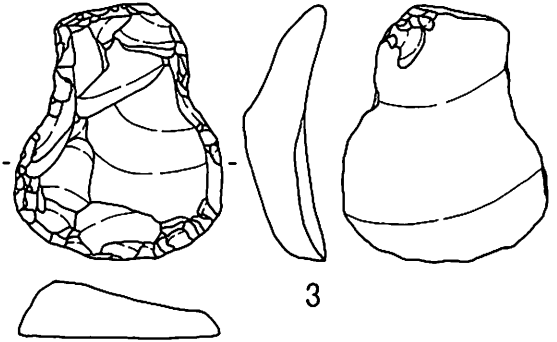
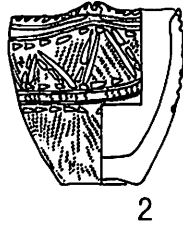
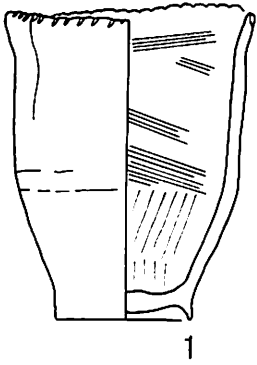
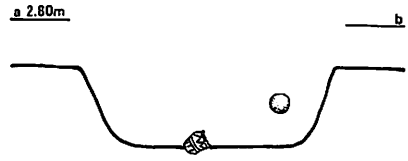
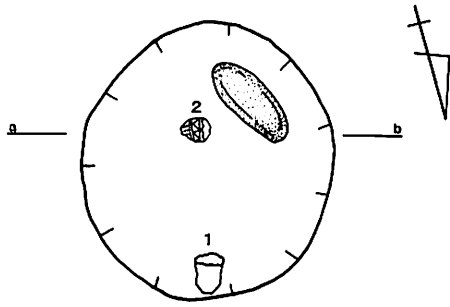


P-118

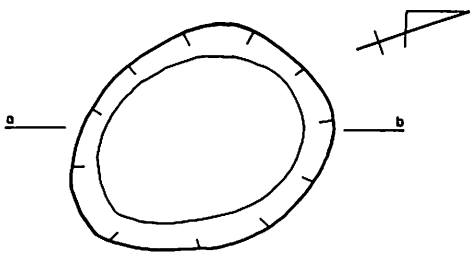


第143図 P-118・119 平面図と出土遺物

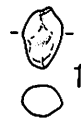
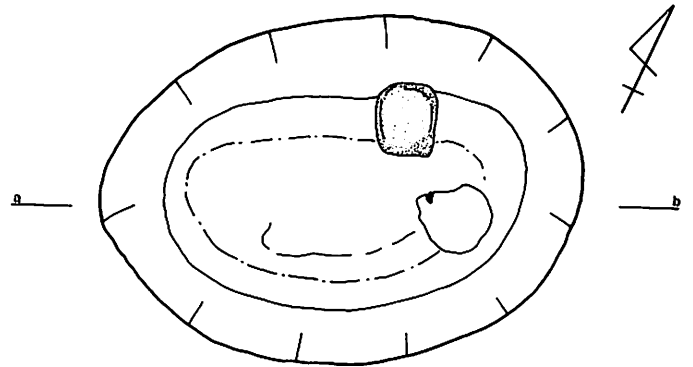
P-120



P-123

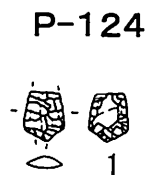
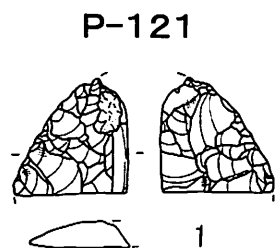
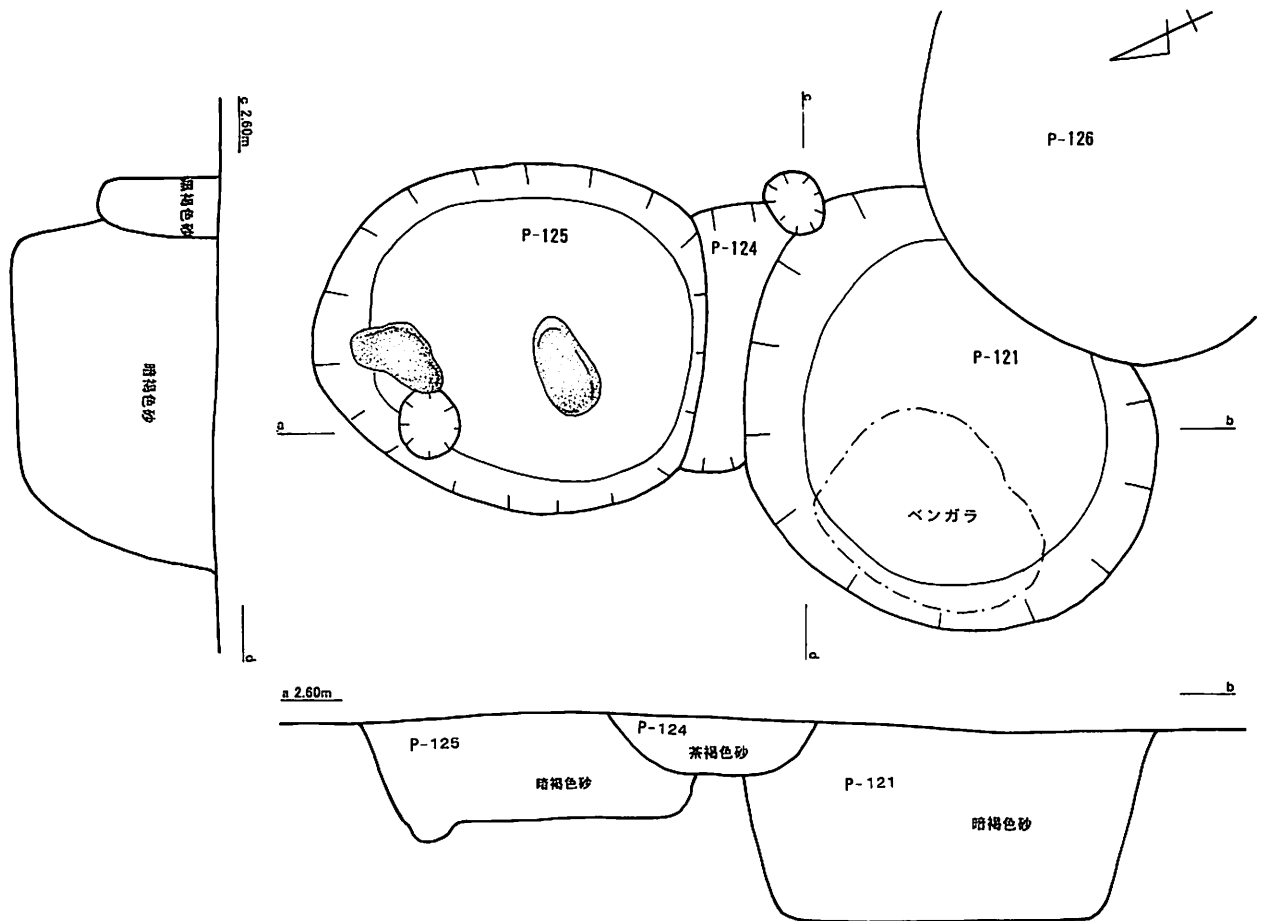


P-127



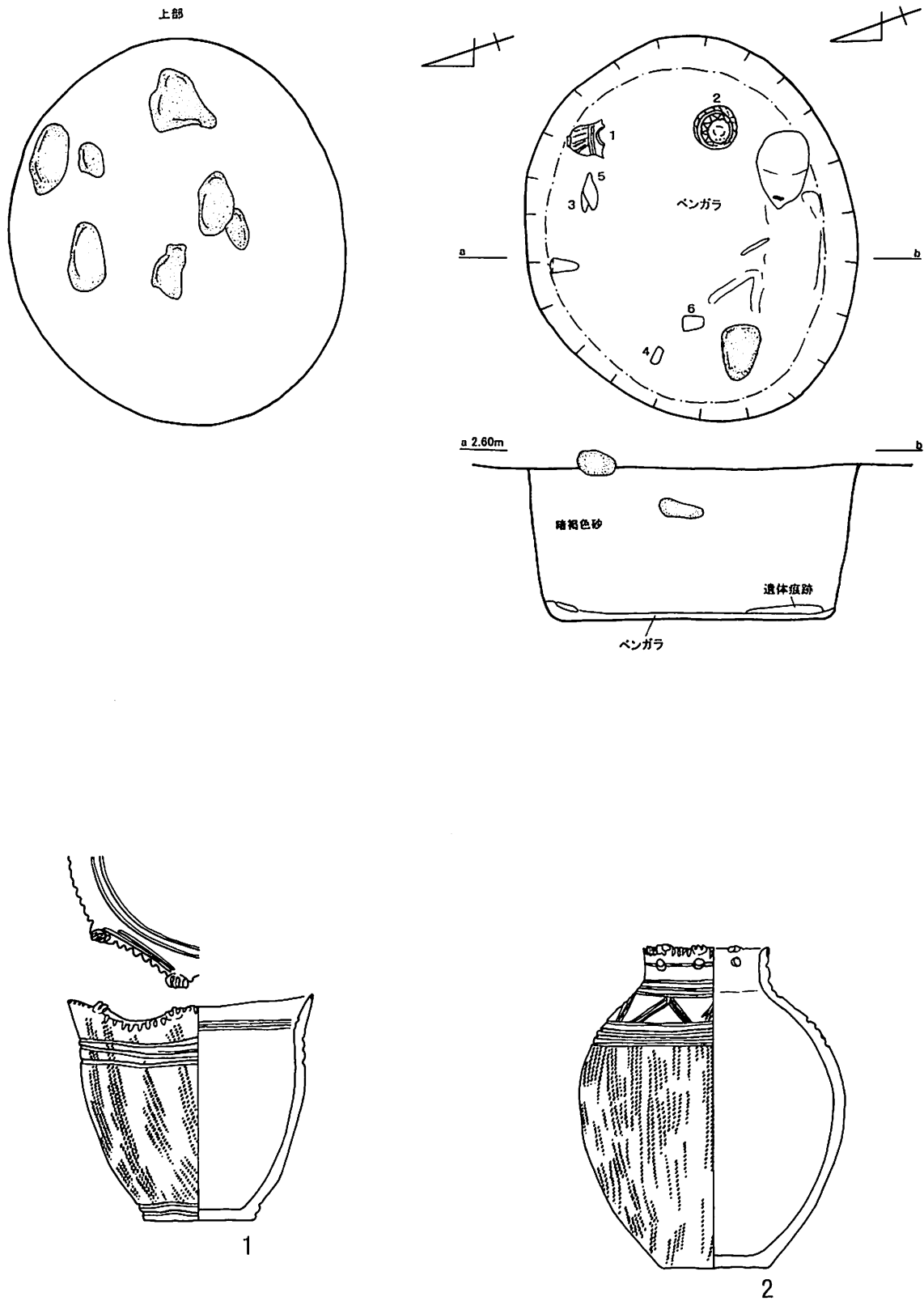
第144図 P-120・123・127平面図とP-120・P-127出土遺物

P-121 P-124 P-125

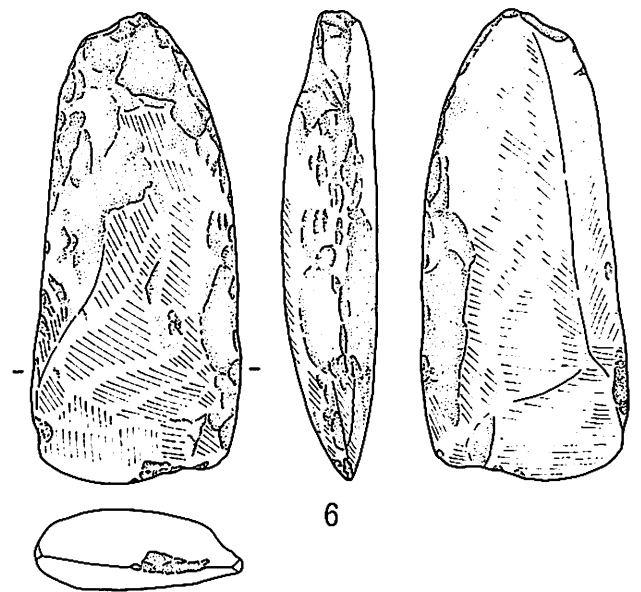
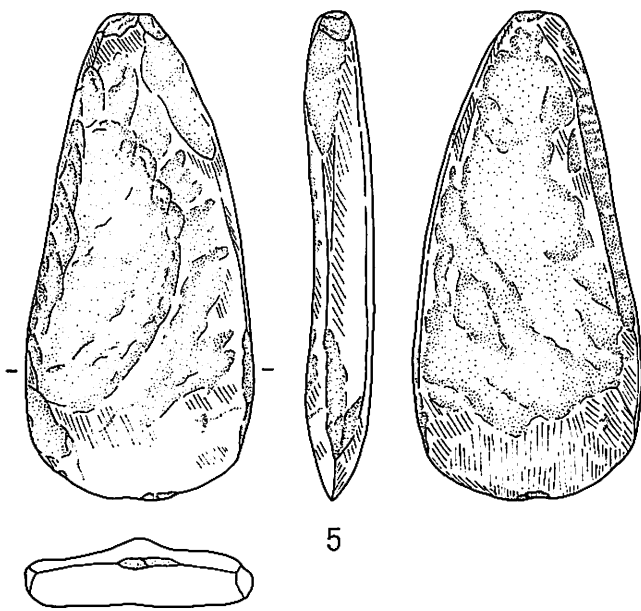
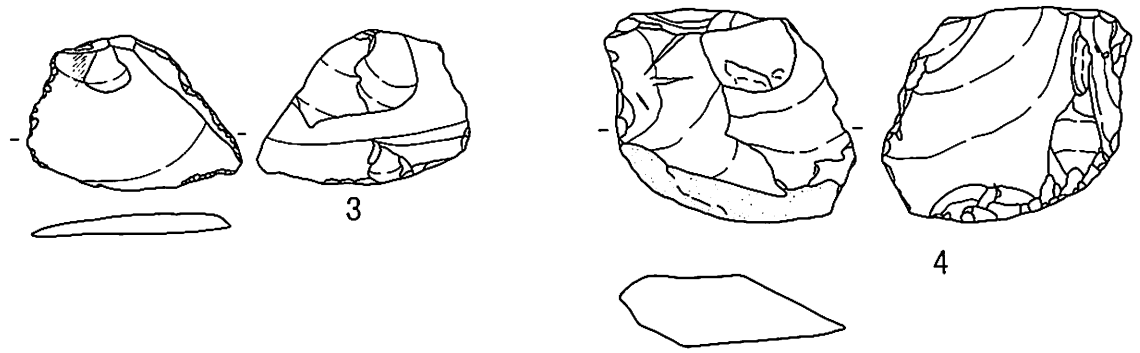


第145図 P-121・124・125平面図とP-121・124出土遺物

P-126

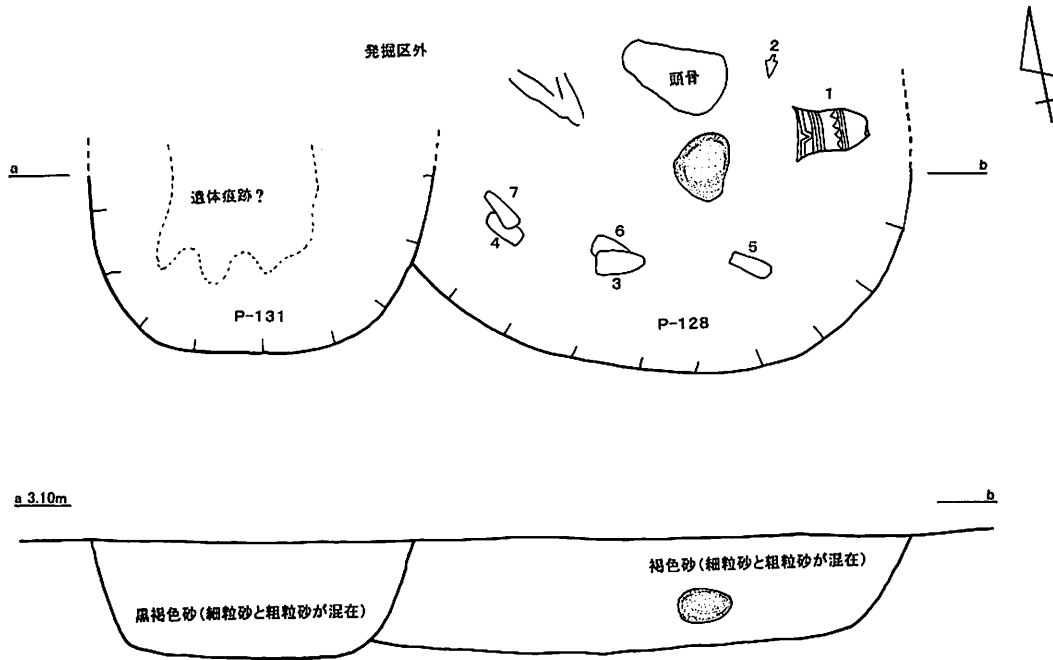


第146図 P-126 平面図と出土遺物 (1)

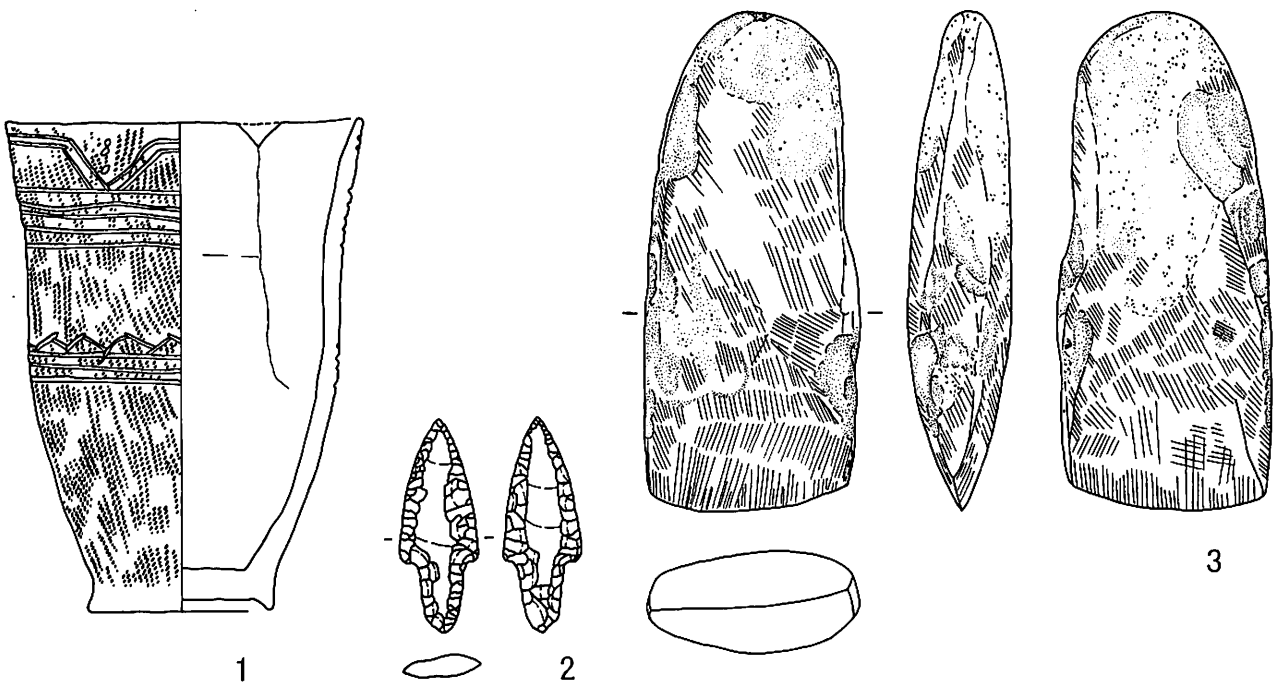


第147图 P-126 出土遺物 (2)

P-128 P-131

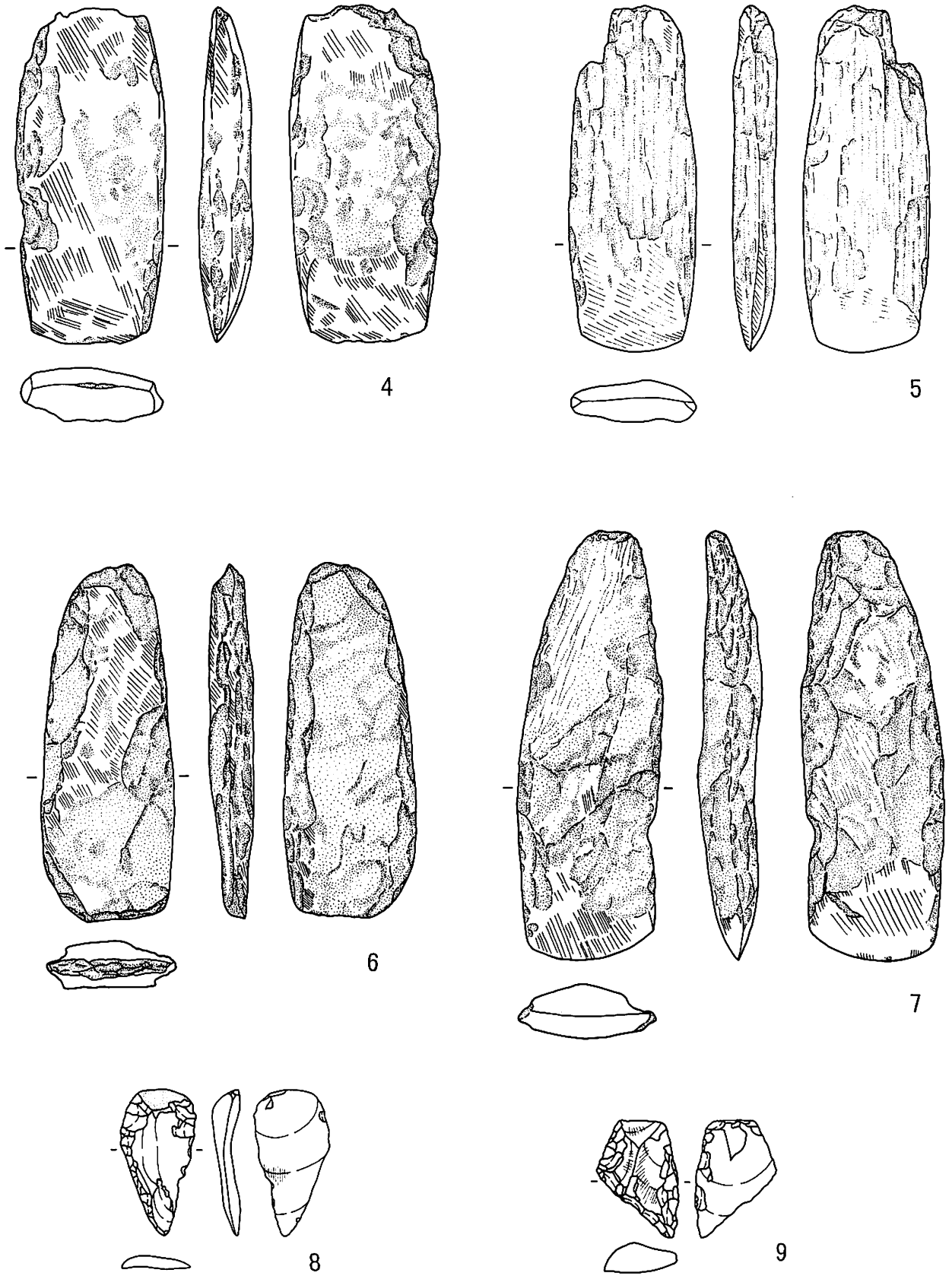


P-128



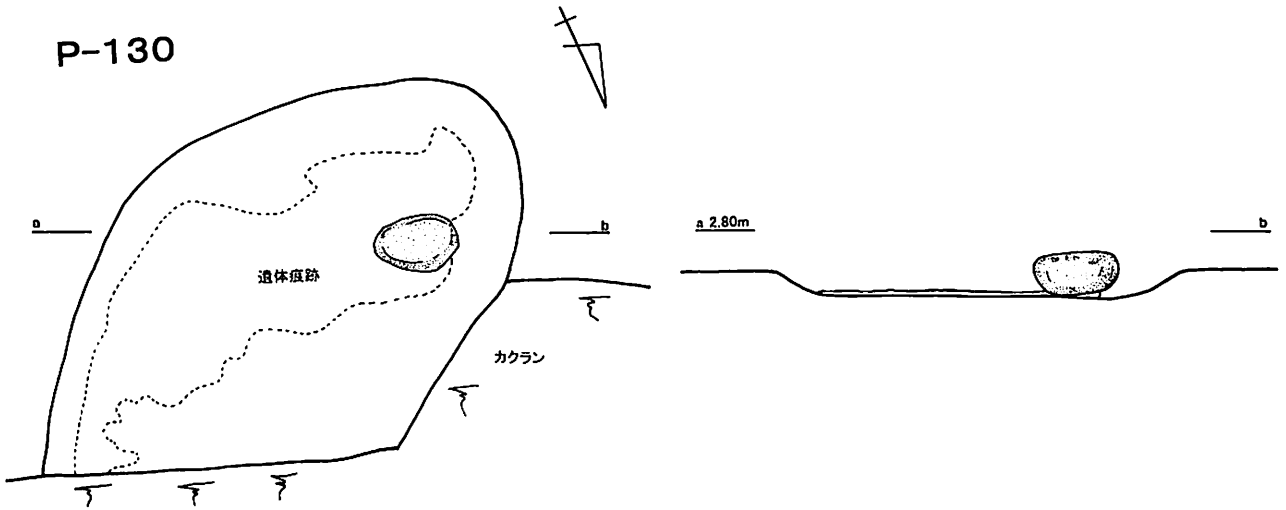
第148図 P-128・P-131平面図とP-128出土遺物(1)

P-128

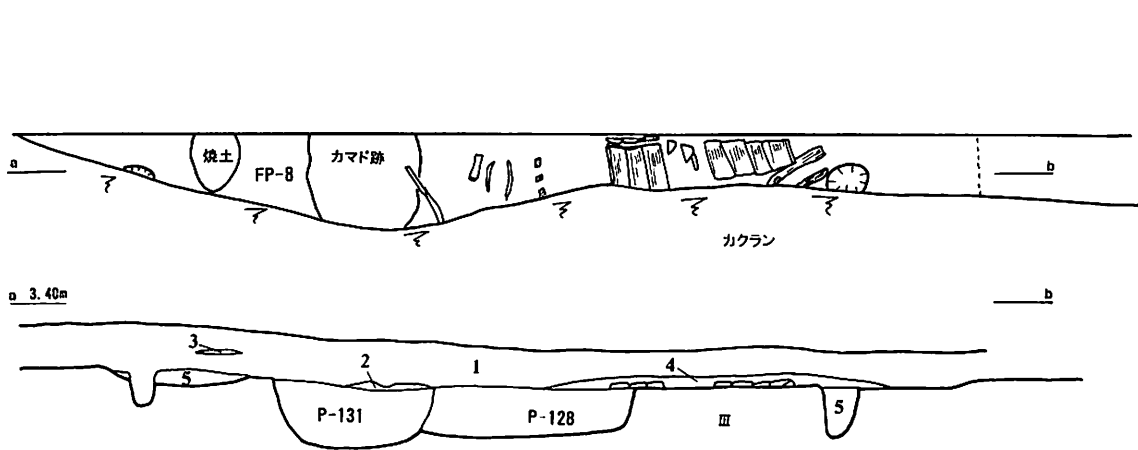


第149图 P-128 出土遺物 (2)

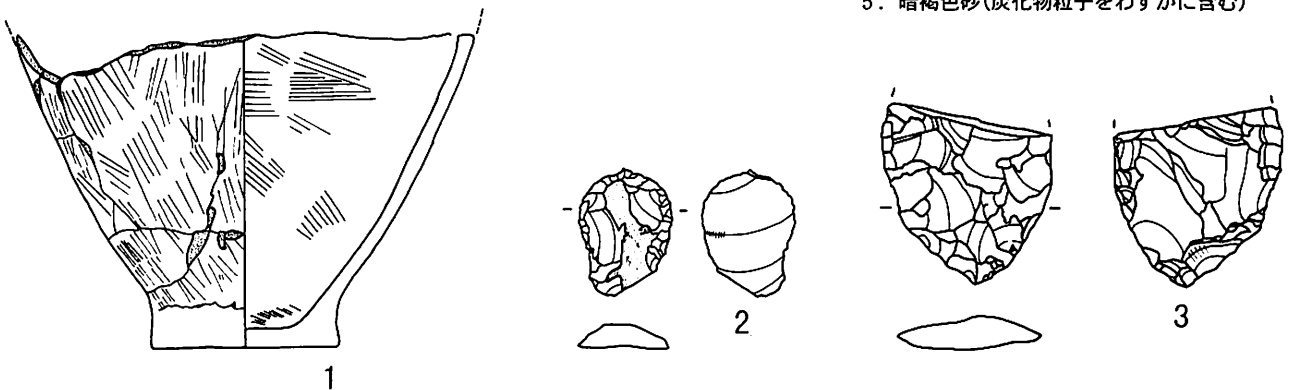
P-130



H-6

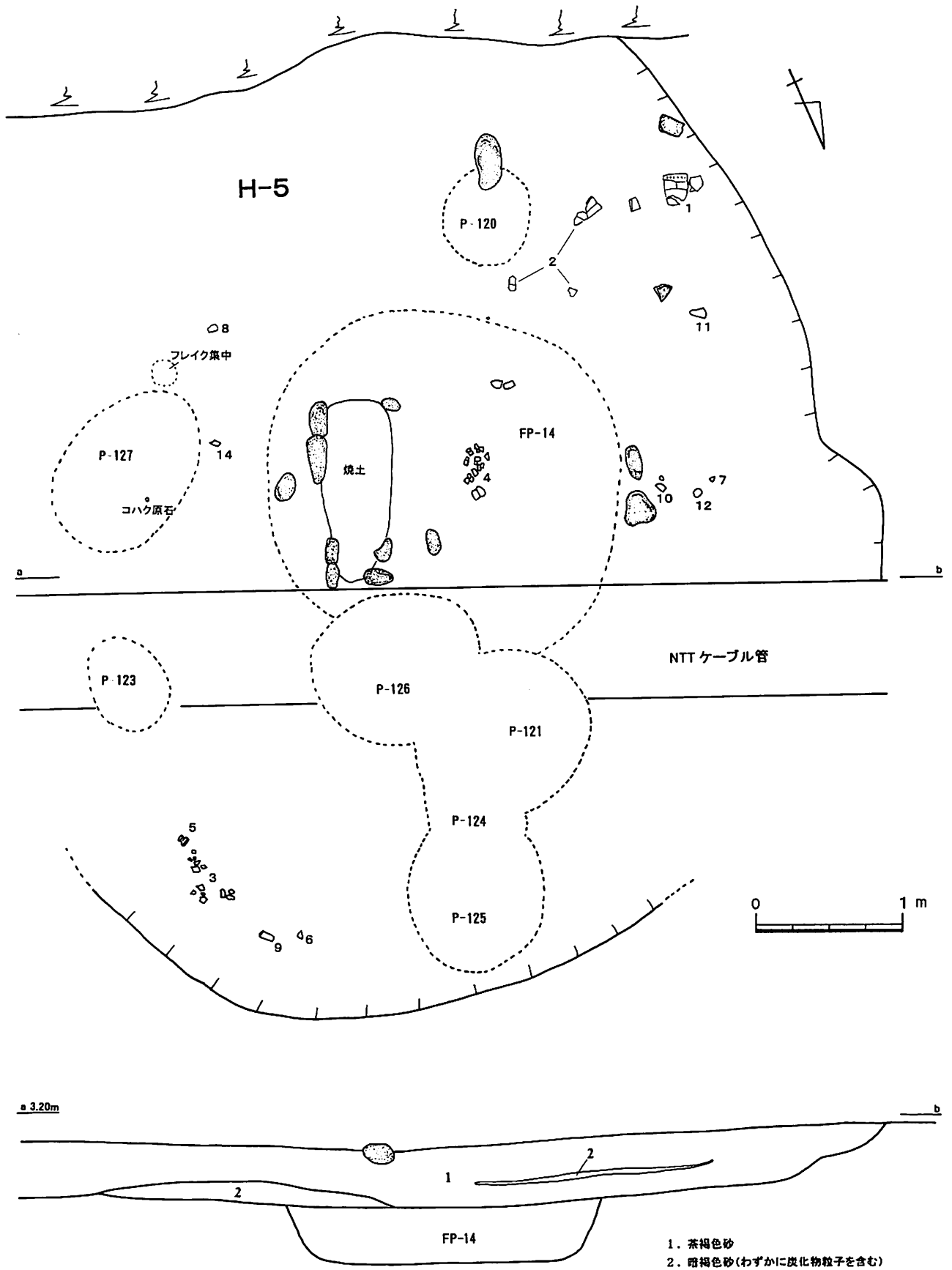


1. 暗褐色砂
2. カマド(黄色土)
3. 焼土
4. 暗褐色砂(炭化物を多く含む)
5. 暗褐色砂(炭化物粒子をわずかに含む)



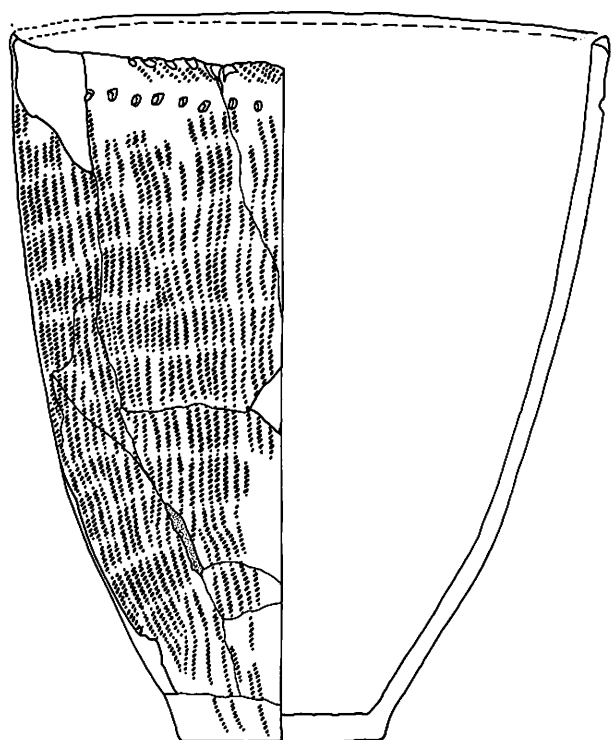
第150図 P-130・H-6 平面図とH-6 出土遺物

H-5

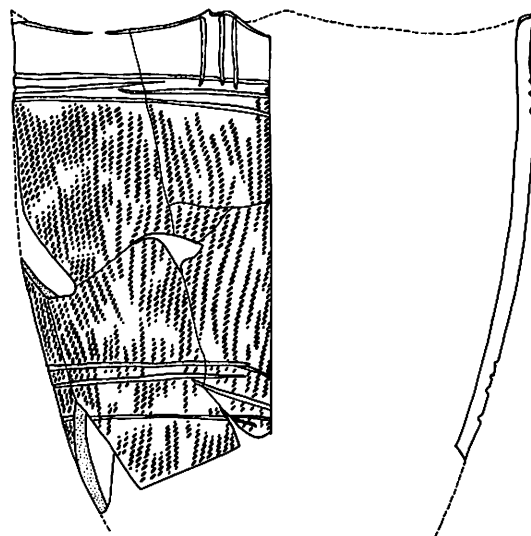


第151図 H-5 平面図

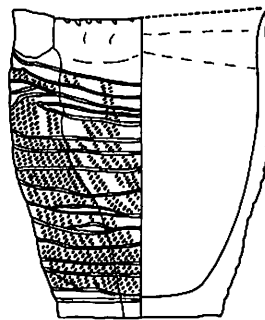
H-5



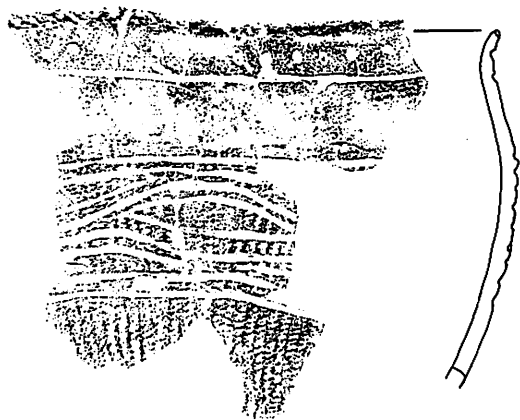
1



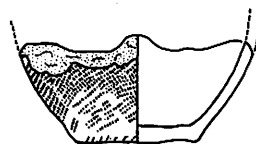
2



4



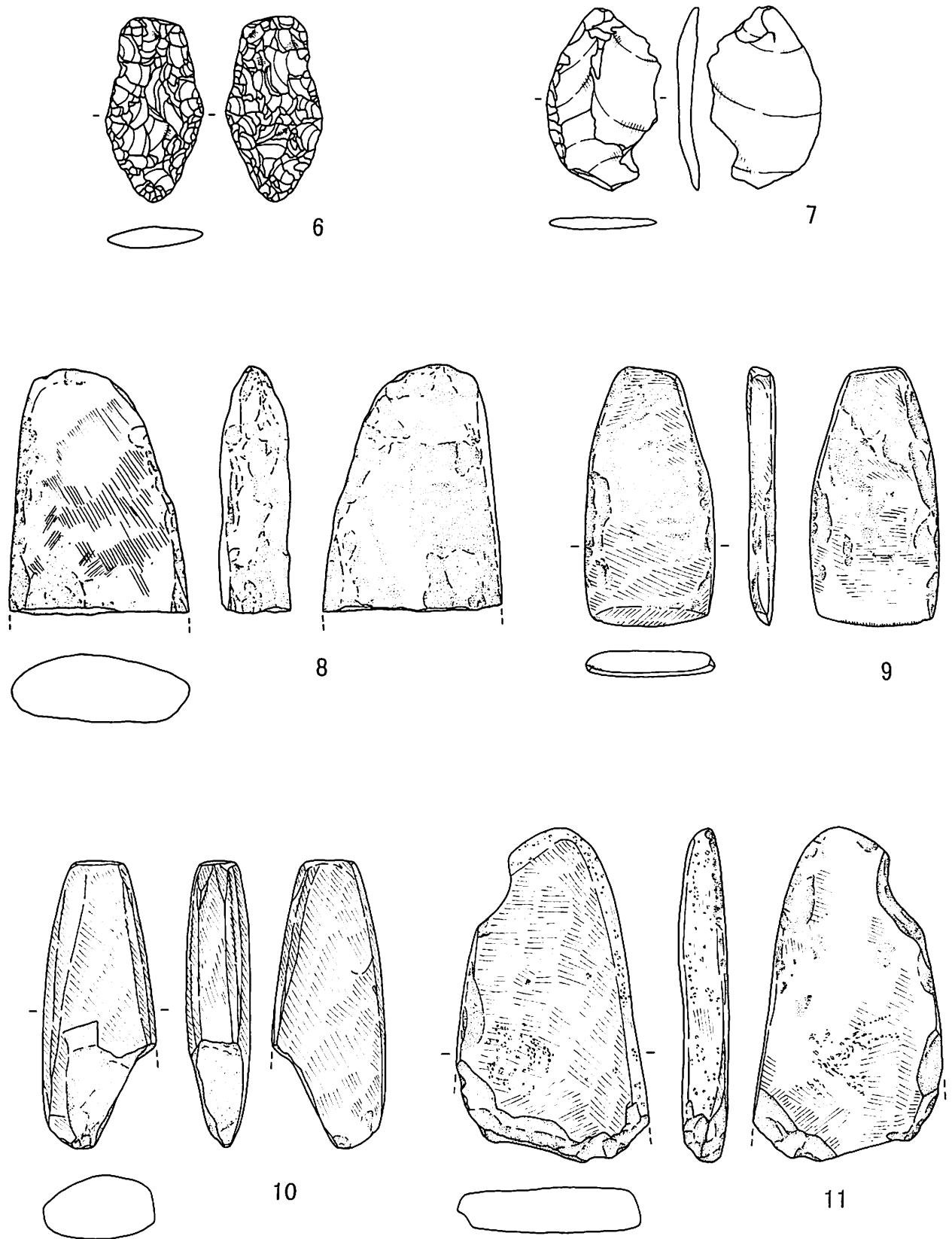
3



5

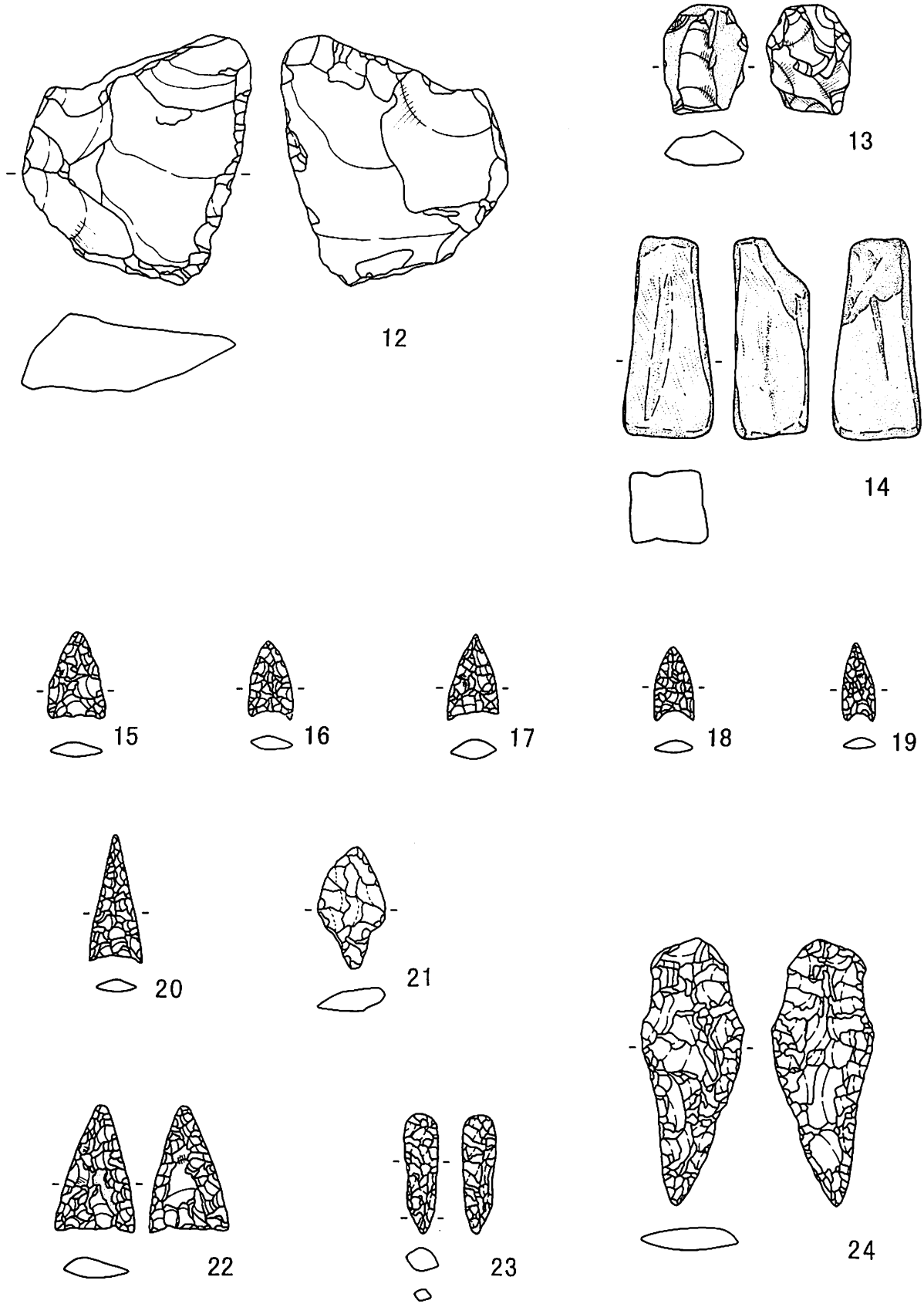
第152图 H-5 出土遺物 (1)

H-5



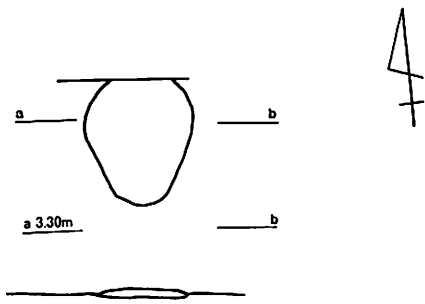
第153图 H-5 出土遺物 (2)

H-5

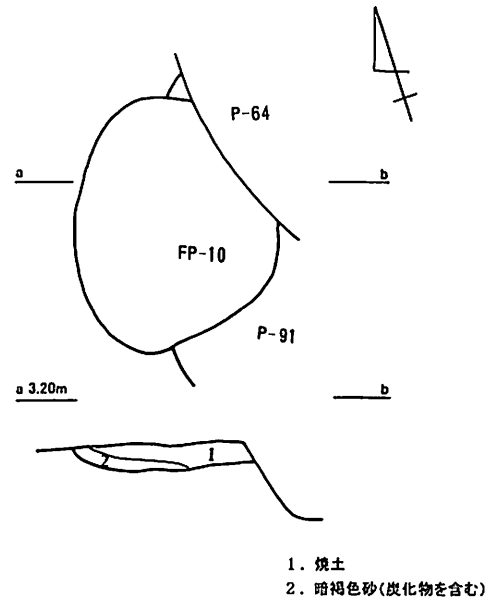


第154图 H-5 出土遺物 (3)

FP-8

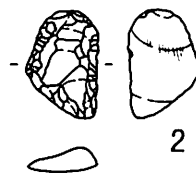
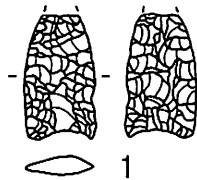
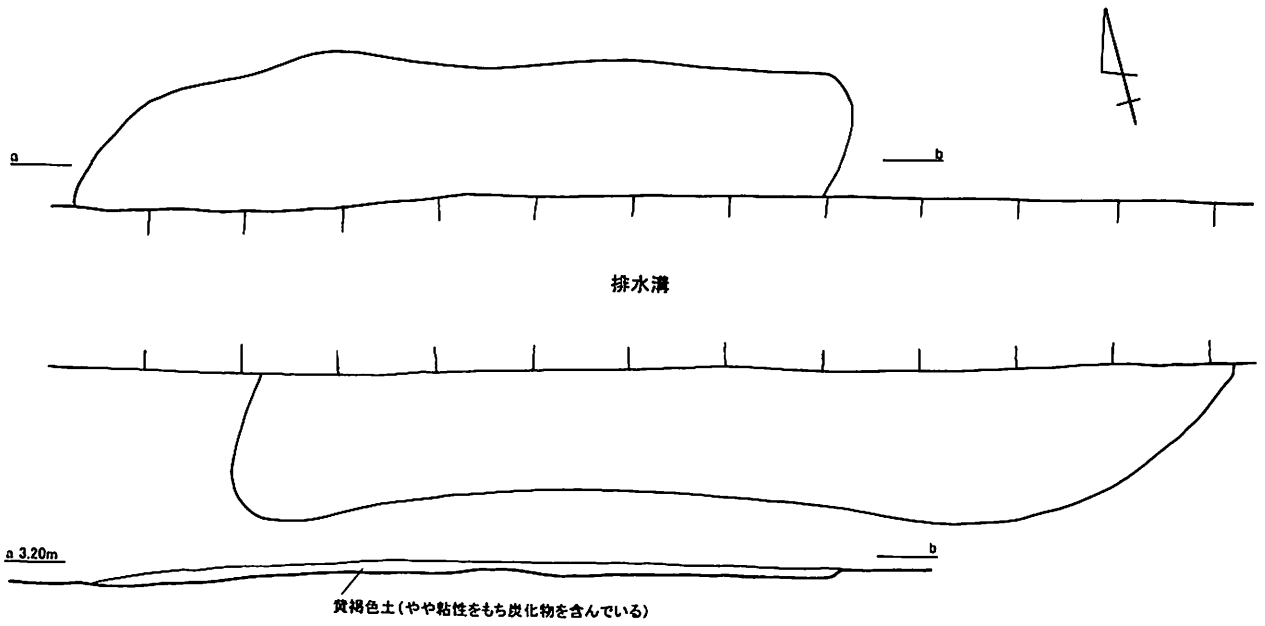


FP-10



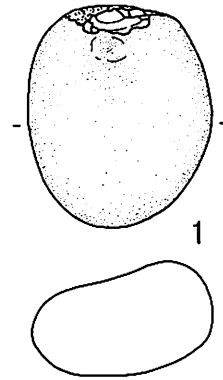
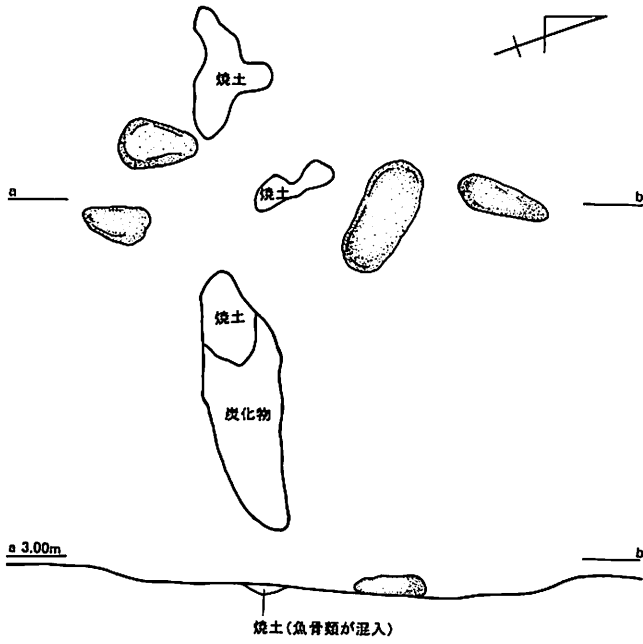
- 1. 焼土
- 2. 暗褐色砂(炭化物を含む)

FP-9

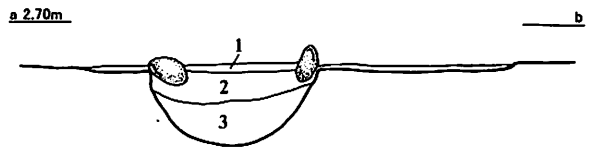
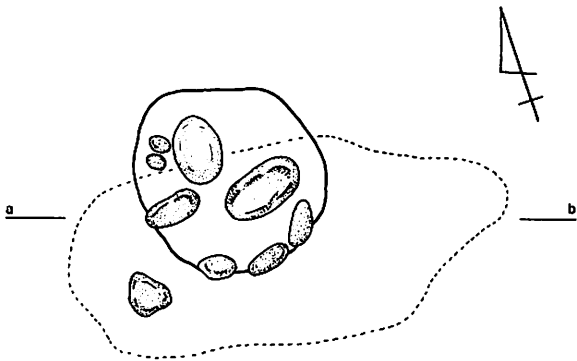


第155図 FP-8・9・10平面図とFP-9出土遺物

FP-11



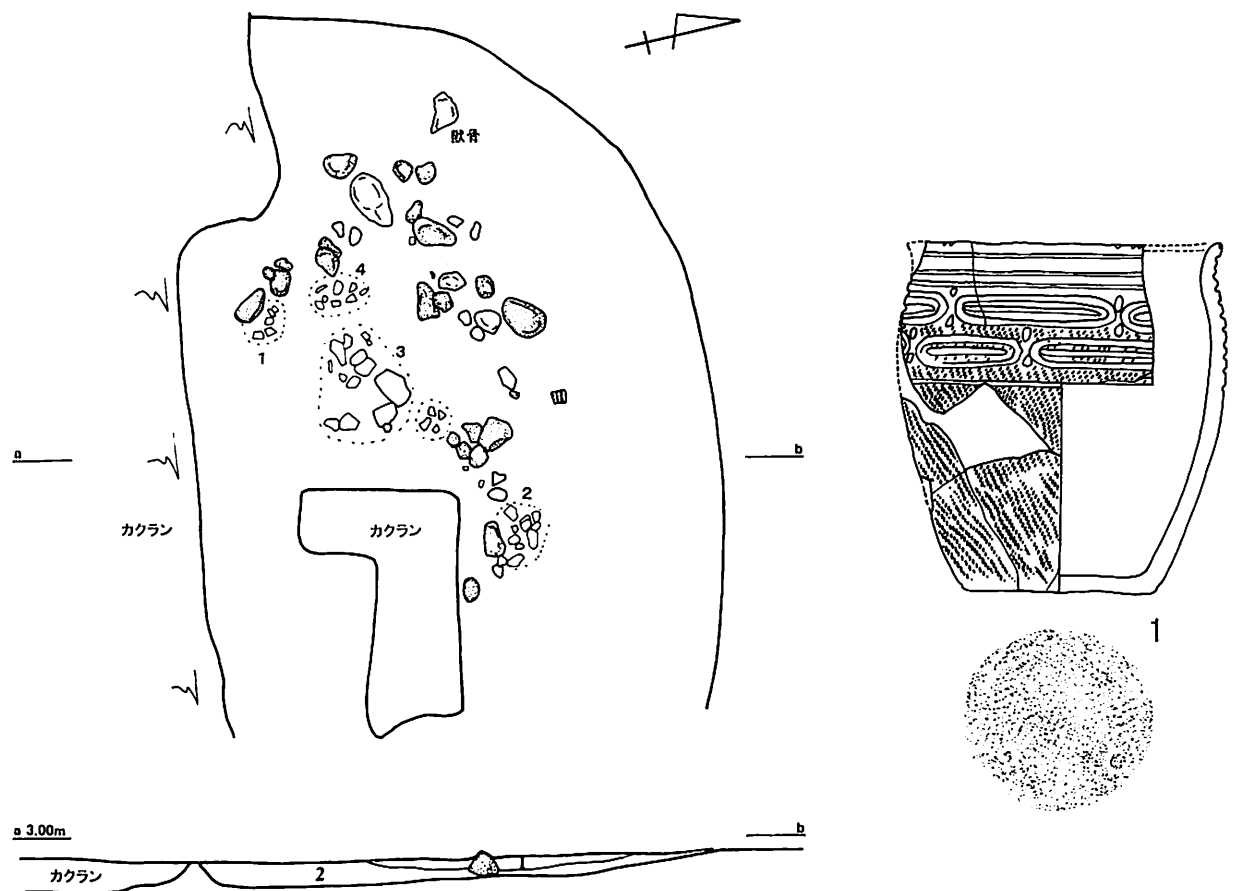
FP-13



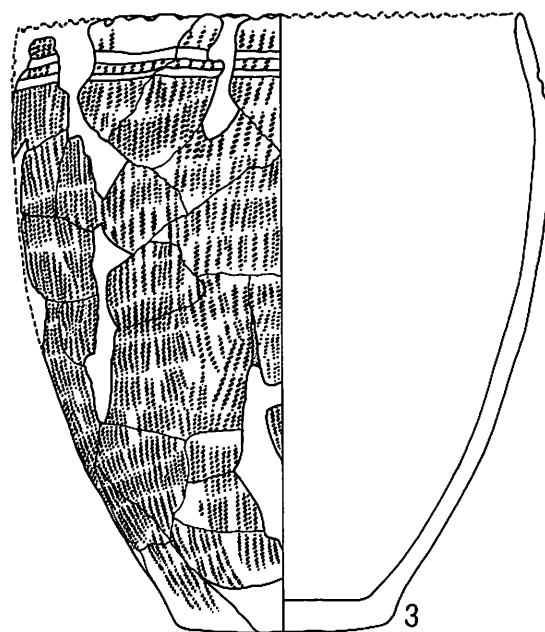
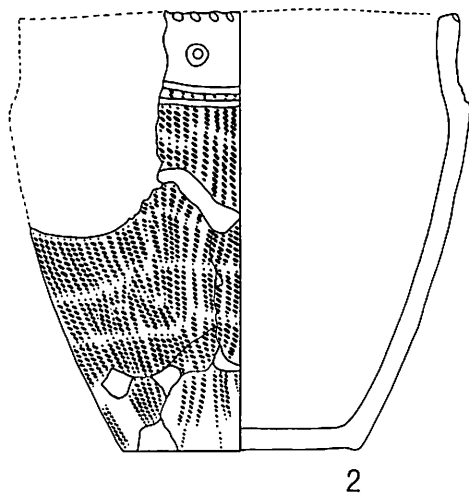
1. 暗赤褐色砂(焼土、木炭粒子を含む)
2. 暗褐色砂(木炭粒子含む)
3. 暗赤褐色砂(焼土、木炭粒子を含み、やや粘性をもつ)

第156図 FP-11・13平面図とFP-11出土遺物

FP-12

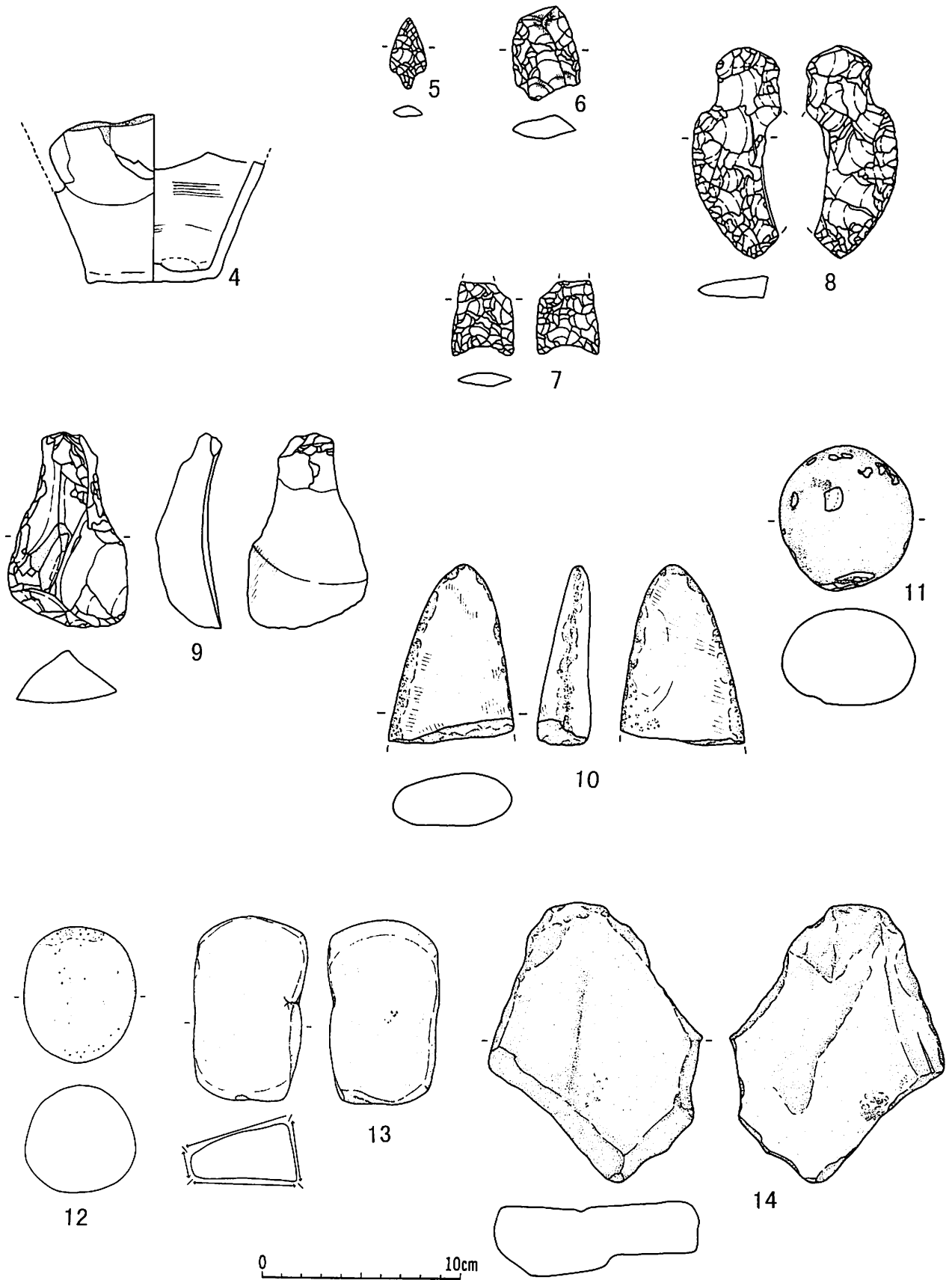


- 1. 赤褐色土(焼土)
- 2. 暗褐色砂(木炭粒子を含む)



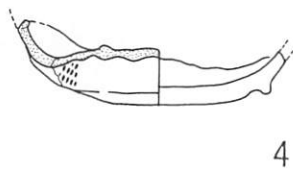
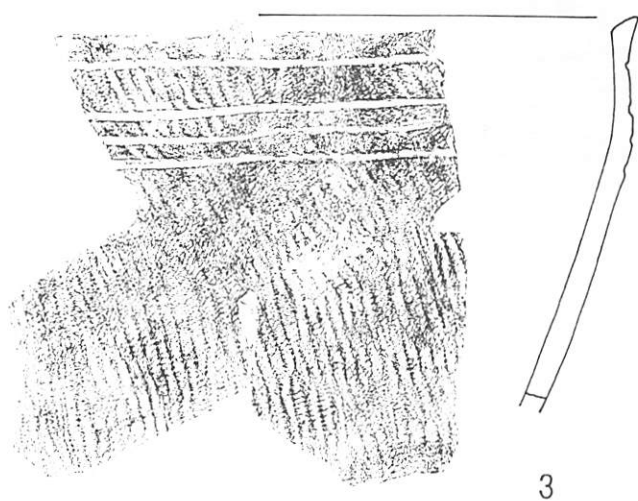
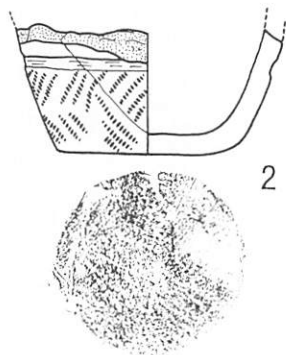
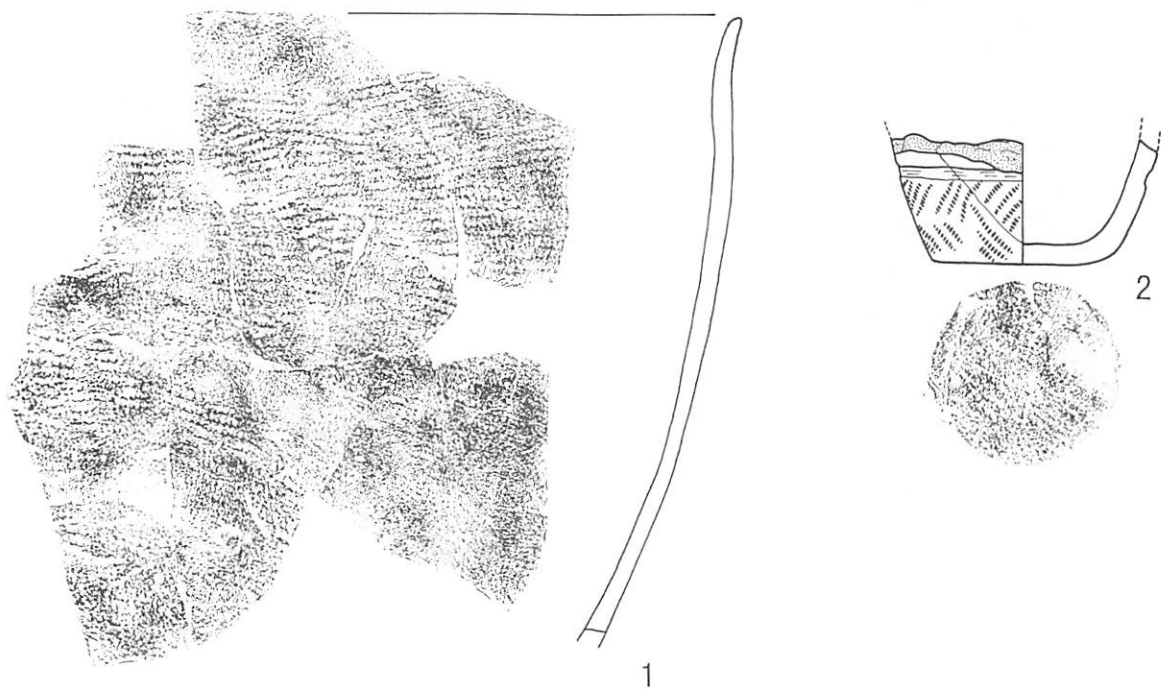
第157図 FP-12平面図と出土遺物 (1)

FP-12



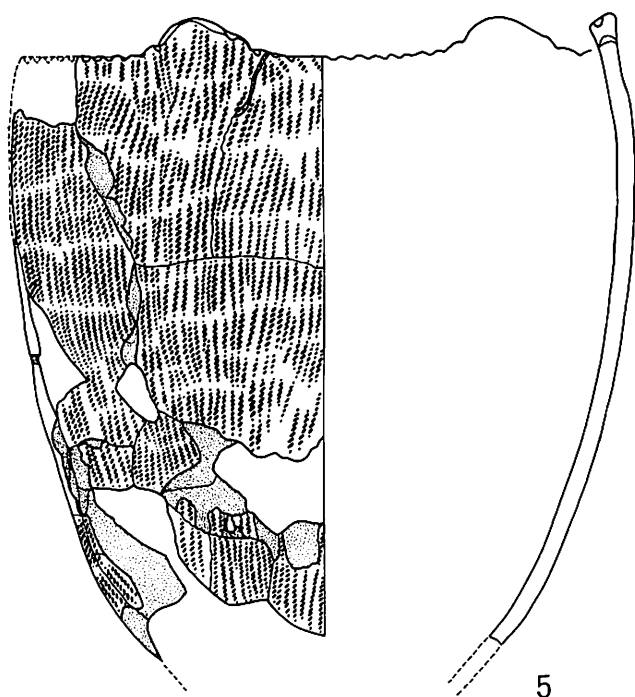
第158图 FP-12出土遺物 (2)

FP-14

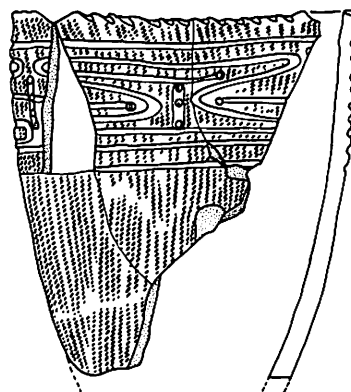


第160图 FP-14 出土遺物 (1)

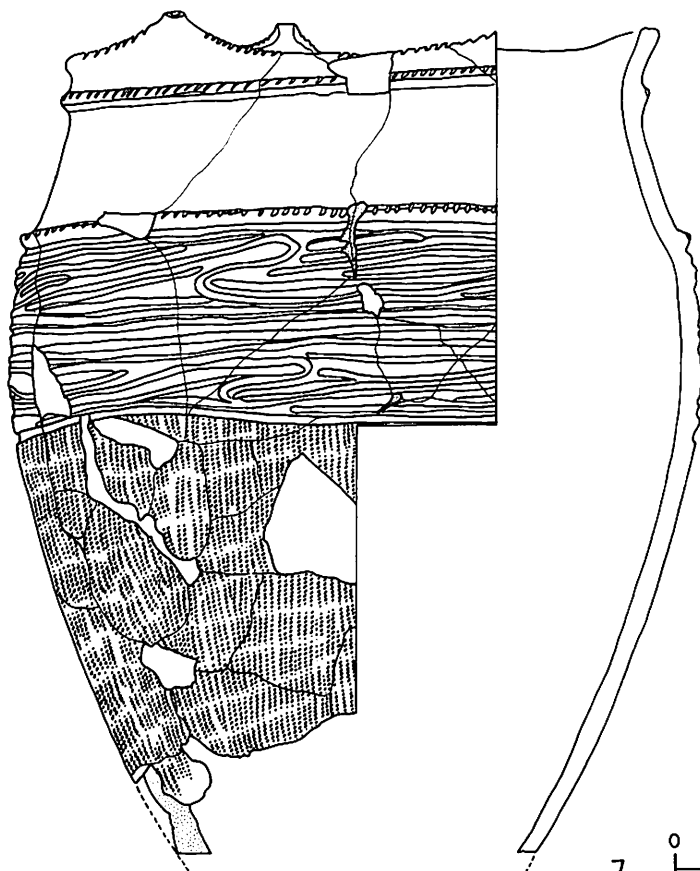
FP-14



5



6

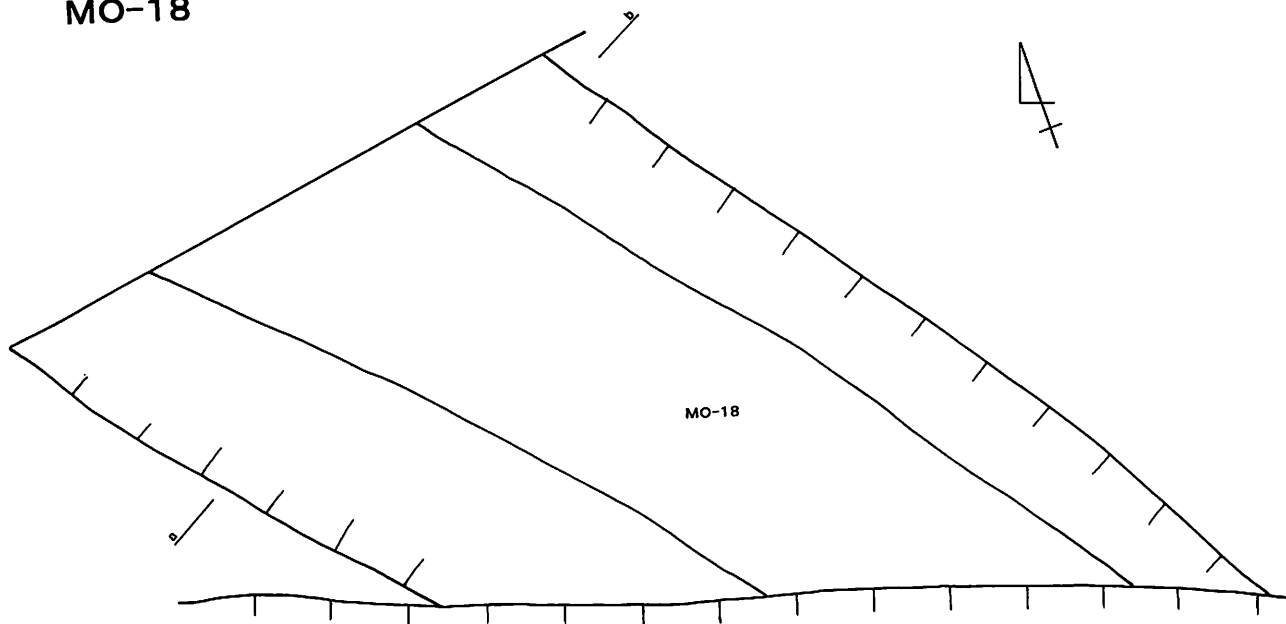


7



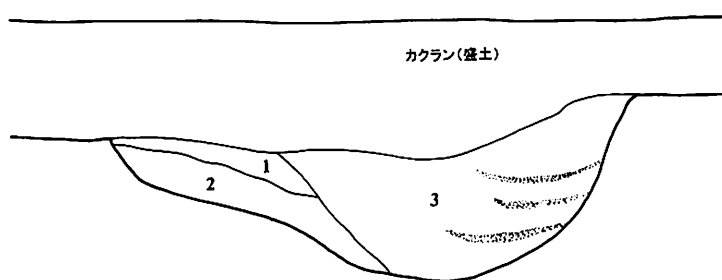
第161図 FP-14 出土遺物 (2)

MO-18



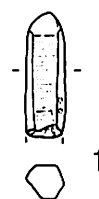
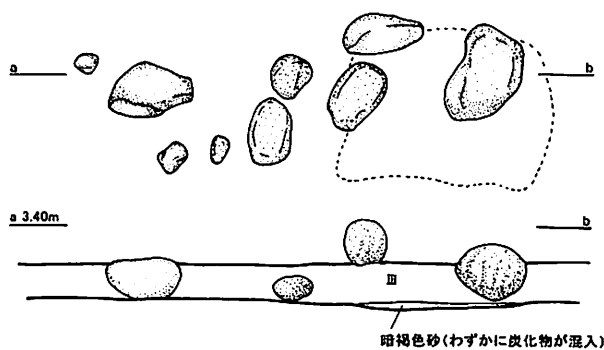
a 3.50m

b



- 1. 暗褐色砂
- 2. 茶褐色砂
- 3. 瓜褐色砂(縞状に茶褐色砂粗粒がレンズ状に堆積)

集石 1



第162図 MO-18・集石 1 平面図と集石 1 出土遺物

3. 遺構外出土の遺物

1) 土 器 (第163 図)

第 I 群 c 類

No. 1 は壺形土器で胴部上半に変形工字文が見られる。No. 2 も壺形土器で底部は欠損している。No. 3 は口縁がやや外反するもので、無文帯部分に竹管工具による刺突文を一周させ胴部上半には変形工字文が施されている。縄文原体は L R で斜行または縦位縄文が地文となっている。

第 II 群 b 類

No. 4・5 は口縁がやや直立するもので、縄文原体は R L で縦位縄文が地文となり底部は上底となっている。

2) 石 器 (第164～165 図)

縄文時代晩期から続縄文時代にかけてのものと思われる。

・石 鏟 (No. 6～13)

無茎と有茎石鏟があり、細身の有茎石鏟は恵山式土器に伴うものと思われる。

・石 錐 (No. 14)

両面加工のもので石質は黒曜石である。

・石製ナイフ (No. 15～19・21)

縄文時代晩期末から続縄文時代にかけて定型化され、片面・両面加工のものがある。

No. 21 については石製ナイフを再加工している尖頭器と思われ、えぐりを入れている。

・スクレイパー (No. 20・22)

刃部が厚く、くびれを持つもので自然面を一部残している。

・磨製石斧 (No. 23～25)

本遺跡出土のものは泥岩やスレート質のものが多く、自然礫を敲打して形を整えている。いずれも小形のものである。

・魚形石器 (No. 27)

続縄文時代の恵山文化に伴うもので、頭部のみで尾部が欠損している。

・敲 石 (No. 29・31)

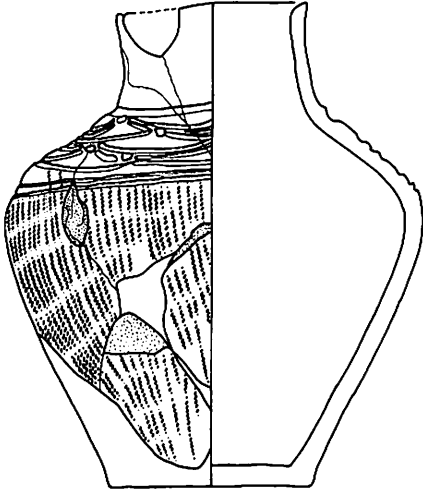
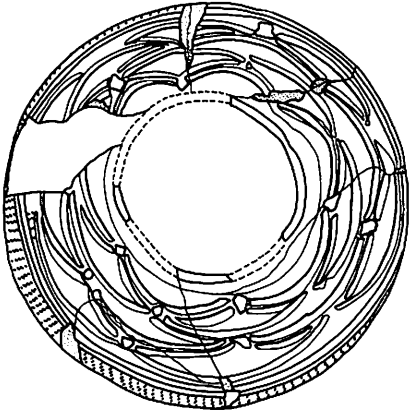
自然礫の平坦部分に叩き痕がみられるものである。

・砥 石 (No. 28・30)

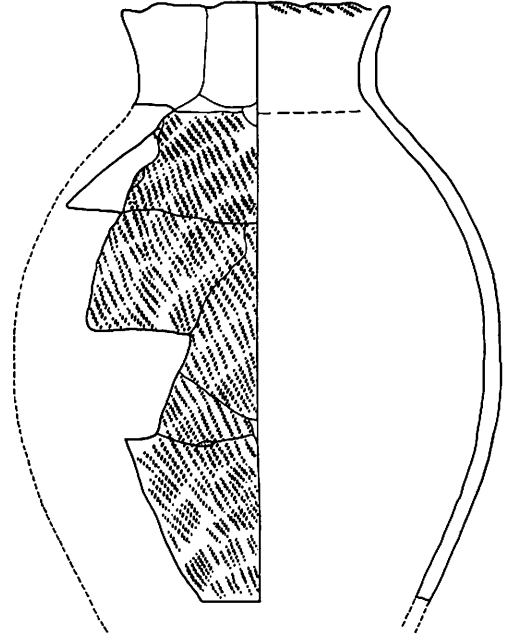
多面的に磨かれているものである。No. 30 は軽石を使用しており大きく窪んでいる

・垂飾具 (No. 26)

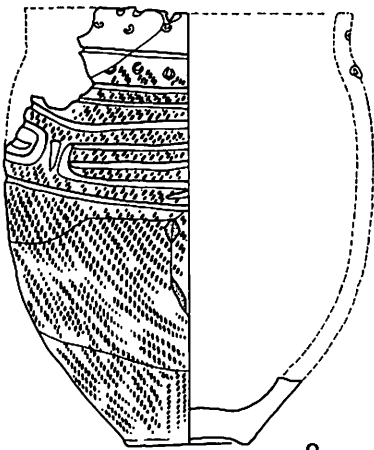
扁平な自然礫を磨き、上部に穿孔しているものである。副葬品の可能性がある。



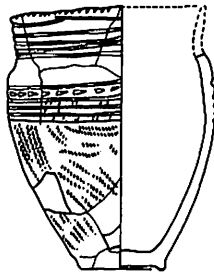
1



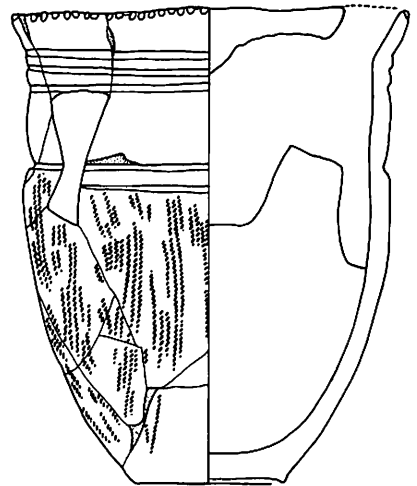
2



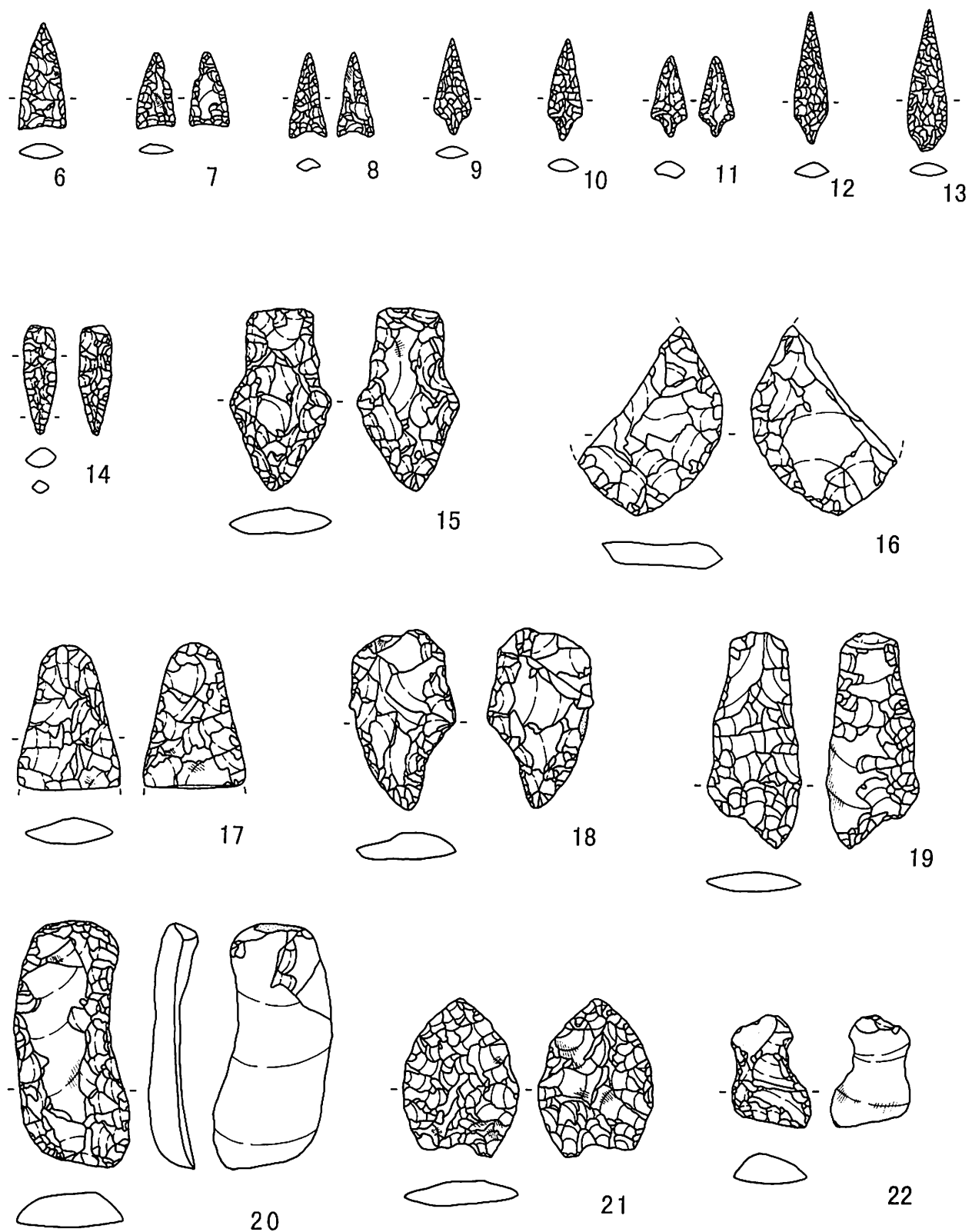
3



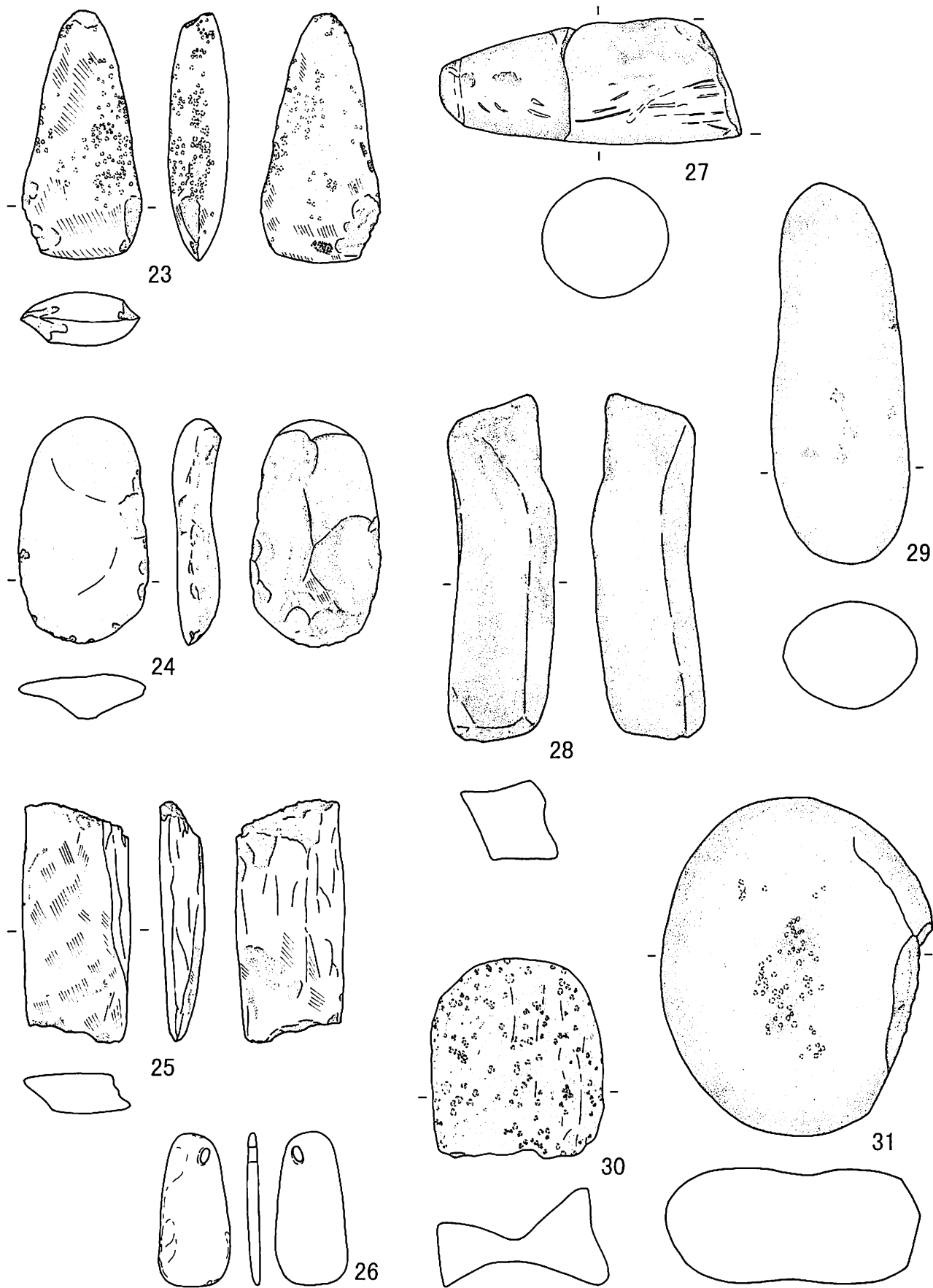
4



5



第164図 遺構外出土の石器 (1)



第165図 遺構外出土の石器 (2)

遺物一覧表 (道道地点)

図版No-遺物No	出土遺構	層位	計測値 (cm) (g)	名称・分類	備考
94-1	P-62 ⑯	壙底	長さ3.05 幅1.10 厚さ0.35 重さ0.7	石鏃	黒曜石
94-2	P-62 ⑰	壙底	長さ2.6 幅1.1 厚さ0.35 重さ0.5	石鏃	黒曜石
94-3	P-62 ⑱	壙底	長さ3.1 幅1.2 厚さ0.45 重さ1.1	石鏃	黒曜石
94-4	P-62 ㉔	壙底	長さ3.0 幅1.0 厚さ0.3 重さ0.5	石鏃	黒曜石
94-5	P-62 ㉕	壙底	長さ2.5 幅1.05 厚さ0.35 重さ0.5	石鏃	黒曜石
94-6	P-62 ㉖	壙底	長さ2.5 幅1.2 厚さ0.25 重さ0.5	石鏃	黒曜石
94-7	P-62 ㉗	壙底	長さ2.0 幅1.3 厚さ0.4 重さ0.6	石鏃	黒曜石
94-8	P-62 ㉘	壙底	長さ2.2 幅1.1 厚さ0.35 重さ0.6	石鏃	黒曜石
94-9	P-62 ㉙	壙底	長さ1.85 幅1.0 厚さ0.35 重さ0.4	石鏃	黒曜石
94-10	P-62 ⑥	壙底	長さ1.9 幅0.95 厚さ0.25 重さ0.4	石鏃	黒曜石
94-11	P-62 ㉚	壙底	長さ2.2 幅1.15 厚さ0.3 重さ0.4	石鏃	黒曜石
94-12	P-62 ⑪	壙底	長さ2.2 幅1.1 厚さ0.3 重さ0.5	石鏃	黒曜石
94-13	P-62 ⑫	壙底	長さ1.75 幅1.1 厚さ0.25 重さ0.4	石鏃	黒曜石
94-14	P-62 ⑱	壙底	長さ2.1 幅1.2 厚さ0.4 重さ0.5	石鏃	黒曜石
94-15	P-62 ㉒	壙底	長さ2.4 幅1.3 厚さ0.4 重さ0.8	石鏃	黒曜石
94-16	P-62 ㉓	壙底	長さ2.4 幅1.2 厚さ0.25 重さ0.5	石鏃	黒曜石
94-17	P-62 ㉜	壙底	長さ2.0 幅0.35 厚さ1.15 重さ0.5	石鏃	黒曜石
94-18	P-62 ㉝	壙底	長さ1.95 幅1.15 厚さ0.3 重さ0.4	石鏃	黒曜石
94-19	P-62 ⑬	壙底	長さ2.4 幅1.2 厚さ0.3 重さ0.6	石鏃	黒曜石
94-20	P-62 ㉞	壙底	長さ2.1 幅1.2 厚さ0.4 重さ0.6	石鏃	黒曜石
94-21	P-62 ⑧	壙底	長さ2.4 幅0.9 厚さ0.3 重さ0.5	石鏃	黒曜石
94-22	P-62 ⑩	壙底	長さ2.0 幅1.0 厚さ0.35 重さ0.4	石鏃	黒曜石
94-23	P-62 ⑰	壙底	長さ2.8 幅1.0 厚さ0.4 重さ0.7	石鏃	黒曜石
94-24	P-62 ⑮	壙底	長さ2.9 幅1.2 厚さ0.4 重さ0.7	石鏃	黒曜石
94-25	P-62 ⑲	壙底	長さ3.2 幅0.75 厚さ0.3 重さ0.6	石鏃	黒曜石
95-26	P-62 ㉛	壙底	長さ5.5 幅2.1 厚さ0.7 重さ5.4	石槍	黒曜石
95-27	P-62 ③	壙底	長さ5.2 幅1.0 厚さ0.8 重さ3.4	ドリル	頁岩
95-28	P-62 ②	壙底	長さ4.6 幅1.8 厚さ0.4 重さ4.2	R・F	石英
95-29	P-62 ④	壙底	長さ4.0 幅4.4 厚さ0.85 重さ14.2	フレイク	黒曜石
95-30	P-62 ①	壙底	長さ14.8 幅5.8 厚さ3.4 重さ505	石斧	泥岩
95-31	P-62 ⑤	壙底	長さ6.2 幅3.1 厚さ3.1 重さ95.5	原石	黒曜石
95-32	P-62 ㉟	壙底	長さ7.0 幅4.0 厚さ4.8 重さ200	原石	頁岩
96-1	P-63 ①	壙底	口径16.2 底径6.2 器高18.1	深鉢	
96-2	P-63 ⑧	壙底	長さ3.0 幅1.55 厚さ0.25 重さ1.0	石鏃	粘板岩
96-3	P-63 ⑦	壙底	長さ3.05 幅1.9 厚さ0.25 重さ1.2	石鏃	粘板岩
96-4	P-63 ㉟	壙底	長さ2.7 幅1.7 厚さ0.2 重さ0.6	石鏃	粘板岩
96-5	P-63 ⑪	壙底	長さ2.7 幅1.6 厚さ0.3 重さ1.0	石鏃	粘板岩
96-6	P-63 ㉑	壙底	長さ2.15 幅1.6 厚さ0.2 重さ0.6	石鏃	粘板岩
96-7	P-63 ㉒	壙底	長さ(2.2) 幅1.8 厚さ0.2 重さ(1.0)	石鏃	粘板岩
96-8	P-63 ⑤	壙底	長さ2.8 幅2.1 厚さ0.35 重さ1.1	石鏃	黒曜石
96-9	P-63 ㉓	壙底	長さ2.7 幅1.8 厚さ0.3 重さ0.6	石鏃	黒曜石
96-10	P-63 ㉔	壙底	長さ2.7 幅1.9 厚さ0.35 重さ0.9	石鏃	黒曜石
96-11	P-63 ㉕	壙底	長さ2.6 幅1.9 厚さ0.3 重さ0.9	石鏃	黒曜石
96-12	P-63 ㉖	壙底	長さ2.8 幅1.8 厚さ0.35 重さ0.9	石鏃	黒曜石
96-13	P-63 ㉗	壙底	長さ2.6 幅1.7 厚さ0.3 重さ0.9	石鏃	黒曜石

図版No.遺物No	出土遺構	層位	計測値 (cm) (g)	名称・分類	備考
96-14	P-63 ㉔	壙底	長さ 2.55 幅 2.0 厚さ 0.35 重さ 1.0	石鏃	黒曜石
96-15	P-63 ㉕	壙底	長さ 2.5 幅 1.8 厚さ 0.3 重さ 0.8	石鏃	黒曜石
96-16	P-63 ㉖	壙底	長さ 2.3 幅 1.6 厚さ 0.35 重さ 0.5	石鏃	黒曜石
96-17	P-63 ㉗	壙底	長さ 2.4 幅 1.7 厚さ 0.35 重さ 0.8	石鏃	黒曜石
96-18	P-63 ㉘	壙底	長さ 2.35 幅 1.8 厚さ 0.3 重さ 0.7	石鏃	黒曜石
96-19	P-63 ㉙	壙底	長さ 2.2 幅 1.65 厚さ 0.25 重さ 0.6	石鏃	黒曜石
96-20	P-63 ㉚	壙底	長さ 2.1 幅 1.5 厚さ 0.3 重さ 0.6	石鏃	黒曜石
96-21	P-63 ㉛	壙底	長さ 2.3 幅 1.8 厚さ 0.3 重さ 0.7	石鏃	黒曜石
96-22	P-63 ㉜	壙底	長さ 2.2 幅 1.6 厚さ 0.3 重さ 0.7	石鏃	黒曜石
96-23	P-63 ㉝	壙底	長さ 2.2 幅 1.6 厚さ 0.3 重さ 0.6	石鏃	黒曜石
97-24	P-63 ㉞	壙底	長さ (2.25) 幅 1.8 厚さ 0.3 重さ (0.8)	石鏃	黒曜石
97-25	P-63 ㉟	壙底	長さ 2.2 幅 1.8 厚さ 0.3 重さ 0.6	石鏃	黒曜石
97-26	P-63 ㊱	壙底	長さ 2.05 幅 1.6 厚さ 0.25 重さ 0.5	石鏃	黒曜石
97-27	P-63 ㊲	壙底	長さ 1.8 幅 1.6 厚さ 0.3 重さ 0.6	石鏃	黒曜石
97-28	P-63 ㊳	壙底	長さ 1.9 幅 0.25 厚さ 1.5 重さ 0.5	石鏃	黒曜石
97-29	P-63 ㊴	壙底	長さ 1.85 幅 1.5 厚さ 0.3 重さ 0.5	石鏃	黒曜石
97-30	P-63 ㊵	壙底	長さ 1.9 幅 0.3 厚さ 1.5 重さ 0.5	石鏃	黒曜石
97-31	P-63 ㊶	壙底	長さ 1.9 幅 0.3 厚さ 1.7 重さ 0.5	石鏃	黒曜石
97-32	P-63 ㊷	壙底	長さ 1.7 幅 0.3 厚さ 1.5 重さ 0.5	石鏃	黒曜石
97-33	P-63 ㊸	壙底	長さ 1.9 幅 0.3 厚さ 1.6 重さ 0.6	石鏃	黒曜石
97-34	P-63 ㊹	壙底	長さ 7.8 幅 4.1 厚さ 0.9 重さ 28.4	ナイフ	頁岩
97-35	P-63 ㊺	壙底	長さ 9.9 幅 4.6 厚さ 1.3 重さ 109	石斧	泥岩
97-36	P-63 ㊻	壙底	長さ 13.5 幅 6.0 厚さ 3.1 重さ 474	石斧	泥岩
99-1	P-64 ㊼	壙底		拓本土器	胴部
99-2	P-64 ㊽	壙底		拓本土器	胴部
99-3	P-64 ㊾	壙底	長さ 3.5 幅 1.05 厚さ 0.5 重さ 1.1	石鏃	黒曜石
99-4	P-64 ㊿	壙底	長さ 2.8 幅 2.8 厚さ 0.65 重さ 3.4	フレイク	頁岩
99-5	P-64 ㊽	壙底	長さ 8.5 幅 4.3 厚さ 1.3 重さ 37.6	ナイフ	黒曜石
99-1	P-80 ㊾	壙底	口径 4.8 底径 2.0 器高 3.0	ミニチュア土器	
99-2	P-80 ㊿	壙底	長さ 4.0 幅 1.9 厚さ 0.35 重さ 1.9	石鏃	黒曜石
99-3	P-80 ㊽	壙底	長さ (2.8) 幅 1.7 厚さ 0.5 重さ (2.0)	石鏃	黒曜石
99-4	P-80 ㊾	壙底	長さ (3.1) 幅 1.7 厚さ 0.45 重さ (1.9)	石鏃	黒曜石
99-5	P-80	覆土	長さ 6.3 幅 2.6 厚さ 1.1 重さ 14.6	スクレイパー	黒曜石
99-6	P-80	覆土	長さ 4.55 幅 2.1 厚さ 0.8 重さ 6.2	フレイク	頁岩
100-1	P-83 ㊿	壙底	口径 14.4 胴径 14.5 底径 6.2 器高 16.2	深鉢	
101-1	P-65 ㊽	壙底		拓本土器	胴部
101-2	P-65 ㊾	壙底	長さ 3.3 幅 2.7 厚さ 0.5 重さ 4.4	フレイク	黒曜石
101-3	P-65 ㊿	壙底	長さ 2.6 幅 2.1 厚さ 0.4 重さ 2.0	フレイク	黒曜石
101-4	P-65 ㊽	壙底	長さ 3.5 幅 2.4 厚さ 0.7 重さ 3.6	フレイク	チャート
101-5	P-65	覆土	長さ 3.15 幅 4.2 厚さ 0.7 重さ 11.8	フレイク	チャート
101-6	P-65	覆土	長さ 3.5 幅 1.3 厚さ 0.55 重さ 3.3	フレイク	石英
101-1	P-71	覆土		拓本土器	口縁部
101-2	P-71	覆土		拓本土器	口縁部
101-3	P-71	覆土		拓本土器	口縁部
103-1	P-66 ㊽	壙底	口径 8.0 胴径 8.2 底径 4.6 器高 10.0	深鉢	

図版No-遺物No	出土遺構	層位	計測値 (cm) (g)	名称・分類	備考
103-2	P-66	覆土	底径 5.8 器高 (2.5)	土器底部	
103-3	P-66	覆土		拓本土器	胴部
103-4	P-66 ②	壙底	長さ (2.5) 幅 1.9 厚さ 0.5 重さ (1.8)	石鏃	黒曜石
103-1	P-88 ④	壙底	口径 (10.4) 胴径 22.0 底径 7.0 器高 29.4	壺	
103-2	P-88 ③	壙底	口径 20.4×16.6 底径 7.0 器高 22.5	深鉢	
104-3	P-88 ③	壙底	口径 9.4 胴径 7.4 底径 4.4 器高 14.9	深鉢	
104-4	P-88 ⑤	壙底	口径 13.6 底径 4.7 器高 16.2	深鉢	
104-5	P-88 ①	壙底		拓本土器	
104-6	P-88 ⑤	壙底	径 0.9 厚さ 0.3 重さ 0.2	コハク平玉	
104-7	P-88 ⑤	壙底	径 0.95 厚さ 0.3 重さ 0.2	コハク平玉	
104-8	P-88 ⑩	壙底	径 1.0 厚さ 0.3 重さ 0.2	コハク平玉	
104-9	P-88 ⑩	壙底	径 1.0 厚さ 0.3 重さ 0.3	コハク平玉	
104-10	P-88	覆土	径 0.9 厚さ 0.3 重さ 0.2	コハク平玉	遺体土中
104-11	P-88	覆土	径 0.95 厚さ 0.2 重さ 0.2	コハク平玉	遺体土中
104-12	P-88	覆土	径 0.95 厚さ 0.3 重さ 0.2	コハク平玉	遺体土中
104-13	P-88	覆土	径 1.0 厚さ 0.3 重さ 0.2	コハク平玉	土器土中
104-14	P-88	覆土	径 1.0 厚さ 0.3 重さ 0.3	コハク平玉	土器土中
104-15	P-88 ②	壙底	長さ 5.5 幅 3.0 厚さ 0.9 重さ 12.6	石槍	チャート
104-16	P-88 ⑥	壙底	長さ 7.4 幅 3.15 厚さ 0.95 重さ 19.6	ナイフ	頁岩
104-17	P-88 ④	壙底	長さ 1.95 幅 1.1 厚さ 0.2 重さ 0.4	フレイク	黒曜石
104-18	P-88 ⑦	壙底	長さ 6.8 幅 5.3 厚さ 1.2 重さ 57.5	フレイク	黒曜石
104-19	P-88 ⑧	壙底	長さ 11.5 幅 3.85 厚さ 0.75 重さ 63.5	石斧	泥岩
105-1	P-67	壙底	口径 11.6 胴径 13.0 底径 5.2 器高 17.2	深鉢	接合
107-1	P-70	覆土		拓本土器	胴部
107-2	P-70 ③	壙底	長さ 2.7 幅 1.5 厚さ 0.7 重さ 2.5	ドリル	チャート
107-3	P-70 ①	壙底	長さ 3.5 幅 2.8 厚さ 0.65 重さ 4.4	フレイク	黒曜石
107-4	P-70	覆土	長さ 3.2 幅 2.6 厚さ 0.65 重さ 4.0	フレイク	黒曜石
107-5	P-70	覆土	長さ 4.0 幅 3.2 厚さ 0.4 重さ 4.2	スクレイパー	頁岩
107-1	P-75	覆土		拓本土器	胴部
107-2	P-75	覆土	長さ 7.9 幅 4.5 厚さ 2.1 重さ 9.9	石斧	泥岩
107-3	P-75 ②	壙底	長さ 10.55 幅 5.1 厚さ 1.8 重さ 184	石斧	ハンレイ岩
108-1	P-93 ①	壙底	口径 5.1 胴径 6.9 底径 3.9 器高 9.4	壺	
108-2	P-93 ②	壙底	口径 11.0 底径 5.8 器高 15.9	深鉢	
108-3	P-93 ③	壙底	口径 11.8 底径 4.8 器高 12.4	深鉢	
108-4	P-93 ⑤	壙底	長さ 2.1 幅 1.4 厚さ 0.25 重さ 0.6	石鏃	黒曜石
108-5	P-93 ⑰	壙底	長さ 2.0 幅 1.5 厚さ 0.2 重さ 0.5	石鏃	黒曜石
108-6	P-93 ⑳	壙底	長さ 2.0 幅 1.5 厚さ 0.3 重さ 0.6	石鏃	黒曜石
108-7	P-93 ⑳	壙底	長さ 2.3 幅 1.4 厚さ 0.25 重さ 0.5	石鏃	黒曜石
108-8	P-93 ㉓	壙底	長さ 2.2 幅 1.3 厚さ 0.3 重さ 0.5	石鏃	黒曜石
108-9	P-93 ㉔	壙底	長さ 2.2 幅 1.4 厚さ 0.3 重さ 0.6	石鏃	黒曜石
108-10	P-93 ㉕	壙底	長さ 2.2 幅 1.8 厚さ 0.35 重さ 0.8	石鏃	黒曜石
108-11	P-93 ㉖	壙底	長さ 2.55 幅 0.3 厚さ 1.7 重さ 0.7	石鏃	黒曜石
108-12	P-93 ㉗	壙底	長さ 2.6 幅 1.6 厚さ 0.3 重さ 0.7	石鏃	黒曜石
108-13	P-93 ㉘	壙底	長さ 2.7 幅 1.8 厚さ 0.4 重さ 1.0	石鏃	黒曜石
108-14	P-93 ㉙	壙底	長さ 2.5 幅 1.6 厚さ 0.3 重さ 0.6	石鏃	黒曜石

図版No-遺物No	出土遺構	層位	計測値 (cm) (g)	名称・分類	備考
108-15	P-93 ⑪	城底	長さ 3.05 幅 1.7 厚さ 0.35 重さ 0.9	石鏃	黒曜石
108-16	P-93 ⑫	城底	長さ 2.9 幅 1.5 厚さ 0.3 重さ 0.7	石鏃	黒曜石
108-17	P-93 ⑬	城底	長さ 2.7 幅 1.8 厚さ 0.3 重さ 0.9	石鏃	黒曜石
108-18	P-93 ⑭	城底	長さ 2.2 幅 1.65 厚さ 0.3 重さ 0.5	石鏃	黒曜石
108-19	P-93 ⑮	城底	長さ 2.4 幅 1.6 厚さ 0.25 重さ 0.5	石鏃	黒曜石
108-20	P-93 ⑯	城底	長さ 2.15 幅 1.6 厚さ 0.3 重さ 0.6	石鏃	黒曜石
108-21	P-93 ⑰	城底	長さ 1.95 幅 1.6 厚さ 0.25 重さ 0.5	石鏃	黒曜石
108-22	P-93 ⑱	城底	長さ 2.2 幅 1.6 厚さ 0.2 重さ 0.6	石鏃	黒曜石
108-23	P-93 ⑲	城底	長さ 2.45 幅 1.6 厚さ 0.35 重さ 0.8	石鏃	黒曜石
108-24	P-93 ⑳	城底	長さ 2.3 幅 1.6 厚さ 0.3 重さ 0.8	石鏃	黒曜石
108-25	P-93 ㉑	城底	長さ 2.05 幅 1.55 厚さ 0.25 重さ 0.6	石鏃	黒曜石
108-26	P-93 ㉒	城底	長さ 2.0 幅 1.6 厚さ 0.3 重さ 0.5	石鏃	黒曜石
108-27	P-93 ㉓	城底	長さ 2.0 幅 1.5 厚さ 0.25 重さ 0.5	石鏃	黒曜石
108-28	P-93 ㉔	城底	長さ 1.8 幅 1.5 厚さ 0.25 重さ 0.5	石鏃	黒曜石
108-29	P-93 ㉕	城底	長さ 2.1 幅 1.5 厚さ 0.35 重さ 0.6	石鏃	黒曜石
108-30	P-93 ㉖	城底	長さ 2.15 幅 1.6 厚さ 0.25 重さ 0.7	石鏃	黒曜石
108-31	P-93 ㉗	城底	長さ 2.9 幅 1.6 厚さ 0.3 重さ 0.6	石鏃	黒曜石
108-32	P-93 ㉘	城底	長さ 2.95 幅 1.7 厚さ 0.25 重さ 0.7	石鏃	黒曜石
108-33	P-93 ㉙	城底	長さ 2.7 幅 1.6 厚さ 0.3 重さ 0.7	石鏃	黒曜石
108-34	P-93 ㉚	城底	長さ 4.0 幅 1.5 厚さ 0.65 重さ 3.4	スクレイパー	頁岩
108-35	P-93 ㉛	城底	長さ 6.2 幅 3.2 厚さ 0.7 重さ 10.8	スクレイパー	メノウ
108-36	P-93 ㉜	城底	径 1.7 孔径 0.7 厚さ 1.0 重さ 2.5	玉	チャート
108-37	P-93 ㉝	城底	径 1.6 孔径 0.7 厚さ 1.15 重さ 3.4	玉	チャート
109-1	P-92	覆土		拓本土器	胴部
109-2	P-92 ①	城底	長さ (3.7) 幅 1.3 厚さ 0.5 重さ (1.7)	石鏃	黒曜石
109-3	P-92 ②	城底	長さ (3.9) 幅 1.3 厚さ 0.4 重さ (1.4)	石鏃	黒曜石
110-1	P-68 ②	城底	長さ 3.3 幅 2.8 厚さ 0.8 重さ 7.2	フレイク	黒曜石
110-2	P-68	覆土	長さ 3.5 幅 1.15 厚さ 0.35 重さ 0.8	石鏃	頁岩
110-3	P-68	覆土	長さ 5.3 幅 4.0 厚さ 0.95 重さ 21.0	ナイフ	頁岩
110-1	P-79 ①	城底	長さ 12.3 幅 5.1 厚さ 1.8 重さ 165	石斧	泥岩
110-2	P-79 ②	城底	長さ 9.5 幅 4.3 厚さ 1.7 重さ 117	石斧	泥岩
110-3	P-79 ③	城底	長さ (4.7) 幅 2.8 厚さ 0.9 重さ (20.6)	石斧	ハンレイ岩
110-4	P-79 ③	城底	長さ 4.4 幅 4.3 厚さ 2.6 重さ 56.5	コア	黒曜石
111-1	P-76 ①	城底	口径 9.6 底径 5.0 器高 14.3	深鉢	
111-2	P-76 ②	城底		拓本土器	胴部
111-3	P-76	覆土	長さ 2.4 幅 1.05 厚さ 0.5 重さ 1.2	ドリル	チャート
111-4	P-76 ⑥	城底	長さ 2.5 幅 3.0 厚さ 0.5 重さ 2.7	スクレイパー	頁岩
111-5	P-76 ⑤	城底	長さ 4.4 幅 2.3 厚さ 1.1 重さ 10.8	スクレイパー	チャート
111-6	P-76 ③	城底	長さ 4.3 幅 1.6 厚さ 1.1 重さ 6.2	スクレイパー	黒曜石
111-7	P-76 ③	城底	長さ 3.6 幅 1.3 厚さ 0.5 重さ 1.7	R・F	黒曜石
111-8	P-76 ④	城底	長さ 5.3 幅 3.1 厚さ 1.7 重さ 22.8	コア	チャート
112-1	P-84 ①	城底	長さ 8.5 底径 4.0 器高 10.2	深鉢	
112-2	P-84 ①	城底		拓本土器	胴部
112-3	P-84 ①	城底		拓本土器	胴部
112-4	P-84 ①	城底		拓本土器	胴部

図版No-遺物No	出土遺構	層位	計測値 (cm) (g)	名称・分類	備考
112-5	P-84 ③	壙底		拓本土器	胴部
112-6	P-84 ③	壙底		拓本土器	胴部
112-7	P-84 ③	壙底		拓本土器	胴部
112-8	P-84	覆土		拓本土器	胴部
113-9	P-84 ①	壙底	長さ 4.1 幅 2.2 厚さ 0.7 重さ 4.5	フレイク	黒曜石
113-10	P-84	覆土	長さ 3.6 幅 1.45 厚さ 0.45 重さ 1.8	石鏃	黒曜石
113-11	P-84	覆土	長さ (2.1) 幅 1.1 厚さ 0.3 重さ (0.6)	R・F	黒曜石
113-12	P-84	覆土	長さ 3.3 幅 2.5 厚さ 0.7 重さ 5.3	R・F	黒曜石
113-1	P-87 ①	壙底		拓本土器	口縁部
113-2	P-87 ①	壙底		拓本土器	口縁部
113-3	P-87 ②	壙底		拓本土器	胴部
113-4	P-87 ②	壙底		拓本土器	口縁部
113-5	P-87	覆土	長さ 9.3 幅 5.8 厚さ 1.7 重さ 165	敲石	泥岩
113-6	P-87	覆土	長さ 3.7 幅 2.4 厚さ 0.8 重さ 6.2	スクレイパー	黒曜石
113-7	P-87	覆土	長さ 4.3 幅 3.1 厚さ 0.7 重さ 9.0	フレイク	黒曜石
114-1	P-89 ①	壙底	口径 11.8 底径 5.4 器高 16.1	深鉢	
116-1	P-91 ①	壙底	口径 (17.2) 器高 (15.1)	深鉢	
116-2	P-91 ②	壙底	口径 (14.8) 底径 5.4 器高 19.0	深鉢	
116-3	P-91 ⑧	壙底	長さ 2.3 幅 1.0 厚さ 0.3 重さ 0.5	石鏃	黒曜石
116-4	P-91 ⑪	壙底	長さ (3.0) 幅 1.2 厚さ 0.45 重さ (0.8)	石鏃	黒曜石
116-5	P-91 ⑦	壙底	長さ 2.9 幅 1.2 厚さ 0.35 重さ 0.8	石鏃	黒曜石
116-6	P-91 ⑨	壙底	長さ (3.1) 幅 1.1 厚さ 0.4 重さ (0.7)	石鏃	黒曜石
116-7	P-91 ⑥	壙底	長さ 3.7 幅 0.9 厚さ 0.4 重さ 0.9	石鏃	黒曜石
116-8	P-91 ⑤	壙底	長さ 3.3 幅 1.4 厚さ 0.35 重さ 1.1	石鏃	黒曜石
116-9	P-91 ④	壙底	長さ 3.8 幅 (1.05) 厚さ 0.55 重さ (1.2)	石鏃	黒曜石
116-10	P-91 ⑫	壙底	長さ 3.8 幅 1.2 厚さ 0.3 重さ 0.8	石鏃	黒曜石
116-11	P-91 ⑬	壙底	長さ 3.95 幅 1.4 厚さ 0.3 重さ 0.9	石鏃	黒曜石
116-12	P-91 ⑩	壙底	長さ 5.2 幅 1.1 厚さ 0.5 重さ 1.8	石鏃	頁岩
116-13	P-91 ③	壙底	長さ 2.2 幅 1.0 厚さ 0.6 重さ 1.1	ドリル	メノウ
116-14	P-91	覆土	長さ 8.1 幅 3.7 厚さ 1.6 重さ 27.0	フレイク	頁岩
117-1	P-94 ①	壙底	長さ 2.0 幅 1.55 厚さ 0.3 重さ 0.6	石鏃	黒曜石
117-2	P-94 ②	壙底	長さ 2.1 幅 1.6 厚さ 0.25 重さ 0.4	石鏃	黒曜石
117-3	P-94 ③	壙底	長さ 2.2 幅 1.9 厚さ 0.35 重さ 0.9	石鏃	黒曜石
117-4	P-94 ④	壙底	長さ 2.45 幅 1.7 厚さ 0.25 重さ 0.7	石鏃	黒曜石
117-5	P-94 ⑤	壙底	長さ 1.9 幅 (1.5) 厚さ 0.3 重さ (0.5)	石鏃	黒曜石
117-6	P-94 ⑥	壙底	長さ 2.15 幅 1.5 厚さ 0.3 重さ 0.6	石鏃	チャート
117-7	P-94 ⑦	壙底	長さ 2.3 幅 1.7 厚さ 0.35 重さ 0.7	石鏃	黒曜石
117-8	P-94 ⑧	壙底	長さ 2.9 幅 1.75 厚さ 0.35 重さ 0.8	石鏃	黒曜石
117-9	P-94 ⑨	壙底	長さ 2.8 幅 1.6 厚さ 0.3 重さ 0.8	石鏃	黒曜石
117-10	P-94 ⑩	壙底	長さ 2.4 幅 1.55 厚さ 0.3 重さ 0.6	石鏃	黒曜石
117-11	P-94 ⑪	壙底	長さ 2.4 幅 1.6 厚さ 0.25 重さ 0.6	石鏃	黒曜石
117-12	P-94 ⑫	壙底	長さ (2.4) 幅 1.2 厚さ 0.3 重さ (0.9)	石鏃	黒曜石
117-13	P-94 ⑬	壙底	長さ 1.9 幅 1.5 厚さ 0.3 重さ 0.5	石鏃	黒曜石
117-14	P-94 ⑭	壙底	長さ 2.2 幅 1.6 厚さ 0.4 重さ 0.8	石鏃	黒曜石
117-15	P-94 ⑮	壙底	長さ 1.6 幅 1.4 厚さ 0.25 重さ 0.3	石鏃	黒曜石

図版No-遺物No	出土遺構	層位	計測値 (cm) (g)	名称・分類	備考
117-16	P-94 ⑮	城底	長さ 2.1 幅 1.7 厚さ 0.35 重さ 0.6	石鏃	黒曜石
117-17	P-94 ⑮	城底	長さ 2.5 幅 1.65 厚さ 0.35 重さ 0.8	石鏃	黒曜石
117-18	P-94 ⑮	城底	長さ 2.8 幅 1.45 厚さ 0.3 重さ 0.8	石鏃	黒曜石
117-19	P-94 ⑮	城底	長さ 1.8 幅 1.5 厚さ 0.3 重さ 0.6	石鏃	頁岩
117-20	P-94 ⑮	城底	長さ 2.2 幅 1.5 厚さ 0.25 重さ 0.5	石鏃	黒曜石
117-21	P-94 ⑮	城底	長さ 3.2 幅 1.9 厚さ 0.25 重さ 0.8	石鏃	黒曜石
118-1	P-110 ⑱	城底	長さ 1.9 幅 1.2 厚さ 0.3 重さ 0.4	石鏃	黒曜石
118-2	P-110 ⑰	城底	長さ 2.55 幅 1.1 厚さ 0.3 重さ 0.6	石鏃	黒曜石
118-3	P-110 ⑤	城底	長さ 4.0 幅 1.35 厚さ 0.75 重さ 2.8	石鏃	黒曜石
118-4	P-110 ㉔	城底	長さ 4.4 幅 2.0 厚さ 0.8 重さ 5.1	スクレイパー	黒曜石
118-5	P-110 ⑲	城底	長さ 4.45 幅 1.8 厚さ 1.1 重さ 8.8	スクレイパー	チャート
118-6	P-110 ㉚	城底	長さ 6.45 幅 2.8 厚さ 1.0 重さ 18.0	スクレイパー	チャート
118-7	P-110 ㉛	城底	長さ 6.0 幅 2.75 厚さ 0.8 重さ 9.4	ナイフ	チャート
119-8	P-110 ④	城底	長さ 5.3 幅 2.35 厚さ 1.2 重さ 14.4	スクレイパー	チャート
119-9	P-110 ㉑	城底	長さ 2.5 幅 2.35 厚さ 0.75 重さ 5.1	スクレイパー	チャート
119-10	P-110 ⑯	城底	長さ 3.9 幅 2.0 厚さ 0.5 重さ 3.3	フレイク	チャート
119-11	P-110 ㉚	城底	長さ 1.5 幅 1.4 厚さ 0.4 重さ 0.6	スクレイパー	チャート
119-12	P-110 ⑬	城底	長さ 4.1 幅 2.3 厚さ 1.2 重さ 12.0	フレイク	黒曜石
119-13	P-110 ㉔	城底	長さ 4.3 幅 1.8 厚さ 0.7 重さ 5.3	フレイク	黒曜石
119-14	P-110 ⑭	城底	長さ 3.2 幅 1.4 厚さ 1.0 重さ 4.3	フレイク	黒曜石
119-15	P-110 ⑪	城底	長さ 2.9 幅 1.7 厚さ 0.8 重さ 3.6	フレイク	黒曜石
119-16	P-110 ⑫	城底	長さ 2.8 幅 1.1 厚さ 0.5 重さ 1.0	フレイク	黒曜石
119-17	P-110 ②	城底	長さ 6.0 幅 4.25 厚さ 1.1 重さ 27.0	フレイク	頁岩
119-18	P-110 ⑦	城底	長さ 8.5 幅 3.9 厚さ 0.9 重さ 44.4	フレイク	頁岩
119-19	P-110 ⑮	城底	長さ 3.65 幅 6.0 厚さ 1.4 重さ 26.6	フレイク	チャート
119-20	P-110 ⑩	城底	長さ 6.1 幅 4.65 厚さ 1.4 重さ 31.6	フレイク	黒曜石
120-21	P-110 ⑨	城底	長さ 9.2 幅 4.8 厚さ 1.6 重さ 125	石斧	泥岩
120-22	P-110 ⑥	城底	長さ 8.4 幅 4.0 厚さ 2.3 重さ 115	石斧	泥岩
120-23	P-110 ⑧	城底	長さ 12.1 幅 3.1 厚さ 2.7 重さ 260	石斧	ハンレイ岩
120-24	P-110 ①	城底	長さ 9.0 幅 4.6 厚さ 1.4 重さ 120	石斧	ハンレイ岩
120-25	P-110 ③	城底	長さ 5.4 幅 3.3 厚さ 3.0 重さ 82.0	礫	
121-1	P-97	覆土		拓本土器	胴部 P-93と接合
121-2	P-97	覆土		拓本土器	胴部 P-93と接合
121-3	P-97 ①	城底	長さ (2.1) 幅 1.65 厚さ 0.5 重さ (1.3)	石鏃	黒曜石
121-4	P-97	覆土	長さ 3.4 幅 2.6 厚さ 0.5 重さ 3.2	スクレイパー	黒曜石
121-5	P-97	覆土	長さ 6.6 幅 4.7 厚さ 1.4 重さ 26.0	スクレイパー	黒曜石
121-6	P-97	覆土	長さ 2.7 幅 1.05 厚さ 0.4 重さ 2.3	高師小僧	褐鉄鉞
121-7	P-97	覆土	長さ 4.95 幅 2.8 厚さ 0.8 重さ 17.8	石斧	泥岩
122-1	P-98 ①	城底	口径 9.7 胴径 10.4 底径 4.0 器高 13.0	深鉢	
122-2	P-98 ⑤	城底	長さ 4.4 幅 1.15 厚さ 0.35 重さ 1.1	石鏃	頁岩
122-3	P-98 ④	城底	長さ 3.8 幅 1.1 厚さ 0.3 重さ 0.8	石鏃	頁岩
122-4	P-98 ⑥	城底	長さ 4.0 幅 1.3 厚さ 0.45 重さ 1.3	石鏃	黒曜石
122-5	P-98 ③	城底	長さ 3.8 幅 1.3 厚さ 0.4 重さ 1.1	石鏃	黒曜石
122-6	P-98 ②	城底	長さ (2.2) 幅 1.5 厚さ 0.35 重さ (0.8)	石鏃	黒曜石
122-7	P-98	覆土	長さ 3.3 幅 2.0 厚さ 0.5 重さ 3.2	R・F	黒曜石

図版No-遺物No	出土遺構	層位	計測値(cm)(g)	名称・分類	備考
123-1	P-101 ②	壙底	長さ 3.8 幅 1.4 厚さ 0.35 重さ 1.2	石鏃	黒曜石
123-2	P-101 ⑤	壙底	長さ 3.9 幅 1.3 厚さ 0.5 重さ 1.5	石鏃	黒曜石
123-3	P-101 ①	壙底	長さ 3.4 幅 1.5 厚さ 0.5 重さ 1.4	石鏃	黒曜石
123-4	P-101 ⑨	壙底	長さ 3.45 幅 1.05 厚さ 0.3 重さ 0.8	石鏃	黒曜石
123-5	P-101 ⑦	壙底	長さ 2.95 幅 1.05 厚さ 0.3 重さ 0.6	石鏃	黒曜石
123-6	P-101 ④	壙底	長さ 2.95 幅 1.0 厚さ 0.3 重さ 0.5	石鏃	黒曜石
123-7	P-101 ③	壙底	長さ 2.7 幅 1.1 厚さ 0.35 重さ 0.7	石鏃	黒曜石
123-8	P-101 ⑧	壙底	長さ 2.8 幅 0.9 厚さ 0.25 重さ 0.4	石鏃	黒曜石
123-9	P-101 ⑥	壙底	長さ (1.2) 幅 1.1 厚さ 0.2 重さ (0.3)	石鏃	黒曜石
124-1	P-100 ①	壙底	口径 13.6 底径 6.2 器高 14.8	深鉢	
124-2	P-100 ②	壙底	底径 (8.0) 器高 (3.8)	土器底部	
124-3	P-100	覆土	長さ (2.8) 幅 2.45 厚さ 0.3 重さ (3.3)	石鏃破片	黒曜石
125-1	P-103 ①	壙底	長さ 3.65 幅 1.1 厚さ 0.45 重さ 1.0	石鏃	黒曜石
125-2	P-103 ⑤	壙底	長さ 3.65 幅 1.0 厚さ 0.35 重さ 0.9	石鏃	黒曜石
125-3	P-103 ④	壙底	長さ 3.4 幅 1.4 厚さ 0.4 重さ 1.0	石鏃	黒曜石
125-4	P-103 ③	壙底	長さ 3.3 幅 1.4 厚さ 0.3 重さ 0.9	石鏃	頁岩
125-5	P-103 ⑥	壙底	長さ 4.4 幅 1.1 厚さ 0.35 重さ 1.1	石鏃	黒曜石
125-6	P-103 ⑦	壙底	長さ 3.8 幅 1.2 厚さ 0.45 重さ 1.4	石鏃	黒曜石
125-7	P-103 ②	壙底	長さ 4.3 幅 1.5 厚さ 0.6 重さ 3.7	石鏃	頁岩
125-8	P-103 Na1	壙底	長さ 7.9 幅 3.2 厚さ 1.0 重さ 46.8	石斧	ハンレイ岩
126-1	P-104 ㉔	壙底	口径 11.4 胴径 12.8 底径 5.0 器高 14.1	深鉢	
126-2	P-104 ㉔	壙底	底径 5.8 器高 (2.8)	土器底部	
126-3	P-104 ⑱	壙底	長さ 2.2 幅 1.15 厚さ 0.3 重さ 0.5	石鏃	黒曜石
126-4	P-104 ①	壙底	長さ 2.35 幅 1.1 厚さ 0.35 重さ 0.6	石鏃	黒曜石
126-5	P-104 ②	壙底	長さ 3.0 幅 1.05 厚さ 0.3 重さ 0.6	石鏃	黒曜石
126-6	P-104 ㉓	壙底	長さ 3.0 幅 0.95 厚さ 0.25 重さ 0.5	石鏃	黒曜石
126-7	P-104 ㉓	壙底	長さ 3.1 幅 1.05 厚さ 0.4 重さ 1.0	石鏃	黒曜石
126-8	P-104 ㉔	壙底	長さ 4.45 幅 1.8 厚さ 1.05 重さ 3.0	石鏃	黒曜石
126-9	P-104 ㉓	壙底	長さ 4.5 幅 1.8 厚さ 0.7 重さ 3.9	石鏃	黒曜石
126-10	P-104 ③	壙底	長さ 3.65 幅 1.45 厚さ 0.45 重さ 1.3	石鏃	頁岩
126-11	P-104 ④	壙底	長さ 2.95 幅 1.2 厚さ 0.5 重さ 0.8	石鏃	頁岩
126-12	P-104 ㉓	壙底	長さ 2.95 幅 1.1 厚さ 0.5 重さ 0.9	石鏃	頁岩
126-13	P-104 ㉓	壙底	長さ 5.45 幅 1.85 厚さ 0.75 重さ 5.1	石槍	黒曜石
126-14	P-104 ㉓	壙底	長さ 6.2 幅 2.4 厚さ 0.75 重さ 6.8	石槍	頁岩
126-15	P-104 ㉔	壙底	長さ 9.3 幅 4.45 厚さ 0.9 重さ 29.0	ナイフ	頁岩
126-16	P-104 ⑰	壙底	長さ 4.4 幅 2.4 厚さ 0.9 重さ 8.3	スクレイパー	チャート
126-17	P-104 ㉔	壙底	長さ 3.4 幅 1.6 厚さ 0.8 重さ 4.2	スクレイパー	チャート
126-18	P-104 ㉔	壙底	長さ 2.75 幅 1.5 厚さ 0.6 重さ 2.0	スクレイパー	チャート
126-19	P-104 ⑯	壙底	長さ 2.7 幅 2.3 厚さ 0.3 重さ 1.2	フレイク	チャート
127-20	P-104 ⑬	壙底	長さ 3.05 幅 3.1 厚さ 0.6 重さ 2.9	フレイク	チャート
127-21	P-104 ㉔	壙底	長さ 2.7 幅 2.7 厚さ 0.8 重さ 5.6	フレイク	黒曜石
127-22	P-104 ㉔	壙底	長さ 3.45 幅 2.15 厚さ 0.6 重さ 2.9	フレイク	黒曜石
127-23	P-104 ⑰	壙底	長さ 4.3 幅 2.9 厚さ 1.1 重さ 10.0	フレイク	黒曜石
127-24	P-104 ㉔	壙底	長さ 5.55 幅 2.65 厚さ 1.3 重さ 15.4	フレイク	黒曜石
127-25	P-104 ⑭	壙底	長さ 3.95 幅 2.4 厚さ 1.1 重さ 11.6	フレイク	黒曜石

図版No-遺物No	出土遺構	層位	計測値 (cm) (g)	名称・分類	備考
127-26	P-104 ⑩	壙底	長さ 3.95 幅 2.7 厚さ 0.9 重さ 4.9	フレイク	頁岩
127-27	P-104 ⑤	壙底	長さ 5.1 幅 2.35 厚さ 0.5 重さ 4.4	フレイク	頁岩
127-28	P-104 ⑥	壙底	長さ 3.5 幅 4.65 厚さ 0.7 重さ 7.7	フレイク	頁岩
127-29	P-104 ⑫	壙底	長さ 4.7 幅 5.5 厚さ 1.1 重さ 17.6	フレイク	頁岩
127-30	P-104 ⑦	壙底	長さ 3.8 幅 3.0 厚さ 1.15 重さ 8.7	フレイク	頁岩
127-31	P-104 ⑪	壙底	長さ 6.2 幅 3.8 厚さ 1.3 重さ 20.8	フレイク	頁岩
127-32	P-104 ⑨	壙底	長さ 5.0 幅 3.15 厚さ 1.0 重さ 14.6	フレイク	頁岩
127-33	P-104 ⑧	壙底	長さ 5.8 幅 3.1 厚さ 1.5 重さ 17.8	コア	頁岩
128-34	P-104 ㊸	壙底	長さ (6.0) 幅 8.4 厚さ 2.8 重さ (187)	砥石	凝灰岩 縮尺1/3
128-35	P-104 ㊹	壙底	長さ 10.5 幅 4.25 厚さ 2.05 重さ 169	石斧	泥岩 縮尺1/3
128-36	P-104 ㊺	壙底	長さ 15.1 幅 6.1 厚さ 2.5 重さ 415	石斧	泥岩 縮尺1/3
128-37	P-104 ㊻	壙底	長さ (10.7) 幅 4.5 厚さ 1.6 重さ (125)	石斧	泥岩 縮尺1/3
128-38	P-104 ㊼	壙底	長さ 17.3 幅 5.8 厚さ 3.1 重さ 535	石斧	泥岩 縮尺1/3
128-39	P-104 ㊽	壙底	長さ 12.5 幅 5.0 厚さ 1.95 重さ 215	石斧	泥岩 縮尺1/3
129-1	P-105 ①	壙底	長さ 3.3 幅 1.0 厚さ 0.3 重さ 0.7	石鏃	黒曜石
129-2	P-105 ②	壙底	径 3.0 厚さ 1.55 重さ 16.4	礫玉	チャート 孔径0.9×0.5
129-3	P-105 ④	壙底	長さ 5.1 幅 2.6 厚さ 1.0 重さ 9.2	スクレイパー	チャート
129-4	P-105	覆土	長さ 8.1 幅 2.5 厚さ 1.4 重さ 20.2	スクレイパー	チャート
129-5	P-105	覆土	長さ 5.6 幅 2.2 厚さ 0.8 重さ 9.9	スクレイパー	
129-6	P-105 ③	壙底	長さ 6.9 幅 2.5 厚さ 1.4 重さ 29.2	石斧	ハンレイ岩
129-7	P-105 ⑤	壙底	長さ 27.8 幅 21.7 厚さ 6.9 重さ 4290	擦石	砂岩 縮尺1/4
130-1	P-106 ①	壙底	口径 20.6 底径 11.2 器高 9.2	浅鉢	
130-1	H-4 ①	壙底	長さ 12.7 幅 2.1 厚さ 0.8	刀子	
131-1	P-108 ⑤	壙底	底径 (6.6) 器高 13.0	深鉢	
131-2	P-108 ⑥	壙底	長さ 2.5 幅 1.1 厚さ 0.3 重さ 0.6	石鏃	黒曜石
131-3	P-108 ③	壙底	長さ 3.5 幅 1.15 厚さ 0.5 重さ 1.0	石鏃	黒曜石
131-4	P-108 ①	壙底	長さ 4.45 幅 1.3 厚さ 0.4 重さ 1.4	石鏃	
131-5	P-108 ④	壙底	長さ 3.7 幅 1.9 厚さ 0.5 重さ 3.8	石鏃	黒曜石
131-6	P-108 ②	壙底	長さ 6.8 幅 2.6 厚さ 0.7 重さ 14.0	スクレイパー	頁岩
132-1	P-109 ⑥	壙底	長さ 4.6 幅 1.9 厚さ 0.9 重さ 7.5	スクレイパー	チャート
132-2	P-109 ①	壙底	長さ 4.85 幅 3.0 厚さ 1.0 重さ 10.4	フレイク	チャート
132-3	P-109 ④	壙底	長さ 3.85 幅 2.76 厚さ 0.65 重さ 5.8	フレイク	チャート
132-4	P-109 ③	壙底	長さ 3.1 幅 3.0 厚さ 1.0 重さ 6.6	フレイク	チャート
132-5	P-109 ⑨	壙底	長さ 3.3 幅 2.25 厚さ 1.2 重さ 9.4	フレイク	黒曜石
132-6	P-109 ⑤	壙底	長さ 3.1 幅 2.25 厚さ 0.75 重さ 5.8	フレイク	黒曜石
132-7	P-109 ②	壙底	長さ 4.2 幅 2.6 厚さ 0.7 重さ 6.6	フレイク	黒曜石
132-8	P-109 ⑦	壙底	長さ 4.15 幅 4.2 厚さ 1.1 重さ 15.6	フレイク	黒曜石
132-9	P-109 ⑧	壙底	長さ 3.8 幅 3.9 厚さ 1.8 重さ 30.6	原石	黒曜石
133-1	P-111 ④	覆土	口径 7.1 胴径 (10.3) 器高 (10.7)	壺	
133-2	P-111 ①	壙底	長さ 2.65 幅 1.0 厚さ 0.35 重さ 0.6	石鏃	黒曜石
133-3	P-111 ③	壙底	長さ 2.75 幅 1.0 厚さ 0.3 重さ 0.6	石鏃	黒曜石
133-4	P-111 ⑤	壙底	長さ 5.2 幅 2.1 厚さ 0.8 重さ 8.5	スクレイパー	チャート
133-5	P-111	覆土	長さ 6.6 幅 3.5 厚さ 1.5 重さ 27.0	スクレイパー	チャート
133-6	P-111 ②	壙底	長さ 0.95 幅 0.7 厚さ 0.4 重さ 0.2	コハク原石	
134-1	P-112 ①	壙底	口径 (7.2) 胴径 8.3 底径 4.6 器高 7.9	浅鉢	

図版No-遺物No	出土遺構	層位	計測値 (cm) (g)	名称・分類	備考
134-2	P-112 ③	壙底	口径 3.2 胴径 6.1 底径 2.2 器高 7.8	壺	
134-3	P-112 ②	壙底	口径 7.6 底径 (2.1) 器高 4.4	杯	
134-4	P-112 ⑤	壙底	長さ 3.9 幅 1.8 厚さ 0.45 重さ 2.3	石鏃	黒曜石
134-5	P-112 ④	壙底	長さ 4.1 幅 1.9 厚さ 1.15 重さ 4.6	石製品?	砂岩
134-6	P-112	覆土	長さ 6.0 幅 5.7 厚さ 1.35 重さ 41.8	スクレイパー	頁岩
134-7	P-112 ⑥	壙底	長さ 9.2 幅 4.0 厚さ 1.9 重さ 52.5	フレイク	黒曜石
135-1	P-116 ①	壙底	口径 9.8 底径 5.2 器高 13.0	深鉢	
135-2	P-116 ②	壙底	胴径 14.0 底径 7.6 器高 (16.7)	深鉢	
135-3	P-116 ⑤	壙底	長さ 4.35 幅 2.4 厚さ 0.8 重さ 9.3	石鏃	チャート
135-4	P-116 ⑦	壙底	長さ 4.45 幅 1.25 厚さ 0.75 重さ 3.7	ドリル	頁岩
135-5	P-116 ⑫	壙底	長さ 5.6 幅 3.6 厚さ 0.9 重さ 18.8	ナイフ	頁岩
135-6	P-116 ⑭	壙底	長さ 4.9 幅 3.3 厚さ 0.6 重さ 9.9	スクレイパー	チャート
135-7	P-116 ⑪	壙底	長さ 2.9 幅 3.1 厚さ 1.15 重さ 3.3	フレイク	黒曜石
135-8	P-116 ⑥	壙底	長さ 2.7 幅 2.95 厚さ 1.0 重さ 4.8	フレイク	頁岩
135-9	P-116 ④	壙底	長さ 3.95 幅 3.25 厚さ 1.2 重さ 14.0	コア	黒曜石
135-10	P-116 ⑨	壙底	長さ 2.7 幅 2.8 厚さ 1.5 重さ 10.6	コア	黒曜石
135-11	P-116 ⑩	壙底	長さ 3.1 幅 2.35 厚さ 1.3 重さ 6.5	コア	黒曜石
135-12	P-116 ③	壙底	長さ 8.5 幅 3.4 厚さ 1.6 重さ 84.0	石斧	泥岩
136-1	P-113	覆土	長さ 3.9 幅 1.35 厚さ 0.6 重さ 2.7	ドリル	頁岩
136-1	P-115	覆土		拓本土器	口縁部
136-2	P-115	覆土	長さ (4.1) 幅 3.9 厚さ 0.6 重さ 9.3	ナイフ	黒曜石
137-1	P-114 ①	壙底	長さ 24.7 幅 7.8 厚さ 4.3 重さ 1490	石斧	泥岩 縮尺1/3
137-2	P-114 ②	壙底	長さ 15.2 幅 6.1 厚さ 3.5 重さ 510	石斧	泥岩 縮尺1/3
138-3	P-114 ⑥	壙底	長さ 3.8 幅 1.25 厚さ 0.85 重さ 2.8	ドリル	頁岩
138-4	P-114 ⑥	壙底	長さ 4.6 幅 2.05 厚さ 0.5 重さ 4.0	スクレイパー	頁岩
138-5	P-114	覆土	長さ 6.0 幅 2.9 厚さ 0.7 重さ 12.2	スクレイパー	頁岩
138-6	P-114 ③	壙底	長さ 6.8 幅 2.9 厚さ 1.0 重さ 30.2	石斧	ハンレイ岩
138-7	P-114 ④	壙底	長さ (8.7) 幅 4.6 厚さ 2.0 重さ 148	石斧	泥岩
138-8	P-114 ⑥	壙底	長さ 10.6 幅 5.55 厚さ 2.1 重さ 195	石斧	泥岩
140-1	P-122 ①	壙底	口径 10.6 胴径 14.0 底径 5.8 器高 20.3	甕	
140-2	P-122 ②	壙底	長さ 3.2 幅 2.3 厚さ 1.7 重さ 13.6	礫玉	泥岩
140-3	P-122 ③	壙底	長さ 5.0 幅 2.1 厚さ 0.65 重さ 4.0	ナイフ	黒曜石
140-4	P-122	覆土	長さ (1.1) 幅 1.2 厚さ 0.35 重さ 0.7	石鏃	黒曜石
140-1	P-129 ①	壙底	口径 6.3 底径 5.6 器高 4.7	ミニチュア土器	
140-2	P-129 ㉘	壙底	口径 19.2 底径 7.7 器高 12.4	浅鉢	
140-3	P-129 ㉙	壙底	長さ 5.25 幅 2.0 厚さ 0.6 重さ 5.0	石槍	黒曜石
140-4	P-129 ⑬	壙底	長さ 8.0 幅 6.45 厚さ 1.2 重さ 50.5	スクレイパー	黒曜石
140-5	P-129 ②	壙底	長さ 2.5 幅 3.0 厚さ 1.75 重さ 16.6	フレイク	石英
140-6	P-129 ⑨	壙底	長さ 5.5 幅 3.3 厚さ 1.1 重さ 15.6	フレイク	黒曜石
141-7	P-129 ③	壙底	長さ 4.9 幅 4.2 厚さ 1.3 重さ 176	フレイク	黒曜石
141-8	P-129 ㉚	壙底	長さ 4.6 幅 4.4 厚さ 1.45 重さ 30.4	フレイク	黒曜石
141-9	P-129 ⑫	壙底	長さ 5.25 幅 3.6 厚さ 1.2 重さ 20.8	フレイク	黒曜石
141-10	P-129 ㉜	壙底	長さ 3.5 幅 4.6 厚さ 1.3 重さ 25.4	フレイク	黒曜石
141-11	P-129 ⑦	壙底	長さ 5.0 幅 3.2 厚さ 0.6 重さ 12.0	フレイク	黒曜石
141-12	P-129 ⑤	壙底	長さ 6.0 幅 4.7 厚さ 2.2 重さ 49.0	フレイク	黒曜石

図版No-遺物No	出土遺構	層位	計測値 (cm) (g)	名称・分類	備考
141-13	P-129 ⑱	壙底	長さ 5.3 幅 5.4 厚さ 1.0 重さ 32.0	フレイク	黒曜石
141-14	P-129 ⑧	壙底	長さ 6.3 幅 3.65 厚さ 1.3 重さ 23.6	フレイク	黒曜石
141-15	P-129 ㉔	壙底	長さ 5.95 幅 3.85 厚さ 1.6 重さ 28.6	フレイク	黒曜石
141-16	P-129 ⑲	壙底	長さ 8.0 幅 4.1 厚さ 1.9 重さ 75.5	コア	黒曜石
141-17	P-129 ⑥	壙底	長さ 7.3 幅 3.8 厚さ 1.9 重さ 45.2	コア	黒曜石
141-18	P-129 ㉓	壙底	長さ 6.3 幅 4.3 厚さ 1.55 重さ 47.4	コア	黒曜石
142-19	P-129 ㉕	壙底	長さ 5.4 幅 4.8 厚さ 1.6 重さ 45.0	フレイク	黒曜石
142-20	P-129 ㉔	壙底	長さ 7.25 幅 4.75 厚さ 1.6 重さ 57.5	コア	黒曜石
142-21	P-129	壙底	重さ 102.5	コア	黒曜石 ㉔+㉕接合
142-22	P-129 ⑩	壙底	長さ 7.3 幅 4.7 厚さ 1.8 重さ 54.0	原石	黒曜石
142-23	P-129 ⑪	壙底	長さ 4.7 幅 5.0 厚さ 5.25 重さ 125	コア	黒曜石
142-24	P-129 ⑭	壙底	長さ 6.4 幅 3.1 厚さ 1.6 重さ 25.8	コア	黒曜石
142-25	P-129 ④	壙底	長さ 7.95 幅 4.7 厚さ 2.0 重さ 85.0	原石	黒曜石
142-26	P-129 ⑮	壙底	長さ 5.2 幅 3.5 厚さ 1.05 重さ 21.0	原石	黒曜石
142-27	P-129	覆土	長さ 7.5 幅 4.7 厚さ 2.2 重さ 43.8	有孔石	安山岩
142-28	P-129 ⑯	壙底	長さ 13.2 幅 5.4 厚さ 3.25 重さ 276	磔	砂岩
143-1	P-118 ⑥	壙底	口径 18.8 底径 6.6 器高 23.3	深鉢	
143-2	P-118 ⑤	壙底	長さ 2.6 幅 1.1 厚さ 0.3 重さ 0.5	石鏃	黒曜石
143-3	P-118 ④	壙底	長さ 2.95 幅 1.15 厚さ 0.4 重さ 0.6	石鏃	黒曜石
143-4	P-118 ③	壙底	長さ 2.8 幅 0.9 厚さ 0.45 重さ 0.7	石鏃	黒曜石
143-5	P-118 ①	壙底	長さ 4.4 幅 1.65 厚さ 0.5 重さ 2.0	石鏃	黒曜石
143-6	P-118 ②	壙底	長さ 4.45 幅 3.9 厚さ 1.45 重さ 19.8	フレイク	黒曜石
143-1	P-119	覆土	幅 2.0 厚さ 0.85 重さ 1.2	コハク原石	
144-1	P-120 ①	壙底	口径 9.4 底径 5.2 器高 11.7	深鉢	
144-2	P-120 ②	壙底	口径 6.6 底径 3.0 器高 6.8	深鉢	
144-3	P-120	覆土	長さ 6.45 幅 5.25 厚さ 1.45 重さ 55	スクレイパー	頁岩
144-1	P-127	覆土	長さ 1.6 幅 1.0 厚さ 0.8 重さ 0.7	コハク原石	
145-1	P-121	覆土	長さ 3.05 幅 3.05 厚さ 0.75 重さ 6.3	ナイフ	黒曜石
145-1	P-124	覆土	長さ 1.3 幅 1.1 厚さ 0.3 重さ 0.4	石鏃	黒曜石
146-1	P-126 ①	壙底	口径 11.6 底径 5.2 器高 10.6	深鉢	
146-2	P-126 ②	壙底	口径 6.0 胴径 12.5 底径 5.2 器高 15.2	つぼ	
147-3	P-126 ④	壙底	長さ 3.9 幅 5.45 厚さ 0.5 重さ 13.0	フレイク	頁岩
147-4	P-126 ⑤	壙底	長さ 5.4 幅 6.3 厚さ 1.8 重さ 79.0	フレイク	玄武岩
147-5	P-126 ③	壙底	長さ 12.3 幅 5.8 厚さ 1.7 重さ 182	石斧	ハンレイ岩
147-6	P-126 ⑦	壙底	長さ 11.8 幅 5.3 厚さ 2.4 重さ 118	石斧	泥岩
148-1	P-128 ①	壙底	口径 13.5 底径 7.0 器高 18.7	深鉢	
148-2	P-128 ⑦	壙底	長さ 5.4 幅 2.0 厚さ 0.55 重さ 4.3	石槍	頁岩
148-3	P-128 ③	壙底	長さ 12.5 幅 5.5 厚さ 2.6 重さ 263	石斧	泥岩
149-4	P-128 ⑥	壙底	長さ 11.2 幅 5.0 厚さ 1.8 重さ 159	石斧	ハンレイ岩
149-5	P-128 ②	壙底	長さ 11.5 幅 4.2 厚さ 1.4 重さ 111	石斧	ハンレイ岩
149-6	P-128 ④	壙底	長さ 11.8 幅 4.4 厚さ 1.5 重さ 124	石斧	ハンレイ岩
149-7	P-128 ⑤	壙底	長さ 14.2 幅 4.7 厚さ 2.0 重さ 172	石斧	ハンレイ岩
149-8	P-128	覆土	長さ 4.85 幅 2.55 厚さ 0.45 重さ 6.6	スクレイパー	チャート
149-9	P-128	覆土	長さ 3.85 幅 2.7 厚さ 1.0 重さ 8.8	スクレイパー	頁岩
150-1	H-6	覆土	胴径 (17.4) 底径 7.0 器高 (11.9)	深鉢	底部

図版No-遺物No	出土遺構	層位	計測値 (cm) (g)	名称・分類	備考	
150-2	H-6	覆土	長さ 3.2 幅 2.3 厚さ 0.6 重さ 4.2	R・F	黒曜石	
150-3	H-6	覆土	長さ 4.5 幅 4.3 厚さ 0.8 重さ 15.2	スクレイパー	黒曜石	
152-1	H-5	覆土	口径 22.8 底径 7.8 器高 27.8	深鉢	口縁部 覆土と接合	
152-2	H-5 ⑦	壙底	口径 (20.0) 器高 (14.1)	深鉢		
152-3	H-5 ③	壙底		拓本土器		
152-4	H-5	覆土	口径 9.8 胴径 10.0 底径 6.0 器高 11.7	深鉢		
153-5	H-5 ③	壙底	胴径 (8.8) 底径 4.6	土器底部	黒曜石	
153-6	H-5 ①	壙底	長さ 6.2 幅 3.3 厚さ 0.7 重さ 15.2	スクレイパー		
153-7	H-5 ⑪	壙底	長さ 6.15 幅 3.85 厚さ 0.6 重さ 11.0	スクレイパー		
153-8	H-5 ⑬	壙底	長さ (8.2) 幅 6.0 厚さ 2.3 重さ 195	石斧		
153-9	H-5 ②	壙底	長さ 8.7 幅 4.4 厚さ 0.9 重さ 69.5	石斧		
153-10	H-5 ⑨	壙底	長さ 9.65 幅 3.8 厚さ 2.15 重さ 121	石斧		
153-11	H-5 ⑫	壙底	長さ (11.2) 幅 6.5 厚さ 1.55 重さ (193)	石斧		
154-12	H-5 ⑩	壙底	長さ 8.1 幅 7.35 厚さ 2.5 重さ 132	フレイク		頁岩
154-13	H-5 ③	壙底	長さ 3.1 幅 2.7 厚さ 1.15 重さ 12.8	フレイク	黒曜石	
154-14	H-5 ⑤	壙底	長さ 6.45 幅 2.9 厚さ 2.35 重さ 57.5	矢柄研磨器	砂岩	
154-15	H-5	覆土	長さ 2.75 幅 0.5 厚さ 1.8 重さ 1.8	石鏃	黒曜石	
154-16	H-5	覆土	長さ 2.4 幅 0.4 厚さ 1.45 重さ 1.1	石鏃	黒曜石	
154-17	H-5	覆土	長さ 2.75 幅 1.7 厚さ 0.6 重さ 1.7	石鏃	黒曜石	
154-18	H-5	覆土	長さ 2.35 幅 0.4 厚さ 1.3 重さ 0.8	石鏃	黒曜石	
154-19	H-5	覆土	長さ 2.5 幅 0.35 厚さ 1.1 重さ 0.7	石鏃	黒曜石	
154-20	H-5	覆土	長さ 4.1 幅 0.4 厚さ 1.7 重さ 1.5	石鏃	黒曜石	
154-21	H-5	覆土	長さ 3.9 幅 2.2 厚さ 0.75 重さ 4.0	石鏃	黒曜石 被熱	
154-22	H-5	覆土	長さ 4.05 幅 2.55 厚さ 0.7 重さ 4.6	石鏃	黒曜石	
154-23	H-5	覆土	長さ 3.8 幅 1.1 厚さ 0.75 重さ 3.5	ドリル	頁岩	
154-24	H-5	覆土	長さ 8.55 幅 3.3 厚さ 0.7 重さ 19.8	スクレイパー	頁岩	
155-1	FP-9	覆土	長さ (3.1) 幅 1.8 厚さ 0.45 重さ (2.2)	石鏃	黒曜石 (0-31-25)	
155-2	FP-9	覆土	長さ 2.7 幅 1.8 厚さ 0.6 重さ 2.6	スクレイパー	頁岩	
156-1	FP-11	覆土	長さ 5.6 幅 4.65 厚さ 2.85 重さ 106.5	敲石	石英	
157-1	FP-12 ⑤		口径 12.0 底径 47.2 器高 13.2	深鉢		
157-2	FP-12 ①	覆土	口径 (16.8) 胴径 (17.6) 底径 (9.0) 器高 (16.7)	深鉢		
157-3	FP-12 ⑤		口径 (19.7) 底径 8.2 器高 23.5	深鉢		
158-4	FP-12	覆土	胴径 (13.2) 底径 6.8 器高 (8.4)	土器底部	黒曜石 黒曜石 黒曜石 チャート 頁岩 泥岩 黒曜石 砂岩 砂岩 砂岩	
158-5	FP-12	覆土	長さ 2.4 幅 1.25 厚さ 0.35 重さ 0.8	石鏃		
158-6	FP-12	覆土	長さ 3.2 幅 2.3 厚さ 0.8 重さ 4.1	石鏃		
158-7	FP-12	覆土	長さ (2.45) 幅 2.1 厚さ 0.5 重さ (2.1)	石鏃		
158-8	FP-12	覆土	長さ 7.2 幅 (3.05) 厚さ 0.75 重さ 16.4	スクレイパー		
158-9	FP-12	覆土	長さ 16.55 幅 4.05 厚さ 1.8 重さ 42.2	スクレイパー		
158-10	FP-12	覆土	長さ (6.0) 幅 4.2 厚さ 1.8 重さ (56.5)	石斧		
158-11	FP-12	覆土	長さ 4.9 幅 4.5 厚さ 3.25 重さ 86.5	原石		
158-12	FP-12	覆土	長さ 6.95 幅 5.7 厚さ 5.5 重さ 312	敲石		
158-13	FP-12	覆土	長さ 9.35 幅 5.75 厚さ 2.9 重さ 230	擦石		
158-14	FP-12	覆土	長さ 14.2 幅 11.0 厚さ 3.8 重さ 545	擦石		
160-1	FP-14 ①②	覆土		拓本土器		口縁部
160-2	FP-14	覆土	底径 6.6 器高 (4.7)	土器底部		

図版No-遺物No	出土遺構	層位	計測値 (cm) (g)	名称・分類	備考
160-3	FP-14	覆土		拓本土器	口縁部
160-4	FP-14①	覆土	底径 8.4 器高 (3.0)	土器底部	
161-5	FP-14①	壙底	口径 (22.7) 胴径 (24.0) 器高 (24.4)	深鉢	
161-6	FP-14	覆土	口径 12.8 器高 (14.0)	深鉢	
161-7	FP-14②	覆土	口径 30.0 胴径 35.0 器高 (42.4)	甕	
162-1	集石1		長さ (3.3) 幅 1.05 厚さ 0.9 重さ 5.2	水晶	K-34-14Ⅲ

図版No-遺物No	出土地点	層位	計測値 (cm) (g)	名称・分類	備考
163-1	O-33-12	Ⅳ	口径 (7.0) 胴径 (15.5) 底径 (7.6) 器高 18.0	壺	
163-2	O-33-16	Ⅳ	口径10.0 器高 (22.3)	壺	
163-3	K-33-17	Ⅳ	胴径 5.9 底径 4.6 器高 16.2	深鉢	
163-4	カクラン一括	カクラン	口径 (7.7) 胴径 7.8 底径 3.2 器高 9.7	深鉢	
163-5	M-34-(03/08)	Ⅲ	口径 14.6 底径 5.8 器高 12.5	深鉢	
164-6	M-32-08	Ⅲ	長さ 3.55 幅 1.55 厚さ 0.5 重さ 1.7	石鏃	黒曜石
164-7	M-33-11	Ⅲ	長さ 2.5 幅 1.25 厚さ 0.3 重さ 0.8	石鏃	黒曜石
164-8	M-34-13	Ⅲ	長さ 2.3 幅 1.2 厚さ 0.4 重さ 0.8	石鏃	黒曜石
164-9	M-32-18	Ⅳ	長さ 3.2 幅 1.25 厚さ 0.4 重さ 0.8	石鏃	黒曜石
164-10	M-32-18	Ⅳ	長さ 3.4 幅 1.1 厚さ 0.4 重さ 1.1	石鏃	黒曜石
164-11	K-34-12	Ⅲ	長さ 2.7 幅 1.2 厚さ 0.55 重さ 1.2	石鏃	頁岩
164-12	L-34-05	Ⅲ	長さ 4.4 幅 1.15 厚さ 0.5 重さ 1.4	石鏃	黒曜石
164-13	M-33-10	Ⅲ	長さ 4.7 幅 1.3 厚さ 0.4 重さ 1.4	石鏃	黒曜石
164-14	P-33-18	Ⅳ	長さ 3.55 幅 1.1 厚さ 0.6 重さ 2.5	石鏃	頁岩
164-15	K-34-08	Ⅲ	長さ 5.95 幅 3.35 厚さ 0.9 重さ 15.2	ナイフ	頁岩
164-16	P-33-09	Ⅳ	長さ 6.2 幅 4.8 厚さ 0.9 重さ 20	ナイフ	頁岩
164-17	M-34-10	Ⅲ	長さ (4.7) 幅 3.35 厚さ 0.85 重さ (13.8)	ナイフ	頁岩
164-18	N-34-06	Ⅲ	長さ 5.9 幅 3.5 厚さ 0.9 重さ 15.2	ナイフ	頁岩
164-19	M-34-07	Ⅲ	長さ 7.05 幅 3.1 厚さ 0.65 重さ 14.2	ナイフ	黒曜石
164-20	P-32-07	Ⅳ	長さ 8.05 幅 3.9 厚さ 1.2 重さ 44.0	スクレイパー	チャート
164-21	K-33-07	Ⅳ	長さ 5.2 幅 3.8 厚さ 0.8 重さ 13.0	ナイフ	黒曜石
164-22	O-33-12	Ⅳ	長さ 3.7 幅 2.6 厚さ 1.0 重さ 7.7	スクレイパー	頁岩
165-23	L-34-13	Ⅲ	長さ 8.7 幅 4.1 厚さ 1.85 重さ 105	石斧	泥岩
165-24	P-33-25	Ⅳ	長さ 7.85 幅 4.45 厚さ 1.45 重さ 69.0	石斧	泥岩
165-25	N-32-18	Ⅳ	長さ 8.4 幅 3.75 厚さ 1.45 重さ 73.5	石斧	粘板岩
165-26	M-34-18	Ⅲ	長さ 5.35 幅 2.5 厚さ 0.4 重さ 5.9	垂飾	泥岩
165-27	M-34-08	Ⅲ	長さ (10.5) 幅 4.4 厚さ 4.4 重さ (162)	魚形石器	砂岩
165-28	P-33-13	Ⅳ	長さ 12.0 幅 3.5 厚さ 2.7 重さ 155	砥石	砂岩
165-29	K-34-13	Ⅲ	長さ 13.25 幅 4.7 厚さ 3.7 重さ 302	敲石	安山岩
165-30	M-33-10	Ⅲ	長さ 6.9 幅 5.9 厚さ 3.2 重さ 86.0	砥石	軽石
165-31	K-34-13	Ⅲ	長さ 11.7 幅 9.3 厚さ 3.95 重さ 566	敲石	安山岩

第V章 総括

大川橋線街路事業に伴う発掘調査は平成9年度から13年度にかけて、余市川改修事業と連動して大川遺跡の発掘調査が実施された。

この遺跡は縄文時代から擦文時代にかけての墓壙群、さらに近世のアイヌ墓も発見され、同一地域の葬制の推移を見ることが出来る貴重な遺跡と言える。

墓壙の分布をみると砂丘の発達とともに上流に縄文時代晩期、下流にしたがって続縄文時代、擦文時代となっている。

平成12年度の調査では縄文時代晩期～続縄文時代の墓壙、中世の墓壙（P-9）、近世・近代のアイヌ墓壙が発見されている。

服部地点では、近世・近代にかけてのアイヌ墓壙が多く確認されている。しかし、ほとんどが攪乱をうけており、一部では人為的に盗掘したのではないかと思われるものがある。

迂回路地点では平成11・12年度にかけて中世の墓壙（P-9・41）が調査され、従来知られていない配石（敷石）を伴う方形墓壙（P-41）が確認され、楕円形、隅丸長方形を呈する他の中世墓との比較することが可能となったと言える。

道道地点では続縄文時代恵山式期の墓壙が多く発見されている。形態は楕円形または円形を呈し、副葬品として完形土器、石器（石鏃、スクレイパー、石錐、石斧）、コハク製平玉、剥片などが多量に見られるようになり、遺体は屈葬で頭位は東方向を向くことが多いようである。その中には後北式との共伴関係が確認されているが、後北式期の墓壙はほとんど確認されておらず不明な点が多く残されている。

平成13年度の調査では縄文時代晩期の土壙、近世・近代のアイヌ墓壙が発見されている。平成9年度に発掘調査された大川遺跡と時期的には並行するもので亀ヶ岡式文化の影響を受けた土器群が出土している。近世・近代のアイヌ墓壙では、鉄鍋を副葬しているものが発見されている。

以上のように要点のみを記してきたが、大川遺跡は縄文時代晩期前半から墓域として設定されていたらしく、続縄文時代まで継続されている。墓壙の形態、副葬品、遺体の頭位方向などに相違がみられ、変遷を知る上で重要である。

さて、余市の名が最初に文献として現れるのは松前藩の歴史書『新羅之記録』（正保三年・1646）であり、15世紀後半には松前以東は鶴川、西は余市まで和人が居住していたように書かれており、大川遺跡出土の中世墓と遺物をどのように理解すべか今後の課題と言える。

この報告書が既刊の『大川遺跡発掘調査報告書』と併用され、今後多くの方々に活用していただければ幸いと存じます。

引用・参考文献（年代順）

- 寺田 貞次 1919「余市附近の土地と古代住民」『北海道人類学会雑誌』 1
- 小金井良精 1921「アイノの人類学的調査の思ひ出」『ドルメン』 4-7
- 久保寺逸彦 1956「北海道アイヌの葬制」『民族学研究』 21-1.2.3.4
- 名取 武光 1960「網と釣の覚書」『北方文化研究報告』 15
- 藤本 英夫 1960「北海道日高国新冠村大狩部の墳墓遺跡」『古代学』 9-3
- 名取武光他 1961『大川遺跡』余市町教育委員会
- 吉崎 昌一 1965「縄文文化の発展と地域性～北海道」『日本の考古学』 II
- 竹田 輝雄 1969「北海道」『新版考古学講座』 3
- 名取武光他 1970『フゴッペ洞窟』
- 峰山 巖他 1971『天内山』余市町教育委員会
- 野村 崇 1975「いわゆる亀ヶ岡式土器の北方伝播について」
『北海道開拓記念館研究年報』 4
- 石附喜三男 1976「鈴谷式土器の南下と江別式土器」『北海道考古学』 12
- 野村 崇 1976『札苅～北海道上磯郡木古内町における縄文時代晩期土墳墓の調査』
北海道開拓記念館
- 林 謙作 1976「亀ヶ岡文化論」『東北考古学の諸問題』
- 萱野 茂 1978『アイヌの民具』
- 大沼 忠春 1980「続縄文文化」『北海道考古学講座』
- 宇田川 洋 1980『アイヌ考古学』
- 加藤 邦雄 1980「縄文文化後期・晩期」『北海道考古学講座』
- 高橋 正勝 1980『アヨロ』
- 峰山 巖他 1980『瀬田内チャシ跡遺跡発掘調査報告書』北檜山町教育委員会
- 高橋 和樹 1981『瀬棚南川』瀬棚町教育委員会
- 高橋 正勝 1981『元江別遺跡群』江別市教育委員会
- 古泉 弘 1983『江戸を掘る』
- 田村 俊之 1983「北海道における近世の墓制」『北海道考古学』 19
- 出川 直樹 1983『やきもの鑑定入門』
- 村越 潔 1983『亀ヶ岡文化』考古学ライブラリー18
- 石橋孝夫他 1984『紅葉山33号遺跡発掘調査報告書』石狩町教育委員会
- 千代 肇 1984『続縄文文化』考古学ライブラリー25
- 1984『続縄文時代の生活様式』考古学ライブラリー29
- 西本 豊弘 1984「北海道の縄文・続縄文文化の狩猟と漁労」
『国立歴史民俗博物館研究報告』 4

- 野村 崇 1984 「北海道の亀ヶ岡文化」『北海道の研究』 1
- 平川 善祥 1984 「近世アイヌ墳墓の考古学的研究」『北海道の研究』 2
- 松下 亘 1984 「北海道出土の中国磁器」 同 上
- 吉岡 康暢 1984 「北海道の中世陶器」 同 上
- 矢吹 俊男 1985 「縄文時代の墓制」『続北海道5万年史』
- 石附喜三男 1986 『アイヌ文化の源流』
- 高橋和樹他 1986 『ユオイチャシ跡・ポロモイチャシ・二風谷遺跡』
北海道埋蔵文化財センター
- 海保 嶺夫 1987 『中世の蝦夷地』
- 松崎水穂他 1987 『上ノ国漁港遺跡』上ノ国町教育委員会
- 宇田川 洋 1988 『アイヌ文化成立史』
- 江坂輝弥他 1988 『装身具と骨角製漁具の知識』考古学シリーズ13
- 大橋 康二 1988 『別冊太陽～古伊万里』
- 大竹 憲治 1989 『骨角器』考古学ライブラリー53
- 菊池徹夫他 1989 『よみがえる中世～北の中世』
- 藤田富士夫 1989 『玉』考古学ライブラリー52
- 吉岡 康暢 1989 『日本海域の土器・陶磁』
- 長沼 孝他 1990 『余市町栄町5遺跡』北海道埋蔵文化財センター
- 福田 友之 1990 「津軽海峡の先史文化交流」『考古学古代史論考』
- 藤澤 良祐 1991 「瀬戸古窯址群Ⅱ」『瀬戸市歴史民俗史料館研究紀要』 X
- 松崎 水穂 1991 「北海道の城館」『中世の城と考古学』
- 宇田川 洋 1992 「アイヌ墓の成立過程」『北の人類学』
- 野村 崇 1992 「積丹半島における考古学研究の進展と遺跡の概況」
『北海道開拓記念館研究報告』 12
- 野村 崇他 1992 「北海道余市町フゴッペ洞窟出土の土器」
『北海道開拓記念館調査報告』 31
- 矢部 良明 1992 『日本やきもの史入門』
- 井汲 隆夫 1993 『江戸のやきものと暮らし』新宿区内藤町遺跡調査会
- 大橋 康二 1993 『肥前陶磁』考古学ライブラリー55
- 1993 「大川遺跡出土の近世陶器」『1991年度大川遺跡発掘調査概報告』
- 田才 雅彦 1993 「続縄文時代後北期から擦文時代初頭の土墳墓について」
『二十一世紀の考古学』
- 森 秀之 1993 「北海道の遺跡から出土した金属製煙管の実年代」『北海道考古学』 29
- 大橋 康二 1994 『古伊万里の文様』

- 吉岡 康暢 1994『中世須恵器の研究』
- 岩手県立博物館 1995『縄文発信～岩手県立博物館調査研究報告』11
- 菊池 徹夫 1995「遺跡に見る中世蝦夷地の風景」
『中世の風景を読む～蝦夷の世界と北方交易』
- 菊池 俊彦 1995「北東アジアからみた古代の余市」
『北からの日本史～地域・民族・国家』『余市シンポジウムの記録』
- 瀬戸市埋蔵文化財センター 1995『古瀬戸をめぐる中世陶器の世界』
- 田島 佳也 1995「場所請負制後期のアイヌの漁業とその特質」
『前近代の日本と東アジア』
- 中世土器研究会編 1995『概説 中世の土器・陶磁器』
- 中川 裕 1995『アイヌ語辞典』
- 長谷部楽爾他 1995『日本出土の中国磁器』
- 本間 元樹 1995「続縄文文化の鉄器」『北海道考古学の諸問題－北海道考古学』31
- 瀬川 拓郎 1996「擦文文化の終焉－日本海沿岸集団の形成と日本海交易の展開」
『物質文化』61
- 鈴木靖民編 1996『古代蝦夷の世界と交流～古代王権と交流』1
- 高瀬 克範 1996「恵山文化における魚形石器の機能・用途」『物質文化』60
- 学習研究社 1997『古伊万里の見分けかた』暮らしの本6
- 阿部 朝衛 1998「副葬品としての石鏃」『時の絆～道を辿る』
- 石井 淳 1998「後北期における生業の転換」『考古学ジャーナル』439
- 乾 芳宏 1998「恵山文化の北方伝播について」『列島の考古学』
- 菊池 俊彦 1998「サハリンの鈴谷式土器」『時の絆～道を辿る』
- 国立歴史民俗学博物館 1998『陶磁器の文化史』
- 越田賢一郎 1998「北国の鉄鍋」『白い国の詩』11
- 小柳リラコ 1998「近世墓～カプト・ソーランラインの巻」『時の絆～道を辿る』
- 佐藤和雄他 1998『茂別遺跡』北海道埋蔵文化財センター
- 佐藤 剛 1998「北海道出土のいわゆる赤穴式土器について」『北方の考古学』
- 中田 裕香 1998「北海道美沢川流域における縄文時代晩期中葉から後葉の土器について」
『北方の考古学』
- 宮 宏明 1998「中・近世と古墳時代の特殊な刀子」『人類史研究』10
- 渡辺 俊一 1998「縄文時代の焼人骨・火葬墓について」『北方の考古学』
- 青野 友哉 1999「碧玉製管玉と琥珀製玉類からみた続縄文文化の特質」
『北海道考古学』35
- 1999「大洞～恵山式土器の墓と副葬品」『海峡と北の考古学』

- 加藤 秀幸 1999『家紋大図鑑』
- 工藤竹久他 1999『東通村史』
- 高瀬 克範 1999「恵山式土器群の成立・拡散とその背景」『北海道考古学』34
- 東京大学埋蔵文化財調査室 1999「東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類（1）」
『東京大学構内遺跡調査研究年報』2
- 松崎 水穂 1999「勝山館～変貌するアイヌ社会と抬頭する和人社会の接点」
『別冊歴史読本』24-16
- 石川 直章 2000「ヌッチ川遺跡出土の銚先」『余市水産博物館研究報告』3
- 岡田淳子他 2000『大川遺跡における考古学的調査』Ⅰ 余市町教育委員会
- 乾 芳宏他 2000『大川遺跡における考古学的調査』Ⅱ 余市町教育委員会
- 2000『大川遺跡における考古学的調査』Ⅲ 余市町教育委員会
- 2000『1998年度大川遺跡』余市町教育委員会
- 2000『1998・1999年度入舟遺跡』余市町教育委員会
- 宇田川 洋 2000『増補アイヌ考古学』
- 佐藤 利雄 2000「大川・入舟遺跡の歴史的概要について」
『余市水産博物館研究報告』3
- 長沼 孝 2000「続縄文文化」『季刊考古学』70
- 網野善彦他 2001『北から見直す日本史』
- 安西雅希他 2001『1999年度大川遺跡発掘調査報告』余市町教育委員会
- 乾 芳宏他 2001『大川遺跡における考古学的調査』Ⅳ 余市町教育委員会
- 江戸遺跡研究会編 2001『図説 江戸考古学研究事典』

付編 1 迂回路地点P-9 出土の火葬人骨について

札幌医科大学 乗安整而・谷口圭吾

大川遺跡の迂回路地点P-9（『1999年度 大川遺跡発掘調査報告書』）からの火葬人骨は、ほとんどが頭蓋の骨である。一部上肢を含むので後述する。

頭蓋は、上顔面部、頭蓋冠部、および僅少の頭蓋底部が残存している。火葬のため骨は歪んでいる。左の上顎骨が欠損している上顔面部の接合は可能であったが、この部も完全ではなく歪みが生じている（写真1）。下顎骨は残存していない。残存している頭蓋片にみられるいくつかの縫合は複雑であり、内・外板ともに閉鎖箇所はない。上顔面部では、眉間や眉弓の発達は極めて弱く、鼻根の陥凹は浅い。眼窩の形態は、歪みがあるので計測できないが、おおよそ左右とも矩形を呈する。また右眼窩上縁には前頭切痕が認められる。梨状口の形態は細く、狭鼻に属すると思われる。歯は残存していない。残存している右上顎骨では全歯槽が認められる。しかし第3大臼歯の歯槽はかなり後方に向かって開放しており、第3大臼歯は萌出していないと考えられる。また頬骨上顎縫合が完全に癒合していない。上顔面部全体では、顔面部の幅と比較して眼窩部が大きい印象を与える。

頭蓋骨以外では、左右の判定できない上腕骨頭の一部が残存する。また同様に左右および何番目の指か判定不可能な中手骨頭が一個残存する（写真2）。この中手骨頭には火葬による亀裂とは異なる切線が認められる。これは中手骨の骨端と骨体がまだ完全に癒合していない状態を示している。この癒合状態から、男であれば15、16歳、女であれば14、15歳くらいの年齢であると判断される。

全体的には、頭蓋の縫合および前頭眼窩上部の状態、顔面部における眼窩の大きさの割合、中手骨の癒合状態等を考慮すると、男女の判定は困難であるが青年期に達していない和人の人骨と考えられる。

付編 2 大川遺跡迂回路地点出土漆器資料の材質・技法

くらしき作陽大学 北野 信彦

1. はじめに

余市大川遺跡迂回路地点からは近世アイヌ墓をはじめとする貴重な遺構・遺物が多数検出され、漆器資料も多く含まれていた。今回、余市町教育委員会の御厚意によりこれら漆器資料の材質・技法について自然科学的手法を用いた調査を行う機会を得たので、本報ではこの調査結果を報告する。なお、これまでに隣接する余市入舟遺跡の港湾地区出土漆器資料についても同様の調査を行ったので、その調査結果も比較資料として併せて掲載する。

2. 調査方法

漆器資料は、陶磁器資料と比較して、木胎・塗り・加飾等、材質や製作技法に関する属性が多く、これらの品質は自然科学的手法による調査を行うことによって、より客観的にとらえやすい。そのためこのような漆器資料の材質と製作技法を調査することは、個々の資料の性格を正確に把握する上で有効な方法であり、これらが出土した遺構・遺跡の性格自体を考える上でも意味があるものと考えている。本報では、これら漆器資料の形態、漆塗り面の状況を表面観察した後、(1)用材選択、(2)木取り方法、(3)漆膜面の漆塗り構造、(4)色漆の使用顔料、(5)蒔絵材料、等の項目別に自然科学的な手法を用いた分析を行った。ここではまず、その調査方法を記す。

2.1 用材選択（樹種同定）

樹種の同定作業は、出土木材の細胞組織の特徴を生物顕微鏡で観察し、その結果を新材と比較することでなされる。試料は、カミソリの刃を用いて遺物本体をできるだけ損傷しないように、破切面などオリジナルでない面から木口、柾目、板目の三方向の切片を作成した。切片はキシレン・サフラニンにより脱水および染色して検鏡プレパラートに仕上げた。

2.2 木取り方法

挽き物類である漆器資料の木取り方法の調査は、樹種同定の切片作成時に細胞組織の方向を生物顕微鏡で確認することで、同時に行なった。

2.3 漆膜面の塗り構造

まず肉眼で漆器資料の漆塗り表面の状態を観察した後、簡易顕微鏡を用いた細部の観察を行なった。次に1mm×3mm程度の漆膜片を漆器資料から採取して合成樹脂（エポキシ系樹脂／アラルダイトGY1251JP、ハードナHY837）に包埋した後、断面を研磨し、漆膜の厚さ・塗り重ね構造・顔料粒子の大きさ・下地の状態等について金属顕微鏡による観察を行った。

2.4 色漆の使用顔料および蒔絵材料の定性分析

色漆に用いられた顔料および蒔絵材料である金属粉の無機物に関する定性分析には、先の漆膜片をカーボン台に取り付け、日立製作所S-415型の走査電子顕微鏡に堀場製作所EMAX-2000エネルギー分散型電子線分析装置（EPMA・電子線マイクロアナライザー）を連動させて用いた。分析設定時間は500秒である。

2.5 分析結果の集計方法

個々の漆器資料からもっとも一般的な8つ(Aタイプ)もしくは9つ(Bタイプ)の材質や製作技法上の優劣ランクの項目を抽出し、それぞれの比率を総個体数の中で計算する。この結果をレーダーチャート方式で図化するものである。

(Aタイプ集計方法)

レーダー中心軸・上の項目には一括出土漆器資料の加飾率(一括の総個体数の中で漆絵や家紋などの装飾を施した資料が占める割合)を取る。その右側にベンガラ・炭粉下地・ブナ材などのいわゆる廉価で簡素な量産型漆器資料の材質および製作技法上の特徴を取り、それと相対する左側には、朱・サビ下地・ケヤキ材などの優品資料の特徴を示す項目をとる。さらに中心軸・下にランク的にもケヤキ・ブナ材のほぼ中間に位置すると考えられるトチノキ材の占有比率(%)をそれぞれ配置した。この配置で示されるレーダーチャートは、その重点が右に寄るほどランク的に廉価な資料が多いことを、左に寄るほど優品資料の占める割合が高いことを示す。

(Bタイプ集計方法)

レーダー中心軸・上の項目には一括出土漆器資料の加飾率(一括の総個体数の中で漆絵や家紋などの装飾を施した資料が占める割合)を取る。その右側にベンガラ・炭粉下地・スズ(Sn)粉・石黄(As₂S₃)粉などのいわゆる廉価で簡素な量産型漆器資料の材質および製作技法上の特徴をとり、それと相対する左側には、朱・サビ下地・金(Au)粉などの優品資料の特徴を示す項目をとる。さらに中心軸・下にランク的にもケヤキ・ブナ材のほぼ中間に位置すると考えられる銀(Ag)粉の占有比率(%)をそれぞれ配置した。

3. 調査結果

今回、調査を行った余市大川迂回路地点出土漆器資料は、近世アイヌ墓関連資料(副葬品)をはじめとする中・近世の挽き物類および板物類を中心とした58点、および幕末～明治初年頃の余市漁場資料も含む余市入舟遺跡港湾地区(1998・1999年度)出土漆器資料80点の合計138点である。以下、各項目別の調査結果を示す(表1)。

3.1 用材選択

本漆器資料の場合、木質部の残存状況は良好でない資料が多く、樹種同定が可能であった資料はすべて余市入舟港湾地区出土資料のみであった。そのため本報の中核を為す大川遺跡迂回路地点のその状況については用材選択の傾向を把握することはできなかった。入舟遺跡港湾地区出土の挽き物類である椀・蓋等の樹種にはケヤキ等のニレ科16点、モクセイ科シオジ1点、ブナ科ブナ17点、トチノキ科トチノキ4点、サクラ亜属等のバラ科3点、ハンノキ・ニワトコ等のカバノキ属3点、カエデ属1点などの広葉樹8種類が、板物類にはヒノキ科ヒノキ4点、スギ科スギ2点、マツ科マツ2点等の針葉樹3種類とともに広葉樹であるモクセイ科ホオノキ12点が確認された。それ以外の塗箸等の器物にはタケ6点の確認された。これらの木材の組織、工作の難易、割れ狂い、色光沢、塗り等を考慮に入れて分類すると(表2)に示すようになる(注1)。

その上で本漆器資料の用材選択の傾向をみると、優材であるケヤキ・シオジ材・ヒノキ材等と、加工や入手の容易さという大量生産の点からみて極めて一般性が高いと考えられる適材のトチノキ・ブナ材・マツ材等の2つのグループに大別された。

3.2 木取り方法

樹種同定が可能であった本資料の木取り方法は、いずれも板目取りもしくは柁目取りの横木地であった。挽き物類である近世出土漆器の木取り方法は、堅木地に比較して横木地を用いる例が大半であり、堅木地の場合も木芯を外した材を利用する例が一般的である(図1)。これは木材の割れ狂い、収縮等を考慮に入れて漆器自体の品質を重視したため、不都合な木取り方法が自然淘汰された結果と考えている。この点からも、本資料の木胎製作の工程は、一貫してそれぞれの材の性質を考慮に入れた可能性が指摘されよう。

3.3 漆膜面の塗り構造

漆器表面の漆塗り技法は、大きく分けて無文様で地塗りのみの資料と、家紋等の漆絵文様を地外面に描く資料、さらには蒔絵等きわめて高度な漆工技法をもつ資料に分かれた。これらの漆膜面の塗り構造、特に、各漆器の堅牢性を知る目安となる木胎と漆塗り層との間の下地層を定性分析してみると、ピークがほとんど見出だされない資料と、粘土鉱物もしくは珪藻土の構成要素に近いピークが認められる資料の2種類に分けられた。これらをさらに金属顕微鏡で観察することにより、前者を炭粉を柿渋などに混ぜて用いる炭粉下地、後者を細かい粘土もしくは珪藻土を生漆に混ぜて用いるサビ下地(堅下地もしくは本下地ともいう)であると認識した(注2)。

次に、地の漆塗り層は、いずれも1層塗りから6層塗りまで見出だされ、簡素で一般的な日用漆器の塗り構造を持つ資料から布着せ補強を施すなどの堅牢性を重視した優品資料、さらには塗り直し資料に至るまで、幾つかのランクに分類された(図2)(注3)。そして加飾は、いずれも地の上塗り層の上に描かれていた(口絵24)。

3.4 赤色系漆の性質

赤色系漆の使用顔料の定性分析と顕微鏡観察の結果、これらはそれぞれベンガラ(酸化第二鉄 Fe_2O_3)、朱(水銀朱 gS)の二種類の異なる顔料を用いた赤色系漆であると理解した(図3)。ベンガラ・朱ともに赤色系顔料としての歴史は古い。しかし近世漆器の色漆顔料としては、幕府朱座を中心とした統制物資であった朱に比較して、江戸時代中期以降、人造ベンガラの工業生産化により量産体制が確立するベンガラの方が廉価で一般的となるようである(注4)。

本漆器資料の場合、簡素で一般的な塗り構造を持つ資料にはベンガラを、堅牢で複雑な多層塗り構造を持つ資料には朱を、また地内面にはベンガラを地外面の家紋等の加飾部分のみに朱を使用する等、明らかな朱・ベンガラの使い分け事例も見出されたが、基本的には朱を使用した資料が多く、これらも多層塗り構造を示すなど、他の近世出土漆器資料の傾向とは異なっていた(口絵24)。

3.5 蒔絵粉の材質

表面観察において金粉(金箔)もしくは金泥(金彩)によるとみられる家紋や絵柄等の蒔絵加飾部分の定性分析を行った結果、Au(金)が認められる資料の他、Ag(銀)、Sn(スズ)、As+S(石黄・硫化砒素 As_2S_3)のそれぞれ異なる材質が見出だされた。また、金(Au)+銀(Ag)等の混合粉を使用する例も見出だされた(図3)。

江戸期の各種文献資料には、漆器に蒔絵や梨子地等の加飾を施すこと自体が、寛文年間以降しばしば発せられる奢侈禁止令によって各社会階層毎に厳しく制限されていたこと(注5)や、これら金・銀・錫等の材質別の蒔絵漆器に、明確な価格差が存在したこと(注6)等

が、知られる。そのためか、金(Au)自体を使用した近世蒔絵漆器は、通常の近世遺跡出土漆器資料には少なく、大半は代用蒔絵粉材料を用いた銀・錫・石黄蒔絵資料が中心である。本資料の場合、梨子地や色漆や生漆の上に蒔絵粉を蒔くいわゆる高蒔絵や平蒔絵の高度な技術を用いた金蒔絵資料が比較的多く、この点も他の近世遺跡出土漆器資料とは異なる傾向であろう(口絵24)。

4. 考 察

以上、前項では項目別に各出土漆器資料の材質および製作技法の在り方をみた。本資料は、椀・蓋・皿型を中心とした挽き物類および膳等の板物類である。これらはそれぞれ当時の基本的な飲食器類である飯椀・汁椀・壺椀や平椀(菜椀)および菜皿、等に対応するものであろう。そしてこれらに杓子型や腰高、酒盃・棗等、若干嗜好性が高い資料、さらには近世アイヌの方々が指向する盃台(天目台)やシントコ(行器)等のアイヌ漆器と呼称される資料もいく例か加わった器種構成となっていた。これらの材質・技法という生産技術面から各出土漆器資料の在り方をみた結果、本資料は、木胎・漆塗り技法・使用顔料ともに簡素な素材からなる極めて一般的で廉価な日常什器類から、吟味された素材からなる堅牢で複雑な漆工技法を有する優品資料に至るまで、幾つかのランク別のグループに分類されたが、材質・技法上の組成の傾向を相対的に理解するためにそれぞれレーダーチャート方式で集計した結果、大川迂回路地点出土資料を中心として優品資料の占有率が他の近世遺跡出土資料のそれと比較してみても極めて卓越する傾向が見出された(図4)。このような漆器資料のグループ毎の違いは、文化的背景を含むそれぞれの漆器資料の製作年代、これら什器を使用しさらには投棄した使用階層の社会的・経済的背景(生活様式)、地域性、什器類の使用目的や方法、さらには個々の漆器生産地の製作技術、等さまざまな条件が反映されたものであろう(注8)。本資料の場合、蒔絵漆器には高度な技術を用いた優品資料が比較的多く、かつ地塗り漆にも塗り直し補修や布着せ補強を施すなどの多層塗り資料が比較的多く見出された。さらに、根来椀・膳と呼称される堅牢性を重視した多層塗り構造を有する朱漆器類、琉球漆器との関連性が強く想定される沈金技法が加飾された朱漆器片、会津絵椀等の東北系漆器との関連性が想定される資料等、多彩な漆器資料の存在が確認された。この点が、本資料の大きな特徴の一つといえる。この背景には、やはり中世～近世にかけて中核的な海運センターとしての機能も果たした『余市浦方社会』の地域的・社会的な特殊性が、何らかの形で反映しているものと考え(注9)。すなわち余市入舟・大川両遺跡は、豊かな日本海漁業資源を背景とした漁村的性格と北回りルート of 物資流通機構の重要拠点としての都市的性格の両面併せもつ余市場所を含めた浦方社会を背景としている。各種文献史料によると、基本的な器型別、蒔絵加飾の技法別、地塗の種類別、生産地(もしくは調達先)別、明らかに蝦夷地輸出向けに作成されたであろう漆器品目など、近世の「余市場所」を含む蝦夷地浦里へは極めて多彩な漆器が調達されていたことが記述されている(文献史料参照)。いずれにしてもこのような文献史料に管見される漆器のいずれかが本漆器資料にも対応するのであろう。

今後の課題は、陶磁器類をはじめとする他の共伴遺物や遺構の性格との相互関連性を総合的に比較・検討していくことである。この検討作業を行うことが、本出土漆器資料の性格をさらに的確に理解する上で大切なことと考えている。

(謝 辞)

調査を行なうにあたり、余市町教育委員会・余市水産博物館学芸員の乾芳宏氏、大川遺跡調査事務所の小川康和・岡崎次郎・安西雅希氏はじめとする多くの方には、出土漆器資料の分析および資料の収集等で大変お世話になりました。厚く謝意を表します。

なお、本調査は1999-2001年度文部省科学研究費基盤研究(C)細目：文化財科学「出土蒔絵漆器における劣化現象の把握とその保存に関する基礎的研究(研究代表者：北野信彦)」の成果の一部を含む。

(注)

(1)ろくろ挽き物である近世出土漆器の用材には、早晚材の組織の差が少ない広葉樹の散孔材もしくは環孔材ではあるが靱性がある材が適材として用いられており、ケヤキ(近世初期段階ではシオジ)・トチノキ・ブナ材はその代表的な樹種である。

北野信彦(2000)「近世出土漆器の用材選択に関する一考察」

『考古学と自然科学 第38号』p.47-66、日本文化財科学会

(2)なお一部の資料については細かい粘土や珪藻土をにかわ等に混ぜて用いる泥下地(堅下地・本下地より堅牢性に欠ける)の可能性もある。しかし出土資料のにかわと生漆の明確な科学的識別が技術的に困難な現在、両者をまとめてサビ下地とした。

北野信彦(1993)「近世出土漆器資料の保存処理に関する問題点・1-文献史料からみた量産型漆に使用する混和剤を中心として-」『古文化財之科学 第38号』p.65-79、古文化財科学研究会

(3)このような近世漆器の製作技法の在り方を示す民俗事例の1つに、新潟県糸魚川市大所の小椋丈助氏による実用に即した近世木地師、漆器碗の製作技法に関する口承資料がある。それによると[上品]布着せ補強(碗の欠け易い縁や糸じりに麻布を巻く)~サビ下地(砥の粉を生漆に混ぜたサビを二回塗布)~下塗り(生漆)~上塗り(生漆に赤色系顔料もしくは黒色系顔料を混ぜた赤色系漆もしくは黒漆)の工程をふみ、人一代は持つ堅牢なもの。[下品]炭粉下地(柳や松煙を柿渋に混ぜて用いるサビ下地の代用下地)~上塗り(生漆の使用量を節約するために偽漆である不純物を多く混入している粗悪な漆)。[中品]下品とほぼ同様の工程をふむが上塗りの漆を濃く塗布したりミガキを丁寧にしたりする。下品よりかなり持ちが良い。などとしており、各漆器ランク別の工程をよく示している。

文化庁文化財保護部編(1974)『木地師の習俗 民俗資料選集2』 国土地理協会

(4)江戸時代における朱とベンガラの価格表を検討してみると、江戸時代前期段階には両者海外輸入品が多いためか、相対価格差はほとんど見られない。しかし江戸時代後期頃の段階では、両者に約30倍ほどの相対価格差が見られ、とりわけ朱の高価さと入手困難さが指摘される。

北野信彦(2000)「ベンガラ・朱項目」『日本民俗大辞典』吉川弘文館

(5)江戸時代前期から徐々に定着化しつつあった雑道具類について、享保20年(1735)の尾張名古屋城下町の町衆に対する禁令には、「一、同諸道具、梨子地ハ勿論、蒔絵無用ニ可仕候、上之道具たりとも、黒塗ニ可仕候。(名古屋 叢書第三卷)」という記述がみられる。又、武家社会内部でも、万治三年(1660)の紀州徳川家(御家中祝言道具達)では、藩士

のランクを1万石から200石までの8段階に分け、道具揃や仕様を細かく規定している。その上で漆器である貝桶は2400石以下の者には調達が認められておらず、諸道具の蒔絵仕上げも同様に許されていない。(南紀徳川史 法令制度第四)

(6)寛延四年(1751)の『名古屋諸色直段集、寛延四未年小買物諸色直段帳』には、漆器の休漆技法別の価格が記載されている。この史料では、布着せ蠟色塗(上品)：常溜塗(中品)：常拭漆塗(下品)の相対価格差は、約51：3.4：1と算定される。

また、伊勢菰野藩土方家菩提寺である見性寺の見性寺文書には、伊勢桑名の塗物商ぬし興に提出させた見積書があるが、それによると家紋加飾に使用された金・銀・錫粉蒔絵の相対価格比率は、約18：6：1と算定され、いずれの事例からも材質や政策技法の違いにより、漆器資料には明確な価格差が存在したことが理解される。

北野信彦・肥塚隆保(2000)「近世蒔絵漆器の材質・技法に関する調査」

『考古学と自然科学 第38号』p.67-92、日本文化財科学会

(7)北野信彦(1993)「日常生活什器としての近世漆器碗の生産と消費」

『食生活と民具』p.81-101、日本民具学会編 雄山閣出版

北野信彦(2000)「生産技術面からみた近世出土漆器の生産・流通・消費」『日本考古学 第9号』p.71-96、日本考古学協会、吉川弘文館、等を参照されたい。

(8)江戸時代前期の元和年間(1618)に松前城下町に渡ったポルトガル人宣教師アンジェリスは、この地域には蝦夷地～大陸ルートで中国製品を含む多くの物資が運ばれてくる、活発な海上交易が存在することを報告している。

聖心女子大学カトリック文化研究所編(1962)『H・チースリク編 北方探検記－元和年間に於ける外国人の蝦夷地報告書－』49-59、吉川弘文館

(参照文献)

北野信彦(1999)「入舟遺跡出土漆器資料の材質と製作技法について」『入舟遺跡における考古学的調査－余市川改修事業に伴う1995・1997年度入舟遺跡発掘調査報告書』89-99、北海道余市町教育委員会

北野信彦(2000)「大川遺跡出土漆器資料の材質・技法について」『大川遺跡における考古学的調査余市川改修事業に伴う1989～1994年度大川遺跡発掘調査報告書』89-99、北海道余市町教育委員会

乾芳宏(2000)『余市町 入舟遺跡(1998・1999年度) 余市川改修事業および大川橋線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』p110、北海道余市町教育委員会

乾芳宏(2000)『余市町 大川遺跡(1998年度)大川橋線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』p104、北海道余市町教育委員会

佐藤利雄(2000)「大川・入舟遺跡の歴史的概要について」

『余市水産博物館研究報告 第3号』15-24、余市水産博物館

(引用文献)

沢口吾一(1966)『日本漆工の研究』美術出版社

佐々木利和(1995)『アイヌの工芸、日本の美術 No.354』至美堂

京都国立博物館(1995)『蒔絵 ー漆黒と黄金の日本美ー』特別展覧会図録

(文献史料)

(史料1) 文久二年(1862)『余市御場所諸書上 土人江壳渡直段書上』

「一、金具附蒔絵硯筐

内訳

八メ四百文より
十一メ二百文
十六メ八百文
二十二メ四百メ
二十八メ文迄
メ

一、黒皆朱耳盥

内訳

三メ九百文より
四メ五百文
五メ文
五メ六百文迄
金紋ちらし付
メ

同上 『土人諸品売物直段書上』

「一、一ッ椀 但
一、行器 但 上行器
中下

一、台盃

但 上
中

金紋散し付

一、皆朱井盥 但

一、黒 同 但

但内赤一掛散し付

一、皆朱湯当 但

一、中 同 但

一、金紋ちらし付台盃

内訳

二メ八百文より
三メ三百文
三メ九百文迄
金紋ちらし付絵櫃(えびつ)

一、黒皆木湯桶(ゆとう)

内訳

一メ七百文
二メ二百文
二メ八百文
三メ六百文
三メ九百文迄
金紋付 』

二ッに付米 一升

一、五十俵

一、其品に応じ

一 七俵より八俵迄

一、五俵迄

八俵より十俵迄

七俵より八俵迄

五俵より七俵迄

三俵より四俵迄其品に応じ 』

(史料2) 万延元年(1860)『上下余市御場所諸色品仕込書上(林家文書)』

「一、台盃 七十組

一、一ッ椀 三百入 三箇」

(史料3) 寛政十年(1798)『沖之口諸御役控並問屋儀定控』

「一、茶わん且徳利 壺箱 銭 十文

一、播鉢砂鉢 半戸 銭 八文

一、清水焼瀬戸物 銭 十五文

一、夷碗	壹箇	錢	六十五文
一、南部三ッ碗	壹箇	錢	六十五文
一、同 籠	七ッ組入壹箇	錢	六十五文
一、板折敷	廿五枚入	壹箇	十貳文
一、足付折敷	拾枚入	壹箇	八文
一、会津碗	拾人前	錢	八文 』

(史料4) 安政四年(1857)『玉虫左大夫宣茂 入北記』

「・南部一ッ碗、南部碗、日野碗、紋付日野碗、輪島一ッ碗、小田原鉢、小田原食籠、蝦夷碗、夷碗、夷台盃、土人碗
 ・蒔絵形付行器、蒔絵耳盃、蒔絵碗、蒔絵紋付一ッ碗、蒔絵付一ッ碗、紋付三ッ碗、皆朱並黒蒔絵、黒蒔絵盃、梨子地台盃、御成鉢
 ・内朱外黒台盃、赤碗、皆朱一ッ碗、朱一ッ碗、無地朱碗、皆朱盃、皆朱膳、赤酒桶、黒酒桶・行器、耳盃、角盃、紐付盃、大酒桶、台盃、一ッ盃、湯当、板折敷、三ッ組鴨々、玉手箱」

(史料5) 天保十年(1839)『クスリ御場所仕入物(加賀家文書)』

一、行器	七荷	一、蝦夷碗	千百
一、台盃	百通り	一、耳盃	八十ヶ
一、朱碗	八十	一、黒重鉢	貳ッ
一、皆朱重	五六寸之内貳組	一、同膳碗	拾人前」

(史料6) 天明8年(1777)『蝦夷産物平均訳書(松前交易直段付帳所収)』

「一、絹類古着木綿古手筆墨紙小間物

- 一、鐵物類刃物鍋釜瀬戸物家器類塗物古器物
- 一、加賀繩木網網糸碗船具の類竹木
- 一、畳床表簾菰繩履草鞋踏下駄

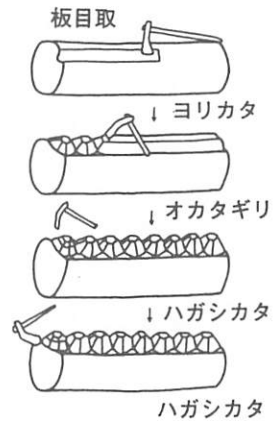
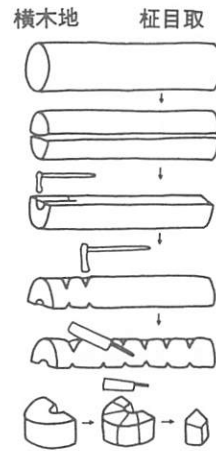
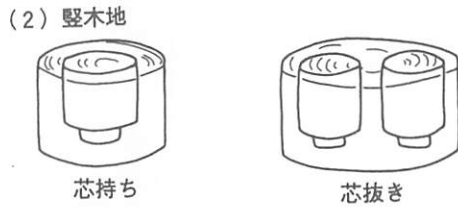
右四条之諸色は近江美濃能登諸州出店にて売買仕候物口錢無之店役被申運上金出し右諸品船数に積り大凡千石積船に貳拾艘程」

大川遺跡迂回・服部地点出土漆器観察表

No.	器型	樹種	木取	表面塗り技法			漆塗構造		使用顔料			備考 グリッド
				内	外	文様	内	外	内	外	文様	
1	椀	膜面のみ	-	赤	黒	外-絵-金	Ⅶ	Ⅶ	朱		Au・Au+Ag	梨子地蒔絵
2	椀	膜面のみ	-	赤	黒	外-絵-金	Ⅶ	Ⅶ	朱		Au・Au+Ag	梨子地蒔絵
3		膜面のみ	-	赤	黒	外-絵-金	Ⅶ	Ⅶ	朱		Au・Au+Ag	梨子地蒔絵
4	器物破片	膜面のみ	-	-	赤	外-絵-金箔	-	Ⅵ		朱	Au	琉球沈金 P-12
5.1		膜面のみ	-	-	黒		Ⅰ	Ⅰ				中世資料 P-41
5.2		膜面のみ	-	-	黒	外-絵-赤	Ⅰ	Ⅱ			朱	中世資料 P-41
5.3		膜面のみ	-	-	黒	外-絵-赤	Ⅰ	Ⅱ			朱	中世資料 P-41
5.4		膜面のみ	-	-	黒	外-絵-赤	Ⅰ	Ⅱ			朱	中世資料 P-41
6		膜面のみ	-	赤	-		Ⅰ	-		朱		中世資料 P-41
7		膜面のみ	-	赤	-		Ⅰ	-	ベンガラ			P-71①
8	椀	膜面のみ	-	赤	黒	外-絵-赤,黄	Ⅰ	Ⅱ	ベンガラ		ベンガラ,As+S	P-71②
9	椀	膜面のみ	-	赤	赤	外-絵-黒	Ⅴ	Ⅵ	朱	朱		P-71③
10	椀	膜面のみ	-	赤	黒		Ⅶ	Ⅶ	朱			付着補強 P-71④
11	挽物破片	膜面のみ	-	赤	黒		Ⅰ	Ⅰ	ベンガラ			P-72①
12	盃型	膜面のみ	-	赤	赤	外-絵-金	Ⅶ	Ⅶ	朱	朱	Au	P-72③
13	シントコ	膜面のみ	-	黒	黒		Ⅶ	Ⅶ				P-73
14		膜面のみ	-	赤	-		Ⅶ	-	朱			P-91①(外)
15		膜面のみ	-	赤	-		Ⅸ	-	朱			P-91①(内)
16		膜面のみ	-	黒	-		Ⅰ	-				P-41④
17	椀	膜面のみ	-	赤	黒	外-絵-赤	Ⅰ	Ⅱ	朱		朱	P-41⑤
18		膜面のみ	-	-	茶	外-絵-赤	-	Ⅱ			朱	P-41⑩
19		膜面のみ	-	赤	黒		Ⅲ	Ⅰ	朱			P-41⑨
20		膜面のみ	-	-	黒	外-絵-赤	-	Ⅱ			朱	P-41⑫
21		膜面のみ	-	-	黒		-	Ⅲ				P-41⑦
22		膜面のみ	-	赤	黒	外-絵-赤	Ⅰ	Ⅱ	朱		朱	P-41⑱
23		膜面のみ	-	赤	-		Ⅰ	-	朱ウルミ			P-41⑲
24		膜面のみ	-	-	茶		-	Ⅰ		朱ウルミ		P-41⑳
25		膜面のみ	-	赤	黒	外-絵-赤	Ⅰ	Ⅱ	朱ウルミ		朱ウルミ	P-41㉑
26		膜面のみ	-	-	黒		-	Ⅰ				P-41㉒
27	櫛	膜面のみ	-	黒	黒		Ⅰ	Ⅰ				P-41㉓
28		膜面のみ	-	赤	-		Ⅴ	-	朱			付着補強 P-91②
29		膜面のみ	-	赤	-		Ⅰ	-	ベンガラ			P-91
30		膜面のみ	-	赤	赤		Ⅸ	Ⅸ	朱	朱		P-91③
31		膜面のみ	-	赤	黒		Ⅰ	Ⅰ	朱			P-69
32	椀破片	膜面のみ	-	赤	赤		Ⅰ	Ⅰ	ベンガラ	ベンガラ		P-71①
34		膜面のみ	-	赤	黒	外-絵-金	Ⅰ	Ⅱ	ベンガラ		ベンガラ	P-72①
37		膜面のみ	-	赤	黒		Ⅶ	Ⅴ	朱			付着補強 b-27-25
38		膜面のみ	-	赤	黒		Ⅶ	Ⅴ	朱			付着補強 b-27-25
39	椀	膜面のみ	-	赤	赤		Ⅶ+Ⅴ	Ⅶ+Ⅴ	朱	朱		塗直し補強 b-27-21①
40		膜面のみ	-	赤	-		Ⅶ	-	朱			カクラン(内)
41		膜面のみ	-	-	黒		-	Ⅰ				カクラン(外) 40と同一
42		膜面のみ	-	赤	-		Ⅴ	-	朱			カクラン
43		膜面のみ	-	-	茶		-	Ⅲ		朱,As+S		カクラン
44		膜面のみ	-	赤	黒		Ⅰ	Ⅰ	ベンガラ			b-27-21②
45		膜面のみ	-	赤	-		Ⅲ	-	朱			服 P-21⑬
46		膜面のみ	-	-	黒		-	Ⅴ				服 P-21
47		膜面のみ	-	-	黒		-	Ⅴ				服 P-21
48		膜面のみ	-	赤	黒		Ⅰ	Ⅰ	ベンガラ			服 P-23④
49	椀破片	膜面のみ	-	黒	黒	外-絵-赤,金	Ⅶ	Ⅶ			朱, Au	服 P-23②
51		膜面のみ	-	赤	黒		Ⅴ	Ⅴ	朱			服 P-27
52		膜面のみ	-	赤	黒	外-絵-赤	Ⅴ	Ⅶ	ベンガラ		朱	服 P-27①
53		膜面のみ	-	赤	-		Ⅴ	-	朱			服 P-28(内)
54		膜面のみ	-	-	黒	外-絵-金	-	Ⅵ		ベンガラ, Au		服 P-28(外)
55	椀	膜面のみ	-	赤	黒	外-絵-赤,金	Ⅴ	Ⅵ	朱		朱, Au	服 P-29①
56	杯台	膜面のみ	-	黒	黒	外-絵-金	Ⅴ	Ⅵ			Au	服 P-29②
57		膜面のみ	-	赤	黒		Ⅰ	Ⅰ	ベンガラ			服 P-29④
58		膜面のみ	-	-	黒		-	Ⅴ				服 P-27
59		膜面のみ	-	赤	黒		Ⅸ	Ⅶ	朱			服カクラン

入舟遺跡（港灣地区）出土漆器観察表

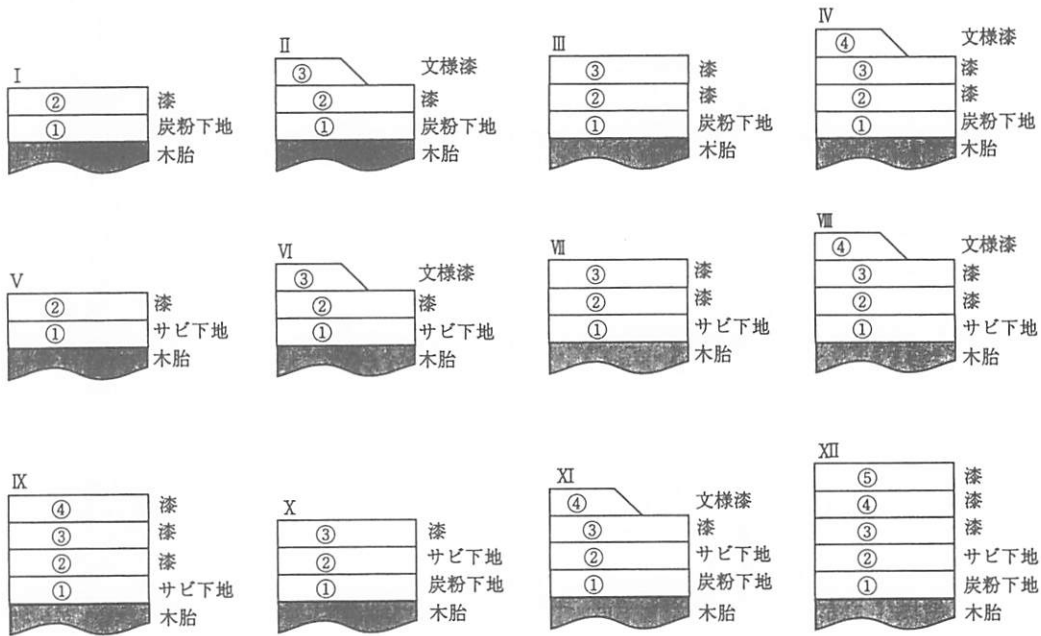
No.	器型	樹種	木取	表面塗り技法			漆塗構造		使用顔料			備考 グリッド
				内	外	文様	内	外	内	外	文様	
A	板物	ケヤキ	A	黒	黒	外-絵-梨地蒔絵	VI	VI+VI			Sn・Au+Ag	
B		ケヤキ	B	赤	黒	外絵金	VII	VII	朱		Au, ベンガラ	
C		ブナ	B	赤	黒		I	I	ベンガラ			
D		サクラ	B	赤	黒	外-絵-梨地蒔絵	V	VI+VI	朱		Sn・Au	
1		ブナ	B	赤	緑		III	III		As+S/アイ		12I-V
2		にわとこ	A	赤	黒		I	I	ベンガラ			点とり⑩
3		ホオノキ	B	赤	黒		I	I	ベンガラ			12H-V
4-1		ハンノキ	B	赤	黒		I	I	朱			u
4-2		ブナ	B	赤	黒		I	I	朱			u
4-3		タケ	-	赤	赤		III	III	ベンガラ	ベンガラ		u
5	板物	ブナ	A	赤	茶		I	I	ベンガラ	ベンガラ		
6		タケ	A	赤	黄		III	I	As+S,朱	As+S		13G-V
7-1		ホオノキ	A	赤	黒		I	I				u
7-2		広散孔	A	黒	黒		I	I				u
8		ケヤキ	B	赤	黒	外-絵-梨地蒔絵	VII	VII	朱		Au	12G-V
9		ブナ	B	赤	黒		III	III	朱・ベンガラ	ベンガラ		12H-V
10		ケヤキ	B	赤	赤		VII	VII	朱	朱		付着補強 u
11		タケ	-	赤	赤		I	I	朱	朱		12H-V
12		ホオノキ	B	赤	赤		III	III	朱	朱		13G-V
13		ニレ科	C	黒	黒		III	III	ベンガラ	ベンガラ		10F
14	板物	マツ科	-	黒	黒		I	I				12H-V
15		ケヤキ	B	赤	黒		VII	VII	朱			12G-V
16		カバノキ科	B	赤	赤		III	III	ベンガラ	ベンガラ		13G-V
17		バラ科	-	黒	黒		I	I				11H-V
18		ホオノキ	A	赤	黒		I	I	ベンガラ			12H-V
19-1		ケヤキ	B	赤	黒	外-絵-梨地蒔絵	V	VI	朱		Au, ベンガラ	
19-2		ケヤキ	B	赤	赤		V	V				高台内黒 u
20		ブナ	B	赤	黒		III	III	朱・ベンガラ			13C-V
21		ケヤキ	A	赤	赤		VIII	VIII	朱	朱		u
22		ホオノキ	A	赤	黒		I	I	朱	As+S/アイ		u
23	カエデ	A	黒	黒		III	III	ベンガラ	ベンガラ		10G-V	
24	カバノキ科	B	赤	黒		III	III	ベンガラ			10G	
25	箸	針葉樹	-	黒	黒		I	I				9F-V
26		ヒノキ	-	黒	黒		V	V				u
27		タケ	-	赤	赤		III	III	朱	朱		7H
28		タケ	-	赤	赤		III	I	As+S,朱	As+S		8H
29-1		マツ	-	赤	黒		III	III	朱	As+S/アイ		7H
29-2		ホオノキ	A	赤	黒		III	III	ベンガラウルミ	ベンガラ		7H
31		膜面	A	赤	黒	外-絵-金	VII	VII	朱	朱		Au
32		針葉樹	-	赤	黒		V	V	朱			布着補強
33		ヒノキ	B	黒	黒		V	V				10F
34		ブナ	-	赤	黒	外-絵-黒, 金	I	I	ベンガラ			7G
35	ケヤキ	-	赤	黒	外-絵-金	V	VI	朱	朱		Au+Ag	
36	ケヤキ	-	黒	黒		V	VI				Au, ベンガラ	
37	ブナ	B	赤	黒		III	I	朱・ベンガラ			カクラン	
38	ブナ	B	黒	黒		I	I				7G-V	
39	ブナ	B	黒	黒		I	I				12F	
40	ブナ	B	赤	黒		I	I				7F	
41	折敷板物	シオジ	B	赤	赤		V	V	ベンガラ			9G
42		ヒノキ	-	赤	黒		I	I	朱	朱		7G-V
43		スギ	-	赤	黒		III	I	ベンガラ			
44		ブナ	B	赤	黒		I	I	ベンガラ			9F-V
45		ホオノキ	A	赤	黒		III	I	朱・ベンガラ	As+S/アイ		SM-5・11F
46		膜面	A	赤	黒		VII	VII	朱			6I-V
47		ホオノキ	A	赤	赤		III	III	朱	朱		布着補強 12F-V
48		スギ	-	赤	茶		III	III	朱+As+S	朱+As+S		6H-V
49		ブナ	-	赤	黒		I	I	ベンガラ			
50		ホオノキ	A	赤	黒		III	I	朱・ベンガラ			8G
51	板物	ケヤキ	A	黒	黒	外-絵-梨地蒔絵	V	VI			Au	9F-V
52		ホオノキ	-	赤	黒		III	I	朱・ベンガラ			10F
53		ケヤキ	-	赤	赤		X	V	朱	朱		SM-4・5G
54		ホオノキ	-	赤	黒		III	I	朱・ベンガラ			8G-V
55		タケ	-	赤	赤		III	III	ベンガラ	ベンガラ		10F-V
56		ケヤキ	A	赤	赤		VII	VII				カクラン
57		膜面	B	黒	黒		III	I	朱・ベンガラ	As+S/アイ		高台内黒・カクラン
58-1		トチノキ	B	黒	黒		V	V				カクラン
58-2		膜面	B	黒	黒		I	I				カクラン
59		ブナ	B	黒	黒		I	I				カクラン
60	サクラ	A	赤	黒		III	I	ベンガラ			カクラン	
61	ヒノキ	-	赤	黒		I	I	ベンガラウルミ			カクラン	
62	ブナ	B	赤	茶		I	I	ベンガラ	ベンガラウルミ		カクラン	
63	ケヤキ	A	赤	黒	外-絵-赤	VII	VII	朱			カクラン	
64	ブナ	B	赤	黒	外-絵-金	I	II	ベンガラ			朱	
65	板物	ホオノキ	A	赤	黒		I	III		朱・ベンガラ		カクラン
67		トチノキ	A	黒	黒		V	V				カクラン
68		ブナ	B	黒	黒		I	I				9G
69		トチノキ	A	黒	黒		V	V				カクラン
70		トチノキ	A	黒	黒		V	VII				カクラン



1 横木地と豎木地の要領
(橋本鉄男『ろくろ ものと人間の文化史31』-1979- より原図引用)

2 近世会津木地師の木取りの方法
(須藤護『日本人の生活と文化(木) 暮らしの中の木器』-1982- より原図引用)

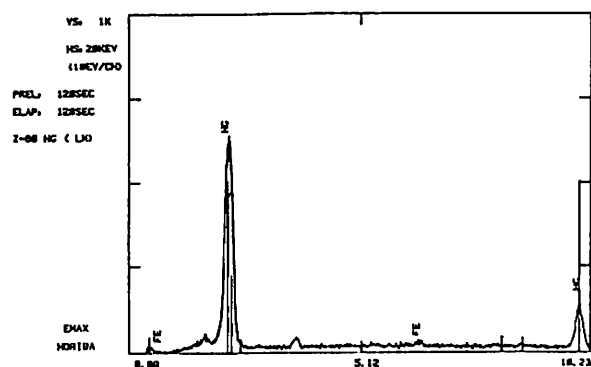
(図1) 近世以降の漆器(挽き物類)の木取り方法



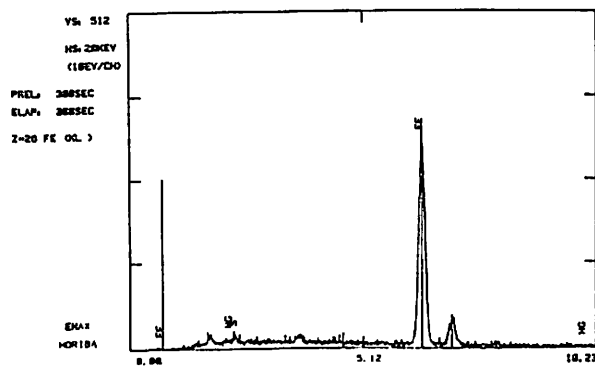
(図2) 漆塗り構造の分類

A 環 孔 材	a. ケヤキ系 ニレ、ケヤキ、シオジ、ハリ ギリ、クリ、ヤマグワなど	木目が明瞭に表れる。堅硬であるが韌性もあり、木皿など薄手の物に適する。
B 散 孔 材	b. サクラ、カエデ系 イタヤカエデその他のカエデ 類、ヤマザクラ、ウワミズザク ラ、ミズメなど	白木で美しい光沢があり、白木地物にも適している。割れ狂いが少なく、やや堅さはあるが加工は容易。下地が少量で足りるので、塗り物にもっとも適する。
	c. プナ、トチノキ系 トチノキ、プナ、ミズキ、カ ツラ、ホオノキなど	軟らかくて加工は容易であるが、乾燥が難しく狂いも多い。しかし、大量に入手できるので使用量は大である。
	d. エゴノキ系 エゴノキ、アオハダなど	白い軽軟で加工が容易である。仕上げは見た目によく、彩色もし易いので、玩具、小物等に向いている。とくにエゴノキは大材を得られないが、入手が容易であり、割れにくいので使用に適する。

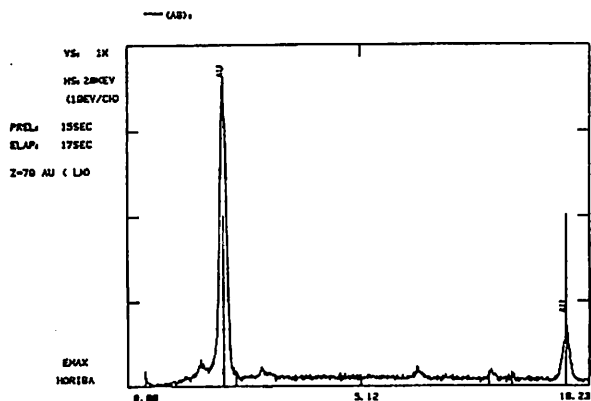
(表2) ろくろ挽き物の用材分類一覧表 橋本鉄男『ろくろ ものと人間の文化史31』-1979-などを参考にして作成



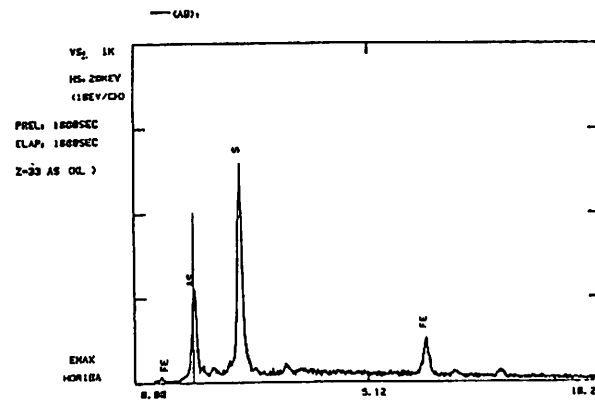
赤色系漆 朱 (HgS)



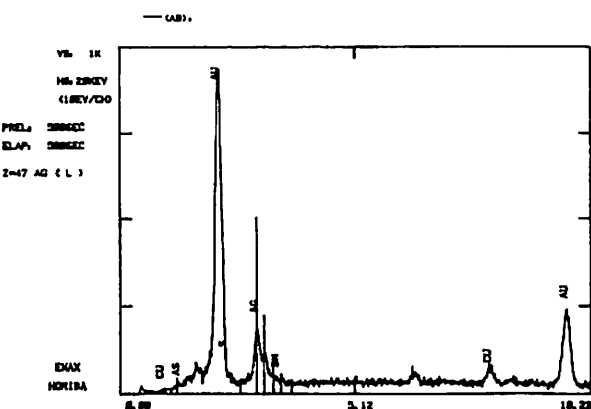
赤色系漆 ベンガラ (Fe₂O₃)



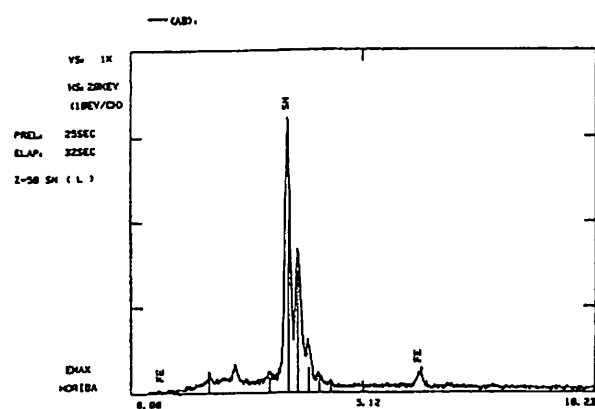
金粉状装飾 (金彩) 金 (Au)



石黄 (硫化ヒ素As+S)

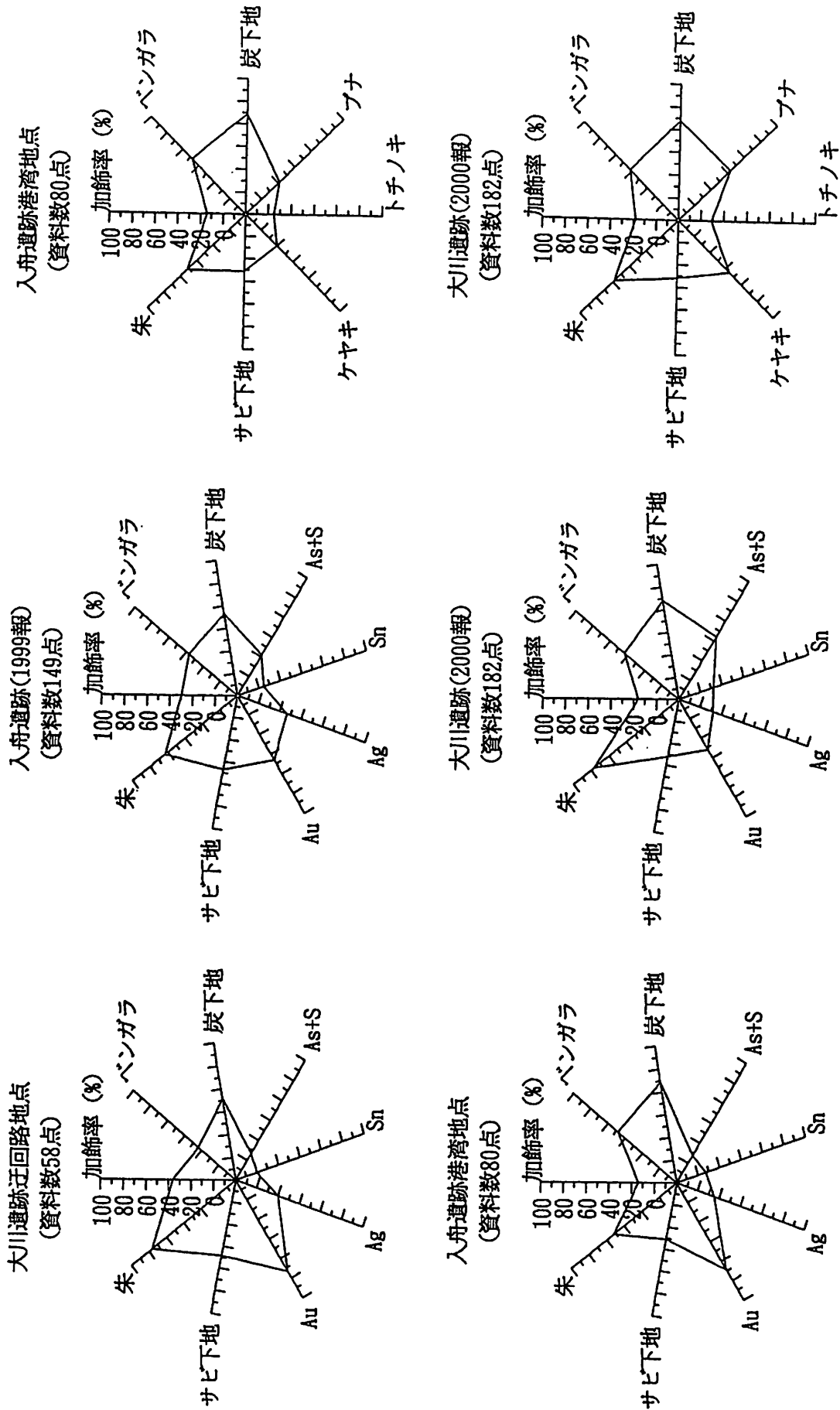


蒔絵加飾 (金彩) 金+銀 (Au+Ag)



金粉状装飾 (金彩) 錫 (Sn)

(図3) 赤色系漆および蒔絵材料の電子線マイクロアナライザー (EPMA) の分析結果



(図4) 大川遺跡迂回路地点他一括出土漆器資料の組成 (統計別)

写 真 图 版



発掘調査作業風景



完掘状況

写真1 2000年度 服部地点（作業風景・完掘状況）



P-21



P-22



P-23

写真2 2000年度 服部地点 (P-21・22・23)



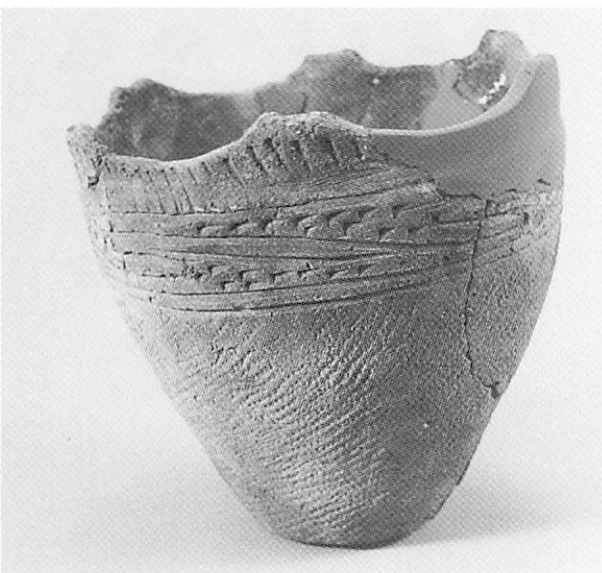
H-2 (No.1)



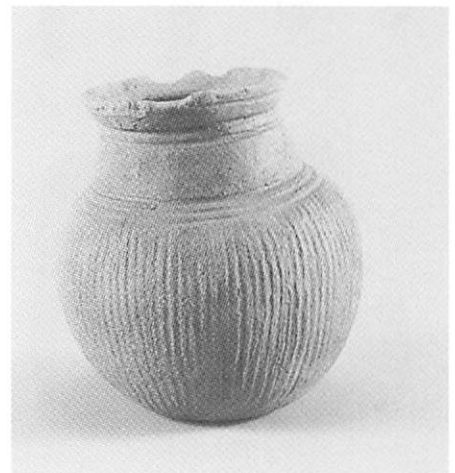
H-2 (No.34)



H-2 (No.13)

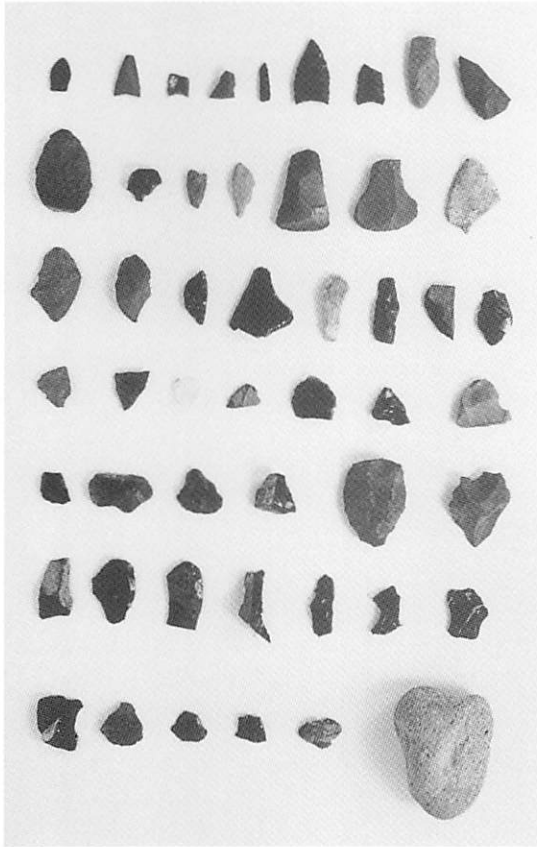


P-34

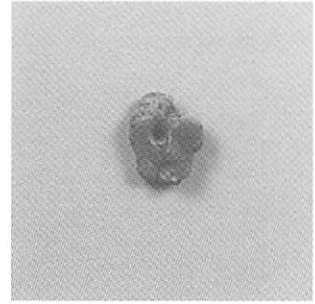


砂質凝灰岩粗粒範囲

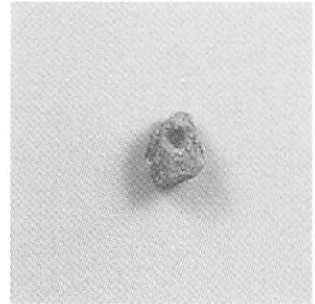
写真3 服部地点出土の土器



H-2



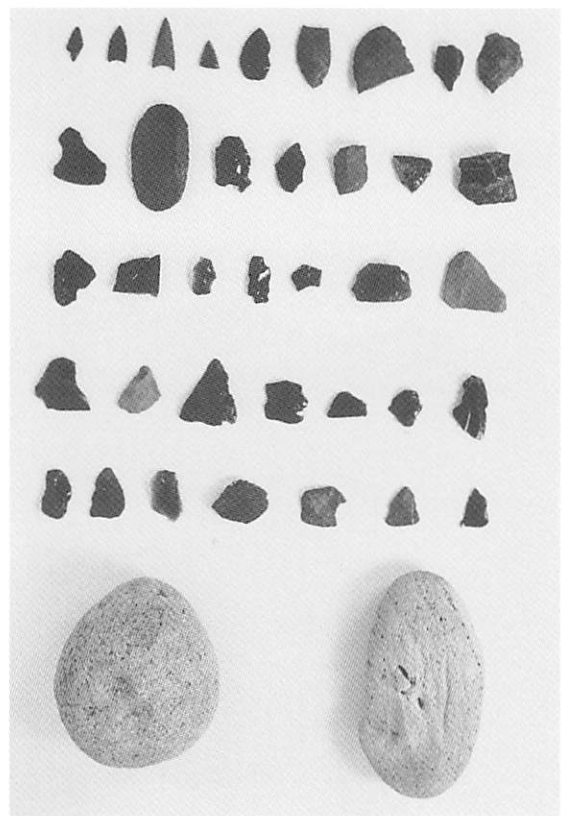
H-3 (No. 2)



H-3 (No. 4)

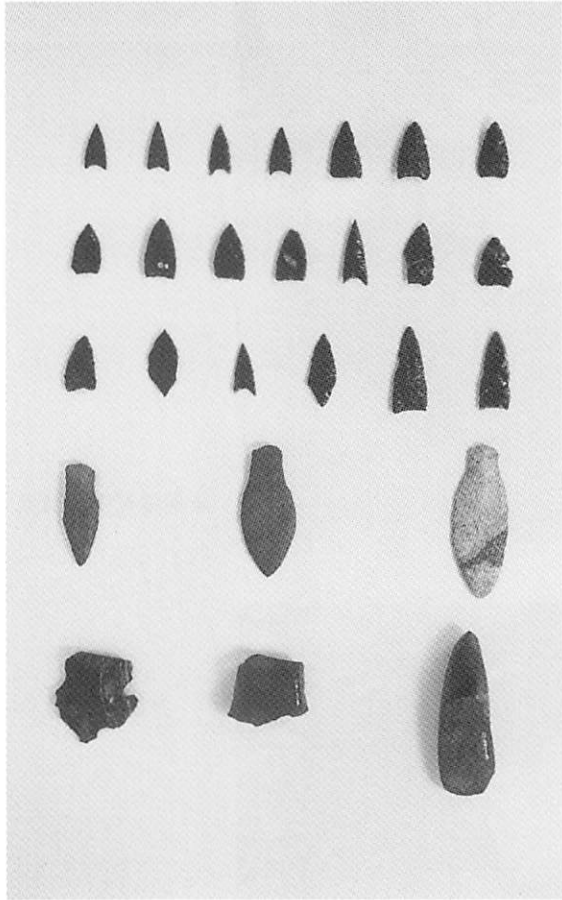


遺構外出土 (2000年度)

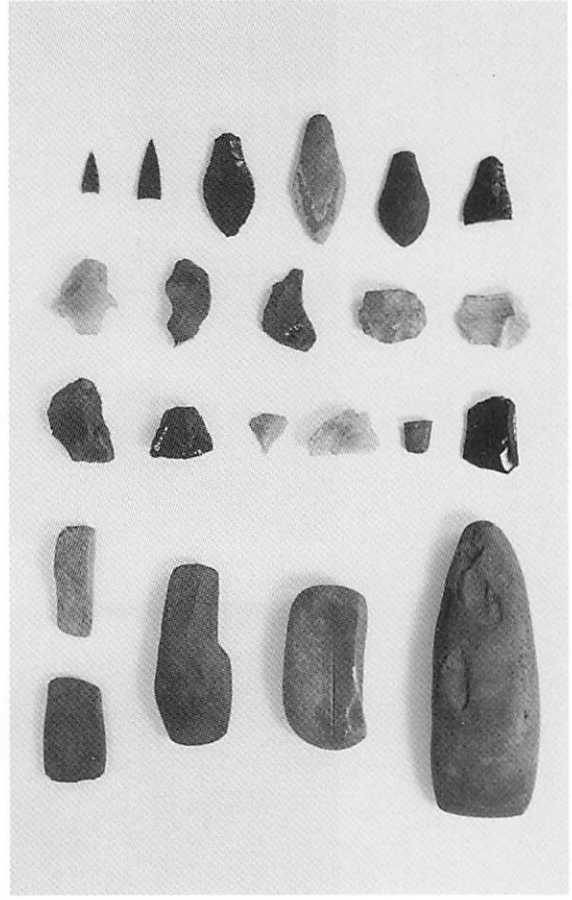


遺構外出土 (2001年度)

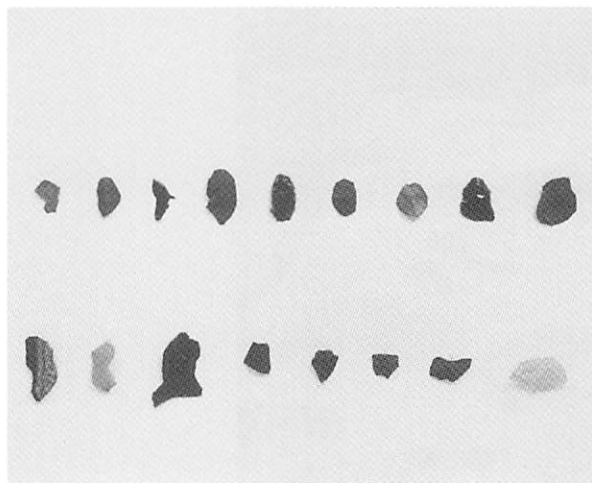
写真4 服部地点出土の石器 (1)



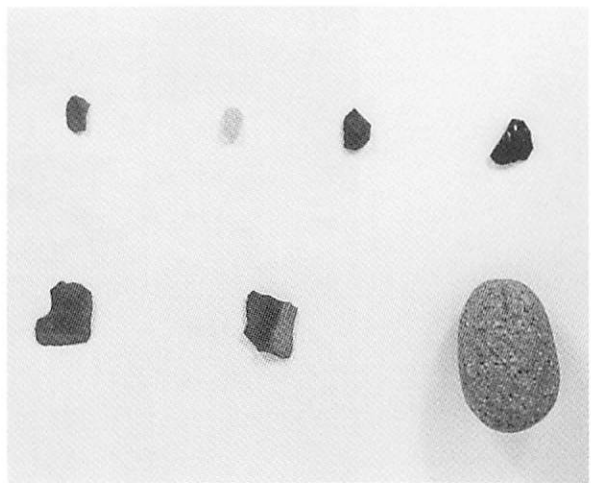
P-25



P-37



P-40

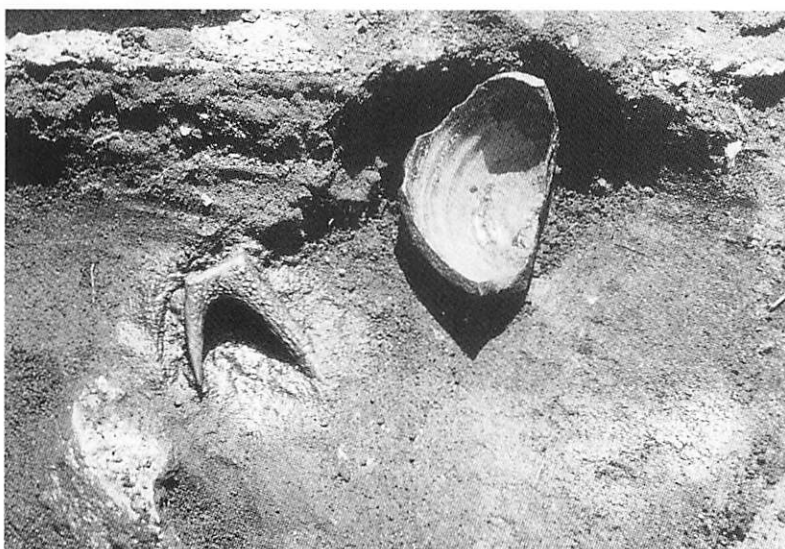


H-3

写真5 服部地点出土の石器 (2)



発掘調査作業風景

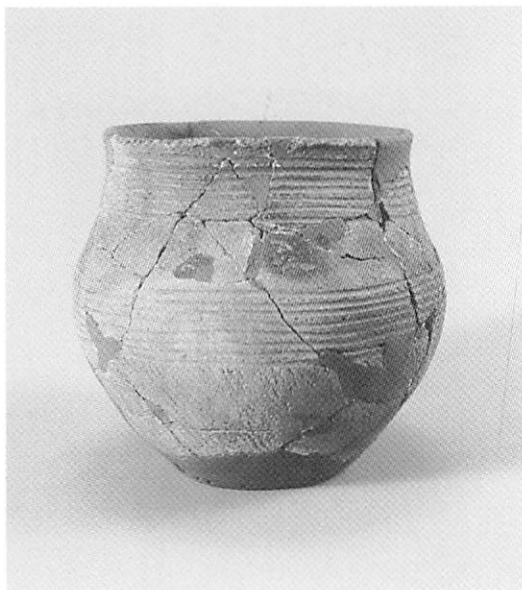


遺構外遺物出土状況

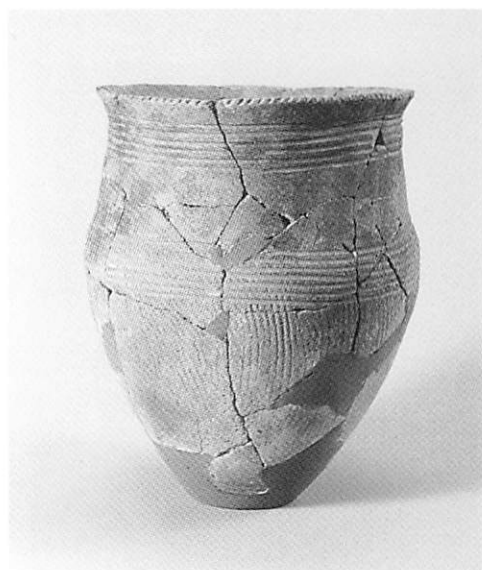


完掘状況(西→東)

写真6 迂回路地点(作業風景・遺物出土状況・完掘状況)



P-77 (No. 1)



P-77 (No. 2)

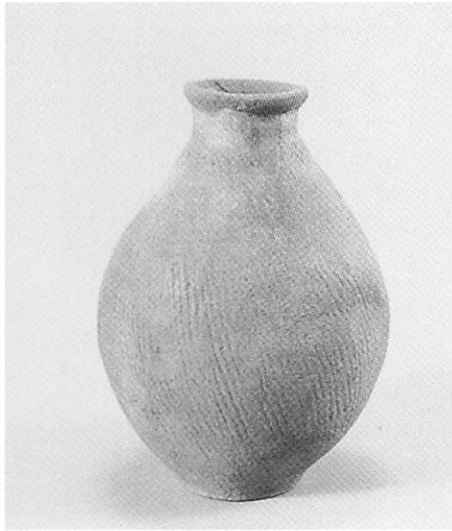


P-94 (No. 1)



P-94 (No. 2)

写真7 迂回路地点出土の土器(1)



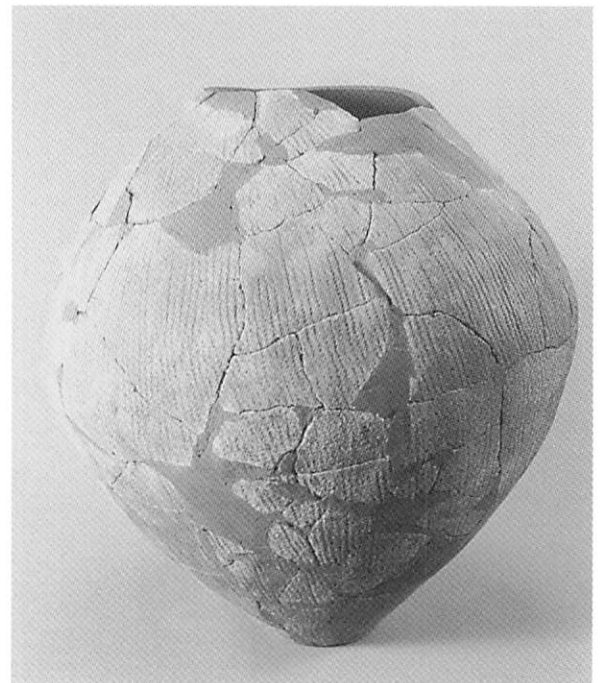
P-89 (No. 1)



P-95 (No. 1)

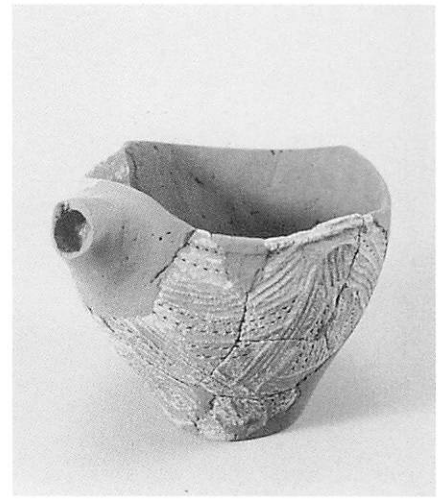
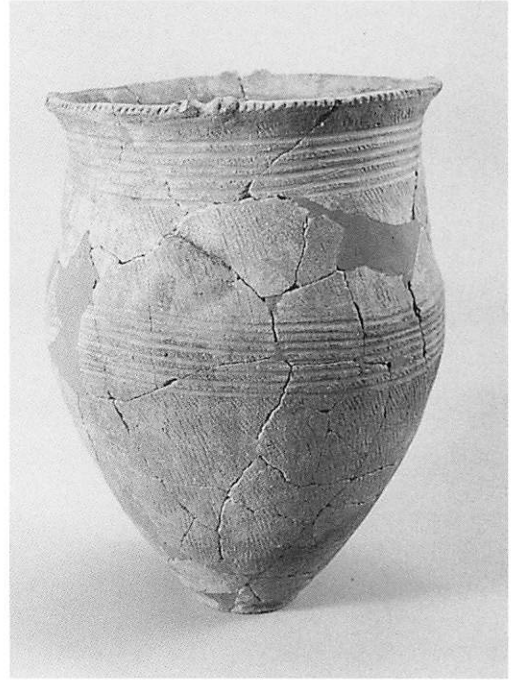


P-95 (No. 2)



遺構外出土

写真 8 迂回路地点出土の土器 (2)

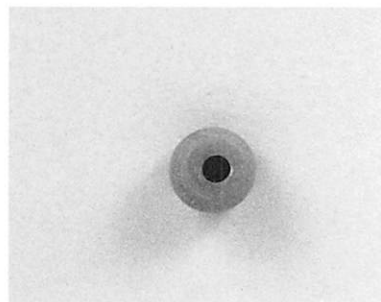


遺構外出土

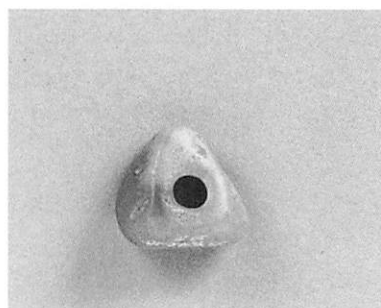
写真9 迂回路地点出土の土器(3)



P-74



P-91 (ガラス玉-青色)



遺構外出土 (石製玉)



遺構外出土 (行器脚部)

写真10 迂回路地点出土の石器・金属製品



発掘調査作業風景



発掘調査作業風景



遺構検出状況
(西→東)

写真11 道道地点（作業風景・遺構検出状況）



P-122



P-128



H-5

写真12 道道地点 (P-122・128・H-5)



P-63 (No. 1)



P-76 (No. 1)



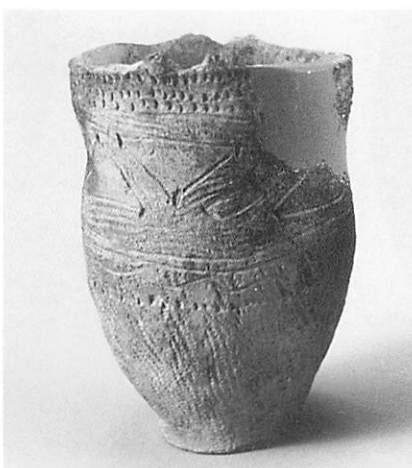
P-89 (No. 1)



P-91 (No. 2)



P-93 (No. 1)



P-93 (No. 2)



P-93 (No. 3)

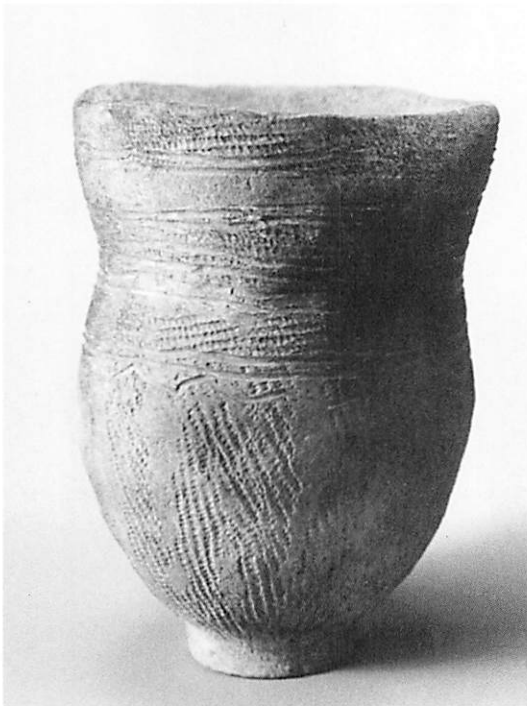
写真13 道道地点出土の土器 (1)



P-88 (No. 1)



P-88 (No. 2)



P-88 (No. 3)



P-88 (No. 4)

写真14 道道地点出土の土器 (2)



P-98 (No.1)



P-100 (No.1)

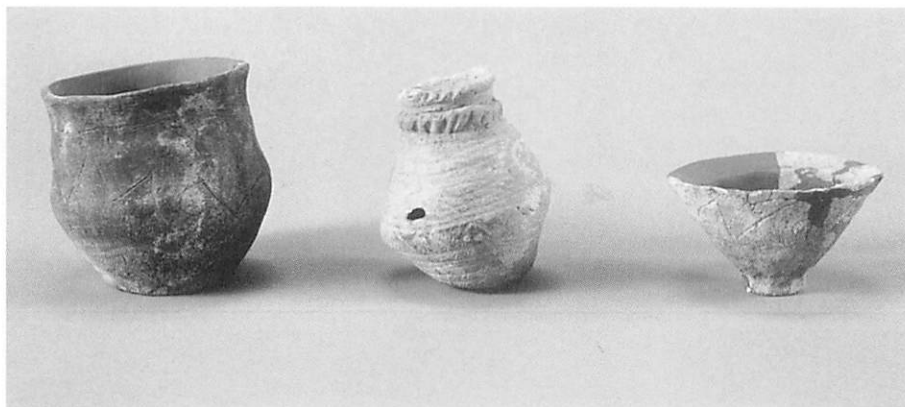


P-104 (No.1・2)



P-106 (No.1)

写真15 道道地点出土の土器 (3)



P-112 (No. 1・2・3)



P-116 (No. 1・2)

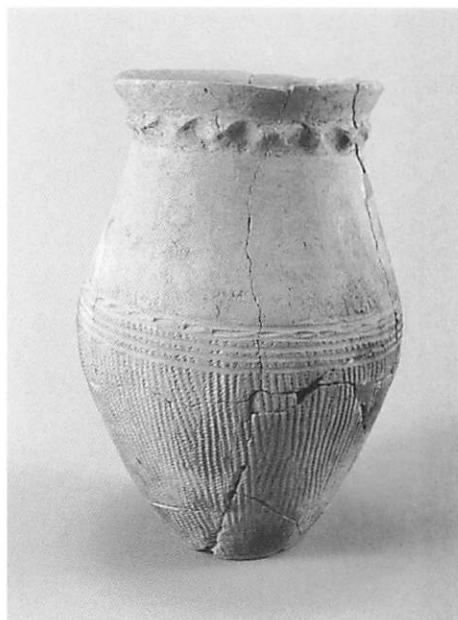


P-120 (No. 1・2)

写真16 道道地点出土の土器 (4)



P-118 (No. 1)



P-122 (No. 1)



P-126 (No. 1)



P-126 (No. 2)



P-129 (No. 1・2)

写真17 道道地点出土の土器 (5)



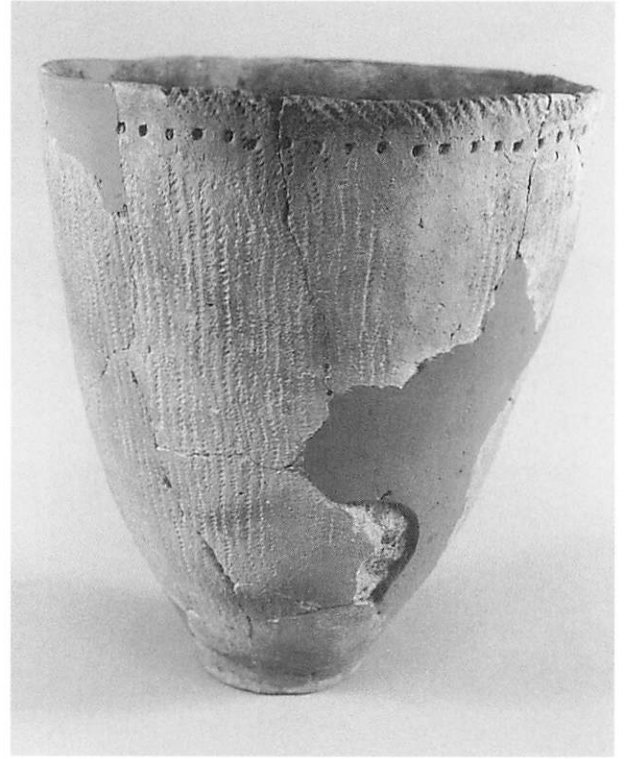
P-128 (No. 1)



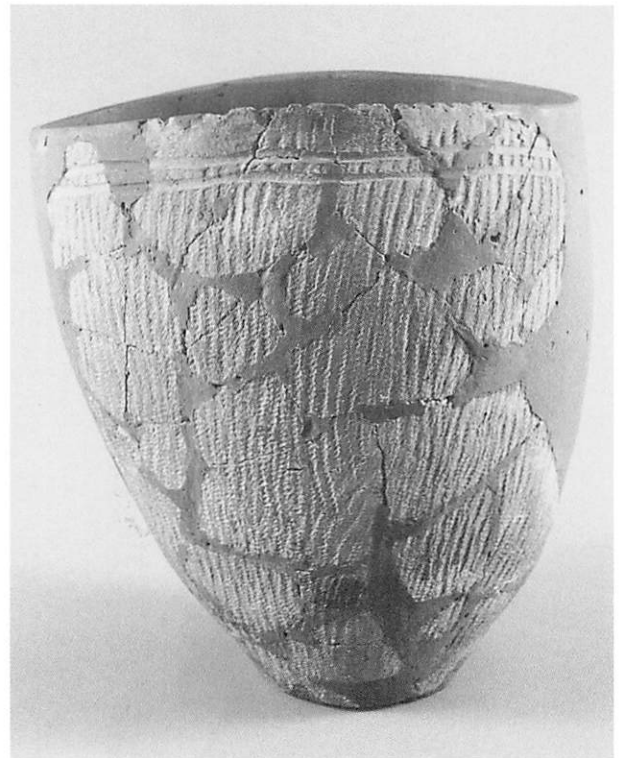
H-5 (No. 4)



FP-12 (No. 1)



H-5 (No. 1)



FP-12 (No. 3)

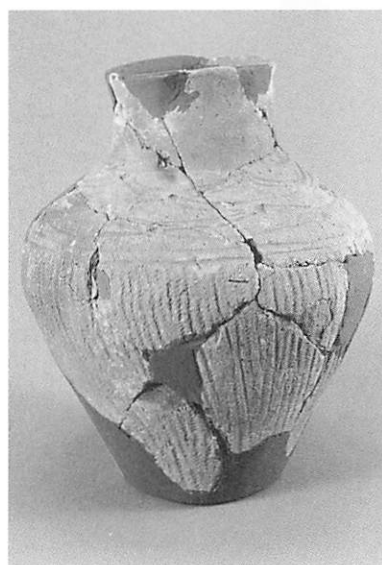
写真18 道道地点出土の土器 (6)



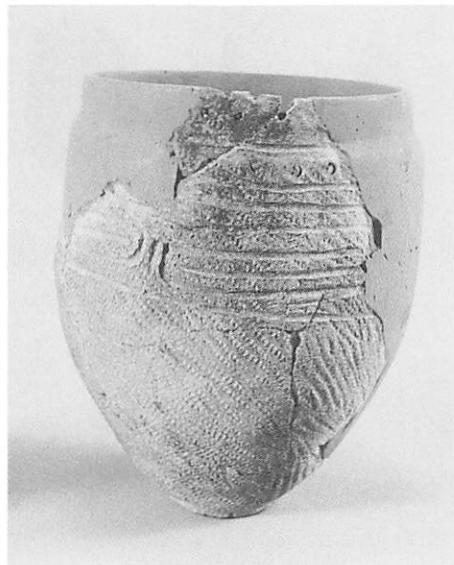
F P - 14 (No. 5)



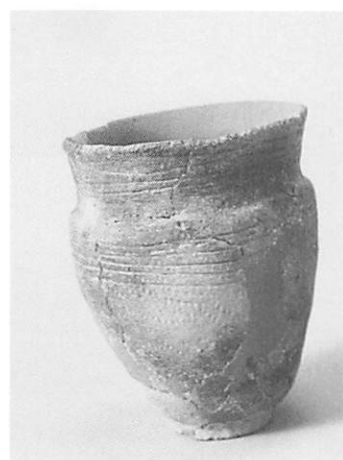
F P - 14 (No. 7)



遺構外

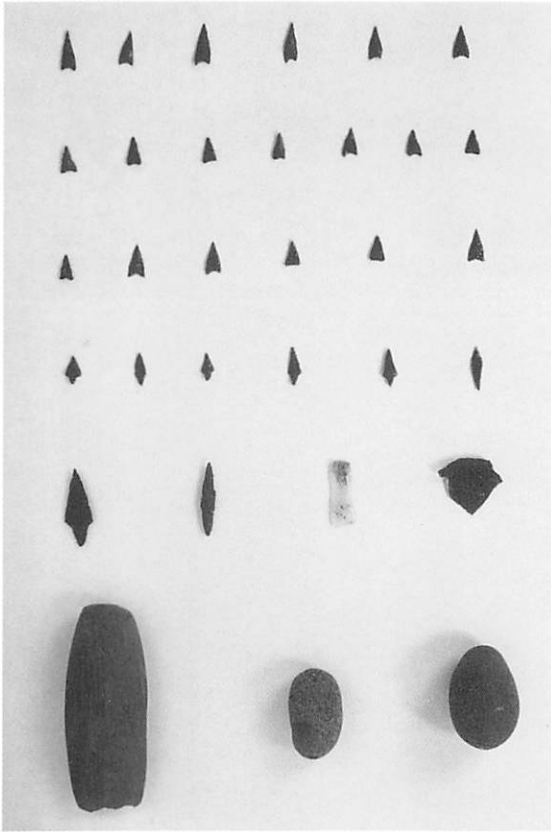


遺構外

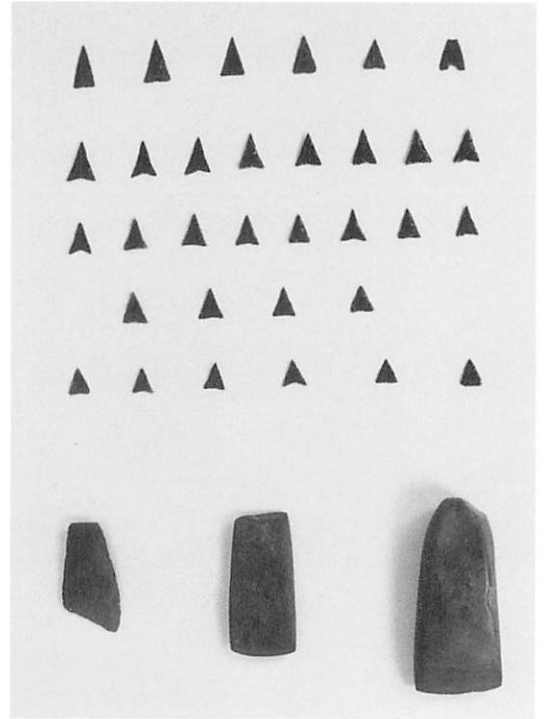


遺構外

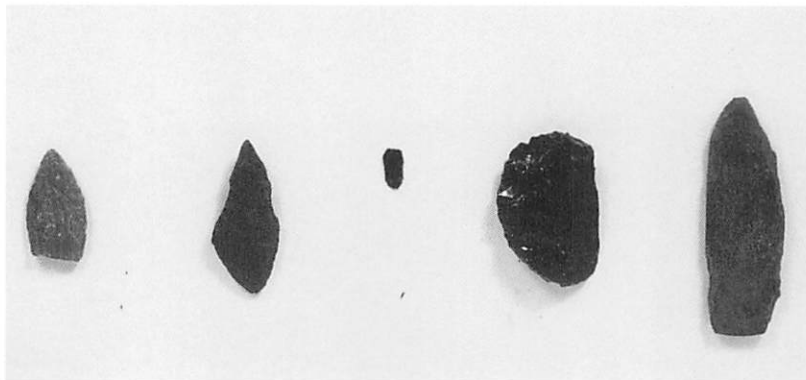
写真19 道道地点出土の土器 (7)



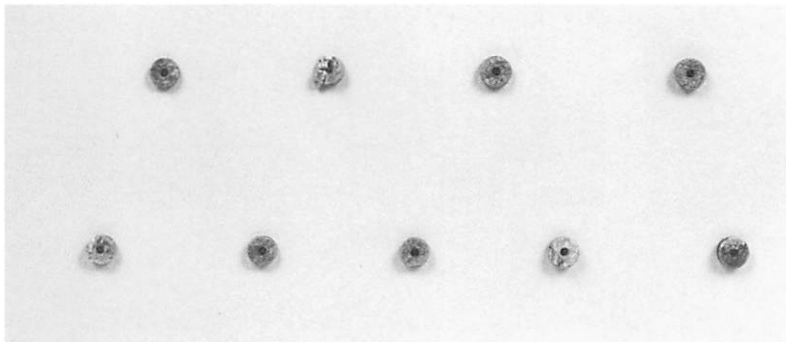
P-62



P-63

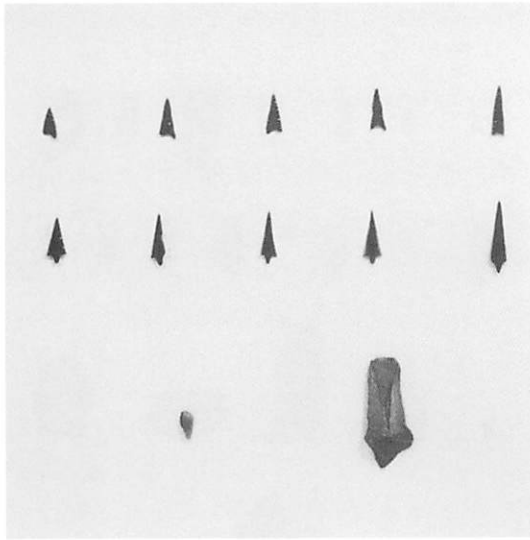


P-88

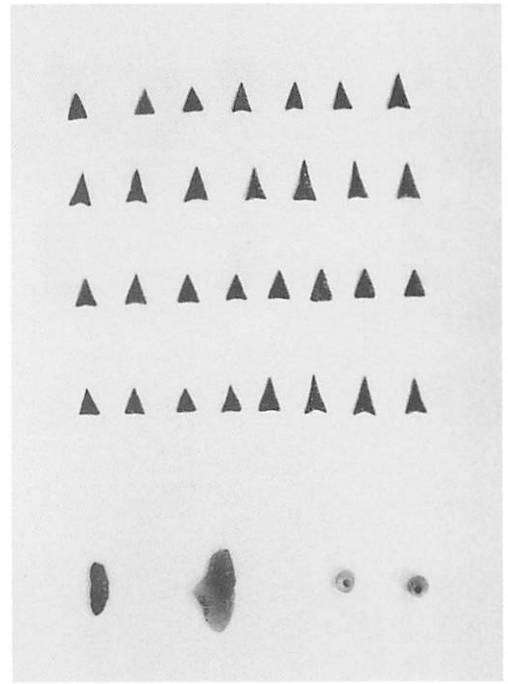


P-88 (コハク玉)

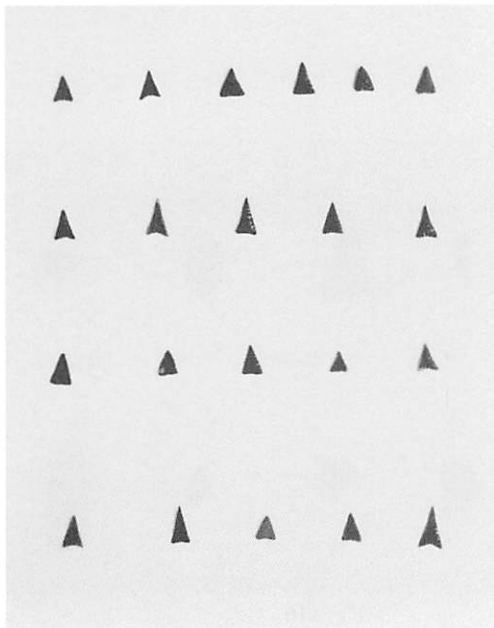
写真20 道道地点出土の石器 (1)



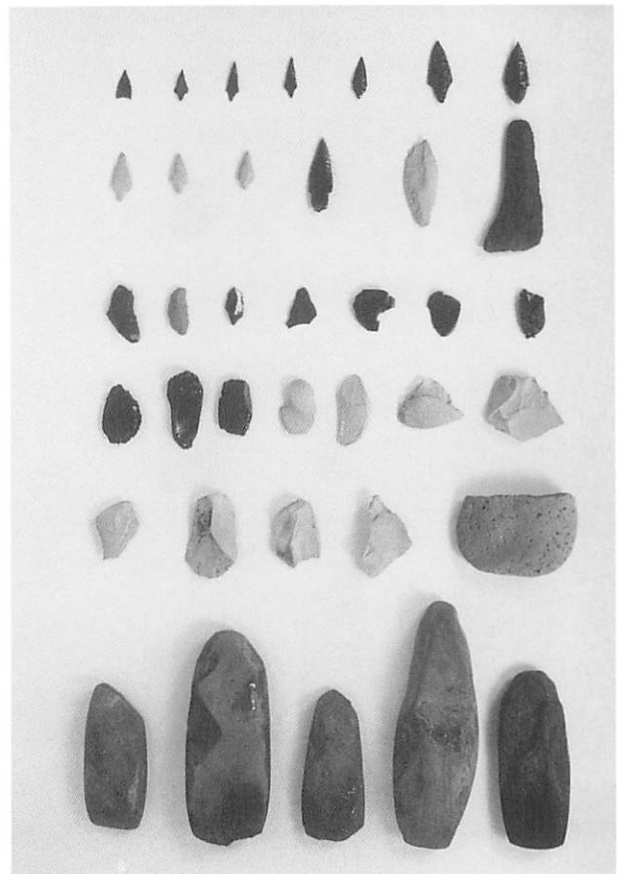
P-91



P-93



P-94



P-104

写真21 道道地点出土の石器 (2)



P-105



P-110



P-114

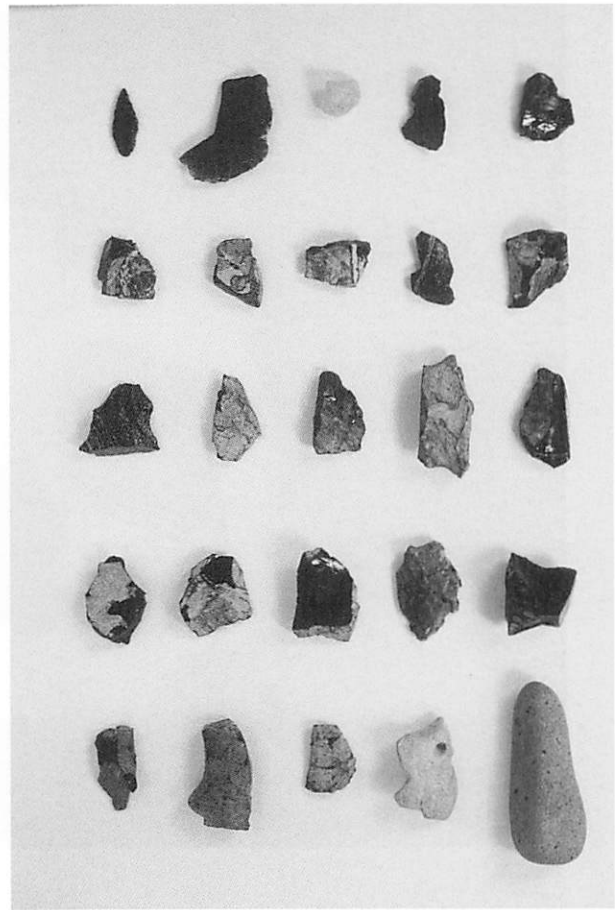


P-116

写真22 道道地点出土の石器 (3)



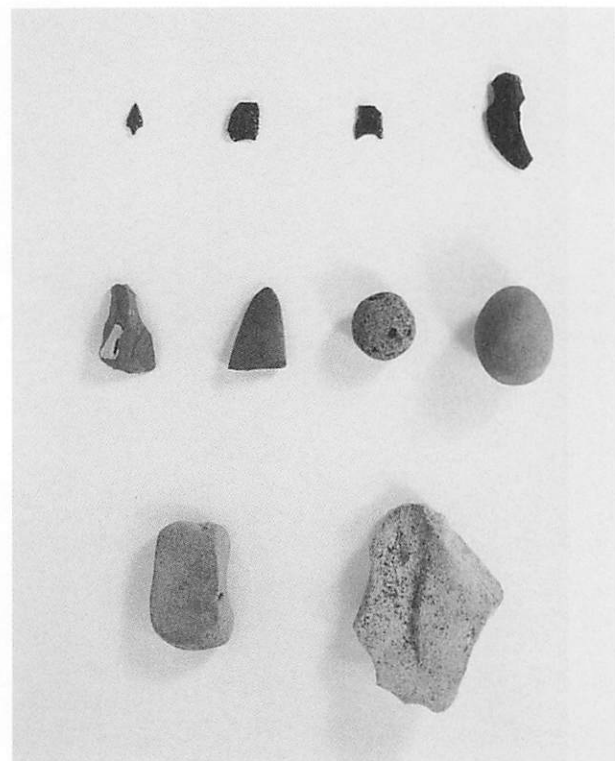
P-128



P-129

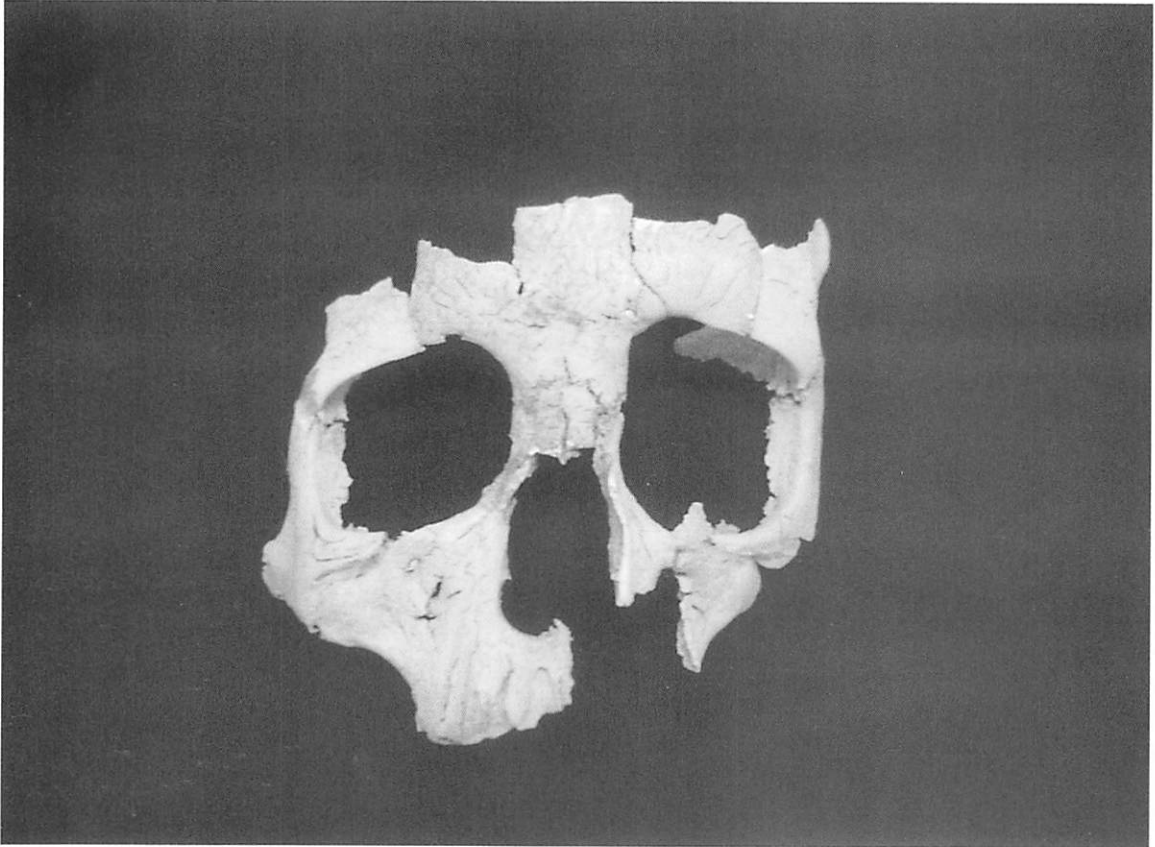


H-5

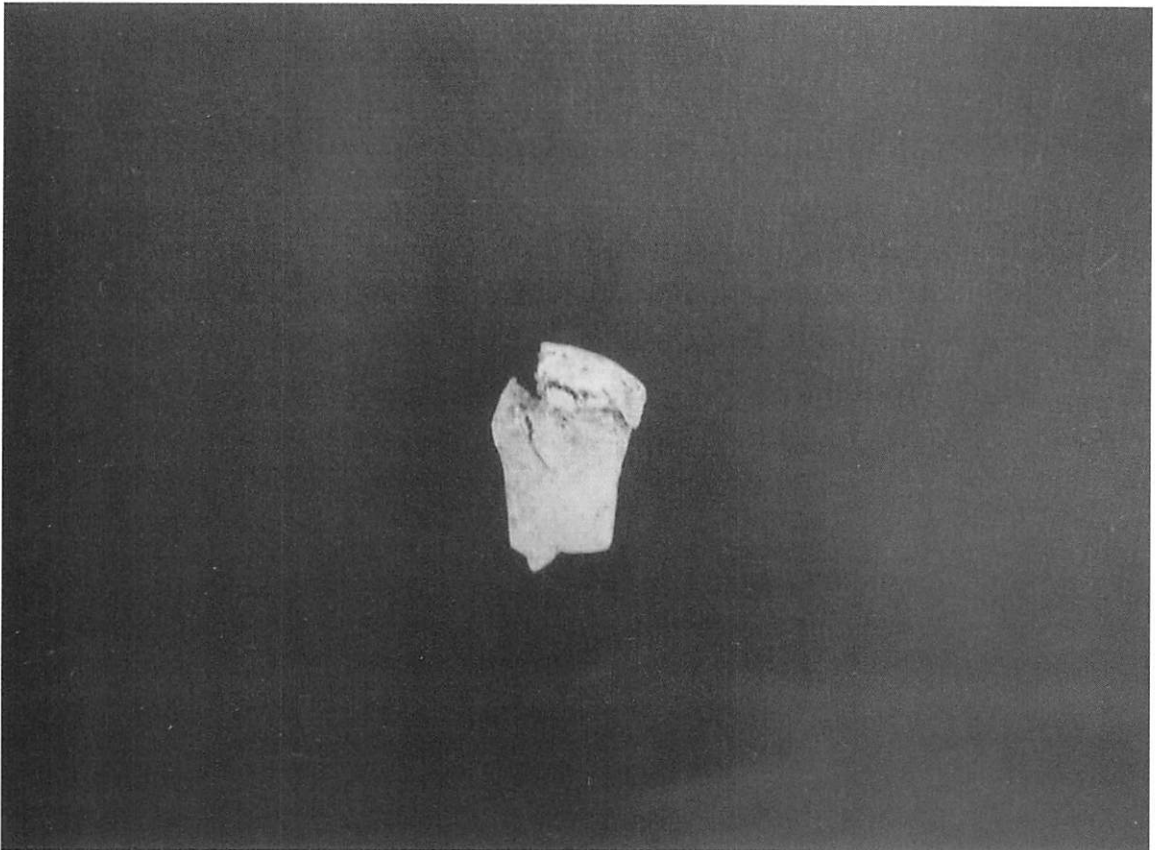


FP-12

写真23 道道地点出土の石器 (4)



写 真 1



写 真 2

写真24 迂回路地点 P-9 出土の人骨：付編1

報 告 書 抄 録

ふりがな	おおかわいせき							
書名	大川遺跡							
副書名	大川橋線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	乾 芳宏・安西雅希・小川康和							
編集機関	北海道余市郡余市町教育委員会							
所在地	〒046-0015 北海道余市郡余市町朝日町26番地 TEL0135-21-2111							
発行年月日	西暦2002年3月29日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
おおかわいせき 大川遺跡	ほっかいどう 北海道 よしぐん 余市郡 よしちやう 余市町 おおかわちやう 大川町	01408	D-19-6	43° 12'	140° 48'	2000～2001	1,316.5 m ²	大川橋線 街路事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
大川遺跡	包蔵地	縄文晩期 続縄文 中世 近世	住居跡	土器 石器 陶磁器 鉄器 骨角器		縄文時代晩期と続縄文 時代の墓壙群を主体とし、 中世の墓壙が検出され、 多量の副葬品が出土した。		

大川遺跡発掘調査報告書(2000・2001年度)

大川橋線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行 余市町教育委員会

北海道余市郡余市町朝日町26番地

発行日 平成14年3月29日

印刷 商工社 久留宮印刷

北海道余市郡余市町大川町4丁目98番地
